

# 筑後西部第2地区遺跡群 (VI)

筑後市大字常用所在遺跡の調査

筑後市文化財調査報告書

第50集

2003

筑後市教育委員会

# 筑後西部第2地区遺跡群 (VI)

常用長田遺跡 第2次調査

2003

筑後市教育委員会



# 序

この報告書は、筑後西部第2地区のは場整備に伴って平成8年度に行った常用長田遺跡第2次調査の成果をまとめたものです。このは場整備地区内では、多くの遺跡が発掘調査されました。今回報告する常用長田遺跡では、この地域での弥生時代の幕開けを感じさせる土器類や、大陸や半島の香りのする遺物が出土しております。こういったことから、この地域の歴史が少しずつひもとかれていくことを期待しております。

なお、現地での発掘作業の進行を優先させた結果、平成8年度に実施した発掘調査の報告書の刊行が今日になってしまったことをお詫びしなければなりません。当時は、筑後市内で4地区のは場整備事業が同時に施行されており、工事前の記録保存のための発掘作業に追われておりました。しかし、今後は累積している他遺跡の調査報告書についても順次刊行していく所存です。

最後になりましたが、本報告書の刊行にあたり、ご助力ご協力いただいたみなさまに、厚く御礼申し上げます。

平成15年3月

筑後市教育委員会

教育長 牟田口和良

# 例 言

1. 本書は平成8年度に調査を行った常用長田遺跡第2次調査の成果をまとめたものである。
2. 発掘調査および出土遺物の整理等は筑後市教育委員会がおこなった。調査関係者は第1章に記したとおりである。なお、出土遺物・実測図・写真等は筑後市教育委員会において収蔵・保管している。
3. 本書に使用した図面のうち、遺構実測は奥村太郎、高野奈緒美、野田洋子、末吉隆弥（現、川崎町教育委員会）、上村英士、永見秀徳が、遺物実測は佐々木寿代、横井理絵、福井まどか、仲文恵、平塚アケミ、永見が作成した。遺構の全体配置図作成は、アジア航測株式会社へ委託した。また、製図は仲、佐々木、横井、福井、仲、平塚、永見がおこなった。
4. 本書に使用した遺構写真は柴田剛、末吉、永見が、遺物写真は永見が撮影した。
5. 本書での報告にあたり、遺構番号を次のように決定した。調査時につけた遺構仮番号を生かし、頭に調査回数、遺構種別を加えた。今回は第2次調査であるため、S-500が土坑であった場合、2SK0500となる。なお、調査の時点で他の調査区と遺構番号を連番としたため、今回の調査では300～999と2000～の遺構番号を付した。
6. 本書に用いた方位はすべてG.N.を、水準はT.P.を基準としている。なお、遺構の主軸等の方位は実測図上で分度器を用いて計測した。北から45°東にあたる場合、N-45°-Eと表記した。
7. 本書の執筆・編集は永見が行なった。

# 目 次

第I章	はじめに	1
第II章	位置と環境	3
第III章	調査成果	
1.	はじめに	5
2.	検出遺構	5
	土坑一覧	57
3.	出土遺物	61
	出土土器一覧	157
	出土遺物一覧（土器以外）	175
第IV章	考察	187

# 第I章 はじめに

本書は平成9年度に発掘調査を行った、西部第2地区遺跡群のうち「常用長田遺跡第2次調査」の成果を集録している。今回の調査は、平成8年度県営担い手育成基盤整備事業筑後西部第2地区に伴い、工事によって消滅する部分について記録保存の措置をとったものである。今回調査対象地となった部分は切土削平による農地造成の予定地となっていた。調査地点は、筑后市大字常用字長田679外であり、ほ場整備実施後の地番は筑后市大字常用661外にあたる。

平成8年度に入ってから、県営担い手育成基盤整備事業筑後西部第2地区の面工事が始動することとなった。事業主体の福岡県筑後川水系農地開発事務所が筑后市教育委員会に対して、埋蔵文化財の有無を照会し、筑后市教育委員会は埋蔵文化財の所在の所在確認のため試掘確認調査を実施することとした。その結果、広範囲に埋蔵文化財の包蔵が確認され、工事の影響により現状保存が困難な箇所について記録保存の措置を講ずることとなった。調査費用は、農林水産省と文化庁の覚え書きに従い、文化財保護部局と事業主体が分担して負担することとした。現地の調査は、約3,500m<sup>2</sup>を対象とし、平成9年1月から5月まで実施した。

調査期間中は、福岡県筑後川水系農地開発事務所をはじめ、現地で工事を担当された(株)桐明組には、工期の調整等の様々な援助をいただいた。そのお陰をもって調査が完了できた。特に感謝申し上げたい。

なお、整理作業は平成12～14年度に、筑后市教育委員会文化財整理室で行った。現地調査から報告書

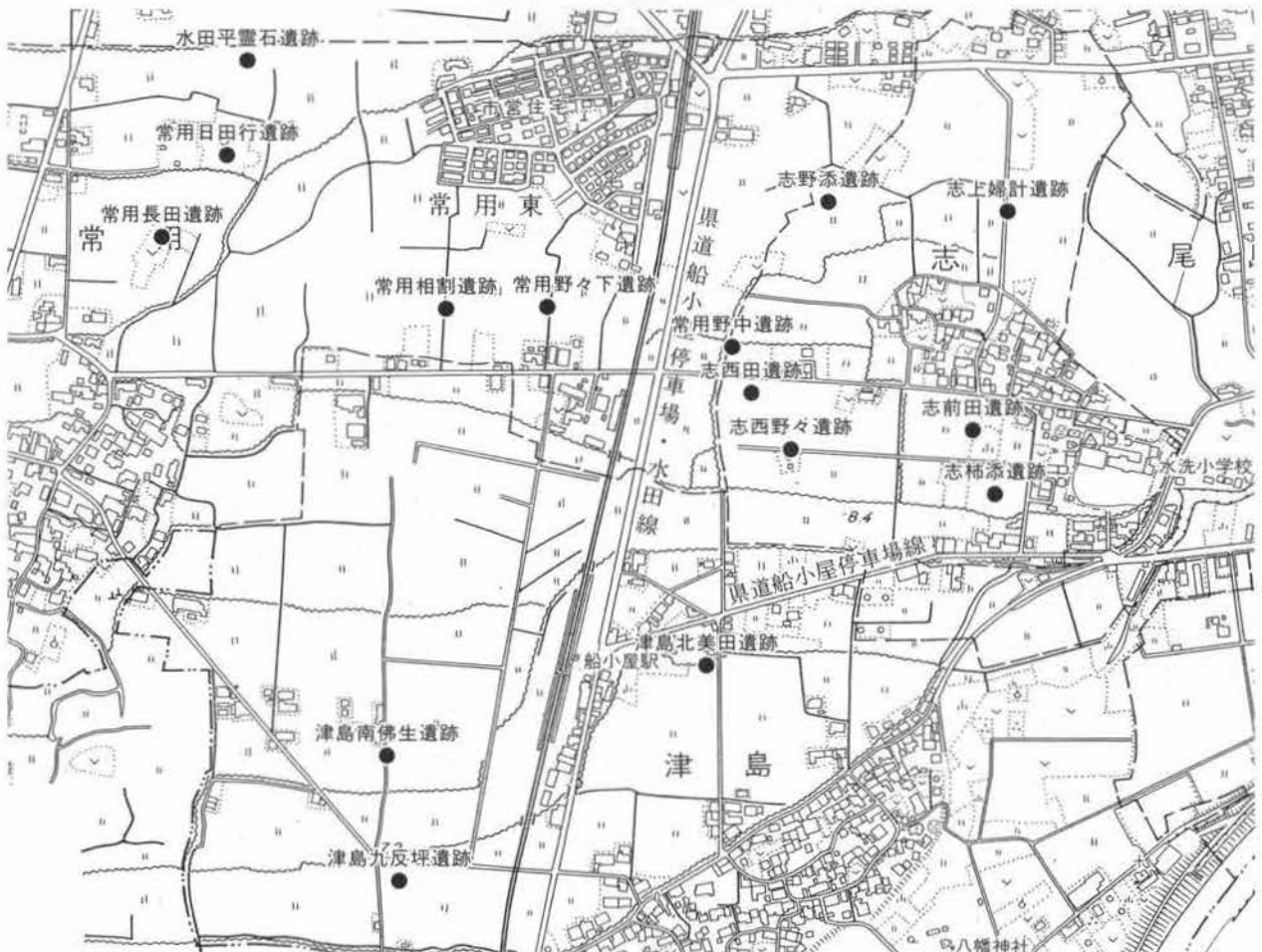


Fig.1 周辺の調査地点位置図 (1/10,000)

刊行に到る調査組織は、以下のとおりである。

(現地調査 平成8～9年度)

総括	筑後市教育委員会	教育長	森田 基之
		教育部長	津留 忠義
庶務		社会教育課長	山口 逸郎
		社会教育係長	本村 正晴 (平成8年度)
			田中 清通 (平成9年度)
		社会教育係	田中 剛 (文化財担当)
			小林 勇作 (文化財専門職)
			上村 英士 ( 々 平成9年度～)
			柴田 剛 (文化財学芸員)
調査担当		社会教育係	永見 秀徳 (文化財専門職)

(整理作業 平成12～14年度)

総括	筑後市教育委員会	教育長	牟田口 和良
		教育部長	下川 雅晴
庶務		社会教育課長	庄村 國義 (平成12年度)
			松永 盛四郎 (平成13・14年度)
		文化係長	成清 平和
		文化係	小林 勇作 (文化財専門職)
			上村 英士 ( 々 )
			立石 真二 (文化財学芸員)
			柴田 剛 ( 々 )
調査担当		文化係	永見 秀徳 (文化財専門職)

なお、発掘調査前の協議から、現地調査、報告書作成に到るまで、次の方々から貴重な御助言、御指導をいただいた。記して謝意を表したい。(順不同、敬称略)

佐田 茂 (佐賀大学)、水野正好 (奈良大学)、橋口達也・伊崎俊秋・佐々木隆彦・小田和利・小川泰樹  
吉田東明 (以上、福岡県教育庁)、赤崎敏男・大塚恵治 (八女市教育委員会)、山田元樹・坂井義哉 (以上、大牟田市教育委員会)、塚本映子 (三潞町教育委員会)、東竜雄 (山川町教育委員会)、片岡宏二 (小郡市教育委員会)、石井扶美子 (夜須町教育委員会)、櫻井康治・富永直樹・園井正隆・小澤太郎 (以上、久留米市教育委員会)、山村信榮 (太宰府市教育委員会)、末吉隆弥 (川崎町教育委員会)、松岡和利・川本英紀 (以上、豊津町教育委員会)、木嶋眞治 (佐賀市教育委員会)、狭川真一・角南聡一郎 (以上、元興寺文化財研究所)

## 第Ⅱ章 位置と環境

筑後市は福岡県の南西部、筑後平野の中央部にあたる。市域をJR鹿児島線と国道209号が縦断し、国道442号が横断する。また、市南部には一級河川の矢部川、中央部には山ノ井川や花宗川、北部には倉目川が西流する。市北部には耳納山地から派生する八女丘陵が西に延び、灌漑用の溜め池が点在する。低位扇状地である東部や低地である南西部には農業水路が発達している。当市は県内有数の農業地帯であり、北部の丘陵地域では果樹園や茶畑、東部や南西部では米麦中心の田園地帯が広がる。市街地は国道に沿って市の中央部に形成されている。

まず旧石器時代であるが、蔵数坂口遺跡や鶴田東大坪遺跡等で遺物が出土している。しかしながら、遺構の発見には到っていないため、当時の様相はほとんど不明である。つづく縄文時代であるが、筑後市内では縄文時代の遺跡は市の南部域に集中することが判っている。ただし、例外的に落し穴は全域に分布する。特に鶴田岸添遺跡や久恵内次郎遺跡では、多数の落し穴を検出している。また、津島九反坪遺跡・志前田遺跡・鶴田岸添遺跡・久恵中野遺跡等では、早期のものと思われる石組炉も発見されている。さらに、尾島集落の北側には縄文時代の集落として著名な裏山遺跡がある。

次の弥生時代であるが、中期初頭までの集落は、縄文時代と同様に市域の南半部に偏って分布する。中期も後半に入ると、北部の丘陵上にも展開するが、同時に低平地へも展開して遺跡数は爆発的に増加する。前期から中期初頭の遺跡では、今回報告する常用長田遺跡等が著名で、前期の溜井も津島九反坪遺跡で確認されている。また、上北島塚ノ本遺跡では、夜白式土器が出土して注意をひいている。中期後半以降の集落は、蔵数森ノ木遺跡が特に著名である。また、低平地への展開例では津島皿ヶ町遺跡がある。また、鶴田岸添遺跡では火災で消失した竪穴住居も確認されている。

古墳時代は、市北部の石人山古墳、欠塚古墳、瑞王寺古墳が良く知られている。集落遺跡では、弥生時代から継続している蔵数森ノ木遺跡や久富鳥居遺跡、鶴田西畑遺跡、津島南佛生遺跡等がある。集落の基本的な立地は、弥生時代後半のそれを踏襲する。

筑後市域は、古代には交通の要衝として認知されていたようで、古代官道の西海道が南北に縦断する。発掘調査でも、鶴田中市ノ塚遺跡、山ノ井川口遺跡、羽犬塚山ノ前遺跡等で確認された。延喜式にある葛野駅は筑後市附近にあったと考えられていて、最有力候補地は羽犬塚中学校附近である。羽犬塚中道遺跡では墨書土器等も多量に出土している。また、若菜森坊遺跡では竪穴式住居によって構成される大規模な集落が確認されている。

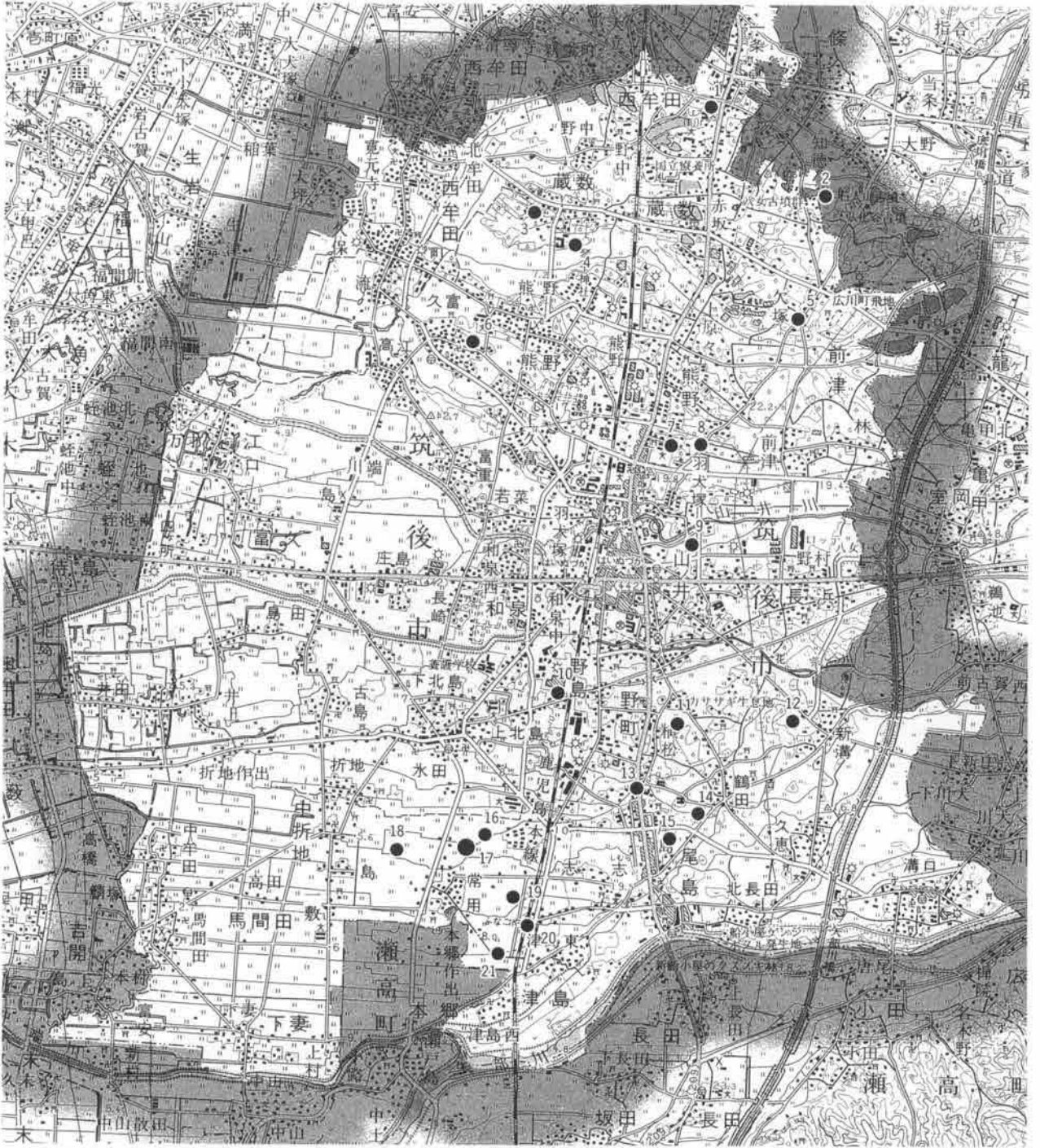
中世には、館跡を中心に調査事例が増加している。この時期には社寺領を中心に荘園が発達し、その支配を基盤にした社会が形成される。これは当地域の特徴のひとつといえよう。

さて、今回報告する常用長田遺跡周辺の状況であるが、弥生時代前期の遺跡が集中する地域と言っても過言ではない。ほぼ連続する遺跡と捉えられる（厳密には隣接する微高地）常用日田行遺跡をはじめ、西側約500mの梅島遺跡等が集中している。さらに北東約1kmには、城ノ越期の円形住居や廃棄土坑を確認した上北島平塚遺跡が所在する。当遺跡から南側には弥生時代前期の集落を認め得ないが、津島九反坪遺跡では前期に遡るとみられる溜井状の水源地遺構が確認されている。弥生時代中期から後期には、梅島遺跡が大きく栄えたとみられる。それ以降の時期は集中して遺構遺物がみられることは少ないが、中世には荘園制に組み込まれ、大宰府の安楽寺領として栄えている。

### 参考文献

『筑後市史』 筑後市史編纂委員会 1998





- |            |             |             |
|------------|-------------|-------------|
| 1 瑞王寺古墳    | 2 石人山古墳     | 3 蔵数坂口遺跡    |
| 4 蔵数森ノ木遺跡  | 5 欠塚古墳      | 6 久富鳥居遺跡    |
| 7 羽犬塚中道遺跡  | 8 羽犬塚山ノ前遺跡  | 9 山ノ井川口遺跡   |
| 10 上北島平塚遺跡 | 11 鶴田木屋ノ角遺跡 | 12 鶴田西畑遺跡   |
| 13 裏山遺跡    | 14 鶴田岸添遺跡   | 15 鶴田中市ノ塚遺跡 |
| 16 常用日田行遺跡 | 17 常用長田遺跡   | 18 梅島遺跡     |
| 19 津島南佛生遺跡 | 20 津島皿ヶ町遺跡  | 21 津島九反坪遺跡  |

Fig.2 周辺遺跡分布図

### 第Ⅲ章 調査成果

#### 1.はじめに

今回報告する常用長田遺跡は筑后市大字常用字長田に所在する。調査は永見秀徳が担当した。調査面積は約3,500㎡で、調査期間は平成9年1月5日から5月12日であった。本書では、先に遺構をその種類別に報告し、その後に、遺構の報告順に従って出土遺物を報告した。同一遺構種別内では、遺構番号順に報告することを基本とした。従って、遺構の年代順等の考古学的基準で並べていないので注意されたい。

また、調査当時は常用日田行遺跡を合わせて「常用遺跡群」として扱い、遺構仮番号を通し番号で付していた。そのため、当時「E区」としていた常用長田遺跡第2次調査では、S-300～S-999とS-2000～の遺構仮番号を使用している。報告にあたっては、例言にも記したとおり、調査時点での遺構仮番号をそのまま使用し、調査回数と遺構種別を頭につけて遺構番号を決定している。つまり、常用長田遺跡第2次調査での遺構仮番号S-500が土坑であった場合、本書での遺構番号は2SK0500となっている。

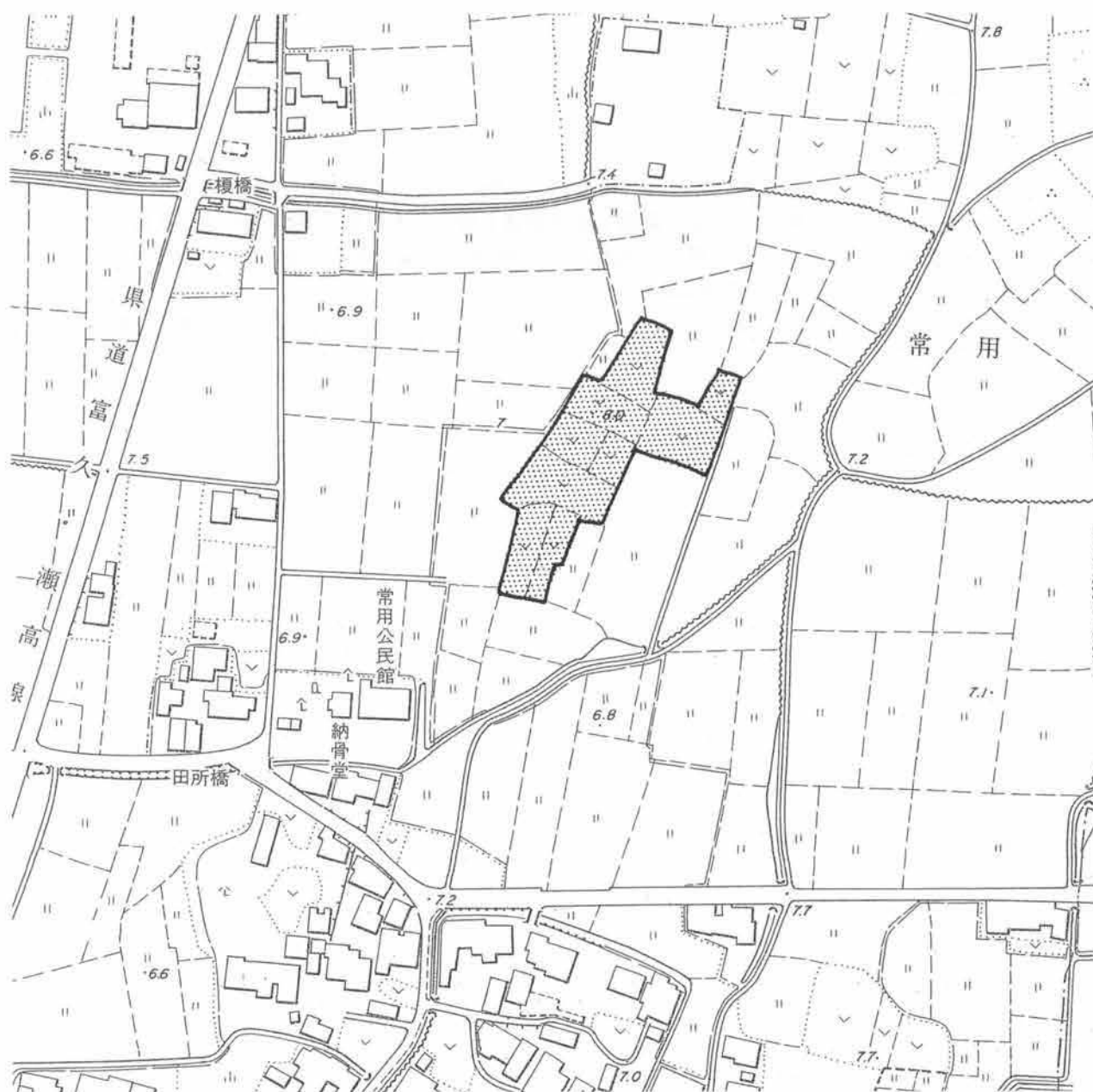


Fig.3 調査地点位置図 (1/2,500)

## 2. 検出遺構

検出遺構は、遺構仮番号を付したもののだけでも、820個程のものがある。出土遺物がないなどの理由で遺構仮番号を付さなかった小規模なものまで入れると、1,000個程度の遺構が検出されたことになる。今回遺構種別が判明したものの中では、土坑の数が抜きん出ている。大半は、調査時点では廃棄土坑として認識されたが、その多くは貯蔵穴等の転用であることは容易に推測される。したがって、廃棄土坑と貯蔵穴等の区別は報告の中では区別しておらず、単に土坑として取り扱った。

また、堅穴遺構の中には住居跡の可能性を否定できないものも含まれているが、弥生時代・古墳時代のもので支柱穴が確認できなかったものは、堅穴として報告した。なお、各表題で遺構番号の最後尾につけた[]書きの英数字は、調査区内での位置を示す地区番号である。(Fig.238参照)

### 土坑

前述したように、多数の土坑を確認した。本来は出土遺物から推定される時期の新旧や、調査区内での位置をもって報告順を決定すべきだが、今回は単に遺構番号順とした。以下、本文では特に特徴があるものや、文章で補う必要があるもののみ記述した。各遺構については土坑一覧表を参照されたい。

#### 2SK0306 (Fig.6・Pla.3) [R3]

調査区の南端近くにあり、遺構の切り合いはない。主軸の方位はN-49°-Wである。長軸1.9m短軸0.9m深さ0.9mを測るが、長軸上の対辺は遺構下端が遺構上端よりも外側に広がるため、長軸上の断面では袋状土坑の様相を呈する。広がる幅は、東辺で0.2m西辺で0.1mである。さらに、東側1/3は底面が一段低く掘り込まれており、その比高差は0.2m程である。

出土遺物は、弥生土器(甕・壺・鉢)・サヌカイト(スクレイパー・剥片)・黒曜石(鏃・ポイント?・剥片)がある。

#### 2SK0361 (Fig.9・Pla.31・32) [P12]

調査区の南端近くにあり、遺構の切り合いはない。主軸の方位はN-31°-Eである。長軸1.2m短軸1.0m深さ0.6mを測る。一見井戸のようにも見えるが底面は透水層まで達しておらず、ここでは土坑で報告した。2SI2340の中央土坑となる可能性もある。

出土遺物は、弥生土器(甕・壺)・黒色磨研土器壺・黒曜石剥片がある。

#### 2SK00363 (Fig10・Pla.31・33) [O11]

調査区の南寄りにあり、2SK2021を切っている。主軸の方位はN-15°-Eである。長軸1.7m短軸1.1m深さ0.9mを測るが、南辺には幅0.3m奥行き0.2m底面からの高さ0.2mの棚を地山削りだしてつくる。棚の上面は南から東へ向かって傾斜しており、両端での比高差は0.1mである。

この棚には弥生土器(亀ノ甲式)の甕を倒立させて据えている。この甕は底部が欠損しているが、偶然による欠損とは考えにくく、人為的な打ち欠きと考えられる。

出土遺物には、弥生土器(甕・壺)・サヌカイト剥片・黒曜石剥片がある。

#### 2SK0402 (Fig13・Pla.49) [U13]

調査区の南寄りにあり、遺構の切り合いはない。長軸2.2m短軸1.0m深さ0.2mを測り、主軸の方位はN-19°-Eである。完掘状態での遺構実測図をみると2つの土坑が切り合っているようにも見えるが、調査時点の所見では検出時に遺構の切り合いは認められず、1つの土坑として認識した。長軸側両端は棚状となり、深さ0.2mであるが、中央部は0.5mと一段深くなっている。この一段深い部分の平面形態は整った方形であり、意図的に掘削したことが見てとれる。さらにこの部分の底面は南から東へと傾斜しており、特別な用途を与えることも検討しなければならない。

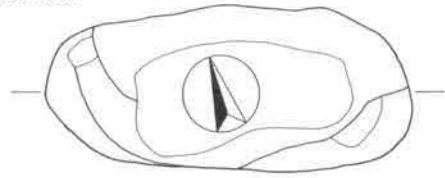
出土遺物は、弥生土器(甕・壺・蓋)・サヌカイト剥片・黒曜石剥片・片岩剥片・河原石片がある。

#### 2SK0405 (Fig13) [Q20]

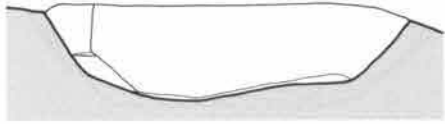
調査区の中央附近にあり、2SI0608に切られており、かつ2SK2044を切っている。主軸の方位はN-56°-Wである。長軸4.5m短軸1.5m深さ0.8mと、大型で細長い印象を受ける土坑である。底面は概ね



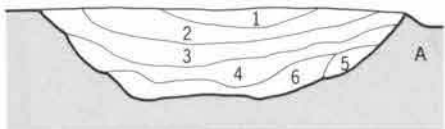
2SK0300



H=7.200m

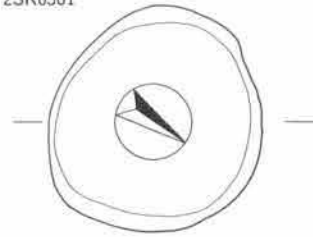


H=7.200m

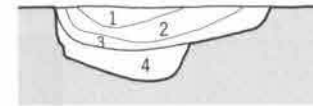


- I-1 淡黒茶色粘質土(粘性かなり弱い、2との境に黄茶色粒子を多く含む)
- II-2 暗黒茶色粘質土(1より粘性あり、黄茶色、灰茶色及び黒色粒子を含む)
- III-3 黒茶色粘質土(粘性2と同じ、茶色粒子含む)
- IV-4 // (3より茶色が強い、暗茶色ブロック含む、粘性2と同じ)
- V-5 暗黄茶色粘質土(地山に黒色土混入)
- 6 黒茶色粘質土(粘性最も強い、地山混入)
- A: 暗黄茶色粘質土

2SK0301

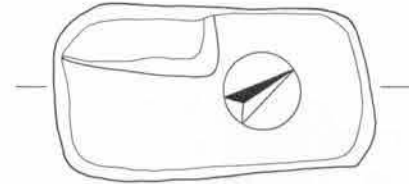


H=7.100



- 1 淡黒茶色砂質土(赤茶色粒子含む)
- 2 暗黒茶色砂質土(黄茶色粒子及び灰茶色粒子含む)
- 3 黒茶色砂質土(赤茶色粒子及び灰茶色粒子含む)
- 4 掘りすぎ(SK334埋土)

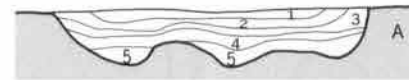
2SK0303



H=7.200m

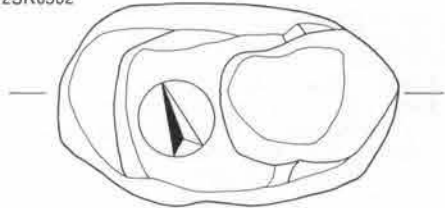


H=7.200m

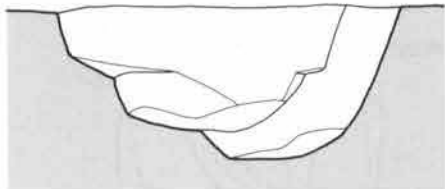


- 1 暗黒茶色粘質土(粘性弱く、灰色粒子を含む)
- 2 // (粘性1と同じ、1より灰色粒子を多く含む)
- 3 // (1、2より色が暗い、灰色粒子を含む粘性1と同じ)
- 4 暗黒茶色粘質土(1、2、3より黒が強い、灰色及び赤茶色粒子を含む粘性1より強い)
- 5 暗黄茶色粘質土(地山に黒色土混入、粘性4と同じ)
- A: 暗黄茶色粘質土

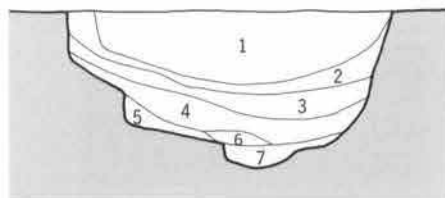
2SK0302



H=7.200m

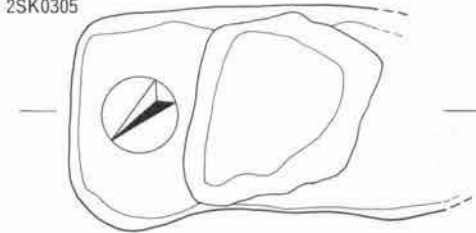


H=7.200m



- 1 淡黒茶色砂質土(赤茶色粒子及び黄茶色粒子含む)
- 2 暗黒茶色砂質土( // )
- 3 暗黒茶色砂質土(暗黄茶色粒子を含む)
- 4 暗黄茶色粘質土(暗黄茶色ブロックを多く含む)
- 5 暗黒茶色粘質土(2より黒が強い)
- 6 灰茶色粘質土
- 7 暗黒茶色粘質土(暗黄茶色ブロック及び赤茶色粒子含む)

2SK0305



H=7.100m



H=7.100m

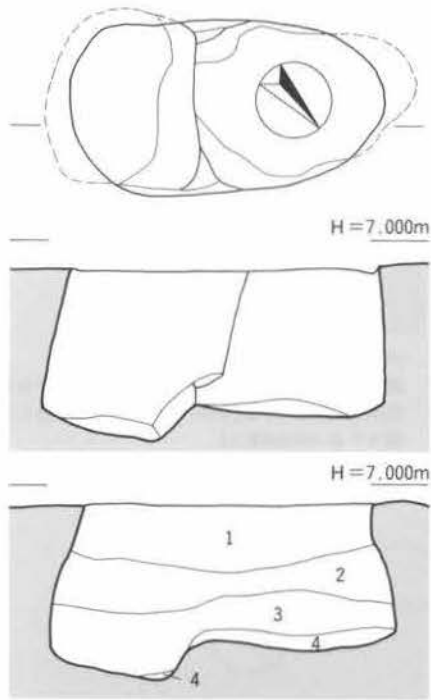


- 1 暗黒茶色粘質土(粘性やや強い灰茶色粒子含む)
- 2 // (粘性弱く、土がしまつてかたい、暗茶色粒子含む)
- 3 暗黒茶色粘質土(2と粘性同じ、茶色粒子含む)
- 4 暗灰茶色粘質土(2と粘性同じ、茶色、暗茶色、黒色粒子含む)



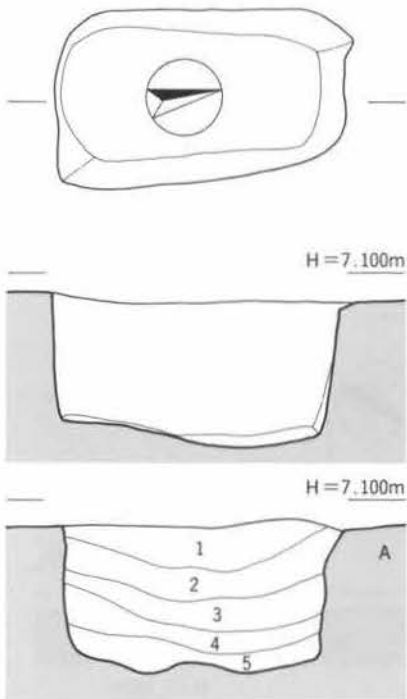
Fig.4 2SK0300・2SK0301・2SK0302・2SK0303・2SK0305実測図(1/40)

2SK0306



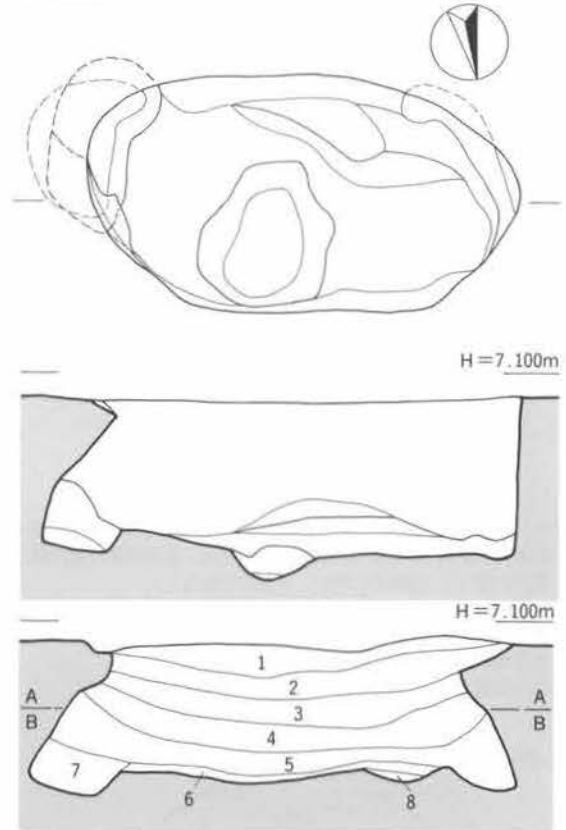
- 1 淡黒茶色砂質土(黄茶色粒子含む)
- 2 暗黒茶色粘質土(黄茶色粒子及び赤茶色粒子含む)
- 3 // (灰茶色粒子含む)
- 4 暗黄茶色粘質土(黒茶色混入)
- A: 暗茶色粘質土

2SK0307



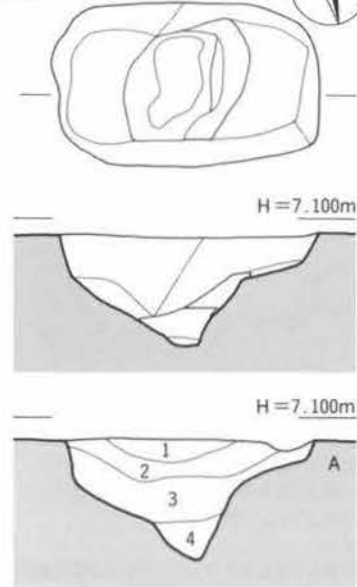
- 1 暗黒茶色粘質土(粘性弱い。黒色、茶色、赤茶色粒子含む)
- 2 // (粘性1と同じ黒色赤茶色、灰茶色粒子含む)
- 3 // (1よりやや粘性有り、1、2に比べ全体が暗い。黒色、赤茶色、灰茶色粒子を含む)
- 4 暗黒茶色粘質土(粘性3より強い。灰茶色、黒色粒子含む。黄茶色土混入)
- 5 // (粘性4と同じ。灰茶色土混入)
- A: 暗黄茶色粘質土

2SK0309



- 1 黒茶色粘質土(粘性弱く、赤茶、灰茶、白色粒子含む)
- 2 // (粘性1と同じで、1に比べ黒が強い黒色、茶色粒子含む)
- 3 // (1よりやや粘性あり。1に比べやや茶色、黒茶色粒子含む)
- 4 暗黒茶色粘質土(粘性1と同じ。黒色、暗茶色粒子含む)
- 5 // (3より粘性強い、黒色粒子、灰茶色粒子含む)
- 6 暗黄茶色粘質土(粘性かなり強い、灰茶色土混入)
- 7 暗黒茶色粘質土(6と粘性同じ、暗茶色粒子含む)
- 8 暗灰色粘質土(1と粘性同じ)
- A: 暗茶色粘質土 B: 暗黄茶色粘質土

2SK0311

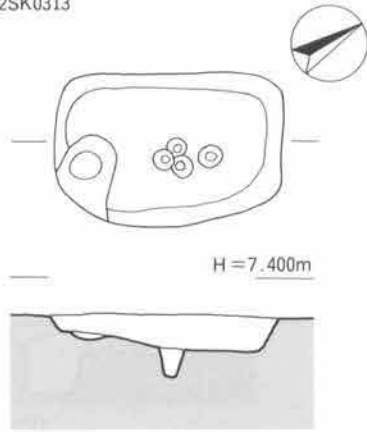


- 1 暗黒茶色粘質土(粘性弱い、灰茶色土混入、黒色、茶色及び赤茶色粒子含む)
- 2 // (粘性1と同じ、1より色が暗い、茶色粒子含む)
- 3 // (1、2より黒色が強い、灰茶色土含む、1と粘性同じ)
- 4 暗黄茶色粘質土(地山に黒色土混入、粘性最も強い)
- A: 暗黄茶色粘質土

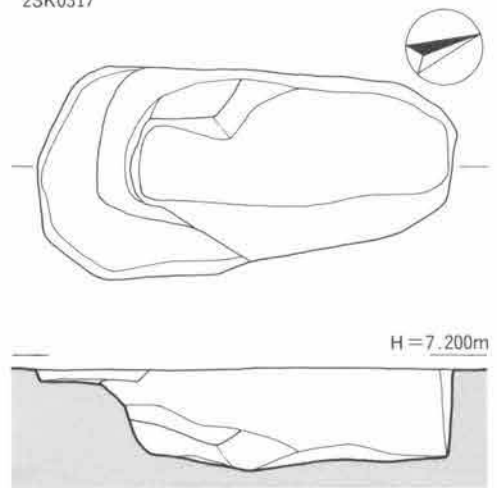


Fig.5 2SK0306・2SK0307・2SK0309・2SK0311実測図 (1/40)

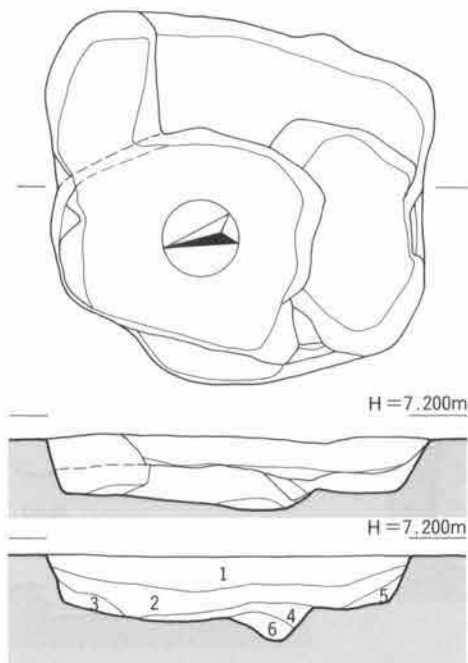
2SK0313



2SK0317

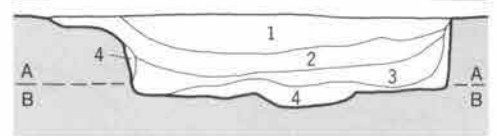


2SK0314



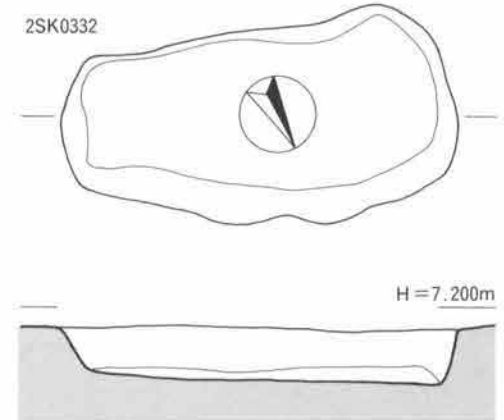
- 1 淡黒茶色砂質土(灰茶色粒子及び赤茶色粒子含む)
- 2 暗黒茶色砂質土(灰茶色粒子含む)
- 3 黒茶色砂質土(黄茶色粒子及び暗黄色粘質土含む)
- 4 灰茶色砂質土(黄茶色粒子含む)
- 5 暗黒茶色砂質土(//)
- 6 黒茶色砂質土(灰茶色粒子及び暗黄色粘質土含む)

H = 7.200m

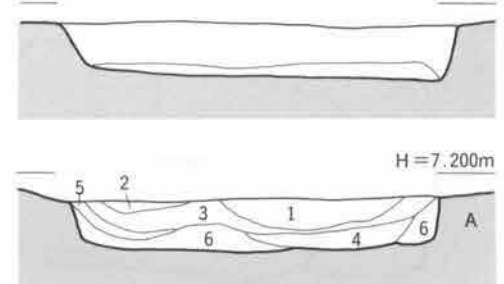


- 1 暗黒茶色粘質土(粘性弱く、土がしまっかたい。暗茶色、赤色及び黒色粒子含む)
- 2 // (1に比べやや暗い、粘性1と同じ) 暗茶色、赤色及び黒色粒子含む
- 3 暗黒茶色粘質土(1, 2に比べ黒が強い、粘性1より強い) 暗茶色及び黒色粒子含む
- 4 暗茶色粘土
- A : 暗茶色粘質土
- B : 暗黄茶色粘質土

2SK0332



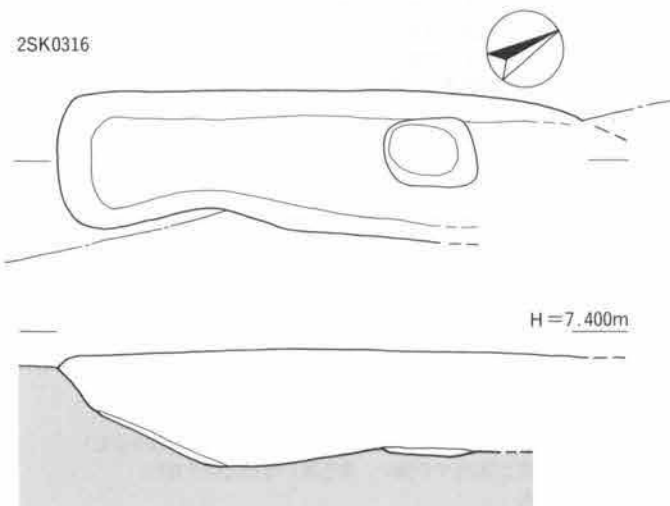
H = 7.200m



H = 7.200m

- 1 黒茶色粘質土(粘性弱い、暗茶色粒子を多く含む)
- 2 暗黒茶色粘質土(1よりやや粘性あり、黄茶色粒子含む)
- 3 // (2と粘性同じ。茶色土混入。茶色、暗茶色、黒色粒子を多く含む)
- 4 淡黒茶色粘質土(1より粘性弱い、暗茶色及び黒色粒子含む)
- 5 // (暗茶色土混入、茶色粒子含む)
- 6 淡暗茶色粘質土(地山)
- A : 淡暗茶色粘質土

2SK0316

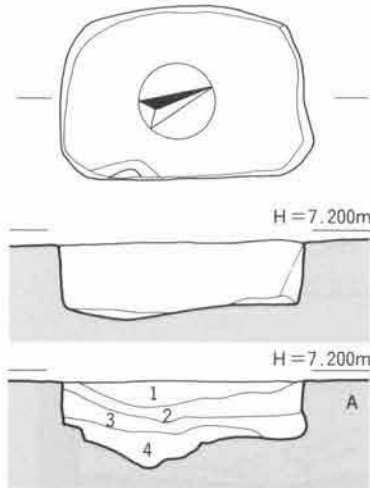


H = 7.400m



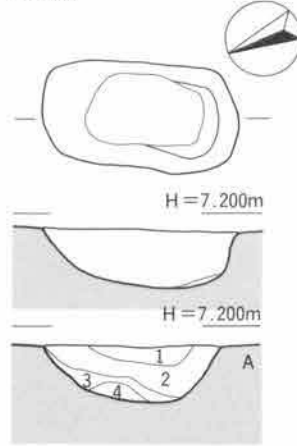
Fig.6 2SK0313・2SK0314・2SK0316・2SK0317・2SK0332実測図 (1/40)

2SK0334



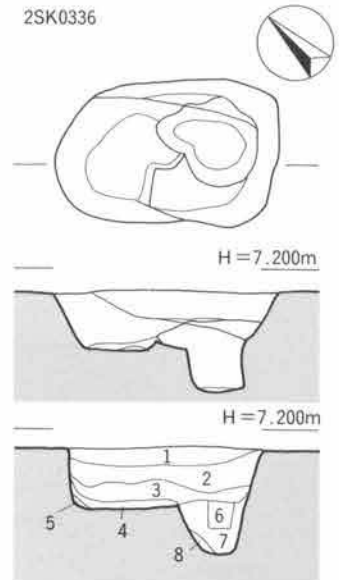
- 1 暗黒茶色粘質土 (粘性強く、土がしよってかたい。茶色、暗茶色、黒色粒子含む)
- 2 // (1よりやや茶色がかったり。茶色、暗茶色、黒色粒子含む)
- 3 暗黒茶色粘質土 (1、2に比べ暗く、黒味がかったり。粘性1と同じ茶色、暗茶色、暗茶色粒子含む)
- 4 暗黒茶色粘土(地山) A: 暗黄茶色粘土

2SK0335



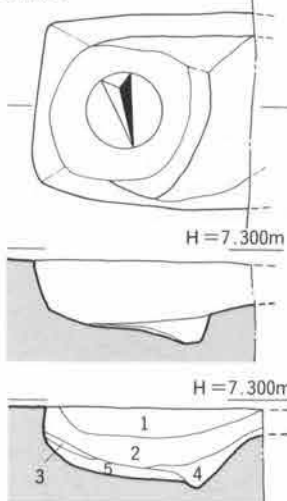
- 1 暗黒茶色粘質土 (粘性弱く、茶色、灰茶色粒子含む。暗茶色土混入)
- 2 // (1より黒が強い。暗茶色、茶色及び赤茶色粒子含む。粘性1と同じ)
- 3 淡黒茶色粘質土 (1よりやや粘性あり。黒色、暗茶色、及び茶色粒子含む)
- 4 淡暗黄茶色粘質土(地山) A: 淡暗黄茶色粘質土

2SK0336



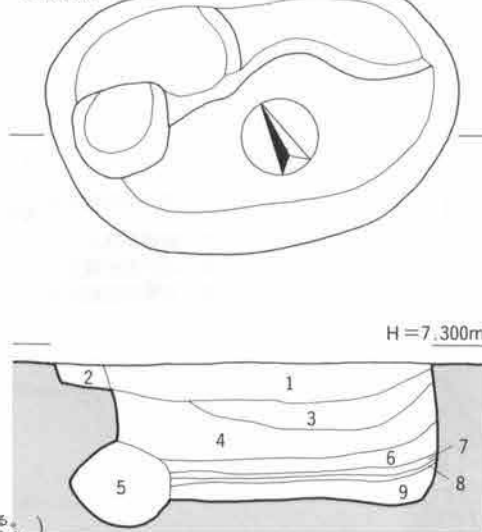
- 1 黒茶色砂質土(黄茶色粒子含む)
- 2 暗黒茶色砂質土(灰茶色粒子混入及び黄茶色粒子含む)
- 3 淡黒茶色砂質土(灰茶色粒子混入)
- 4 暗黄茶色粘質土
- 5 淡暗茶色粘質土
- 6 淡黒茶色粘質土(灰茶色粒子含む)
- 7 淡暗茶色粘質土( // )
- 8 暗黄茶色粘質土

2SK0037



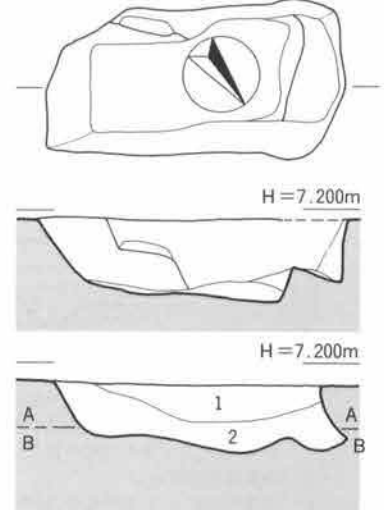
- 1 暗黒茶色粘質土 (粘性弱く、土がしまっている。暗茶、灰茶、及び黒色粒子含む。1より黒味がかったり。やや粘性あり。灰茶及び黒色粒子含む。)
- 2 // (1より色が暗い、灰茶色粒子含む。粘性2と同じ)
- 3 // (粘性かなり強い、暗茶色及び黒色粒子含む)
- 4 // (暗黄茶色土を多量に含む)
- 5 暗黄茶色粘質土(地山)
- 6 (カクラン) A: 暗黄茶色粘質土

2SK0341



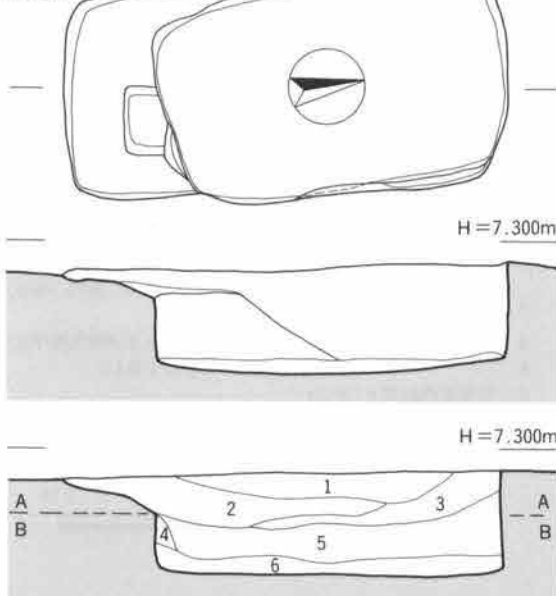
- 1 淡暗茶色砂質土(灰茶色粒子含む)
- 2 // (灰茶色粒子及び赤茶色粒子含む)
- 3 淡暗黒色砂質土(灰茶色粒子含む)
- 4 黒茶色粘質土( // )
- 5 // (暗黄茶色土を少量に含む)
- 6 暗黒茶色粘質土
- 7 // (暗黄茶色土を少量に含む)
- 8 // (暗黄茶色土混入)
- 9 // (暗黄茶色土混入)

2SK0342



- 1 黒茶色粘質土(粘性弱く、土がしまっている。暗茶色粒子含む)
- 2 暗黒茶色粘質土(1よりやや粘性あり、暗茶色粒子含む)
- A: 暗茶色粘質土
- B: 暗黄茶色粘質土

2SK0350

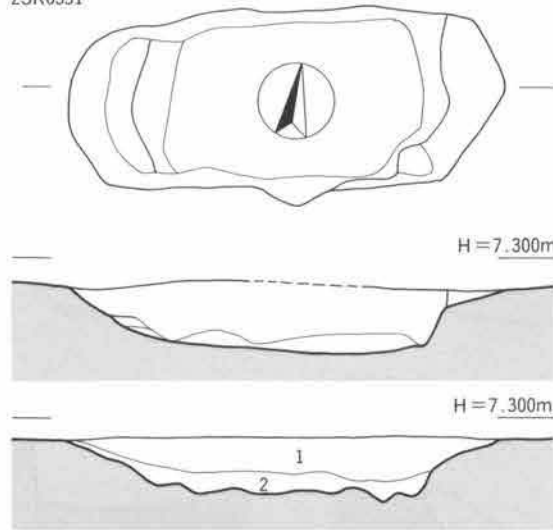


- 1 淡暗黒茶粘質土(粘性弱い。茶色、暗茶色、赤色、黒色及び赤色粒子含む)
- 2 // (粘性1と同じでやや色が明るい。黒色、赤色粒子含む)
- 3 暗黒茶色粘質土(粘性1と同じ。黒色及び暗茶色粒子含む)
- 4 暗茶色粘質土(Aに黒色土混入)
- 5 暗黒茶色粘質土(1よりやや粘性あり、黒色及び暗茶色粒子含む)
- 6 暗黒灰色粘質土(粘性やや強い、黒色及び暗茶色粒子含む)
- A: 暗茶色粘質土
- B: 暗灰茶色粘質土(砂粒子含む)



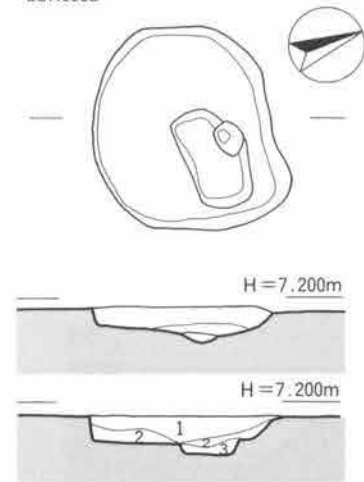
Fig.7 2SK0334・2SK0335・2SK0336・2SK0337

2SK0351



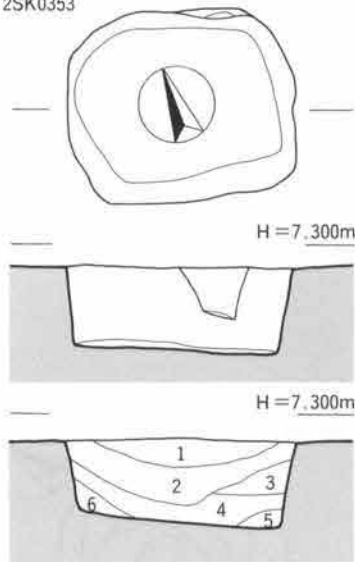
- 1 暗黒茶色砂質土 (赤茶色粒子及び灰茶色粒子含む)
- 2 暗黄茶色粘質土

2SK0352



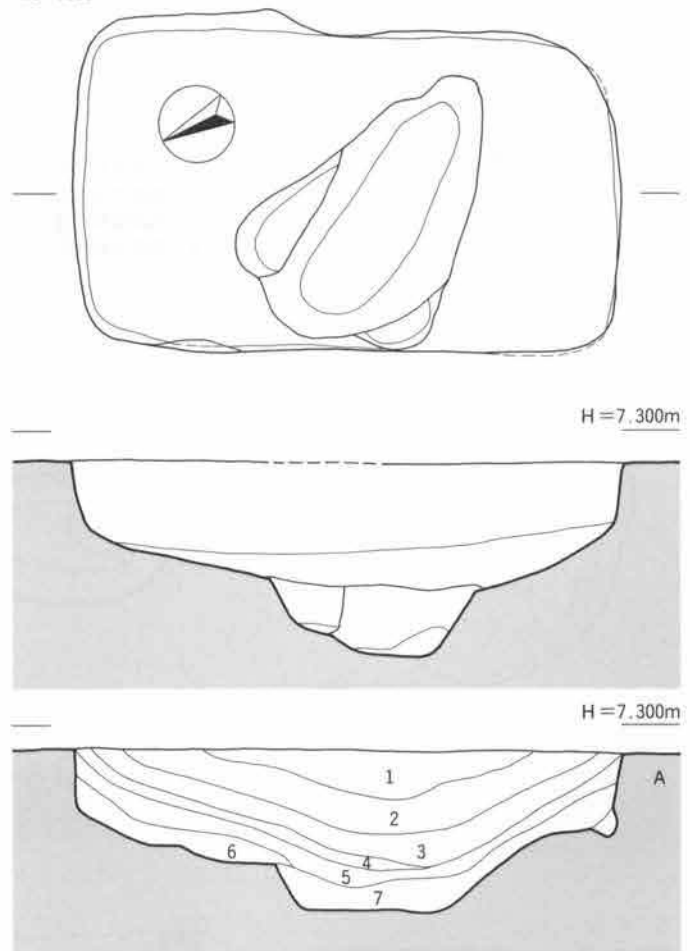
- 1 淡暗黒茶色砂質土 (灰茶色粒子含む)
- 2 灰茶色粘質土 (粘性が弱い)
- 3 淡黒茶色粘質土 (黒茶色粒子含む)

2SK0353



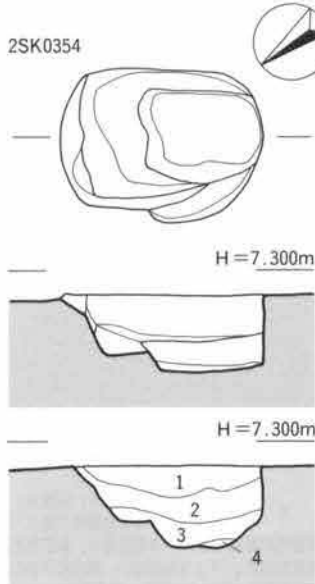
- 1 淡黒茶色粘質土 (灰茶色粒子含む)
- 2 淡黒茶色砂質土 (赤茶色粒子及び灰茶色粒子含む)
- 3 暗黒茶色粘質土 (灰茶色粒子含む)
- 4 // ( // )
- 5 // (灰茶色粒子及び暗黄茶色粒子含む)
- 6 // (暗黄茶色粒子含む)

2SK0355



- 1 黒茶色粘質土 (粘性弱い。黒色及び暗茶色粒子含む)
  - 2 // (1に比べ色が黒い。黒色赤茶色及び暗茶色粒子含む)
  - 3 // (1よりやや粘性あり、灰茶及び黒色粒子を含む)
  - 4 暗黒茶色粘質土 (粘性1と同じ。暗茶、灰茶及び黒色粒子を含む)
  - 5 黒茶色粘質土 (粘性1と同じ。暗茶及び黒色粒子含む)
  - 6 暗黒茶色粘質土 (1よりやや粘性あり、赤茶、黒色及び暗茶色粒子含む)
  - 7 // (粘性6と同じで色が6より黒い、赤茶、黒色、暗茶色粒子含む)
- A : 暗茶色粘質土

2SK0354



- 1 淡黒茶色砂質土 (黄茶色ブロック含む)
- 2 暗黒茶色粘質土 (灰茶色粒子含む)
- 3 // ( // )
- 4 暗黄茶色粘質土



Fig.8 2SK0351・2SK0352・2SK0353・2SK0354・2SK0355実測図 (1/40)

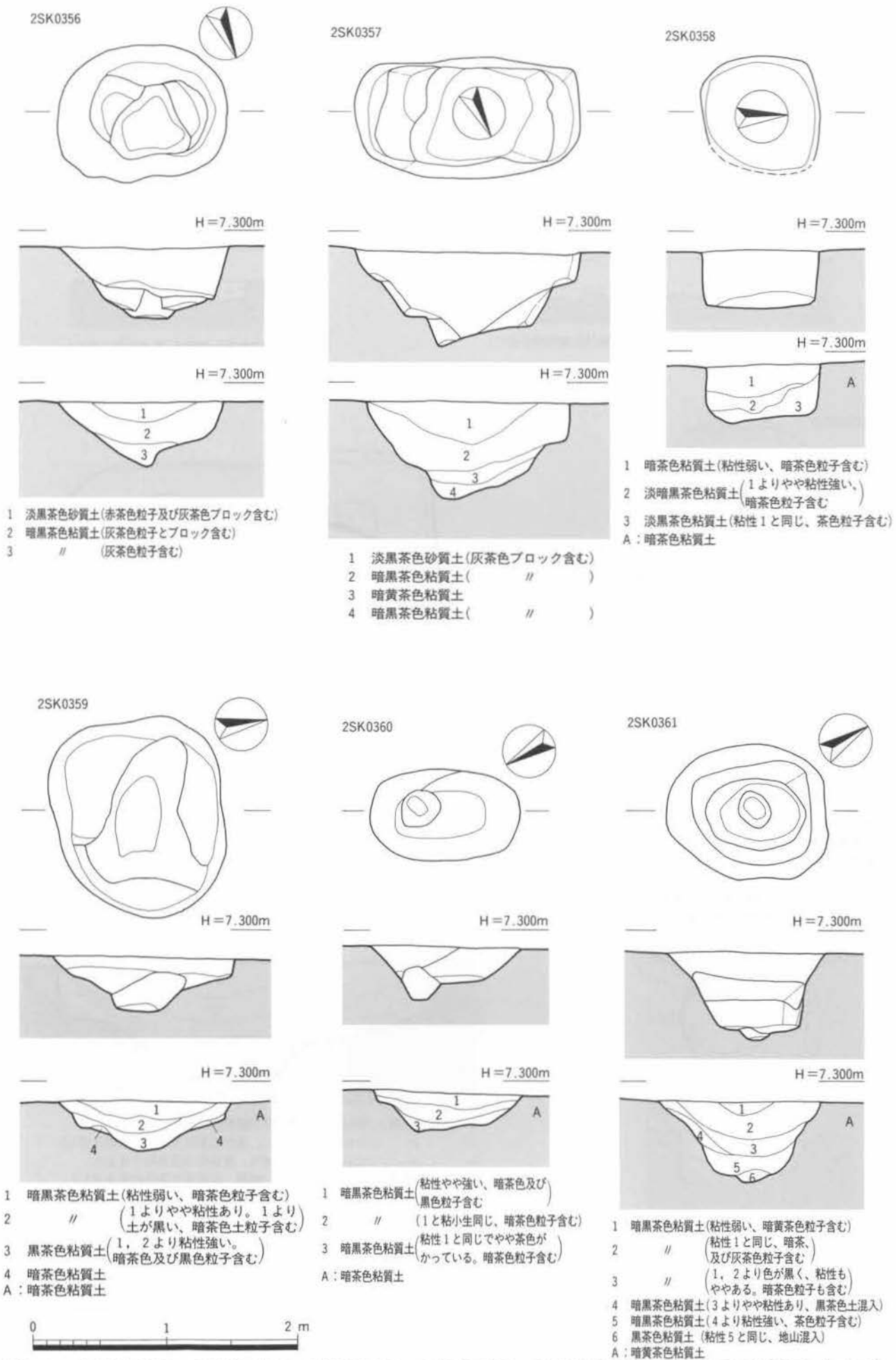
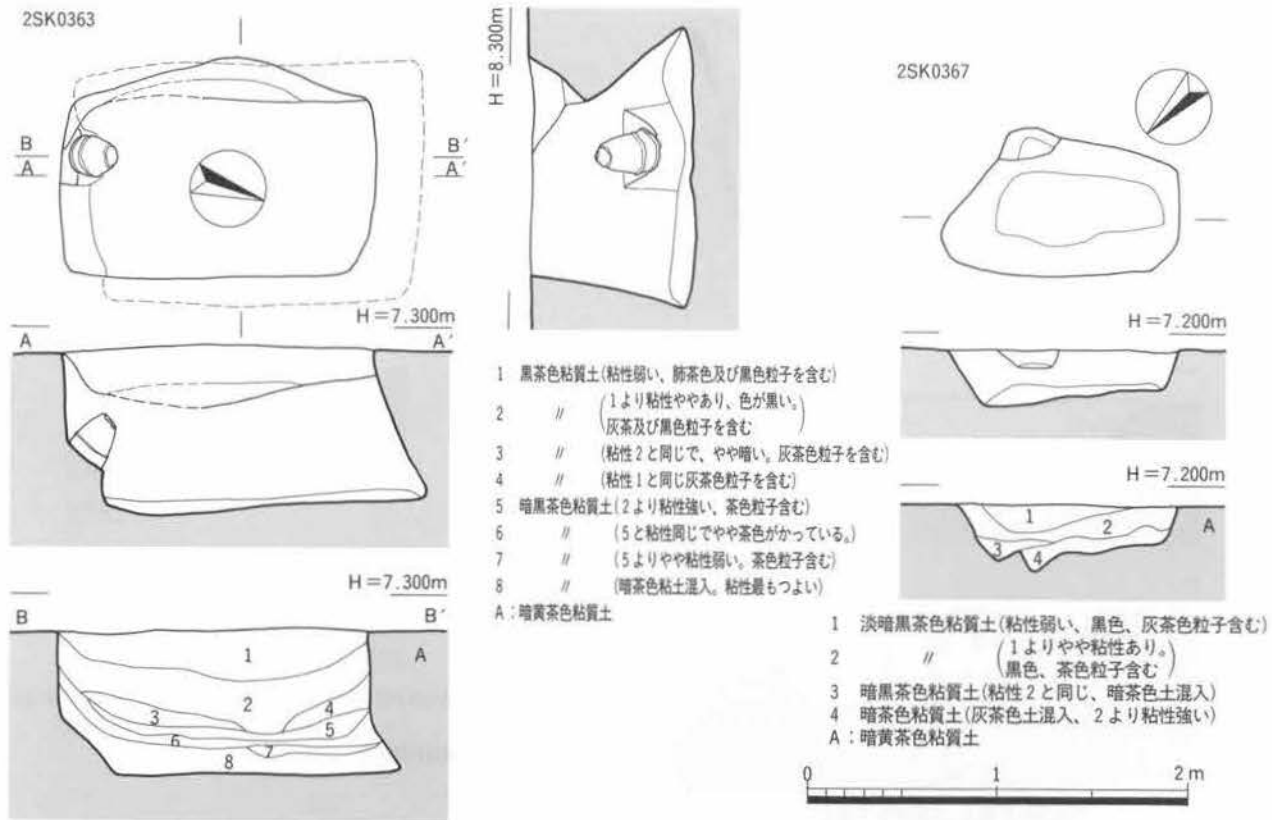
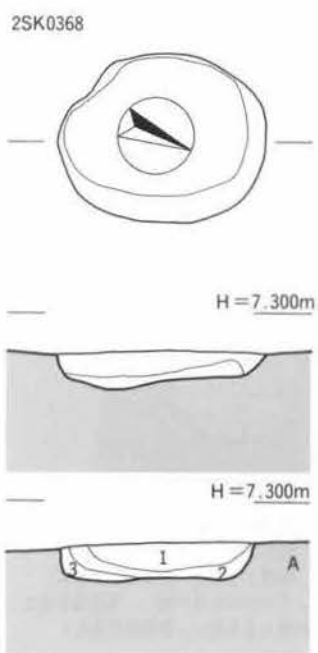


Fig.9 2SK0356・2SK0357・2SK0358・2SK0359・2SK0360・2SK0361実測図 (1/40)

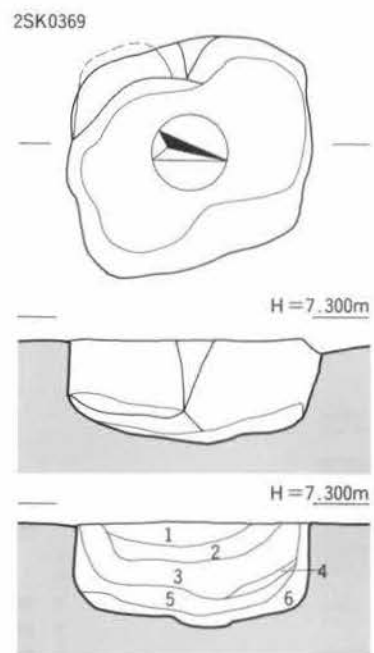


- 1 黒茶色粘質土(粘性弱い、肺茶色及び黒色粒子を含む)
  - 2 // (1より粘性ややあり、色が黒い、灰茶及び黒色粒子を含む)
  - 3 // (粘性2と同じで、やや暗い。灰茶色粒子を含む)
  - 4 // (粘性1と同じ灰茶色粒子を含む)
  - 5 暗黒茶色粘質土(2より粘性強い、茶色粒子含む)
  - 6 // (5と粘性同じでやや茶色がかった)
  - 7 // (5よりやや粘性弱い。茶色粒子含む)
  - 8 // (暗茶色粘土混入。粘性最も強い)
- A: 暗黄茶色粘質土

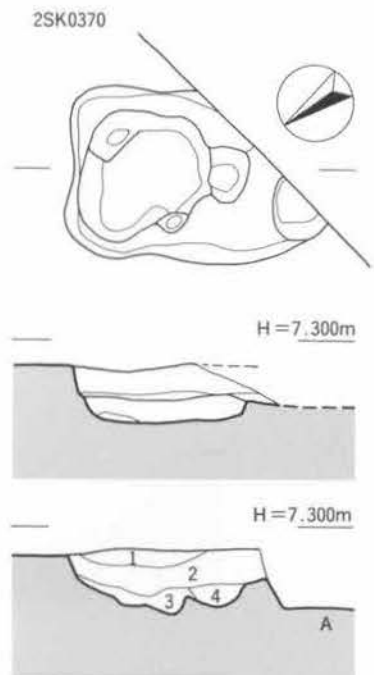
- 1 淡暗黒茶色粘質土(粘性弱い、黒色、灰茶色粒子含む)
  - 2 // (1よりやや粘性あり。黒色、茶色粒子含む)
  - 3 暗黒茶色粘質土(粘性2と同じ、暗茶色土混入)
  - 4 暗茶色粘質土(灰茶色土混入、2より粘性強い)
- A: 暗黄茶色粘質土



- 1 暗黒茶色粘質土(粘性弱い、灰茶色粒子含む)
  - 2 // (1より粘性ややあり、灰茶及び暗灰茶色粒子含む)
  - 3 黒茶色粘質土(粘性2と同じ、黒色粒子含む)
- A: 暗茶色粘質土



- 1 淡黒茶色砂質土(灰茶色粒子含む)
- 2 淡暗黒茶色粘質土(灰茶色粒子含む)
- 3 暗黒茶色粘質土(灰茶色粒子含む)
- 4 淡暗黒茶色粘質土(2より暗い、灰茶色粒子含む)
- 5 黒茶色粘質土(灰茶色粒子含む)
- 6 // (暗黄茶色粒子混入)

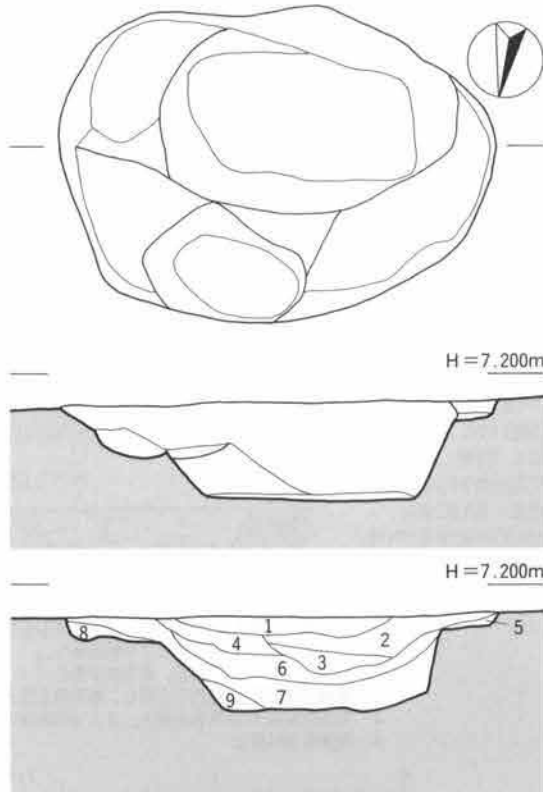


- 1 暗黒茶色粘質土(粘性弱い。淡茶色粒子多く含む)
  - 2 // (粘性1と同じ。淡茶及び灰茶色粒子含む)
  - 3 淡暗黒茶色粘質土(粘性強い。黒色及び茶色粒子含む)
  - 4 暗黒茶色粘質土(3よりやや粘性弱く、1、2よりやや茶色がかった。茶色粒子含む)
- A: 暗黄茶色粘質土

Fig.10 2SK0363・2SK0367・2SK0368・2SK0369・2SK0370実測図 (1/40)

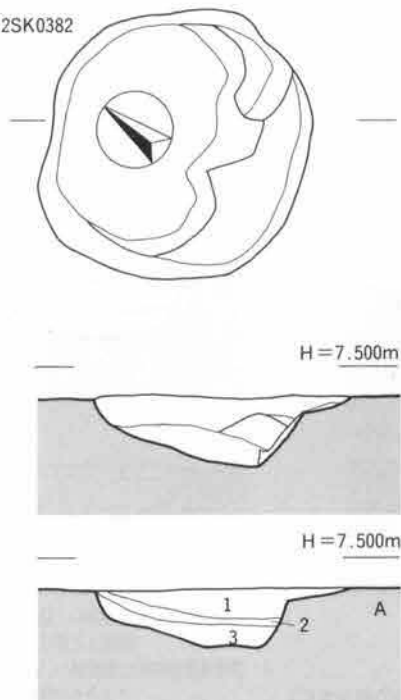


2SK0374



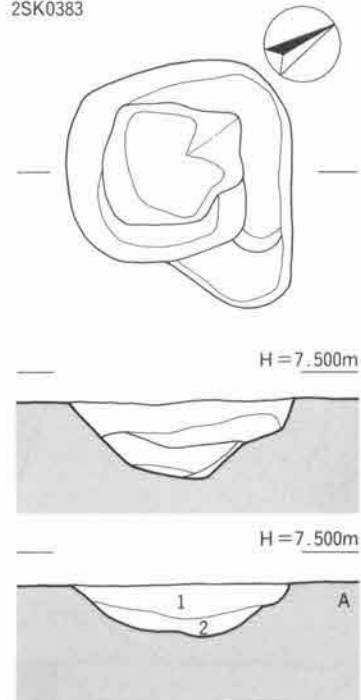
- 1 淡黒茶色砂質土(灰茶色粒子含む)
- 2 // (暗黄茶色粒子多く含む)
- 3 淡暗黒粘質土
- 4 淡黒茶色粘質土
- 5 暗黒茶色砂質土
- 6 淡黒茶色粘質土(暗黄茶色粒子含む)
- 7 暗黒茶色粘質土( // )
- 8 暗黄茶色砂質土
- 9 暗黒色粘質土(暗黄茶色粒子含む)

2SK0382



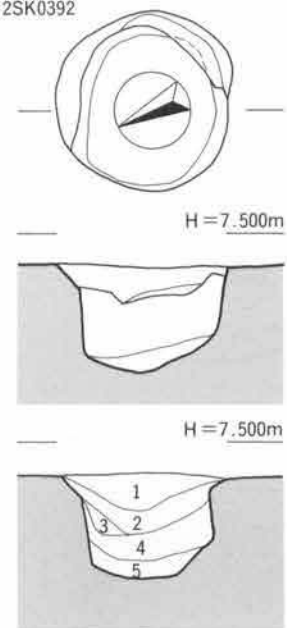
- 1 黒茶色粘質土(粘性弱く、暗茶及び白色粒子含む)
- 2 // (1より色が黒く、暗茶及び赤茶色粒子含む)
- 3 淡黒茶色粘質土(1と粘性同じ、地山混入)
- A: 暗黄茶色粘質土

2SK0383



- 1 淡暗黒茶色粘質土(粘性弱い、黒色、白色、暗茶色粒子含む)
- 2 // (粘性1と同じ、暗茶色粒子を含む)
- A: 暗茶色粘質土

2SK0392



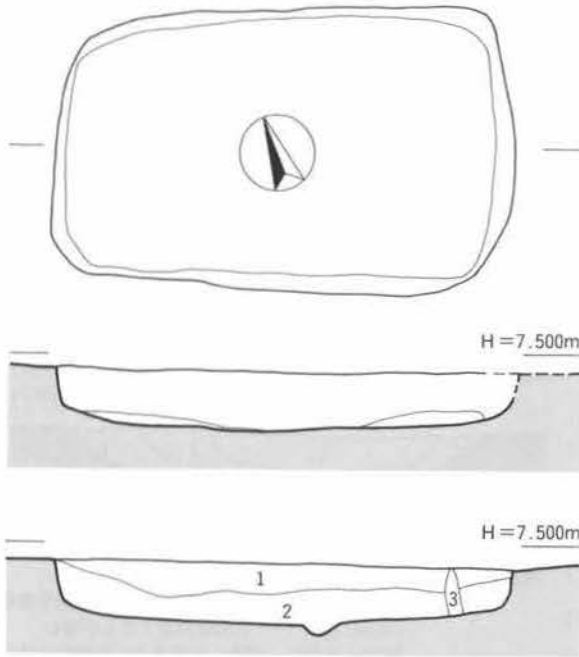
- 1 淡暗黒茶色粘質土(粘性弱く、黒色及び茶色粒子含む)
- 2 // (粘性1と同じ、茶色粒子含む)
- 3 // (粘性1と同じ、灰茶色粒子含む)
- 4 黒茶色粘質土(1よりややねんせい強い。茶色粒子含む)
- 5 暗黒茶色粘質土(粘性4より強い。茶色粒子含む)
- A: 暗茶色粘質土



Fig.11 2SK0374・2SK0382・2SK0383・2SK0392実測図(1/40)

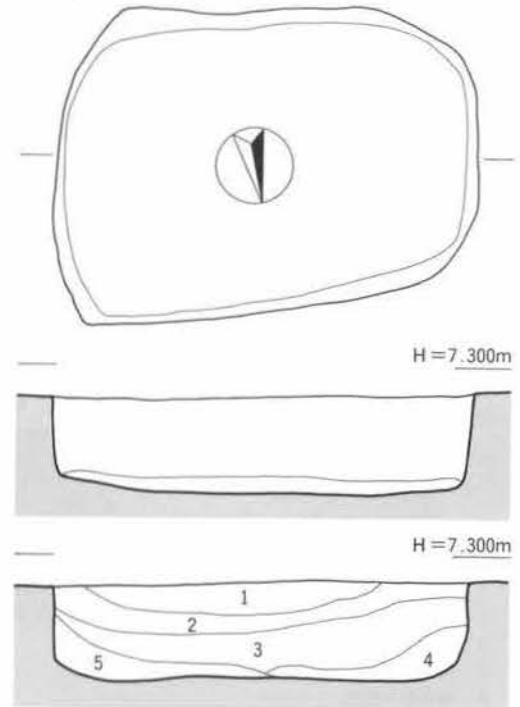


2SK0393



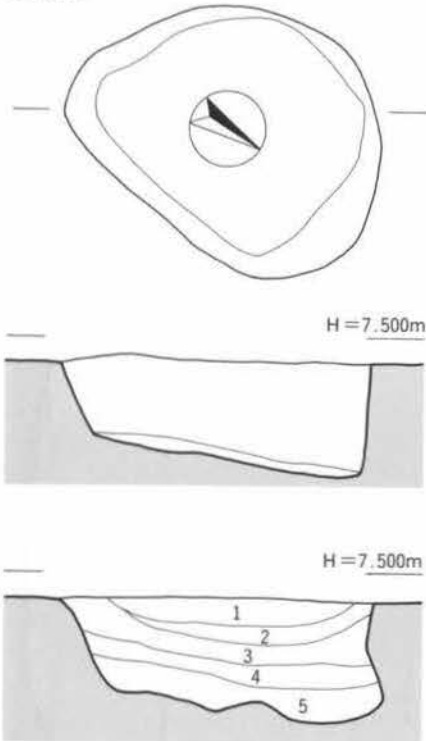
- 1 暗黒茶色粘質土(粘性やや弱い、茶位粒子含む)
- 2 // (1より粘性やや強い、1より多く茶色粒子を含む)
- 3 暗茶色粘質土(2より粘性強い、黒色土混入)
- A: 暗茶色粘質土

2SK0396



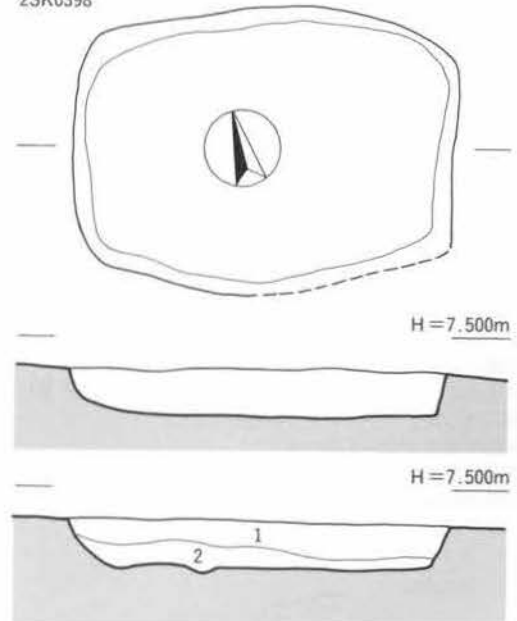
- 1 淡黒茶色砂質土(灰茶色粒子含む)
- 2 // (5mm大の小石を多量に含む)
- 3 淡黒茶色粘質土(灰茶色粒子含む)
- 4 黒茶色粘質土( // )
- 5 暗黄茶色粘質土(黒色土混入)

2SK0394



- 1 黒茶色粘質土(粘性弱い。暗茶、色、茶色、及び黒色粒子を含む)
- 2 // (粘性1と同じ、1~2cm大の茶色ブロック含む)
- 3 暗黒茶色粘土(粘性1と同じ、灰茶色粒子多く含む)
- 4 暗黒茶色粘質土(粘性1と同じ、暗茶色及び黒色粒子含む。3より色が黒い)
- 5 // (1よりやや粘性有り、灰色粒子含む)
- A: 暗黄茶色粘質土

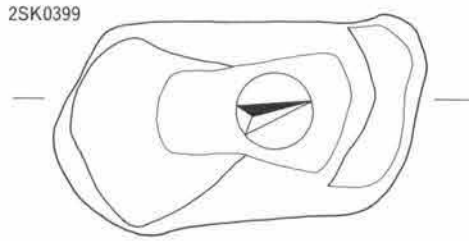
2SK0398



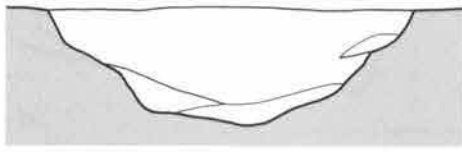
- 1 暗黒茶色粘質土(粘性がやや強い、茶色粒子及び黒色粒子含む)
- 2 暗茶色粘質土(粘性1と同じ、地山に暗黒茶色土混入)
- A: 暗茶色粘質土



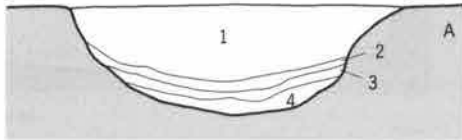
Fig.12 2SK0393・2SK0394・2SK0396・2SK0398実測図 (1/40)



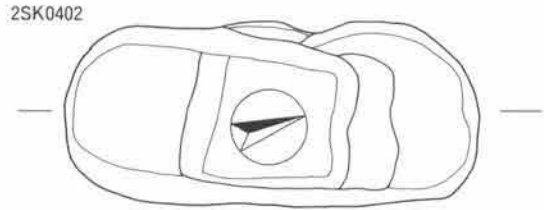
H = 7.400m



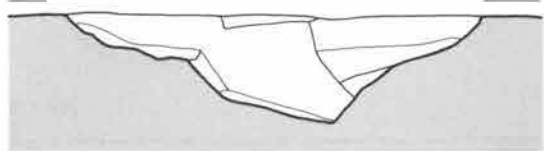
H = 7.400m



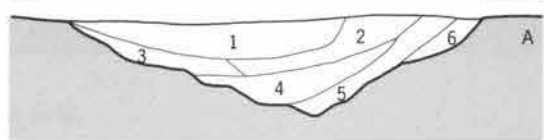
- 1 暗黒茶色粘質土(粘性とても弱い。黒色及び灰茶色粒子含む)
  - 2 // (1よりやや粘性有り、灰茶色粒子含む)
  - 3 暗黒茶色粘質土(2と粘性同じ、灰色粒子含む)
  - 4 暗茶色粘質土(地山に黒色土混入)
- A : 暗茶色粘質土



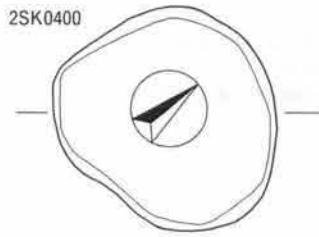
H = 7.200m



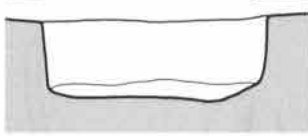
H = 7.200m



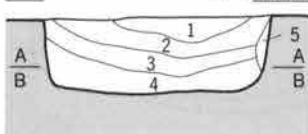
- 1 暗黒茶色粘質土(粘性弱い、茶色、暗茶色粒子含む)
  - 2 // (粘性1と同じ、茶色、暗茶色及び灰色粒子含む、中央に直径7cm大の暗黄茶ブロック含む)
  - 3 // (粘性1と同じ、茶色、灰茶色及び黒色粒子含む)
  - 4 暗黒茶色粘質土(粘性1よりややあり、灰色及び黒色粒子含む)
  - 5 // (粘性4と同じ、灰茶色粒子含む)
  - 6 // (粘性4と同じ、暗茶、灰茶色粒子含む)
- A : 暗黄茶色粘質土



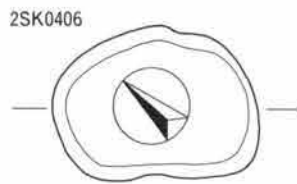
H = 7.500m



H = 7.500m



- 1 黒茶色粘質土(粘性やや弱い、茶色及び黒色粒子含む)
  - 2 淡暗黒茶色粘質土(粘性1と同じ、茶色粒子含む)
  - 3 黒茶色粘質土(粘性1と同じ、灰茶色、茶色及び黒色粒子含む)
  - 4 暗黒茶色粘質土(粘性1と同じ茶色粒子含む)
  - 5 暗茶色粘質土(地山Aと同一か?)
- A : 暗茶色粘質土  
B : 暗黄茶色粘質土



H = 7.400m

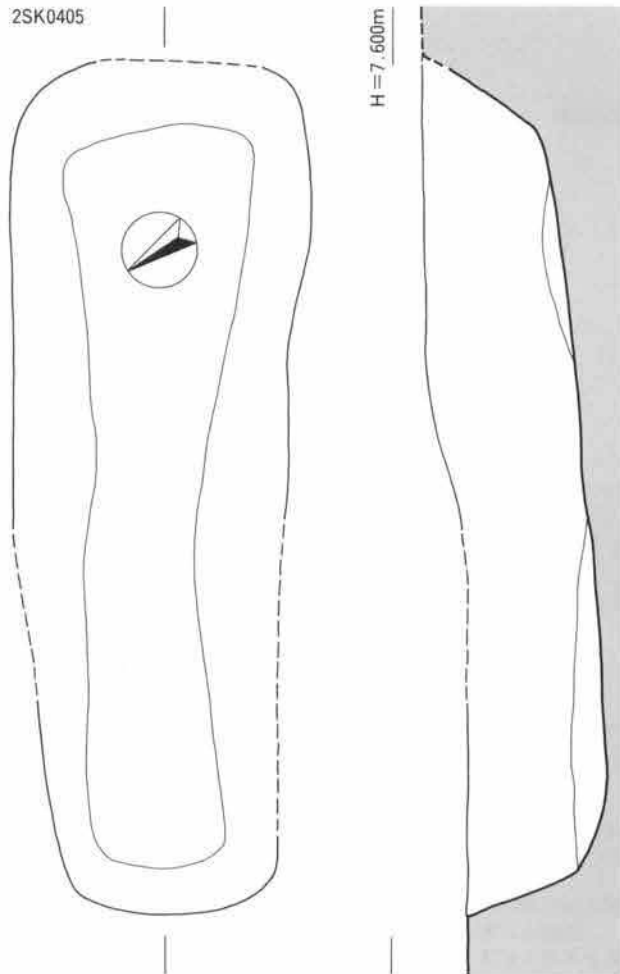
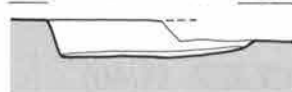
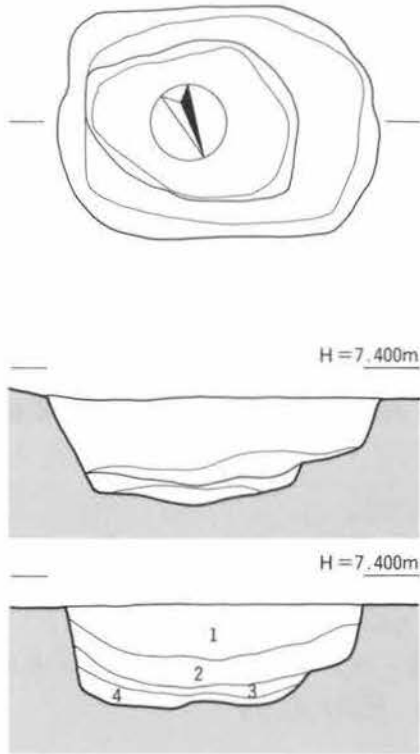


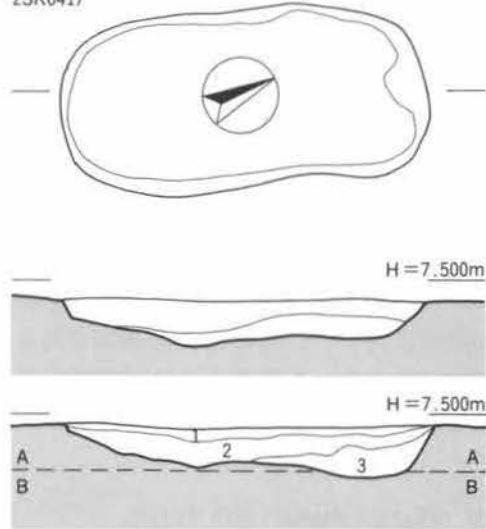
Fig.13 2SK0399・2SK0400・2SK0402・2SK0405・2SK0406実測図 (1/40)

2SK0416



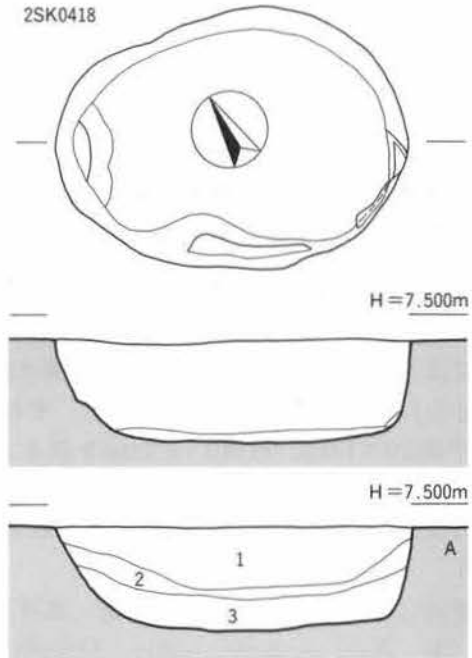
- 1 淡黒茶色砂質土(灰茶色粒子含む)
- 2 黒茶色粘質土(暗黄茶色粒子及び10cm大の暗黄茶色ブロック含む)
- 3 // (暗黄茶色粒子含む)
- 4 暗黒茶色粘質土(暗黄茶色土混入)

2SK0417



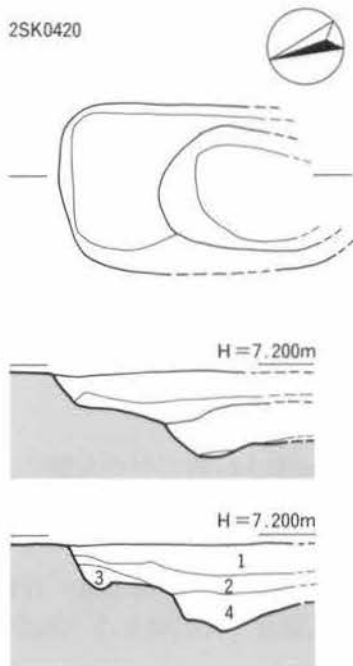
- 1 淡黒茶色粘質土(1mm台の淡茶色の粒子を少し含む)
  - 2 淡黒茶色粘質土(1よりやや淡い、1mm大の淡茶色の粒子を少し含む)
  - 3 淡茶色粘質土(地山Aと似ている、粘性が強い)
- A: 淡茶色粘土  
B: 暗黄茶色粘土(1mm大の酸化鉄を多く含む)

2SK0418

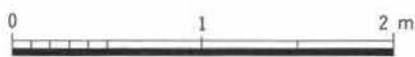


- 1 黒茶色粘質土(粘性弱い、暗茶色粒子含む)
  - 2 // (粘性1と同じ、暗茶色及び灰茶色粒子含む)
  - 3 暗黒茶色粘質土(1よりやや粘性あり、灰茶色粒子含む)
- A: 暗黄茶色粘質土

2SK0420



- 1 淡黒茶色砂質土(灰茶色粒子含む)
- 2 黒茶色粘質土( // )
- 3 暗黄茶色粘質土
- 4 //



2SK0419

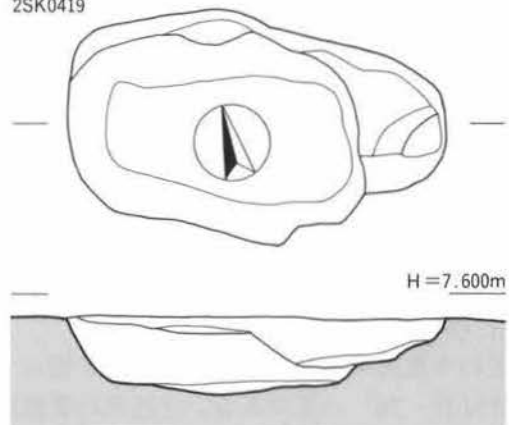


Fig.14 2SK0416・2SK0418・2SK0419・2SK0420実測図(1/40)

平坦で、特徴的な構造は持たない。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・蓋）・粘土塊・サヌカイト（鏃・？・剥片）・黒曜石剥片・片岩剥片がある。

#### 2SK0419 (Fig14・Pla.54) [N26]

調査区の中央附近にあり、2SK0948を切り2SK0573に切られている。主軸の方位はN-75°-Wである。2SK0402と同じく、完掘時の実測図を見ると2つの土坑が切り合っているようにも見える。こちらは、検出時に切り合いを見落とした可能性がある。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺）・サヌカイト剥片がある。出土遺物を見る限り大きな時期幅は認められない。

#### 2SK0423 (Fig15・Pla.56・57) [T10]

調査区の南寄りにあり、2SK0577と2SX0371に切られている。長軸4.6m短軸1.7m深さ0.5mの大型で、主軸の方位はN-50°-Wである。底面は概ね平坦であるが、中央やや西寄りに底面からの深さ0.2m程の平面形がだ円形の小穴がある。それ以外に特別な構造は持たない。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・蓋）・面子・投弾・粘土塊・サヌカイト（鏃・ドリル・ポイント・スクレイパー・剥片）・黒曜石剥片・石英剥片・偏平打製石斧・砥石がある。

#### 2SK0429 (Fig16・Pla.59・61) [O9]

調査区の南寄りにあり、他の遺構との切り合いはない。主軸の方位はN-13°-Eであるが、平面形態は円形に近い。所謂、典型的な袋状土坑で、遺構検出面が長軸1.2m短軸1.1mに対して、遺構の下端は長軸1.7m短軸1.3mを測る。西壁下部には小さな棚状の施設が認められ、設置方法は地山削り出しである。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺）がある。

#### 2SK0434 (Fig17・Pla.65) [N28]

調査区の中央附近にあり、2SK0800を切っている。長軸2.9m短軸1.8m深さ0.9mとやや大型で、主軸の方位はN-73°-Wである。この遺構は底面形状に特徴がある。東側・中央・西側の3つにわけて底面をさらに0.15mほど掘り下げている。それぞれの平面形状は崩れた方形または長方形で、東側0.8×0.8m、中央0.9×1.0m、西側0.5×1.0mを測る。それぞれの間と東端には掘りくぼみせずに残した棚が認められる。これらを利用して木材等で床貼りをしていた可能性が高い。また、中央と西側の間には東西0.4m南北0.2m深さ0.2m程の小穴が認められる。恐らくは一木削り出しの梯子を固定した痕跡とみて大過なからう。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・蓋・高坏）・粘土塊・サヌカイト（スクレイパー・コア・剥片）・黒曜石（鏃・剥片）・チャート剥片・片岩剥片・石がある。

#### 2SK0435 (Fig17・Pla.66・67) [N28]

調査区の中央附近にあり、2SK0454を切っている。長軸3.2m短軸1.8m深さ1.0mとやや大型で、主軸の方位はN-56°-Wである。中央部に径1.0m深さ0.5m程のくぼみがある。土層断面実測図を見ても、下層遺構等の可能性はなく、この土坑に附随する設備であろう。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・蓋・鉢）・凸帯文土器甕・土製紡錘車・面子・粘土塊・石製紡錘車未製品・石錘？・磨製石剣（製品・未製品）・サヌカイト剥片・黒曜石剥片・片岩剥片？・石がある。

#### 2SK0438 (Fig18・Pla.71) [M16]

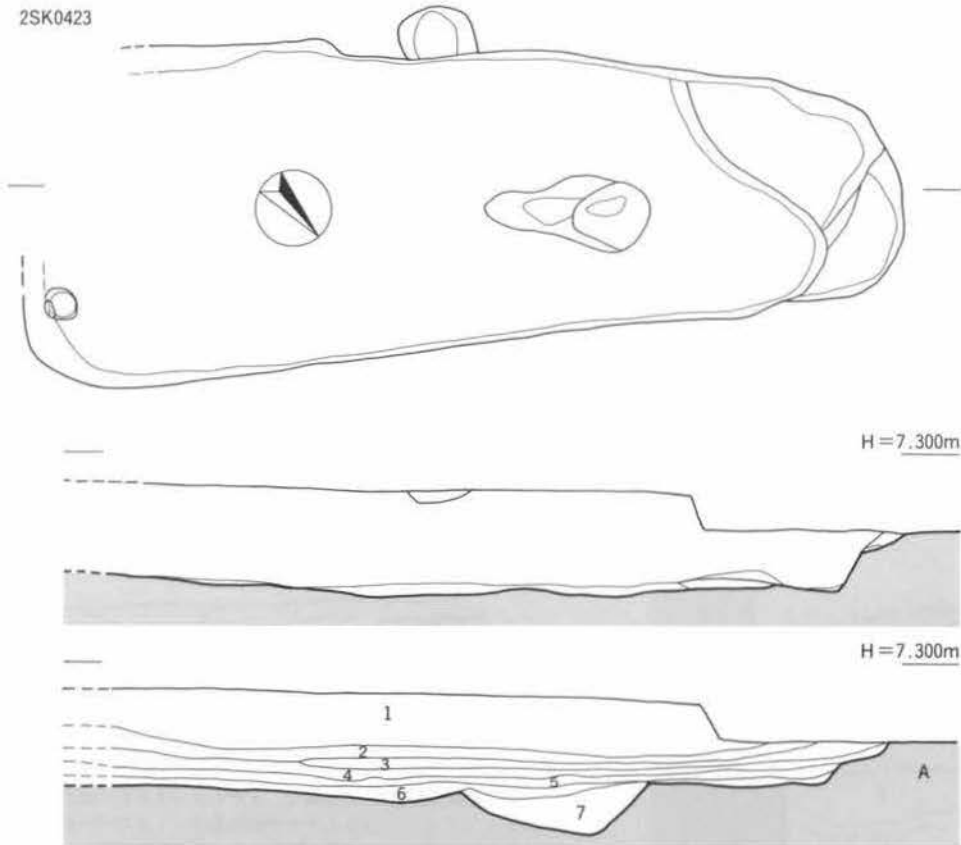
調査区の南寄りにあり、2SD0532と2SD0533に切られている。長軸3.1m短軸2.0m深さ0.5mとやや大型で、主軸の方位はN-11°-Eである。底面形状は平坦で、特別な設備や構造は持たない。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・蓋）・粘土塊？・サヌカイト（鏃・スクレイパー・剥片）黒曜石剥片がある。

#### 2SK0451 (Fig19・Pla.75) [L19]

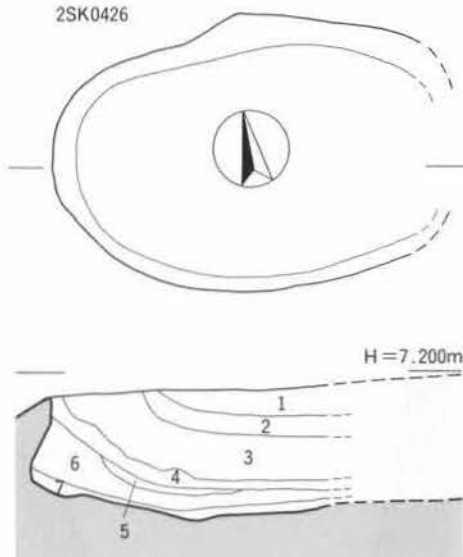
調査区の中央部東端にあり、2SK0530を切っている。長軸3.6m短軸1.4m深さ0.5mとやや大型で、主軸の方位はN-26°-Eである。完掘後の実測図を見ると2つの土坑が切り合っているようにみえる。検出時点では切り合いは認められず1つの土坑として報告するが、遺物に若干の時期幅が認められる。

2SK0423



- 1 淡黒茶色粘質土 (1mm~2mm 大の淡黄茶色の粒子を多く含む 1mm 大の白色粒子と 1mm から 3mm 大の黒色粒子〔炭化物〕を少し含む)
  - 2 淡黒茶色粘質土 (1mm~2mm 大の淡黄茶色の粒子を多く含む 1mm 大の 黒色粒子〔炭化物〕を少し含む、淡茶色土混入、1より淡い)
  - 3 淡茶黒色粘質土 (3mm 大の淡黄茶色の粒子を多く含む、4cm 大の黄茶色ブロックを少し含む)
  - 4 暗茶黒色粘質土 (1mm~1cm 大の淡黄茶色の粒子を多く含む、1mm~2cm 大の黒色粒子〔炭化物〕を少し含む)
  - 5 暗茶黒色粘質土 (粘性が強い、灰色味をおびている 淡黄茶色〔A:地山〕を含む) 淡黄茶色の粒子を少し含む、帯状に淡灰色土混入
  - 6 7 淡黄茶色粘質土 (〔A:地山〕より暗め)
- A: 淡茶色粘土

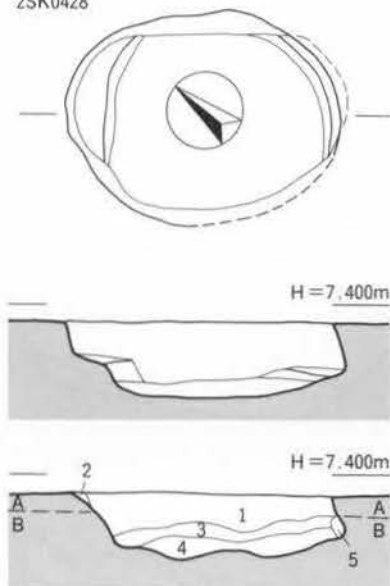
2SK0426



- 1 暗灰茶色砂質土 (やや粘性あり)
- 2 灰茶色粘砂土 (暗黄茶色粒子含む)
- 3 暗黒茶色粘質土 (東側、淡黒茶色砂質土)
- 4 黒茶色粘質土 (黄茶色粒子多含む)
- 5 暗黒茶色粘質土 (灰茶色粒子含む)
- 6 黒色粘質土 (20cm 大の黄茶色ブロック含む、粘性強い、地山ブロック)
- 7 黒茶色粘質土 (黄茶色土混入、粘性強い)



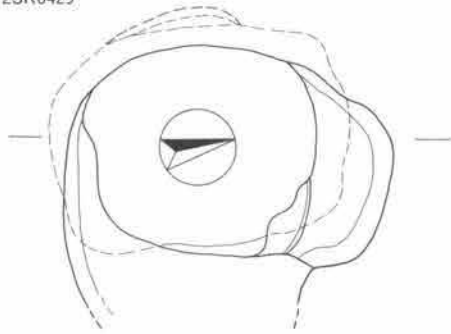
2SK0428



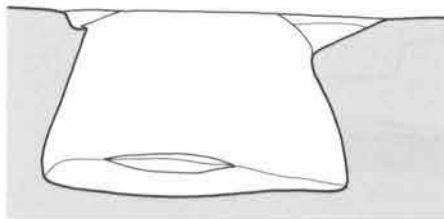
- 1 淡黒色粘質土
  - 2 暗茶色粘質土 (粘性が強い 1mm 大の 淡黄茶色の粒子を少し含む)
  - 3 淡黒色粘質土 (3よりやや粘性が弱い、1~2mm 大の 淡黄茶色の粒子を3より多く含む)
  - 4 淡黒色粘質土 (3よりやや粘性が弱い、1~2mm 大の 淡黄茶色の粒子を3より多く含む)
  - 5 淡茶黒色粘質土
- A: 淡茶色粘土  
B: 淡黄茶色粘土

Fig.15 2SK0423・2SK0426・2SK0428実測図 (1/40)

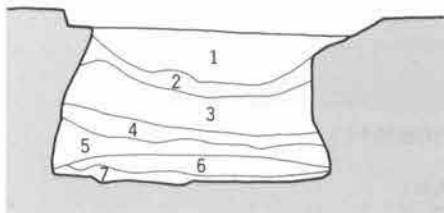
2SK0429



H=7.300m

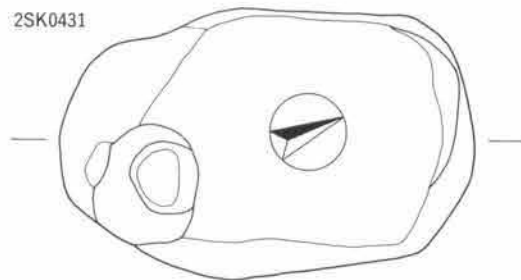


H=7.300m

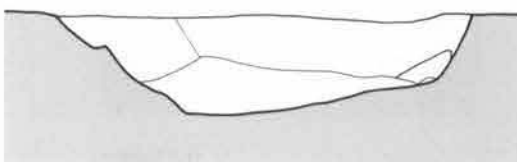


- 1 淡黒茶色砂質土(2~3cm大の灰茶色粒子含む)
- 2 // (灰茶色粒子多含む)
- 3 黒茶色粘質土(黄茶色粒子含む)
- 4 暗黒茶色粘質土( // )
- 5 // ( // )
- 6 黒茶色粘質土(灰茶色粒子含む、粘性強い)
- 7 黒色粘質土(地山ブロック、粘性強い)

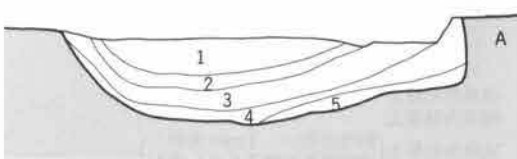
2SK0431



H=7.100m

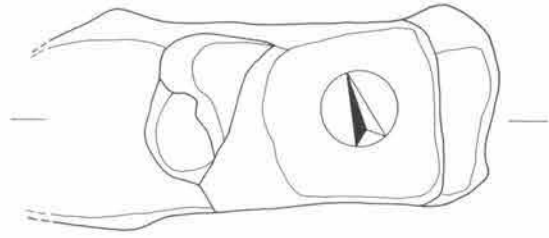


H=7.100m

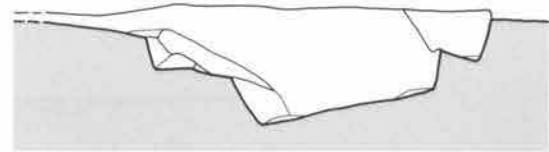


- 1 暗黒茶色粘質土(粘性やや弱い、茶色粒子多く含む)
- 2 // (1より粘性弱い、灰茶色粒子含む)
- 3 // (粘性2と同じ。暗茶、灰茶及び黒色粒子を多く含む)
- 4 暗黒茶色粘質土(1よりやや粘性あり、茶色粒子を含む)
- 5 // (1~4より暗く、4より粘性ややあり、灰茶色粒子含む)

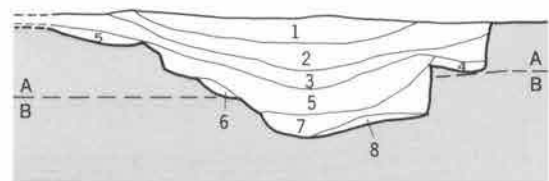
2SK0432



H=7.300m

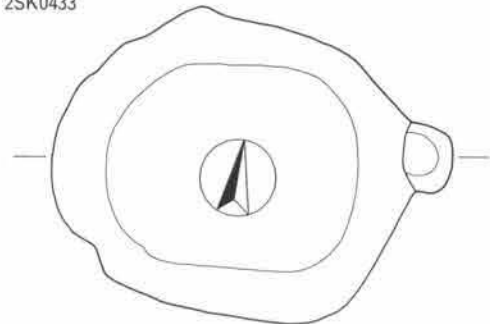


H=7.300m



- 1 黒茶色粘質土(粘性弱く、土がしまっかたい黒色赤茶色粒子を含む)
  - 2 // (1よりやや粘性あり、1よりやや色が暗い)
  - 3 // (2より粘性あり、灰茶色粒子含む)
  - 4 // (粘性3と同じ、地山A混入)
  - 5 黒茶色粘質土(粘性3と同じ、灰茶色粒子含む)
  - 6 黒茶色粘質土(3より粘性強い、黒色土混入)
  - 7 暗黒茶色粘質土(粘性6と同じ暗茶色粒子含む)
  - 8 // (粘性6と同じ、灰茶色粒子含む)
- A: 暗茶色粘質土  
B: 暗黄茶色粘質土

2SK0433



H=7.400m

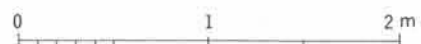
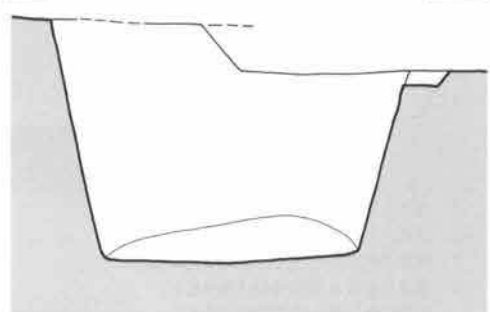
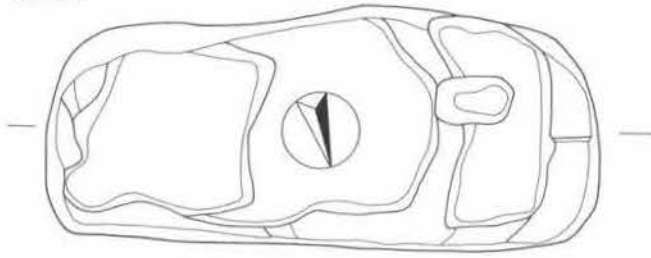
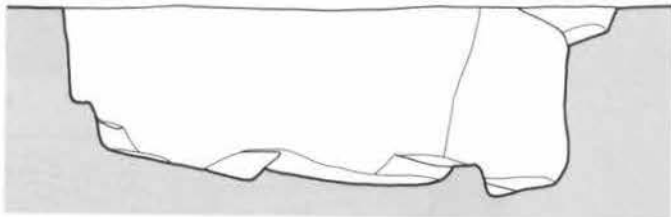


Fig.16 2SK0429・2SK0431・2SK0432・2SK0433実測図(1/40)

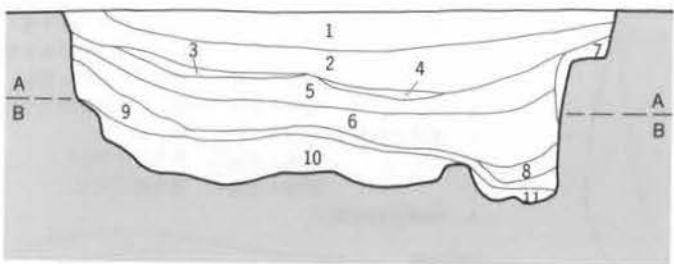
2SK0434



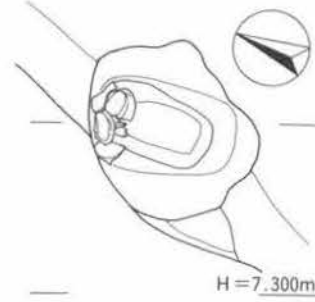
H = 7.600m



H = 7.600m



2SK0436

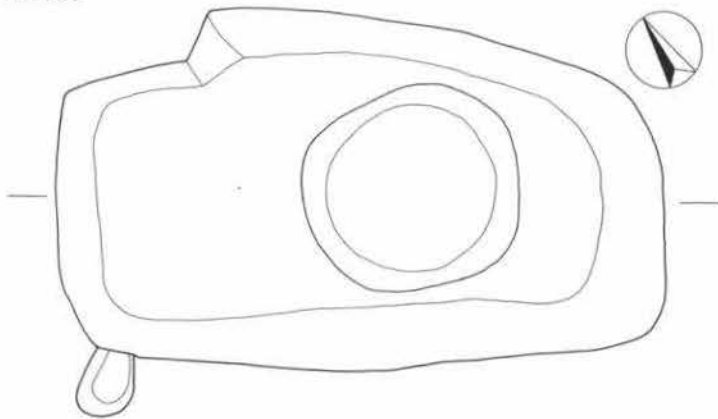


H = 7.300m

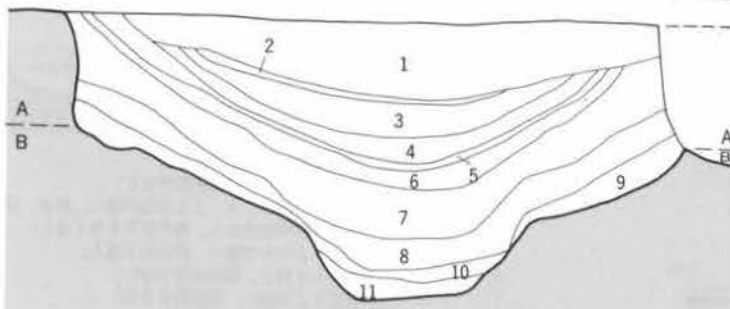


- 1 淡黒茶色粘質土 (1mm~1mm大の黒色粒子 [炭化物] を少し含む、1mm大の白色粒子を多く含む)
  - 2 淡黒茶色粘質土 (1よりやや暗め、1mm~1mm大の黒色粒子 [炭化物] を少し含む。1mm大の白色粒子を少し含む)
  - 3 暗黒茶色粘質土 (1mm大の黒色粒子 [炭化物] を少し含む。また1mm大の黒色粒子 [炭化物] を多く含む。3cm大の茶黄色土を含む)
  - 4 暗黒茶色粘質土 (3と同じか?)
  - 5 淡黒茶色粘質土 (3mm~2mm大の黒色粒子 [炭化物] を少し含む)
  - 6 淡黒茶色粘質土 (5よりやや粘性が強い。粘土に近い)
  - 7 淡茶色粘質土 (地山Aよりやや茶色が強い。粘土に近い)
  - 8 淡黒茶色粘質土 (暗茶色土を含む)
  - 9 暗黒茶色粘質土 (炭化により黒色粒子を帯状に含む。1mm大の黒色粒子 [炭化物] を多く含む)
  - 10 暗黒茶色粘質土 (1mm~2mm大の淡黄色粒子と1mm~1mm大の黒色粒子 [炭化物] を多く含む)
  - 11 暗黒粘質土 (黄色粒子を少し含む)
- A : 暗黒色粘土  
B : 明茶色粘土 (砂質を含む)

2SK0435



H = 7.400m

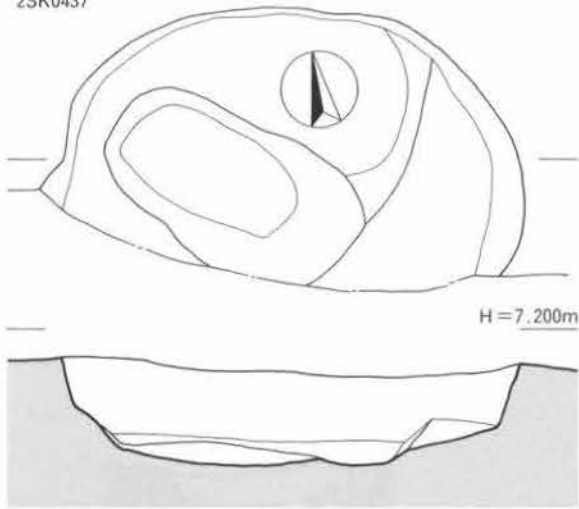


- 1 淡黒茶色粘質土 (粘性弱い。黒色、暗茶色、赤茶色粒子含む)
  - 2 // (粘性1と同じ。黄茶色土混入)
  - 3 // (粘性1と同じ。1、2に比べ色が暗い)
  - 4 // (1よりやや粘性あり。黒色粒子含む)
  - 5 // (粘性1と//。黄茶色粒子を多く含む)
  - 6 暗黒茶色粘質土 (粘性4よりややあり。茶色粒子を含む)
  - 7 黒茶色粘質土 (6より粘性強い。黒色、黄茶色粒子含む)
  - 8 // (7と粘性同じ。茶色粒子含む)
  - 9 // (6と粘性同じ。黒色粒子含む)
  - 10 // (7と粘性同じ。灰白色粒子含む)
  - 11 暗黒茶色粘質土 (6よりやや粘性あり。茶色粒子含む)
- A : 暗黄茶色土  
B : 暗灰茶色土 (砂粒子含む)

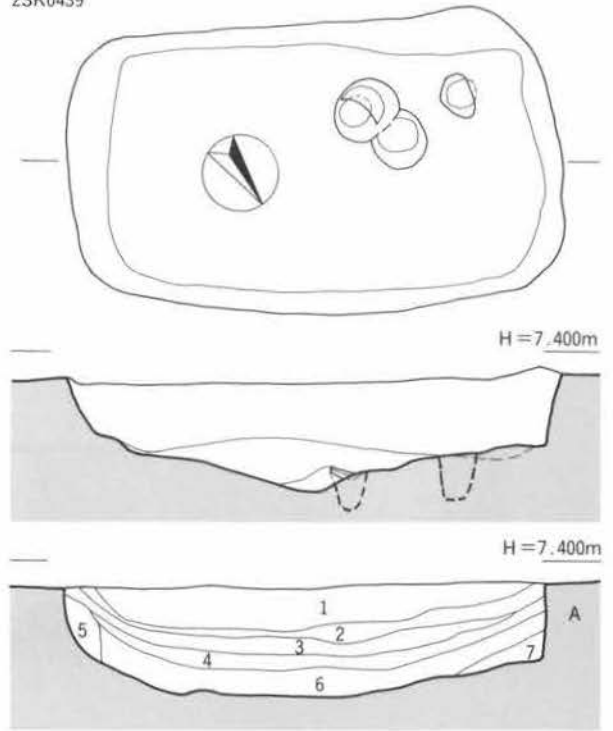
Fig.17 2SK0434・2SK0435・2SK0436実測図 (1/40)



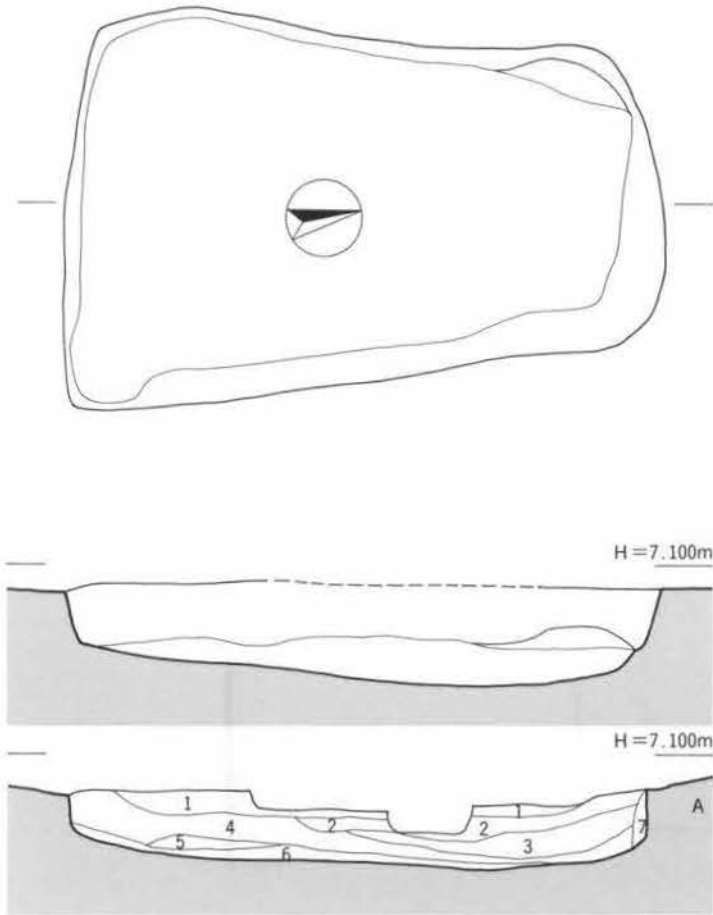
2SK0437



2SK0439

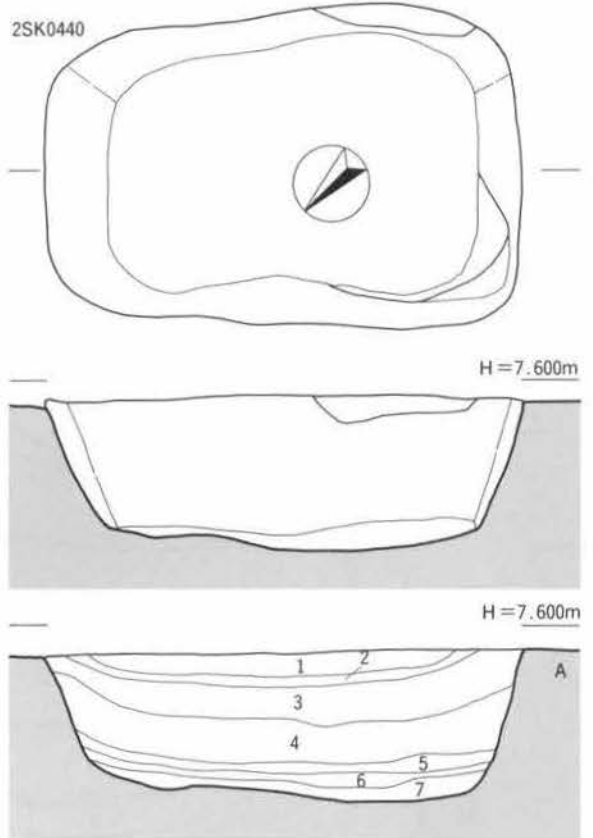


2SK0438



- 1 黒茶色粘質土(粘性弱い。黒色粒子及び灰色粒子含む)
  - 2 // (1よりやや粘性あり、暗茶色粒子多く含む)
  - 3 // (粘性2と同じ、茶色粒子を少し含む)
  - 4 // (粘性2よりやや強い、暗茶色粒子を多く含む)
  - 5 黒茶色粘質土(粘性2と同じ、地山混入)
  - 6 // (粘性4と同じ、黒色粒子含む)
  - 7 // (粘性4と同じ、茶色粒子含む)
- A: 暗黄茶色粘質土

2SK0440



- 1 暗黒茶色粘質土(粘性弱い、暗茶色粒子含む)
  - 2 // (1と粘性同じ、黄茶色粒子含む)
  - 3 // (1と粘性同じ、暗茶、黒茶、及び黒色粒子を含む)
  - 4 // (1よりやや粘性あり。暗茶色粒子を多く含む)
  - 5 暗茶色粘質土(粘性4と同じ、黒色粒子を含む)
  - 6 // (粘性4と同じ、暗茶色粒子を含む)
  - 7 暗黒茶色粘質土(粘性1と同じ、黒色、暗茶色粒子を含む)
- A: 暗黄茶色粘質土

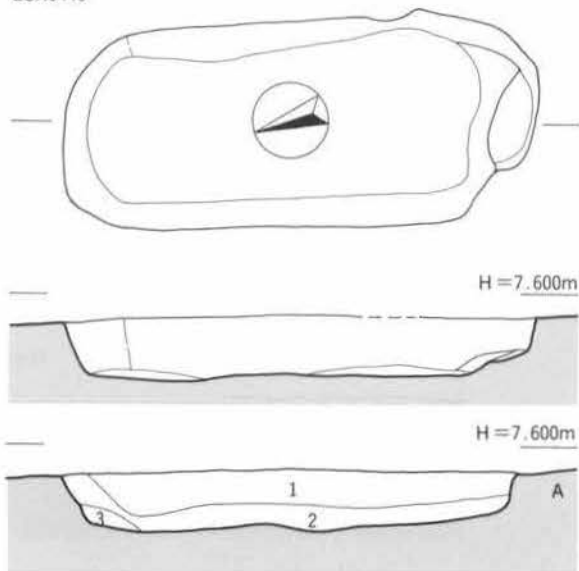
- 1 黒茶色粘質土(粘性弱く、黒色粒子含む)
  - 2 // (粘性1と同じ、暗茶色粒子含む)
  - 3 // (粘性1と同じ、1、2より色が暗い。黒色、灰茶色粒子を含む)
  - 4 // (1よりやや粘性あり。黒色粒子を多く含む)
  - 5 黒茶色粘質土(粘性4よりやや強い、灰白色土混入)
  - 6 // (粘性5と同じ、暗茶色粒子含む)
  - 7 // (粘性5より強い、茶色粒子含む)
- A: 暗茶色粘質土



Fig.17 2SK0437・2SK0438・2SK0439・2SK0440実測図 (1/40)



2SK0446

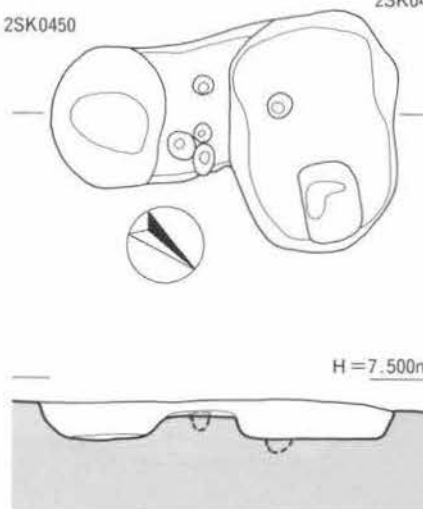


H = 7.600m

H = 7.600m

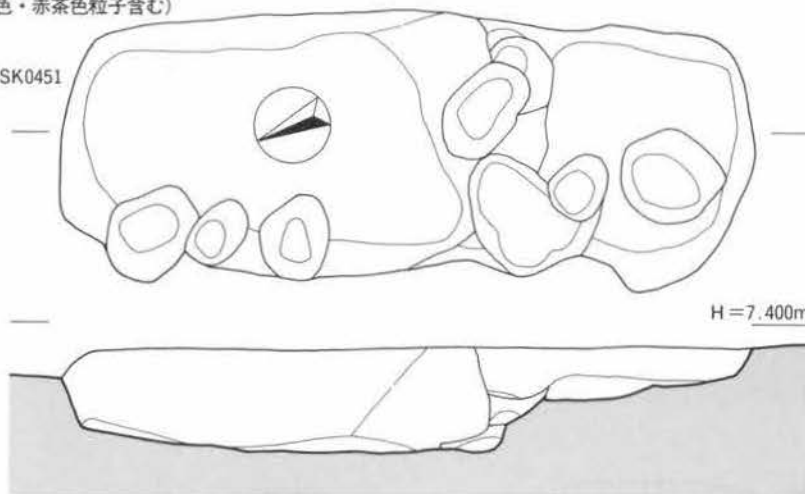
- 1 黒茶色粘質土(粘性弱い、黒茶色、灰茶色粒子を含む)  
 2 // (1よりやや粘性あり、灰茶色粒子含む)  
 3 暗茶色粘質土(粘性2と同じ、黒色・赤茶色粒子含む)  
 A: 暗黄茶色粘質土

2SK0450



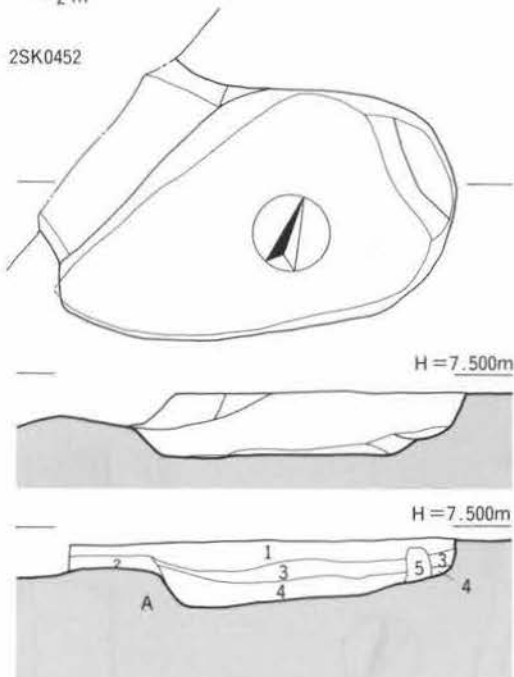
H = 7.500m

2SK0451



H = 7.400m

2SK0452

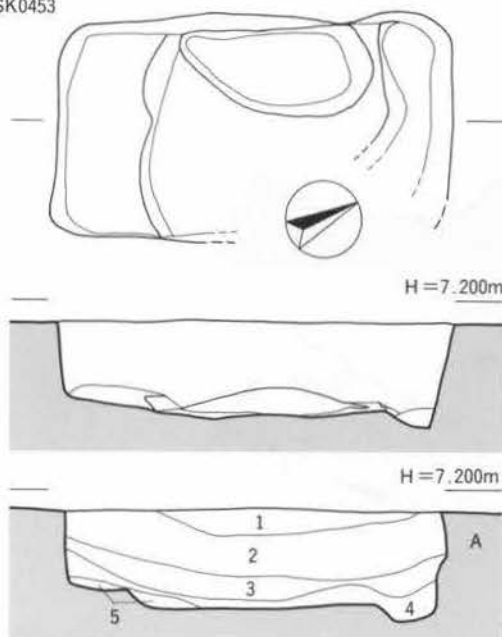


H = 7.500m

H = 7.500m

- 1 黒茶色粘質土(粘性弱い、茶色及び黒色粒子含む)  
 2 淡黒茶色粘質土(1より粘性強い)  
 3 黒茶色粘質土(1と粘性同じ、茶色粒子多く含む)  
 4 淡黒茶色粘質土(粘性2と同じ、茶色粒子含む)  
 5 暗茶色粘質土(2よりやや粘性あり)  
 A: 暗茶色粘質土

2SK0453



H = 7.200m

H = 7.200m

- 1 暗黒茶色粘質土(粘性弱く暗茶色粒子含む)  
 2 // (粘性1と同じで色は1より暗い、灰茶色粒子多く含む)  
 3 // (1よりやや粘性あり、暗茶色粒子含む)  
 4 // (1~3より色が黒く、粘性強い、暗茶色粒子含む)  
 5 暗茶色粘質土(粘性1と同じ、黒色粒子含む)  
 A: 暗黄茶色粘質土

Fig.19 2SK0446・2SK0449・2SK0451・2SK0452・2SK0453実測図(1/40)

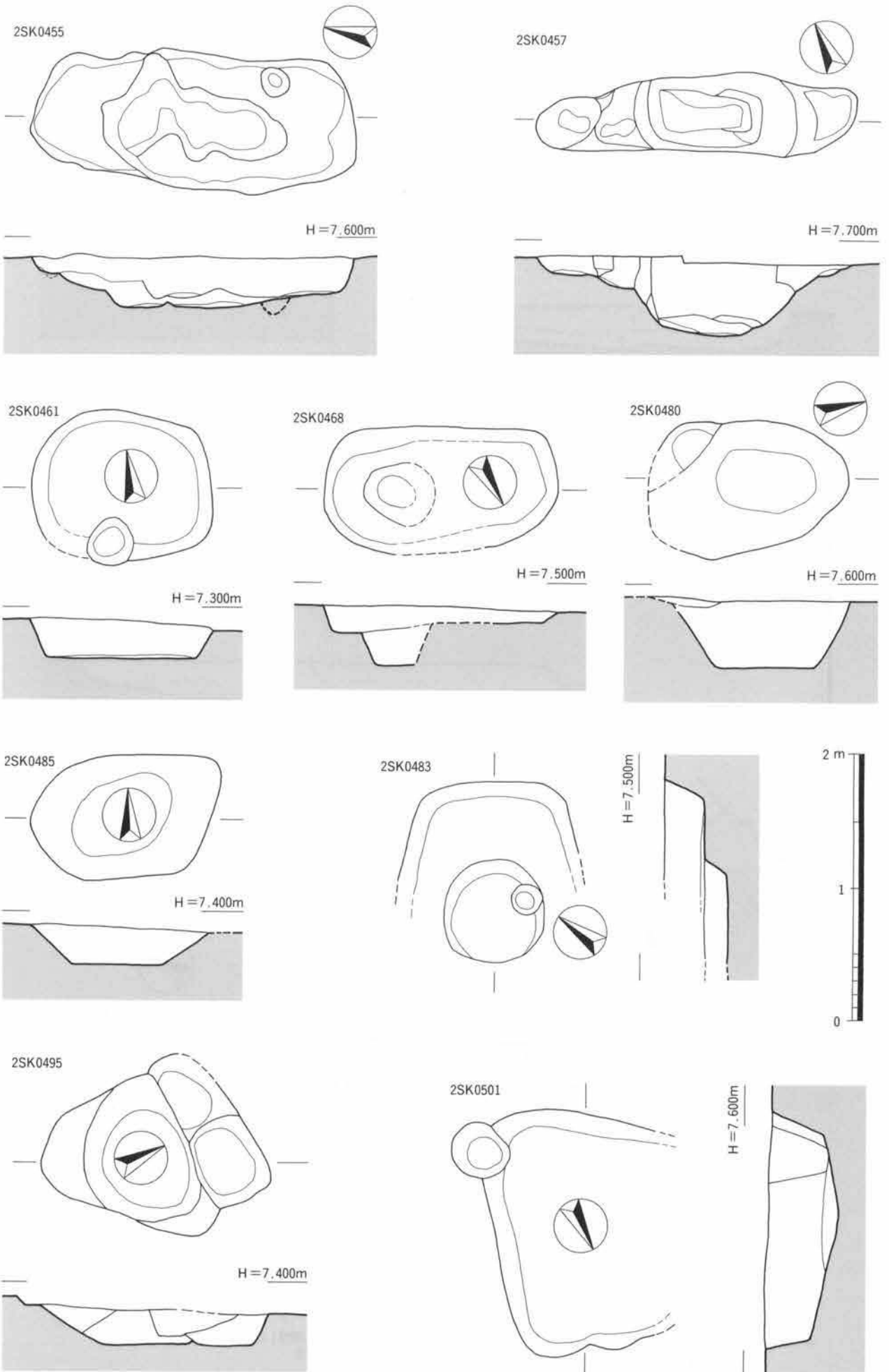
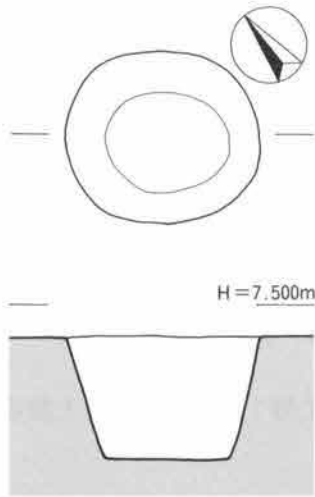


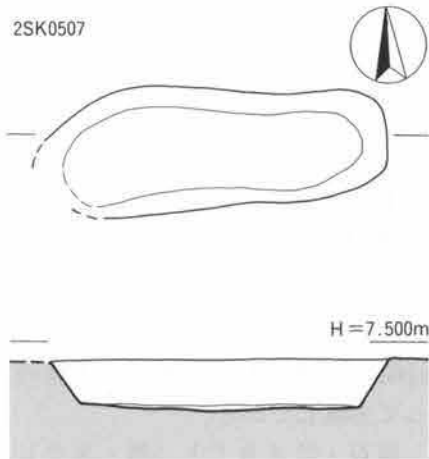
Fig.20 2SK0455・2SK0457・2SK0461・2SK0468・2SK0480・2SK0483  
2SK0485・2SK0495・2SK0501実測図(1/40)

2SK0506



H = 7.500m

2SK0507

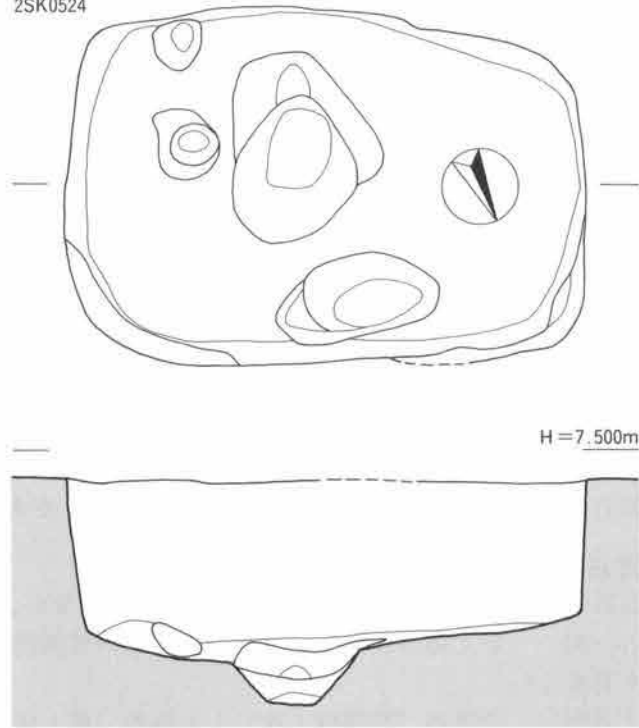


H = 7.500m

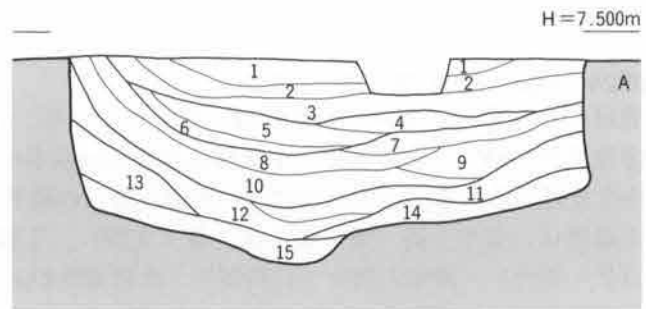


- 1 黒茶色粘質土(粘性やや弱い。暗茶色及び黒色粒子を含む)
- 2 // (1よりやや粘性あり。黒色及び灰色粒子含む)
- 3 暗黒茶色粘質土(1・2より粘性強い)
- 4 黒茶色粘質土(粘性3と同じで1、2より色が暗い。黒色及び灰色粒子含む)
- 5 黒茶色粘質土(3よりやや粘性弱い。黒色及び暗茶色粒子を含む)
- 6 // (粘性5と同じ、茶色粒子含む)
- 7 暗黒茶色粘質土(粘性5と同じ、灰色粒子含む)
- A: 暗茶色粘質土

2SK0524



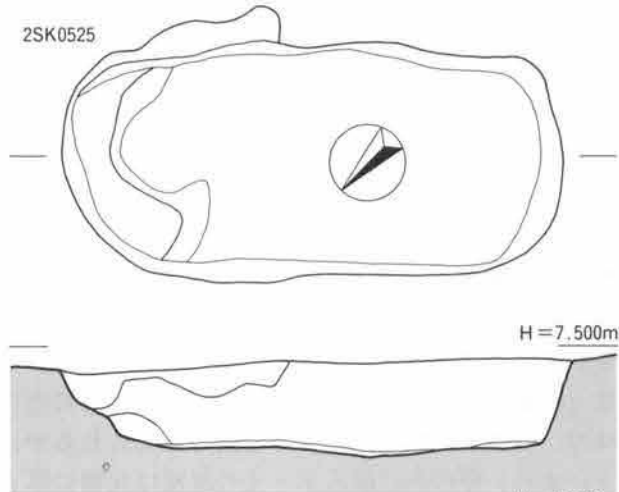
H = 7.500m



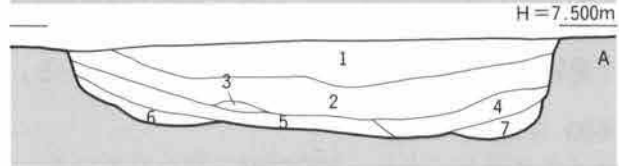
H = 7.500m

- I-1 黒茶色粘質土(粘性弱い。淡茶色粒子含む)
- 2 // (粘性1と同じで、色がやや暗い)
- 3 // (粘性1と同じ、灰色粒子含む)
- II-4 // (1と粘性同じ、茶色粒子含む)
- 5 // (1より粘性あり、茶色粒子多く含む)
- 6 暗黒茶色粘質土(粘性5と同じ、赤茶色及び灰色粒子含む)
- III-7 黒茶色粘質土(粘性5と同じ、暗茶色粒子を含む)
- 8 // (粘性5と同じ、暗茶色粒子多く含む)
- 9 黒茶色粘質土(5より粘性あり、暗茶色粒子含む)
- 10 暗黒茶色粘質土(9と粘性同じ、暗茶色粒子含む)
- IV-11 // (9よりやや粘性あり。黒色粒子含む)
- 12 // (11より粘性強い、黒色粒子含む)
- V-13 // (粘性11と同じで色が暗い)
- 14 // (11と粘性同じ、灰白色土混入)
- VI-15 // (粘性12より強い、灰白色土混入)
- A: 暗茶色粘質土

2SK0525



H = 7.500m



H = 7.500m

Fig.21 2SK0506・2SK0507・2SK0524・2SK0525実測図 (1/40)

そのため、検出時に誤認した可能性は排除できない。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・器台・高坏）・黒色磨研土器壺・石製有孔円盤未製品？・石包丁（1つは立岩産？）・サヌカイト（鏃・ドリル・スクレイパー・コア・剥片）・黒曜石（鏃・剥片）・石英剥片・軽石・石がある。

#### 2SK0453 (Fig19) [T13]

調査区の南寄りにあり、2SK0396に切られている。長軸2.1m短軸1.2m深さ0.5mを測り、主軸の方位はN-27°-Eである。底面の中央に南北1.3m東西1.1m深さ0.1mの掘り窪めが認められる。この部分に木材等で床貼りをしてきた可能性が高い。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・鉢・蓋・不明品）・擬朝鮮系無文土器？甕・黒色磨研土器壺・紡錘車・砥石・サヌカイト（スクレイパー・コア・剥片）がある。

#### 2SK0506 (Fig21) [O18]

調査区の南寄りにあり、他の遺構との切り合いはない。長軸1.0m短軸0.9m深さ0.7mを測り、主軸の方位はN-52°-Wである。検出時は小型の井戸の可能性も考えたが、底面は透水層まで達しておらず、土坑と判断した。

出土遺物は、須恵器（長頸壺・片）・土師器（皿・坏）・黒色土器（B碗・A碗）・弥生土器（甕・片）・サヌカイト（鏃・剥片）・黒曜石剥片がある。

#### 2SK0524 (Fig21・Pla.78・79) [O22]

調査区の中央附近にあり、2SD0702に切られている。長軸2.7m短軸1.9m深さ0.9mとやや大型で、主軸の方位はN-65°-Wである。中央部には径0.7m深さ0.3mの凹みがあるほか、北辺中央附近と南辺東側に小穴が認められる。この小穴は、一木削り出しの梯子の痕跡かも知れない。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・鉢・蓋・支脚）・土製紡錘車・面子・サヌカイト（鏃・スクレイパー・コア・剥片）・黒曜石剥片・石英剥片・片岩剥片がある。

#### 2SK0525 (Fig21・Pla.78) [L29]

調査区の中央附近にあり、2SK2094を切っている。長軸2.6m短軸1.2m深さ0.5mを測り、主軸の方位はN-45°-Eである。東辺には棚状の設備を地山削り出しによって形成している。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・鉢）・投弾・面子・粘土塊・砥石・サヌカイト（鏃・スクレイパー・剥片）・黒曜石剥片・石英剥片・片岩剥片・すり石・石がある。

#### 2SK0541 (Fig19・Pla.50) [N20]

調査区の中央附近にあり、2SK0502を切り、2SD0702に切られている。長軸3.1m短軸1.6m深さ0.7mとやや大型で、主軸の方位はN-65°-Wである。北辺の一部は、下端の方が上端よりも広がっていて袋状土坑の痕跡かと思われるが、他の部分を見る限り全体的には通常の長方形の土坑のようである。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・？）・投弾・面子・石包丁・サヌカイト（鏃・スクレイパー・コア・剥片）・黒曜石釣針がある。

#### 2SK0552 (Fig23) [P26]

調査区やや北寄りにあり、2SK2016を切り、2SK0422に切られている。長軸4.7m短軸1.4m深さ1.4mと大型で、主軸の方位はN-32°-Eである。底面は北から南へ緩やかに傾斜しており、北端部は幅0.9mで一段下がっている。

土層断面図を観察すると、いくつかの大きなまとまりに括ることができる。大分類のⅦ層は地山の土で土坑（貯蔵穴）使用時人為的に埋められていた可能性がある。それ以外は、廃棄土坑として使用していた時の、廃棄や自然埋没による堆積と考えられるが、Ⅲ層は北側からの集中した廃棄した際の堆積であろう。またⅢ層のみに限らず、土の堆積は北側に厚く偏っている。このことから、廃棄は主に北側から行われたとみることができる。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・蓋）・投弾がある。

#### 2SK0599 (Fig26) [M25]

調査区の北寄りにあり、2SD0528に切られている。長軸2.3m短軸2.2m深さ0.6mを測り、主軸の方位

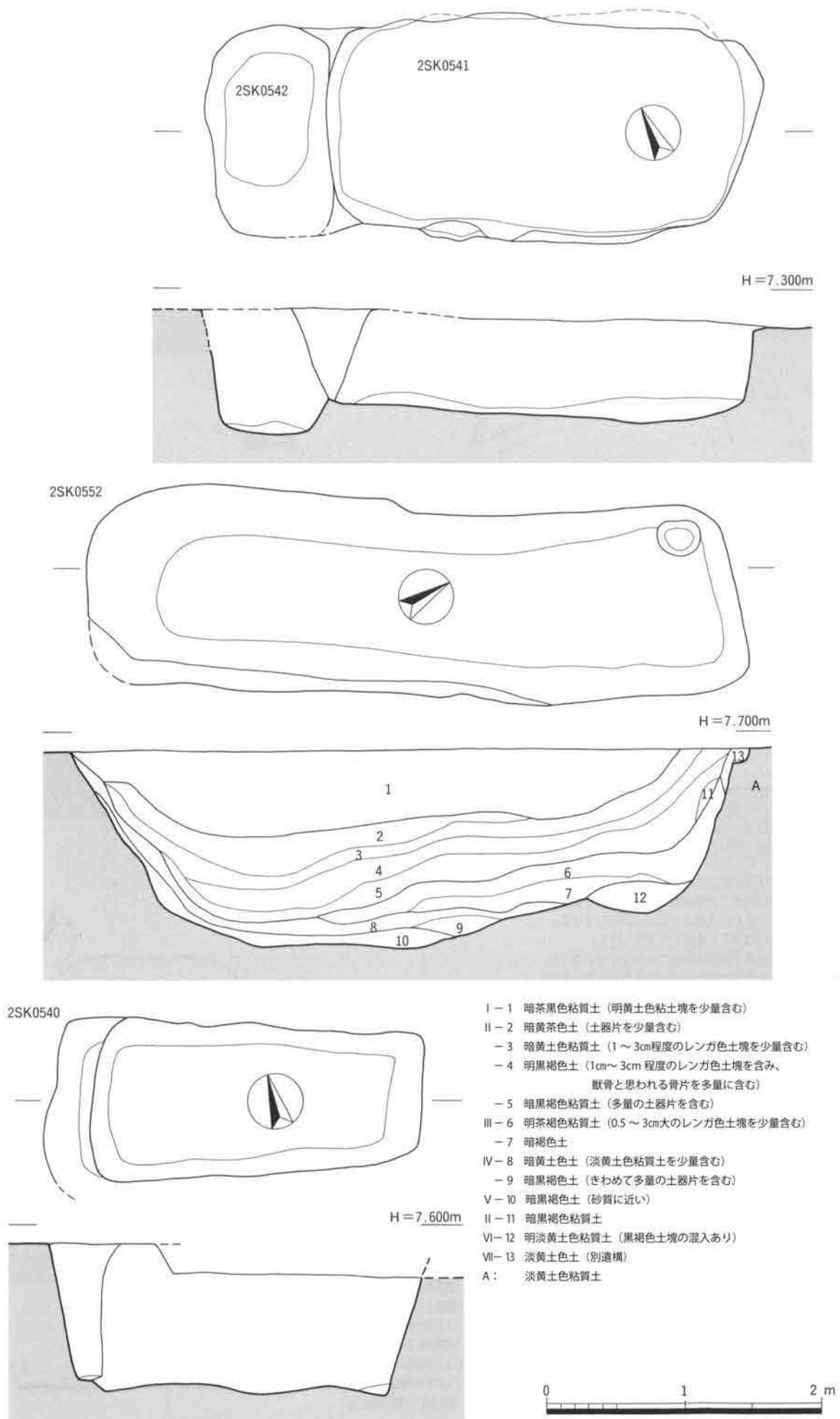


Fig.22 2SK0541・2SK0542・2SK0552・2SK0540実測図 (1/40)

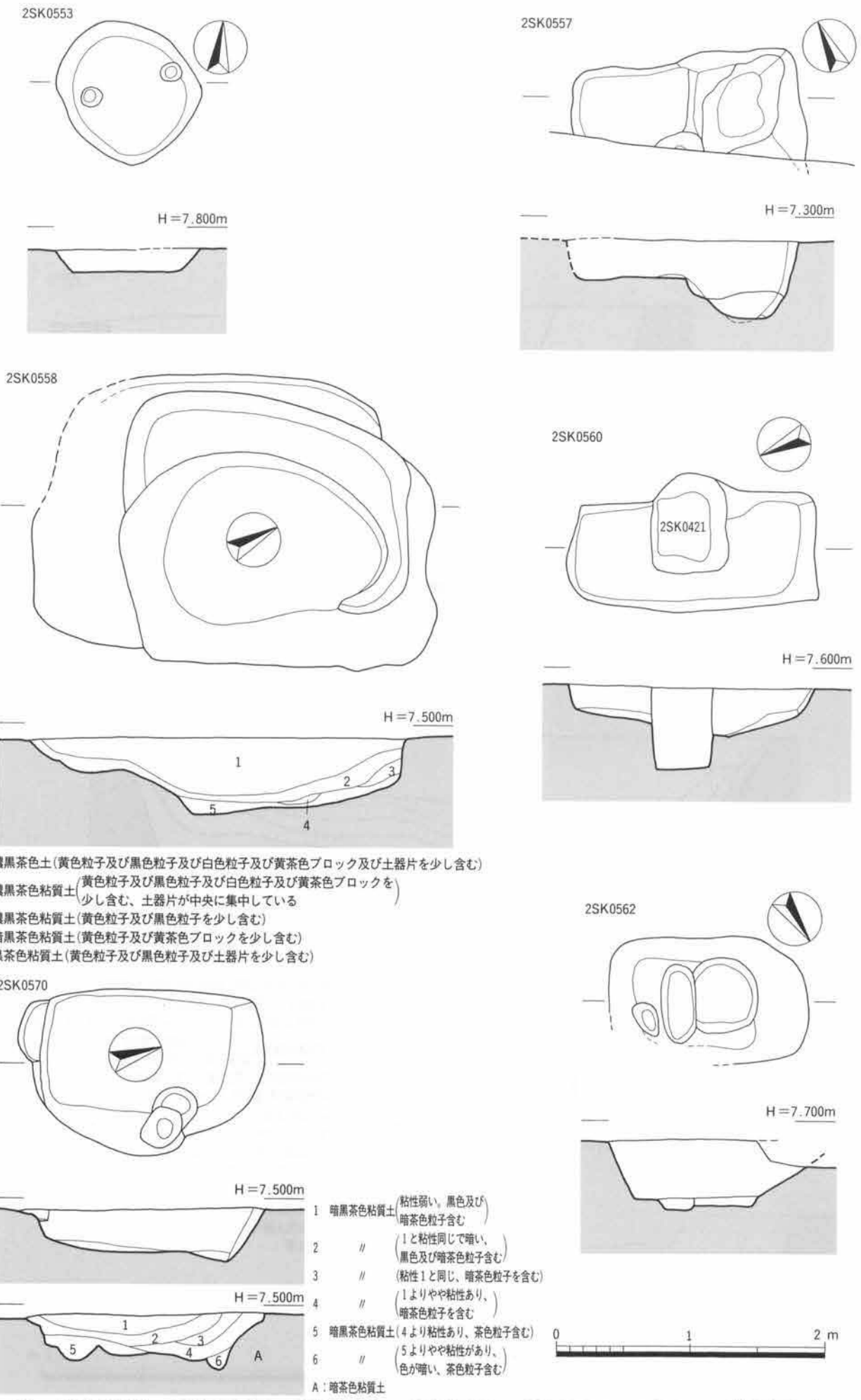
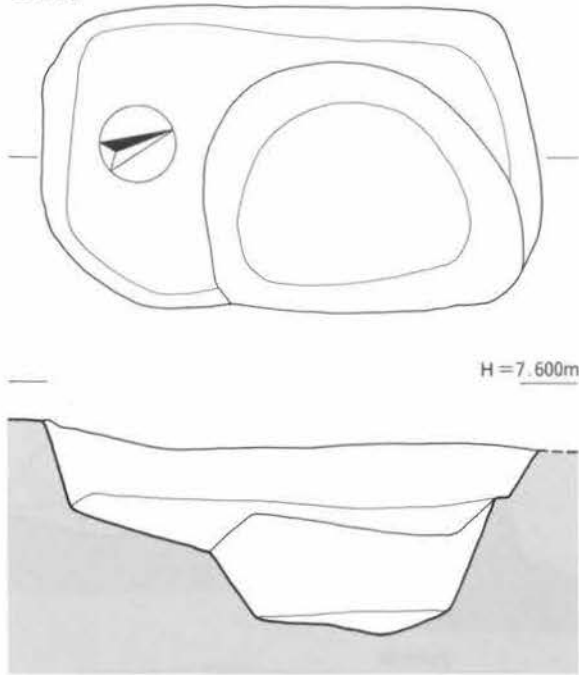
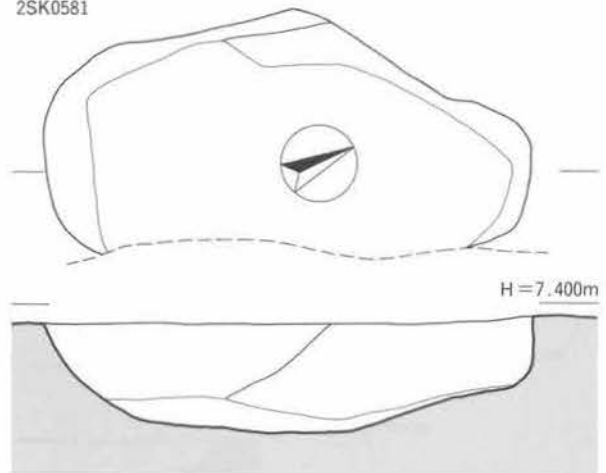


Fig.23 2SK0553・2SK0557・2SK0558・2SK0560・2SK0562・2SK0570実測図(1/40)

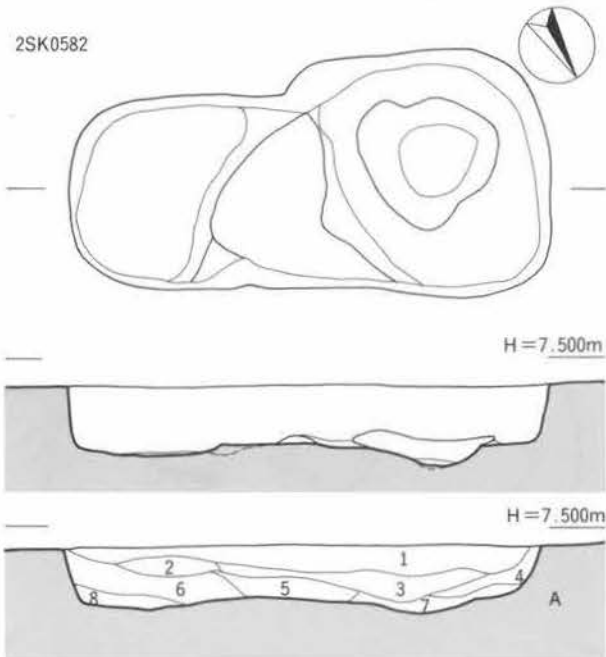
2SK0580



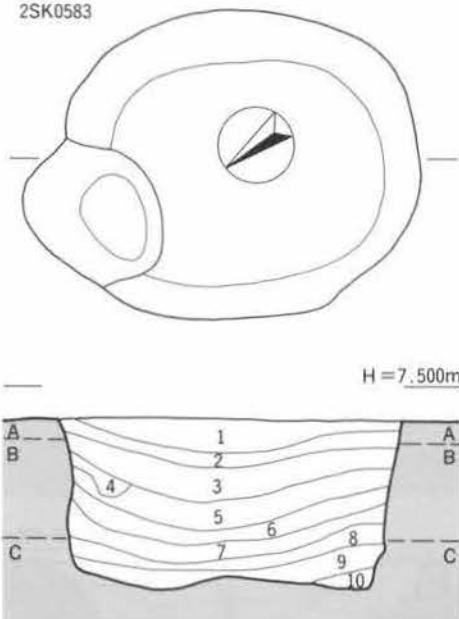
2SK0581



2SK0582

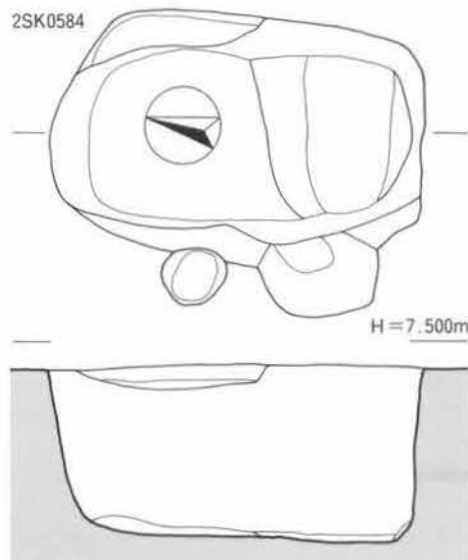


2SK0583



- 1 黒茶色粘質土(粘性強い黒色粒子及び暗茶色粒子含む)
  - 2 // (1よりやや粘性弱い、黒色及び暗茶色粒子を含む)
  - 3 // (1と粘性同じ、黒色及び茶色粒子を少し含む)
  - 4 // (1よりやや粘性あり、茶色粒子含む)
  - 5 黒茶色粘質土(粘性2と同じ、茶色粒子を含む)
  - 6 暗黒茶色粘質土(4より粘性強い、暗茶色粒子含む)
  - 7 黒茶色粘質土(4と粘性同じ、暗茶色粒子多く含む)
  - 8 // (6より粘性強い、黒色粒子含む)
- A: 暗茶色粘質土

2SK0584

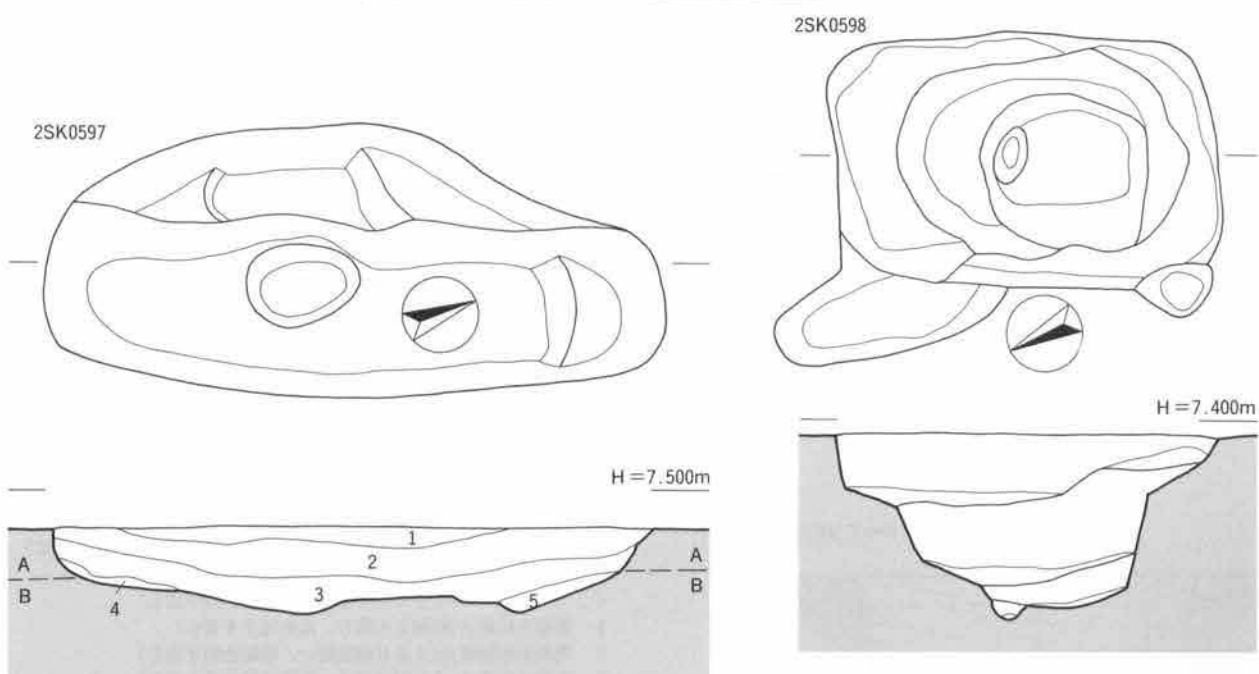
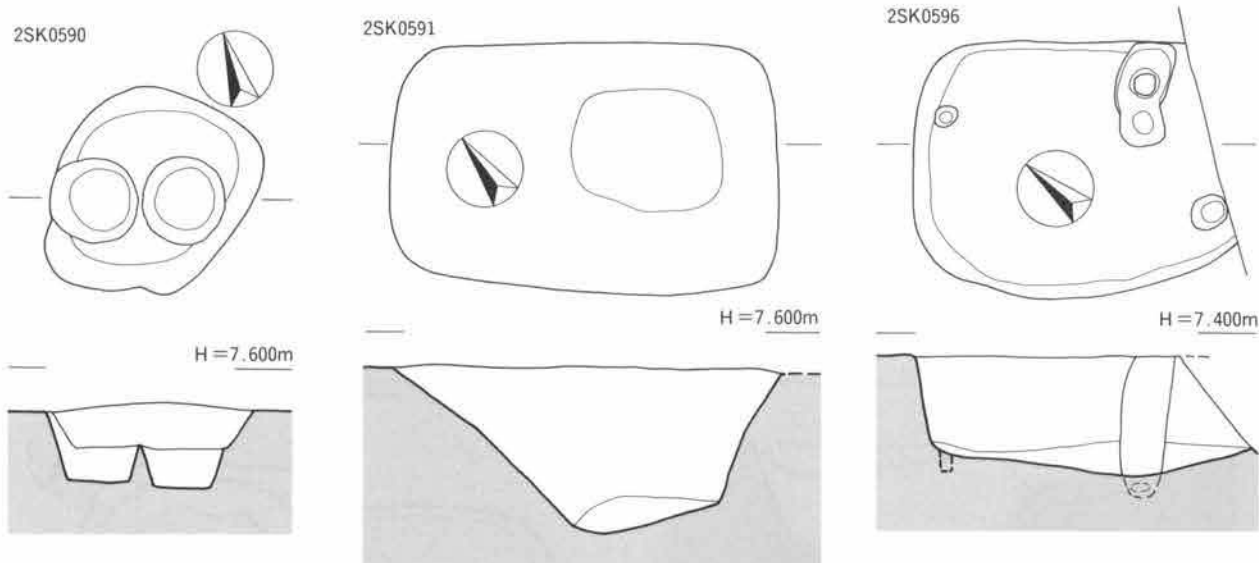


- 1 暗黒茶色土(白色粒子を多く含んでいる、灰茶色ブロック及び土器片及び黄色粒子を含む)
  - 2 淡黒茶色土(白色粒子を多く含む、黄色粒子及び黒色粒子及び灰茶色ブロックを少し含む)
  - 3 灰黒茶色土(黄色粒子及び白色粒子及び黒色粒子及び灰茶色ブロックを少し含む)
  - 4 灰黒茶色粘質土(黄色粒子及び白色粒子及び黒色粒子及び灰茶色ブロックを少し含む)
  - 5 濃黒茶色粘質土(黄色粒子及び黒色粒子及び灰茶色ブロック及び土器片を少し含む)
  - 6 暗黒茶色粘質土(黒色粒子及び黄色粒子及び灰茶色ブロック及び土器片を少し含む、粘質が強い)
  - 7 暗黒色粘質土(黄色粒子及び黒色粒子及び灰茶色ブロック及び土器片を少し含む、粘質が強い)
  - 8 暗黒茶色粘質土(黄色粒子及び黒色粒子及び灰茶色ブロックを少し含む)
  - 9 暗黒茶色粘質土(黄色粒子及び黒色粒子及び灰茶色ブロックを少し含む、黒茶色ブロックを多く含む)
  - 10 暗黒色粘質土(黄色ブロックを多く含む)
- A: 淡黒茶色土  
B: 黄茶色粘質土  
C: 暗黄茶色砂質土



Fig.24 2SK0580・2SK0581・2SK0582・2SK0583・2SK0584実測図 (1/40)





- 1 暗黒茶色土 (黄色粒子を多く含む、白色粒子及び黒色粒子及び灰茶色ブロックを少し含む、粘質が少しある)
  - 2 暗黒色粘質土 (黄色粒子を多く含む、白色粒子及び黒色粒子及び灰茶色ブロック及び土器片を少し含む)
  - 3 暗黒色粘質土 (黄色粒子を多く含む、白色粒子及び黄茶色ブロック及び灰茶色ブロック及び地山粒子及び6 cm 大の意思を少し含む、粘質が強い)
  - 4 暗黄茶色粘質土 (黒色粒子を少し含む)
  - 5 暗黒茶色粘質土 (黄色粒子を少し含む、地山粒子を多く含む)
- A : 淡茶色粘質土  
B : 黄茶色粘質土



- 
- 1 濃黒茶色土 (黄色粒子及び黒色粒子及び灰茶色ブロック)を少し含む、粘性が少しある
  - 2 濃黒茶色粘質土 (黄色粒子及び黒色粒子及び灰茶色ブロックを少し含む)
  - 3 濃黒茶色粘質土 (黄色粒子を少し含む、黄色ブロックを多く含む)
  - 4 暗黒茶色粘質土 (黄色粒子及び黒色粒子及び灰茶色ブロック)及び土器片を少し含む
  - 5 暗黒色粘質土 (黒色粒子及び灰茶色ブロックを少し含む、粘質が強い)
  - 6 暗褐色粘質土 (黄色粒子及び黒色粒子及び黄色ブロック及び暗灰茶色ブロックを少し含む、土器片を多く含む)
  - 7 暗黒色粘質土 (黄色粒子及び黒色粒子及び黄色ブロック及び暗灰茶色ブロックを少し含む、土器片を多く含む)
  - 8 暗黒色粘質土 (黄色粒子を少し含む、粘質が強い)
- A : 淡茶色土  
B : 黄茶色砂質土

Fig.24 2SK0590・2SK0591・2SK0596・2SK0597・2SK0598実測図 (1/40)



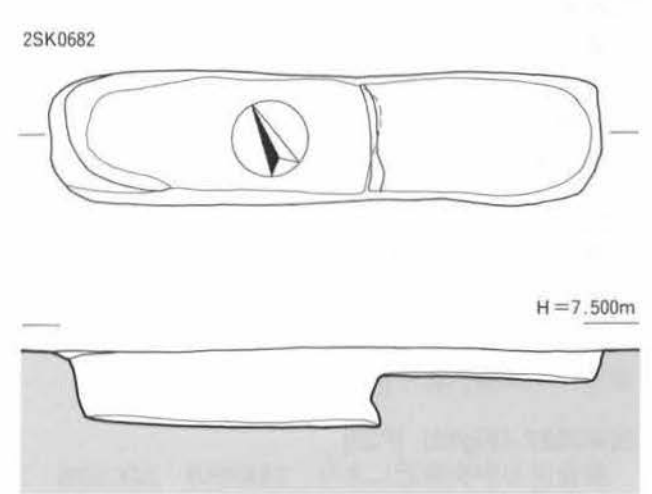
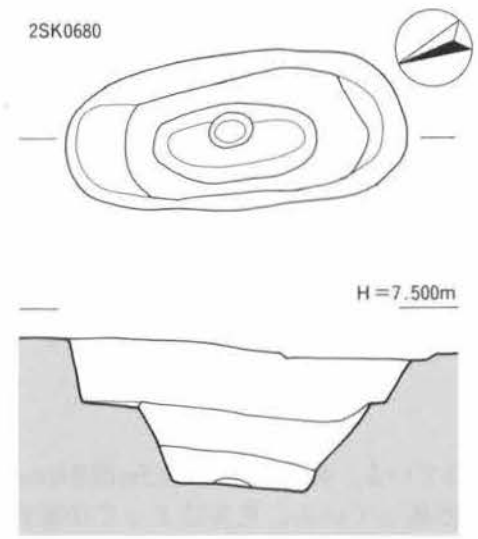
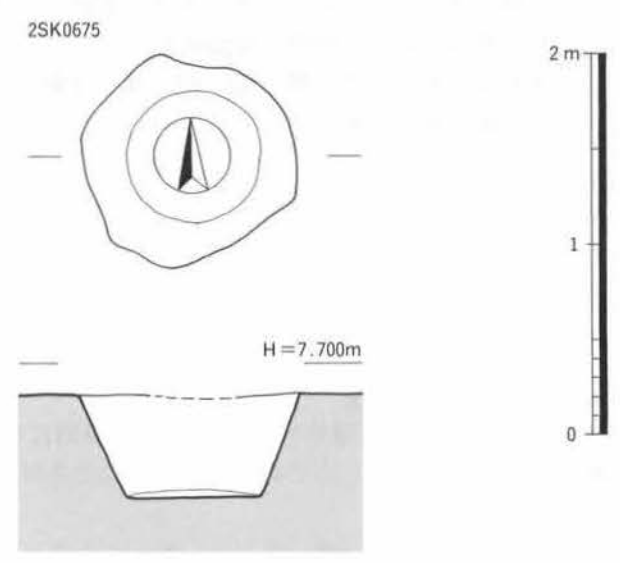
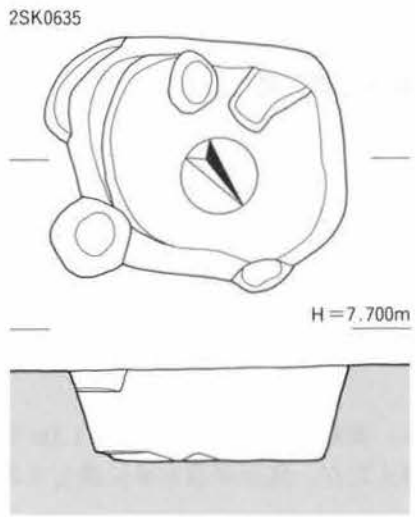
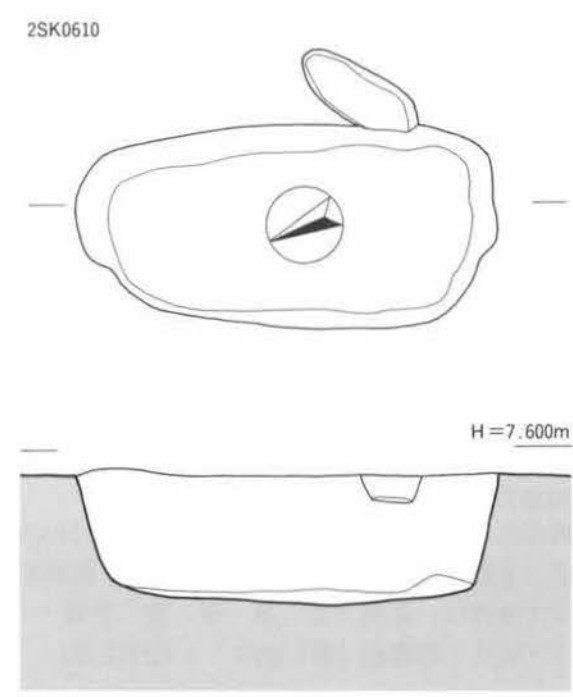
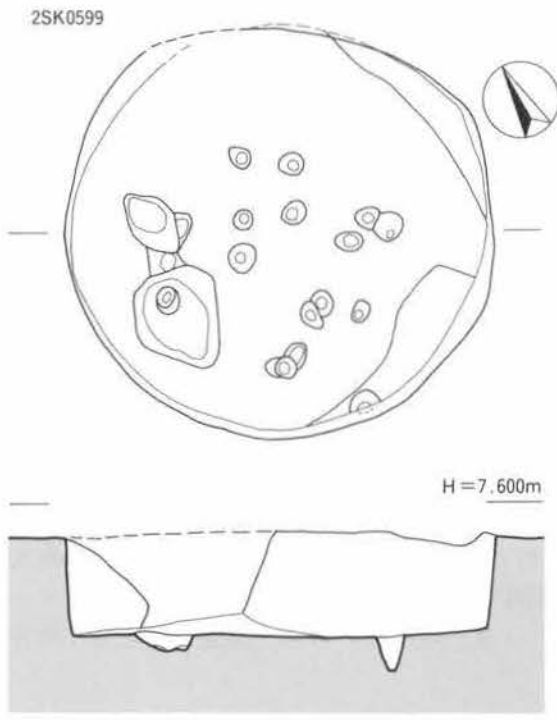


Fig.26 2SK0599・2SK0610・2SK0635・2SK0675・2SK0680・2SK0682実測図 (1/40)  
- 31 -

はN-64°-Wである。平面形状はほぼ円形で、壁は垂直に近い角度で立っている。おそらくは袋状土坑の上部が削平されたものであろう。底面には小穴が点在するが、その配置に規則性は見いだせない。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・器台・鉢）・凸帯文土器甕・サヌカイト（未製品・剥片）・黒曜石剥片・偏平打製石斧がある。

#### 2SK0682 (Fig26) [L32]

調査区の北寄りにあり、2SK2095と2SK2096を切っている。長軸2.9m短軸0.7m深さ0.4mを測り、主軸の方位はN-61°-Wである。東西に細長い平面形状で、東側約半分は浅い棚状の施設となっている。棚との境目の下部は、下端が拡がり、棚の下に潜り込むような形状となっている。それ以外は底面と棚の双方とも平坦で、特段の設備はみられない。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺）がある。

#### 2SK0800 (Fig27) [O29]

調査区の北寄りにあり、2SK2020を切り2SK0434に切られている。長軸4.1m短軸2.2m深さ0.9mの大型で、主軸の方位はN-66°-Wである。底面形状はほぼ平坦で、特段に設備も見受けられない。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・蓋・支脚・ミニチュア）・黒色磨研壺・彩文土器壺・粘土塊・サヌカイト剥片・黒曜石（壺・剥片）・石がある。

#### 2SK0878 (Fig29・Pla87) [D31]

調査区の東端附近にあり、2SK2015を切り2SK2011に切られている。長軸2.3m短軸1.7m深さ0.6mを測り、主軸の方位はN-47°-Wである。底面には径1.1m深さ0.3mの凹みがある。底面形状は、凹みの内外ともに概ね平坦で、特段の設備はない。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・鉢・蓋・支脚）・擬朝鮮系無文土器？甕・石包丁・砥石・サヌカイト剥片・黒曜石剥片がある。

#### 2SK0909 (Fig29) [P22]

調査区の中央附近にあり、2SK2027を切っている。長軸1.4m短軸1.3m深さ0.7mを測り、主軸の方位はN-64°-Wである。円形の土坑だが、底面には0.7m四方の方形の深い掘り込みがある。掘削時に綿密な土層観察を行っていないため、この掘り込みが別の下層遺構となる可能性を否定できない。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺）・彩文土器壺がある。

#### 2SK0956 (Fig30) [T29]

調査区の北寄りの西端附近にあり、2SK0954に切られている。長軸1.5m短軸1.4m深さ1.5mを測り、主軸の方位はN-65°-Wである。検出時には井戸の可能性を考えたが、底面が透水層に達しておらず、土坑と判断した。

出土遺物は、土師器（甕・蓋・坏・鉢・ミニチュア）・弥生土器（甕・片）がある。

#### 2SK2009 (Fig31) [U11]

調査区の南寄りの西端にあり、2SK2010を切っている。長軸2.1m短軸2.1m深さ1.4mを測り、主軸の方位はN-69°-Wである。検出時には井戸の可能性を考えたが、底面が透水層に達しておらず、土坑と判断した。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・蓋・脚付鉢）・サヌカイト剥片・石がある。

#### 2SK2013 (Fig31) [E30]

調査区の北寄り東端にある。長軸3.2m短軸1.9m深さ0.9mのやや大型、主軸の方位はN-39°-Eである。底面は北から南へと緩やかに傾斜するが、特に施設等は認められない。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・蓋・甕棺）・石包丁・サヌカイト（ドリル・スクレイパー・コア・剥片）・黒曜石剥片がある。

#### 2SK2027 (Fig32) [P23]

調査区の中央附近にあり、2SK0909・2SK2028・2SK2029に切られている。長軸9.9m短軸2.5m深さ0.4mを測り、主軸の方位はN-04°-Eである。大きな落ち込みと認識している。見方によっては溝状遺構とも理解されるが、ここでは土坑とした。

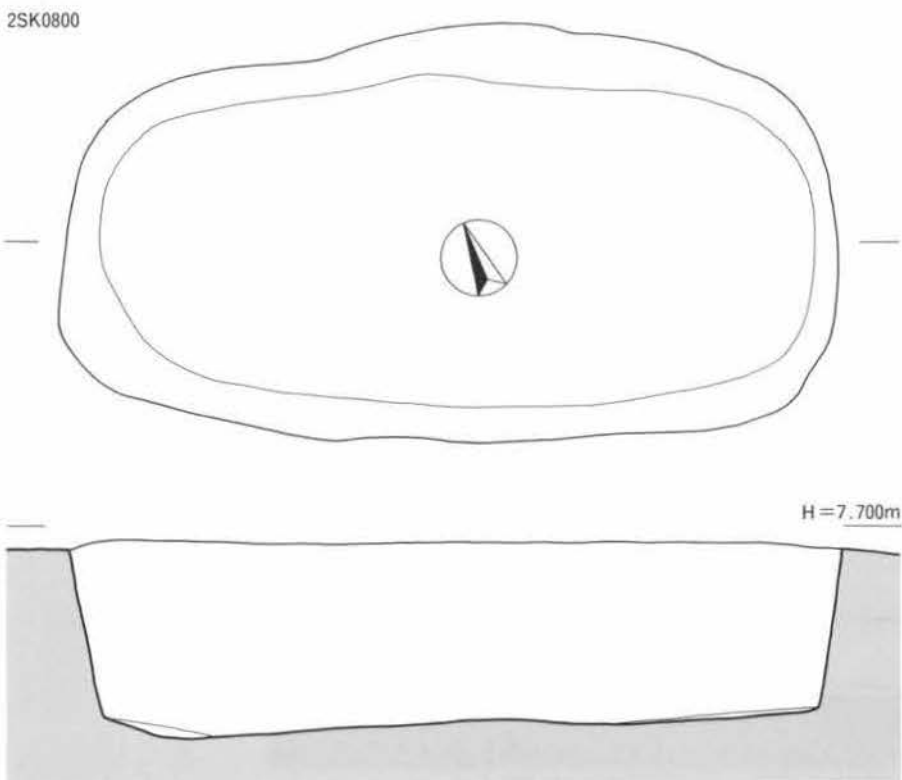
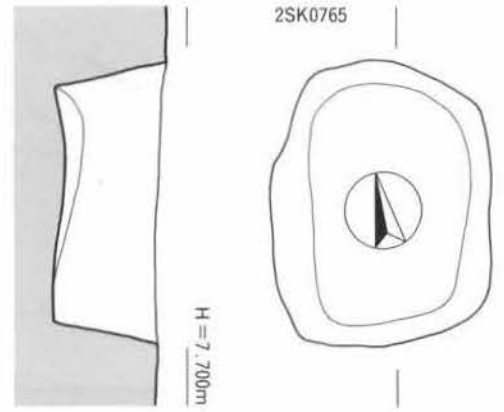
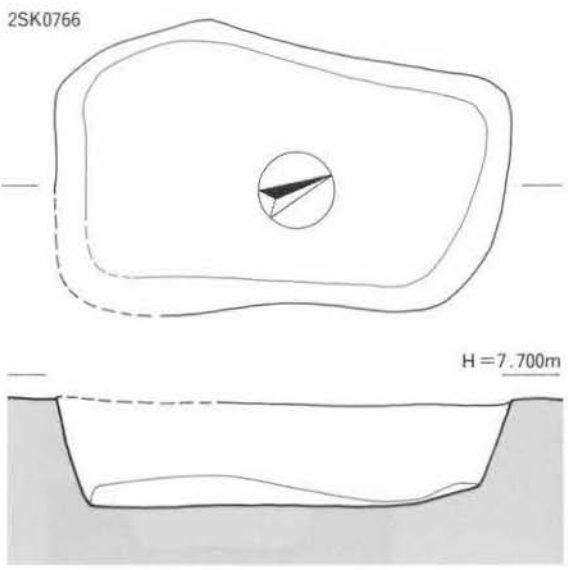
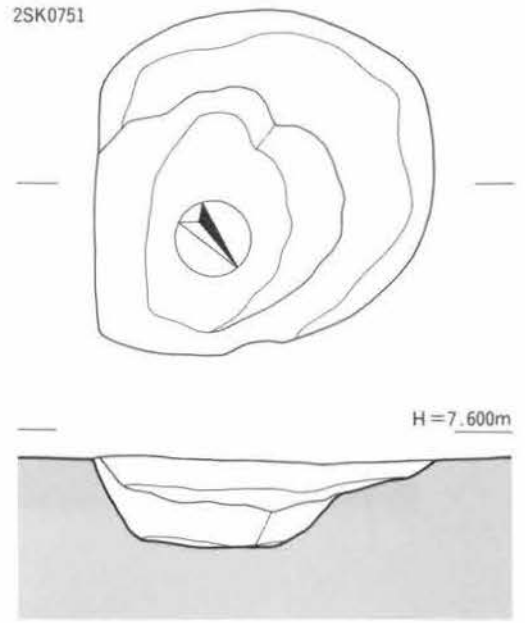
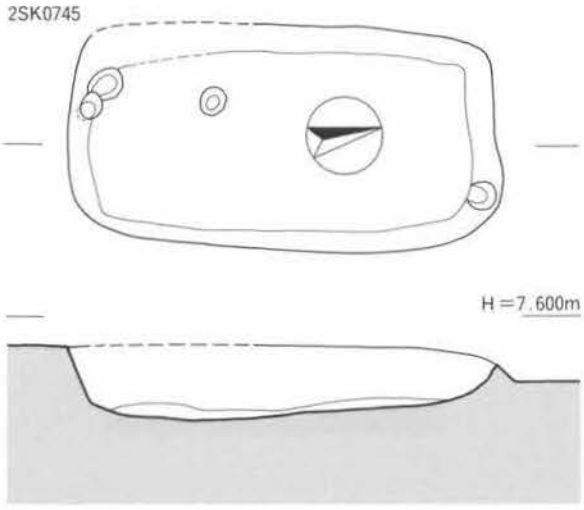


Fig.27 2SK0745・2SK0751・2SK0765・2SK0766・2SK0800実測図 (1/40)

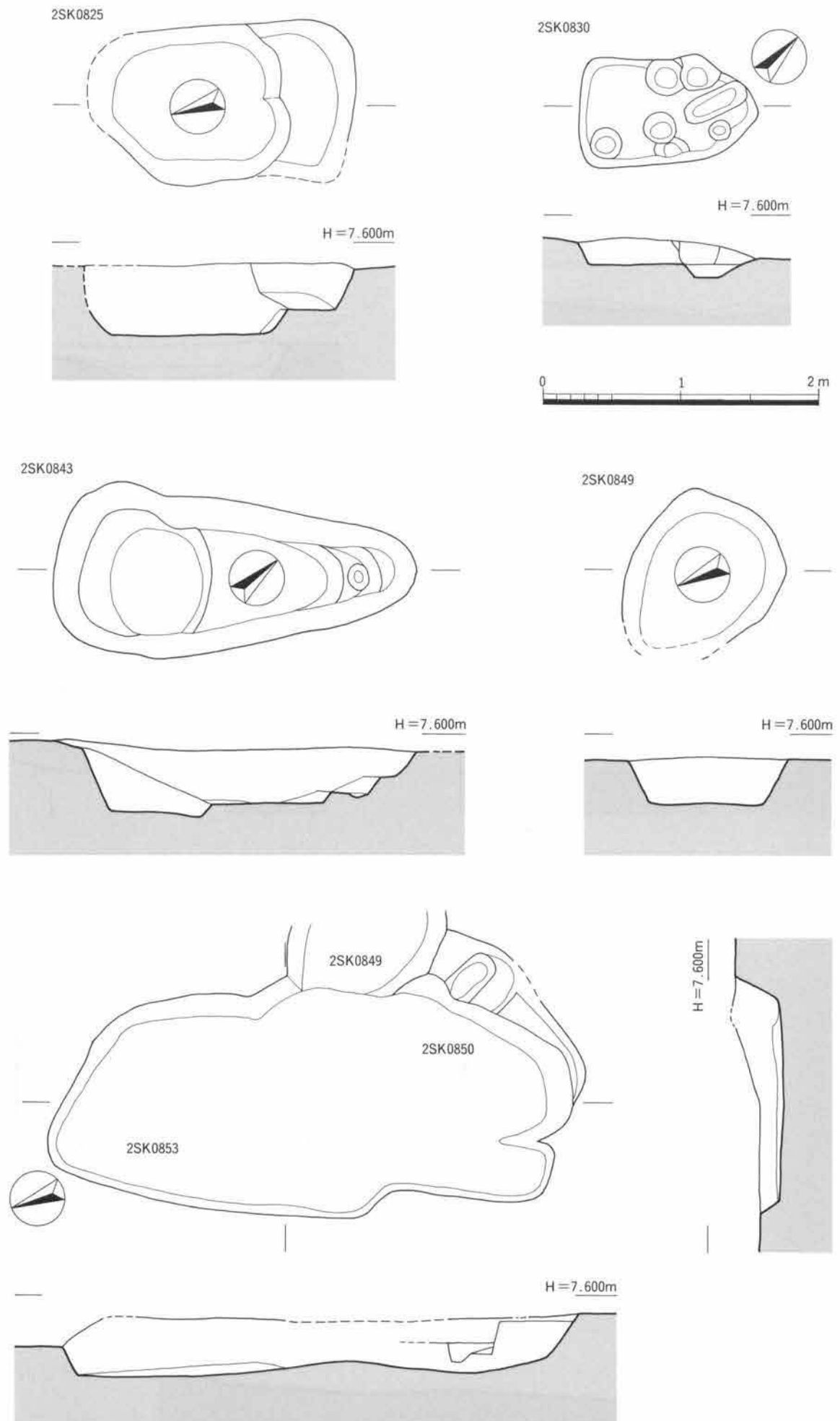


Fig.28 2SK0825・2SK0830・2SK0843・2SK0849・2SK0850・2SK0853実測図 (1/40)

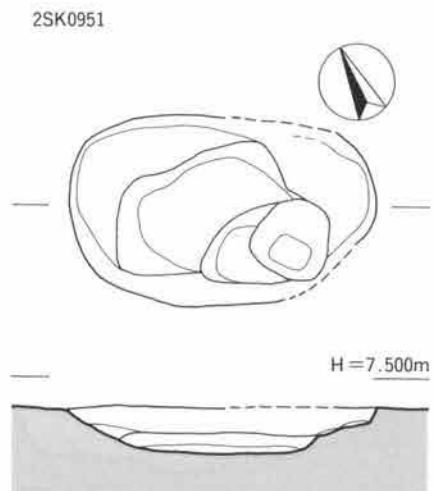
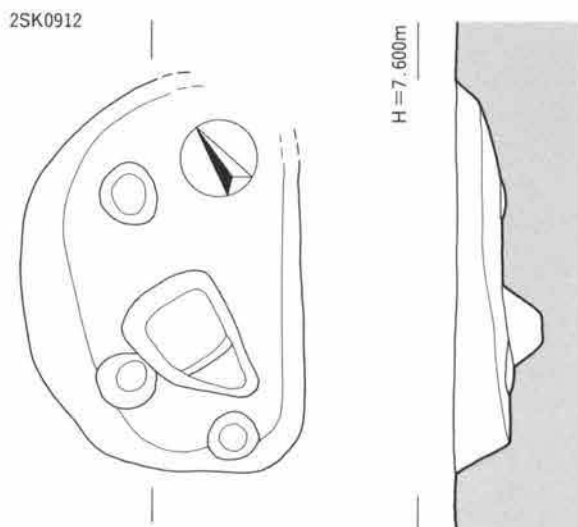
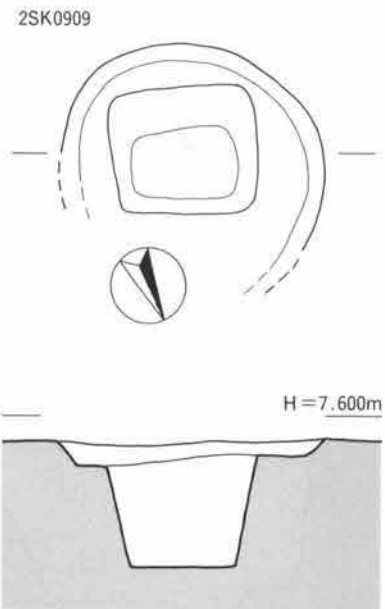
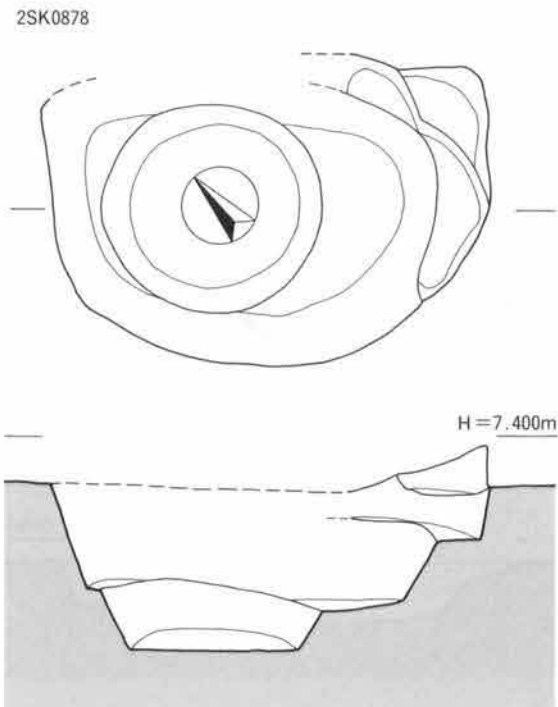
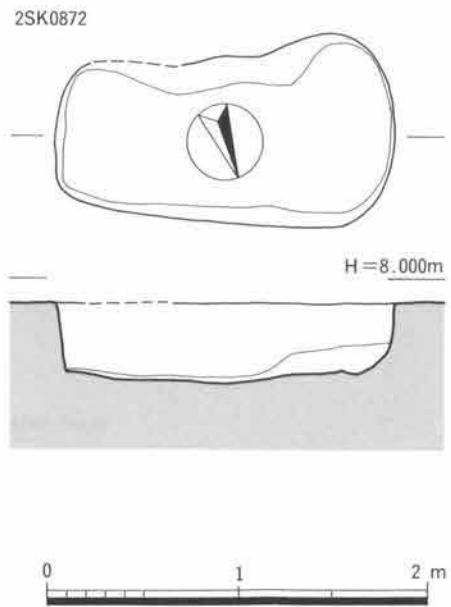
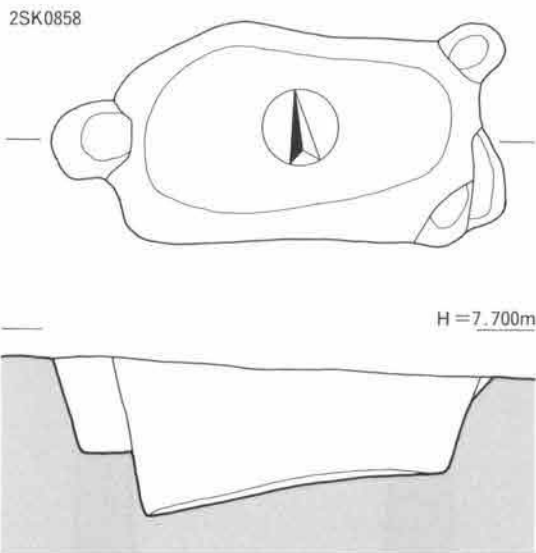


Fig.29 2SK0858・2SK0872・2SK0878・2SK0909・2SK0912・2SK0951実測図 (1/40)

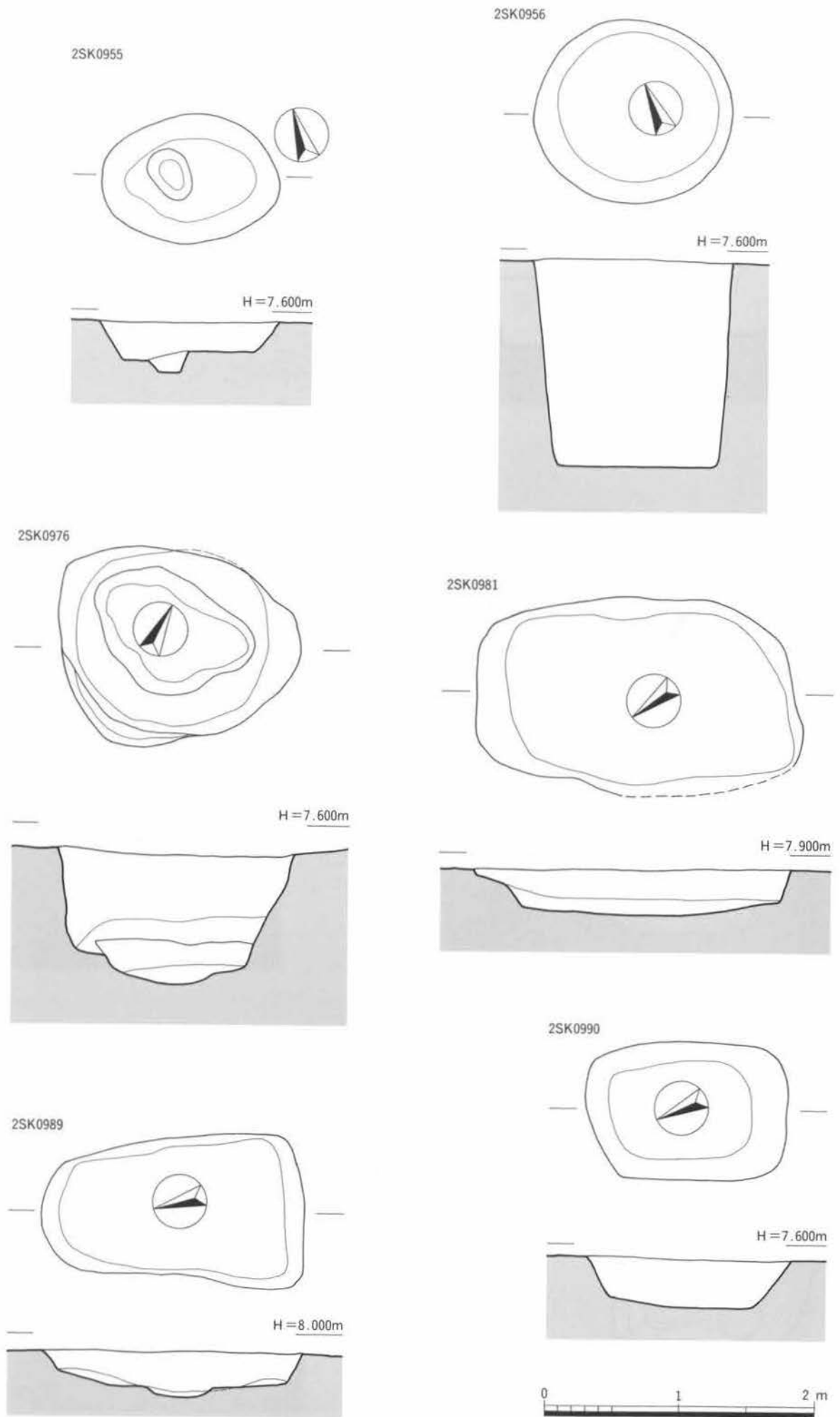


Fig.30 2SK0955・2SK0956・2SK0976・2SK0981・2SK0989・2SK0990実測図 (1/40)

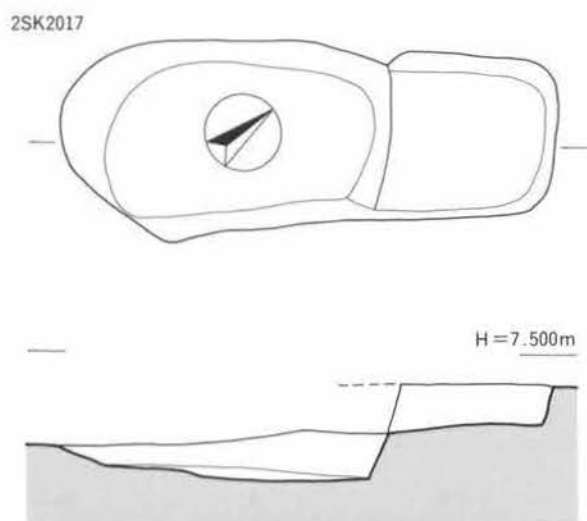
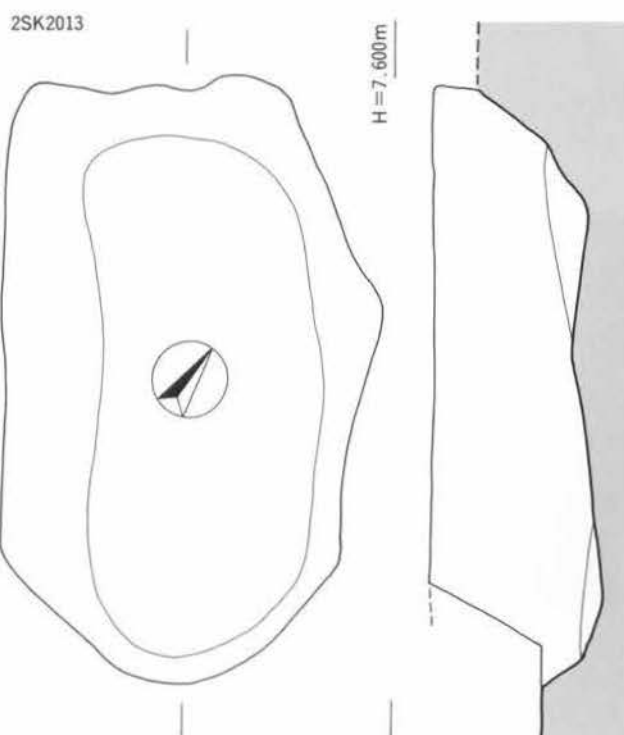
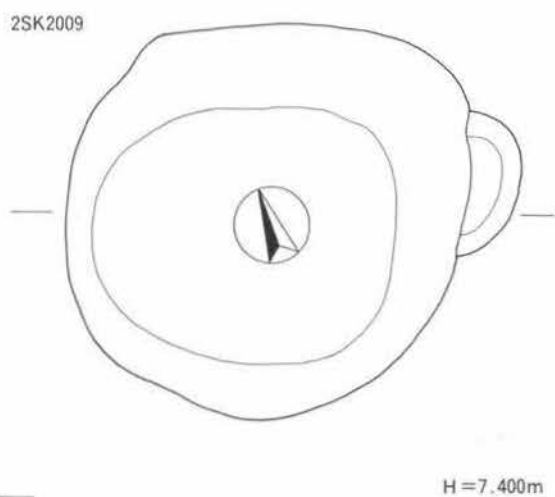
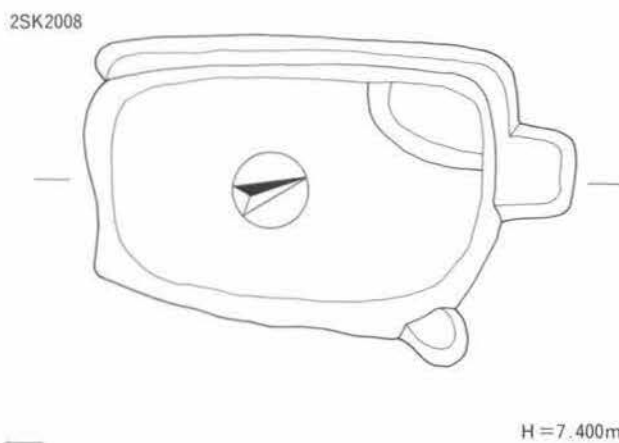
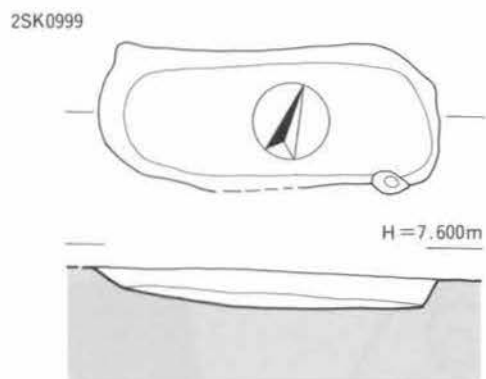


Fig.31 2SK0999・2SK2008・2SK2009・2SK2013・2SK2017実測図 (1/40)



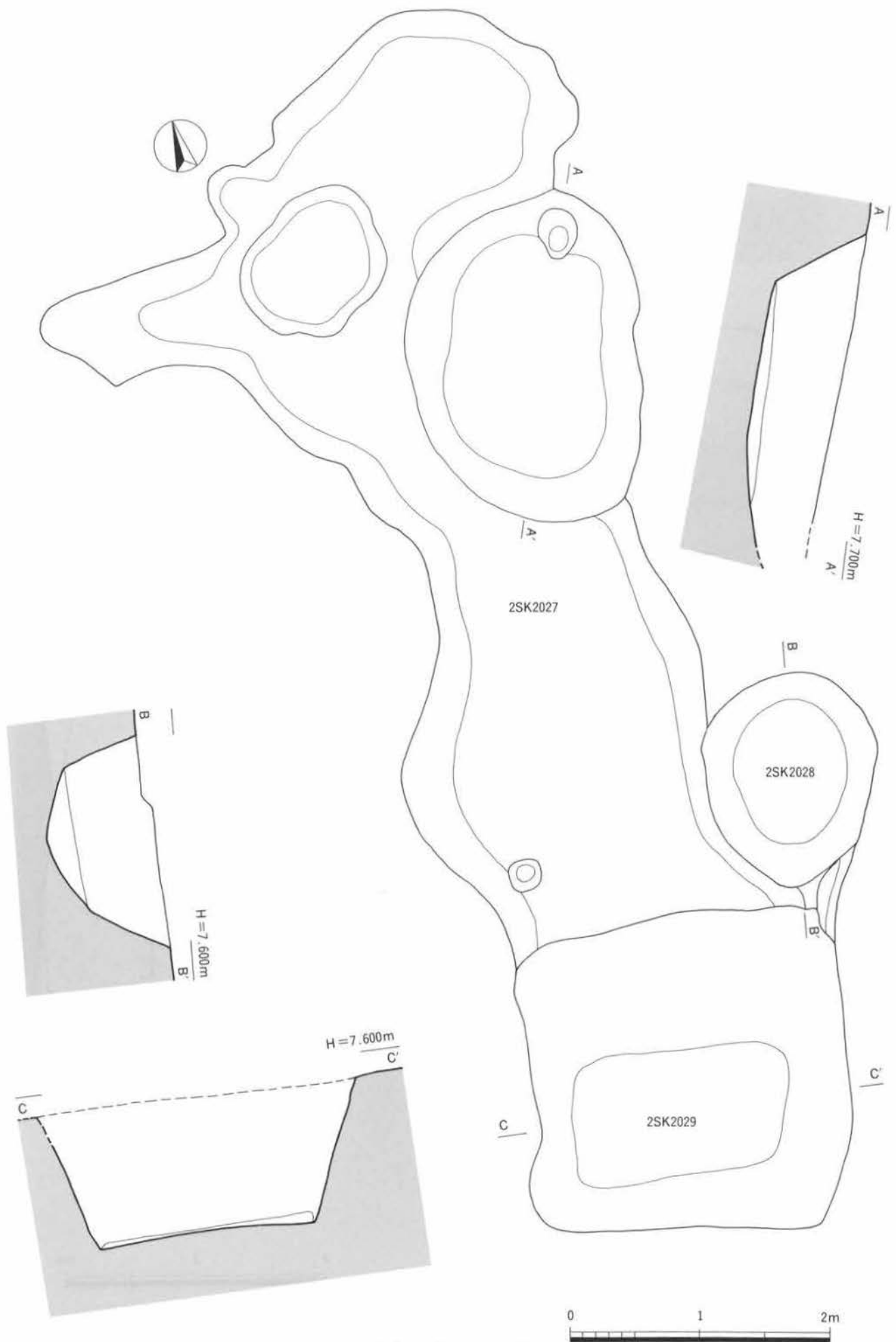


Fig.32 2SK2027・2SK2028・2SK2029実測図 (1/40)

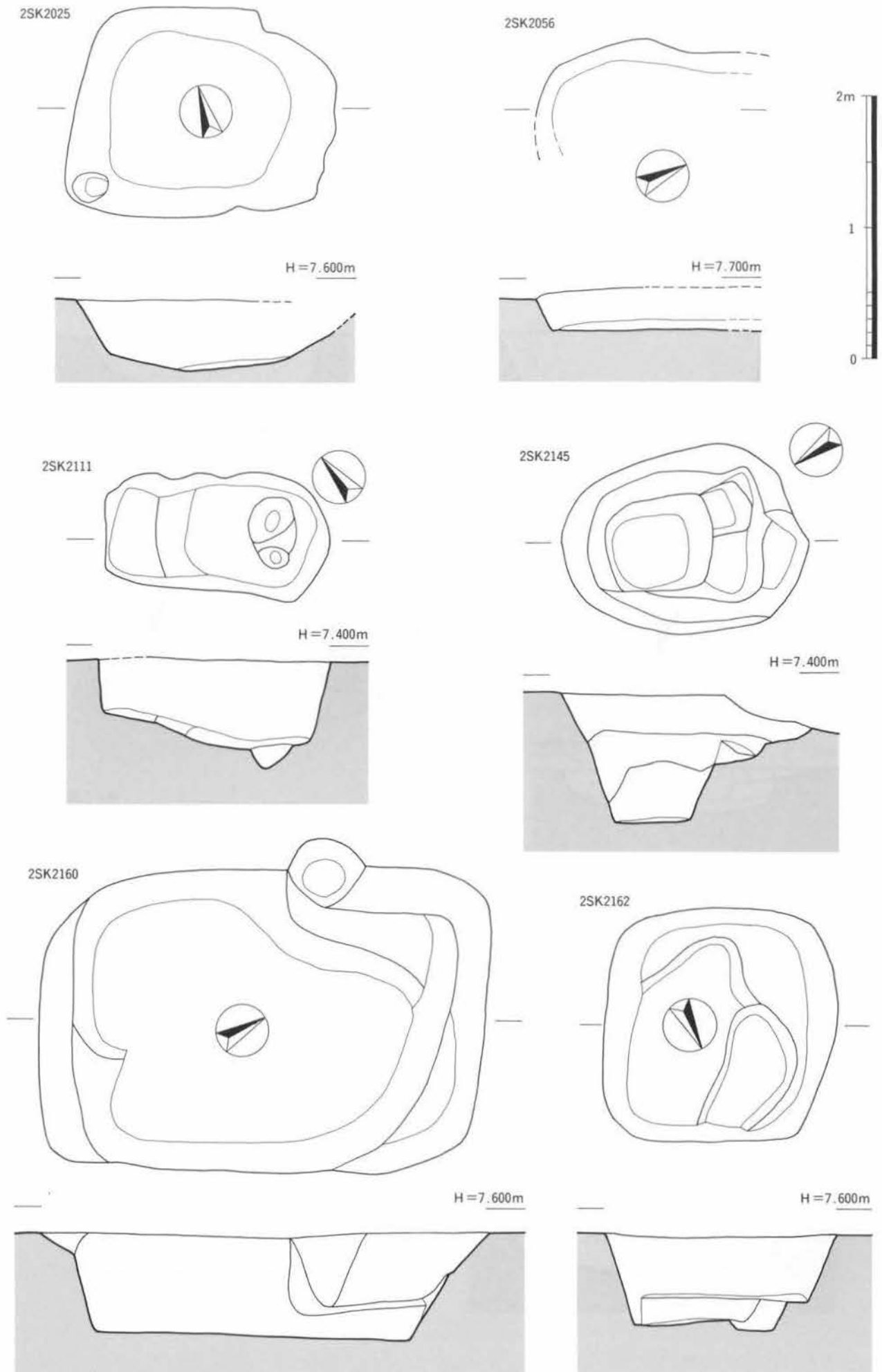


Fig.33 2SK2025・2SK2056・2SK2111・2SK2145・2SK2160・2SK2162実測図 (1/40)

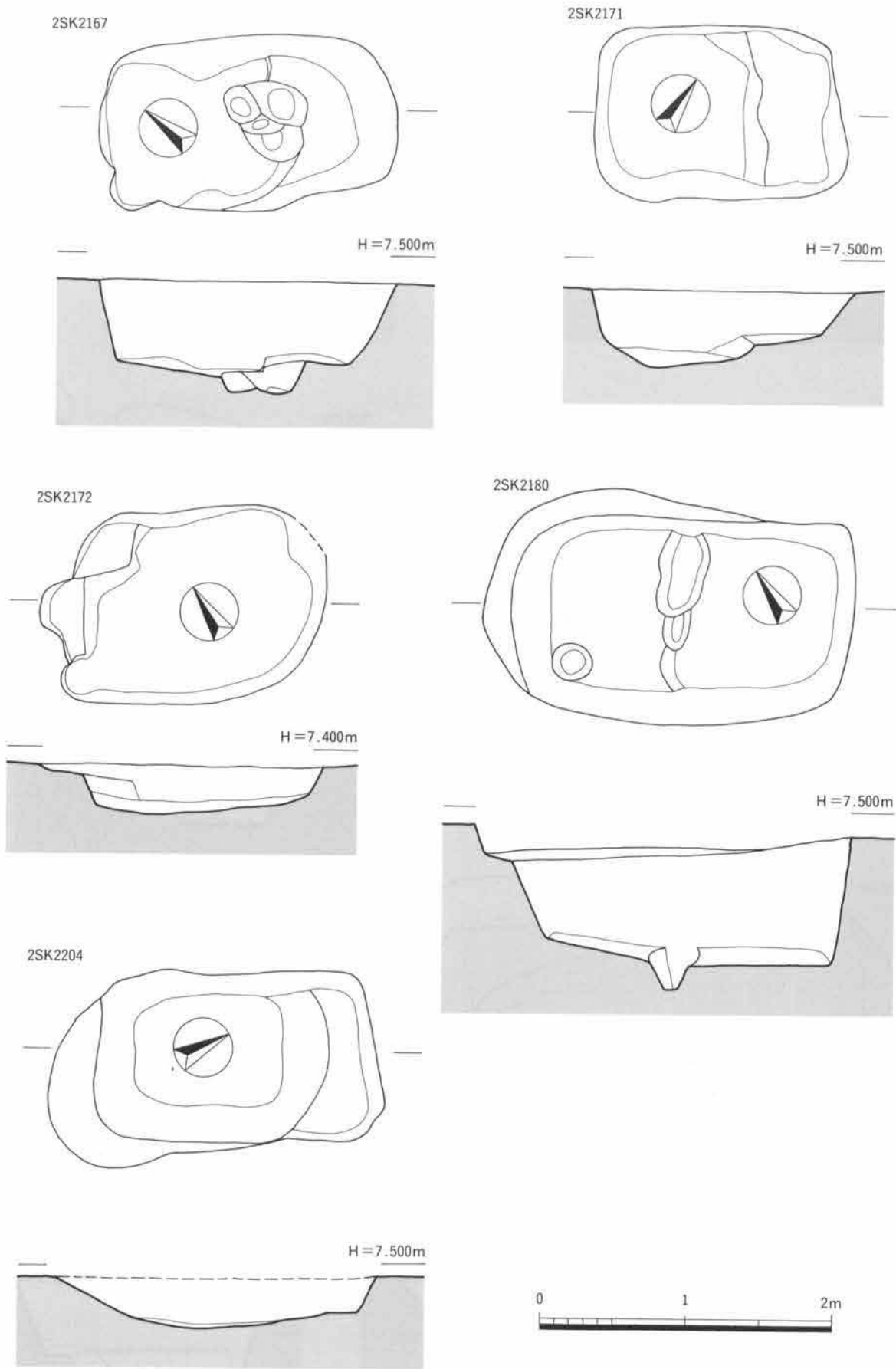


Fig.34 2SK2167・2SK2171・2SK2172・2SK2180・2SK2204実測図 (1/40)

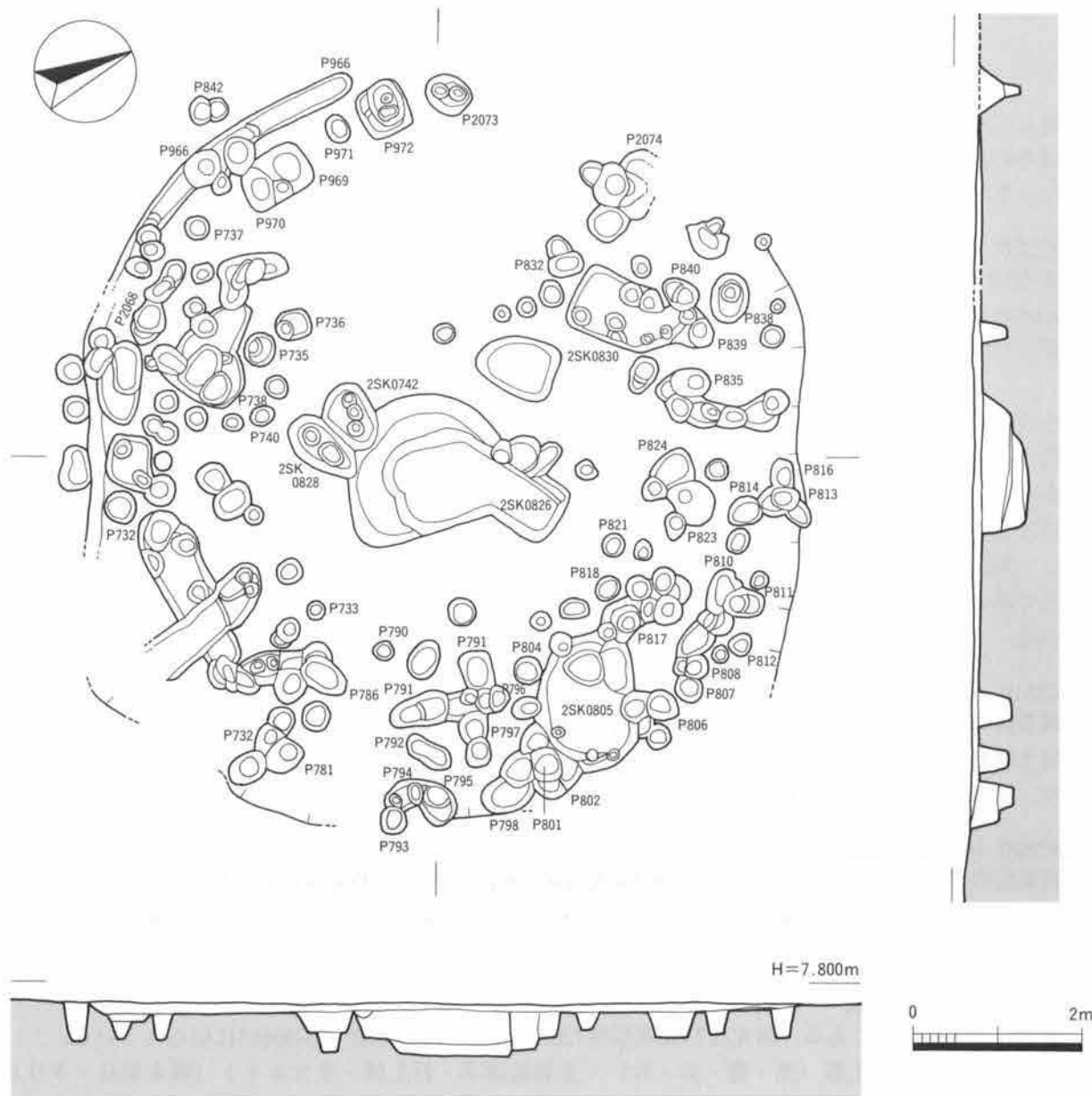


Fig.35 2SI2300実測図 (1/80)

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・甕棺）・凸帯文土器甕・サヌカイト剥片・石がある。

#### 2SK2160 (Fig33) [E29]

調査区の北寄り東端附近にあり、他の遺構との切り合いはない。長軸3.4m短軸2.3m深さ0.7mとやや大型で、主軸の方位はN-30°-Eである。北側には高さの異なる棚状の施設が2つ認められる。それ以外の底面は概ね平坦である。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・鉢）・砥石がある。

#### 2SK2180 (Fig34) [E34]

調査区の北寄りの東端にあり、2SK2181を切っている。長軸2.6m短軸1.6m深さ0.9mを測り、主軸の方位はN-57°-Wである。底面は西から東へと僅かに傾斜し、中央部には底面を横断するように3つの楕円形の小穴を連結して掘っている。小穴の深さは0.2m程である。

出土遺物は、弥生土器（甕・蓋）がある。

#### 竪穴式住居

ここでは、方形の竪穴のほか、円形の柱穴跡から住居の存在が理解されるものと、壁小溝が確認できるものを住居跡として報告した。方形の竪穴は主柱穴が確認できないことから、竪穴式住居ではなく竪穴とすべきかも知れない。調査時の所見として、後者の2例は竪穴式住居が削平されていると基本的に

理解している。以下、円形・方形の順に報告する。なお、円形住居の主軸の方位は、中央土坑があるものはその長軸に直交する方位を主軸の方位とし、それ以外のものは径が最大値となる軸を主軸の方位とした。また、方形住居の方位は長軸の方位を記載した。

#### 2SI2300 (Fig35・Pla.90) [N31]

調査区の北寄りの西端近くにはあり、2SD0702・2SD0752・2SI0750・2SK0777・2SK805・2SK0825に切られていて、2SK0830・2SX2500を切っている。南北径8.4m東西径9.0mを測るが、竪穴の堀方は削平されて全く残っていない。したがって、生活時の床面も完全に失われていると判断している。

柱穴とおほしき穴は無数に存在し、立て替えが何度も行われたことを示すが、現状では3回以上の立て替えを把握することができる。また、中央付近には崩れた楕円形の土坑と2対の小穴を認めることができる。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・鉢・大甕・片）・サヌカイト（ドリル・スクレイパー・鏃・剥片）・黒曜石（鏃・ドリル・剥片）・石英（スクレイパー）・片岩（剥片）があり、すべて柱穴からの出土である。弥生土器は図示できないものの、亀ノ甲式を中心に、一部城ノ越式と思われるものを含んでいる。

#### 2SI2310 (Fig36・Pla.90) [M30]

調査区の中央付近にある。南北径5.0m東西径5.8mを測り、2SD0528に切られている。

出土遺物は、弥生土器（壺・甕・片）・サヌカイト（鏃・剥片）がある。弥生土器は図示できないものの、城ノ越式かと思しきものを含んでいる。

#### 2SI2320 (Fig36) [Q28]

調査区の北寄りの西側にある。南北径6.0m東西径6.3mを測り、2SD0694に切られている。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・鉢・片）・サヌカイト（鏃・ドリル・剥片）・黒曜石（剥片）・片岩（剥片）がある。弥生土器は図示できないものの、城ノ越式と思しきものが含まれている。

#### 2SI2330 (Fig37) [I29]

調査区の中央付近にある。南北径7.0m東西径7.5mを測り、2SD0662・2SD0663に切られている。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・鉢・片）・土製紡錘車・粘土塊・サヌカイト（鏃未製品・ドリル・コア・剥片）黒曜石（鏃・剥片）がある。弥生土器には亀ノ甲式や城ノ越式をはじめ、板付Ⅱ式や須久Ⅱ式と思しきものまで含まれている。

#### 2SI2340 (Fig37) [P12]

調査区の南寄りにある。南北径6.0m東西径5.9mを測る。壁小溝の痕跡が僅かに残る。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・片）・黒色磨研土器（壺）・サヌカイト（剥片）・黒曜石（剥片）がある。弥生式土器には、体部に重弧文をもつ、板付Ⅱ式土器かと思われるものが含まれている。

#### 2SI0606 (Fig38・Pla.89・90) [Q17]

調査区の中央付近にあり、2SI0608を切っている。長軸6.2m短軸4.1m深さ0.1mを測り、主軸の方位はN-35°-Wである

出土遺物は、全体掘削時、Ⅰ層、Ⅱ層に分かれている。全体掘削時およびⅠ層からは、弥生土器（甕・壺・器台・片）・土師器（坏）・サヌカイト（鏃・剥片）・黒曜石（鏃・剥片）・チャート（剥片）がある。Ⅱ層からは、弥生土器（甕・壺・鉢・片）・土製投弾・片岩（剥片）がある。

#### 2SI0608 (Fig38・Pla.89・90) [Q19]

調査区の中央付近にあり、2SI0606に切られ、2SK0405・2SK0408・2SK0683を切っている。長軸6.0m短軸5.1m深さ0.2mを測り、主軸の方位はN-64°-Eである

出土遺物は、全体掘削時、Ⅰ層、Ⅱ層に分かれている。全体掘削時からは、弥生土器（甕・壺・高坏・器台・蓋・ミニチュア・片）・土製紡錘車・石製紡錘車・石包丁・サヌカイト（剥片）・黒曜石（鏃・剥片）・石英（剥片）・片岩（剥片）があり、弥生土器の甕には丹塗りのものがみられる。Ⅰ層からは、弥生土器（甕・壺・蓋・高坏・器台・鉢・片）・粘土塊・サヌカイト（ドリル・石刃）・石英

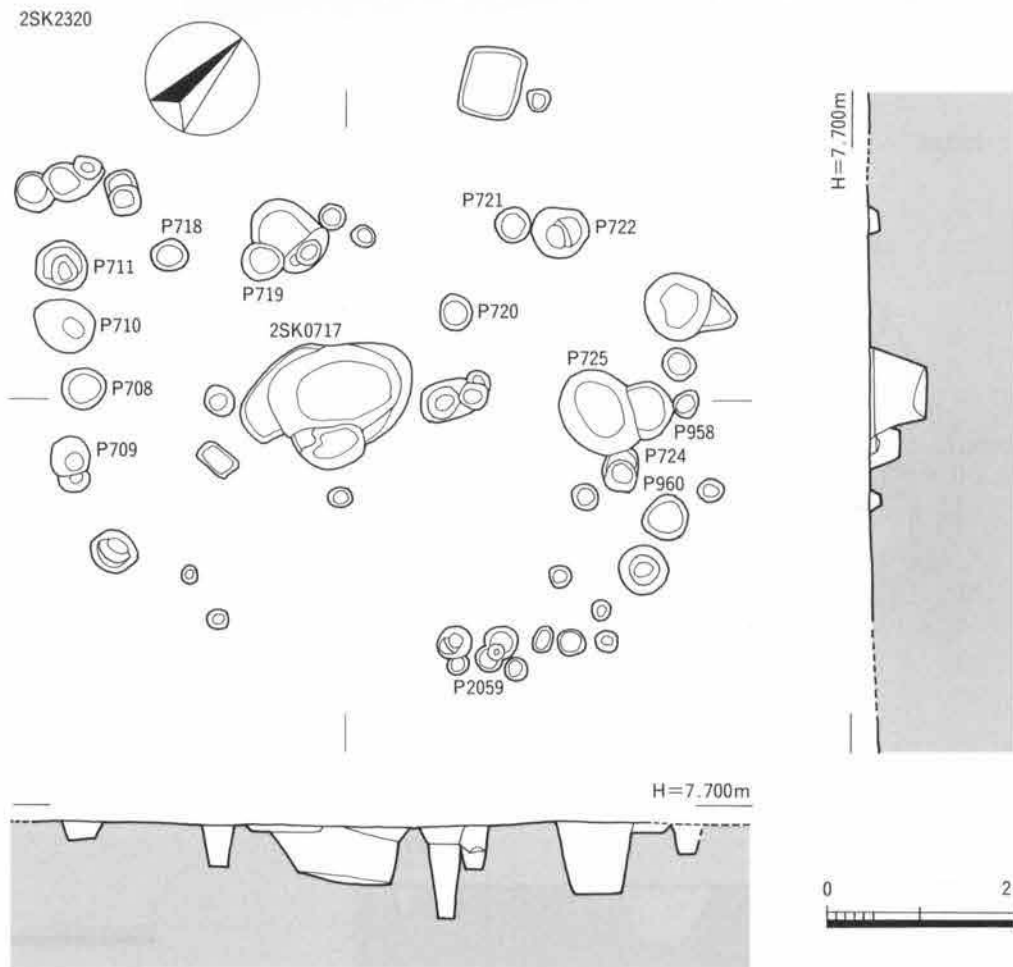
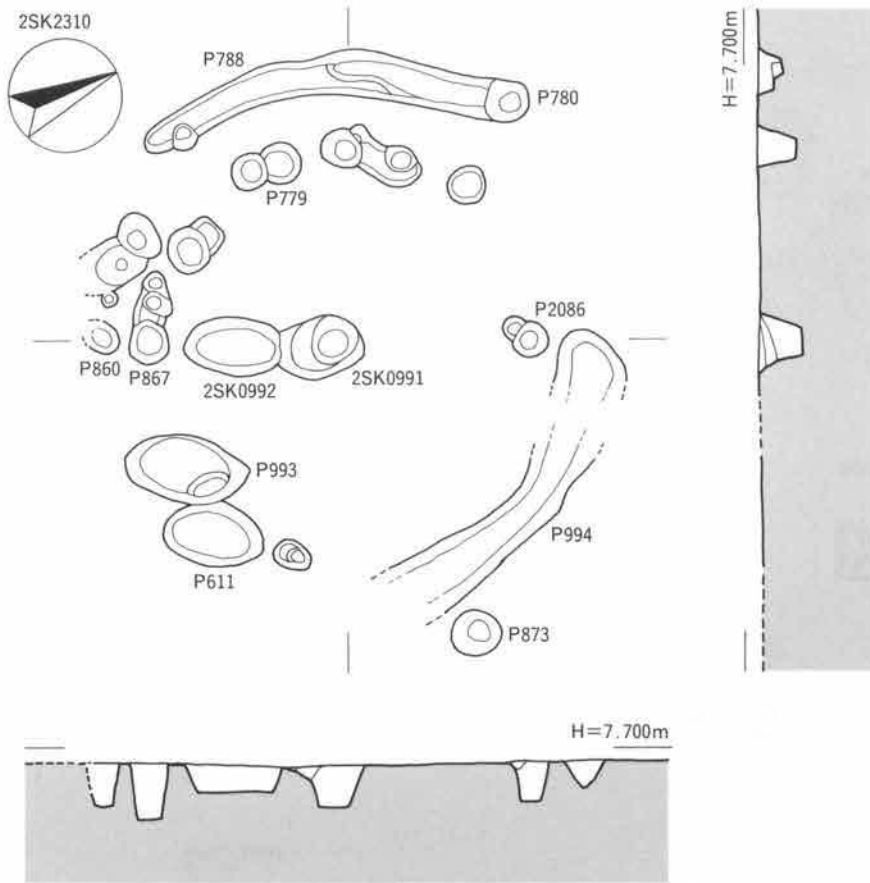


Fig.36 2SK2310・2SK2320実測図 (1/80)

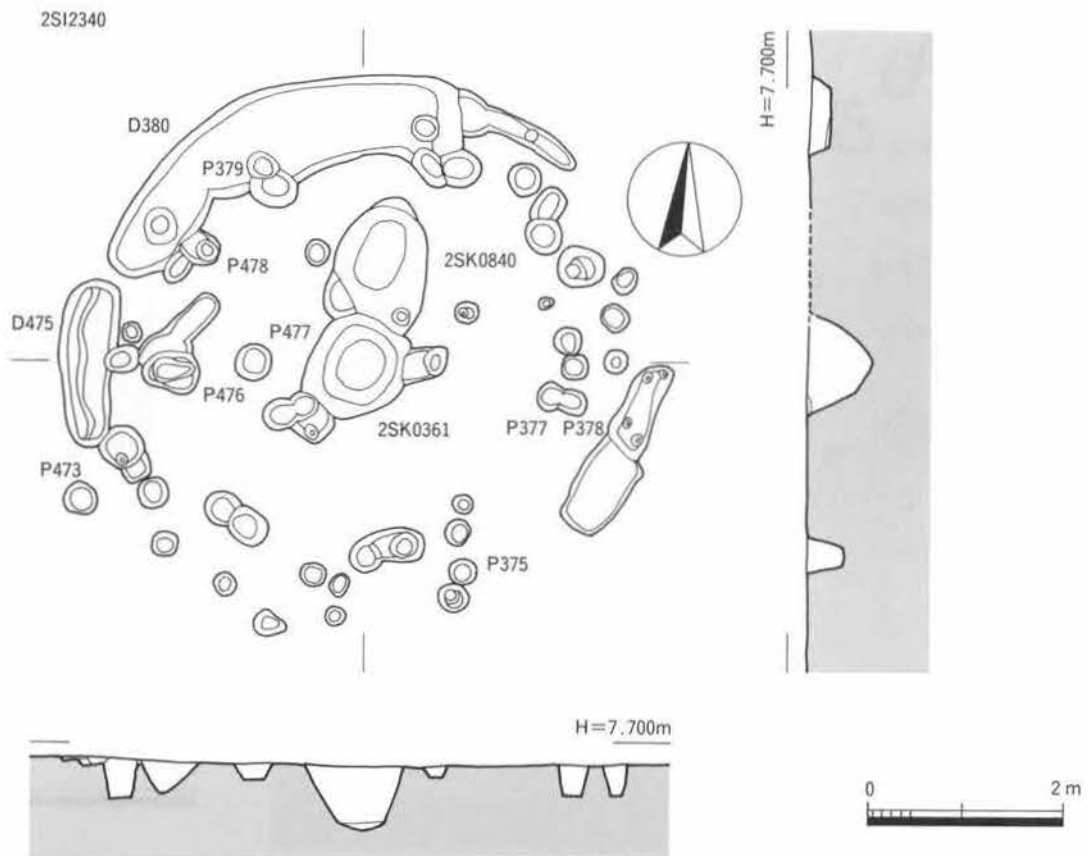
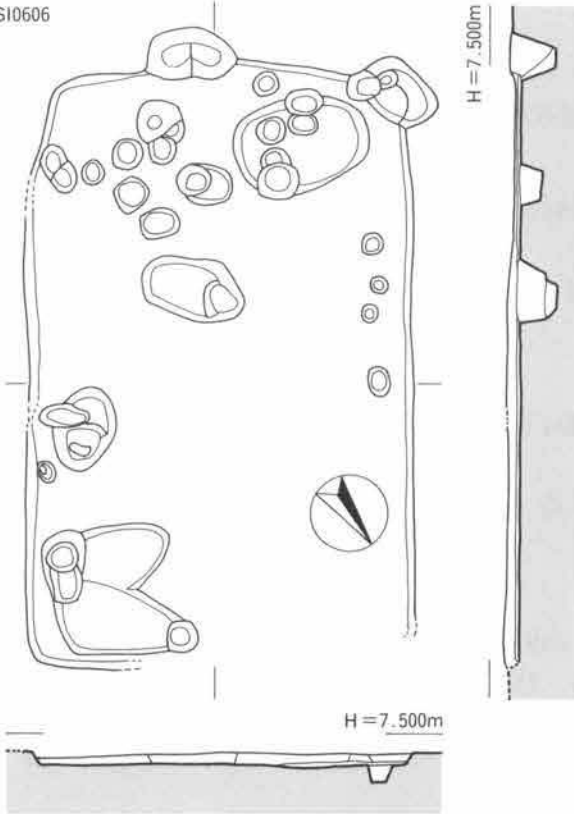


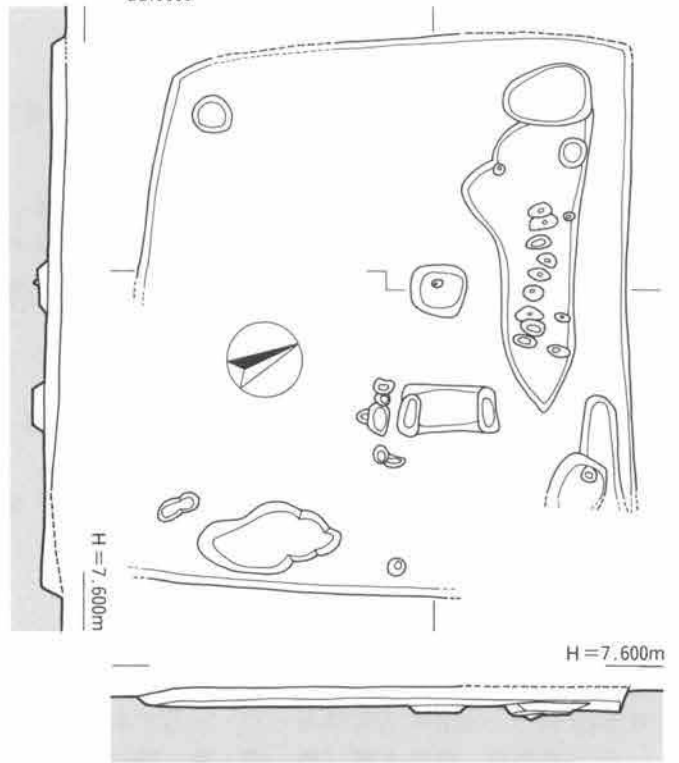
Fig.37 2SI2330・2SI2340実測図 (1/80)



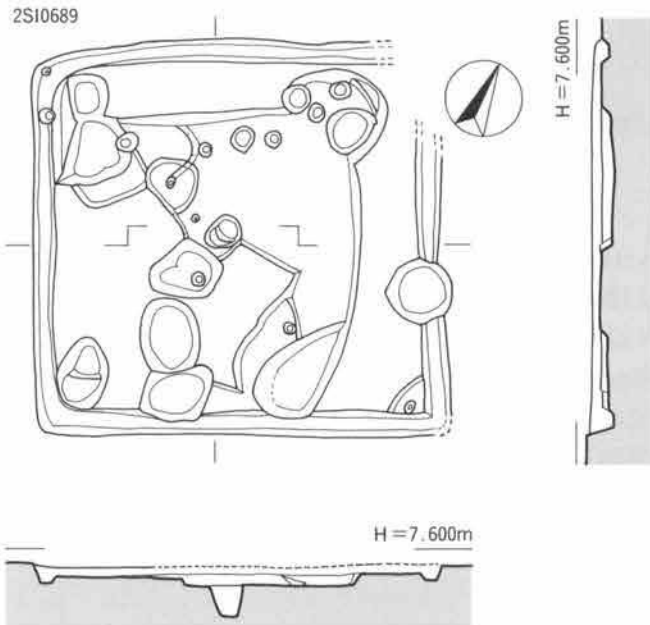
2SI0606



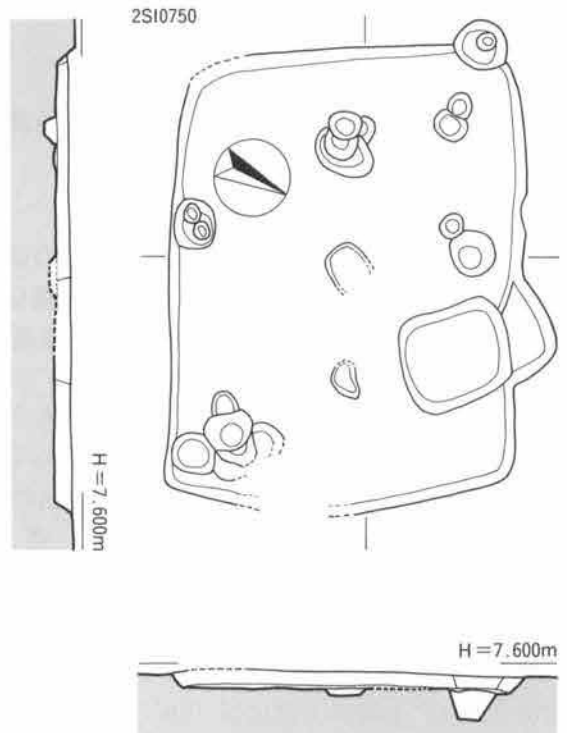
2SI0608



2SI0689



2SI0750



2SI2350

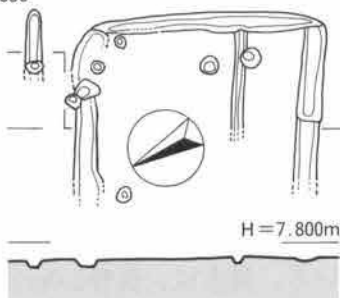


Fig.38 2SI0606・2SI0608・2SI0689・2SI0750・2SI2350実測図 (1/80)

(剥片)がある。Ⅱ層からは、弥生土器(甕・蓋・片)・軽石がある。

2SI0609 (Fig38・Pla.90) [L22]

調査区の中央附近にあり、2SK0394・2SK0580・2SK0581・2SD0528に切られている。長軸6.2m短軸5.7m深さ0.1mを測り、主軸の方位はN-64°-Eである。

出土遺物は、弥生土器(甕・壺・片)・土師器(甕・壺・鉢・片)・磨製石剣・サヌカイト(鏃・剥片)黒曜石(剥片)がある。

2SI0689 (Fig38・Pla.90) [S24]

調査区の北寄りにあり、2SK2037に切られている。長軸4.3m短軸4.2m深さ0.2mを測り、主軸の方位はN-24°-Eである。

出土遺物は、土師器(甕・壺・高坏・坏・片)・弥生土器(甕・壺)・サヌカイト(尖頭器・スクレイパー・剥片)・黒曜石(剥片)・砥石がある。

2SI0750 (Fig38・Pla.90) [Q32]

調査区の北西にあり、2SK0728・2SK0729に切られ、2SK2085を切っている。また下層遺構には、2SK2072・2SK2073・2SK2074・2SK2075・2SK2076・2SK207がある。長軸4.9m短軸3.7m深さ0.2mを測り、主軸の方位はN-27°-Eである。

出土遺物は、弥生土器(甕・壺・蓋・器台・ミニチュア碗・片)・サヌカイト(剥片)・黒曜石(剥片)がある。

2SI2350 (Fig38) [L26]

調査区の中央附近にあり、2SD0528・2SK0667に切られ、2SK0857・2SK0618を切っている。深さ0.1m残存する辺は2.6mを測り、主軸の方位はN-26°-Wである。出土遺物は認められなかった。

### 墓壇

木棺墓と甕棺墓を確認している。いずれも調査区の北東よりで検出した。以下、木棺墓・甕棺墓の順に報告する。

2ST0612 (Fig39・Pla.91) [I30]

調査区の北寄り東側にあり、他の遺構との切り合いはない。長軸2.1m短軸0.5m深さ0.2mを測り、主軸の方位はN-72°-Eである。長軸側の西端は、小口板の外側まで掘方が拡がり、この部分の平面形態は楕円形に近い隅丸形状となる。対する東端は、やはり小口板の外側に拡がるが一段浅い棚状となり、西側とは様相を異にしている。底面の壁際には幅約8cm深さ約5cmの小溝がめぐり、この小溝は堅穴住居にみられる壁小溝と同様の形態である。側板を立てた痕跡、あるいは、側板を固定するための設備であろう。底面はほぼ平坦であるが、中央部よりも長軸側両端の方が若干下がっており、断面形状は弓なりにかかるく反ったように見える。短軸側は北側が南側よりも若干低く、僅かに傾斜している。

出土遺物は、土師器(皿)・弥生土器(甕・壺)・サヌカイト(剥片)・黒曜石(剥片)があるが、いずれも小片のため図示し得ない。

2ST2117 (Fig39) [I32]

調査区の北寄り東側にあり、2SD0662に切られ、2SK2118を切っている。長軸1.8m短軸0.6m深さ0.2mを測り、主軸の方位はN-19°-Wである。2ST0612と異なり、平面形態はほぼ完全な長方形を呈する。底面の壁際には2ST0612と同様に、堅穴住居の壁小溝状の幅約5cm深さ約8cmの小溝がめぐり、やはり、側板を立てた痕跡、あるいは側板を固定するための設備であろう。底面は2ST0612に比べ、やや凹凸が見られるものの概ね平坦である。短軸側では底面の傾斜は殆ど認められないが、長軸側では北が若干低くなっており、南から北へ緩やかに傾斜している。

出土遺物は、弥生土器(甕・壺)・サヌカイト(剥片)がある。

2ST0879 (Fig40・Pla.92・93) [E35]

甕棺墓である。調査区の北東にあり、2SK2193・2SK2191を切っている。掘方は、長軸2.0m短軸1.7m深さ0.2mを測り、棺体の主軸方位はN-48°-Wである。棺体の埋葬角度は、残存状態が悪く明確

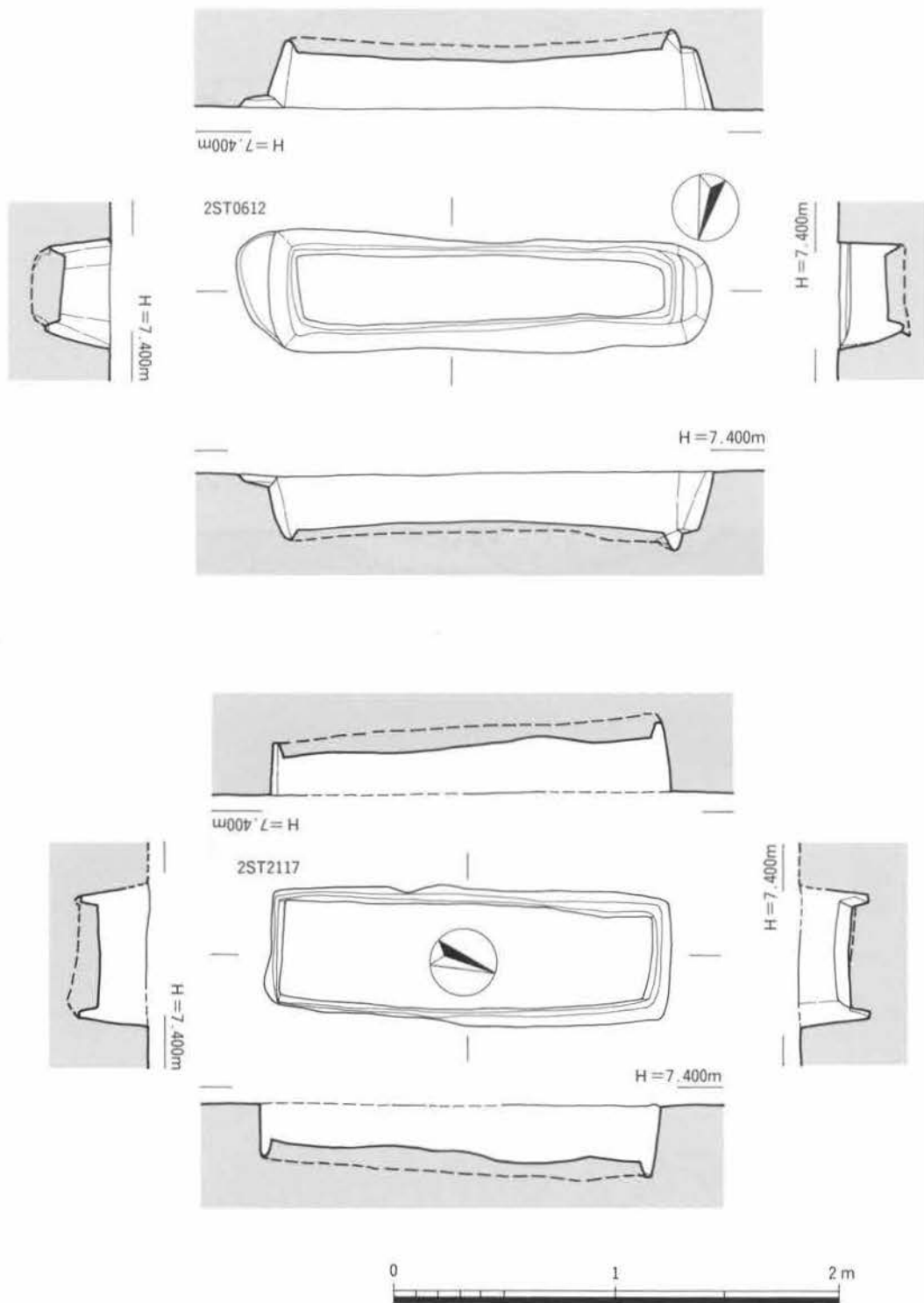


Fig.39 2ST0612・2ST2117実測図 (1/30)

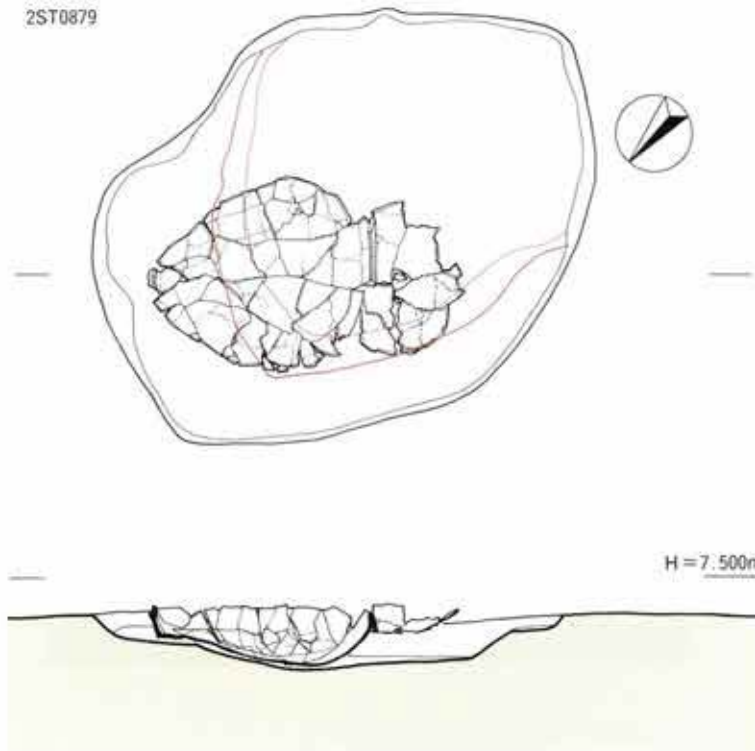
でないが、約 $10^\circ$ の傾斜で下壺側が下がるようである。

出土遺物は、甕棺の棺体のほかに弥生土器（甕・蓋）・サヌカイト（剥片）・黒曜石（剥片）・砥石がある。

#### 2ST0880 (Fig40) [D35]

甕棺墓である。調査区の北東にあり、2SK2191を切っている。堀方は、長軸2.3m短軸1.3m深さ0.4mを測り、棺体の主軸方位はN-83°-Eである。棺体の埋葬角度は、残存状態が悪く明確でないが、やや甕底部側が下がるようであるが、ほぼ水平であると思われる。

2ST0879



2ST0880

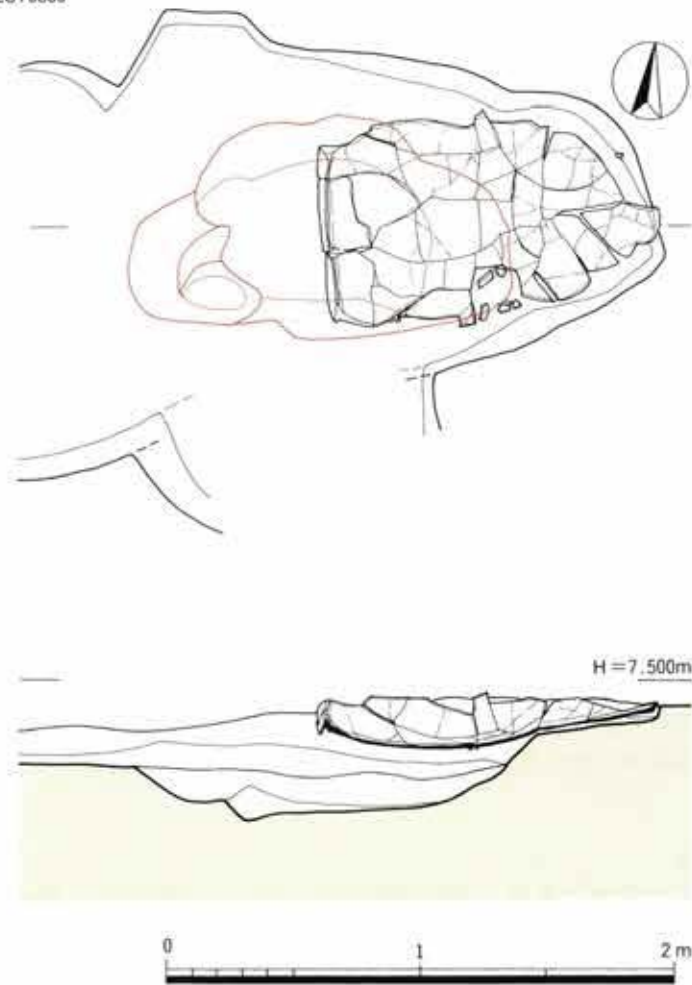


Fig.40 2ST0879・2ST0880実測図 (1/30)

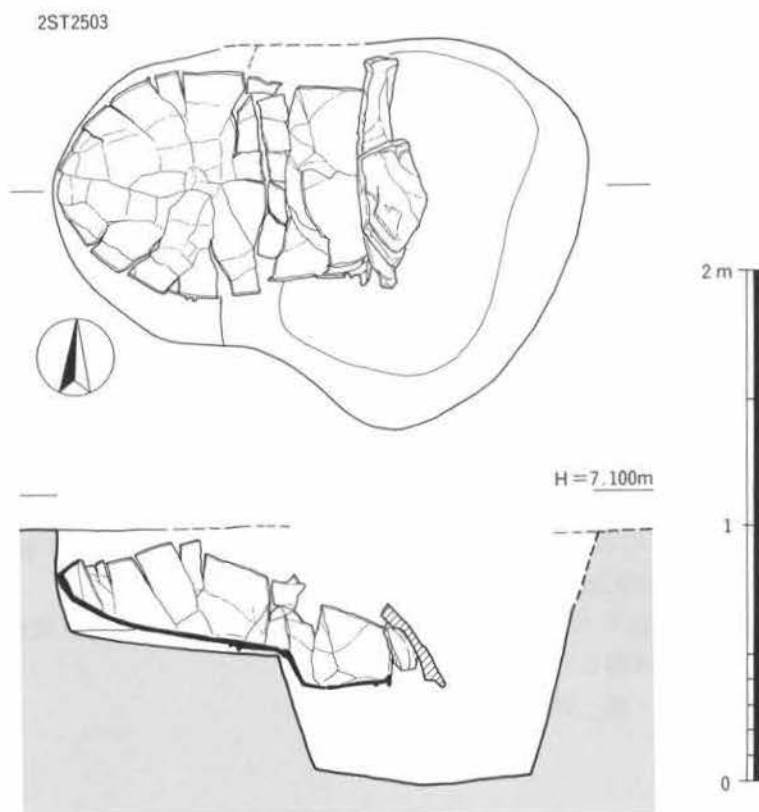
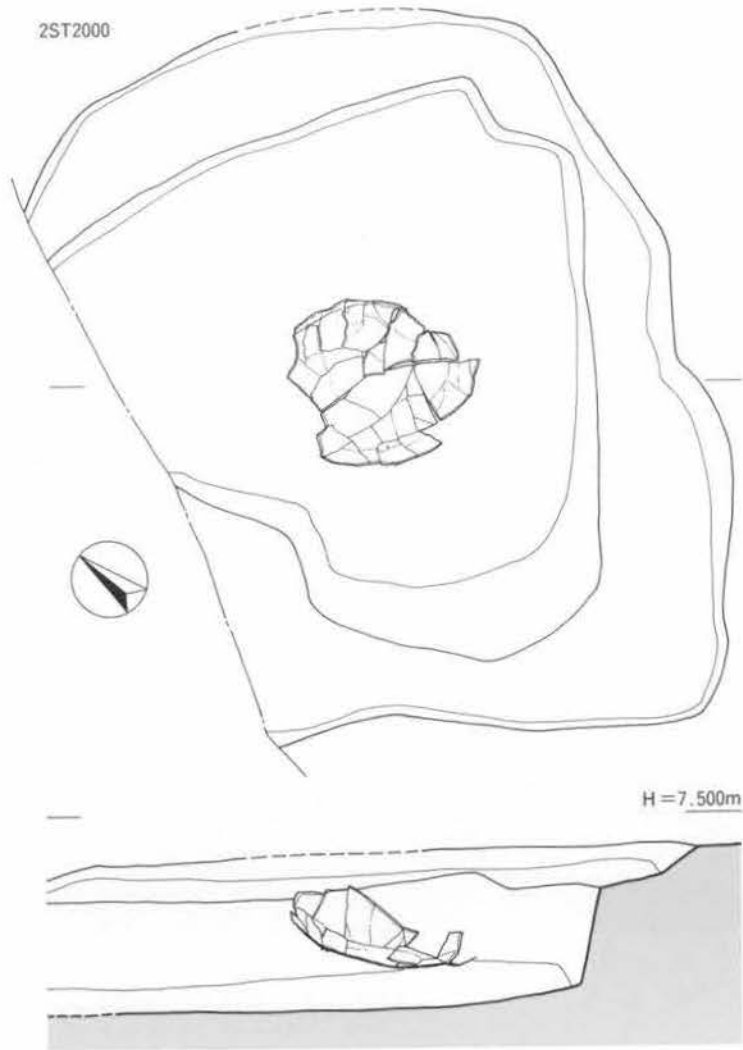


Fig.41 2ST2000・2ST2503実測図 (1/30)

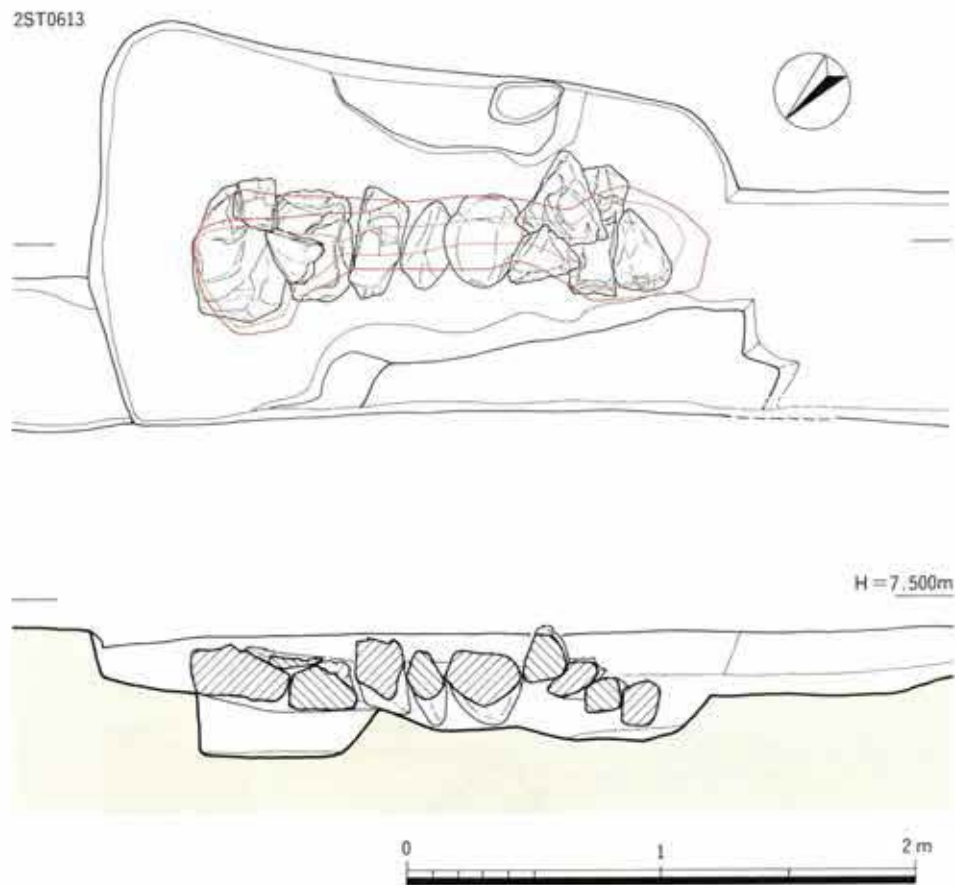


Fig.42 2ST0613実測図 (1/30)

出土遺物は、甕棺の棺体のほかに弥生土器（甕・壺）・サヌカイト（鏝）がある。

2ST2000 (Fig41) [G37]

甕棺墓である。調査区の北東にあり、2SD2225を切っている。堀方は、長軸2.7m短軸2.6m深さ0.6mを測り、棺体の主軸方位はN-51°-Wである。棺体の埋葬角度は、残存状態が悪く判然としない。

出土遺物は、甕棺の棺体のほかに弥生土器（甕）・砥石がある。

2ST2503 (Fig41・Pla.93) [G36]

甕棺墓である。調査区の北東にあり、2SK2095に切られている。堀方は、長軸2.1m短軸1.2m深さ0.5mを測り、棺体の主軸方位はN-87°-Eである。ただし、東側は深さが1.0mある。棺体の埋葬角度は、残存状態が悪く明確でないが、ほぼ水平であろう。

出土遺物は、甕棺の棺体のほかに弥生土器（甕・壺）・サヌカイト（剥片）がある。

2ST0613 (Fig42・Pla.94) [I31]

石蓋状遺構である。調査区の北より中央附近にあり、2SD0663に切られている。長軸2.5m短軸1.2m深さ0.4mを測り、主軸の方位はN-46°-Wである。石蓋検出時には石蓋土壙墓ではないかと考え調査を進めたが、石蓋の下部には墓壙と認め得るほどの施設は確認できなかった。わずかに幅0.4m長さ2.0m深さ0.1mの掘り込みを確認したのみである。その平面形状は、2つの土坑を溝で接続したようであるが、両端の土坑様の部分でも深さは0.2mでしかない。

この遺構は不明遺構として扱うべきかとも考えたが、墓を意識した構造物と判断し、この項で報告する。これについては、小結で再論したい。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・鉢）がある。

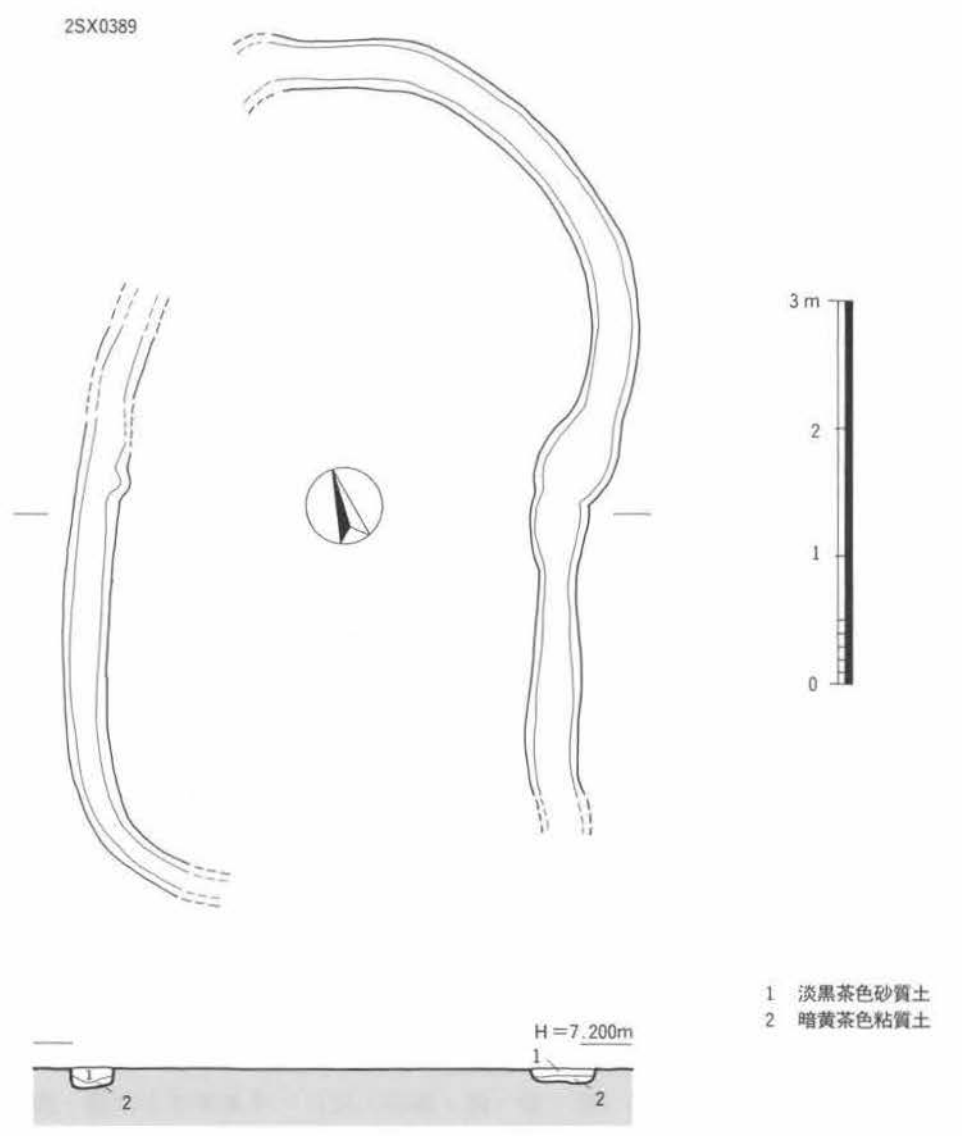
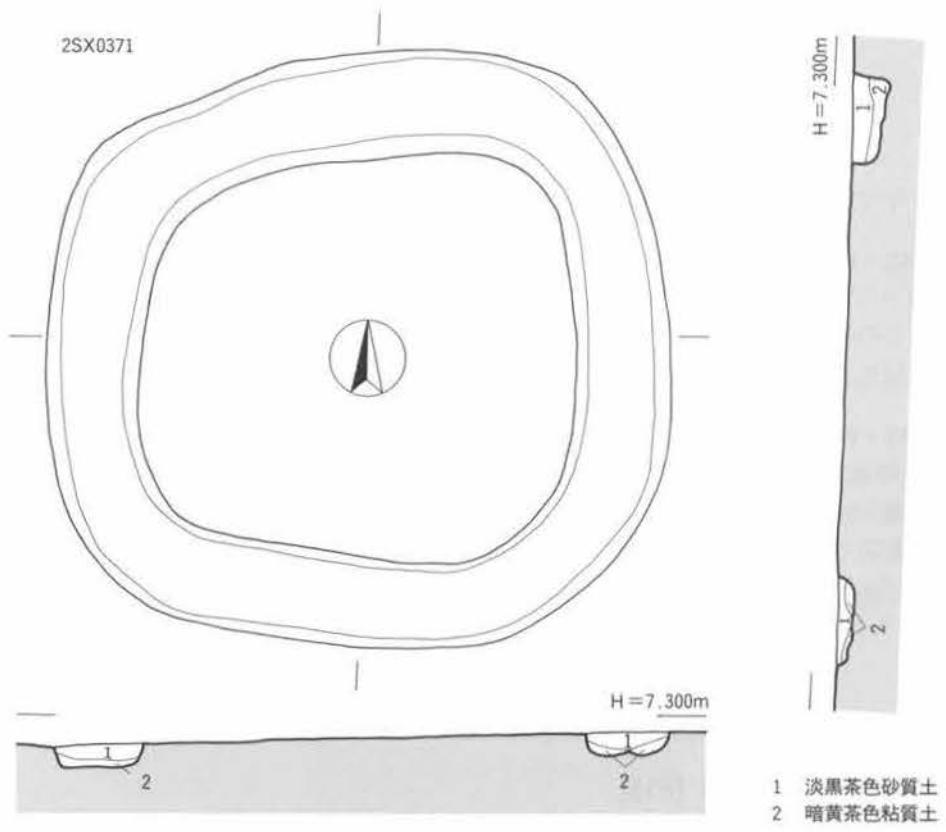


Fig.43 2SX0371・2SX0389実測図 (1/60)



### 周溝状遺構

調査区の南よりで、2基確認している。くずれた長方形のものと隅丸方形のものがある。

#### 2SX0371 (Fig.43・Pla.95・96・97) [R9]

調査区の南寄りにあり、2SK0420・2SK0423・2SK0467を切っている。長軸4.8m短軸4.6m深さ0.2mを測る略方形のもので、長軸軸の方位はN-01°-Eである。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺）・サヌカイト（鏃・剥片）・黒曜石（鏃・剥片）・石包丁がある。

#### 2SX0389 (Fig.43・Pla.98) [R4]

調査区の南端附近にあり、2SK0301・2SK0309・2SK0331に切られていて、2SK0461・2SD0932を切っている。長軸7.0m短軸4.0m深さ0.1mを測る略長方形のものであるが、長辺の中程で鉤型にずれている。その傾向は東辺で顕著である。また、長軸軸の方位はN-24°-Eである。

出土遺物は、弥生土器（甕）がある。

### 溝状遺構

周溝状遺構以外の溝状遺構を報告する。調査区中程の大溝とそれ以外の中小規模のものがある。

#### 2SD0362 (Fig.44・Pla.99・100) [P15]

調査区のやや南寄りにある大溝である。当初、中世の館跡を囲む区画溝かとも考えたが、東側で遺構が途切れて連続性が見られない点や、西側の屈曲部が企画性に乏しいことから別の用途を考えたい。屈曲部から東側は23mの長さを測るが、南側は7mが調査区内であるものの大半は調査区外であると考えられる。断面形状は逆台形で、深さは0.7mを測る。南北部分の略方位はN-75°-Wである。

出土遺物は、須恵器（甕・壺・鉢）・土師器（皿・椀・片）・瓦器（椀）・青磁（竜泉窯系碗）・弥生土器（甕・壺・鉢・片）・土製品（粘土塊）・磨製石剣・サヌカイト（鏃・尖頭器・錐・スクレイパー・剥片）・黒曜石（鏃・ドリル・剥片）・石英（剥片）・片岩（剥片）・石錘・石台・チャート（不明品・剥片）・炭がある。

#### 2SD0528 (Fig.44) [L15]

調査区の中央を南北に走る溝で、略方位はN-27°-Eである。幅7.5m深さ0.3mを測り、断面形状は略逆台形を呈する。

出土遺物は、土師器（甕・壺・鉢）・弥生土器（甕・壺・鉢・高坏・器台・椀・支脚・ミニチュア・片）・投弾・石包丁・磨製石剣・サヌカイト（石核・スクレイパー・ドリル・剥片）・黒曜石（鏃・剥片）・砥石・石製紡錘車・砥石・石英（剥片）・片岩（剥片）・叩き石・凹み石・石錘がある。

#### 2SD0661 (Fig.238) [K26]

調査区の中央附近を南北に走る溝で、略方位はN-42°-Eである。攪乱をはさんで北側の2SD0662あるいは2SD0663の延長部分かと思われるが決め手を欠く。幅0.7m深さ0.3mを測り、断面形状はU字形を呈する。

出土遺物は、弥生土器（甕・片）・サヌカイト（剥片）があるが、いずれも小片のため図化できない。

#### 2SD0662 (Fig.238) [J27]

調査区の中央附近を南北に走る溝で、略方位はN-43°-Eである。ほぼ平行して走る2SD0663を切っている。幅0.7m深さ0.3mを測り、断面形状はU字形を呈する。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・片）・サヌカイト（剥片）黒曜石（石核）がある。黒曜石の石核を写真で報告する以外は、いずれも小片のため図化できない。

#### 2SD0663 (Fig.44) [J28]

調査区の中央附近を南北に走る溝で、略方位はN-36°-Eである。ほぼ平行して走る2SD0662に切られている。幅7.0m深さ0.2mを測り、断面形状は略逆台形を呈する。

出土遺物は、土師器（甕）・弥生土器（甕・壺・蓋・高坏・片）・サヌカイト（鏃・剥片）・黒曜石（剥片）・チャート（剥片）・片岩（剥片）がある。

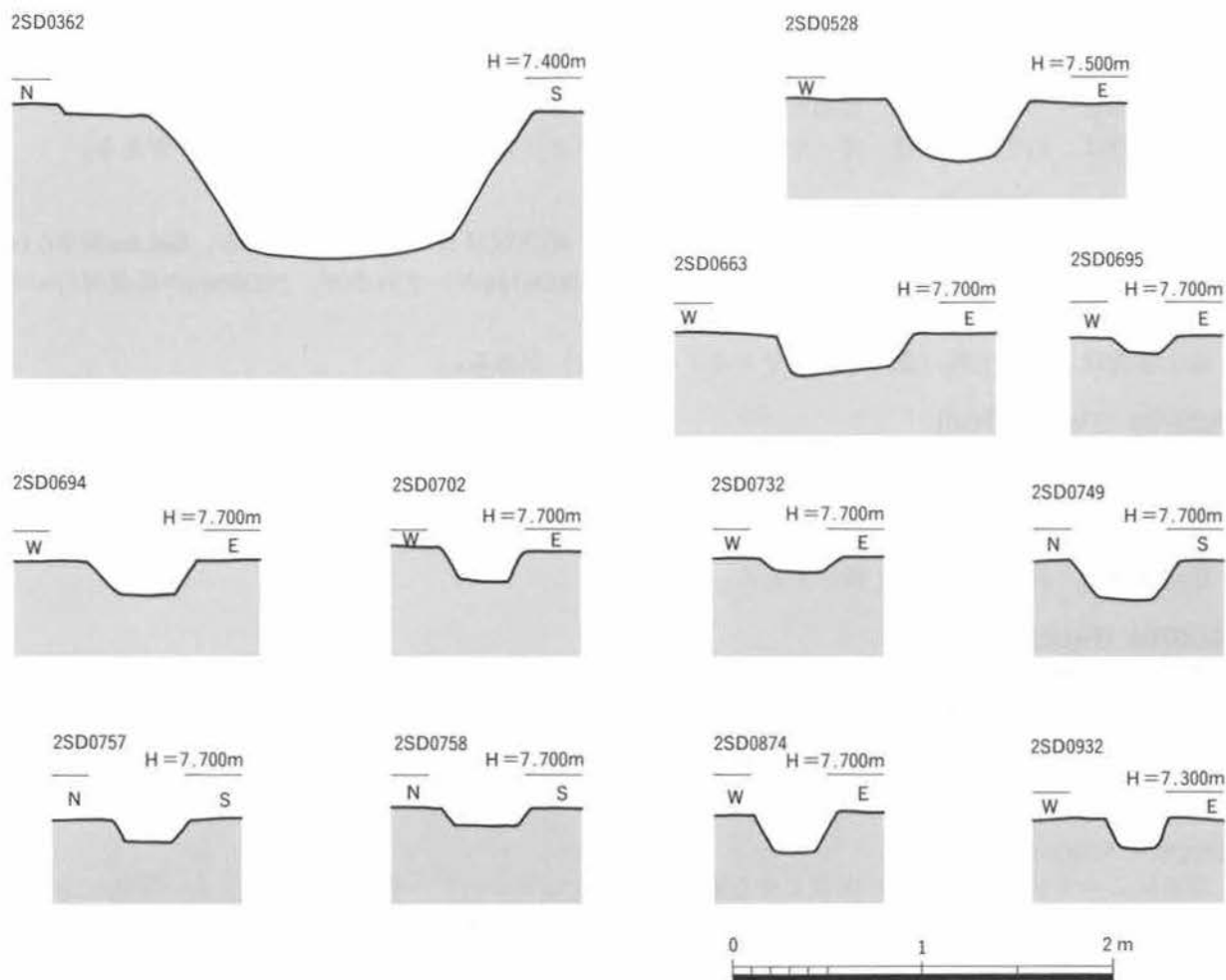


Fig.44 溝状遺構断面実測図 (1/40)

2SD0694 (Fig44) [S25]

調査区の調査区の西端を南北に走る溝で、略方位はN-38°-Eである。幅0.5m深さ0.3mを測り、断面形状は略逆台形を呈する。

出土遺物は、弥生土器（甕・片）・サヌカイト（鏃・剥片）がある。

2SD0695 (Fig44) [S25]

調査区のはほぼ中央附近の西端近くで北西から南東に走る溝で、ほぼ中央で屈曲する。略方位は北半部でN-09°-W、南半部でN-35°-Wである。他の遺構との切り合い関係は、2SI0688に切られ2SK2038を切っている。幅0.3m深さ0.1mを測り、断面形状は略逆台形を呈する。

出土遺物は、土師器（甕・壺・高坏・片）・弥生土器（片）・サヌカイト（剥片）・黒曜石（剥片）砥石がある。

2SD0702 (Fig.44) [O25]

調査区の中央部を南北に走る溝で、略方位はN-19°-Eである。切り合い関係にある遺構のいずれよりも新しい遺構である。幅0.5m深さ0.2mを測り、断面形状は逆台形を呈する。

出土遺物は、土師器（坏or鉢・片）・弥生土器（甕・壺・片）・サヌカイト（鏃・剥片）・黒曜石（剥片）がある。

2SD0752 (Fig.44) [P13]

調査区の北から南へ走る溝で、略方位はN-19°-Eである。幅0.4m深さ0.1mを測り、断面形状は逆台形を呈する。2SD0702の延長部分と考えられる。

出土遺物は、黒曜石（剥片）がある。

2SD0749 (Fig.44) [R35]

調査区の北西隅を斜め方向に走る溝で、略方位はN-57°-Eである。2SK0744・2SK0746を切っている。幅0.6m深さ0.2mを測り、断面形状は逆台形を呈する。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・片）・サヌカイト（ドリル・剥片）・黒曜石（剥片）がある。

2SD0757 (Fig.44) [R33]

調査区の北西隅を南北にSD0749と平行して走る溝で、略方位はN-56°-Eである。幅0.4m深さ0.1mを測り、断面形状は崩れた逆台形を呈する。この溝と2SD0758のいずれかが、2SD0694の延長部分にあたると思われるが、決め手を欠く。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺）・サヌカイト（剥片）がある。

2SD0758 (Fig.44) [R34]

調査区の北西隅を南北に走る溝で、略方位はN-40°-Eである。2SD0757に切られている。幅0.4m深さ0.1mを測り、断面形状は崩れた逆台形を呈する。この溝と2SD0757のいずれかが、2SD0694の延長部分にあたると思われる。決め手を欠くものの、こちらの溝の方が可能性が高いか。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺）がある。

2SD0764 (Fig.237) [N35]

調査区の北端から南に走る溝で、略方位はN-04°-Wである。幅0.4m深さ0.2mを測り、断面形状は略逆台形を呈する。2SD0874の延長部分と考えてよい。

出土遺物は、弥生式土器（甕・壺）・磨製石斧・サヌカイト（剥片）・黒曜石（剥片）がある。弥生土器は亀ノ甲式とみられる。

2SD0874 (Fig.44) [J30]

調査区の中央北側を北西から南東に走る溝で、略方位はN-11°-Wである。切り合い関係にあるすべての遺構を切っている。幅0.4m深さ0.2mを測り、断面形状は略逆台形を呈する。2SD2007はこの溝の延長部分か。

出土遺物は、サヌカイト（鏃・剥片）・黒曜石（鏃・剥片）があるが、土器は認められなかった。

2SD0932 (Fig.44) [S5]

調査区の南西隅に位置する北西から南西に走る溝で、略方位はN-23°-Wである。幅0.3m深さ0.2mを測り、断面形状は略逆台形を呈する。

出土遺物は、弥生土器（甕）がある。

2SX2500

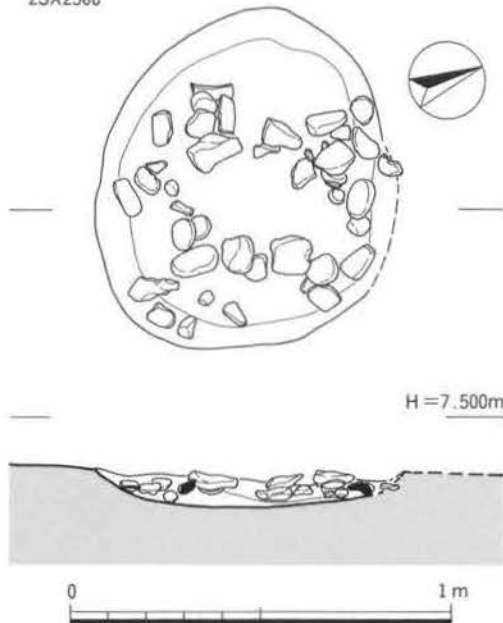


Fig.45 2SX2500実測図 (1/20)

2SD2007 (Fig.238) [S5]

調査区の北東に位置する南北に走る溝で、略方位はN-10°-Eである。幅0.4m深さ0.2mを測り、断面形状は略逆台形を呈する。2SD0874の延長か。

出土遺物は、黒色土器A・弥生土器がある。

石組み炉

1基のみ確認した。検出時には地山に火を受けた小石がめり込んでいるかのような状況であった。念入りに精査したところ、掘り方を確認した。周辺でも石組み炉がないか、一定注意をしていたが、残念ながら検出できなかった。

2SX2500 (Fig.45・Pl100) [N31]

調査区の北側西寄りにあり、平面形態は崩れた長方形を呈する。規模は、長軸0.7m短軸0.5m深さ0.1mを測り、長軸の方位はN-23°-Eである。出土遺物は認められなかった。

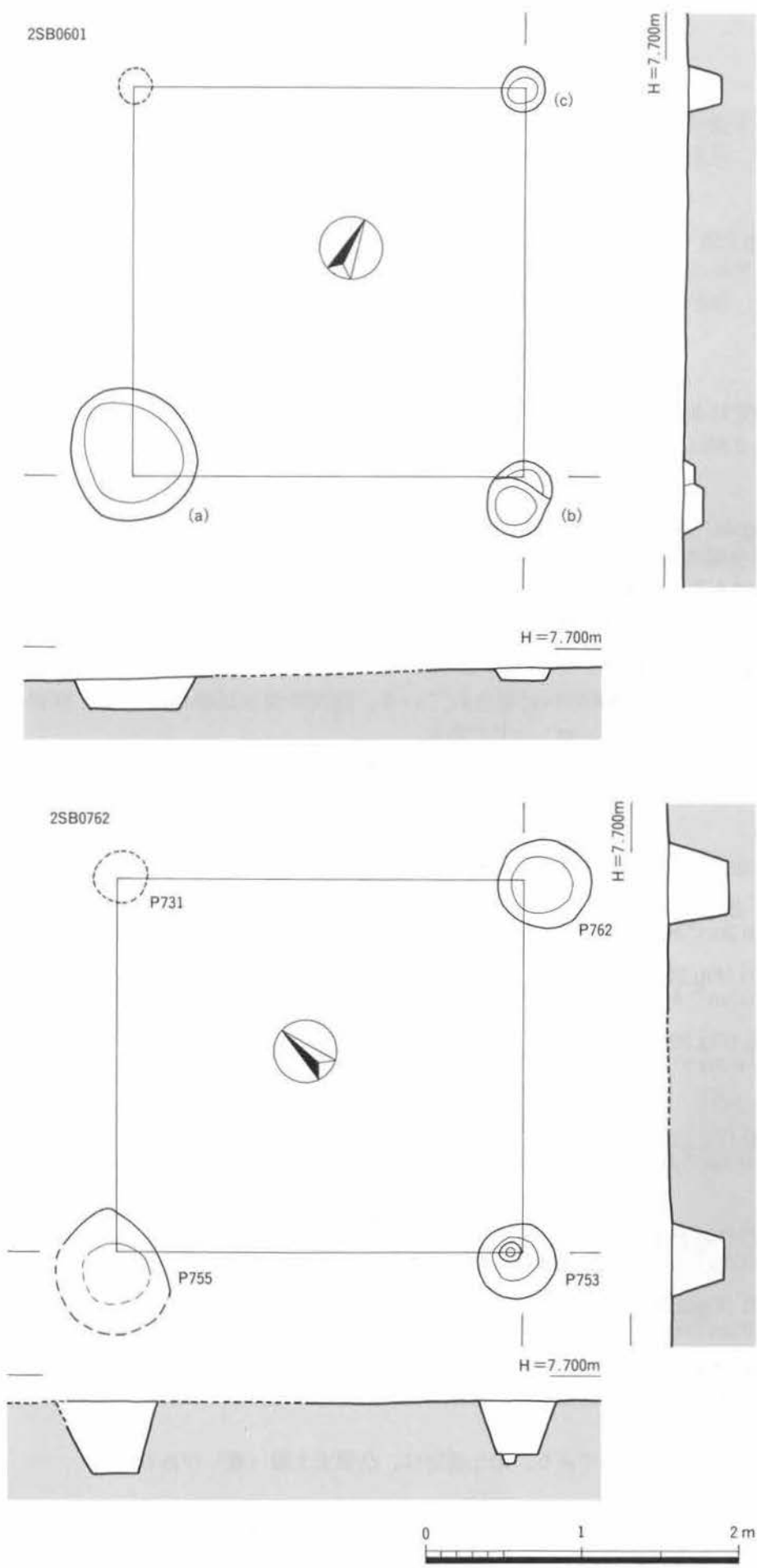


Fig.46 2SB0601・2SB0762実測図 (1/40)

## 井戸

井戸と思しき遺構は数基検出したが、ほとんどは掘り込みが透水層まで達しておらず井戸とは認め難い。その中で、透水層まで達している1基のみを井戸として報告する。これ以外のものは、土坑の項で報告した。

### 2SE0668 (Fig.238) [J26]

調査区の中央附近にあり、2SK0699を切っている。径0.9m深さ1.0mを測る。底面は砂地である。出土遺物は、須恵器（甕・坏）・土師器（坏）・弥生土器（甕・高坏）がある。

## 掘立柱建物

今回の調査では多数の小穴を確認したが、調査現地で建物と認識できたものはない。したがって、ここで報告する2例は、整理作業および本書の刊行準備作業中に図上で復元を行ったのみであることを了解されたい。

### 2SB0601 (Fig.46) [R23]

調査区の中央部西端にあるが、切り合い関係は明確でない。柱穴の深さは概ね0.2mで、柱間は南北2.5m東西2.5mである。主軸の方位はN-25°-Eである。

出土遺物は、弥生土器（甕・壺・片）・サヌカイト（鏃・剥片）がある。

### 2SB0762 (Fig.46) [P35]

調査区の北部にあり、2SK0754に切られている。柱穴の深さは概ね0.4mで、柱間は南北2.6m東西2.4mである。主軸の方位はN-43°-Eである。

出土遺物は、弥生土器（壺・片）・サヌカイト（鏃・剥片）がある。

## その他の遺構

建物として認知できなかった柱穴・不明遺構のうち、出土遺物を図示できたものを報告する。

### 2SP0308[R3] (Fig.238)

径0.5m深さ0.2mである。出土遺物は、弥生土器（甕・壺）・サヌカイト（スクレイパー）がある。

### 2SP0373[O11] (Fig.238)

径0.3m深さ0.3mである。出土遺物は、弥生土器（甕・壺）・サヌカイト（鏃・剥片）がある。

### 2SP0698[L16] (Fig.238)

径0.5m深さ0.5mである。出土遺物は、凸帯文土器（甕）・弥生土器（甕・片）・サヌカイト（剥片）・黒曜石（剥片）・片岩（剥片）がある。

### 2SP0705[P28] (Fig.238)

径0.6m深さ0.4mである。出土遺物は、弥生土器（甕・壺・蓋）・サヌカイト（スクレイパー・剥片）がある。

### 2SP0708[R27] (Fig.238)

径0.3m深さ0.2mである。出土遺物は、凸帯文土器（甕）・サヌカイト（鏃・剥片）がある。

### 2SP0846[R31] (Fig.238)

径0.5m深さ0.2mである。出土遺物は、弥生土器（甕・片）・黒曜石（鏃・剥片）がある。

### 2SP2219[E38] (Fig.238)

径0.3m深さ0.2mである。出土遺物は、弥生土器（片）・石包丁転用の砥石・黒曜石（剥片）がある。

### 2SX2220[E38] (Fig.238)

東西2.2m南北0.6m深さ0.6mである。出土遺物は、凸帯文土器（甕）がある。

遺構番号	地区	主軸または長軸長(m)	対軸または短軸長(m)	残存深さ(m)	主軸または長軸の方位	出土遺物	備考	Fig	Pia
2SK0300	M3	1.9	0.9	0.5	N-75°-E	弥生土器(甕・壺)・土製品粘土塊・サヌカイト剥片・石製紡錘車・チャート剥片		4	3
2SK0301	S4	1.1	1.1	0.4	N-64°-W	弥生土器(甕・壺・不明)・円盤状土製品・サヌカイト剥片・黒曜石剥片・片岩		4	4
2SK0302	N2	1.8	1.1	0.8	N-68°-W	弥生土器(甕・壺・蓋)・黒色磨研土器(壺)・投擲・面子・サヌカイト(織・コア・剥片)・黒曜石(剥片)		4	4・5
2SK0303	N3	1.7	0.9	0.3	N-34°-E	弥生土器(甕・壺)	西端は長軸側0.8m短軸側0.3mの大きさで、さらに0.15cm張り込む。	4	-
2SK0305	P3	2.0(+)	1.1	0.3	N-43°-E	弥生土器(甕・壺)		4	6
2SK0306	R3	1.9	0.9	0.9	N-49°-W	弥生土器(甕・壺・鉢)・サヌカイト(スクレイパー・剥片)・黒曜石(織・ポイント?・剥片)	長軸側両端はオーバーハングして張り込む	5	6・7
2SK0307	R3	1.5	0.9	0.8	N-11°-E	弥生土器(甕・壺・蓋)・投擲・サヌカイト(スクレイパー・織orドリル・ポイント・剥片)・黒曜石(織・剥片)・石英剥片・偏平片刃石斧		5	8・9
2SK0309	R4	2.3	1.2	0.8	N-76°-W	弥生土器(甕・壺・鉢・蓋・大甕)・サヌカイト(スクレイパー・剥片)・黒曜石(ポイント土製品?・剥片)・砥石・局部磨製石斧		5	8・10
2SK0311	Q5	1.4	0.9	0.6	N-74°-W	弥生土器(甕・壺・鉢)		5	11
2SK0313	P5	1.2	0.8	0.2	N-31°-E	弥生土器(甕・壺)		6	11・12
2SK0314	P6	1.9	1.7	0.4	N-15°-E	弥生土器(甕・壺)・面子・サヌカイト(織・剥片)・黒曜石織・炭・不明品		6	13
2SK0316	M4	2.3(+)	0.8	0.6	N-30°-E	弥生土器(甕・壺)・サヌカイト剥片		6	14
2SK0317	N5	2.2	1.1	0.5	N-22°-E	弥生土器(甕・壺・鉢)・サヌカイト(スクレイパー・コア・剥片)・黒曜石剥片		6	15・16
2SK0332	S8	2.1	1.0	0.3	N-65°-W	弥生土器(甕・壺)・サヌカイト剥片・石英剥片		6	-
2SK0334	O6	1.3	0.9	0.4	N-21°-E	弥生土器(甕・壺)・榑輪部系無文土器(甕)・黒曜石剥片		7	18
2SK0335	Q8	1.0	0.5	0.3	N-23°-E	弥生土器(甕・壺)・石		7	15・17
2SK0336	O7	1.2	0.7	0.5	N-46°-W	弥生土器(甕・壺)		7	18・19
2SK0337	Q7	1.1(+)	1.0	0.3	N-77°-W	弥生土器(甕・壺)・黒曜石コア		7	20
2SK0341	S8	2.2	1.4	0.7	N-62°-W	弥生土器(甕・壺)・サヌカイト(織・織未製品・ポイント土製品・剥片)・黒曜石剥片・偏平打製石斧・石英剥片・片岩・石片		7	20
2SK0342	S9	1.6	0.8	0.4	N-53°-W	弥生土器(甕・壺・鉢)・サヌカイト剥片・黒曜石剥片		7	-
2SK0343	Q7	2.3	1.1	0.6	N-10°-E	弥生土器(甕)		7	-
2SK0350	P9	1.9	1.2	0.6	N-07°-E	弥生土器(甕・壺)・土製紡錘車・サヌカイト(?・剥片)・黒曜石剥片		-	-
2SK0351	O10	2.3	1.0	0.4	N-82°-E	弥生土器(甕・壺・鉢)・黒曜石剥片		8	21
2SK0352	P11	0.9	1.1	0.1	N-22°-E	弥生土器(甕)・サヌカイト(スクレイパー・ポイント)		8	22
2SK0353	Q10	1.2	1.0	0.4	N-70°-W	弥生土器(甕・壺)・サヌカイト剥片・黒曜石(織・剥片)		8	22・23
2SK0354	T11	1.1	0.8	0.4	N-38°-E	弥生土器(甕・壺・蓋・器台)・サヌカイト剥片		8	26
2SK0355	Q11	2.9	1.7	0.6	N-21°-E	弥生土器(甕・壺・蓋)・土製紡錘車・サヌカイト(織・スクレイパー・コア・?・剥片)・黒曜石(織・剥片)・石英剥片・チャート剥片・泥岩・緑泥片岩・鉄平石剥片・河原石	中央部はだ円形に張り込み、その部分は1.0mの深さがある。	8	24
2SK0356	T12	1.3	1.0	0.5	N-66°-W	弥生土器(甕・壺)・サヌカイト剥片・片岩剥片・石		9	25
2SK0357	T12	1.7	0.9	0.6	N-66°-W	弥生土器(甕・壺)		9	26・27
2SK0358	R11	0.9	0.8	0.4	N-04°-E	なし		9	28
2SK0359	R14	1.3	1.5	1.4	N-11°-E	弥生土器(甕)・凸帯文土器(甕)		9	29・30
2SK0360	R11	1.1	0.7	0.3	N-33°-E	弥生土器(甕・片)・サヌカイト(織未製品・?・剥片)		9	29
2SK0361	P12	1.2	1.0	0.6	N-31°-E	弥生土器(甕・壺)・黒色磨研土器壺・黒曜石剥片		9	31・32
2SK0363	O11	1.7	1.1	0.9	N-15°-E	弥生土器(甕・壺)・サヌカイト剥片・黒曜石剥片	南端に地山削りだしの層があり、底を打ち欠いた壺を逆さに張る。	10	31・33
2SK0367	N12	1.2	0.7	0.3	N-46°-E	弥生土器(甕・壺)・サヌカイト剥片		10	34
2SK0368	N12	1.1	0.9	0.2	N-25°-W	弥生土器(甕・壺)・サヌカイト(織・ドリル・スクレイパー・剥片)・石包丁		10	34
2SK0369	P11	1.3	1.2	0.5	N-11°-W	弥生土器(甕・壺・蓋・片)・サヌカイト(織・ドリル・コア・剥片)・黒曜石(ポイント・剥片)		10	35
2SK0370	O10	1.4(+)	0.9	0.3	N-34°-E	弥生土器(甕・片)・サヌカイト(スクレイパー・剥片)・黒曜石剥片・片岩剥片		10	35
2SK0374	O12	2.3	1.6	0.5	N-81°-E	弥生土器(甕・壺・片)・偏平片刃石斧・サヌカイト剥片・黒曜石剥片		11	-
2SK0382	Q22	1.4	1.4	0.4	N-28°-W	弥生土器(甕・壺)・サヌカイト(織・剥片)・片岩剥片・石		11	36・37
2SK0383	R22	1.2	1.1	0.4	N-31°-E	なし		11	36・38
2SK0392	P21	0.9	0.9	0.5	N-24°-E	弥生土器(甕・壺・蓋)・土製紡錘車・サヌカイト剥片・黒曜石剥片		11	41
2SK0393	M24	2.4	1.5	0.3	N-69°-W	弥生土器(甕)		12	41
2SK0394	N22	2.2	1.6	0.5	N-79°-W	弥生土器(甕・壺・蓋)・黒色磨研土器壺・土師器(埴・鉢)・黒曜石剥片		12	42・43
2SK0396	S13	1.6	1.3	0.6	N-06°-E	弥生土器(甕・壺・鉢)・サヌカイト(スクレイパー・剥片)・石		12	42・44
2SK0398	O21	2.0	1.5	0.2	N-74°-W	弥生土器(甕・壺・蓋)・サヌカイト剥片・黒曜石(織・剥片)		12	45・46
2SK0399	O21	1.9	1.1	0.6	N-17°-E	弥生土器(甕・壺・鉢)・サヌカイト剥片・黒曜石剥片		13	45・47
2SK0400	Q24	1.2	1.1	0.4	N-39°-E	弥生土器(甕)		13	48・49
2SK0402	U13	2.2	1.0	0.2	N-19°-E	弥生土器(甕・壺・蓋)・サヌカイト剥片・黒曜石剥片・片岩剥片・石	中央部の深さは0.5m	13	-

Tab.1 土坑一覧①



遺構番号	地区	主軸または長軸長(m)	対軸または短軸長(m)	残存深さ(m)	主軸または長軸の方位	出土遺物	備考	Fig	Pla
2SK0405	Q20	4.5	1.5	0.8	N-56°-W	弥生土器(甕・壺・蓋)・粘土塊・サヌカイト(鐵・?・剥片)・黒曜石剥片・片岩剥片		13	—
2SK0406	S13	1.2	0.8	0.2	N-43°-W	弥生土器(甕・壺)		13	—
2SK0416	O18	1.7	1.2	0.5	N-67°-W	弥生土器(甕・壺・鉢)・土製紡錘車・サヌカイト剥片	亀ノ甲式土器	14	51・52
2SK0417	O25	1.9	0.9	0.2	N-27°-E	弥生土器(甕・壺)		14	51
2SK0418	N25	1.9	1.4	0.5	N-59°-W	須恵器(長頸壺・片)・土師器(壺・壺・高坏)・弥生土器(甕・壺・鉢)		14	53
2SK0419	N26	2.0	1.2	0.4	N-75°-W	弥生土器(甕・壺)・サヌカイト剥片		14	54
2SK0420	S10	1.2(+)	0.9	0.5	N-20°-E	弥生土器(甕・壺・蓋・片)・サヌカイト(鐵・スクレイパー)・黒曜石	城ノ越平行	14	53
2SK0423	T10	4.6	1.7	0.5	N-50°-W	弥生土器(甕・壺・蓋)・面子・投擲・粘土塊・サヌカイト(鐵・ドリル・ポイント・スクレイパー・剥片)・黒曜石剥片・石英剥片・扁平打製石斧・砥石		15	56・57
2SK0426	N9	2.1	1.4	0.7	N-79°-W	弥生土器(甕・壺・蓋)・投擲・サヌカイト(鐵・スクレイパー・コア・剥片)・黒曜石剥片		15	56・58
2SK0428	Q20	1.4	1.1	0.4	N-39°-W	弥生土器(甕・壺・鉢)・サヌカイト剥片・黒曜石剥片・石		15	59・60
2SK0429	O9	1.7	1.3	1.0	N-13°-E	弥生土器(甕・壺)	袋状土坑	16	59・61
2SK0431	L16	2.2	1.4	0.5	N-22°-E	弥生土器(甕・壺・片)・凸帯文土器壺・磨製石鏃・サヌカイト剥片・黒曜石剥片		16	62・63
2SK0432	L15	2.4(+)	1.0	0.6	N-69°-W	弥生土器(甕・壺)・面子・粘土塊・サヌカイト(スクレイパー・剥片)・黒曜石剥片		16	62・64
2SK0433	M6	1.9	1.5	1.2	N-80°-E	弥生土器(甕・壺・蓋)・サヌカイト(鐵・コア・剥片)・黒曜石(鐵・剥片)		16	66
2SK0434	N28	2.9	1.8	0.9	N-73°-W	弥生土器(甕・壺・蓋・高坏)・粘土塊・サヌカイト(スクレイパー・コア・剥片)・黒曜石(鐵・剥片)・チャート剥片・片岩剥片・石	床貼りと梯子の痕跡?	17	65
2SK0435	N28	3.2	1.8	1.0	N-56°-W	弥生土器(甕・壺・鉢)・凸帯文土器壺・土製紡錘車・面子・粘土塊・石製紡錘車未製品・石鏃?・磨製石鏃(製品・未製品)・サヌカイト剥片・黒曜石剥片・片岩剥片・石	中央部の円形の回み(径1.0m)の部分は深さ1.5m	17	66・67
2SK0436	N9	0.9	0.9	0.8	N-05°-W	弥生土器(甕・壺)・磨製石斧・サヌカイト(鐵・コア・剥片)・黒曜石剥片	断面図は主軸からずれている	17	68・69
2SK0437	M15	2.5	1.5(+)	0.5	N-79°-W	弥生土器(甕・壺・鉢・高坏・片)・投擲・土製紡錘車・不明土製品・サヌカイト剥片・黒曜石(鐵・剥片)・石英剥片?		18	70
2SK0438	M16	3.1	2.0	0.5	N-11°-E	弥生土器(甕・壺・蓋)・粘土塊?・サヌカイト(鐵・スクレイパー・剥片)・黒曜石剥片		18	71
2SK0439	R28	2.6	1.5	0.5	N-58°-W	弥生土器(甕・壺)・粘土塊・サヌカイト(鐵・剥片)・黒曜石(ドリル・剥片)		18	71
2SK0440	P27	2.5	1.6	0.8	N-45°-E	弥生土器(甕・壺・蓋)・粘土塊・土製紡錘車・石製紡錘車・磨製石斧・サヌカイト(鐵・ドリル・スクレイパー・剥片)・黒曜石(ドリル・剥片)		18	72
2SK0446	Q26	2.5	1.1	0.3	N-18°-E	弥生土器壺		19	73
2SK0449	R27	1.3	0.9	0.2	N-51°-E	なし		19	74
2SK0450	R27	1.4(+)	0.7	0.2	N-39°-W	なし		19	74
2SK0451	L19	3.6	1.4	0.5	N-26°-E	弥生土器(甕・壺・蓋・高坏)・黒色磨研土器壺・石製有孔円盤未製品?・石包丁(1つは立岩産?)・サヌカイト(鐵・ドリル・スクレイパー・コア・剥片)・黒曜石(鐵・剥片)・石英剥片・軽石・石	中期?	19	75
2SK0452	N24	2.1	1.3	0.3	N-18°-W	なし		19	77
2SK0453	T13	2.1	1.2	0.5	N-27°-E	弥生土器(甕・壺・鉢・蓋・不明品)・畿朝鮮系無文土器?壺・黒色磨研土器壺・紡錘車・砥石・サヌカイト(スクレイパー・コア・剥片)	床貼りの痕跡?	19	—
2SK0455	P8	2.4	1.0	0.4	N-11°-W	弥生土器(甕・鉢・不明品)・粘土塊・サヌカイト剥片	城ノ越平行期か?	20	—
2SK0457	P8	2.4	0.6	0.5	N-64°-W	弥生土器(甕・壺)・玄武岩剥片		20	—
2SK0461	S5	1.4	1.1	0.3	N-80°-W	弥生土器(甕・壺)・サヌカイト的針		20	—
2SK0468	T11	1.8	0.9	0.2	N-59°-W	弥生土器(甕・壺・蓋)	中央部東よりの円形の回み(径0.4m)の部分は深さ0.5m	20	—
2SK0480	Q12	1.5	1.0	0.5	N-16°-E	弥生土器(甕・壺・支脚)・サヌカイト剥片・黒曜石剥片		20	—
2SK0483	N11	1.4(+)	1.3	0.3	N-54°-E	弥生土器(甕・壺)・黒曜石剥片	中央部の円形の回み(径0.8m)の部分は深さ0.5m	20	—
2SK0485	M11	1.4	0.9	0.3	N-86°-W	弥生土器(甕・壺)		20	—
2SK0495	Q14	1.7	1.3	0.3	N-25°-E	弥生土器壺		20	—
2SK0501	Q20	1.8	1.3(+)	0.5	N-64°-W	弥生土器(甕・壺)・サヌカイト剥片・黒曜石剥片・片岩		20	76
2SK0506	O18	1.0	0.9	0.7	N-52°-W	須恵器(長頸壺・片)・土師器(皿・杯)・黒色土器(6輪・A輪)・弥生土器(甕・片)・サヌカイト(鐵・剥片)・黒曜石剥片		21	77
2SK0507	O19	1.8	0.6	0.2	N-86°-W	弥生土器(甕・壺)・畿朝鮮系無文土器壺・サヌカイト剥片・黒曜石剥片・石製品		21	—
2SK0524	O22	2.7	1.9	0.9	N-65°-W	弥生土器(甕・壺・鉢・蓋・支脚)・土製紡錘車・面子・サヌカイト(鐵・スクレイパー・コア・剥片)・黒曜石剥片・石英剥片・片岩剥片	中央部の円形の回み(径0.7m)の部分は深さ1.2m	21	78・79
2SK0525	L29	2.6	1.2	0.5	N-45°-E	弥生土器(甕・壺・鉢)・投擲・面子・粘土塊・砥石・サヌカイト(鐵・スクレイパー・剥片)・黒曜石剥片・石英剥片・片岩剥片・すり石・石		21	78
2SK0540	O20	2.7	1.1	1.1	N-75°-W	弥生土器(甕・壺・蓋)・石包丁・サヌカイト(鐵・?・剥片)・黒曜石剥片		22	—
2SK0541	N20	3.1	1.6	0.7	N-65°-W	弥生土器(甕・壺・?)・投擲・面子・石包丁・サヌカイト(鐵・スクレイパー・コア・剥片)・黒曜石的針		22	80

Tab.2 土坑一覧②



遺構番号	地区	主軸または長軸長(m)	対軸または短軸長(m)	残存深さ(m)	主軸または長軸の方位	出土遺物	備考	Fig	Pla
2SK0542	N20	1.5	0.9	0.9	N-25°-E	弥生土器(壺・甕)、投擲・石包丁・サヌカイト(鏝・ドリル・スクレイパー・コア・剥片)、黒曜石剥片		22	-
2SK0552	P26	4.7	1.4	1.4	N-32°-E	弥生土器(壺・甕・蓋)、投擲		22	-
2SK0553	P26	1.1	1.0	0.1	N-86°-E	土師器(環・弥生土器)		23	-
2SK0557	T10	1.7	0.8(+)	0.6	N-64°-W	弥生土器(壺・サヌカイト剥片)、黒曜石剥片・片岩・鉄釘		23	-
2SK0558	P24	3.0	2.2	0.5	N-28°-E	弥生土器(壺・甕・高・ミニチュア)、粘土塊・石製紡錘車・石包丁・砥石・サヌカイト(鏝・スクレイパー・コア・剥片)、黒曜石剥片・チャート剥片・片岩剥片・玄武岩片・石		23	81
2SK0560	O24	1.8	0.8	0.3	N-26°-E	弥生土器(壺・サヌカイト剥片)		23	-
2SK0562	N25	1.5	0.9	0.5	N-55°-W	弥生土器(壺・甕・鉢)、サヌカイト剥片、黒曜石剥片		23	-
2SK0570	N23	1.8	1.2	0.3	N-18°-E	弥生土器(壺・甕)、サヌカイト剥片、黒曜石剥片		23	-
2SK0580	L21	2.6	1.6	1.0	N-21°-E	土師器(埴・鉢)、弥生土器(壺・甕・大甕)、投擲・サヌカイト(鏝・剥片)、片岩剥片		24	-
2SK0581	L22	2.6	1.8(+)	0.6	N-25°-E	土師器(埴・鉢)、弥生土器(壺・片)、サヌカイト剥片、黒曜石剥片		24	-
2SK0582	L31	2.5	1.2	0.3	N-63°-W	弥生土器(壺・甕)、投擲・粘土塊・紡錘車・サヌカイト(鏝・ポイント・剥片)、黒曜石剥片・片岩剥片・チャート剥片		24	-
2SK0583	R22	1.9	1.6	0.9	N-36°-E	弥生土器(壺・甕・蓋)、粘土塊・紡錘車・支脚・石剣未製品・サヌカイト(ポイント・剥片)、黒曜石剥片、チャート剥片	土器は2SK0598の遺物が混じるか?	24	81・82・83
2SK0584	R26	2.0	1.2	0.9	N-12°-W	弥生土器(壺)	亀ノ甲式土器(板付・平行か?)	24	84
2SK0590	T17	1.1	1.1	0.4	N-74°-W	土師器(壺・環・高坏・鉢・ミニチュア)		25	-
2SK0591	S19	2.0	1.3	0.9	N-54°-W	弥生土器(壺・甕)、陶器(壺・黒曜石(鏝・剥片))	陶器は混入か?	25	-
2SK0596	M26	1.7(+)	1.4	0.6	N-40°-W	弥生土器(壺・凸帯文土器(壺・サヌカイト(鏝・ドリル・剥片))、黒曜石コア		25	85
2SK0597	H29	3.3	1.4	0.4	N-23°-E	弥生土器(壺・甕・鉢・蓋)、凸帯文土器(壺・鉢)、粘土塊・サヌカイト(スクレイパー)、黒曜石剥片・片岩剥片		25	84
2SK0598	H28	2.0	1.3	0.9	N-28°-E	石包丁・叩き石・サヌカイト(スクレイパー・剥片)、黒曜石(鏝・剥片)	土器は2SK0583に混じるか?	25	86
2SK0599	M25	2.3	2.2	0.6	N-64°-W	弥生土器(壺・甕・器台・鉢)、凸帯文土器(壺・サヌカイト(未製品・剥片)、黒曜石剥片、扁平打製石斧		26	-
2SK0610	M28	2.2	1.1	0.6	N-23°-E	弥生土器(壺・甕)、サヌカイト(鏝・ドリル・剥片)、黒曜石剥片		26	-
2SK0635	K29	1.4	1.2	0.5	N-52°-W	弥生土器(壺・甕・鉢・支脚・ミニチュア)、凸帯文土器(壺・粘土塊・面子・サヌカイト(コア・剥片)、黒曜石剥片・片岩剥片・石		26	-
2SK0675	K31	1.2	1.1	0.5	N-90°-E	土師器(壺・高坏・ミニチュア高坏)、弥生土器(壺・甕)、サヌカイト(鏝・剥片)、黒曜石剥片・片岩剥片		26	-
2SK0680	O17	1.8	0.8	0.8	N-24°-E	弥生土器(壺・甕)、投擲・サヌカイト(鏝・ドリル・スクレイパー・剥片)、黒曜石剥片		26	-
2SK0682	L32	2.9	0.7	0.4	N-61°-W	弥生土器(壺・甕)	東側テラスは深さ0.1m	26	-
2SK0745	Q24	2.3	1.2	0.4	N-13°-E	弥生土器(壺・甕・鉢)、石包丁		27	-
2SK0751	P33	1.8	1.8	0.5	N-50°-W	弥生土器(壺・甕・鉢)、サヌカイト剥片、黒曜石剥片		27	-
2SK0765	N35	1.5	1.1	0.5	N-11°-E	弥生土器(壺・甕・短蓋甕・不明品・片)、サヌカイト(ドリル・剥片)		27	-
2SK0766	N35	2.4	1.5	0.5	N-23°-E	弥生土器(壺・甕・蓋)、サヌカイト剥片・片岩剥片		27	-
2SK0800	O29	4.1	2.2	0.9	N-66°-W	弥生土器(壺・甕・蓋・支脚・ミニチュア)、黒色磨研壺・彩文土器(壺・粘土塊・サヌカイト剥片、黒曜石(壺・剥片)、石		27	-
2SK0825	O32	1.9	1.1	0.5	N-10°-E	弥生土器(壺・甕・蓋)、サヌカイト剥片、黒曜石(壺・剥片)、石		28	-
2SK0830	P32	1.3	0.8	0.2	N-49°-E	弥生土器(壺・甕)、サヌカイト(鏝・スクレイパー・剥片)、黒曜石剥片	亀ノ甲古段階か?	28	-
2SK0843	Q30	2.7	1.3	0.5	N-44°-E	弥生土器(壺・甕・蓋)、すり石・石鏝・サヌカイト剥片、黒曜石剥片・石		28	-
2SK0849	S33	1.2	1.2	0.3	N-18°-E	弥生土器(壺・甕・蓋・鉢)、サヌカイト剥片、黒曜石剥片		28	-
2SK0850	S33	2.5	1.6	0.4	N-29°-E	弥生土器(壺・甕)、石包丁未製品、磨製石斧、サヌカイトコア、黒曜石(鏝・ドリル・剥片)	断面図は主軸からずれている	28	-
2SK0853	S33	2.5	1.5	0.4	N-29°-E	弥生土器(壺・甕)、黒曜石剥片	断面図は主軸からずれている	28	-
2SK0858	M29	2.3	1.1	0.7	N-83°-W	弥生土器(壺・甕・蓋)、黒曜石剥片		29	-
2SK0872	L32	1.8	0.9	0.4	N-72°-W	弥生土器(壺・甕)、サヌカイト(スクレイパー・剥片)、黒曜石剥片		29	-
2SK0878	D31	2.3	1.7	0.6	N-47°-W	弥生土器(壺・甕・蓋・支脚)、畿河鮮系無文土器(壺・石包丁・砥石・サヌカイト剥片、黒曜石剥片)	底面に径1.1m深さ0.3mの円形の凹みあり	29	87
2SK0909	P22	1.4	1.3(+)	0.7	N-64°-W	弥生土器(壺・甕)、彩文土器(壺)		29	-
2SK0912	S22	2.1	1.5	0.3	N-65°-W	弥生土器(壺・甕)、サヌカイト剥片、黒曜石剥片	中央部の凹み部分の深さは0.5m	29	-
2SK0951	S27	1.5	1.0	0.2	N-63°-W	弥生土器(壺・甕)、サヌカイト剥片		29	-
2SK0955	T28	1.3	1.0	0.3	N-73°-W	弥生土器(壺・甕)、凸帯文土器(壺)		30	-
2SK0956	T29	1.5	1.4	1.5	N-65°-W	土師器(壺・蓋・環・鉢・ミニチュア)、弥生土器(壺・片)		30	-
2SK0976	O31	1.8	1.4	1.0	N-66°-E	土師器(壺・片)、瓦葺輪、弥生土器(壺・サヌカイト剥片、黒曜石剥片)		30	-
2SK0981	L31	2.4	1.5	0.3	N-39°-E	弥生土器(壺・甕)、サヌカイト(鏝・剥片)		30	-
2SK0989	N33	1.9	1.1	0.3	N-18°-E	弥生土器(壺・甕)、畿河鮮系無文土器(壺・サヌカイト(鏝・剥片)、黒曜石剥片、陶器片)	陶器片は混入か?	30	-
2SK0990	M32	1.5	1.0	0.4	N-26°-E	弥生土器(壺・甕・蓋・大甕)、サヌカイト剥片、黒曜石ドリル		30	-

Tab.3 土坑一覧③

遺構番号	地区	主軸または長軸長(m)	対軸または短軸長(m)	残存深さ(m)	主軸または長軸の方位	出土遺物	備考	Fig	Pla
2SK0999	J31	1.8	0.7	0.2	N-70° - E	須恵器器蓋・弥生土器(甕・壺・高坪・ミニチュア)・凸帯文土器壺・サヌカイト剥片・黒曜石剥片		31	—
2SK2008	T10	2.6	1.6	0.8	N-16° - E	弥生土器(甕・壺・蓋)・石製紡錘車・サヌカイト(織・スクレイパー・剥片)・黒曜石(織・剥片)・片岩剥片・チャート剥片・礫石		31	—
2SK2009	U11	2.1	2.1	1.4	N-69° - W	弥生土器(甕・壺・蓋・脚付鉢)・サヌカイト剥片・石		31	—
2SK2013	E30	3.2	1.9	0.9	N-39° - E	弥生土器(甕・壺・蓋・甕箱)・石包丁・サヌカイト(ドリル・スクレイパー・コア・剥片)・黒曜石剥片		31	—
2SK2017	E32	2.6	1.0	0.5	N-38° - E	弥生土器(甕・壺・蓋・甕箱)・石包丁未製品・サヌカイト剥片		31	—
2SK2025	O20	2.4	1.6	0.5	N-75° - W	土師器(甕・ミニチュア鉢)・弥生土器(甕・壺)・サヌカイト(織・剥片)・黒曜石蓋		33	—
2SK2027	P23	9.9	2.5	0.4	N-04° - E	弥生土器(甕・壺・甕箱)・凸帯文土器壺・サヌカイト剥片・石		32	—
2SK2028	O22	1.7	1.3	0.8	N-13° - W	弥生土器(甕・壺・蓋)		32	—
2SK2029	P22	2.4	2.4	1.0	N-81° - W	弥生土器(甕・壺・蓋・鉢・甕箱)・サヌカイト(コア・剥片)		32	—
2SK2056	P26	1.4(+)	1.7(+)	0.3	N-28° - E	弥生土器(甕箱・蓋)・サヌカイト未製品・炭		33	—
2SK2111	H26	1.7	0.9	0.7	N-48° - W	弥生土器(甕・壺)		33	—
2SK2145	E26	1.9	1.4	1.0	N-32° - E	弥生土器(甕・壺・蓋)・サヌカイト剥片	亀ノ甲式土器	33	—
2SK2160	E29	3.4	2.3	0.7	N-30° - E	弥生土器(甕・壺・鉢)・礫石		33	—
2SK2162	G30	1.8	1.8	0.7	N-63° - W	弥生土器(甕・鉢・甕箱)・サヌカイト剥片		33	—
2SK2167	F32	2.0	1.2	0.6	N-37° - W	弥生土器(甕・壺)・サヌカイト(織・コア・?・剥片)・黒曜石剥片	城ノ越平行期	34	—
2SK2171	F33	1.7	1.2	0.5	N-30° - E	弥生土器(甕・壺)	亀ノ甲式土器	34	—
2SK2172	G33	1.9	1.4	0.3	N-57° - W	弥生土器(甕・壺)・サヌカイト剥片		34	86
2SK2180	E34	2.6	1.6	0.9	N-57° - W	弥生土器(甕・壺)	底面を横断する3つの楕円形の小穴を連結させる	34	—
2SK2204	D36	2.2	1.2	0.3	N-27° - E	弥生土器(甕・壺)・サヌカイト剥片		34	—

Tab.4 土坑一覧④



発掘調査風景

### 3. 出土遺物

今回の調査では、現地での発掘調査終了時でパンコンテナー219箱分の遺物が出土した。しかも廃棄土坑を中心に、出土した土器が比較的高い割合いで復元あるいは図上復元が可能なものであり、破片資料は大半の報告を断念せざるを得なかった。石器も膨大な数にのぼり、未製品及び剥片を中心に図示を見送ったものが多数存在する。このことを前提に、本書を理解されるようお願いしたい。

なお、本書での個々の遺物の報告は、原則として本項末尾の一覧表によっている。その上で、特徴のある遺物や、まとまりが見られる遺物などについて本文で解説を行っている。したがって、本文に記載がなく一覧表にのみ掲載された遺物が大半であることを注意されたい。

土器の中に擬朝鮮系無文土器としたものがあるが、現実には弥生土器とほとんど区別がつかないものも含んでいる。本書では、口縁部の粘土帯の貼付け痕が明瞭に残り体部が丸みを帯びて膨らむ等の特徴をもって擬朝鮮系無文土器とした。朝鮮半島の無文土器との比較、当地での弥生土器化の過程と属性の検討を詳細に行った上で判定している訳ではない。

石器は、可能な限り推定される石材の産地を一覧表に記載した。石材産地は、サヌカイトが多久（佐賀県多久市）・多久以外（産地不明）を、黒曜石が腰岳（佐賀県伊万里市）・阿蘇（熊本県一の宮町）・姫島観音崎（大分県姫島村）・椎葉川（佐賀県嬉野町）を、玄武岩が今山（福岡県福岡市）を想定して肉眼での観察で区分した。なお、姫島観音崎産の黒曜石は確認できなかった。また、柱状片刃石斧等に使用されている粘板岩は産地が全く特定できない。筑後市およびその近郊で見かけないものであることだけは確実なようである。（註1）

以下、出土した遺構毎に報告する。

#### 2SK0300出土遺物 (Fig.47・Pla.101)

甕の資料のうち、3の外底面には靱圧痕が2ヶ所認められる。10には外底面に爪によるものではないかと思われる圧痕が2ヶ所認められる。16は壺であるが、口縁端部外面を肥厚させている。甕・壺のいずれも、粘土の接合状況が観察できるものは内傾接合である。

#### 2SK0302出土遺物 (Fig.49・Pla.101)

4は甕の口縁部であるが、口縁部の形状に特徴がある。口縁部の貼付け凸帯を薄く外方に引き延ばし、内面側も内側につまみ出している。その結果、口縁部の断面形状は鋏先状ともいえるものとなっている。もちろん、須久式に代表される鋏先状口縁とは趣が異なる。8と9は壺であるが、同一個体の可能性がある。11はI層出土の壺であるが、非常に器壁が薄いのが目をひく。16はII層出土の甕であるが、外面だけを見ると恰も如意形口縁かと思いがうものである。断面を観察すると、貼付け凸帯の下端を非常に滑らかに整形しているものであることが理解できる。17も同じくII層からの出土である。壺の口縁端部に細かい刻目を施している。甕・壺のいずれも、粘土の接合状況が観察できるものは内傾接合である。

#### 2SK0303出土遺物 (Fig.50・Pla.101)

1は甕であるが、2SK0302出土のもの4に近い断面形状を持つ。ただし、内側につまみ出しは明瞭でない。5はII層出土の甕であるが、1と同様の器形である。粘土の接合状況が観察できるいずれの甕も、内傾接合である。

#### 2SK0304出土遺物 (Fig.51・Pla.101)

7は甕の口縁部である。一見貼付け凸帯状に見えるが、口縁部できつく屈曲させて口縁端部に刻目を施している。

#### 2SK0306出土遺物 (Fig.51・Pla.101・102・141)

8は半裁時に出土した甕であるが、大きくひろく口縁部が目をはく。外反した口縁部の端部を僅かに内湾させている。9は同じく半裁時に出土した甕の底部である。底部が張り出し、凸帯文土器の面影を残す。14はI層出土の甕であるが、口縁部が特徴的である。口縁部は一度外反させた上部を内側に折り返して肥厚させている。口縁端部と胴部凸帯に浅い刻目を施す。15も半裁時に出土した甕であるが、如

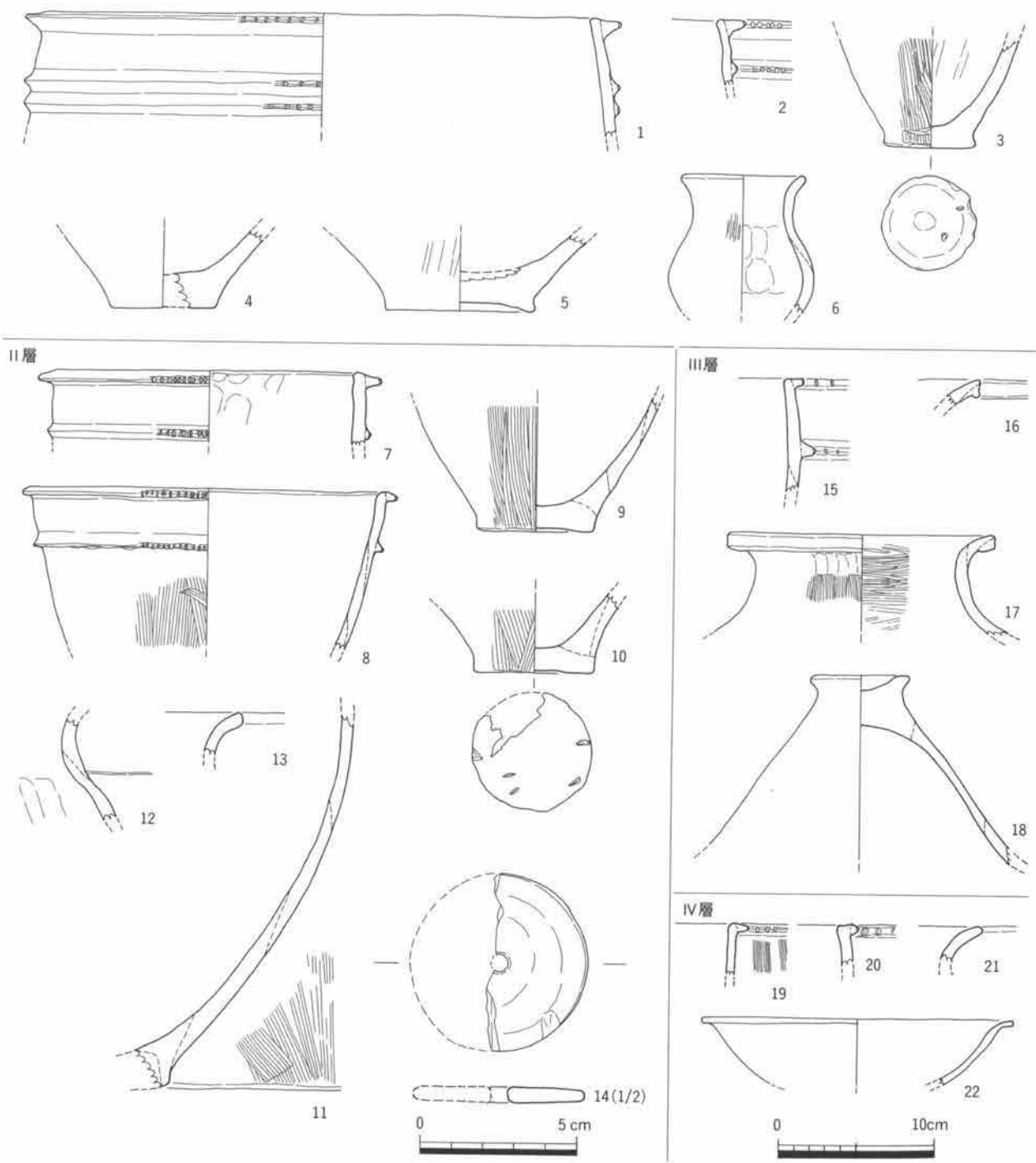


Fig.47 2SK0300出土遺物実測図 (1/4・1/2)

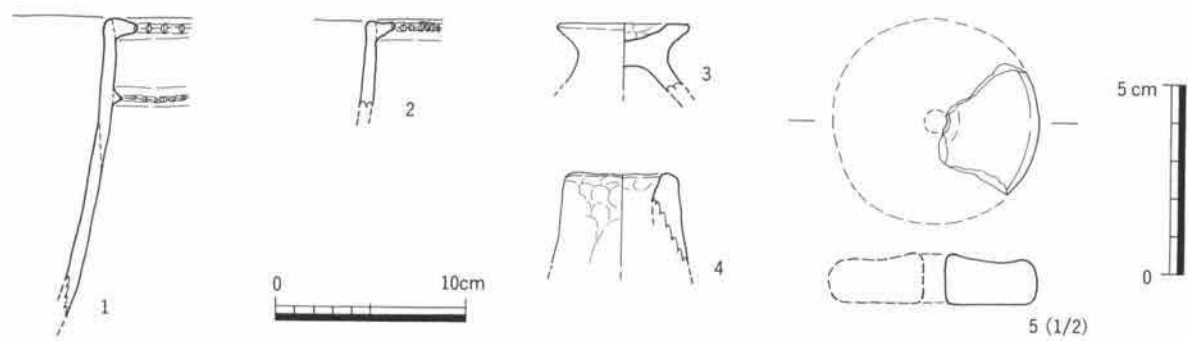


Fig.48 2SK0301出土遺物実測図 (1/4・1/2)

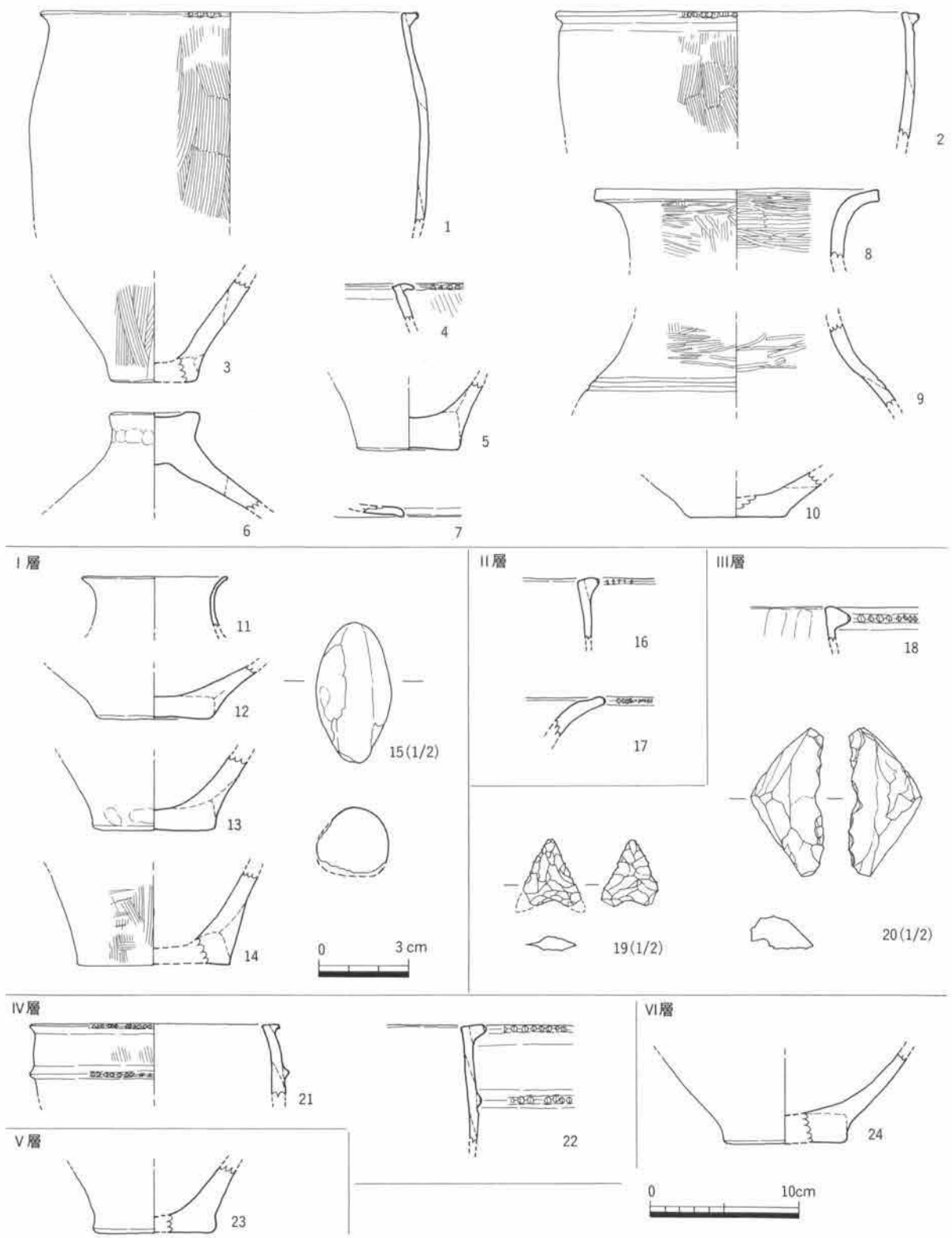


Fig.49 2SK0302出土遺物実測図 (1/4・1/2)

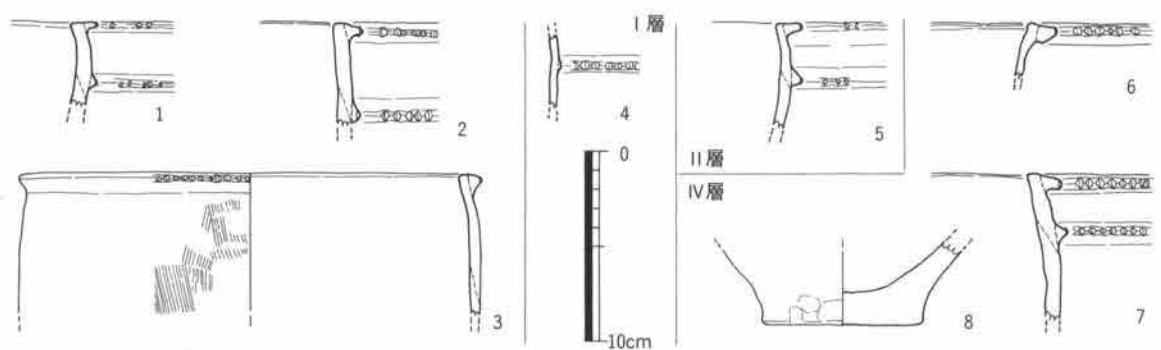
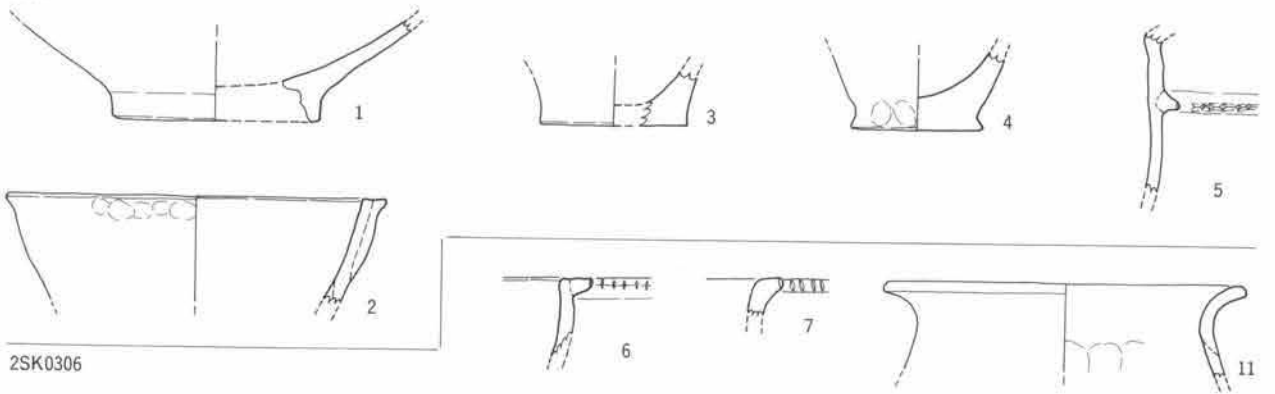
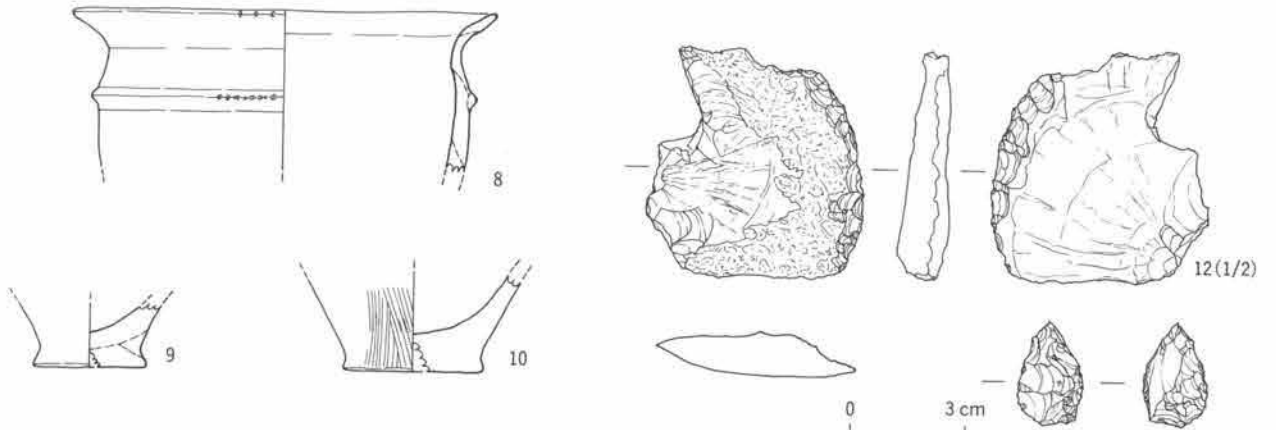


Fig.50 2SK0303出土遺物実測図 (1/4)

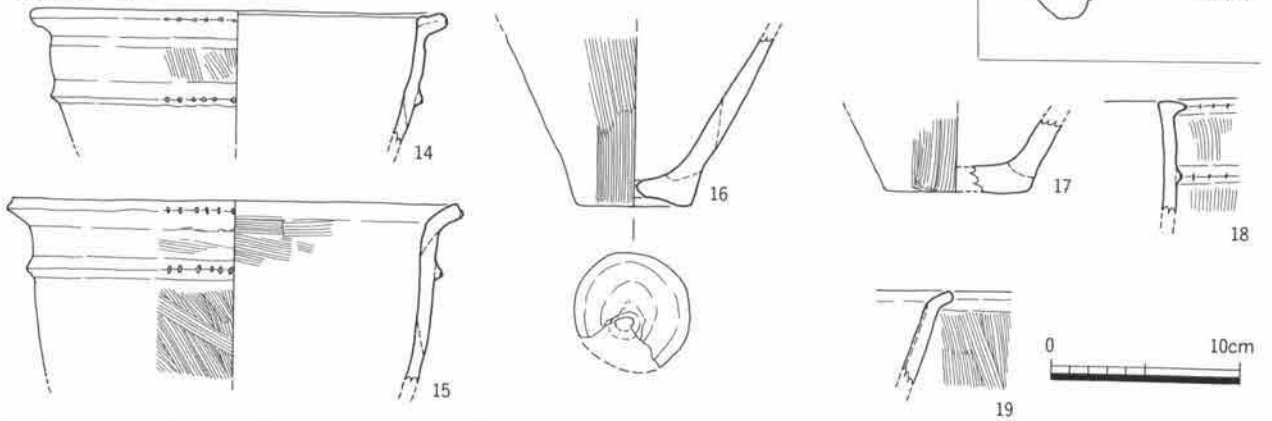
2SK0304



2SK0306



2SK0306 I層



2SK0306 II層

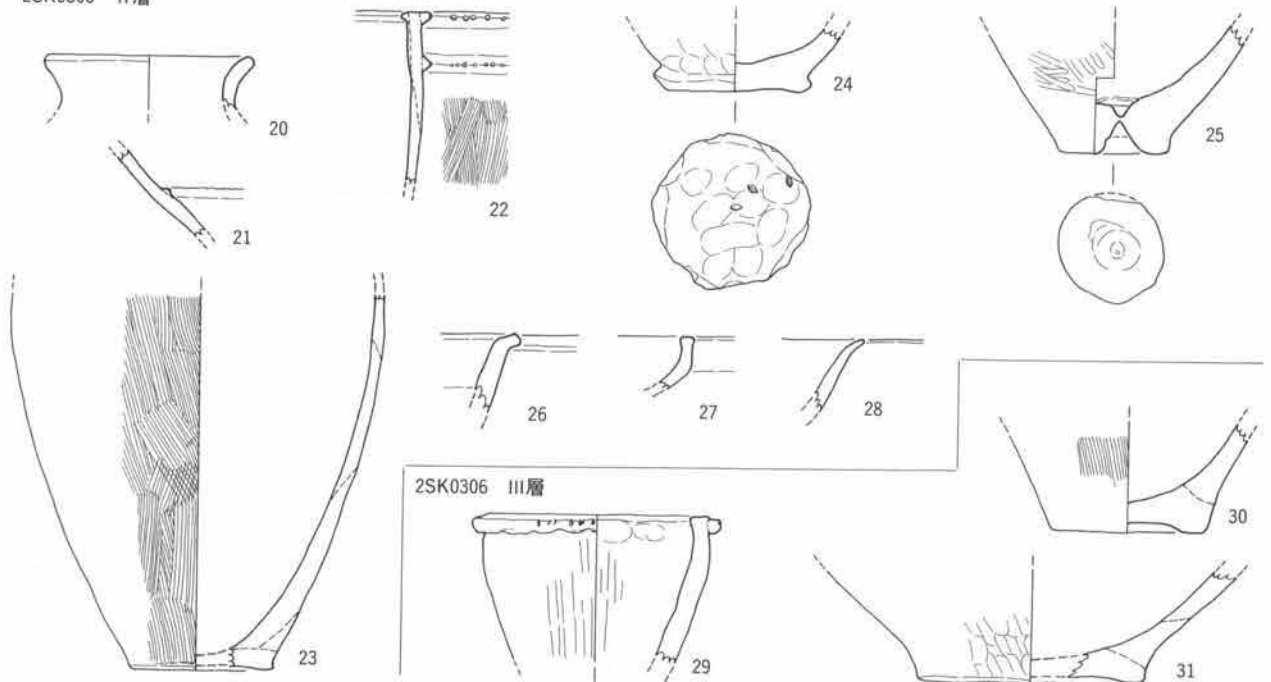


Fig.51 2SK0304・2SK0306出土遺物実測図 (1/4・1/2)



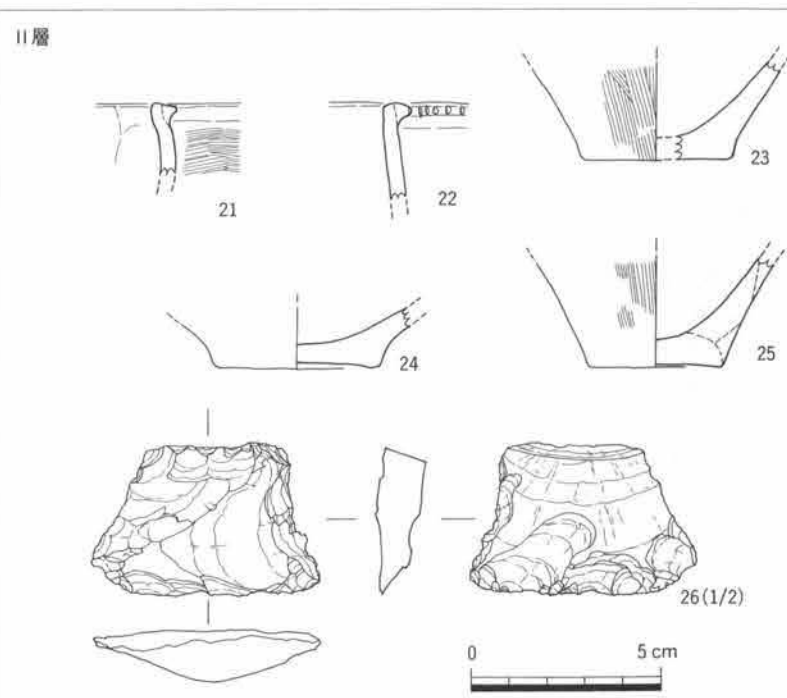
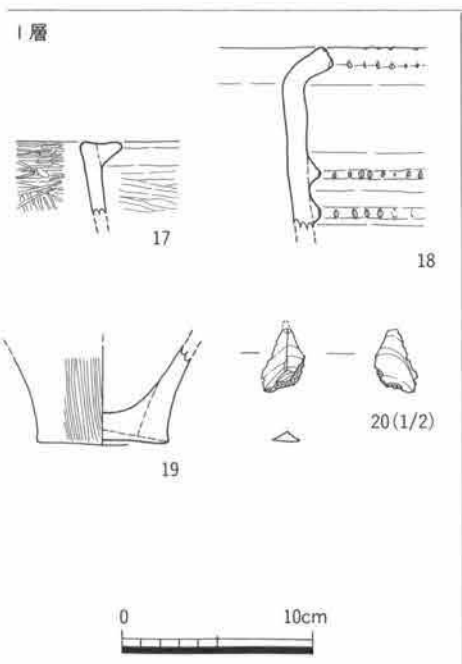
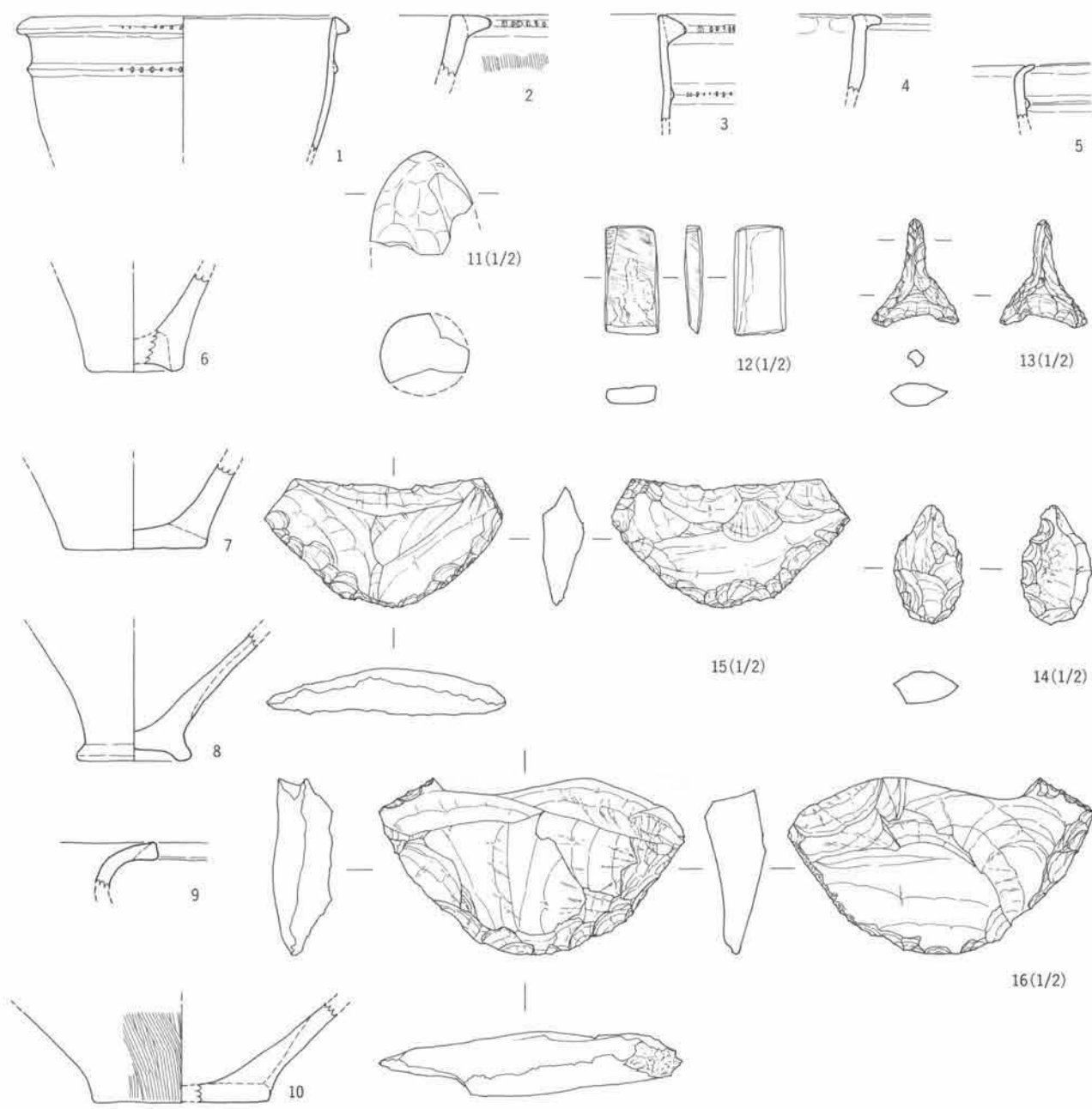


Fig.52 2SK0307出土遺物実測図① (1/4・1/2)



意形に外反した口縁端部の面下端に刻目を施す。板付Ⅱ式土器と同様の構造である。24はⅡ層出土の甕底部であるが、外底面に刳痕が2ないし3ヶ所認められる。中央に近い1ヶ所は判然とない。また、胴部への立ち上がりが丸みを帯びており、擬朝鮮系無文土器かとも思われるが確証に欠く。29はⅡ層出土の擬朝鮮系無文土器と思われる資料である。土器の法量に比して器壁が厚い。口縁部は粘土紐を貼付けて凸帯とし、刻目を施すが、凸帯は粘土紐の形状をよく留めている。体部は口縁部直下で僅かに膨らみ、丸みを帯びる。甕・壺のいずれも、粘土の接合状況が観察できるものは内傾接合である。

#### 2SK0307出土遺物 (Fig.52・53・Pla.102・141)

2は粘板岩を加工した偏平片刃石斧である。加工は丁寧で、刃部も体裁よくつくられている。27はⅢ層出土の甕である。口縁部は一見貼付け凸帯かと思いがうが、強く屈曲させて整形されている。胴部凸帯から上位が肥厚するが、粘土の貼り足しは見られず段甕とは成形技法が異なる。28はⅢ層出土の甕底部であるが、中実台をもつものである。甕・壺のいずれも、粘土の接合状況が観察できるものは内傾接合である。

#### 2SK0309出土遺物 (Fig.54・55・Pla.102・141)

11はⅠ層出土の甕である。胴部に2条の凸帯が巡る。胴部凸帯から上位は粘土を貼り足して肥厚させるが、胴部凸帯から下位と器壁に大きな違いはみられない。構造上は段甕と同じであるが、形態的な面から通常の甕としたい。12はⅡ層出土の甕であるが、擬朝鮮系無文土器の可能性がある。口縁部凸帯は粘土紐の形状をよく留めている。16・17・20はⅣ層出土の甕であるが、擬朝鮮系無文土器と思われる。いずれも口縁部凸帯が粘土紐の形状をよく留ており、体部は口縁部直下で僅かに膨らんで丸みを帯びる。甕・壺のいずれも、粘土の接合状況が観察できるものは内傾接合である。32はⅤ層からの出土で、携帯用の砥石と思われる。

#### 2SK0314出土遺物 (Fig.58・Pla.103)

26はⅠ層出土の壺である。短頸壺であるが、頸部から上位が非常に短く器形は無頸壺に近い。

#### 2SK0316出土遺物 (Fig.60・Pla.103)

2は甕である。口縁部と胴部に各1条の凸帯を持つが、口縁部のものは貼付けであるか折曲げによるものか判然としない。体部上位の内面に工具痕が顕著である。甕・壺のいずれも、粘土の接合状況が観察できるものは内傾接合である。

#### 2SK0317出土遺物 (Fig.61・Pla.103)

4は鉢体部の小片ではないかと思われるが、断面三角形の凸帯を円形に貼付けている。器面も丁寧にナデてあり、縄文土器の精製品あるいは半精製品を思わせる仕上げである。

#### 2SK0330出土遺物 (Fig.62・Pla.103・141)

4は甕であるが、底部に中実の台がつくものである。台と体部の接点は絞り込んであり、もっとも窄まった部分に三角凸帯が1条巡る。凸帯に刻目は認められない。粘土の接合は内傾接合である。7も4と同様の形状の甕底部の資料である。

#### 2SK0331出土遺物 (Fig.63・Pla.104・141)

4は甕の口縁部であるが、胴部の凸帯が3条巡るものである。ただし、胴部凸帯の最上位のものは口縁部凸帯の下位のものとすべきかもしれない。12は蓋である。法量からして、小型壺と組み合わせたとの推察される。口縁部近くに2つの穴が1組にして穿たれ、紐等を通してあったことが知れる。対辺を欠損しているため、穴が2組あったかどうかは判然としない。なお、穿孔は焼成前である。

#### 2SK0332出土遺物 (Fig.64・Pla.104)

4は甕であるが、口縁部に特徴がある。ごく小さな鋏先状とでも表現すべき形状である。この類型は他の遺構では見当たらない。

#### 2SK0334出土遺物 (Fig.65・Pla.104)

4は甕底部である。外底面に刳圧痕が1つ残る。5は擬朝鮮系無文土器である。口縁部に粘土紐の形状をよく留めた凸帯を有し、体部は膨らんで丸みを帯びる。口縁部直下の体部は粘土を貼付けて肥厚させ、段甕の成形技法に似る。

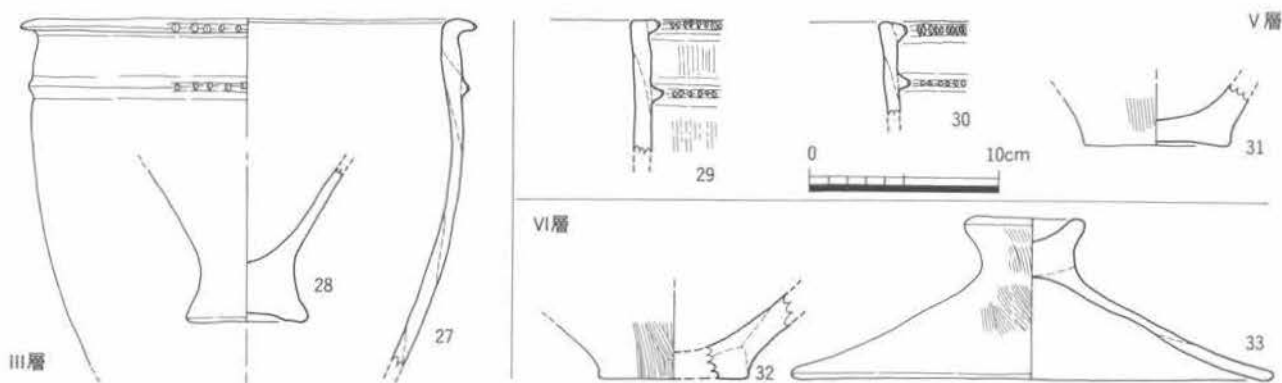


Fig.53 2SK0307出土遺物実測図② (1/4・1/2)

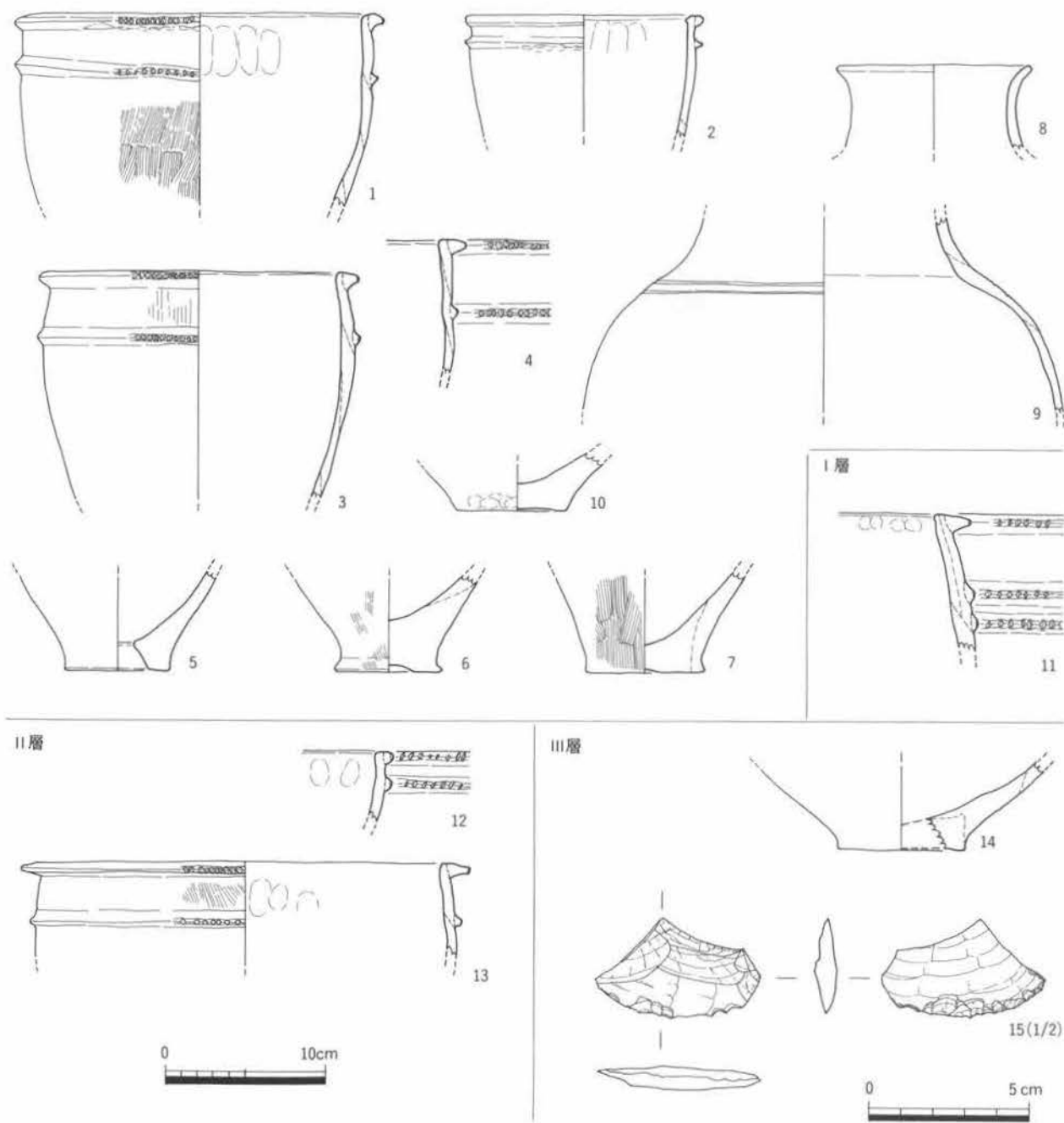
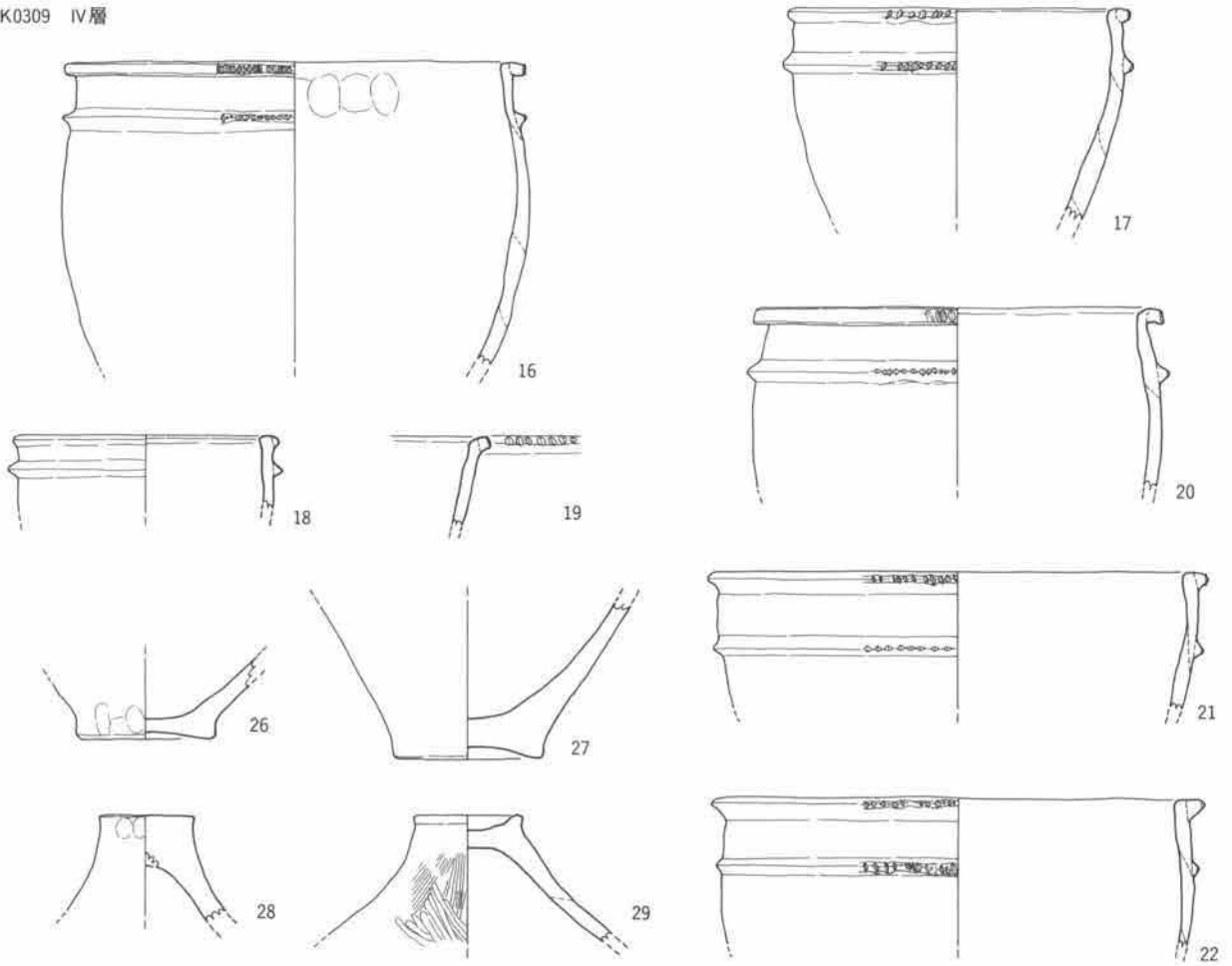
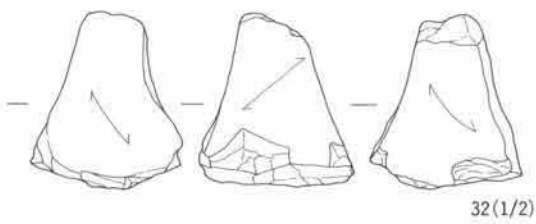
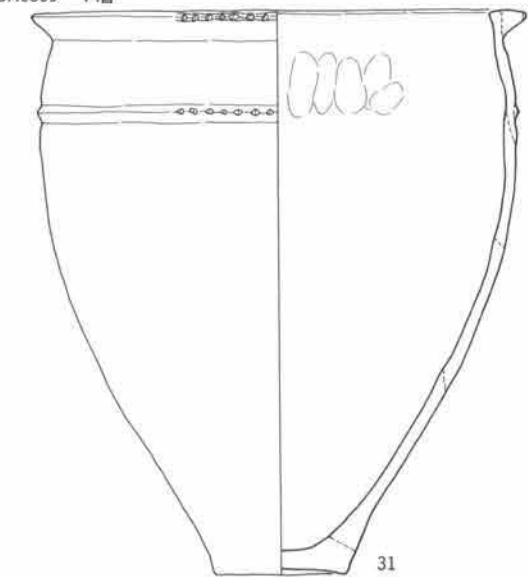


Fig.54 2SK0309出土遺物実測図① (1/4・1/2)

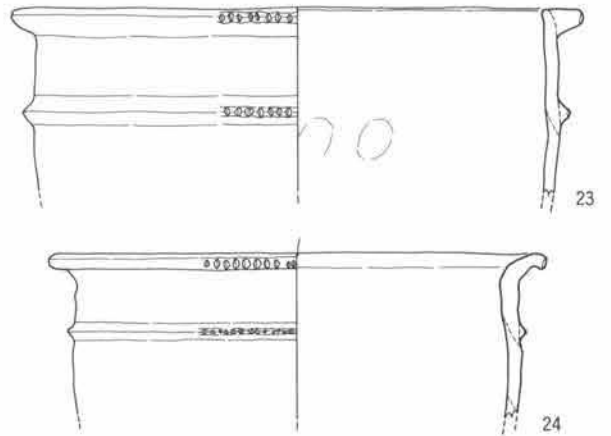
2SK0309 IV層



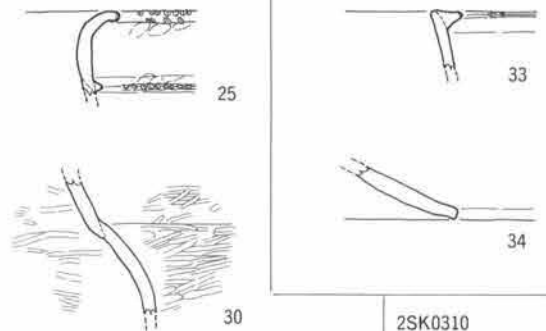
2SK0309 V層



0 5 cm



2SK0309 VI層



0 10cm

2SK0310

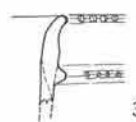
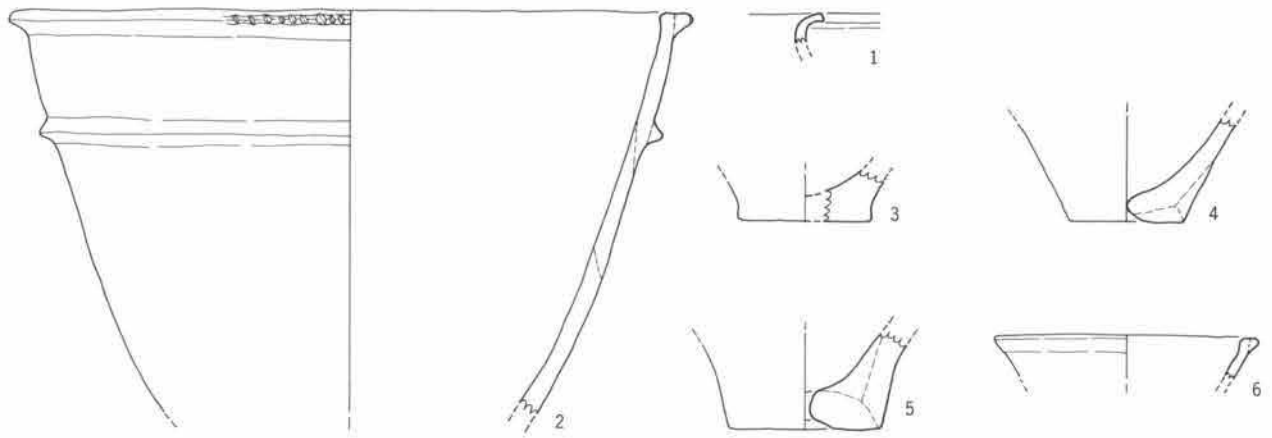
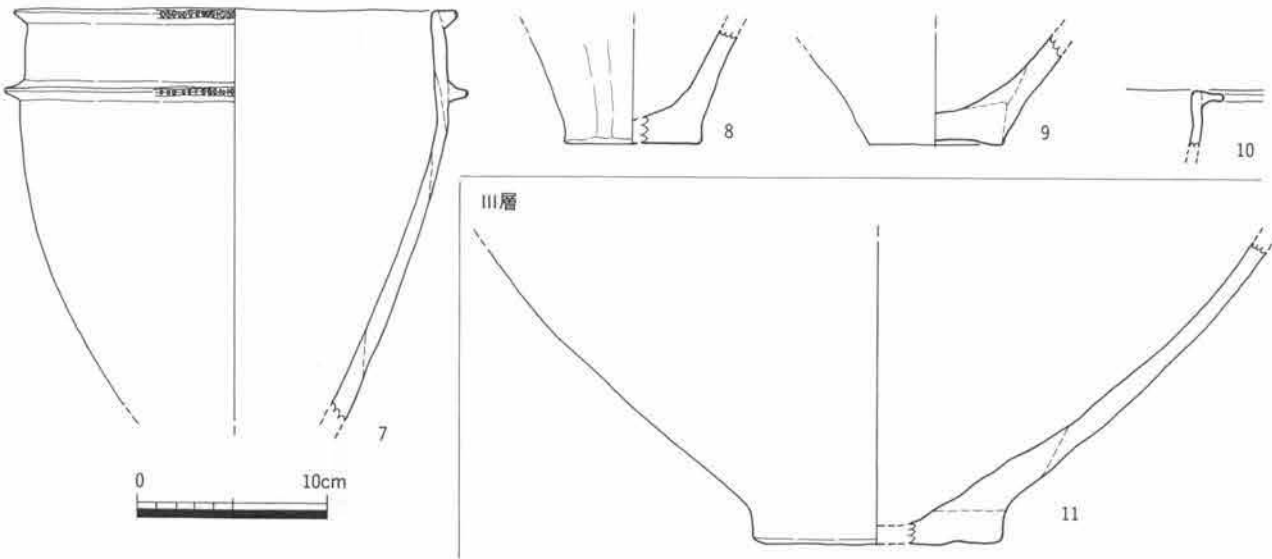


Fig.55 2SK0309出土遺物実測図②・2SK0310出土遺物実測図 (1/4・1/2)



II層



III層

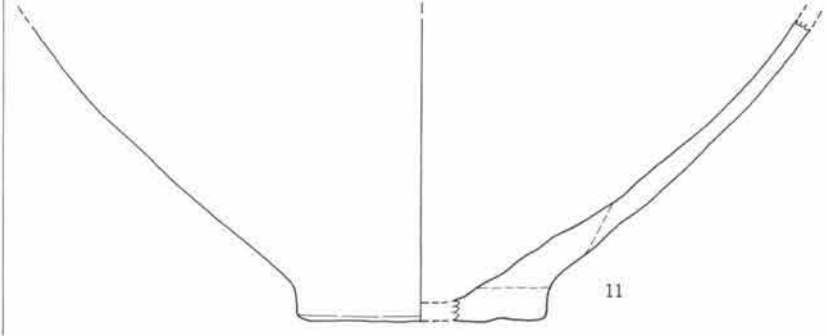


Fig.56 2SK0311出土遺物実測図 (1/4)

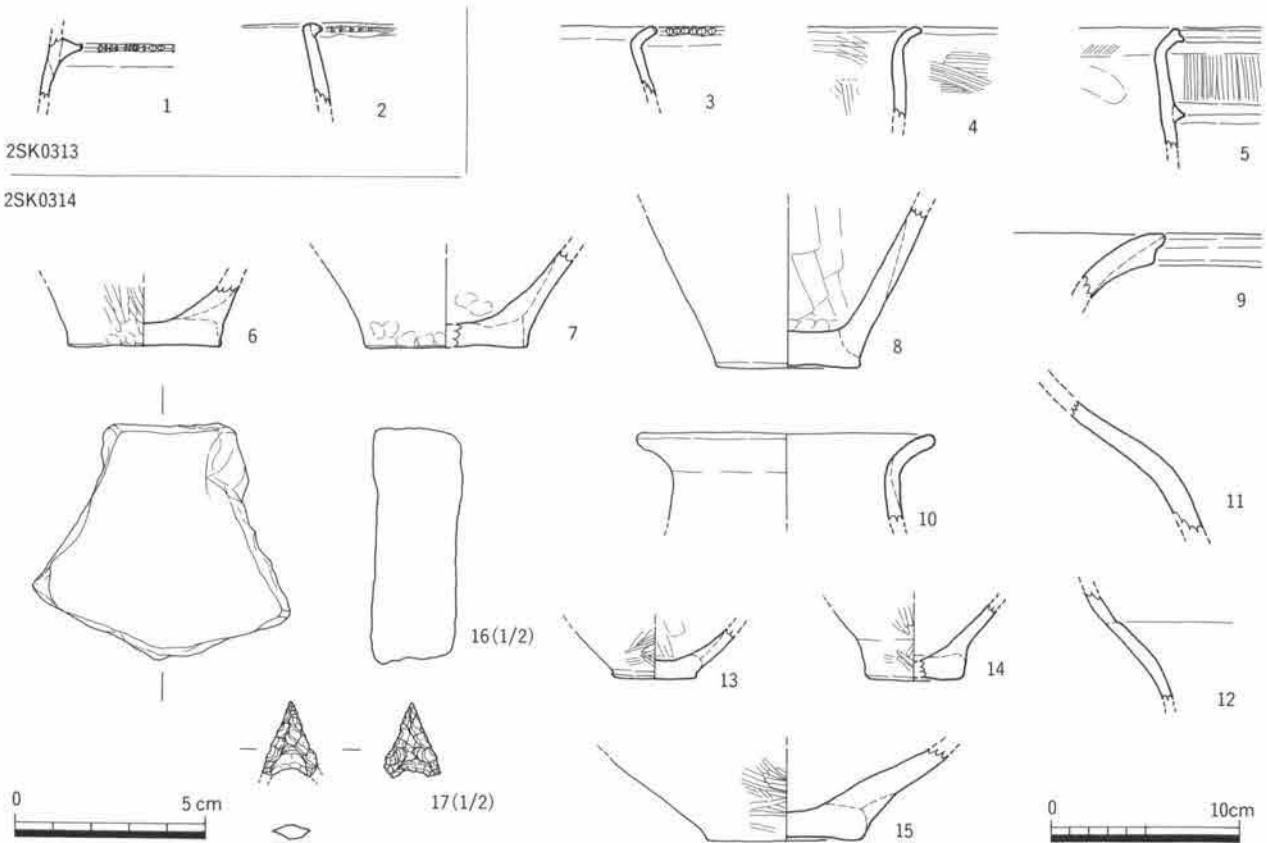


Fig.57 2SK0313出土遺物実測図 (1/4) ・2SK0314出土遺物実測図① (1/4・1/2)

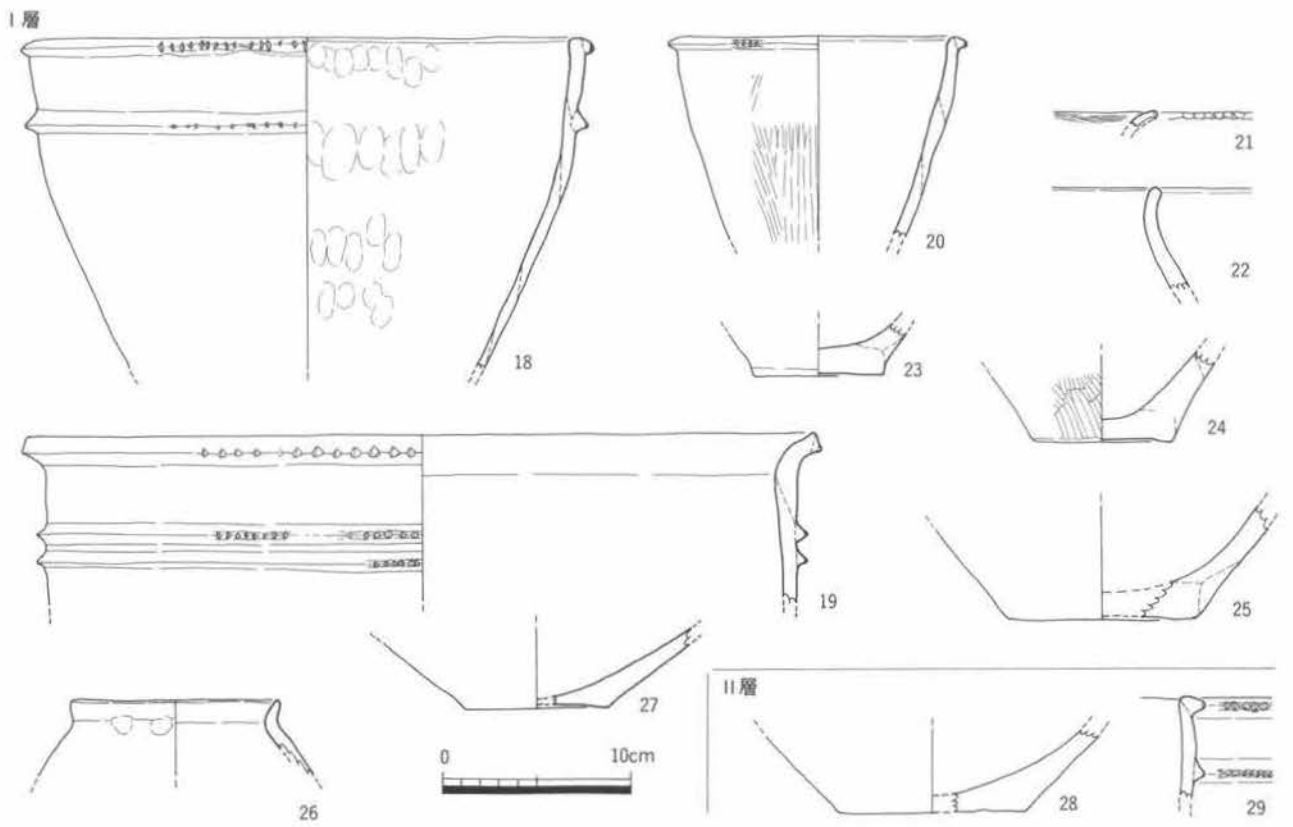


Fig.58 2SK0314出土遺物実測図② (1/4)

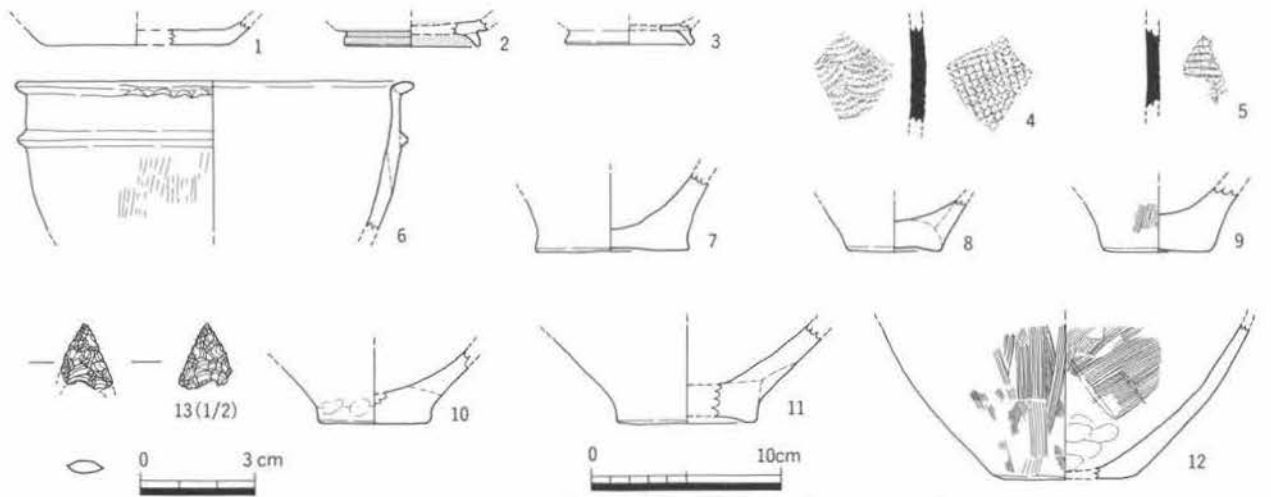


Fig.59 2SK0315出土遺物実測図 (1/4・1/2)

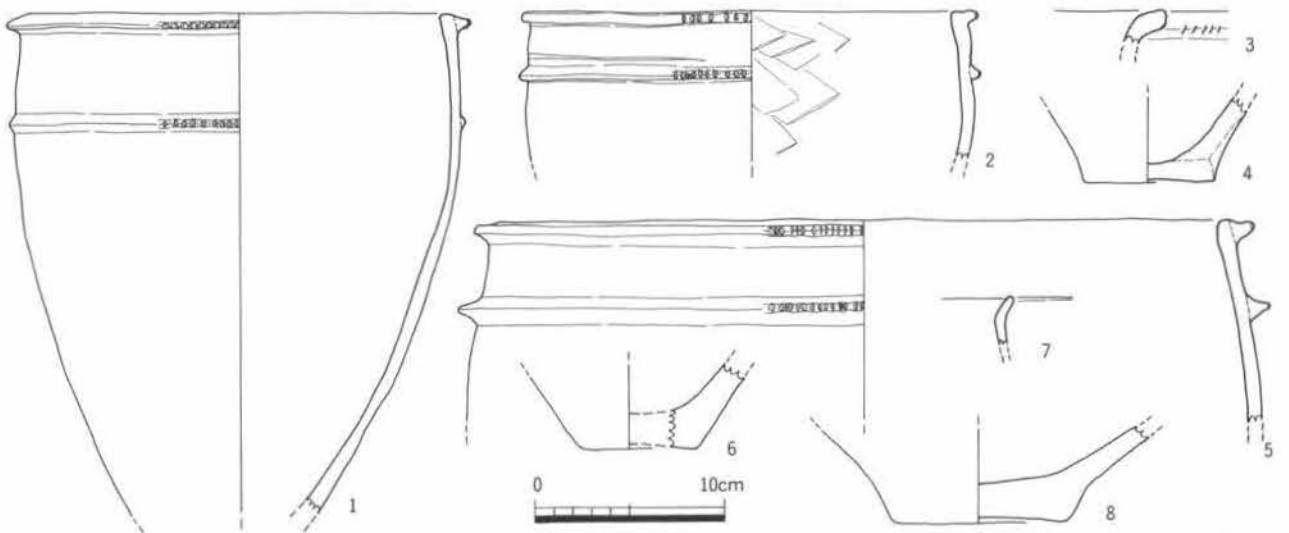


Fig.60 2SK0316出土遺物実測図 (1/4)

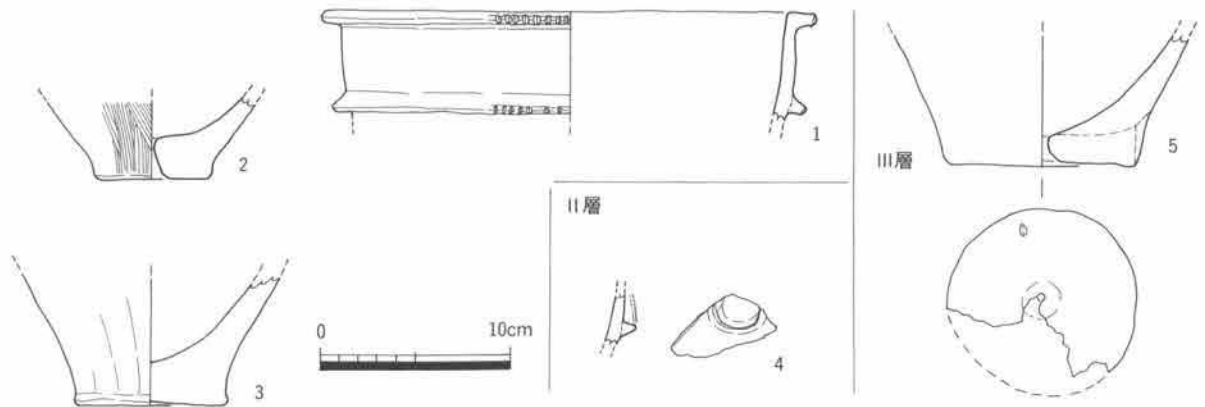


Fig.61 2SK0317出土遺物実測図 (1/4)

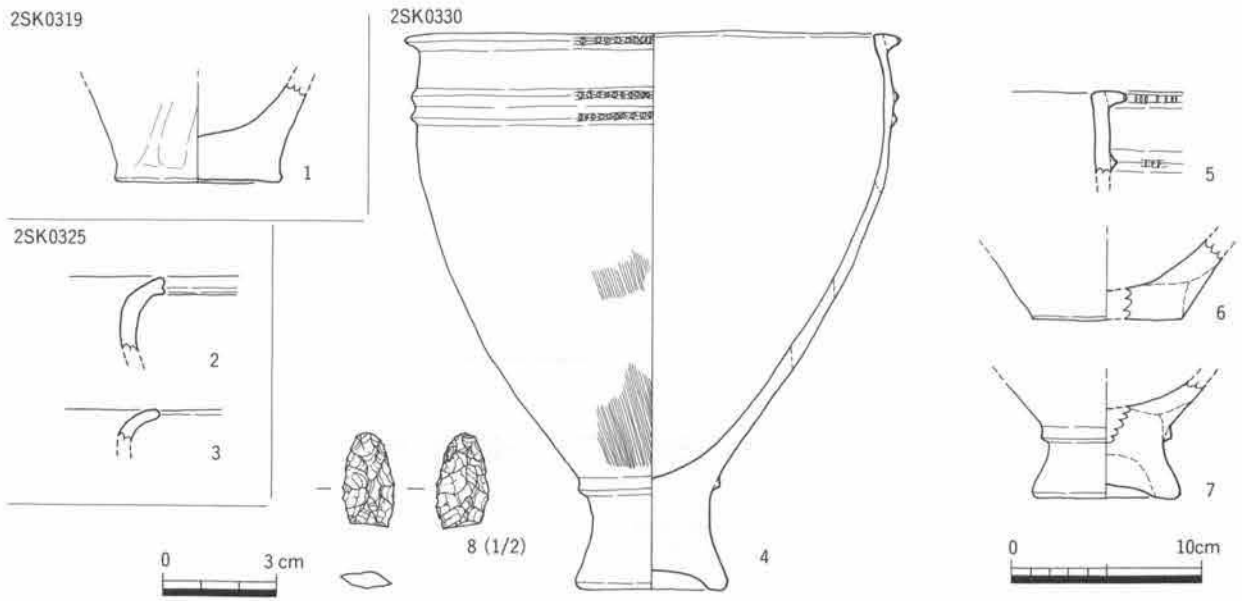


Fig.62 2SK0319・2SK0325・2SK0330出土遺物実測図 (1/4・1/2)

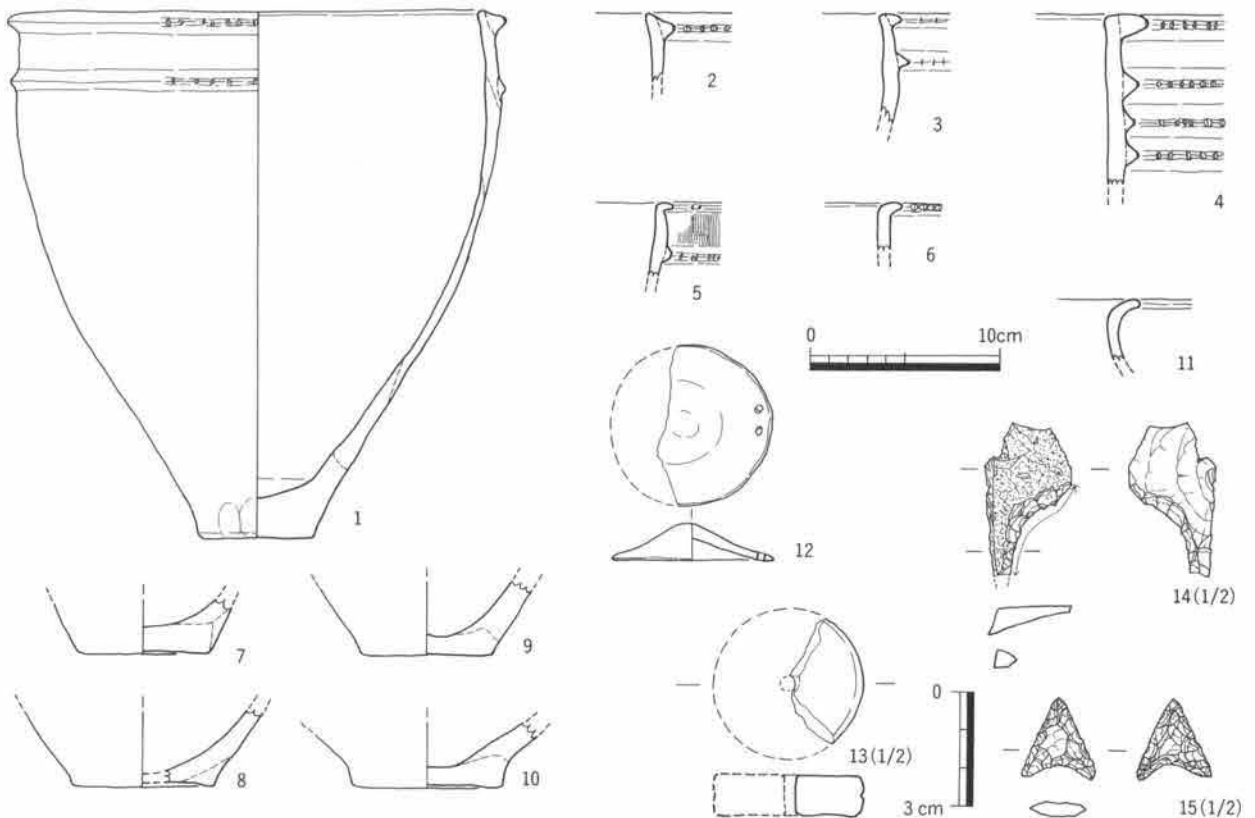


Fig.63 2SK0331出土遺物実測図 (1/4・1/2)

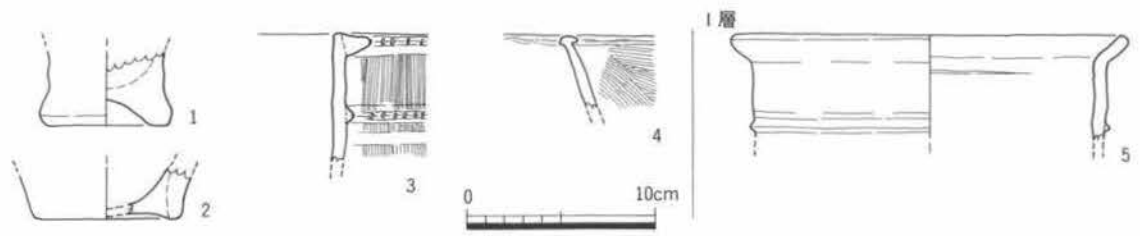


Fig.64 2SK0332出土遺物実測図 (1/4)

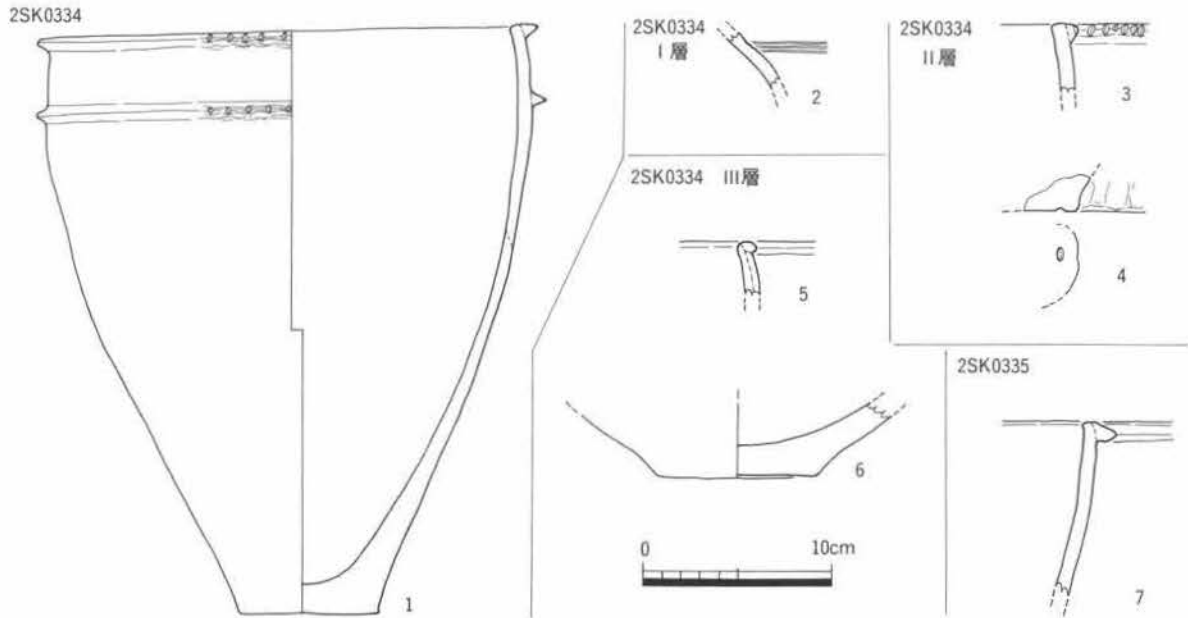


Fig.65 2SK0334・2SK0335出土遺物実測図 (1/4)

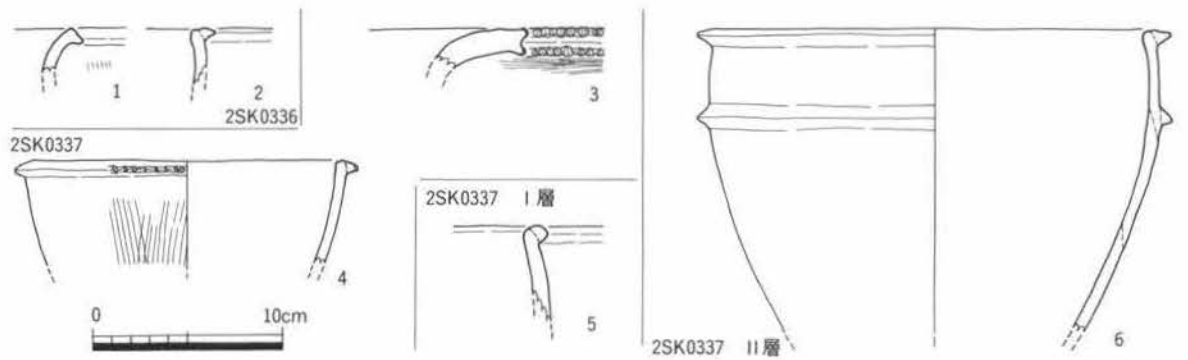


Fig.66 2SK0336・2SK0337出土遺物実測図 (1/4)

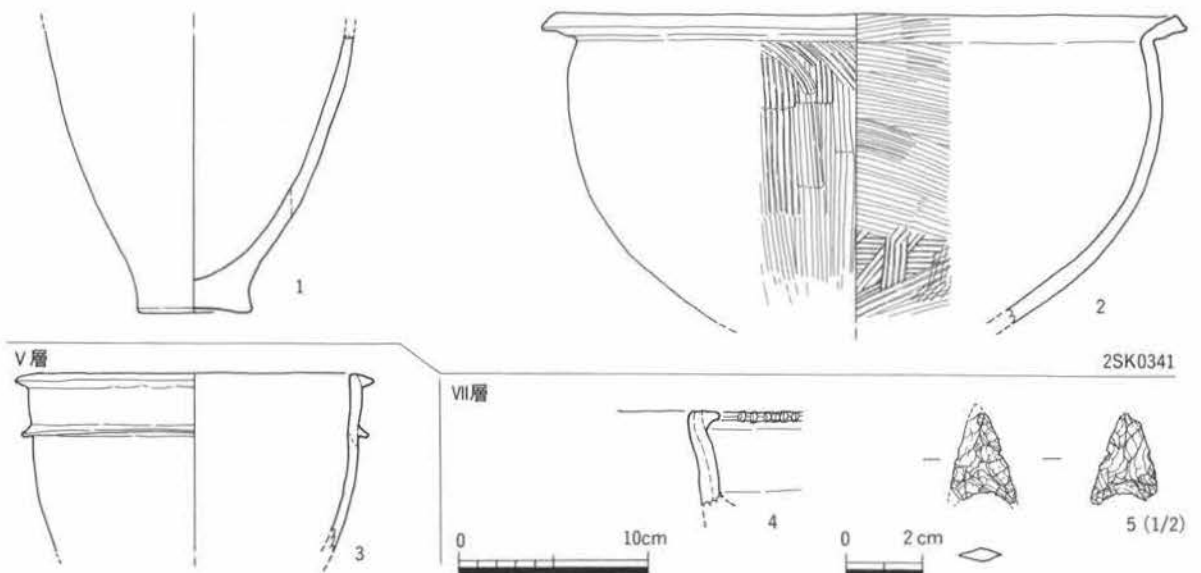


Fig.67 2SK0341出土遺物実測図 (1/4・1/2)



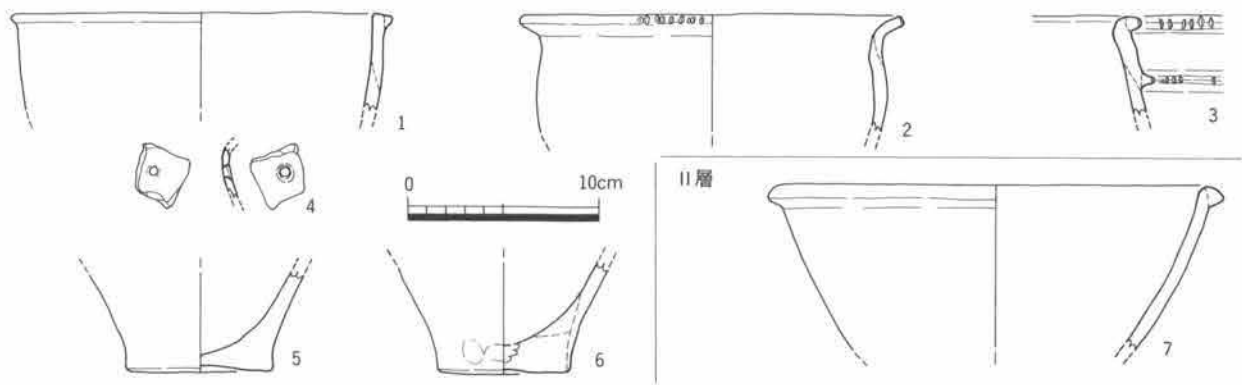


Fig.68 2SK0342出土遺物実測図 (1/4)

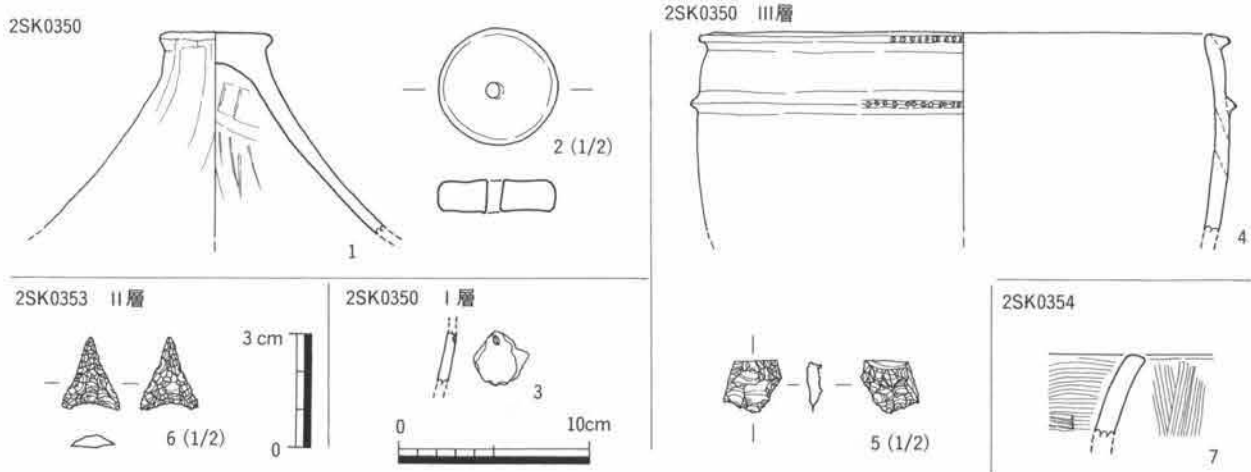


Fig.69 2SK0350・2SK0353・2SK0354出土遺物実測図 (1/4・1/2)

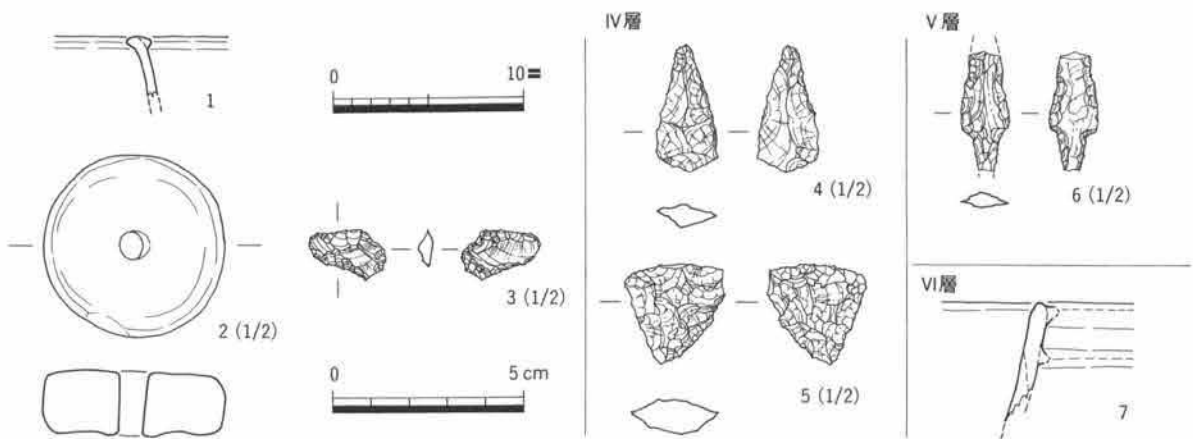


Fig.70 2SK0355出土遺物実測図 (1/4・1/2)

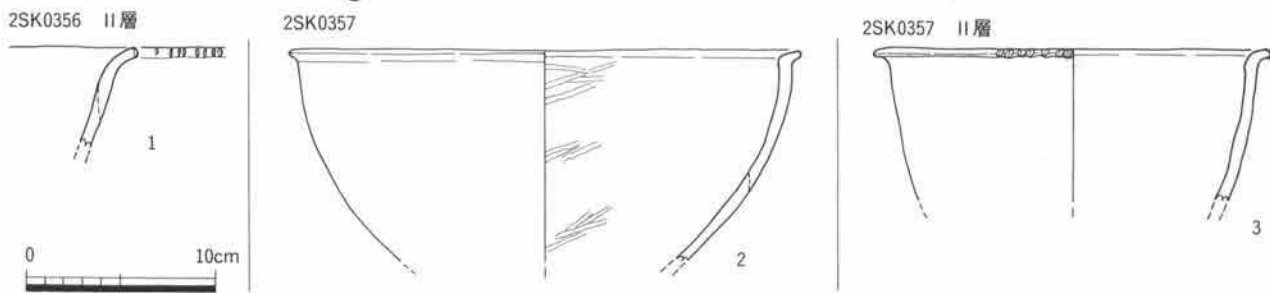


Fig.71 2SK0356・2SK0357出土遺物実測図 (1/4)

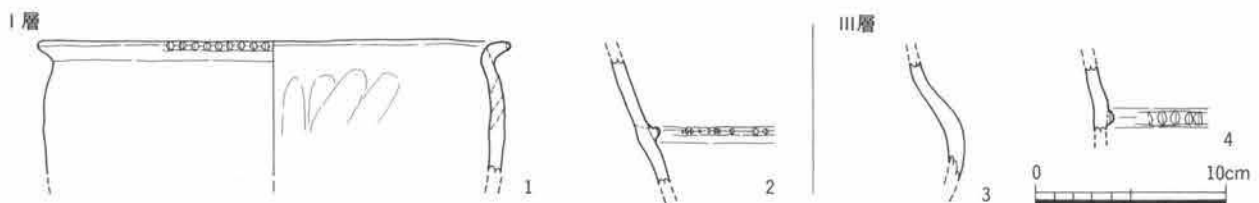


Fig.72 2SK0359出土遺物実測図 (1/4)

段甕の成形技法に似る。

2SK0337出土遺物 (Fig.66・Pla.104)

5は擬朝鮮系無文土器である。口縁部に粘土紐の形状をよく留めた凸帯を有し、体部は膨らんで丸みを帯びる。

2SK0350出土遺物 (Fig.69・Pla.105)

3はI層出土の甕体部である。外面に刳圧痕が残る。

2SK0355出土遺物 (Fig.70・Pla.105・142)

1は甕の口縁部である。小さな鋏先状の形態をしている。体部は丸みを帯びて膨らんでいるようである。全面をナデ調整によっている。

2SK0357出土遺物 (Fig.77・Pla.106)

1は甕である。比較的大型のもので、口縁部と胴部に1条ずつ貼付け凸帯が巡る。また、2条の凸帯の間には上弦形の凸帯を貼付けていて、3ヶ所に残存する。恐らくは等間隔で4ヶ所にあったと考えられる。すべての凸帯に刻目が施されている。東九州の下城式に、口縁部凸帯と胴部凸帯を縦に接続する刻目凸帯を持つものがあるが、本資料のように上弦形の刻目凸帯が貼り付くものは類例を知らない。特殊な用途の土器か。

2SK0360出土遺物 (Fig.73・Pla.142)

2は縦型の石匙である。完形品と思われるが明確でない。多久産のサヌカイトを使用している。

2SK0360出土遺物 (Fig.76106)

5は磨製の扁平片刃石斧である。石材は泥岩で、丁寧に研磨している。7は小型の鉢である。手づくね風のつくりで、ミニチュアの範疇に入るかも知れない。

2SK0391出土遺物 (Fig.79・Pla.106・107)

1は甕であるが、直線的に開く体部を特徴とする。4は如意形口縁の甕であるが、口縁端部下端に刻目を施しており板付Ⅱ式に共通する特徴を有する。6は小型の壺であるが、胴部最大径が胴部中央附近となっている。底部は円盤接合がみられ、形態的には古い要素が残る。外底面に刳圧痕が1ヶ所認められる。7も小型の壺であるが、胴部最大径が6に比してやや上位にある。8は中型の壺で、体部外面には重弧文が施されている。

2SK0396出土遺物 (Fig.80・Pla.107)

1・2は口縁部に小さな刻目凸帯を貼付けた甕である。1は体部上部外面に粘土を貼り足して肥厚させていて、断面構造は段甕に似る。5は大型の壺である。口縁部の外面に粘土を貼付けて肥厚させていて、形態的には古い要素が見られる。

2SK0399出土遺物 (Fig.81・Pla.107)

4は甕の底部である。外底面に刳圧痕が1ヶ所認められる。

2SK0402出土遺物 (Fig.82・Pla.107・108・142)

3・5は甕であるが、体部内面に工具痕が明瞭に認められる。

2SK0405出土遺物 (Fig.83・Pla.108・142)

4は壺である。頸部が大きく内傾し、口縁部は大きく外反する。6は甕である。口縁部と胴部に凸帯が1条ずつ巡るが、口縁部凸帯の接合技法に特徴がある。外面の最上位に貼付けた後、口縁部端の上面に被せるように粘土を引き延ばして接合させている。8も甕であるが、体部の上位内面に粘土を貼り足している。この遺構から出土した甕・壺の内、粘土の接合状況が確認できるものは全て内傾接合であった。

2SK0418出土遺物 (Fig.85・Pla.109・143)

1はI層出土の須恵器甕である。頸部から上位は全て打ち欠かされている。4・5はいずれもII層出土の土師器の小型丸底壺であるが、口縁部が打ち欠かされている。さらに5は、未貫通ながら体部も穿孔しよとした跡が認められる。なお、4は手づくね風の外観を呈する。

2SK0423出土遺物 (Fig.87・88・89・Pla.109・110・143・160)

2は甕であるが、直線的に開く体部を特徴とする。6は粘板岩を加工した柱状片刃石斧の細片ではないかと思われる。この石材は、筑後市近郊では見かけないものである。20・21は、ともにV層出土の甕底

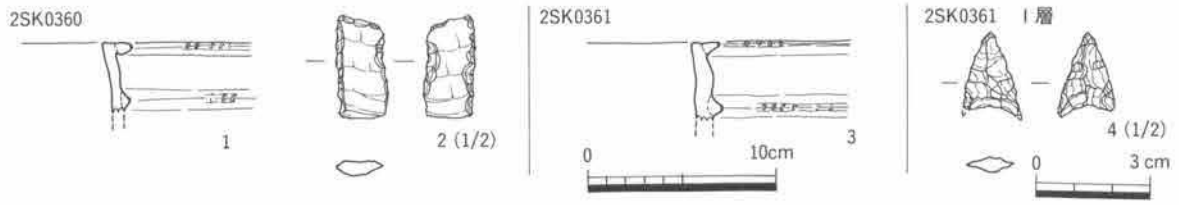


Fig.73 2SK0360・2SK0361出土遺物実測図 (1/4・1/2)

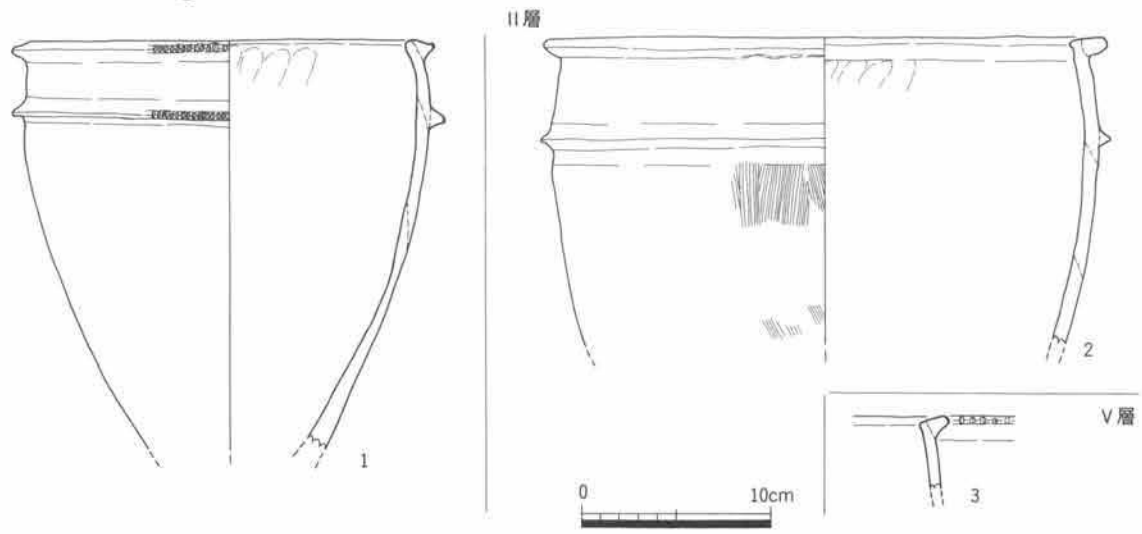


Fig.74 2SK0363出土遺物実測図 (1/4)

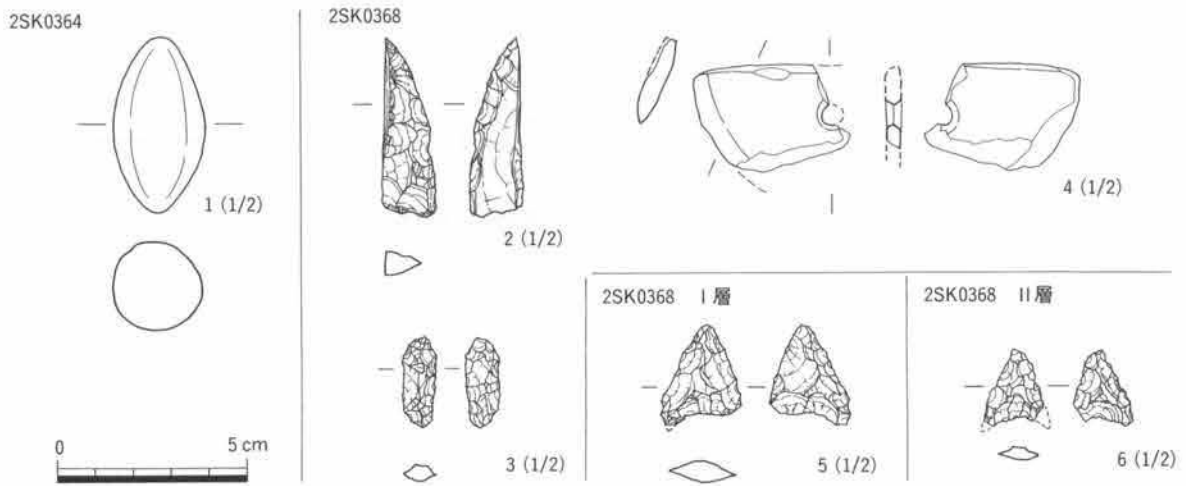


Fig.75 2SK0364・2SK0368出土遺物実測図 (1/4・1/2)

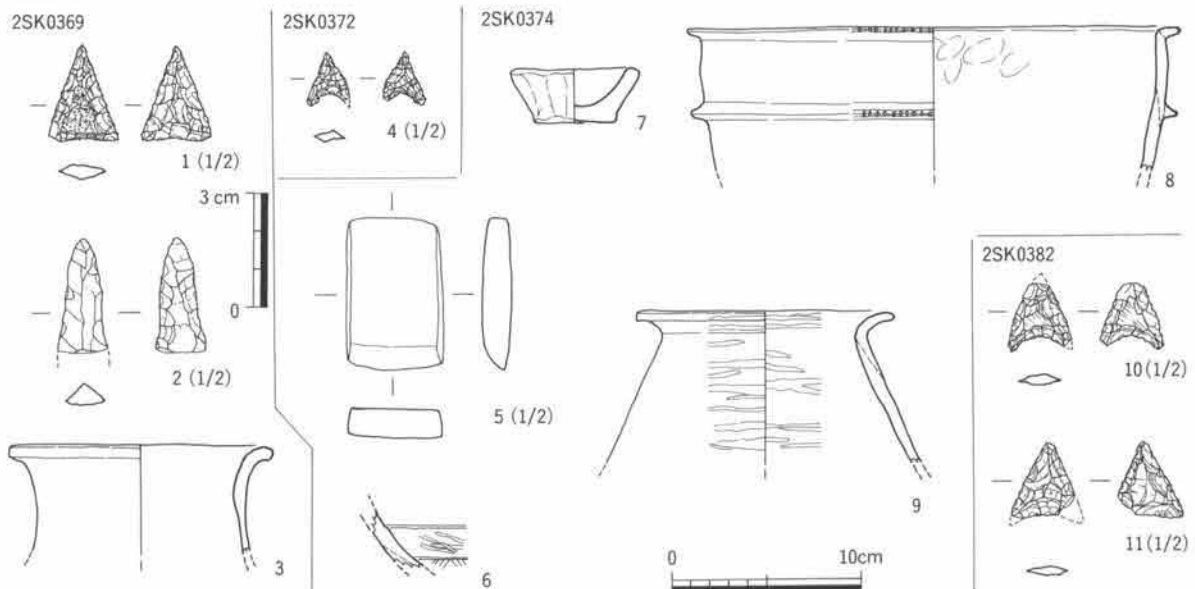


Fig.76 2SK0369・2SK0372・2SK0374・2SK0382出土遺物実測図 (1/4・1/2)

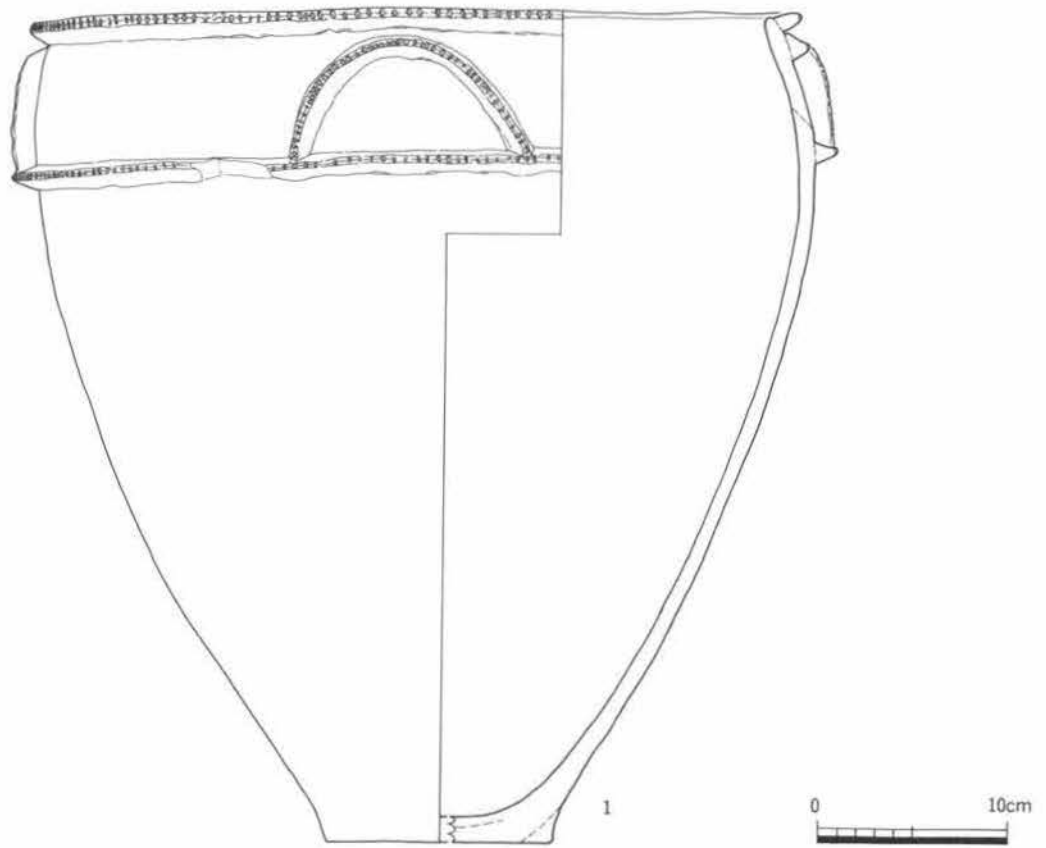


Fig.77 2SK0357出土遺物実測図 (1/4)

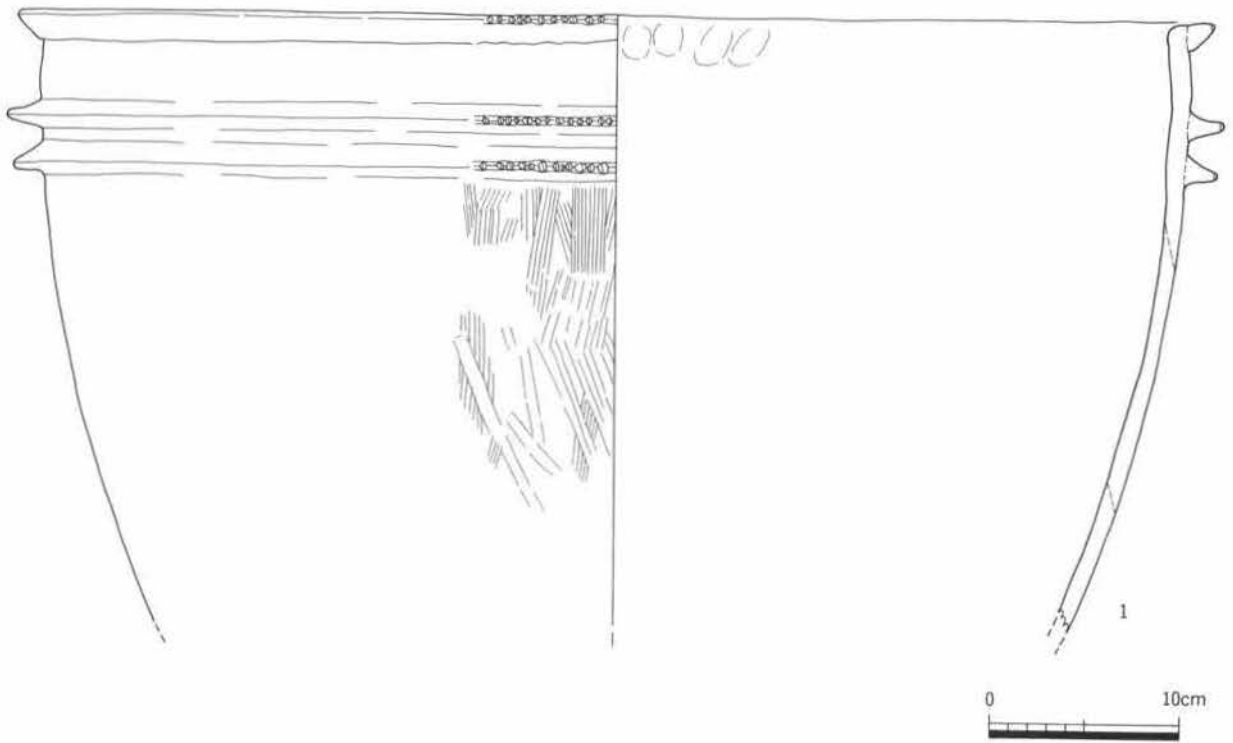


Fig.78 2SK0439出土遺物実測図① (1/4)

2SK0391

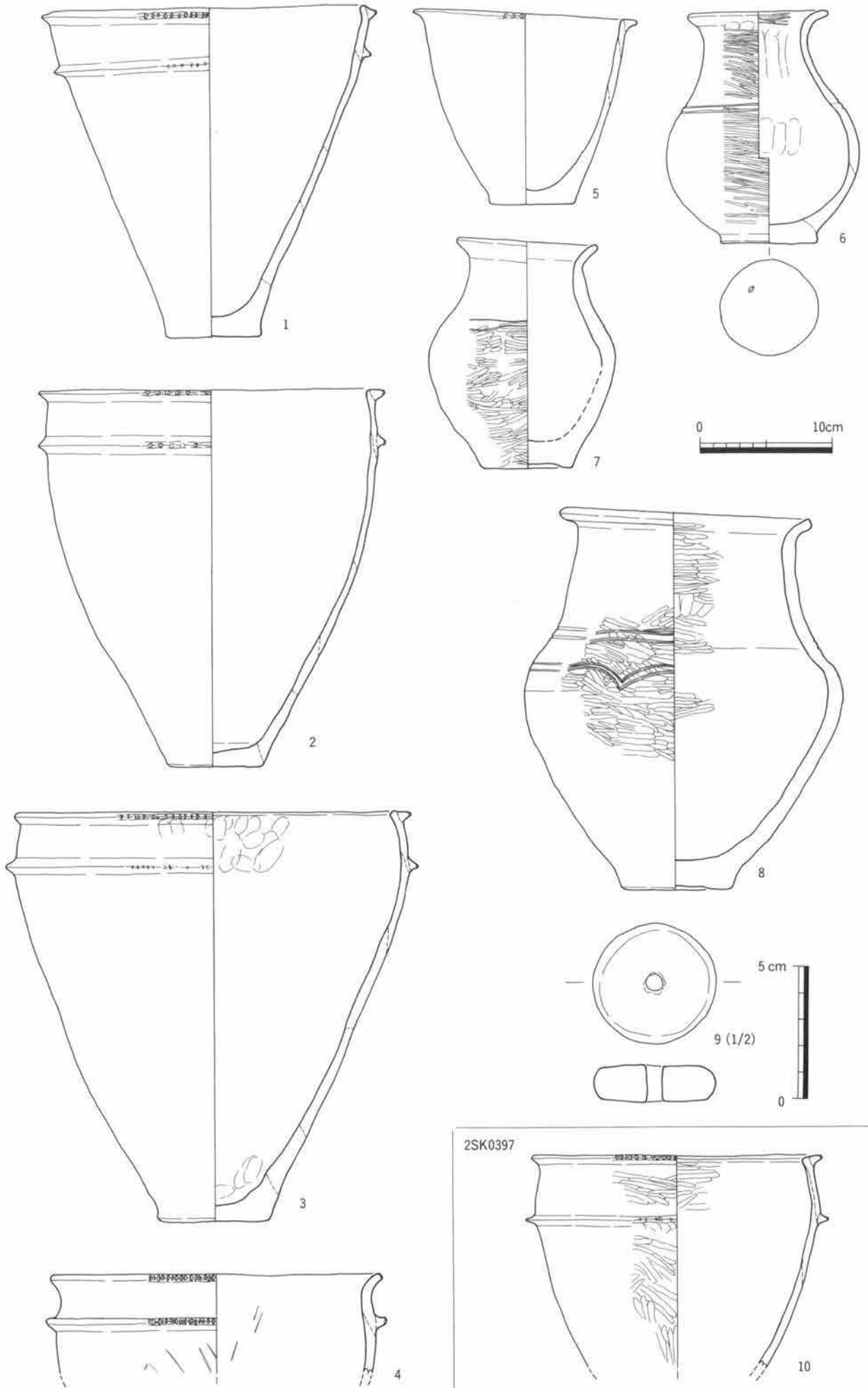


Fig.79 2SK0391・2SK0397出土遺物実測図(1/4・1/2)

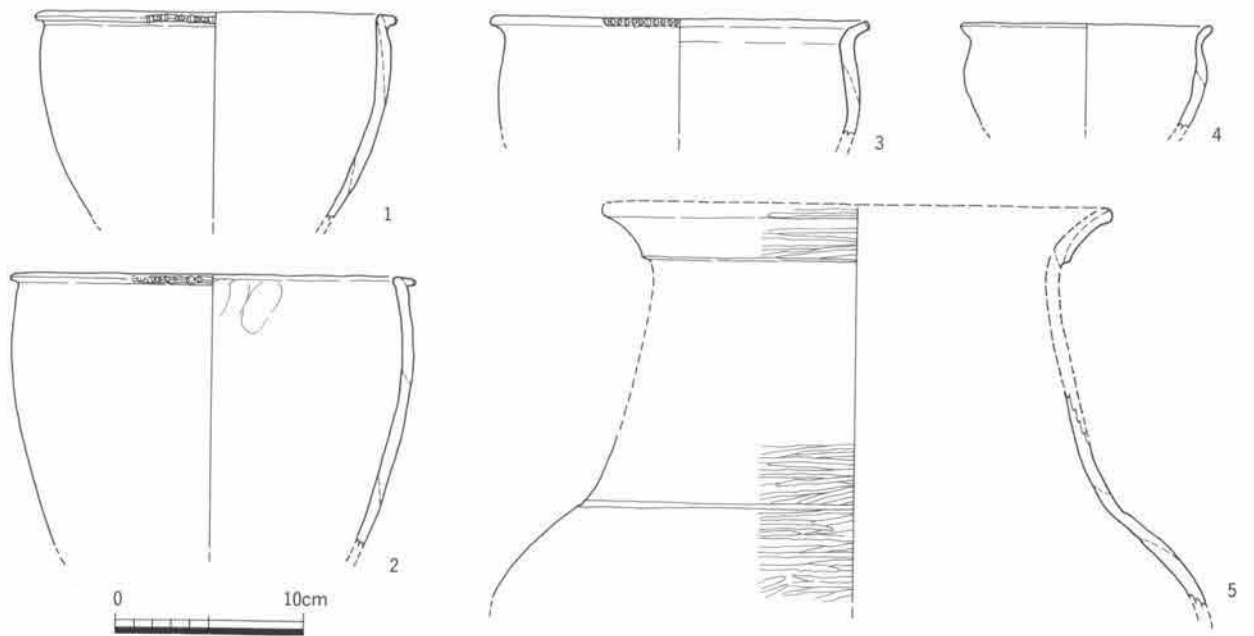


Fig.80 2SK0396出土遺物実測図 (1/4)

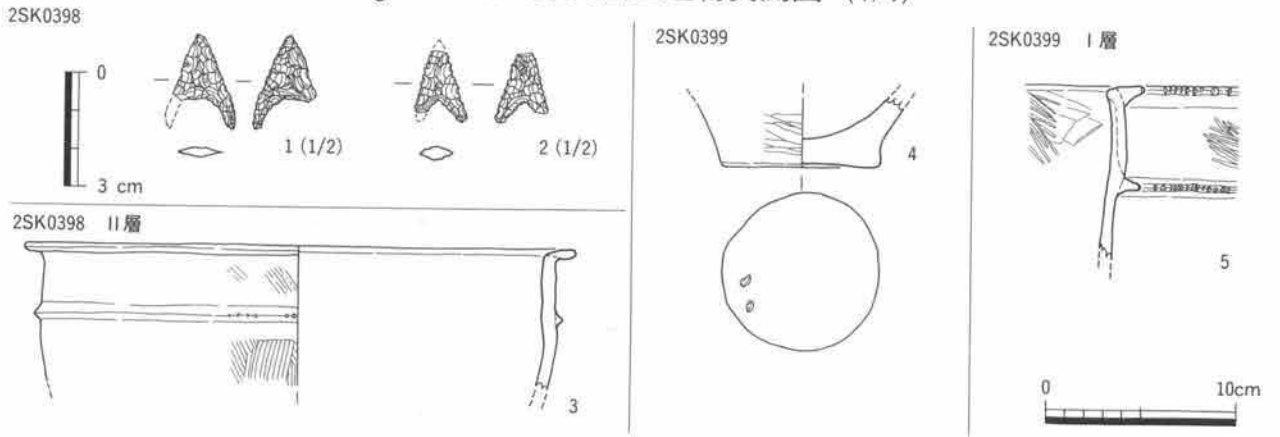


Fig.81 2SK0398・2SK0399出土遺物実測図 (1/4・1/2)

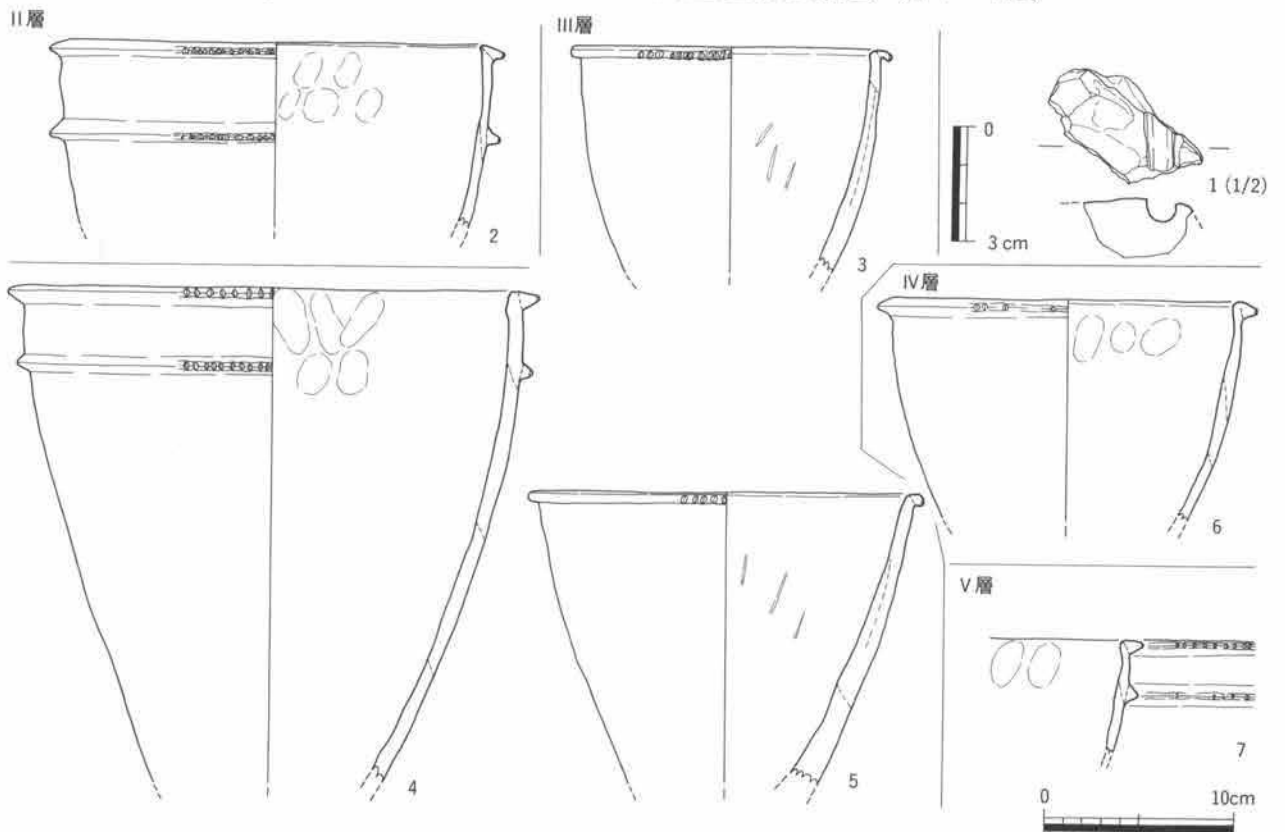


Fig.82 2SK00402出土遺物実測図 (1/4・1/2)

2SK0405

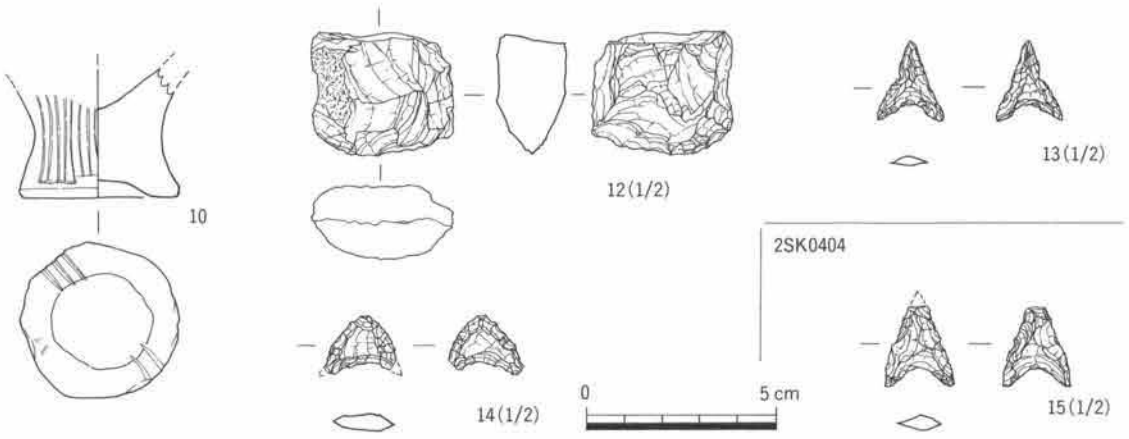
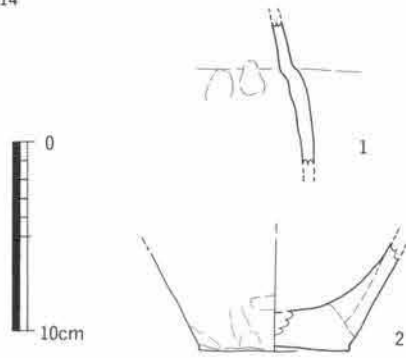


Fig.83 2SK0404・2SK0405出土遺物実測図 (1/4・1/2)



2SK0414



2SK0416

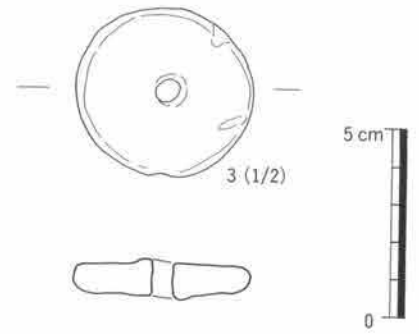


Fig.84 2SK0414・2SK0416出土遺物実測図(1/4・1/2)

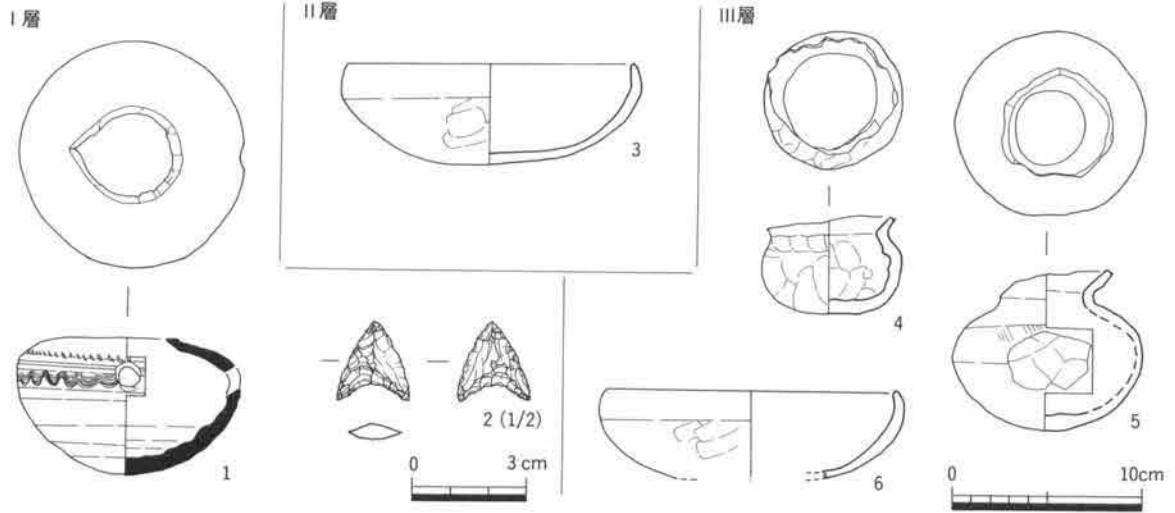
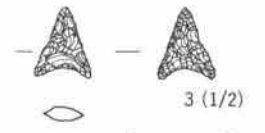
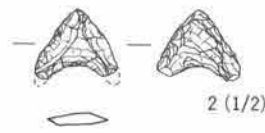
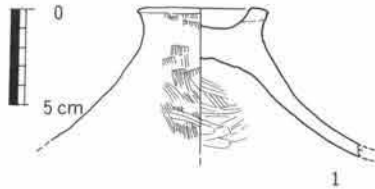


Fig.85 2SK0418出土遺物実測図(1/4・1/2)

2SK0420



2SK0422

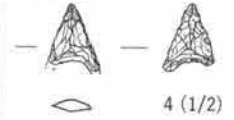


Fig.86 2SK0420・2SK0422出土遺物実測図(1/4・1/2)

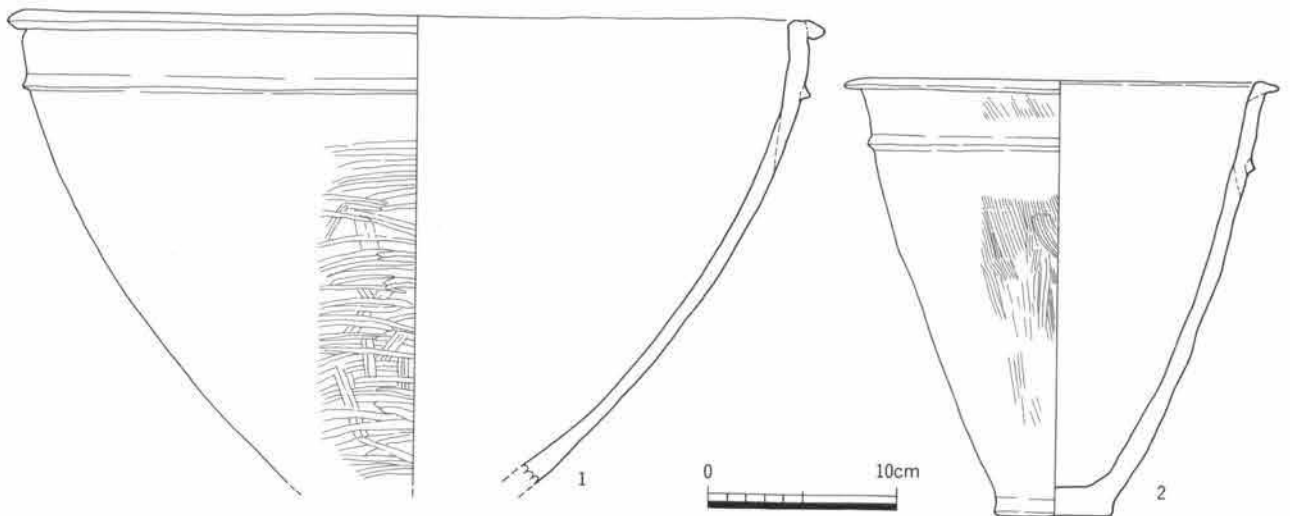


Fig.87 2SK0423出土遺物実測図①(1/4)

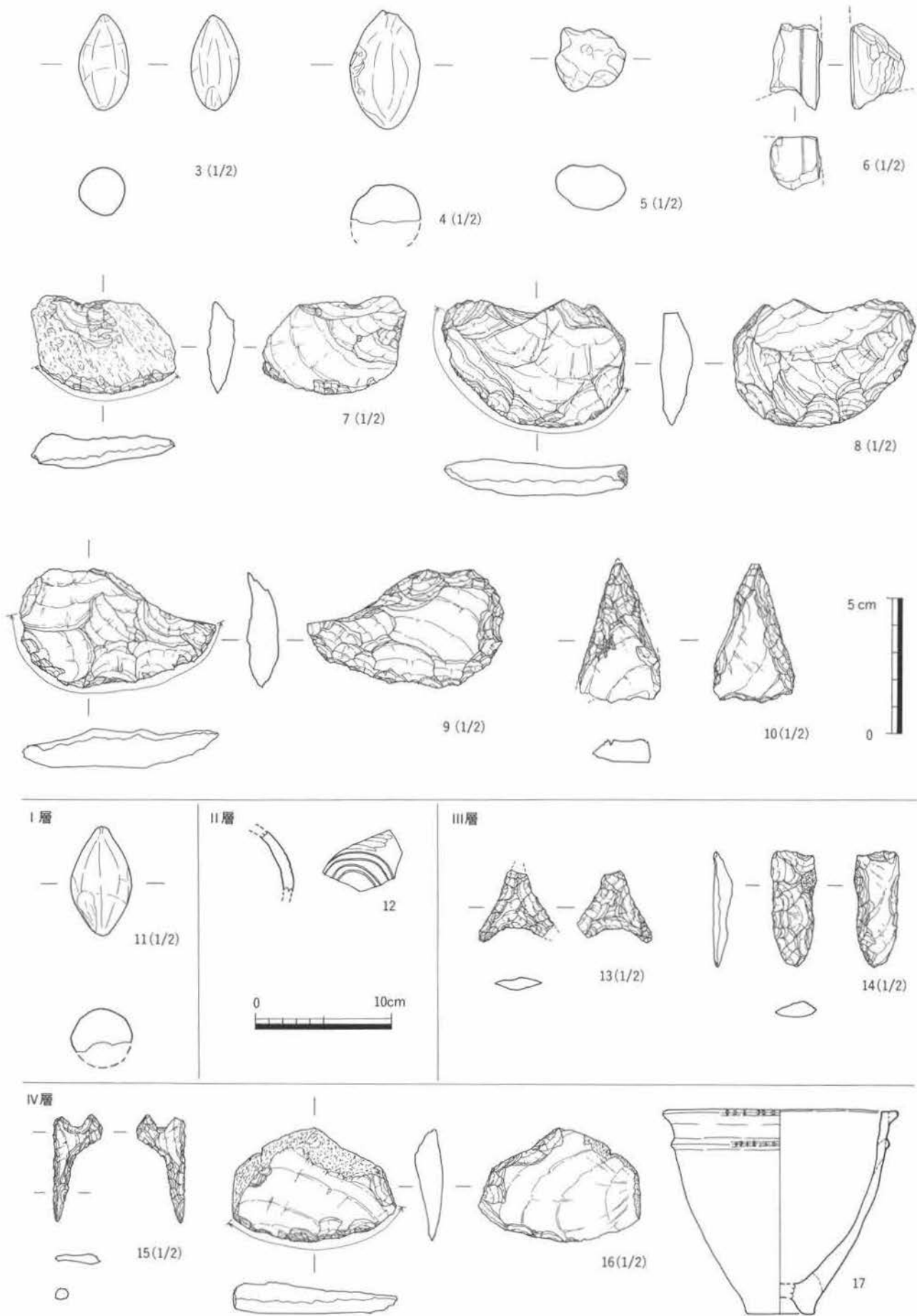
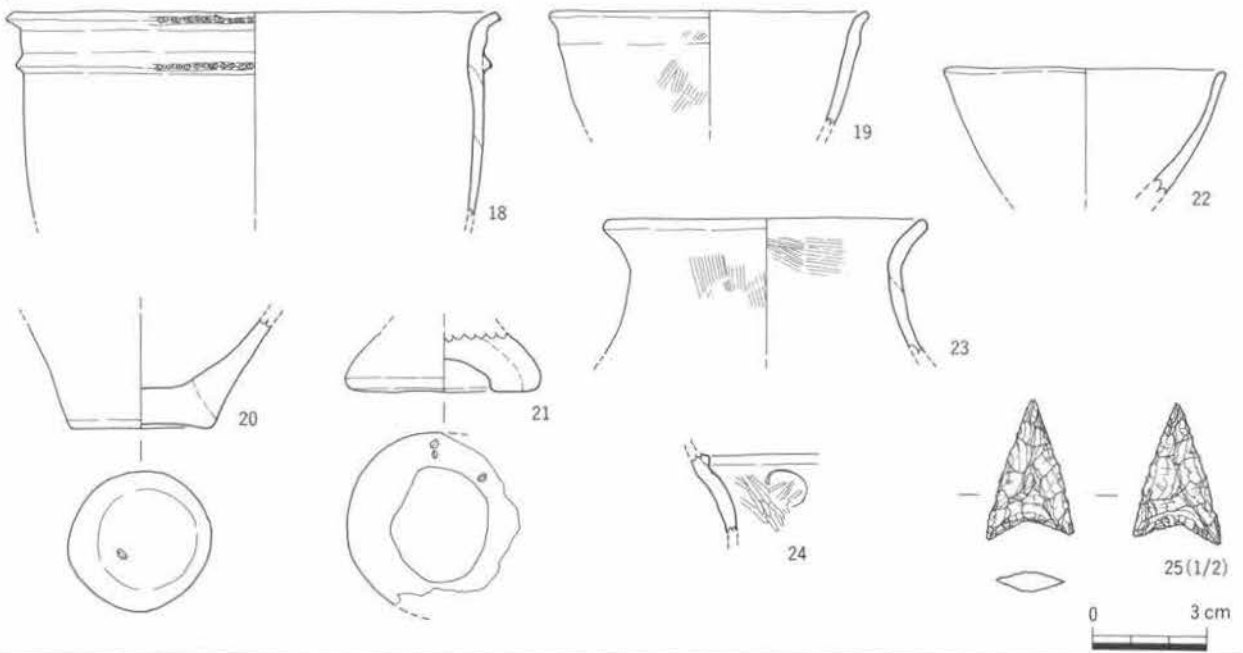


Fig.88 2SK0423出土遺物実測図② (1/2・1/4)

V層



VI層

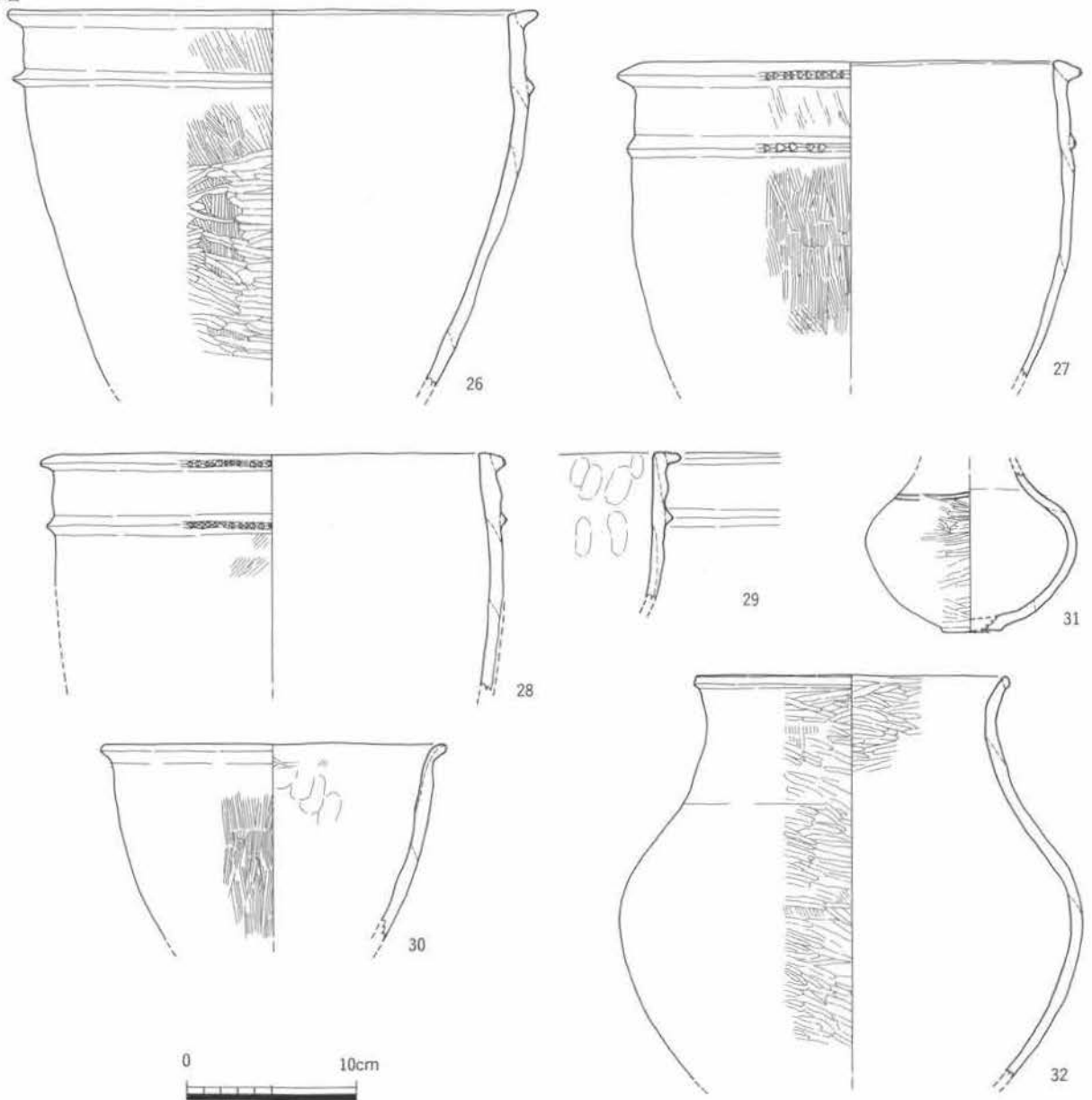


Fig.89 2SK0423出土遺物実測図③ (1/4・1/2)

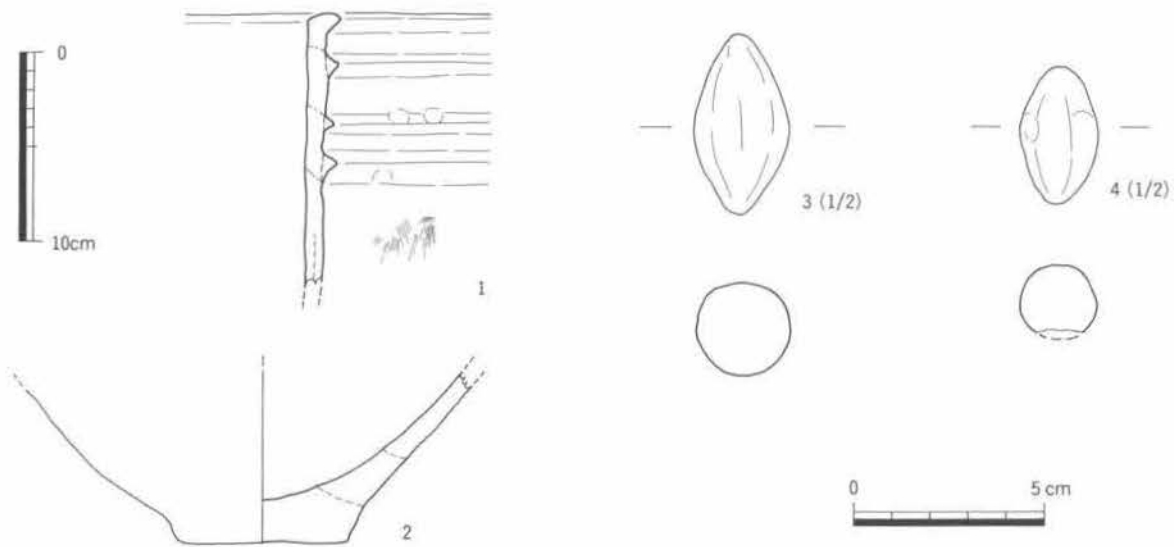


Fig.90 2SK0424出土遺物実測図 (1/4・1/2)

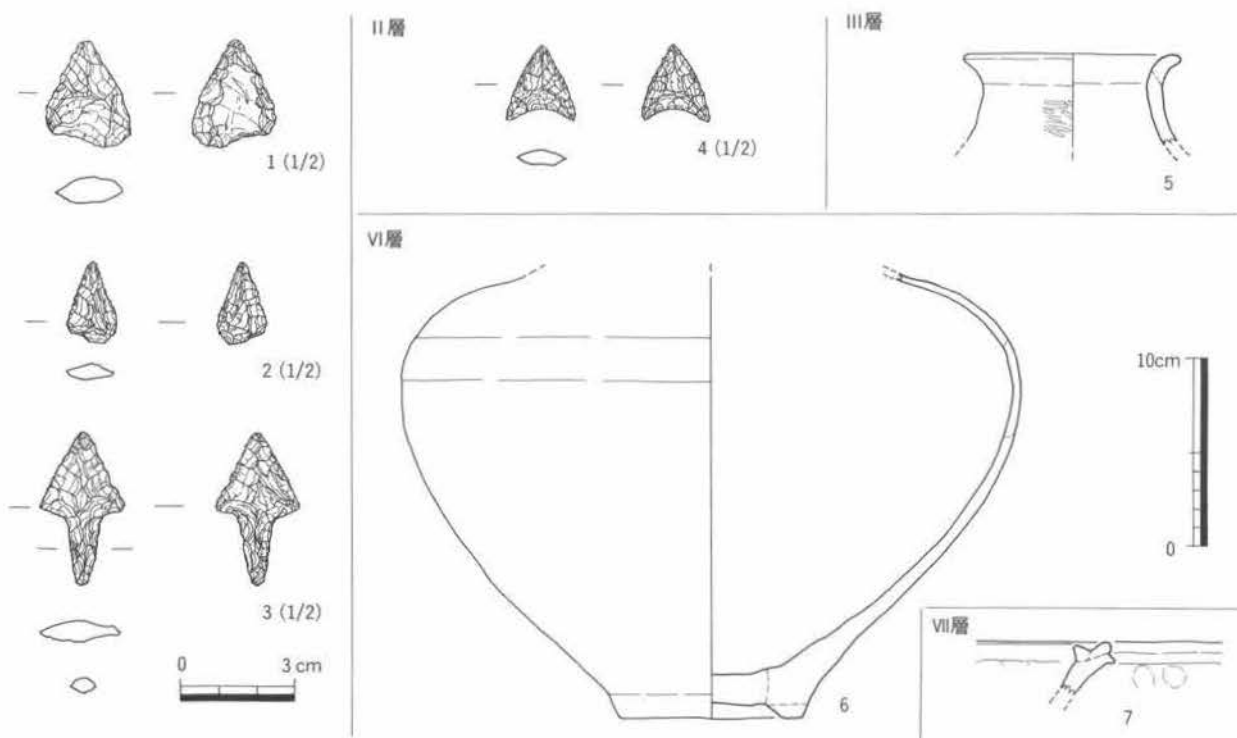


Fig.91 2SK0426出土遺物実測図 (1/4・1/2)

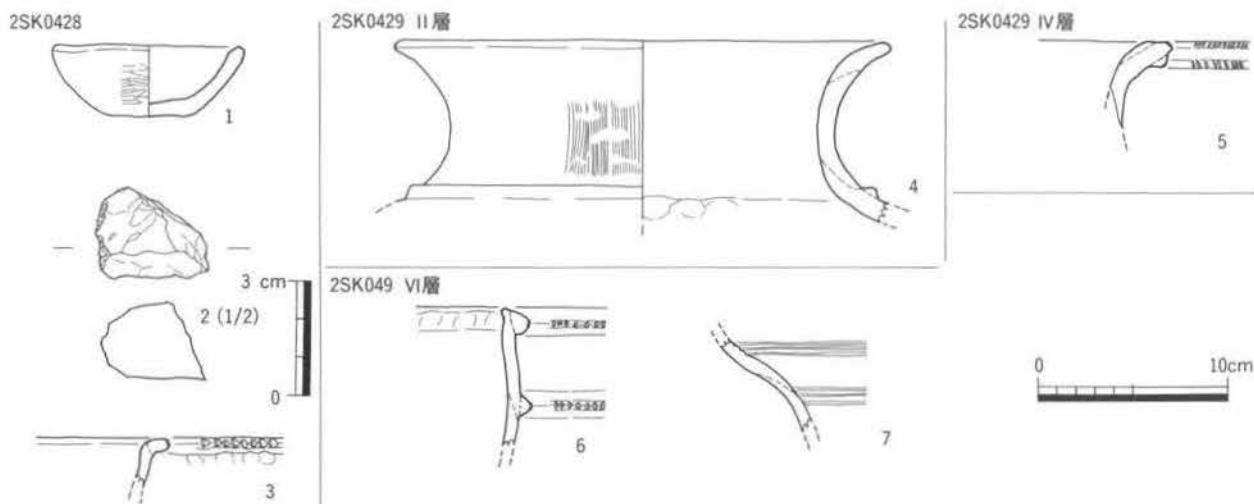


Fig.92 2SK0428・2SK0429出土遺物実測図 (1/4・1/2)

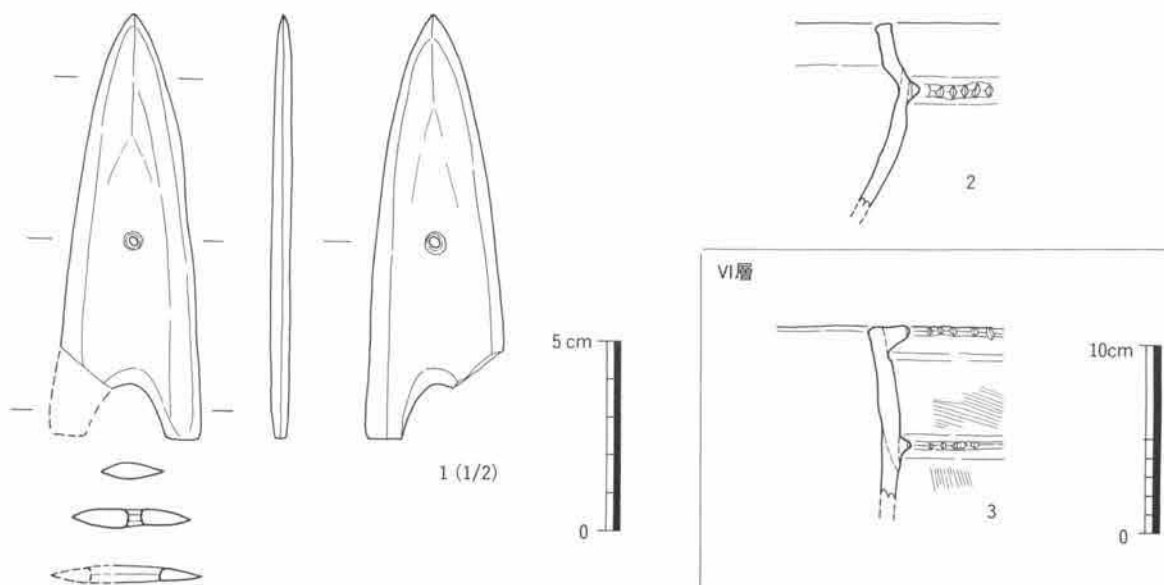


Fig.93 2SK0431出土遺物実測図 (1/2・1/4)

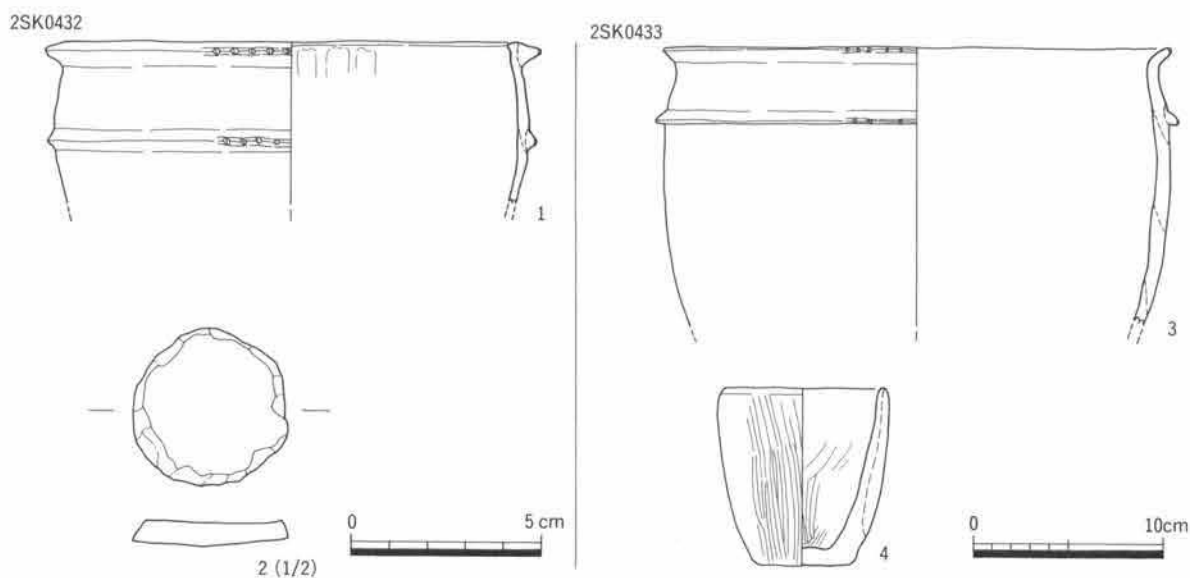


Fig.94 2SK0432・2SK0433出土遺物実測図 (1/4・1/2)

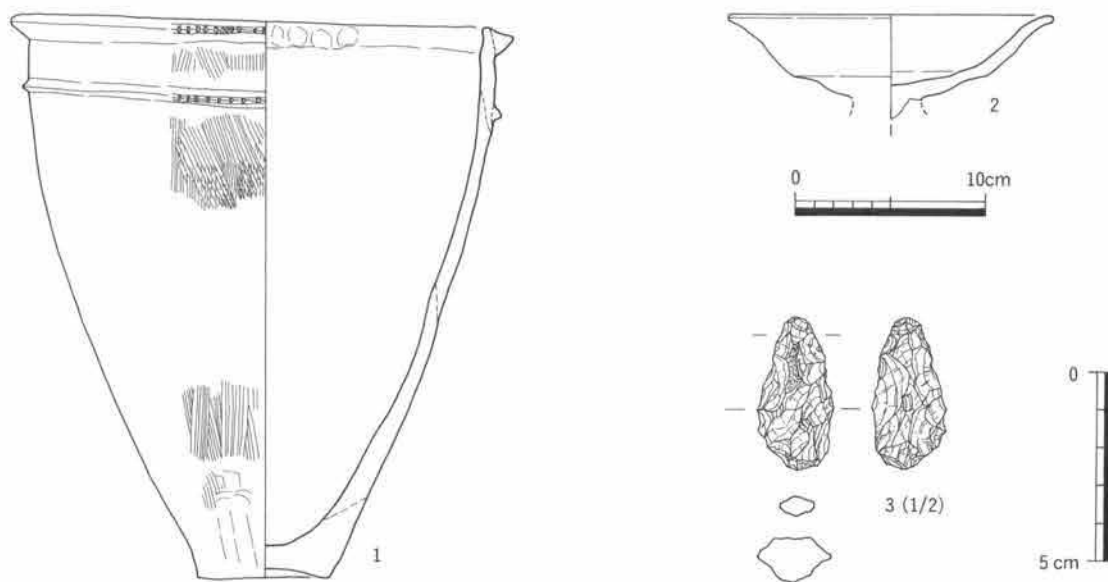


Fig.95 2SK0434出土遺物実測図① (1/4・1/2)

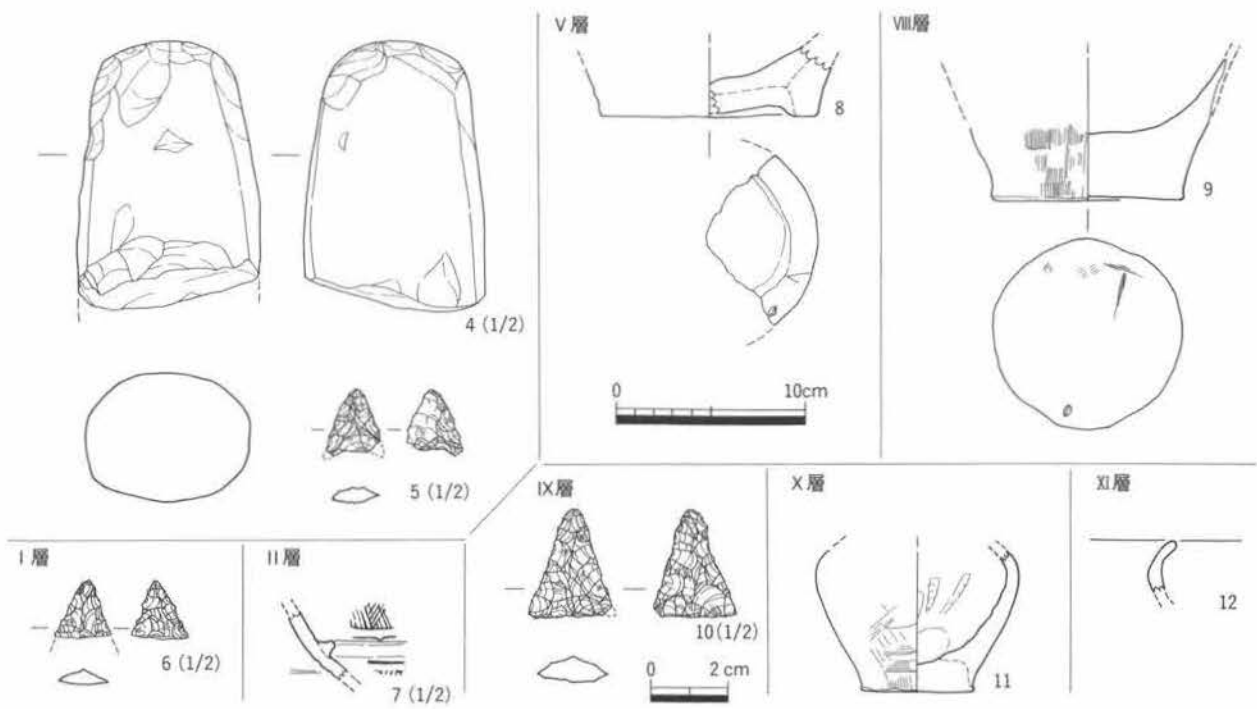


Fig.96 2SK0434出土遺物実測図② (1/2・1/4)

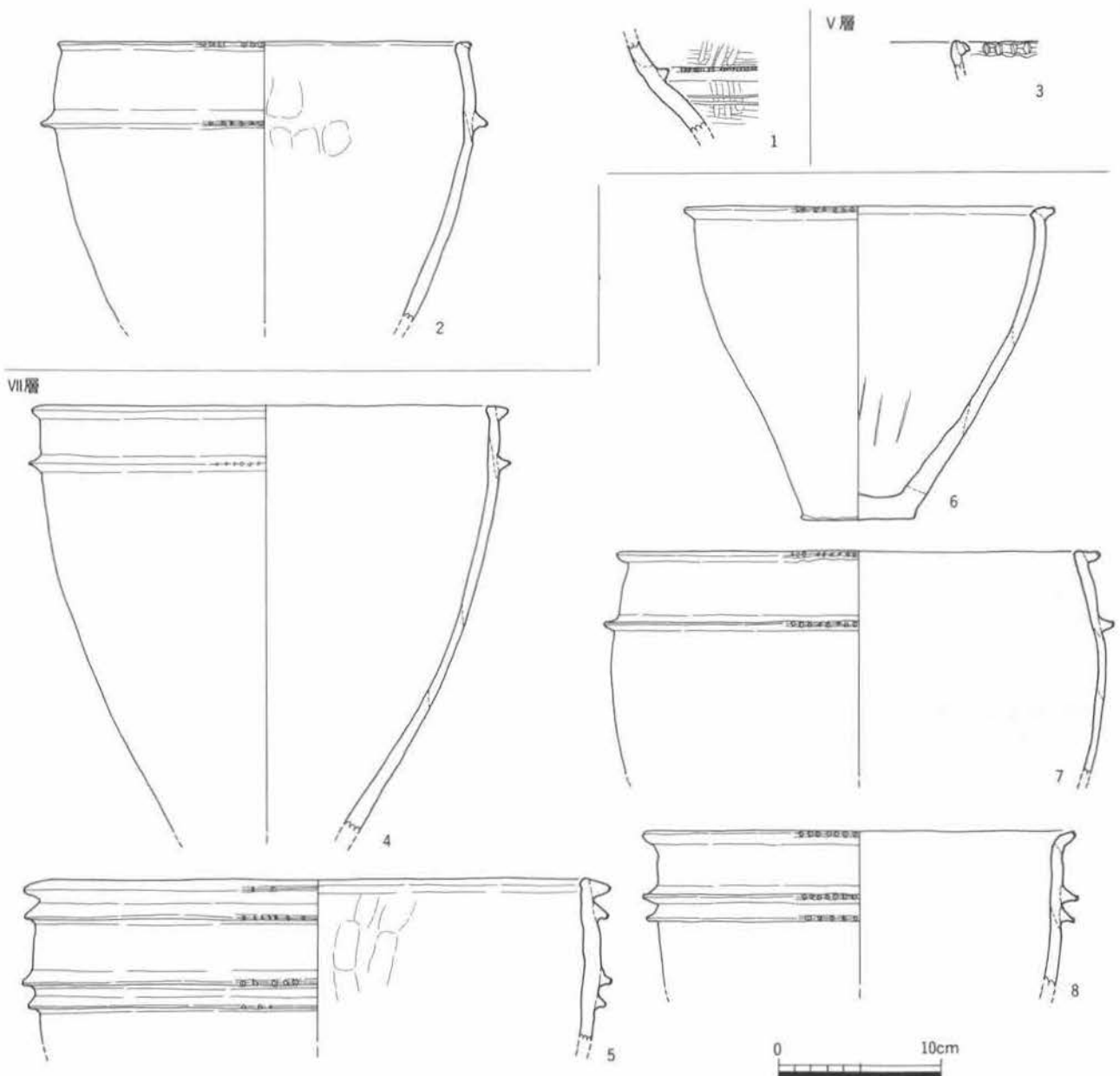


Fig.97 2SK0435出土遺物実測図① (1/4)

部であるが、外底部に刳圧痕が認められる。20は1ヶ所、21は明瞭なもの2ヶ所と不明瞭なもの1ヶ所がある。31はⅥ層出土の小型の壺であるが、胴部最大径が胴部の中程にある類型である。比較的古い形態を残しているといえる。この遺構から出土した甕・壺のうち、粘土の接合状況が確認できるものは全て内傾接合であった。

#### 2SK0431出土遺物 (Fig.93・Pla.111・156)

1は大型の磨製石鏃である。秀逸な製品であるが、片脚を欠損している。2は凸帯文土器の甕である。胴部での屈曲が明瞭であるが、口縁部の刻目凸帯を省略している。

#### 2SK0433出土遺物 (Fig.94・Pla.111)

4は小型の甕である。非常に簡潔な器形をしていて、凸帯や刻目は一切施されない。

#### 2SK0434出土遺物 (Fig.95・96・Pla.111・143)

7は壺である。頸部下位に細かい斜格子文を施している。8・9は甕の底部である。それぞれに1ヶ所ずつ刳圧痕が認められる。

#### 2SK0435出土遺物 (Fig.97・98・Pla.112)

2は半裁時出土の甕である。口縁部と胴部に1条ずつ刻目凸帯を巡らすが、口縁部の凸帯が非常に小さいのが特徴的である。3はⅤ層出土の凸帯文土器の甕である。比較的深い刻目が印象的である。5はⅦ層出土の甕であるが、口縁部と胴部に2条ずつ刻目凸帯が巡るものである。6もⅦ層出土の甕であるが、内湾する口縁部に刻目凸帯を貼付けた形態が目をはく。内面下位には工具痕も残る。9はⅦ層からの出土で、ここでは甕としたが、鉢とすべきかもしれない。15はⅩ層出土の甕であるが、この遺構から出土した弥生土器のうち、唯一外傾接合によるものである。ただし、器形は内傾接合の甕と大差ない。15以外の弥生土器で粘土の接合状況が確認できたものは、例外なく内傾接合であった。

#### 2SK0436出土遺物 (Fig.99・Pla.112・113・157・162)

1は玄武岩製の磨製石斧である。刃部は鋭利ではなく、丸みを帯びている。比較的柔らかい樹木の伐採用か。2・3は壺であるが、いずれも口縁部外面に粘土を貼り足している。しかし、肥厚させる意識に乏しく、外見上は新しい類型と同様の器形である。

#### 2SK0437出土遺物 (Fig.100・Pla.113・143)

1は小型の甕であろう。内湾する口縁部に刻目を施している。体部外面には下弦形の重弧文と思しき施文がある。現存で2単位認められる。2は甕であろうが、鉢かもしれない。胴部凸帯の処で大きく屈曲し、その上位を粘土貼り足して肥厚させる段甕様のものである。口縁部と胴部の凸帯は、ともに刻目を施さないものである。5は小型の甕で、外反させた口縁部端部に刻目を施す。外底面には刳圧痕が1ヶ所残る。6は壺である。極めて短い頸部を強く外反させる。頸部からやや下がった体部外面に凸帯を1条貼付ける。8は把手である。ここでは体部側面に取り付くかたちで図化した。口縁部に上から取り付くものかもしれない。その場合、緩遠風双耳把手付銅復型深鉢の把手部分と考えて良いのではなかろうか。

#### 2SK0438出土遺物 (Fig.101・Pla.113・114・143・144)

2は半裁時出土の段甕で、丸みの強い器形が印象的である。胴部の凸帯状の部分から上位は、外側に粘土を貼り足して肥厚させている。胴部の凸帯状の部分は、段甕の特徴たる段の部分強くつまみ出すことで表現されている。胴部に凸帯を貼り足さず、粘土貼り足しの肥厚によって形成される段に直接刻目を施すという手法は、典型的な段甕の構造と一致する。内面には工具ナデの痕跡が比較的明瞭に残っている。5は半裁時出土の壺である。頸部から上位と胴部以下は接合しないが、同一個体と判断して図上で復元した。肩部に鋸歯文を施す。また、口縁部は外面側に粘土を貼り足して肥厚させており、比較的古相を示すが、粘土肥厚によって形成されるべき段は不明瞭となり、胴部最大径もやや上位に移っている印象がある。10はⅣ層出土の甕である。一見凸帯文土器の甕のうち最も新しい類型を思わせる器形をしているが、やや丸みを帯びた器形と内傾接合をもって、弥生土器と判断した。胴部凸帯部分での屈曲は凸帯文土器のそれを彷彿させる。この遺構出土の土器で粘土の接合状況が確認できたものは、例外なく内傾接合であった。



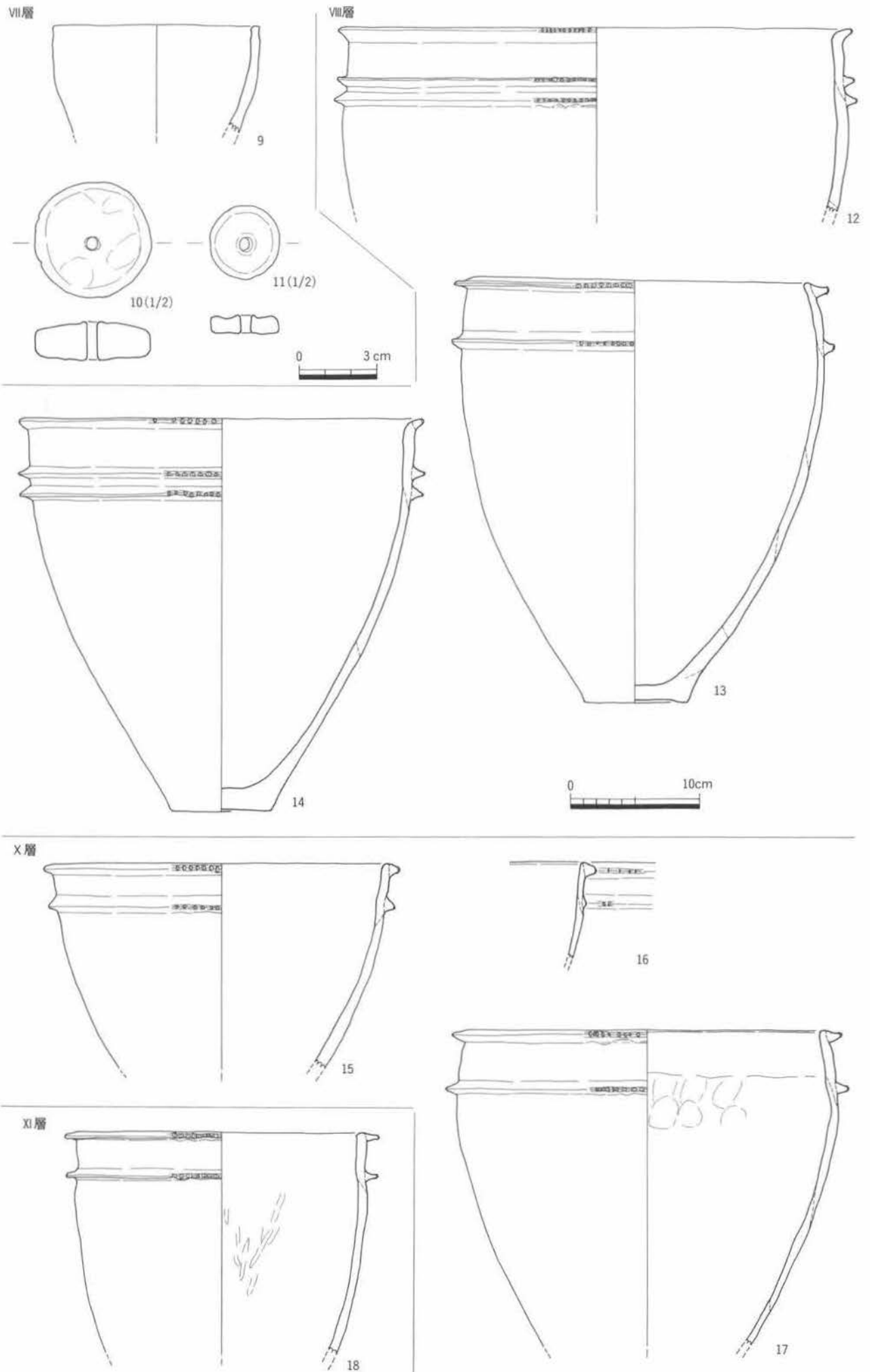


Fig.98 2SK0435出土遺物実測図② (1/4・1/2)

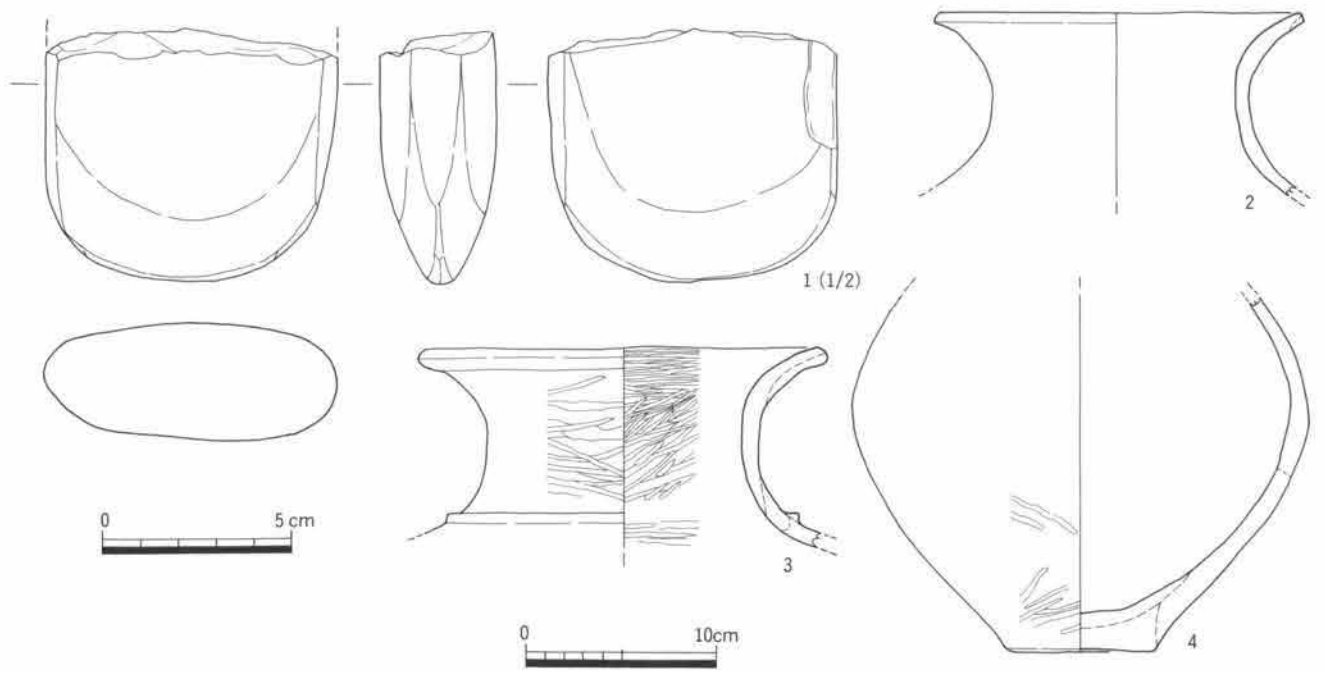


Fig.99 2SK0436出土遺物実測図 (1/2・1/4)

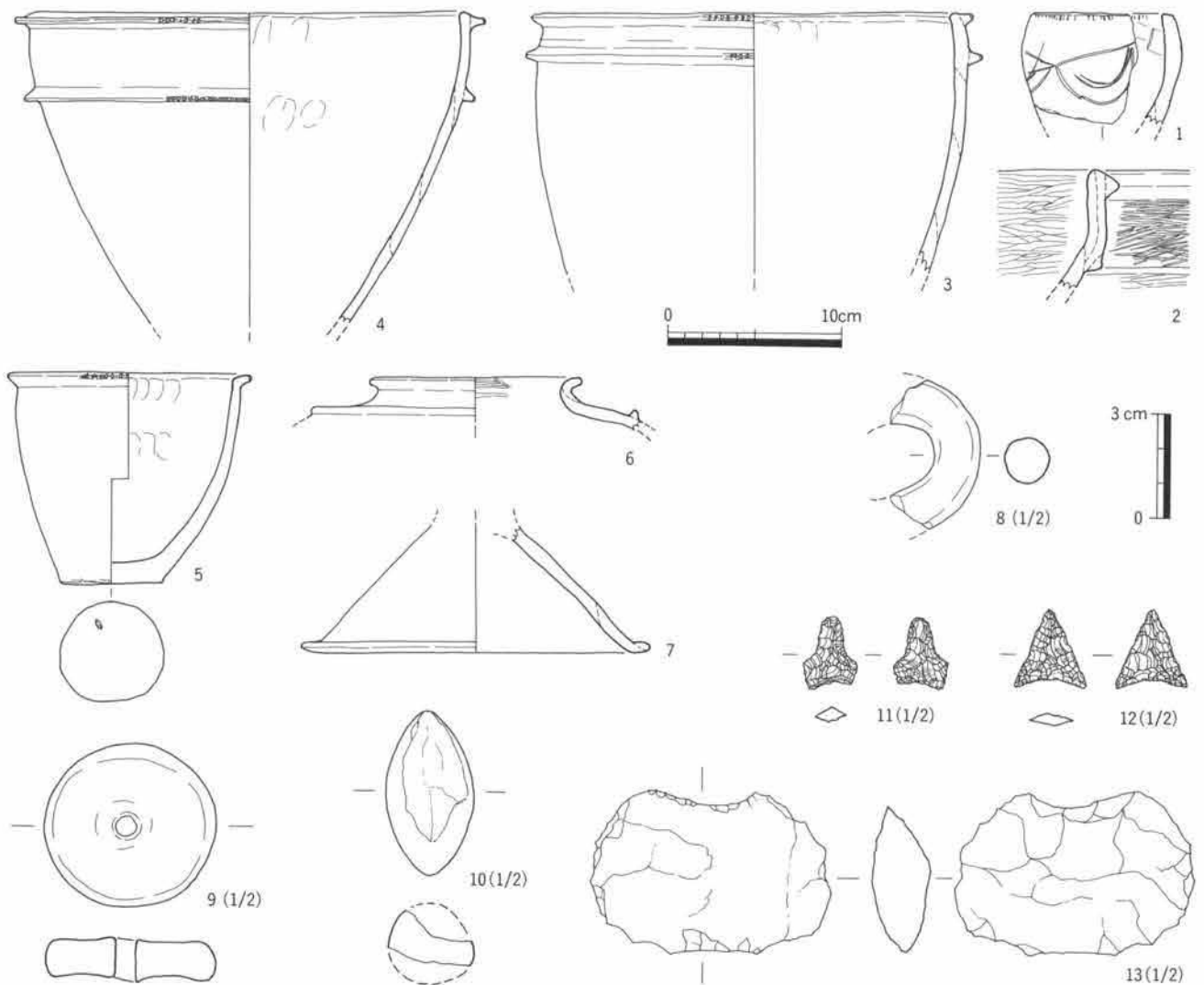
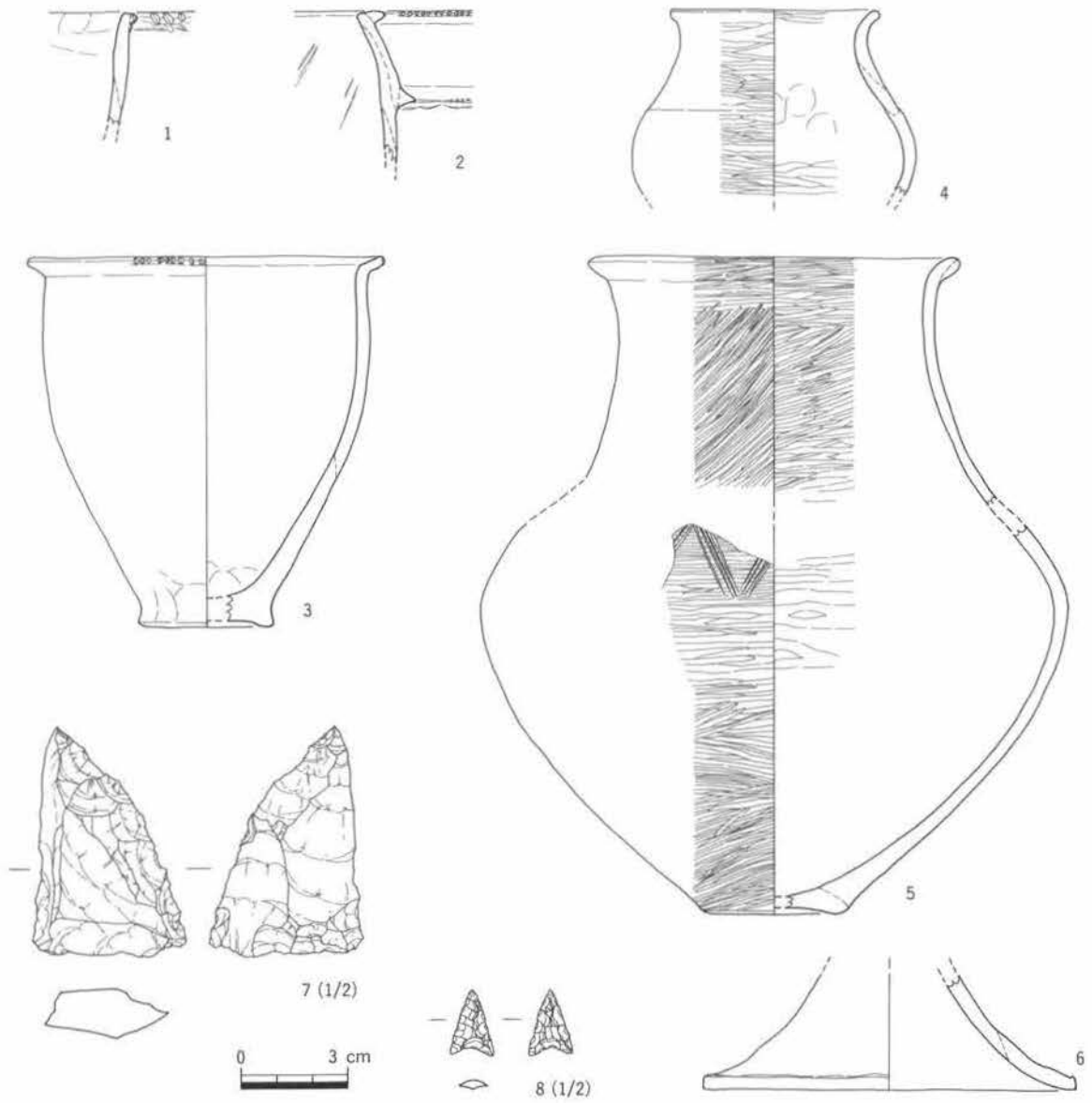
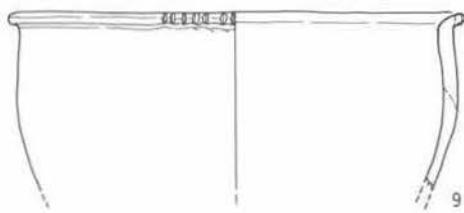


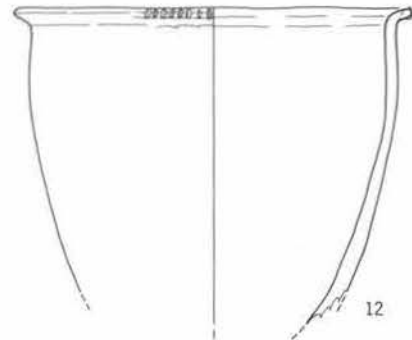
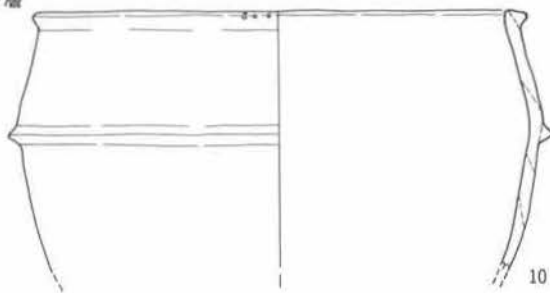
Fig.100 2SK0437出土遺物実測図 (1/4・1/2)



II層



IV層



0 10cm

Fig.101 2SK0438出土遺物実測図 (1/4・1/2)

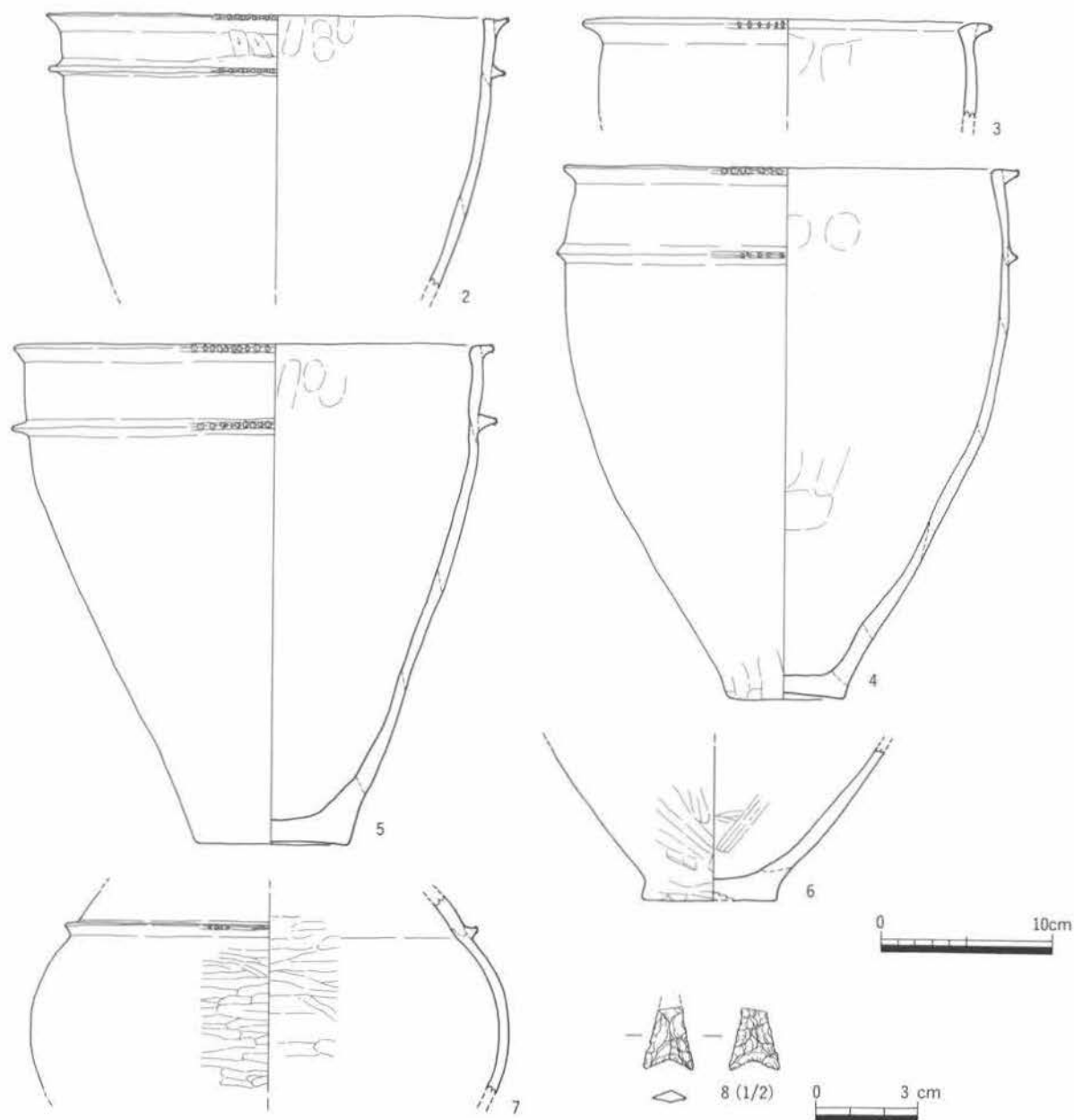


Fig.102 2SK0439出土遺物実測図② (1/4・1/2)

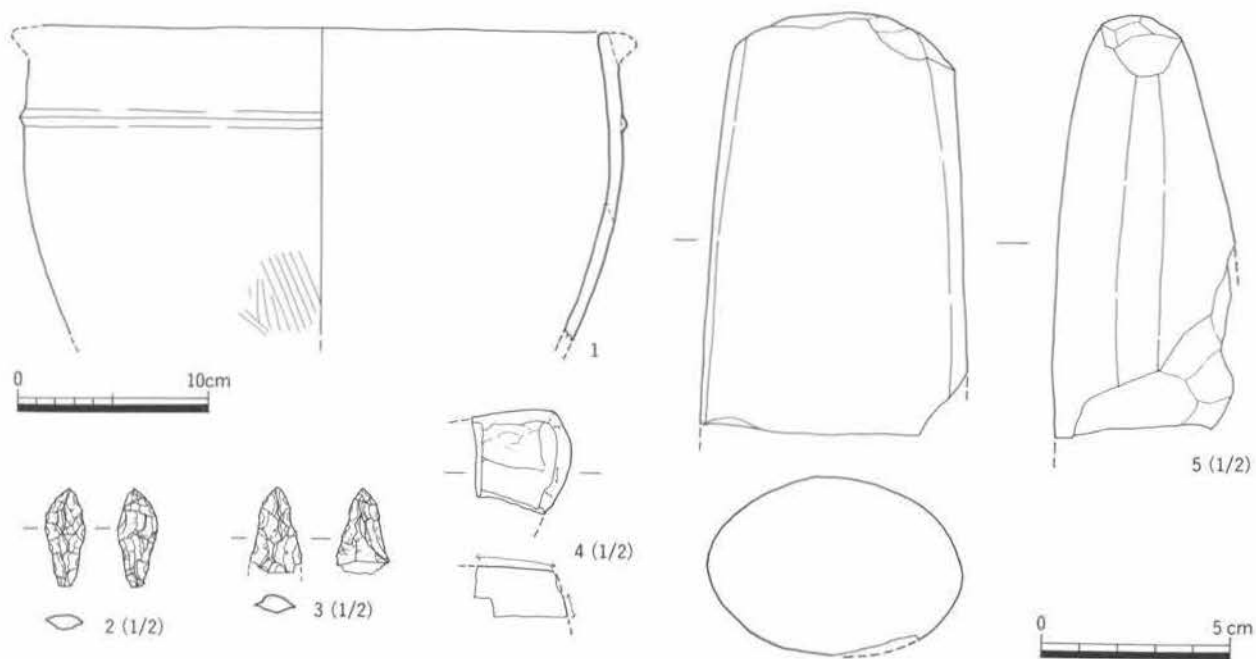


Fig.103 2SK0440出土遺物実測図① (1/4・1/2)

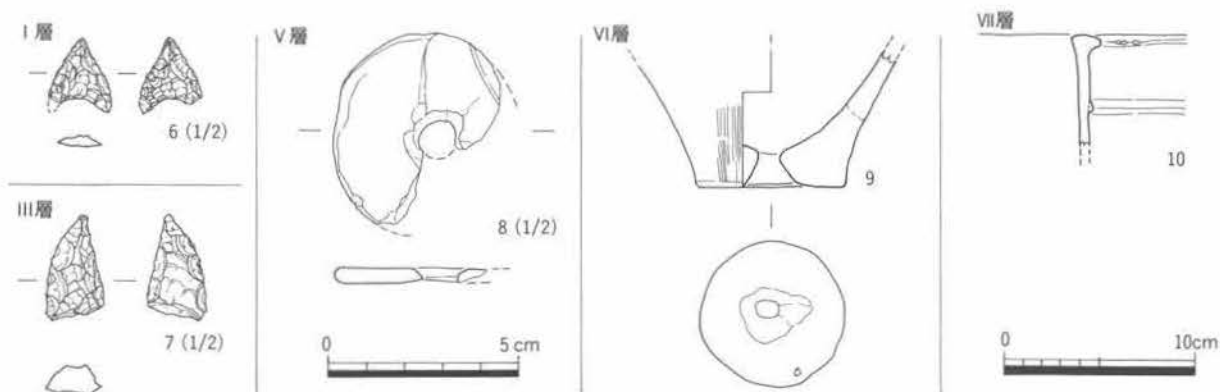


Fig.104 2SK0440出土遺物実測図② (1/2・1/4)

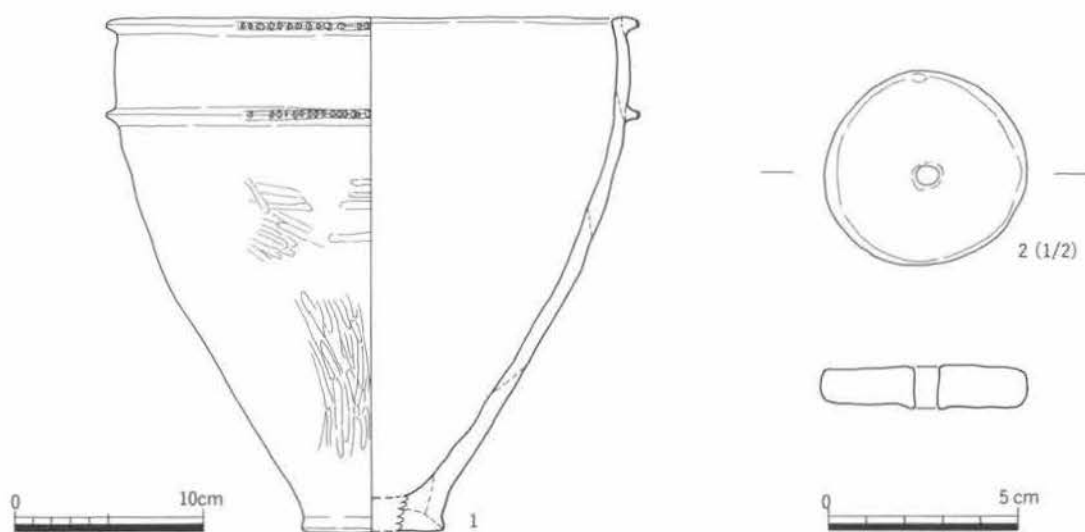


Fig.105 2SK0441出土遺物実測図 (1/4・1/2)

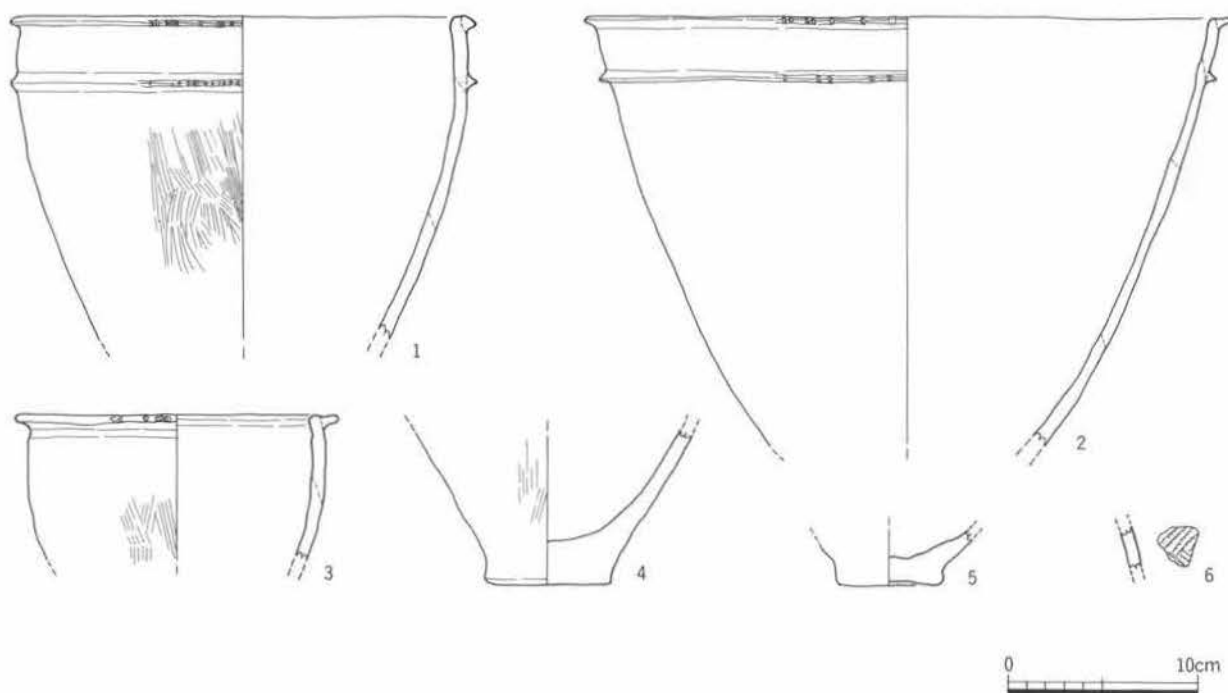


Fig.106 2SK0445出土遺物実測図 (1/4)

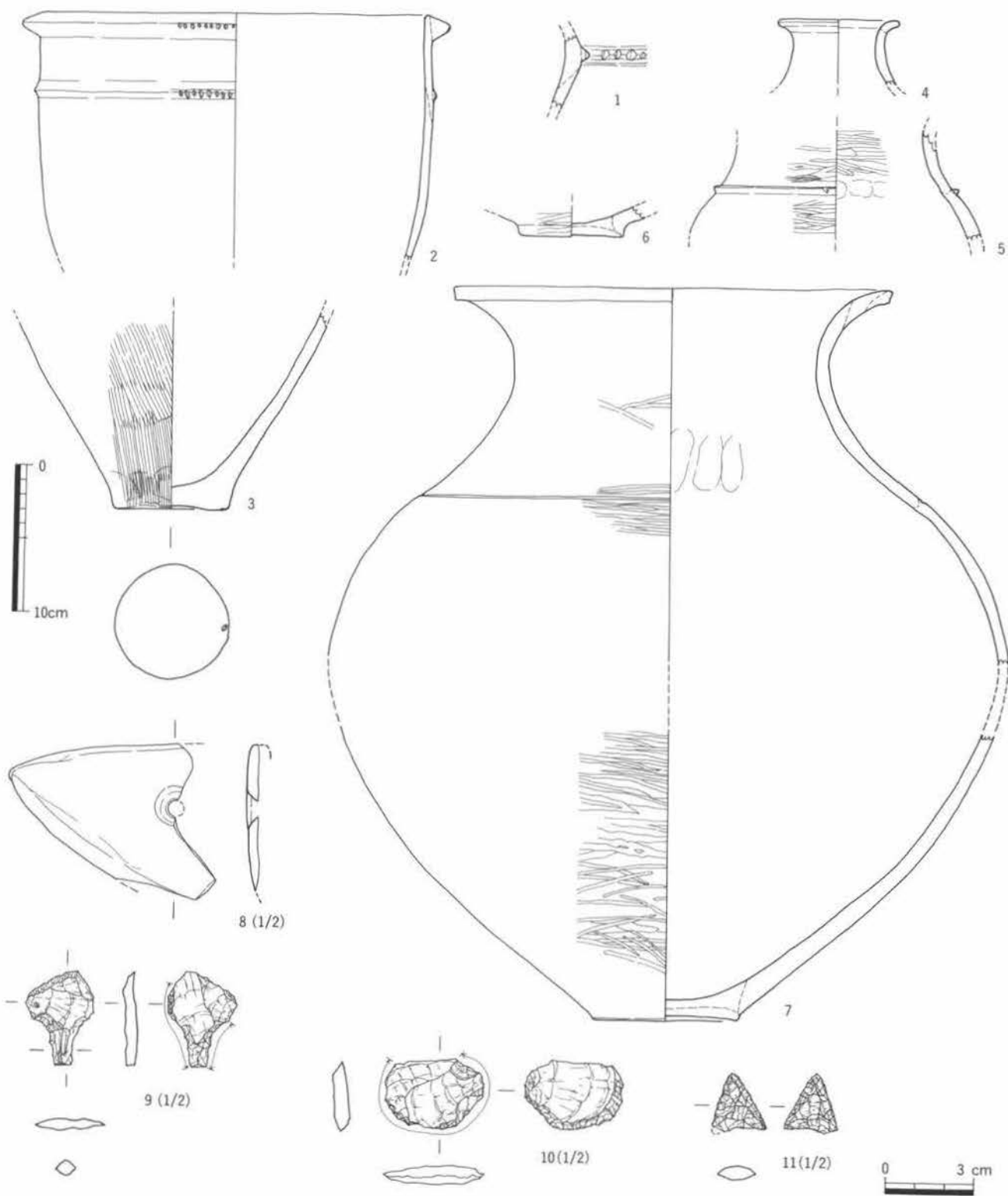


Fig.107 2SK0448出土遺物実測図 (1/4・1/2)

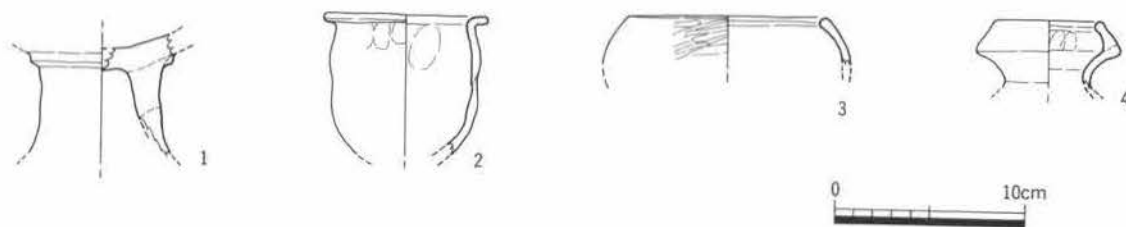


Fig.108 2SK0451出土遺物実測図① (1/4)

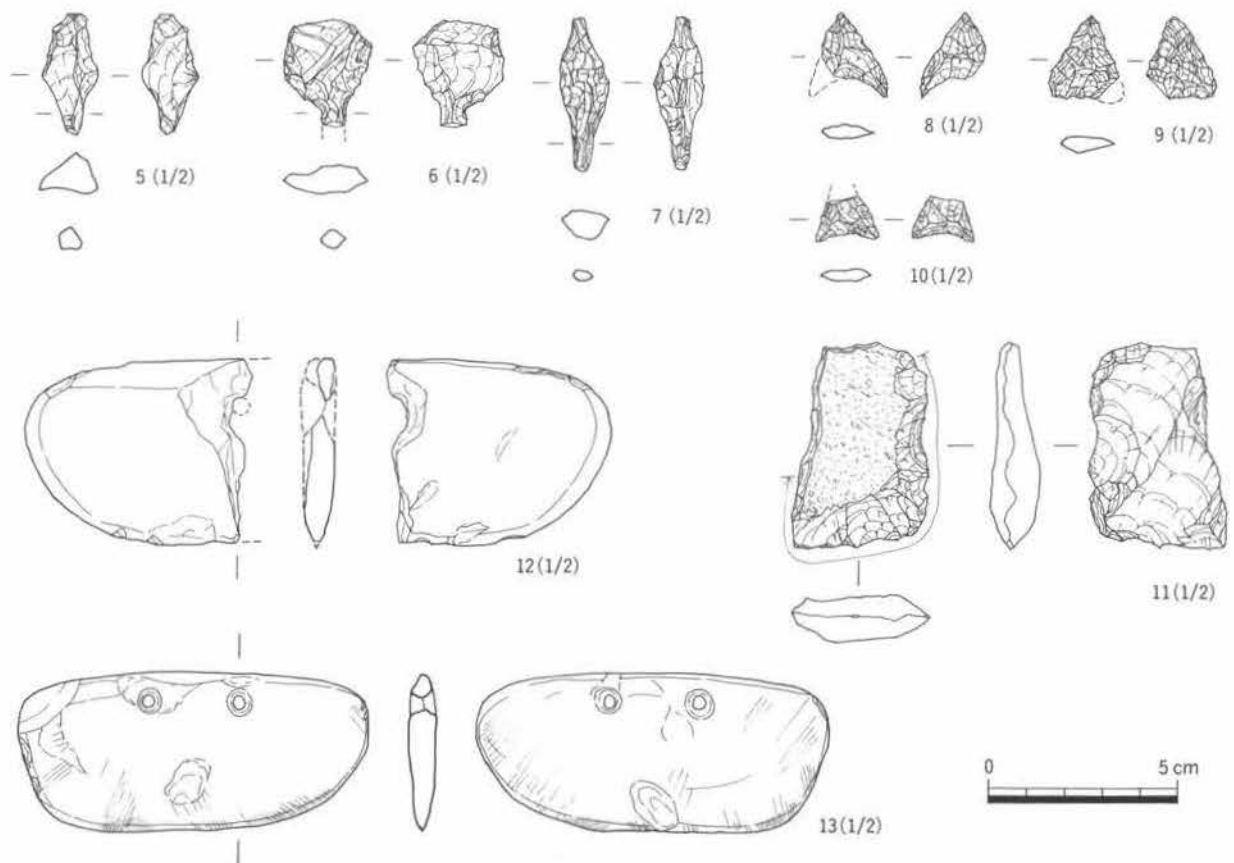


Fig.109 2SK0451出土遺物実測図② (1/2)

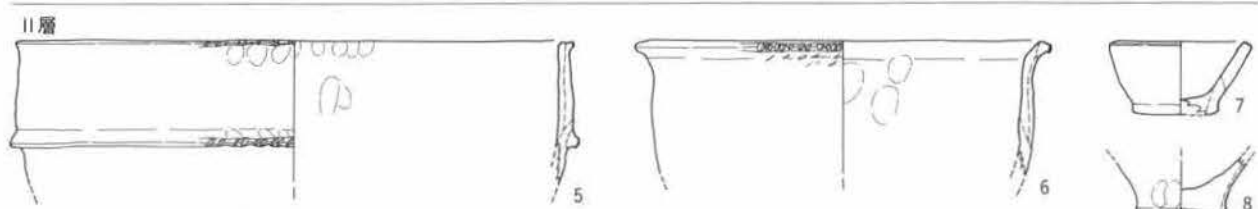
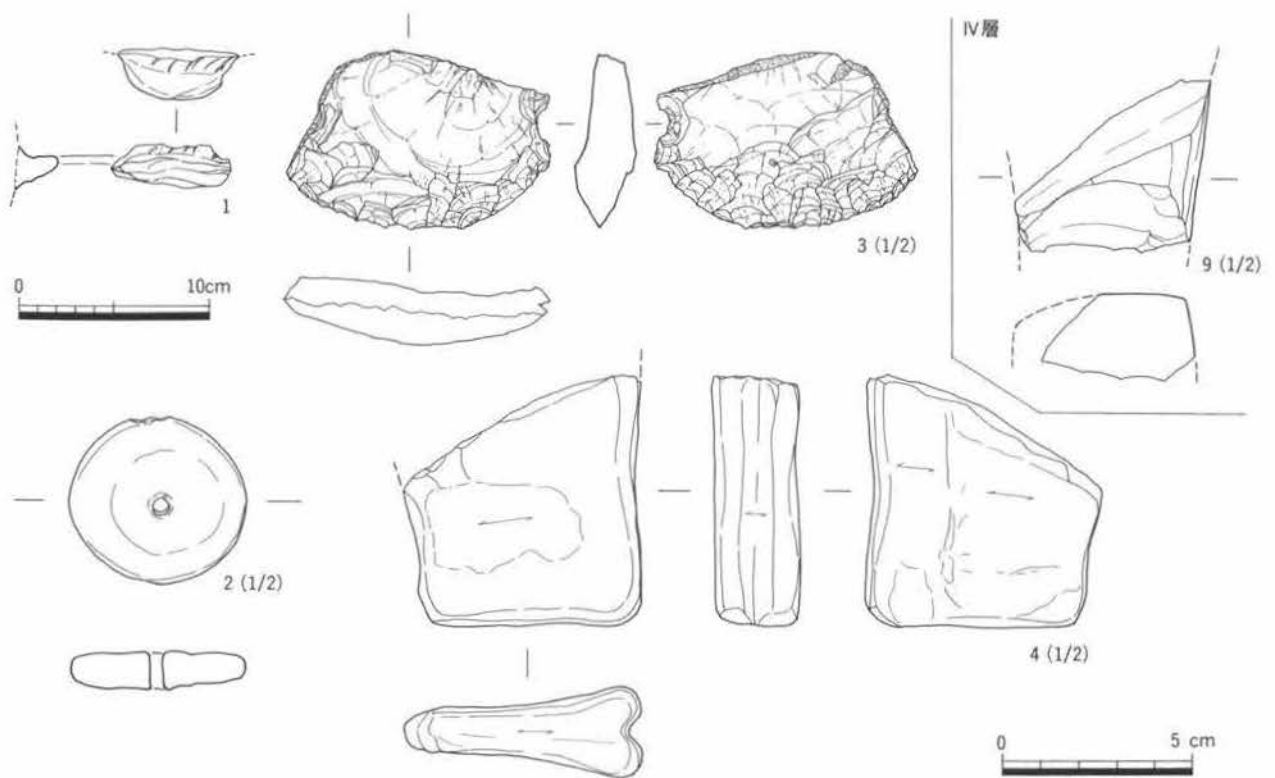


Fig.110 2SK0453出土遺物実測図① (1/2 · 1/4)



なく内傾接合であった。

2SK0439出土遺物 (Fig.78・102・Pla.106・114・144)

7は壺である。胴部の最大径が胴部中位にあり、やや古相を呈する資料である。

2SK0445出土遺物 (Fig.106・Pla.114)

6は壺の体部小片である。外面に羽状文を施している。施文原体は貝殻かと思われるが、木製の篋状工具かもしれない。

2SK0448出土遺物 (Fig.107・Pla.114・115・144)

1は凸帯文土器の甕胴部である。屈曲部には刻目凸帯を貼付け、粘土の接合は明瞭な外傾接合である。器面の仕上げは丁寧である。3は甕である。外底面に刳圧痕を1ヶ所認める。

2SK0451出土遺物 (Fig.108・109・Pla.115・144)

2は小型の甕である。やや壺の器形に近く、変容壺を意識したのかもしれないが詳細は不明である。粘土の接合も外傾接合となっている。12は結晶片岩製の石包丁である。両刃と思われるが未製品かもしれない。13は粘板岩製の石包丁である。刃部は両刃で片面に穀擦痕が2ヶ所認められる。

2SK0453出土遺物 (Fig.110・111・Pla.115・116・145・159・160)

1はつまみか。擬朝鮮系無文土器にみられる牛角状突起の退化したものかもしれない。9は粘板岩製の柱状片刃石斧である。他遺構出土の柱状片刃石斧同様、筑後市近郊で見かけない石材である。5と6はⅡ層出土の甕である。口縁部から胴部上位まで外側に粘土を貼り足している。しかし、2例とも肥厚は充分でなく、形態的には段甕と認められない。5は粘土の接合が外傾接合である。12はⅢ層出土の甕であるが、外底面に刳圧痕が1ヶ所見られる。13はⅢ層出土の壺である。頸部と胴部の屈曲が殆ど失われている。一方、口縁部は外面に粘土を貼り足して肥厚させるなど古い要素が見られる。15はⅣ層出土の甕であるが、一見したところ段甕のように感じられた。しかし、粘土の貼り足しは見られないので、判断に迷うところである。16はⅣ層出土の甕底部である。外底面に刳圧痕が1ヶ所残る。16はⅣ層出土の甕底部である。外底部に刳圧痕を1ヶ所認める。17はⅣ層出土の壺である。口縁部外面に粘土を貼り足して肥厚させており、且つ頸部と胴部の接合部分の内外面には比較的明瞭な段が認められる。18もⅣ層出土の壺であるが、肩の張りが強い器形が目をひく。底部は円盤接合で外面調整は丁寧なナデである。17・18ともに比較的古相を示す。5以外で粘土の接合が確認できたものは、すべて内傾接合である。

2SK0457出土遺物 (Fig.112・Pla.116)

1は甕である。外面は工具ナデによっており、所謂擦過といわれる調整を施しているようである。外底面には刳圧痕が1ヶ所残る。

2SK0461出土遺物 (Fig.112・Pla.145)

3はサヌカイト製の釣針としたが、石刃かもしれない。釣針の場合、組み合わせ式の結合型になるか。

2SK0480出土遺物 (Fig.112・Pla.116)

6は甕である。口縁部は小さな鋏先状となり、胴部の丸みも強く感じられる。粘土の接合は内傾接合である。胴部にも刻目凸帯を貼り付けいている。粘土の接合は内傾接合である。

2SK0485出土遺物 (Fig.113・Pla.116)

1は甕である。一覧表では胴部凸帯が2条あるとしたが、口縁部凸帯と胴部凸帯の間にもう1条の凸帯があるとしたほうが適切かもしれない。粘土の接合は内傾接合である。

2SK0507出土遺物 (Fig.117・Pla.117・160)

4は柱状片刃石斧である。挟りの部分が残存している。石材は粘板岩であるが、筑後市近郊では見かけない石材である。

2SK0510出土遺物 (Fig.118・Pla.145)

1は玄武岩製の鏃である。磨製石斧等の破砕品からの再加工品ではなかろうか。未製品かもしれない。

2SK0524出土遺物 (Fig.119・120・Pla.117・145)

13・14はⅣ-12層出土の壺底部である。ともに外底面に刳圧痕が1ヶ所認められる。

2SK0525出土遺物 (Fig.121・Pla.117)

10はⅣ層出土の壺である。口縁部は外面に粘土を貼り足し肥厚させている。一方、頸部と胴部の粘土

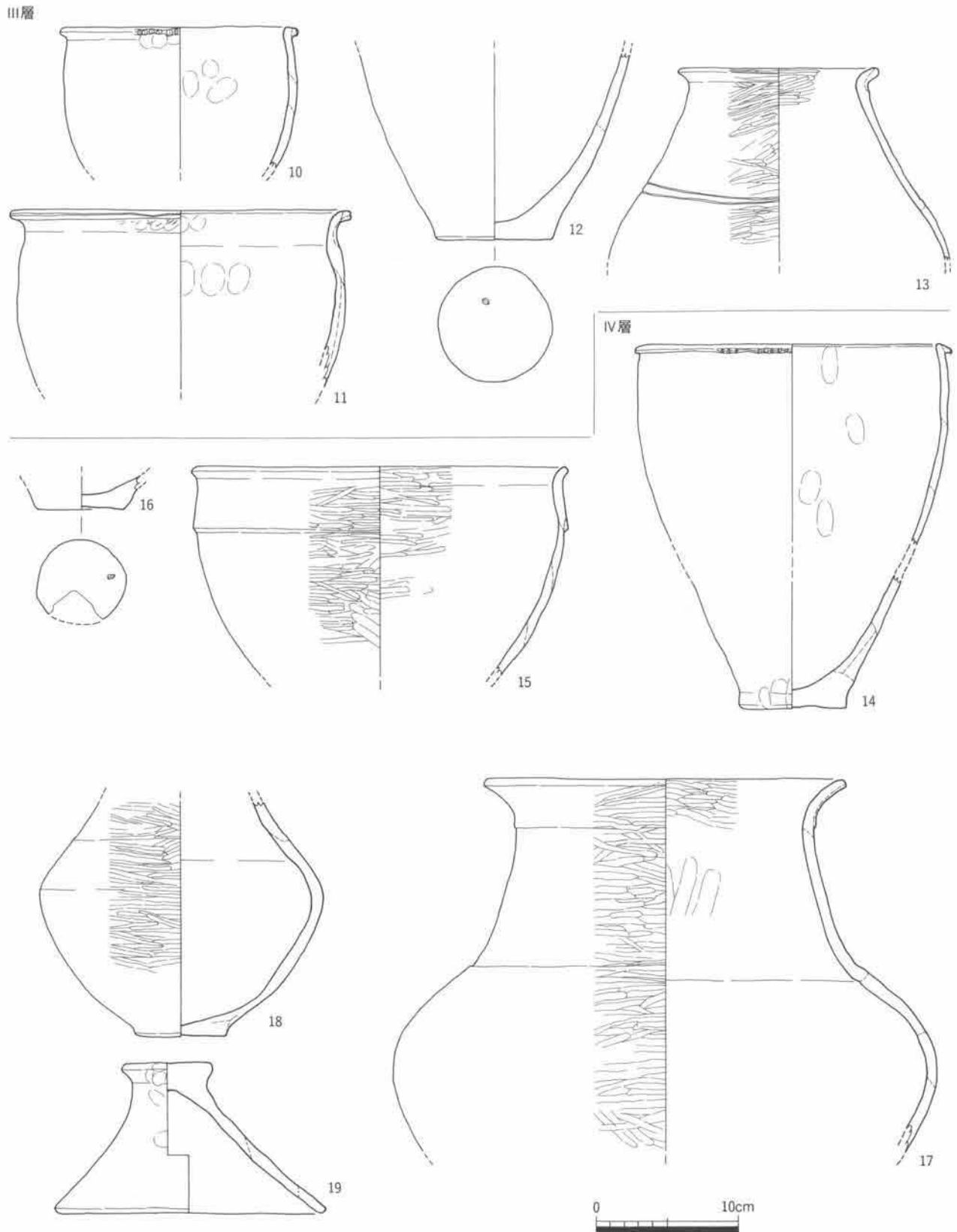


Fig.111 2SK0453出土遺物実測図② (1/4)

接合による段は外面側は明瞭であるものの、内面側はやや不明瞭である。古相と新相が併存する。

2SK0540出土遺物 (Fig.123・Pla.118・146)

8は壺である。この遺構出土の遺物の中では唯一時期の異なるものであるが、2SK0502に切られており、大半がその下層にあたるため、混入した可能性が高い。13は泥岩製の石包丁である。刃部は典型的な両刃偏刃で、片面に穀擦痕が認められる。土器はすべて内傾接合である。

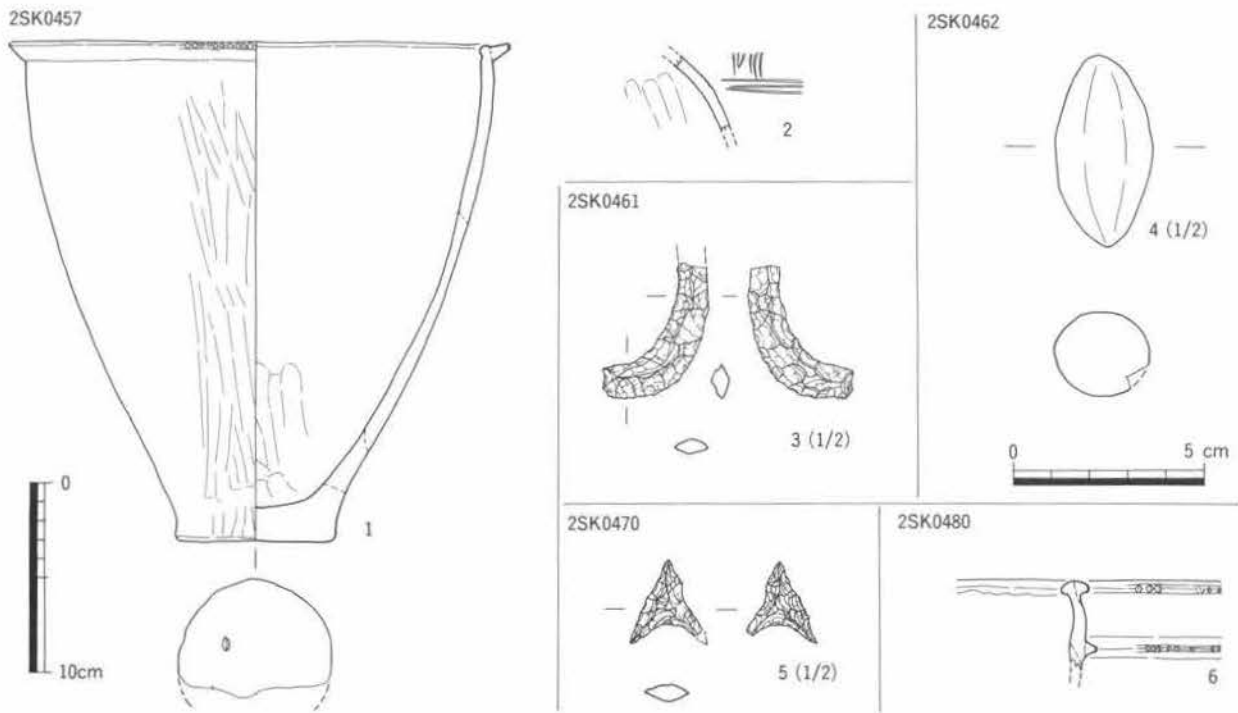


Fig.112 2SK0457・2SK0461・2SK0462・2SK0470・2SK0480  
出土遺物実測図 (1/4・1/2)

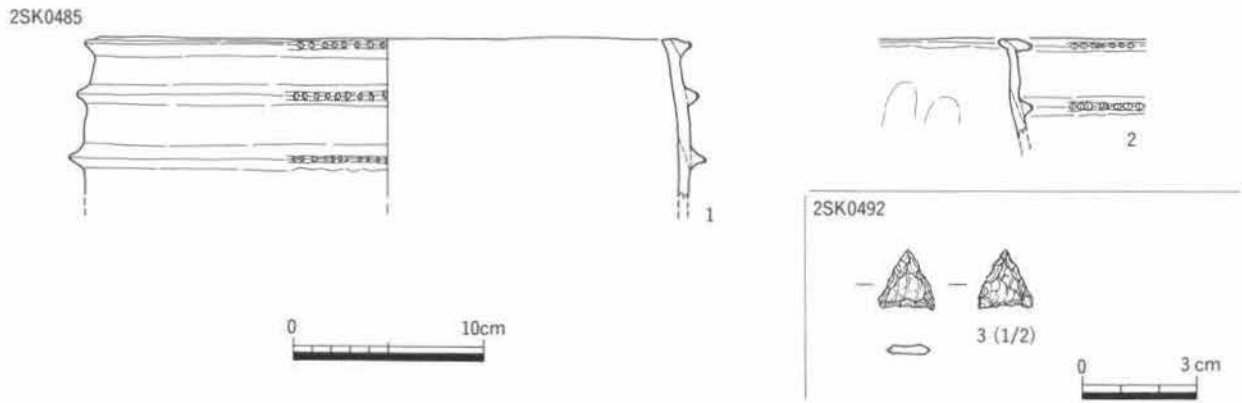


Fig.113 2SK0485・2SK0492出土遺物実測図 (1/4・1/2)

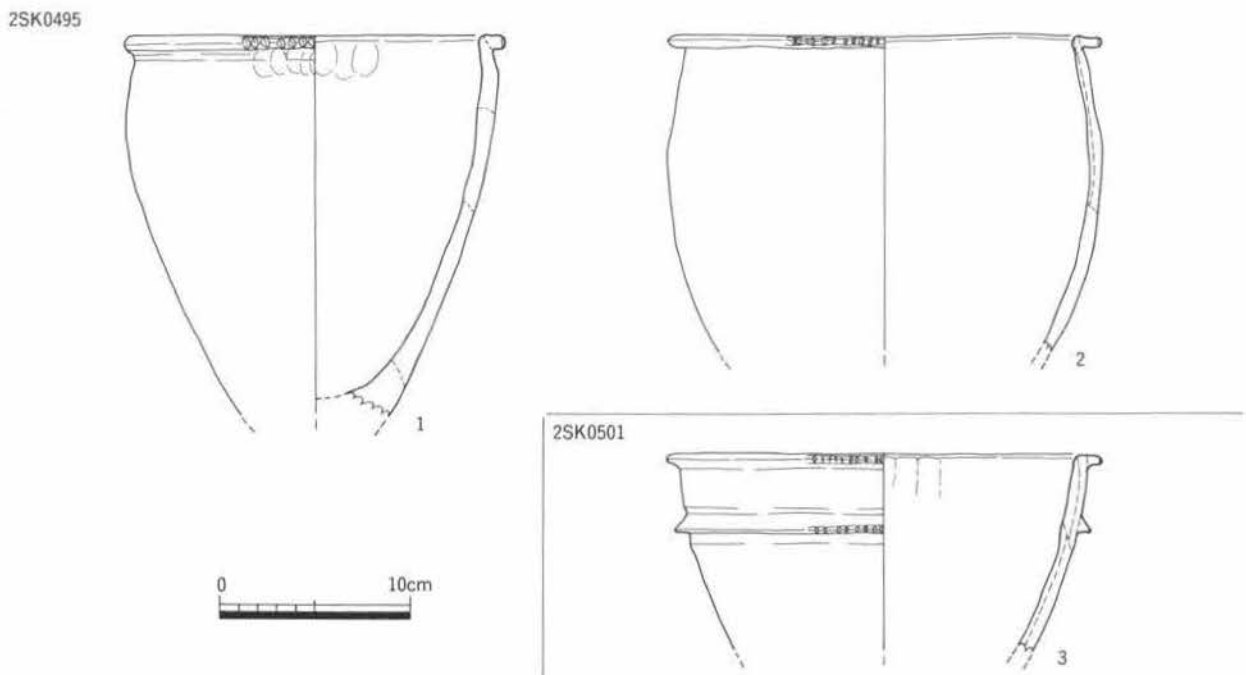


Fig.114 2SK0495・2SK0501出土遺物実測図 (1/4)

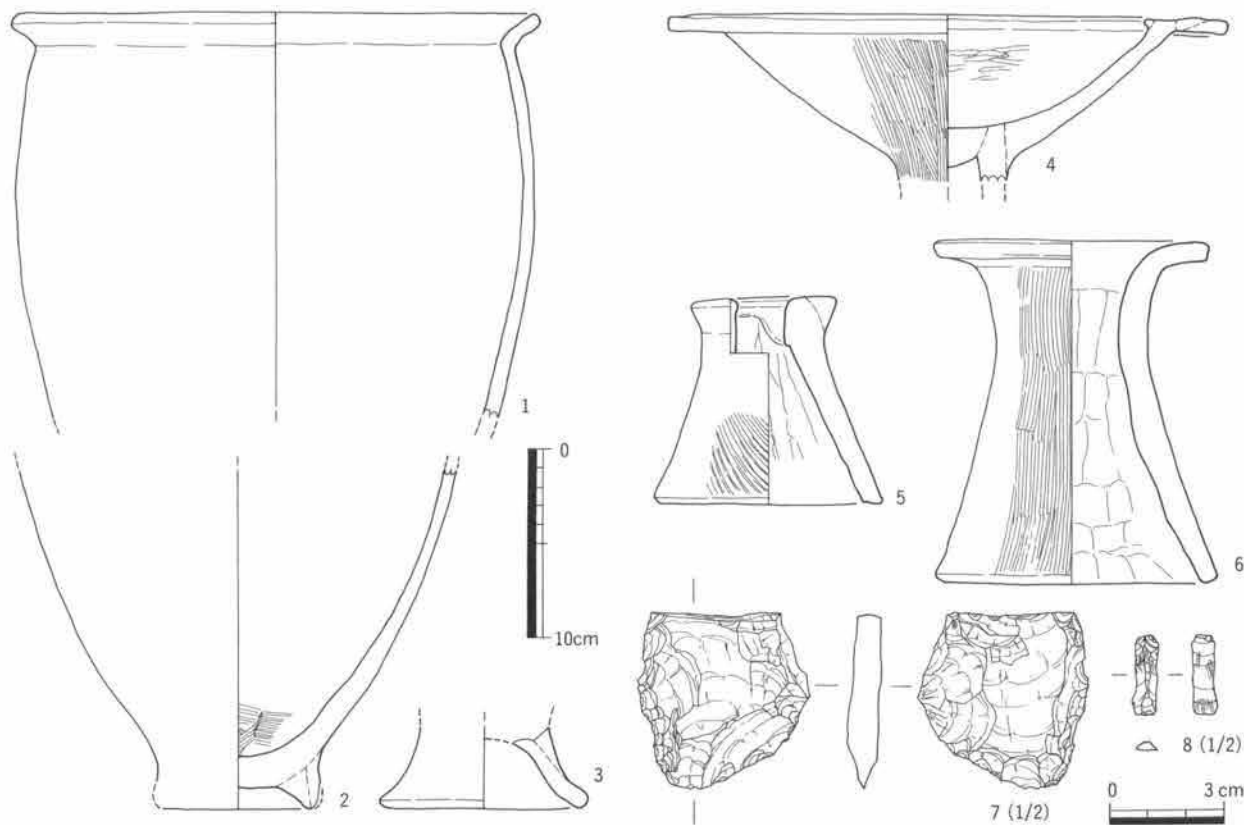


Fig.115 2SK0502出土遺物実測図 (1/4・1/2)

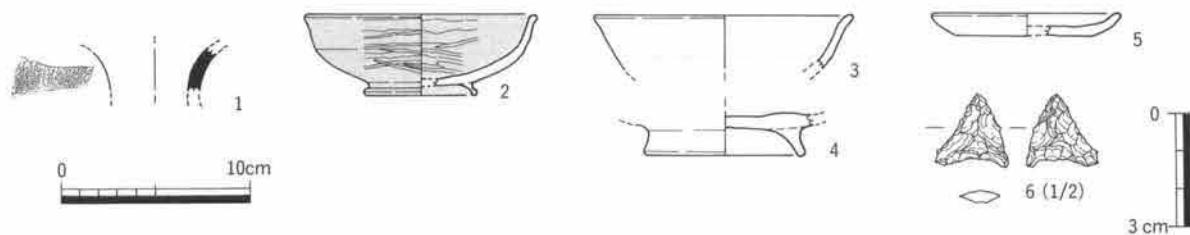


Fig.116 2SK0506出土遺物実測図 (1/4・1/2)

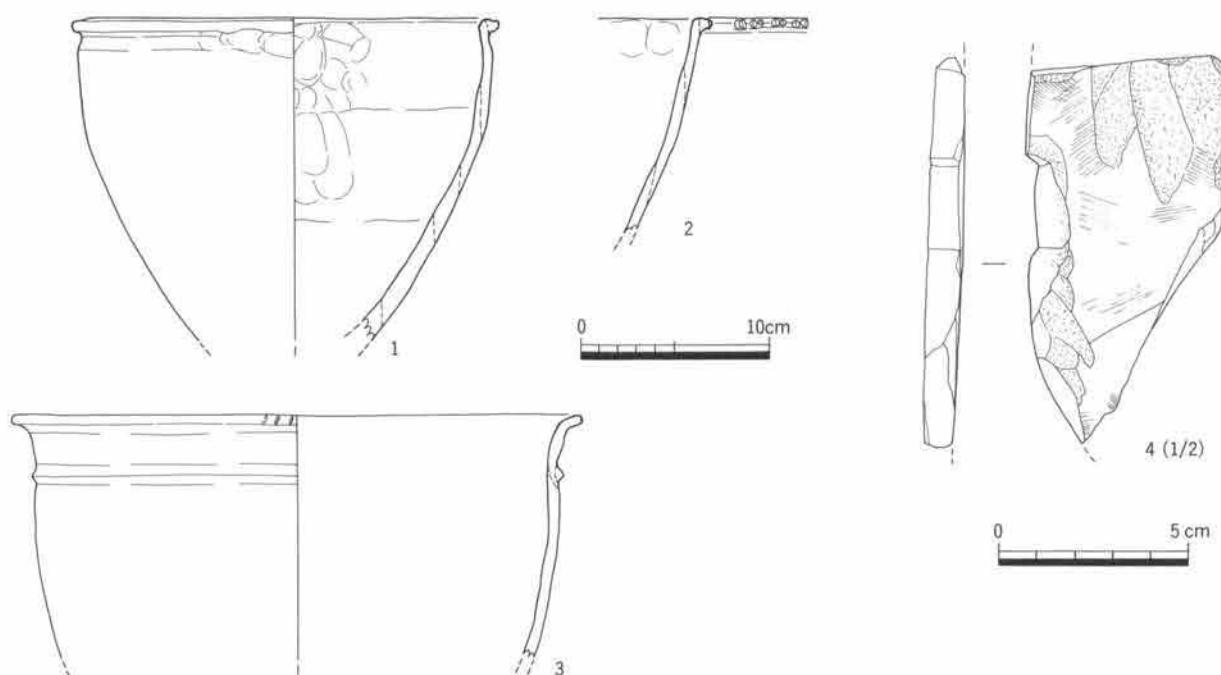


Fig.117 2SK0507出土遺物実測図 (1/4・1/2)

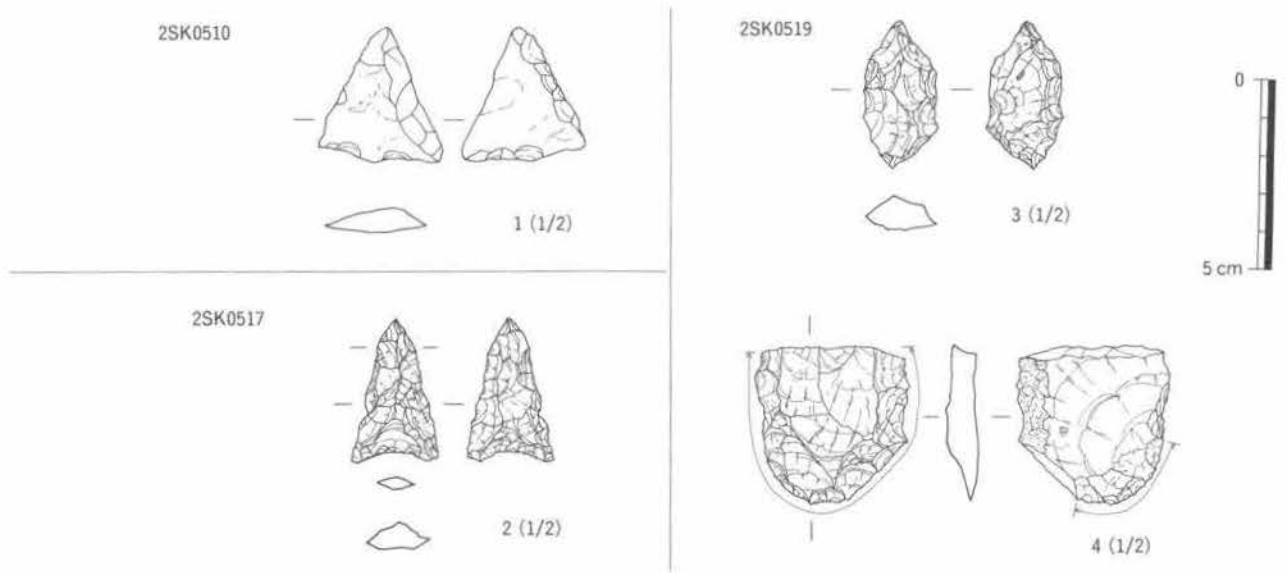


Fig.118 2SK0510・2SK0517・2SK0519出土遺物実測図(1/2)

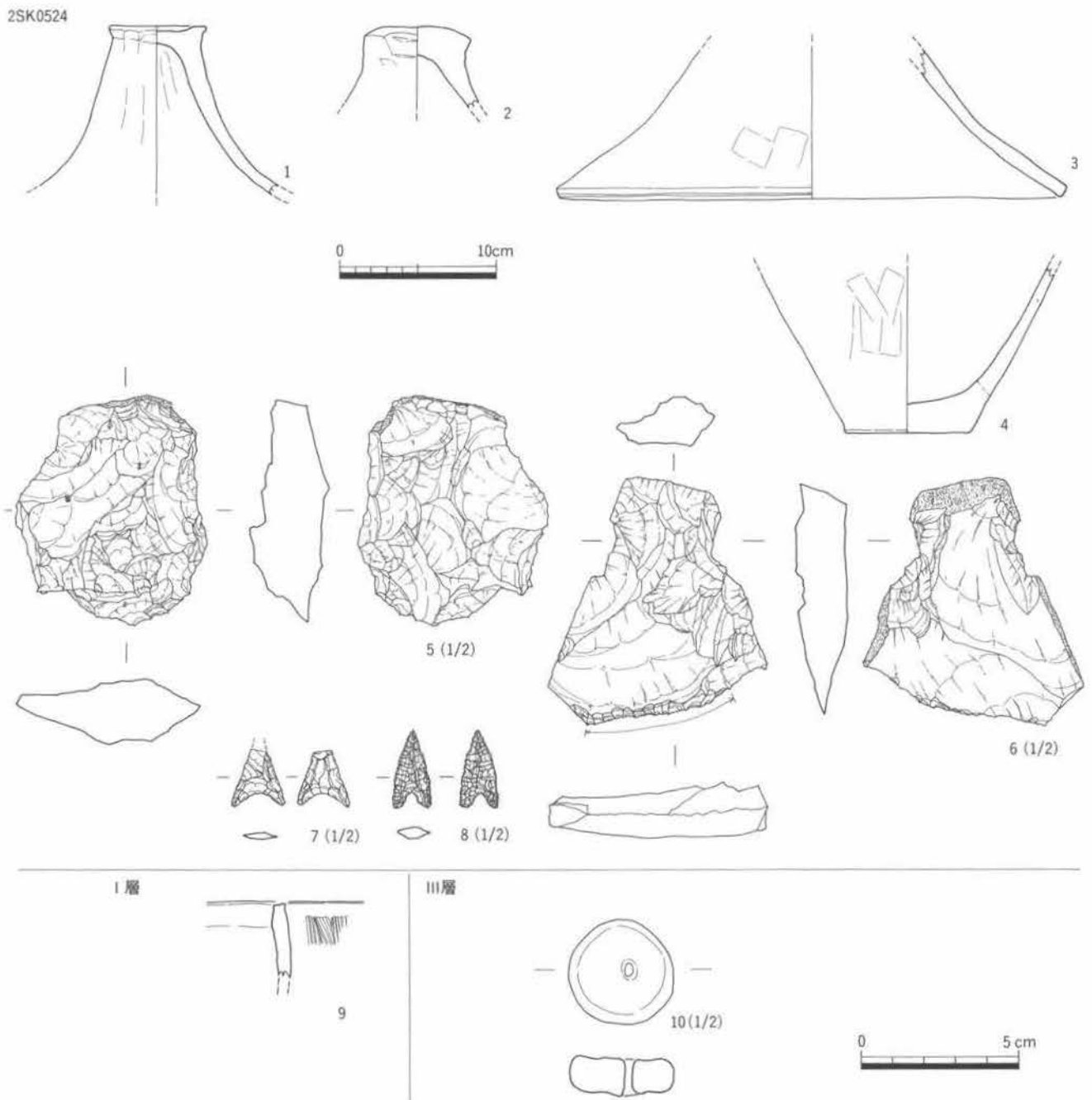


Fig.119 2SK0524出土遺物実測図①(1/4・1/2)

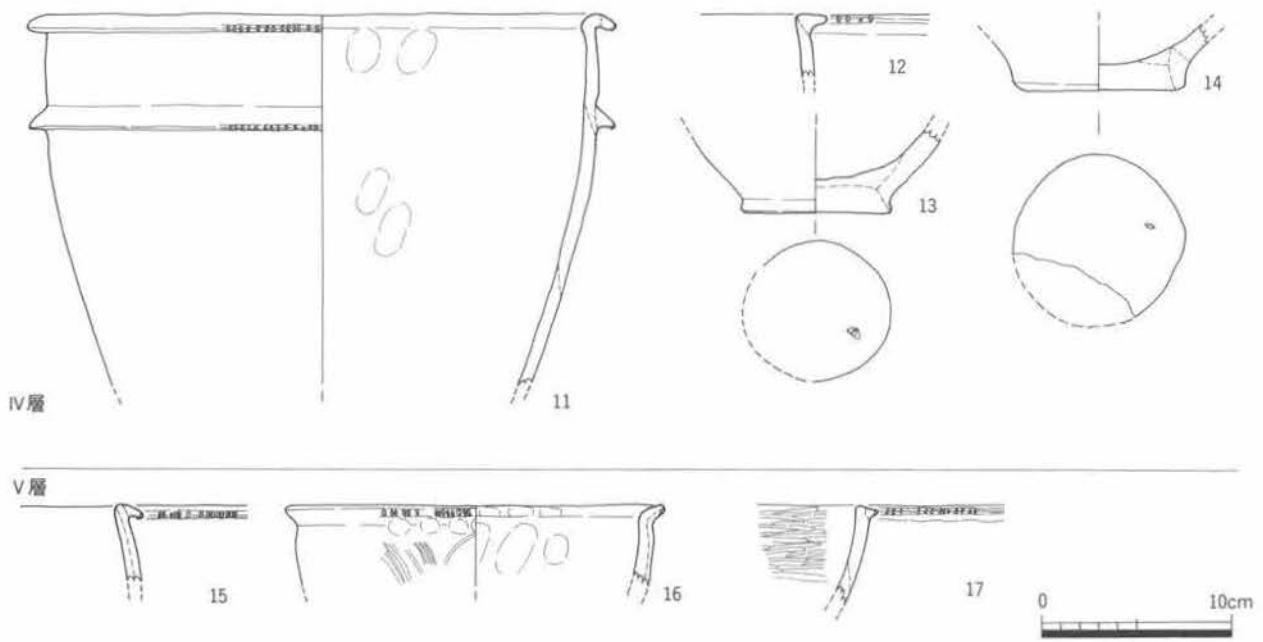


Fig.120 2SK0524出土遺物実測図② (1/4)

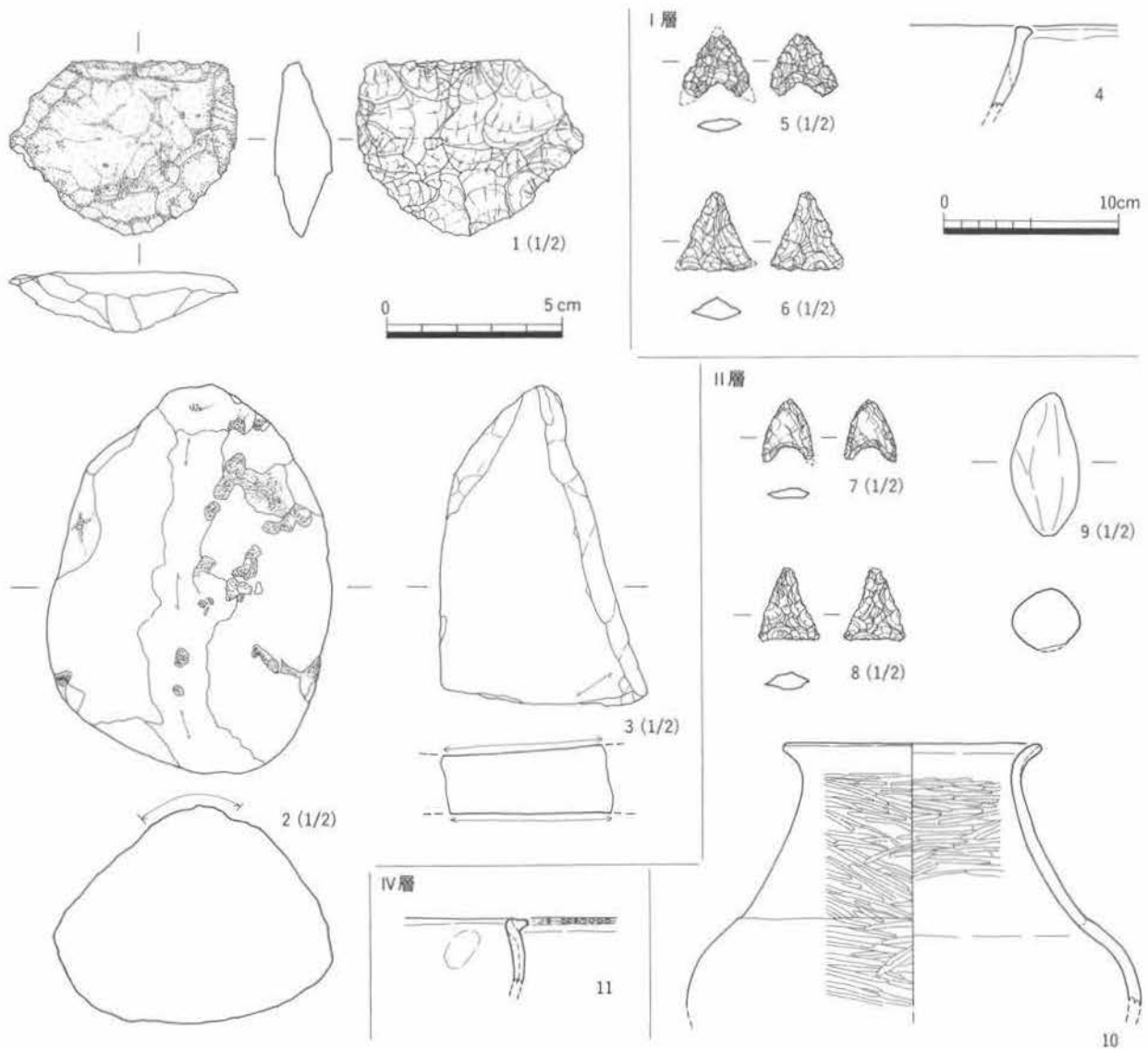
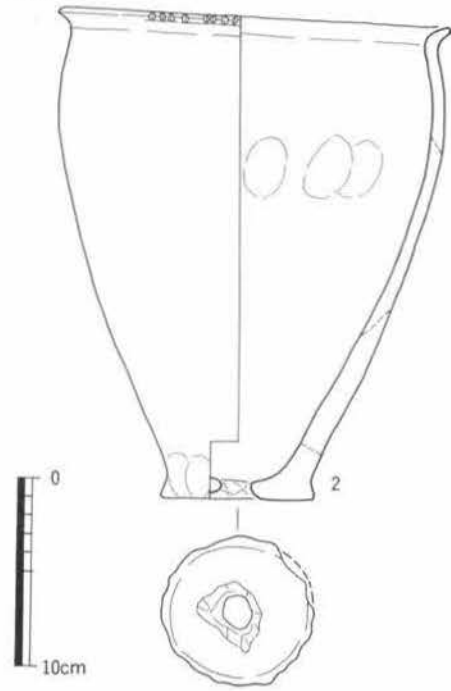
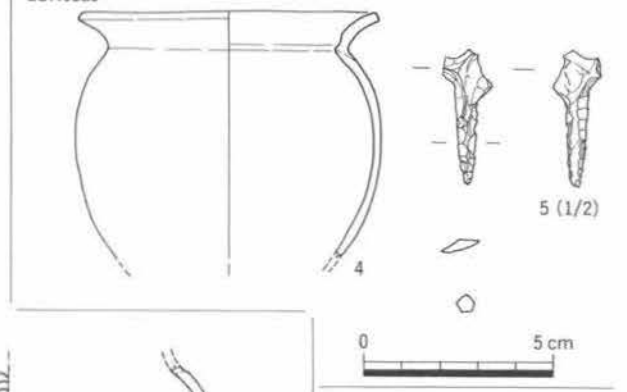


Fig.121 2SK0525出土遺物実測図 (1/2・1/4)

2SK0526



2SK0529



2SK0535

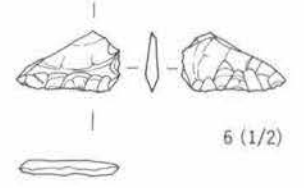


Fig.122 2SK0526・2SK0529・2SK0535出土遺物実測図(1/4)

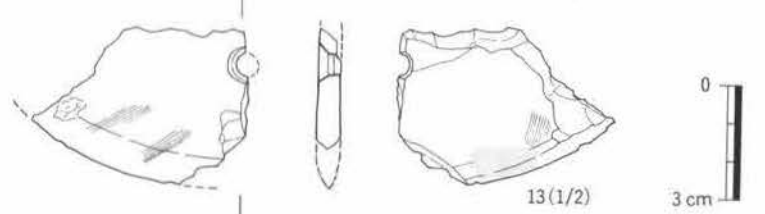
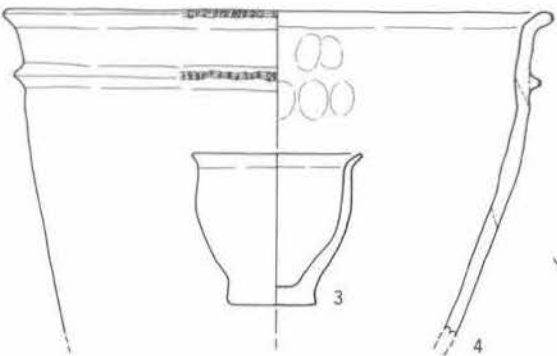
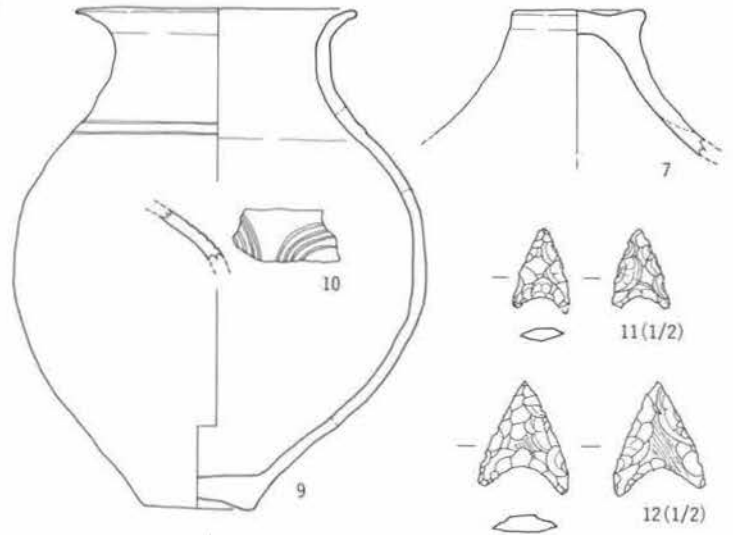
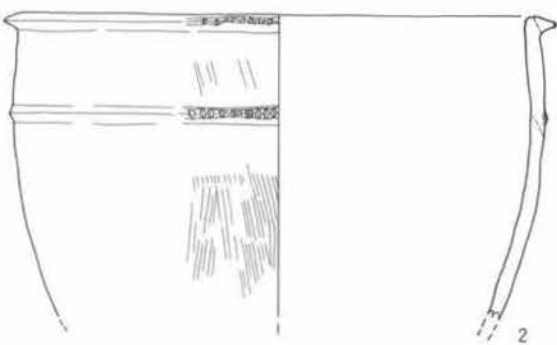
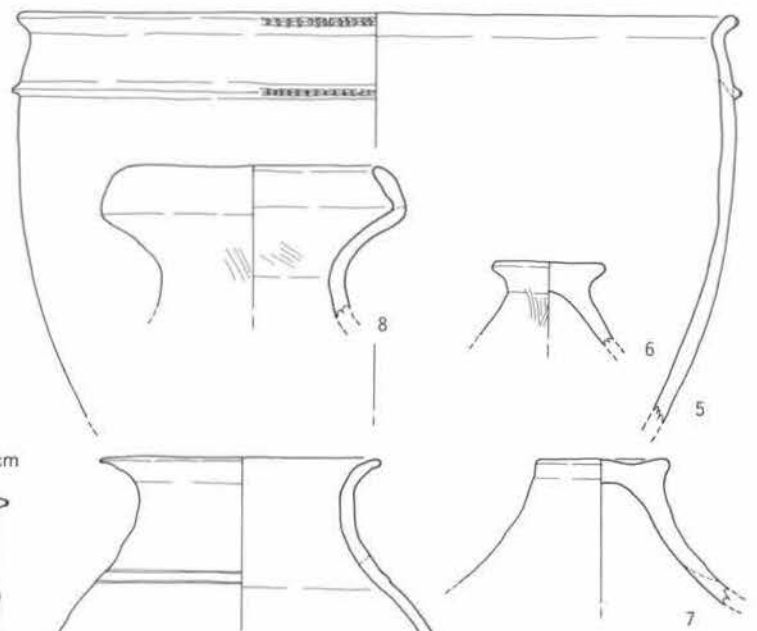


Fig.123 2SK0540出土遺物実測図(1/4)



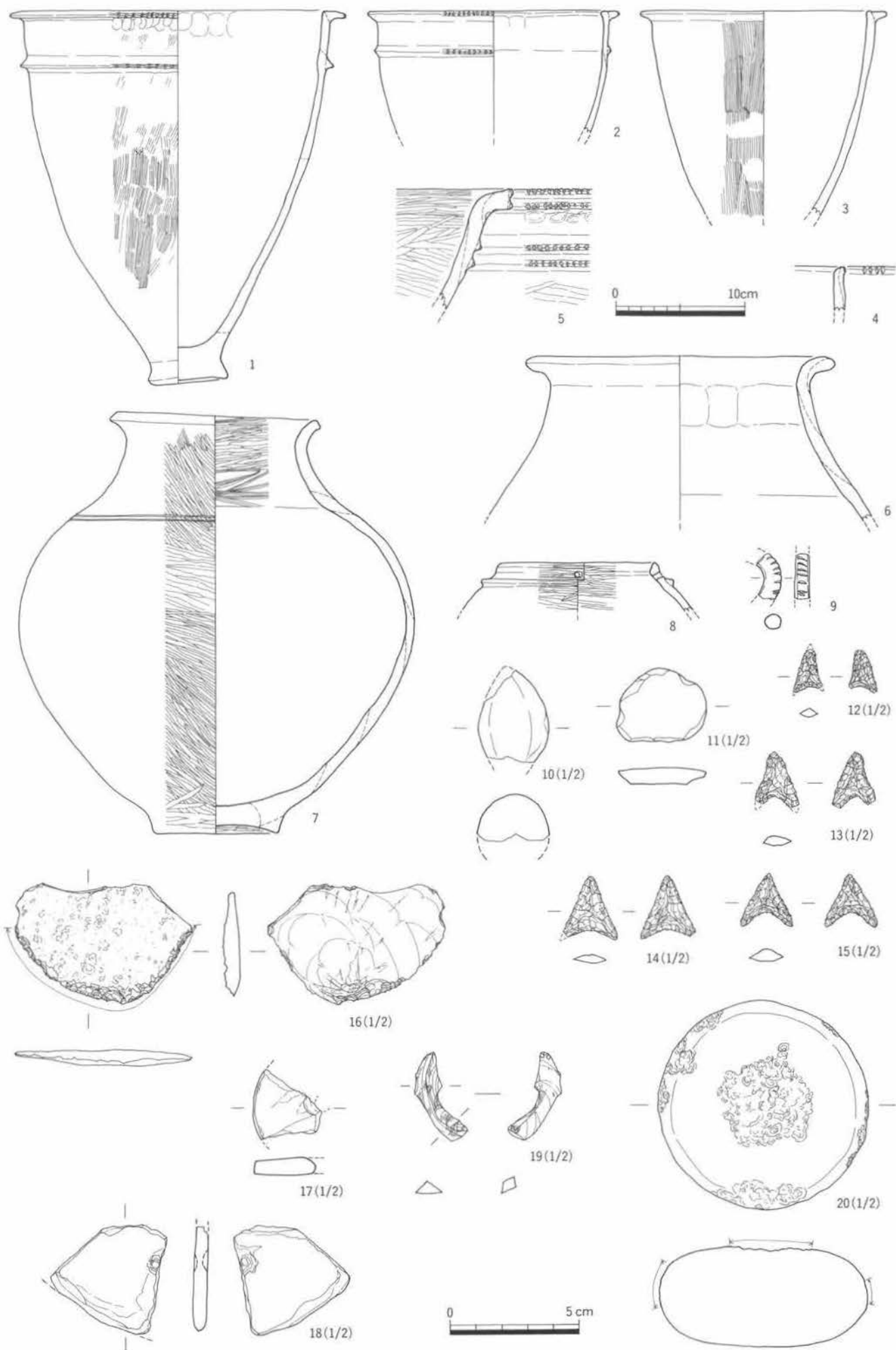


Fig.124 2SK0541出土遺物実測図 (1/4・1/2)

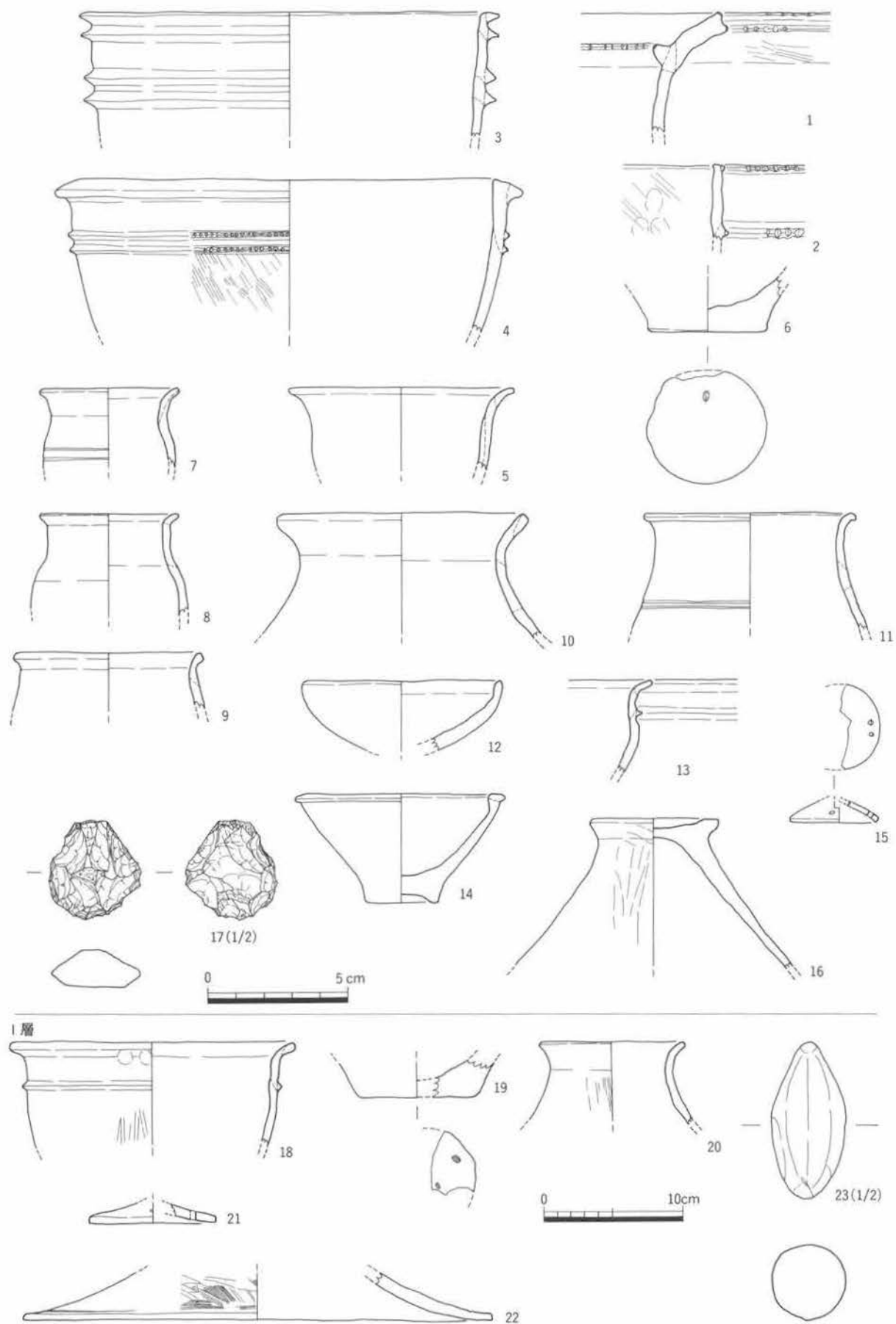


Fig.125 2SK0552出土遺物実測図 (1/4・1/2)

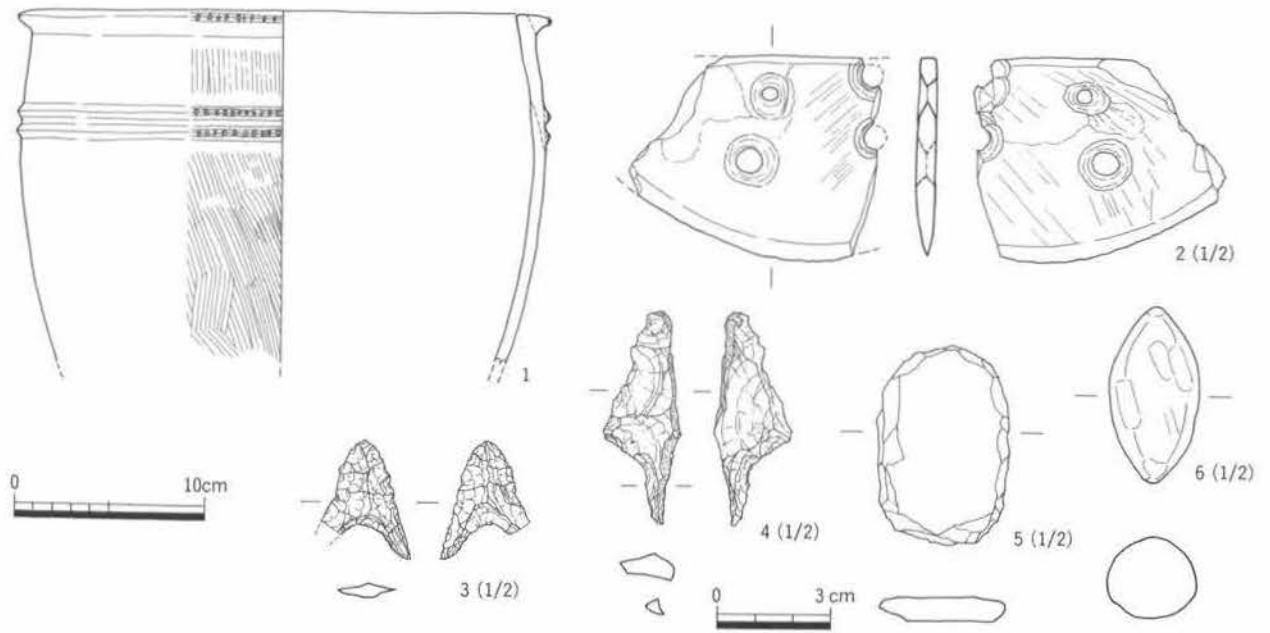


Fig.126 2SK0542出土遺物実測図 (1/2・1/4)

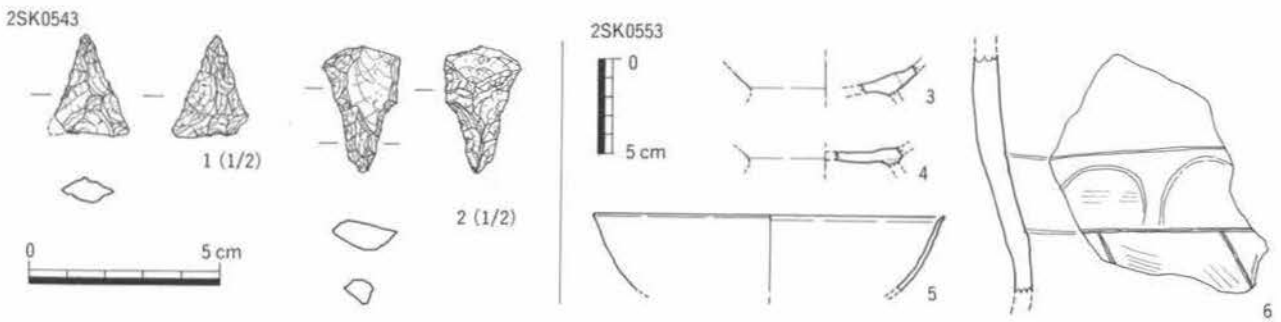


Fig.127 2SK0543・2SK0553出土遺物実測図 (1/2・1/4)

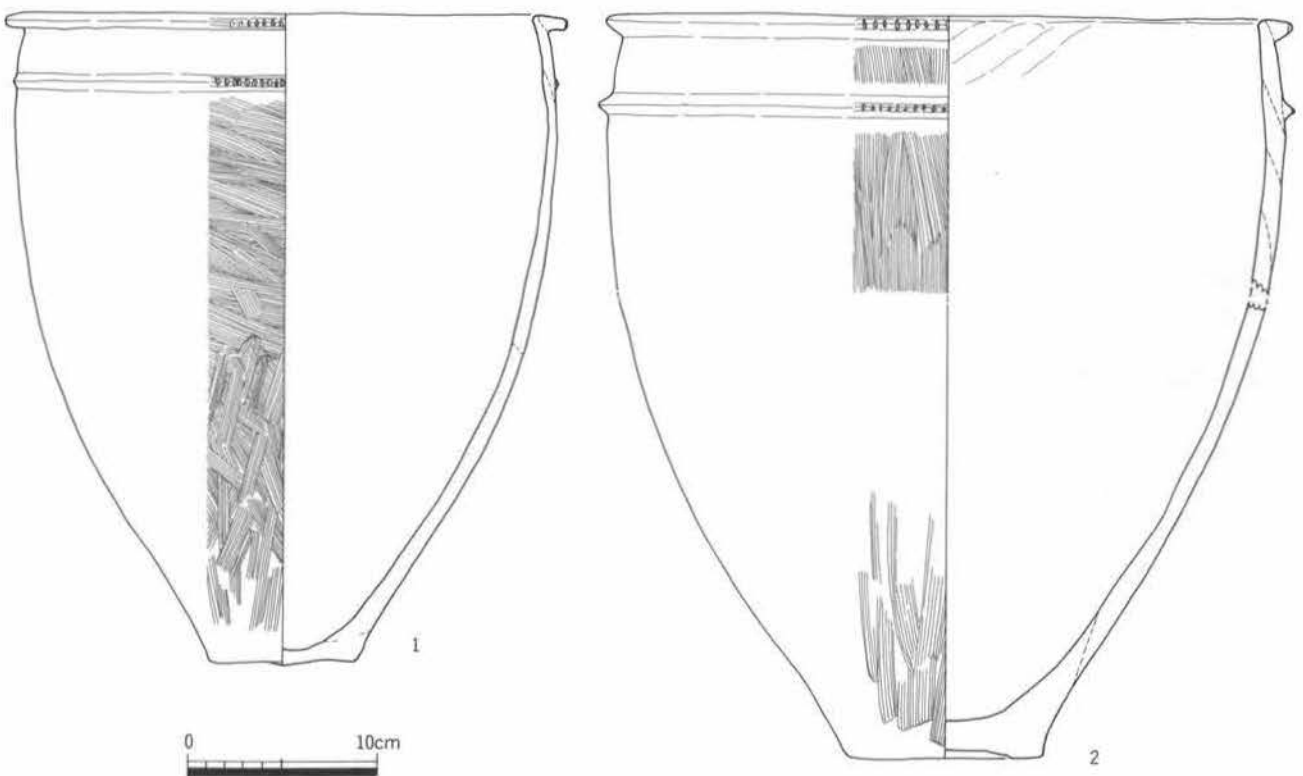


Fig.128 2SK0558出土遺物実測図① (1/4)

2SK0541出土遺物 (Fig.124・Pla.118・119・146・161)

6は壺であるが、口縁部の外面に粘土を貼り足して肥厚させている。8は壺であるが、ごく短い直立する口縁部をもつ。内外面ともに丁寧な磨きを施し、頸部に1ヶ所焼成前穿孔が見られる。9は把手であるが、外面側に刻目がある。2SK0437の8と同様に緩遠風双耳把手付銅復型深鉢の把手となる可能性がある。19は黒曜石製の釣針か。釣針とした場合、結合式となるかもしれない。

2SK0542出土遺物 (Fig.126・Pla.120・146)

2は粘板岩製の石包丁である。刃部は両刃。

2SK0552出土遺物 (Fig.125・Pla.119・120・146)

3・4は多条凸帯をもつ甕である。3は口縁部と胴部に2条ずつ刻目凸帯がある。4は口縁部は1条であるが、胴部に2条巡る。6は甕底部である。外底面に刳圧痕1ヶ所がある。14は鉢である。中世の白磁碗(Ⅳ類・註2)に良く似た器形であるが、弥生土器である。しっかりとしたつくりである。擬朝鮮系無文土器の範疇に入るものであろうか。15は小型の蓋である。口縁部近くに焼成前穿孔が1ヶ所ある。壺蓋か。19はⅠ層出土の甕底部である。外底面に刳圧痕が2ヶ所ある。21もⅣ層出土で、小型の蓋である。これも壺蓋であろう。この遺構出土の甕・壺で粘土の接合状況の観察ができたものは、すべて内傾接合であった。

2SK0558出土遺物 (Fig.128・129・130・Pla.120・121・147・160)

6は半裁時出土の甕である。この土器のみ時期が異なるが調査時の混入か。8は石包丁で、石材は片岩である。刃部は両刃偏刃である。9は柱状片刃石斧である。石材は粘板岩であるが、筑後市近郊ではみかけないものである。20はⅠ層出土の石包丁である。石材は片岩で、刃部は両刃偏刃である。29はⅡ層出土の甕であるが、外反する口縁部の端部全面に対して刻目が施されている。胴部には刻目凸帯が1条貼付き、口縁部内面は丁寧な磨きが施されている。

2SK0562出土遺物 (Fig.131・Pla.121)

1は甕である。如意形の口縁端部全面に対して刻目を施す。胴部凸帯も見られず、板付Ⅰ式土器に酷似する。2は凸帯文土器の甕である。恐らくは胴部で屈曲する器形の口縁部であろう。3は鉢であるが、外面は丁寧に磨きを施しているようであるが、磨滅が激しく判然としない。

2SK0580出土遺物 (Fig.131・Pla.121・147)

8は甕の口縁部である。外面に昆虫の蛹と思しき圧痕がある。小型の芋虫等、幼虫の圧痕のようでもある。いずれにせよ、昆虫とすれば比較的小型のものと思われるが、種類は全く不明である。9は鉢である。口縁部に焼成前穿孔が1ヶ所認められる。

2SK0586出土遺物 (Fig.132・Pla.121・122・147)

3は甕の底部である。外底面に刳圧痕が2ヶ所ある。

2SK0587出土遺物 (Fig.132・Pla.147・160)

6は扁平片刃石斧としたが、柱状片刃石斧の可能性もある。石材は粘板岩である。

2SK0597出土遺物 (Fig.133・134・Pla.122)

10・11・12を除き、凸帯文土器で占められる。1・2は浅鉢である。胴部で屈曲して、やや内傾する口縁部を持つ。御領式以来の縄文晩期に通有の器形を持ち、口縁部の沈線文は完全に失われた段階のものである。1は内外面ともに丁寧に磨きを施す。2は磨滅が進み判然としないものの、1と同様であろう。精製品である。7は全体の器形が知れる甕である。胴部で屈曲する典型的な凸帯文土器の甕である。内面には条痕が残るが、条痕の原体は不明である。11は弥生土器の壺である。胴部最大径が胴部中位にあるなど、古相を呈する。凸帯文土器はすべて外傾接合、弥生土器のうち、粘土の接合状況が判明した11は内傾接合であった。

2SK0676出土遺物 (Fig.139・140・Pla.124・148・161)

3・4は如意系口縁を持つ甕である。いずれも口縁端部の下端に刻目を施す。5は甕底部である。外底部に刳圧痕1ヶ所と爪痕が1ヶ所残る。9は壺であるが、甕に近い器形をしている。胴部の径が最大となるところに沈線が2条巡る。口縁部は外反する小さなものである。甕が変化した変容壺か。11は壺で

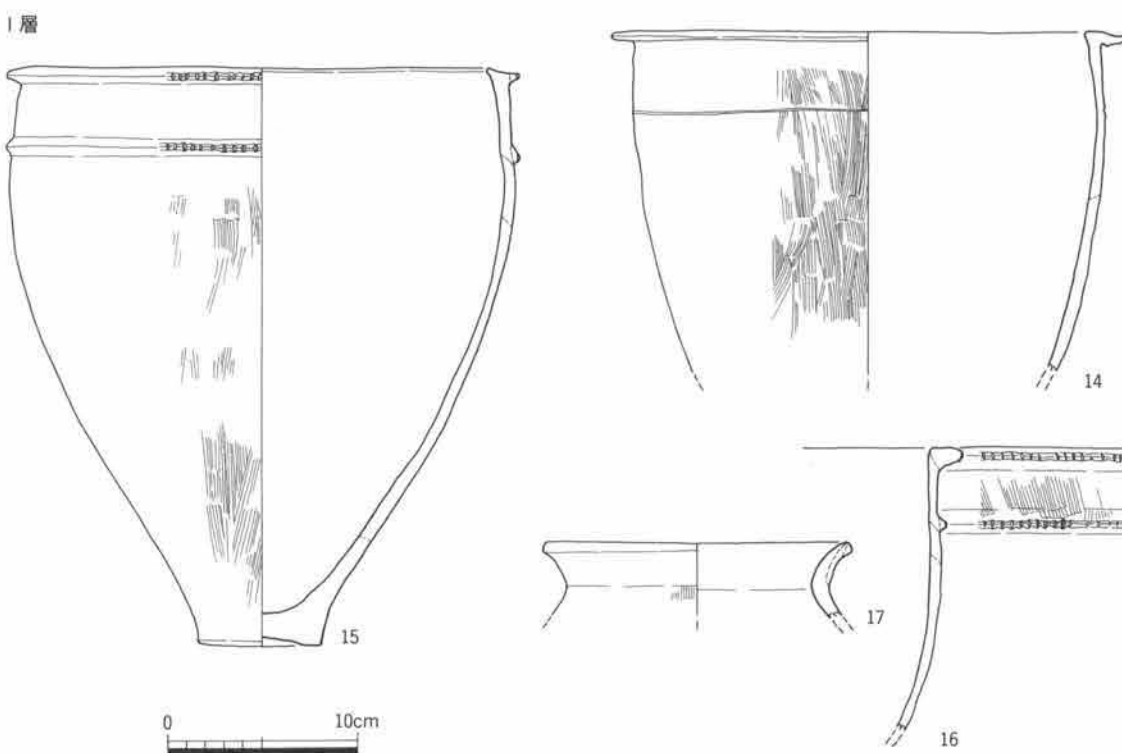
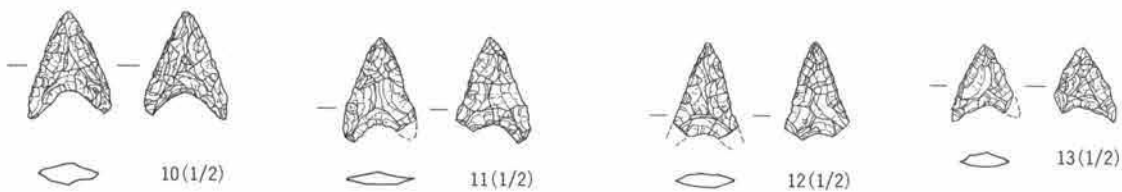
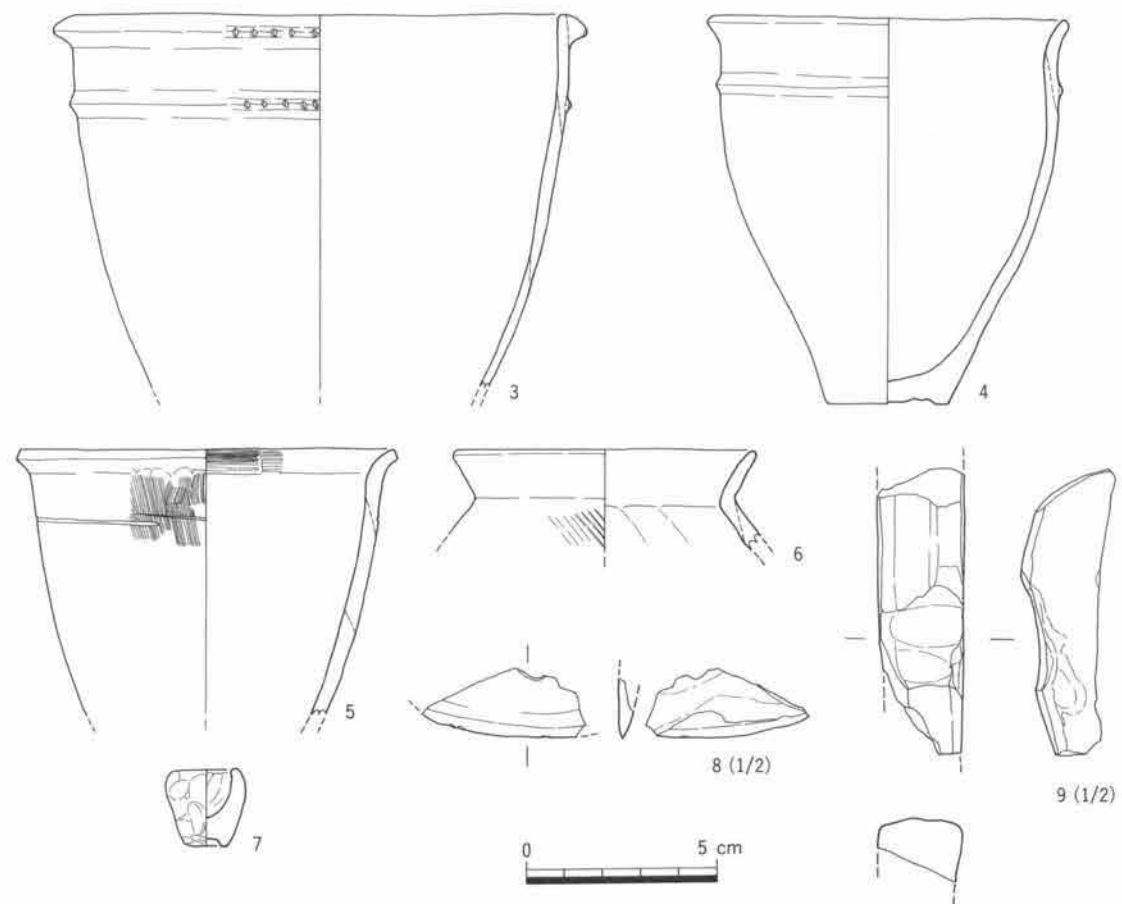
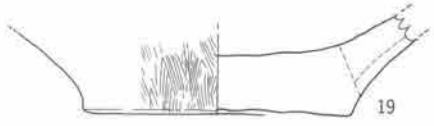


Fig.129 2SK0558出土遺物実測図② (1/4・1/2)

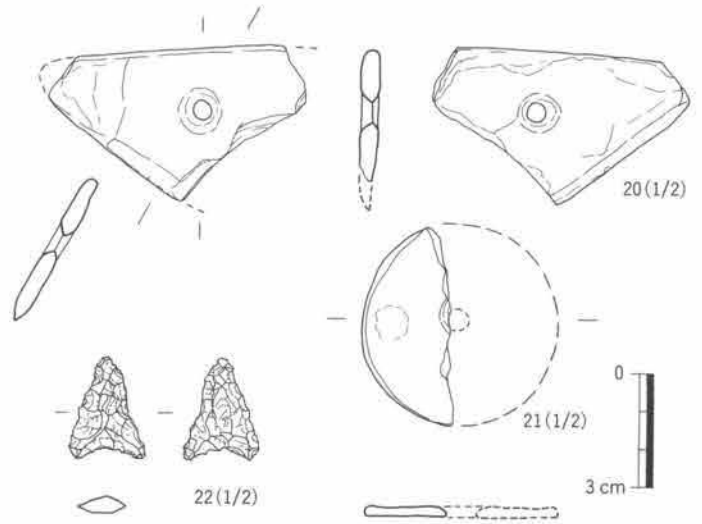
I層



18



19



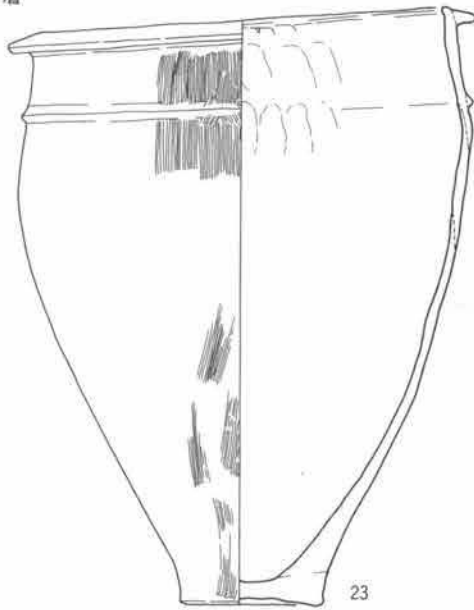
20(1/2)

21(1/2)

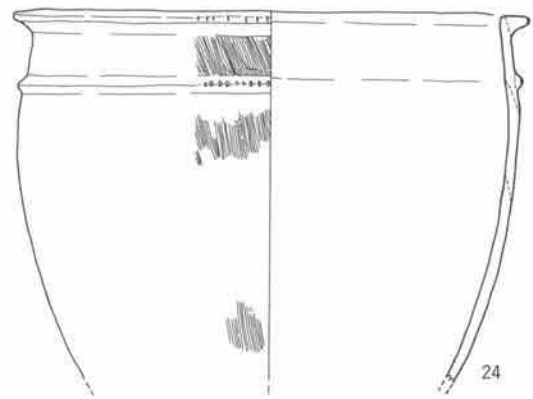
22(1/2)



II層



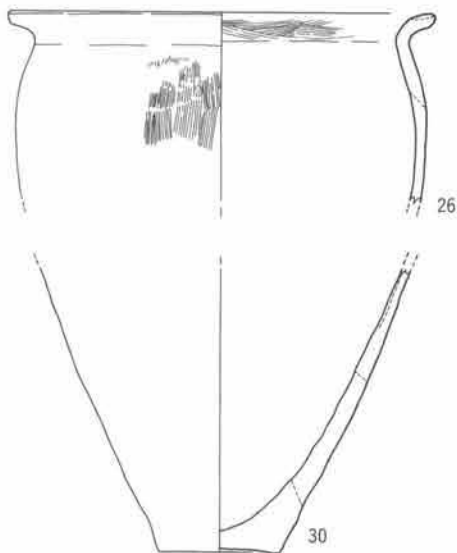
23



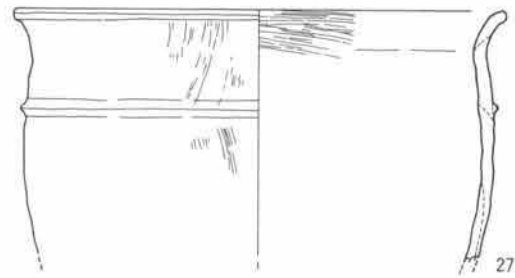
24



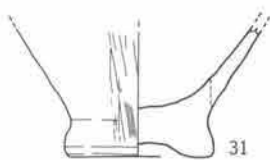
25



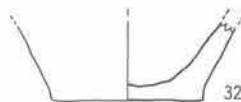
26



27



31



32



29

Fig.130 2SK0558出土遺物実測図③ (1/4・1/2)

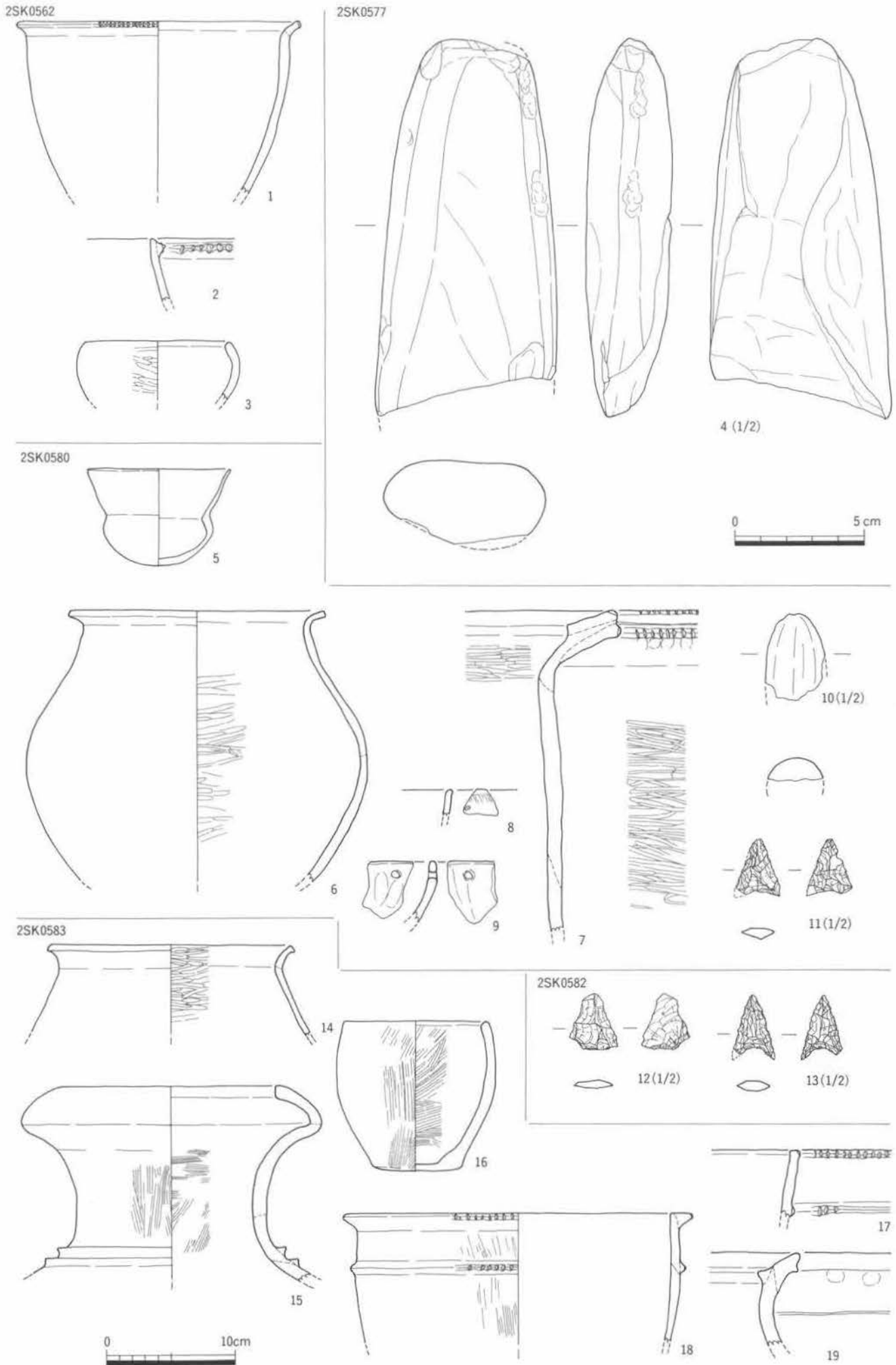


Fig.131 2SK0562・2SK0577・2SK0580・2SK0582・2SK0583出土遺物実測図 (1/4・1/2)



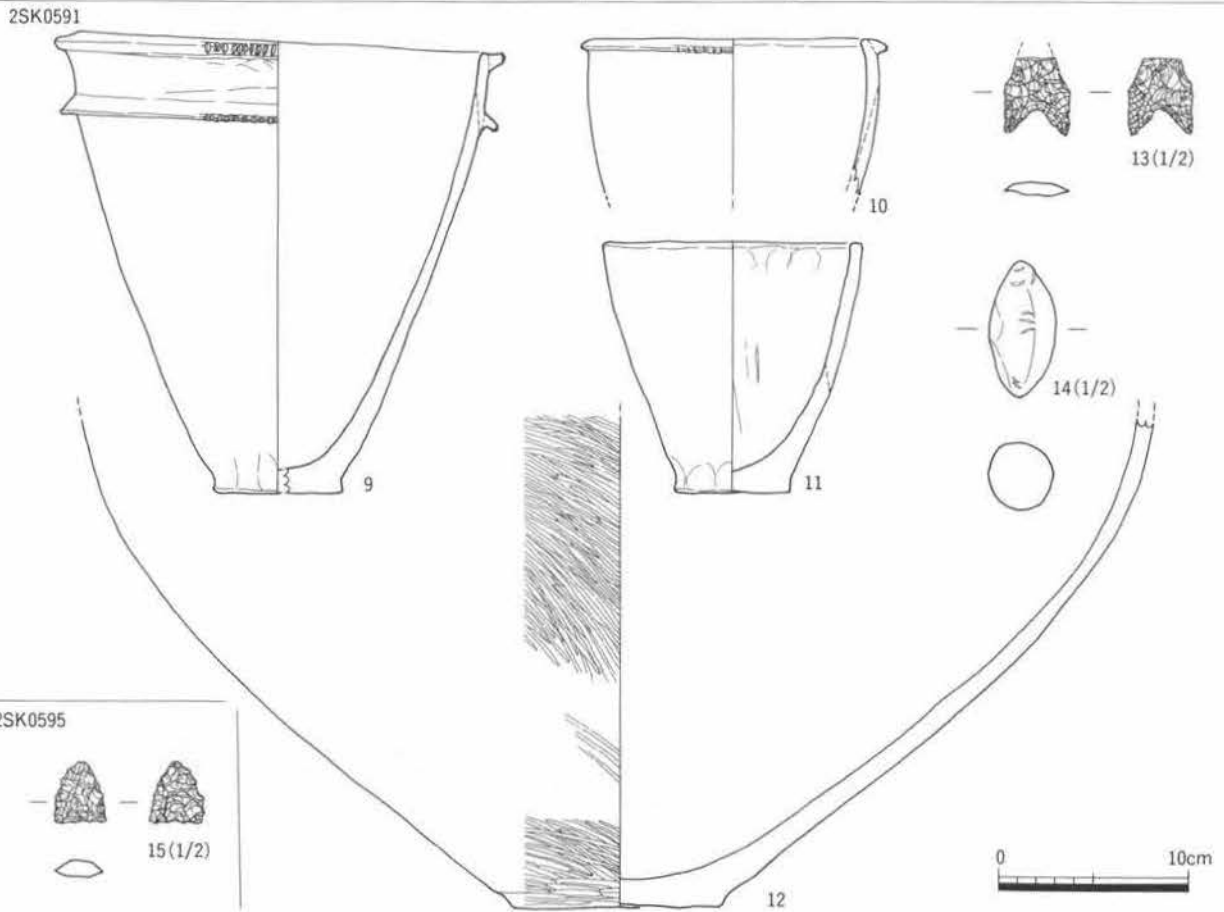
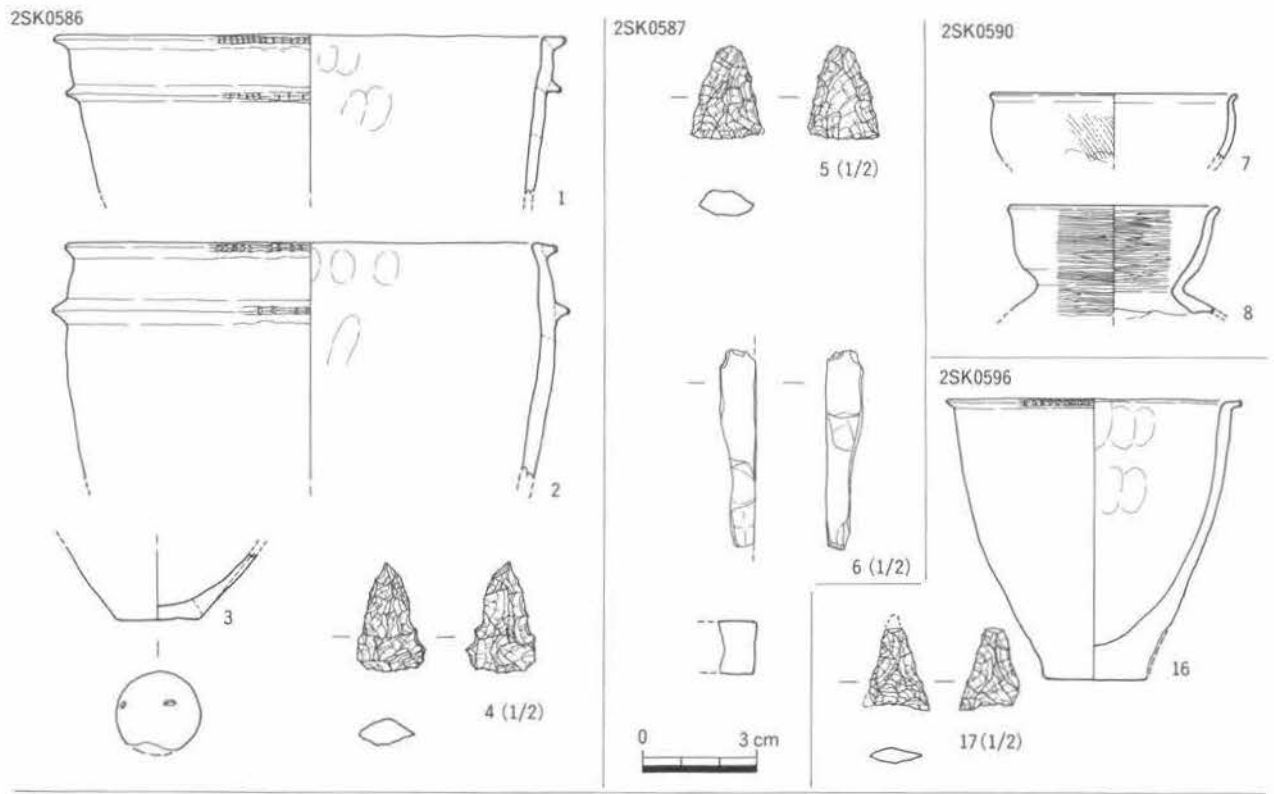


Fig.132 2SK0586・2SK0587・2SK0590・2SK0591・2SK0595・2SK0596  
出土遺物実測図 (1/4・1/2)

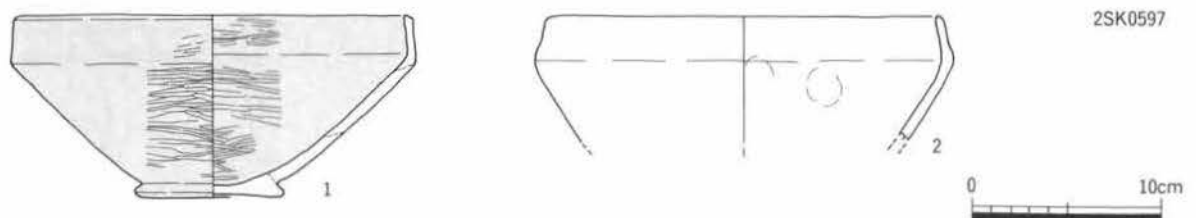


Fig.133 2SK0597出土遺物実測図① (1/4・1/2)

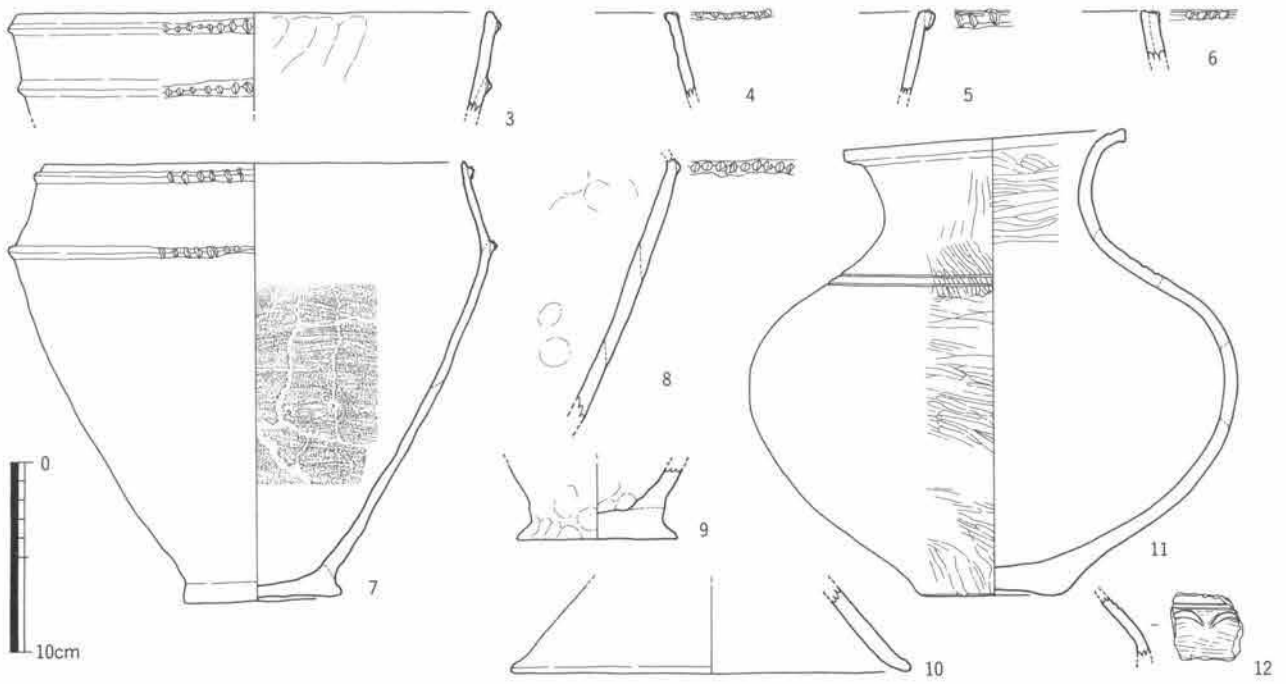


Fig.134 2SK0597出土遺物実測図② (1/4・1/2)

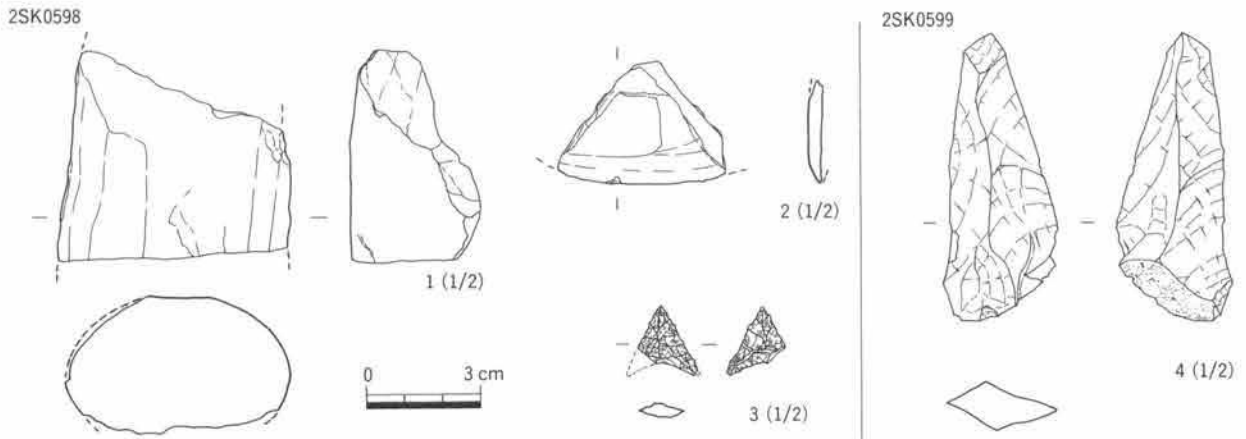


Fig.135 2SK0598・2SK0599出土遺物実測図 (1/2)

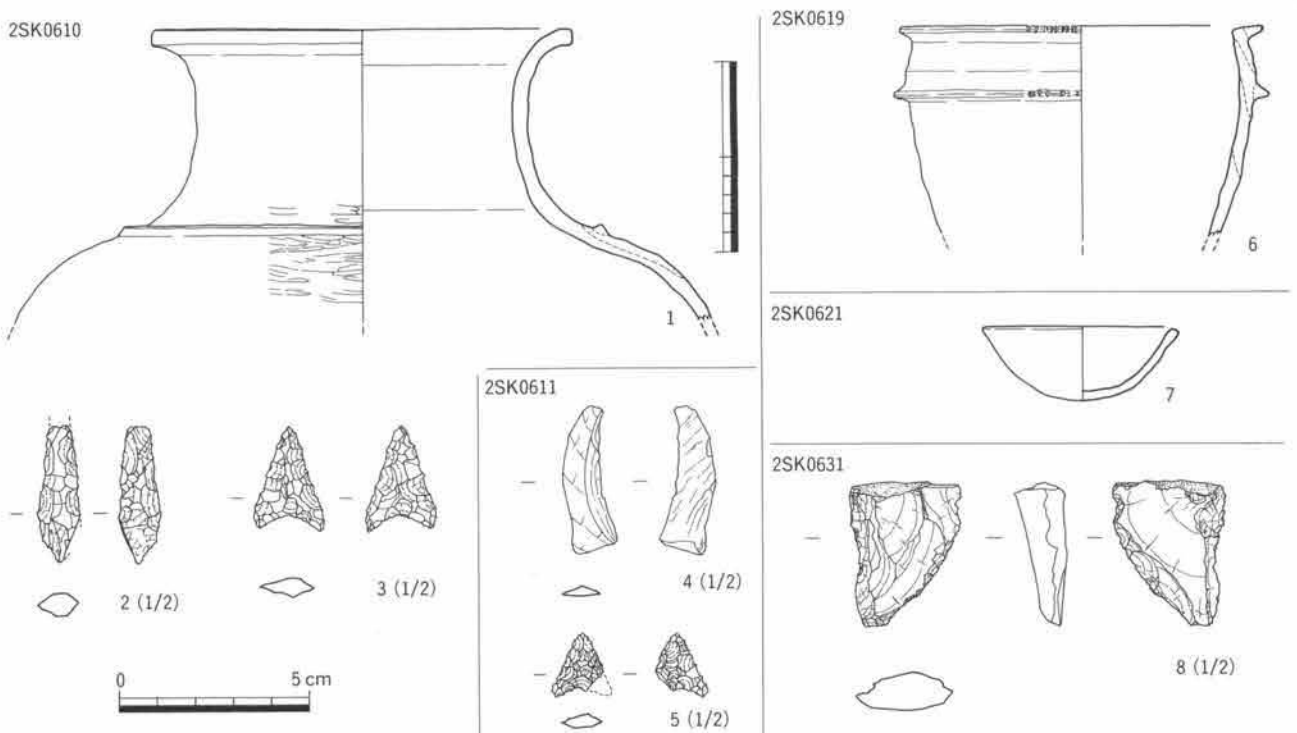


Fig.136 2SK0610・2SK0611・2SK0619・2SK0621・2SK0631  
出土遺物実測図 (1/4・1/2)



Fig.137 2SK0635出土遺物実測図 (1/4)

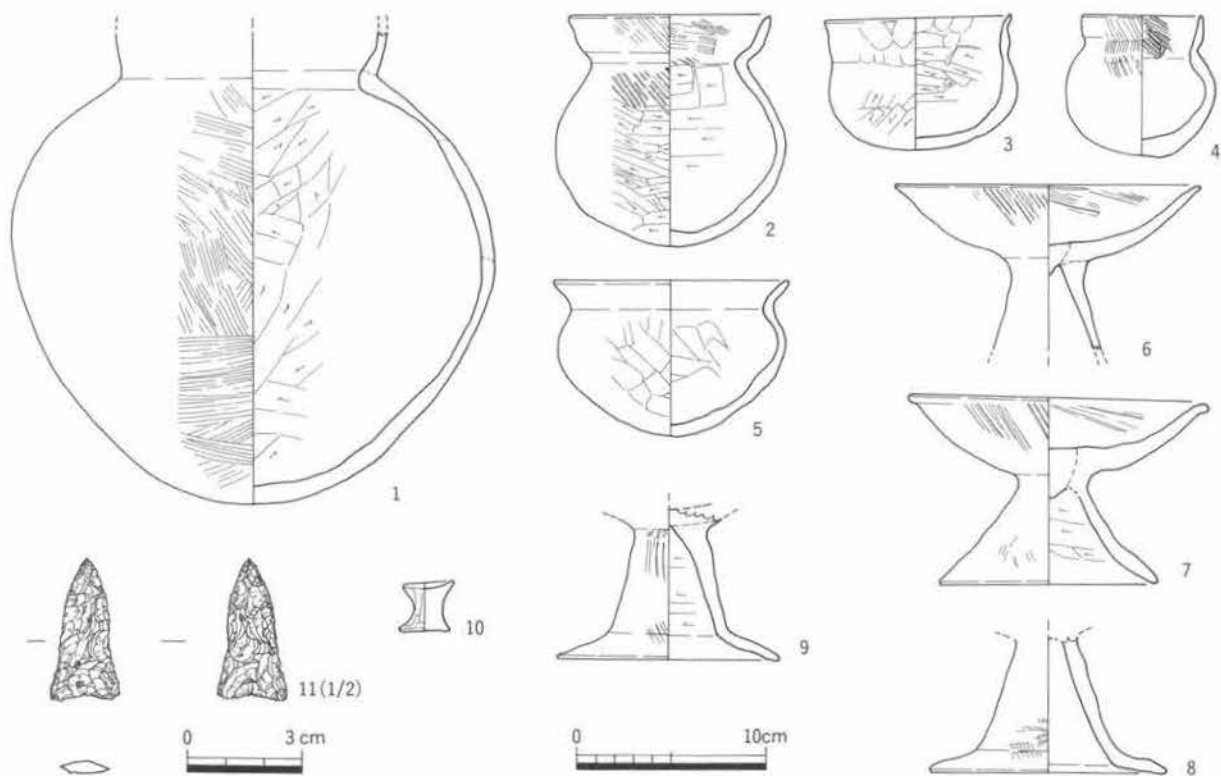


Fig.138 2SK0675出土遺物実測図 (1/2)

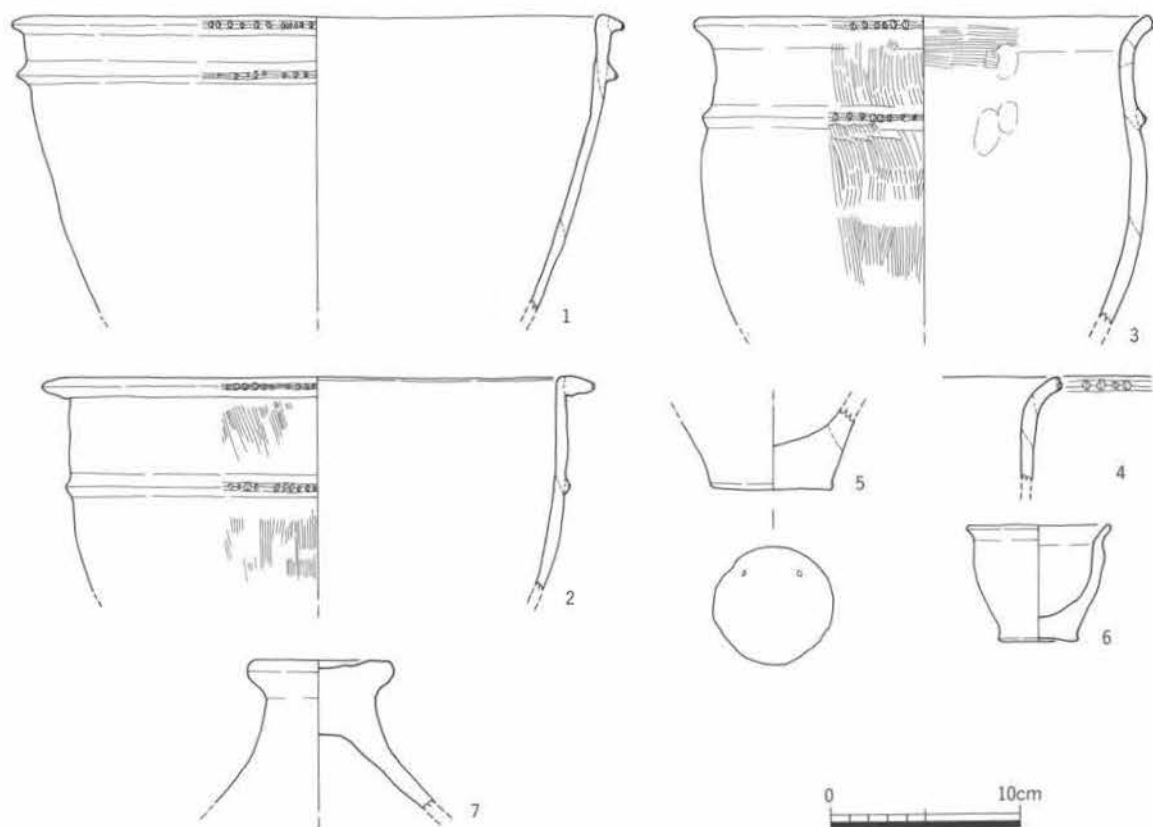


Fig.139 2SK0676出土遺物実測図① (1/4)

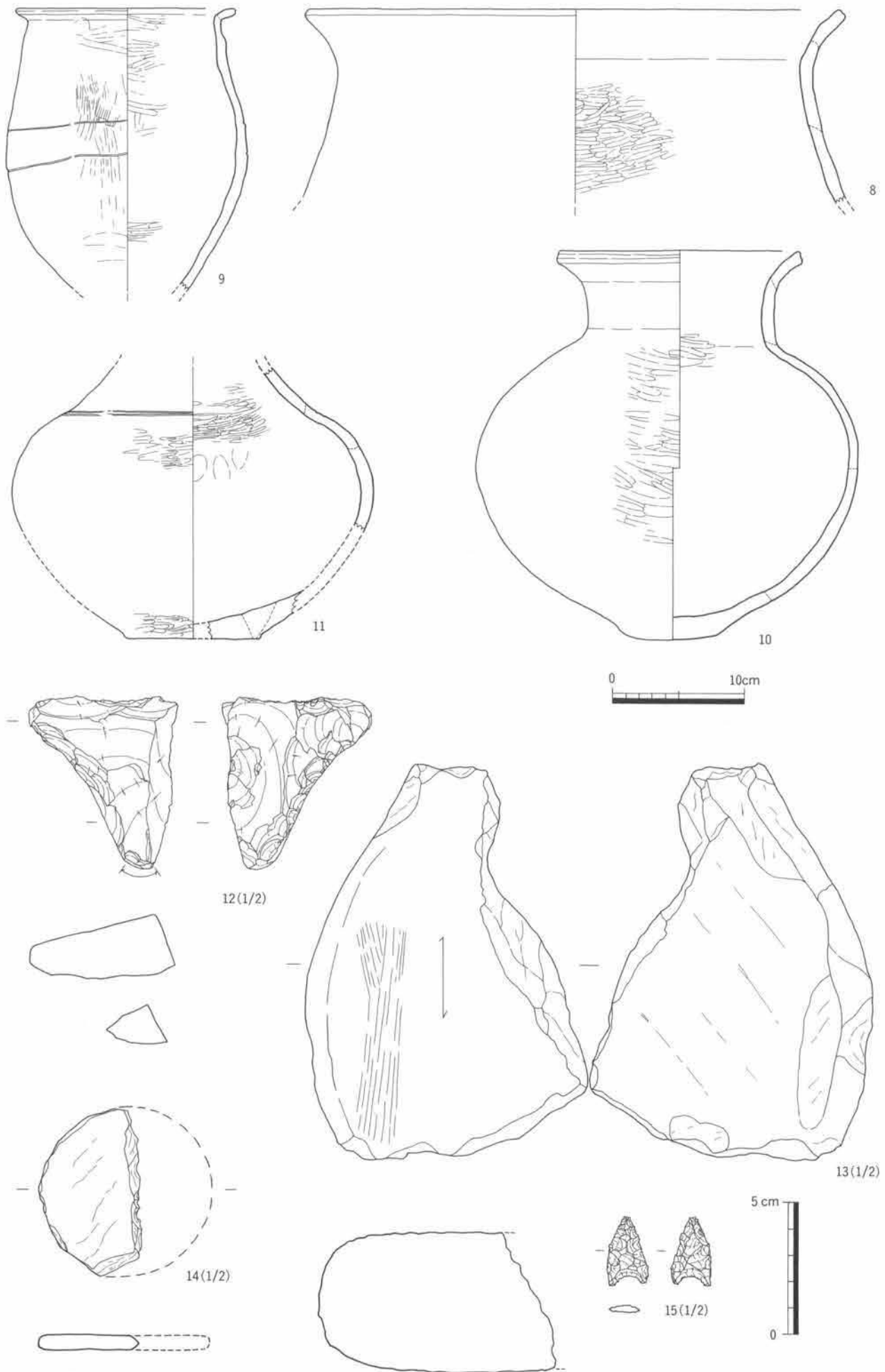


Fig.140 2SK0676出土遺物実測図② (1/4・1/2)

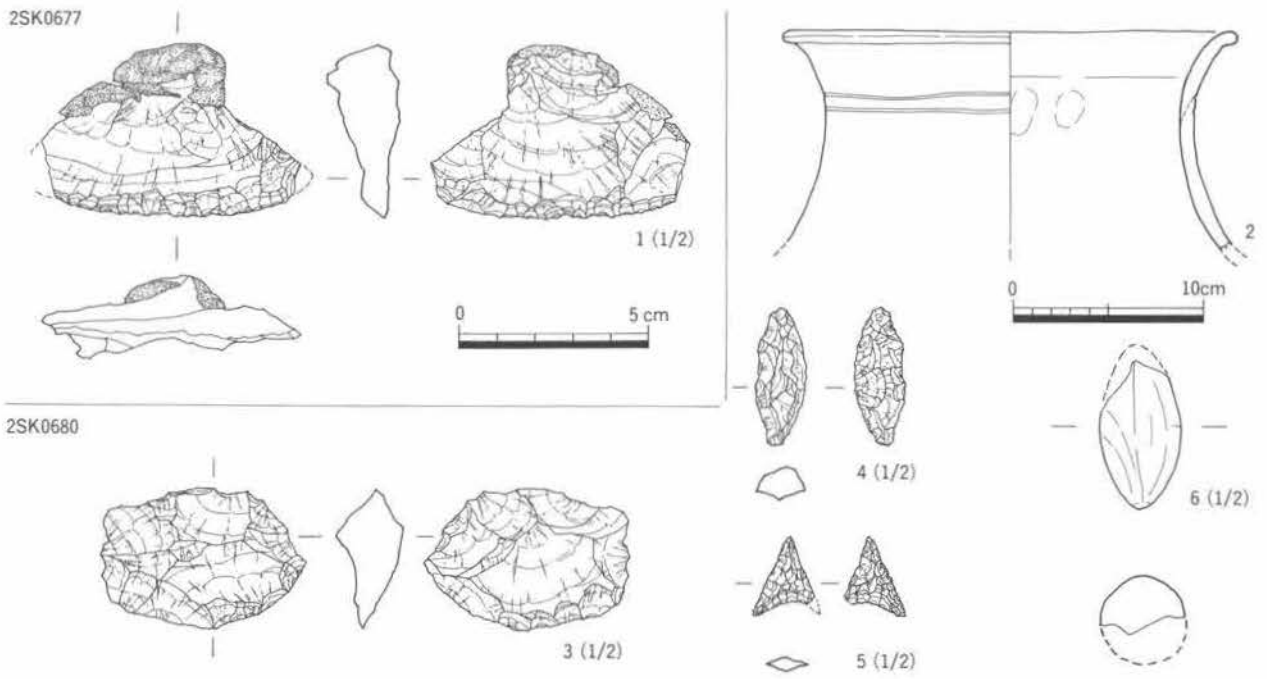


Fig.141 2SK0677・2SK0680出土遺物実測図 (1/2・1/4)

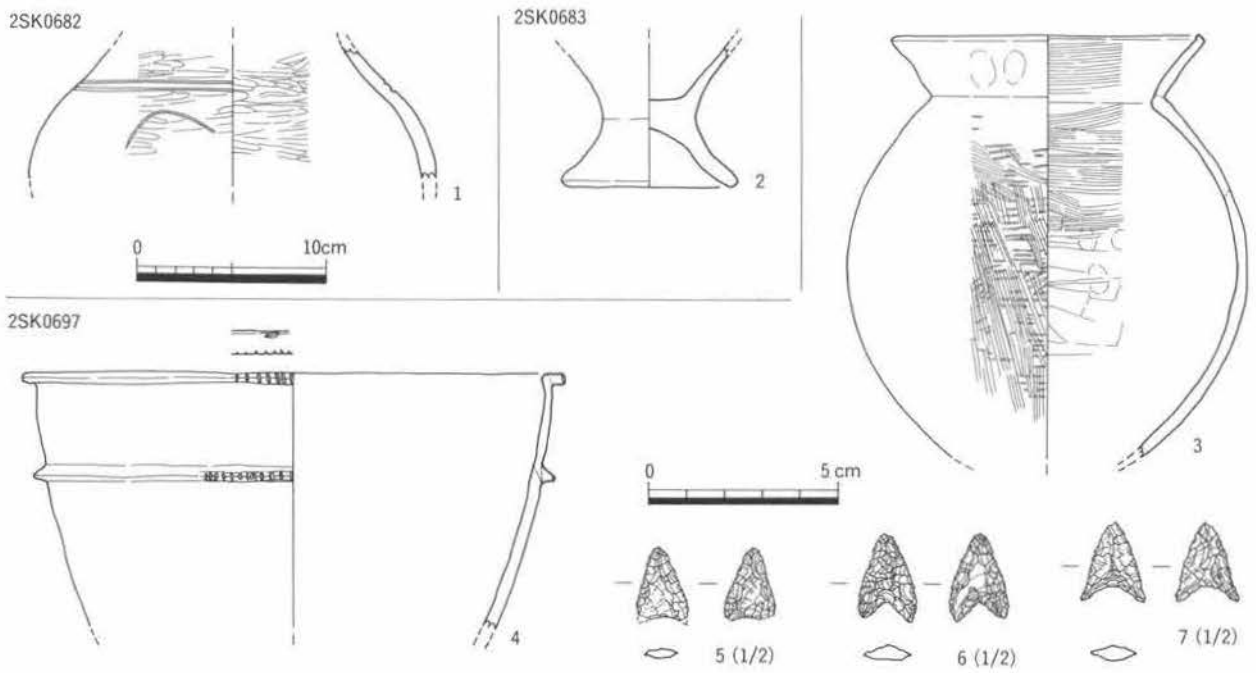


Fig.142 2SK0682・2SK0683・2SK0697出土遺物実測図 (1/4・1/2)

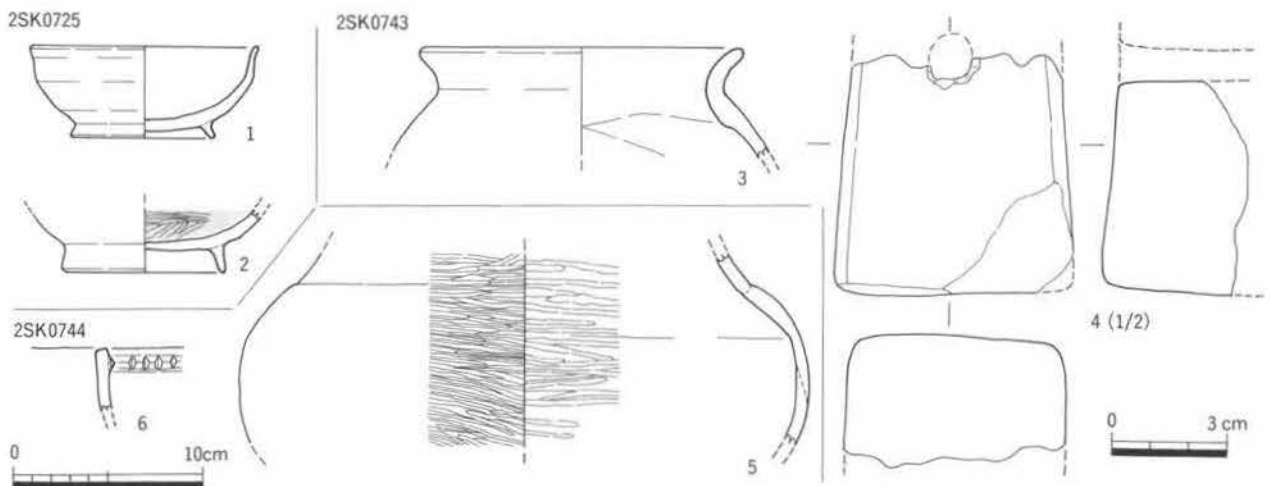


Fig.143 2SK0725・2SK0743・2SK0744出土遺物実測図 (1/2)

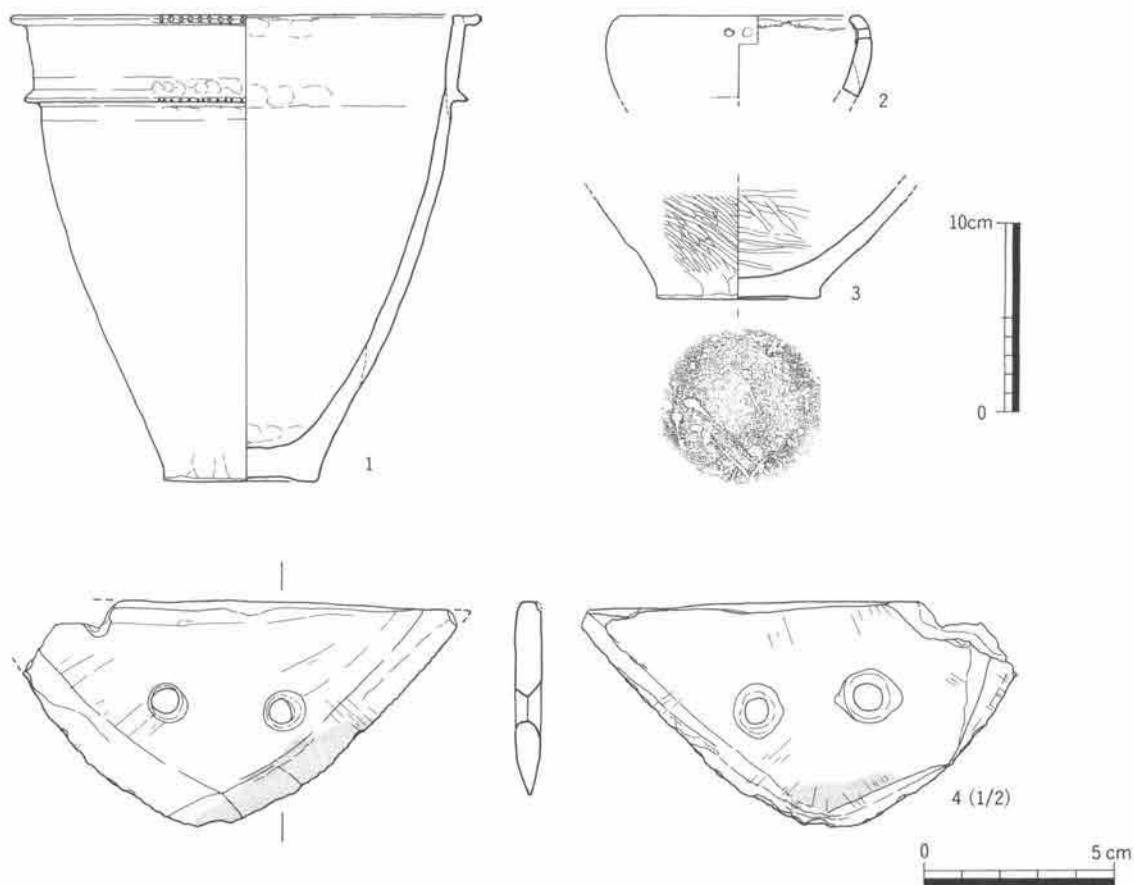


Fig.144 2SK0745出土遺物実測図 (1/4・1/2)

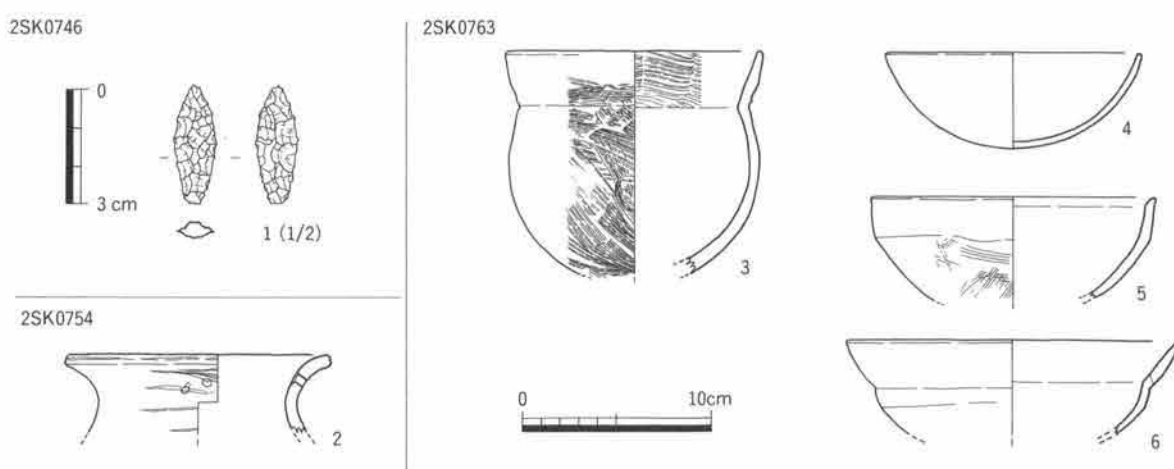


Fig.145 2SK0746・2SK0754・2SK0763出土遺物実測図 (1/2・1/4)

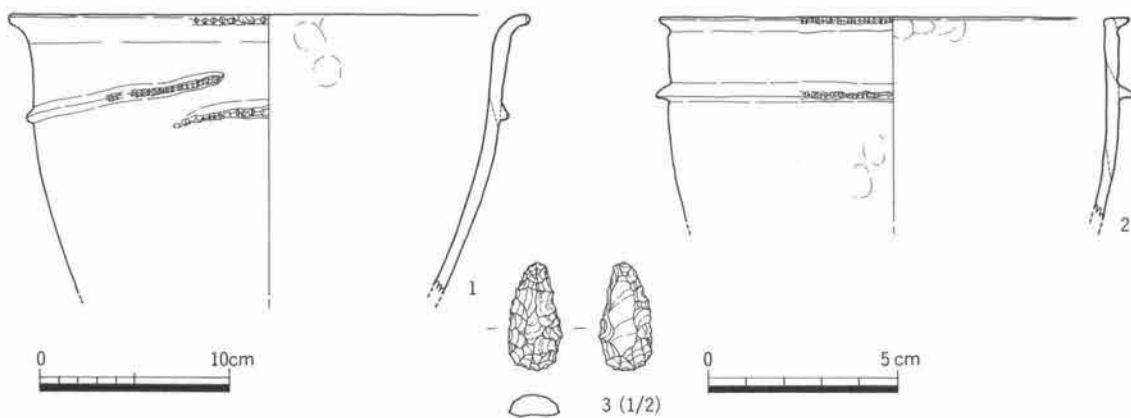


Fig.146 2SK0765出土遺物実測図 (1/2)

ある。胴部の最大径が胴部中位にあるもので、頸部と胴部の接合部分の段が僅かに残る。器形はやや古相か。12は大型のドリルである。甕底部に穿孔する際などに使用されるもので、先端には使用痕が認められる。

2SK0680出土遺物 (Fig.141・Pla.124・148)

2は壺である。口縁部直下に沈線が2条巡る。粘土の接合は外傾接合である。

2SK0745出土遺物 (Fig.144・Pla.125・148)

3は壺の底部である。底部に紐状の圧痕が残る。油粘土でポジモデリングを作成して観察したところ、6本以上の紐圧痕が認められた。紐はすべて左撚りである。4は石包丁で、八女地方産の緑泥片岩である。三角形の形をした類型である。刃部は明瞭な両刃片刃で両面に穀擦痕が認められる。特に片面は広い範囲に穀擦痕が認められる。

2SK0754出土遺物 (Fig.145)

2は壺である。口縁部直下に焼成前穿孔が1対ある。

2SK0765出土遺物 (Fig.146・Pla.125・148)

1は甕である。外反する口縁部の端部下端に刻目を施す。胴部に刻目凸帯が1条巡るが、接合点が上下にずれていて、完結しない。

2SK0800出土遺物 (Fig.148・149・Pla.126・148)

2は彩文土器の壺である。口縁部内面と頸部外面に文様を朱書きする。顔料はベンガラか。3は黒色磨研土器の壺である。直立する頸部に小さな外反口縁がつく。頸部には三角凸帯が巡っていて、器面全体を丁寧に磨く。凸帯文土器の範疇と思われる。9・10は凸帯文土器の甕である。いずれも内傾接合を採用し、器形は弥生土器的である。10は胴部凸帯から上位に粘土を貼り足して肥厚させており、段甕の範疇である。11は甕であるが、胴部に2条の刻目凸帯が巡る。この遺構から出土した土器のうち粘土の接合が観察できたものは、弥生土器・凸帯文土器ともに内傾接合であった。

2SK0830出土遺物 (Fig.150・Pla.126・148)

7は凸帯文土器の甕である。口縁部端と胴部に小さな凸帯を貼付けて刻目を施している。粘土の接合は外傾接合である。

2SK0843出土遺物 (Fig.151・Pla.126・159)

3は甕の底部である。外底面に初圧痕が認められる。明瞭なもの2ヶ所、不明瞭なもの1ヶ所である。

2SK0850出土遺物 (Fig.152・153・Pla.127・148・158・162)

4は磨製石斧である。石材は安山岩か。刃部の片側は歪になっており、欠損後に再度研ぎ出したと思われる。

2SK0853出土遺物 (Fig.154・Pla.127)

2は甕底部であろう。外底面に初痕が1ヶ所認められるが、芒の痕跡と思われるものも観察できる。

2SK0858出土遺物 (Fig.154・Pla.127)

3は壺である。体部に重弧文があるが、間隔がひらいて間延びした印象を受ける。胴部に比して細い頸部がほぼ直立し、口縁部は外反する小さなものである。4も壺である。ごく短い口縁部が直立する。頸部には三角凸帯が貼付き、直上位に焼成前穿孔が1ヶ所認められる。

2SK0907出土遺物 (Fig.158・Pla.128・149)

1は黒曜石のアメリカ型石鏃である。両面とも研磨して平坦にしている。2は彩文土器の壺である。頸部の内外面に施文している。顔料はベンガラか。

2SK0920出土遺物 (Fig.161・Pla.149)

2は黒曜石の細石刃である。両端は欠損している。

2SK0955出土遺物 (Fig.162・Pla.128・129)

5・6は凸帯文土器の甕である。いずれも口縁部には直接刻目を施し、胴部には刻目凸帯を1条貼付ける。粘土の接合は外傾接合である。7は甕底部である。外底部に植物圧痕がある。



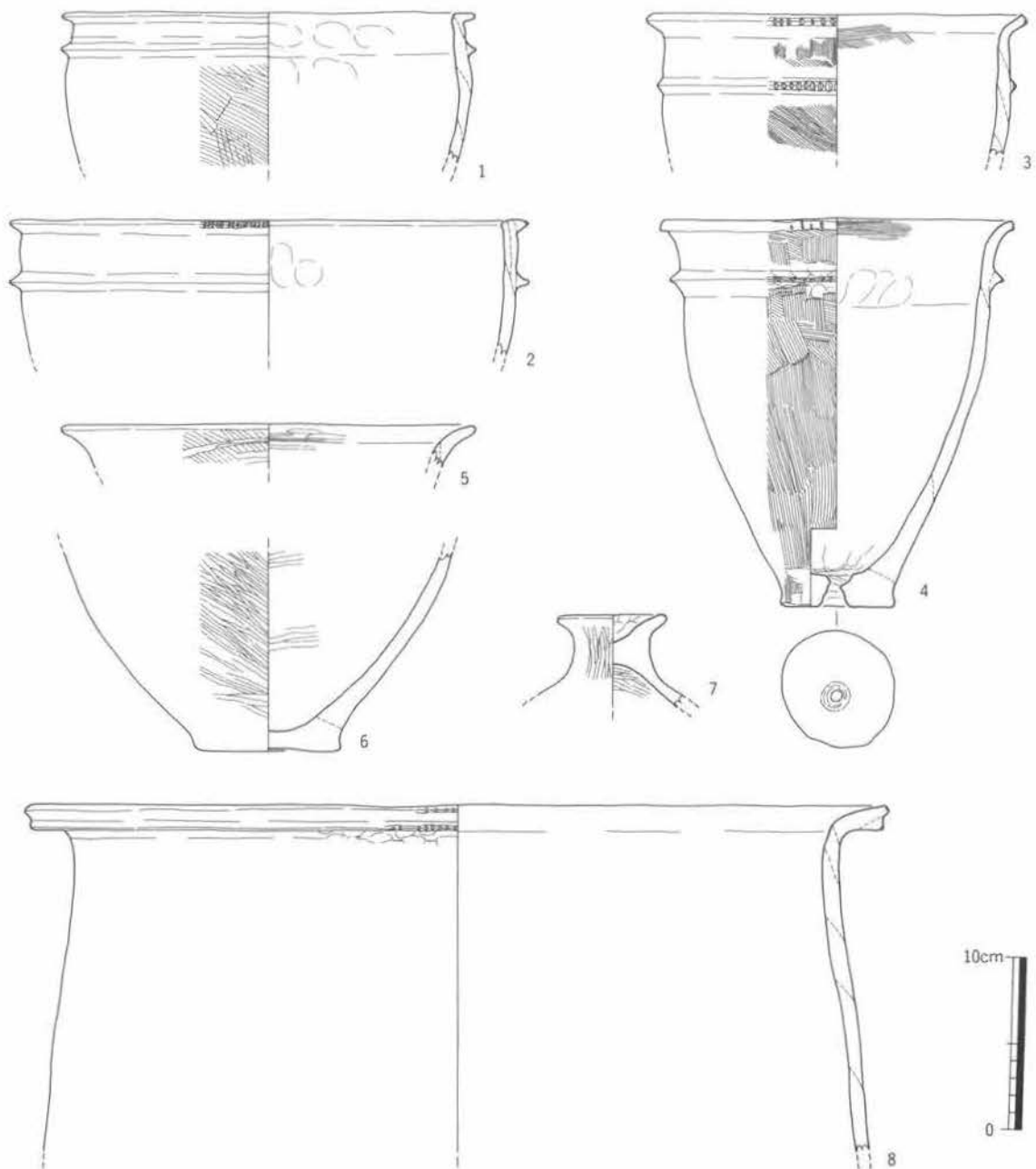


Fig.147 2SK0766出土遺物実測図 (1/4)

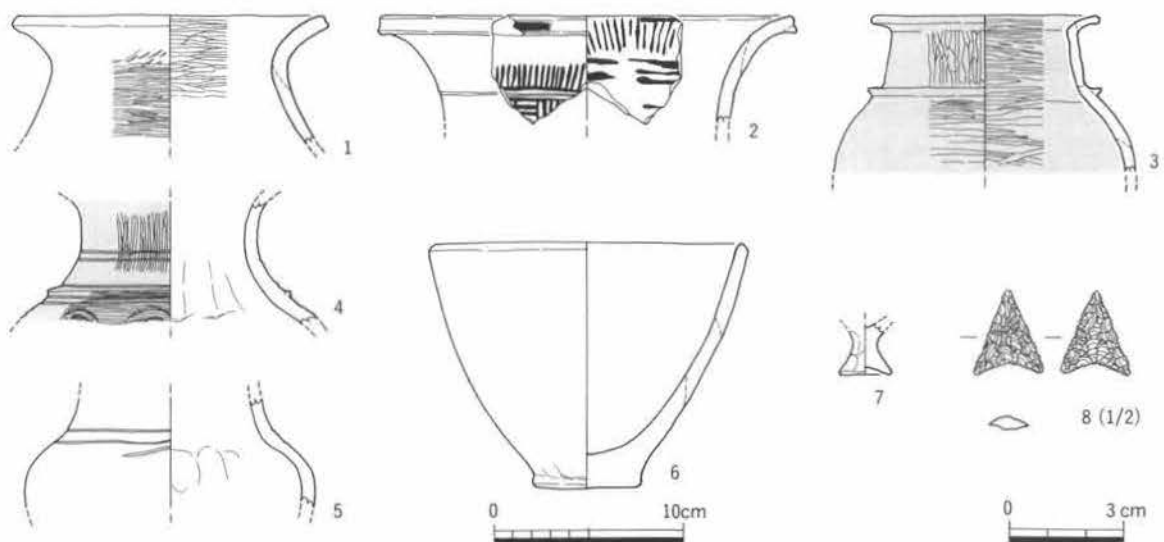


Fig.148 2SK0800出土遺物実測図① (1/4・1/2)

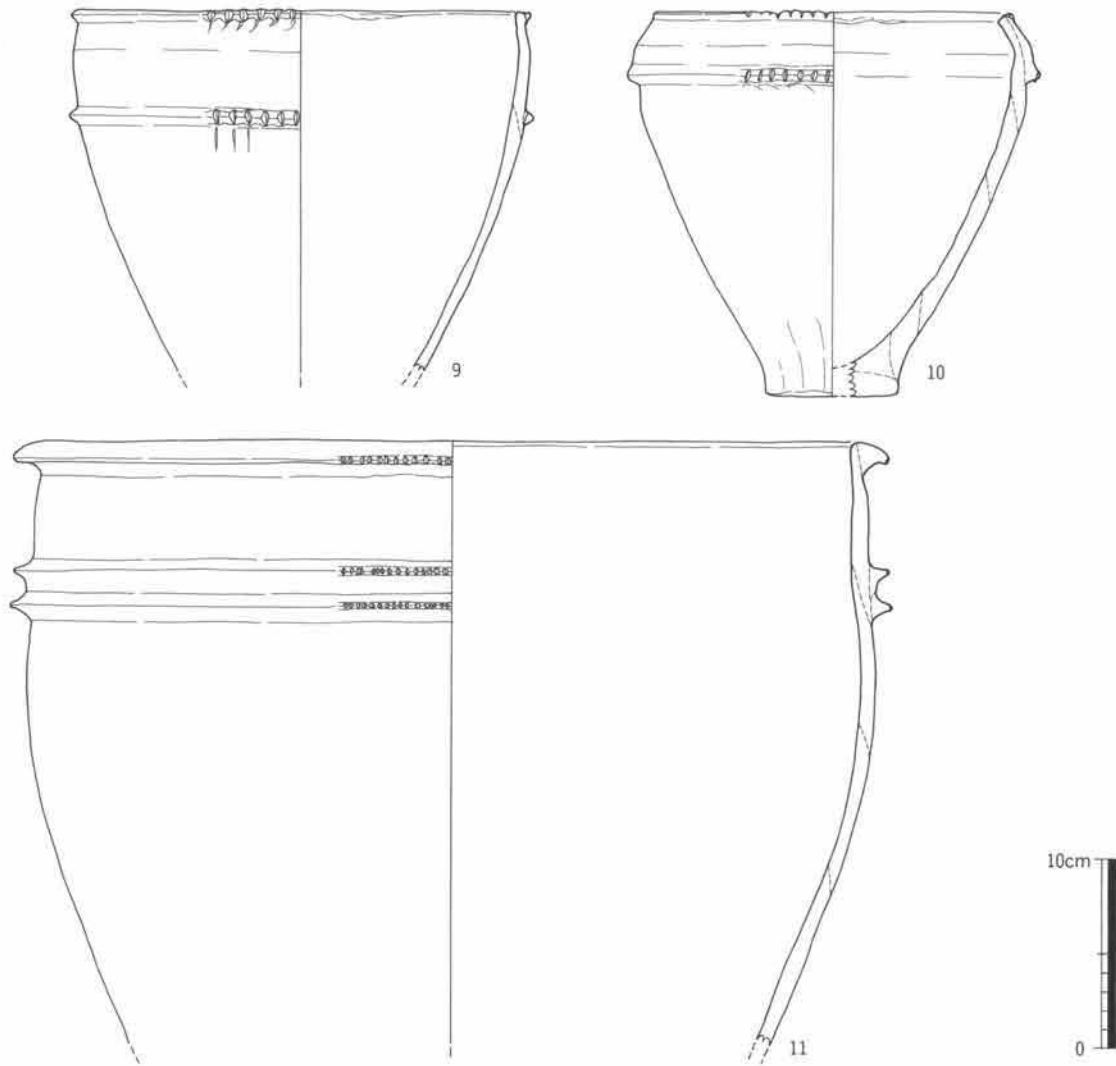


Fig.149 2SK0800出土遺物実測図② (1/4)

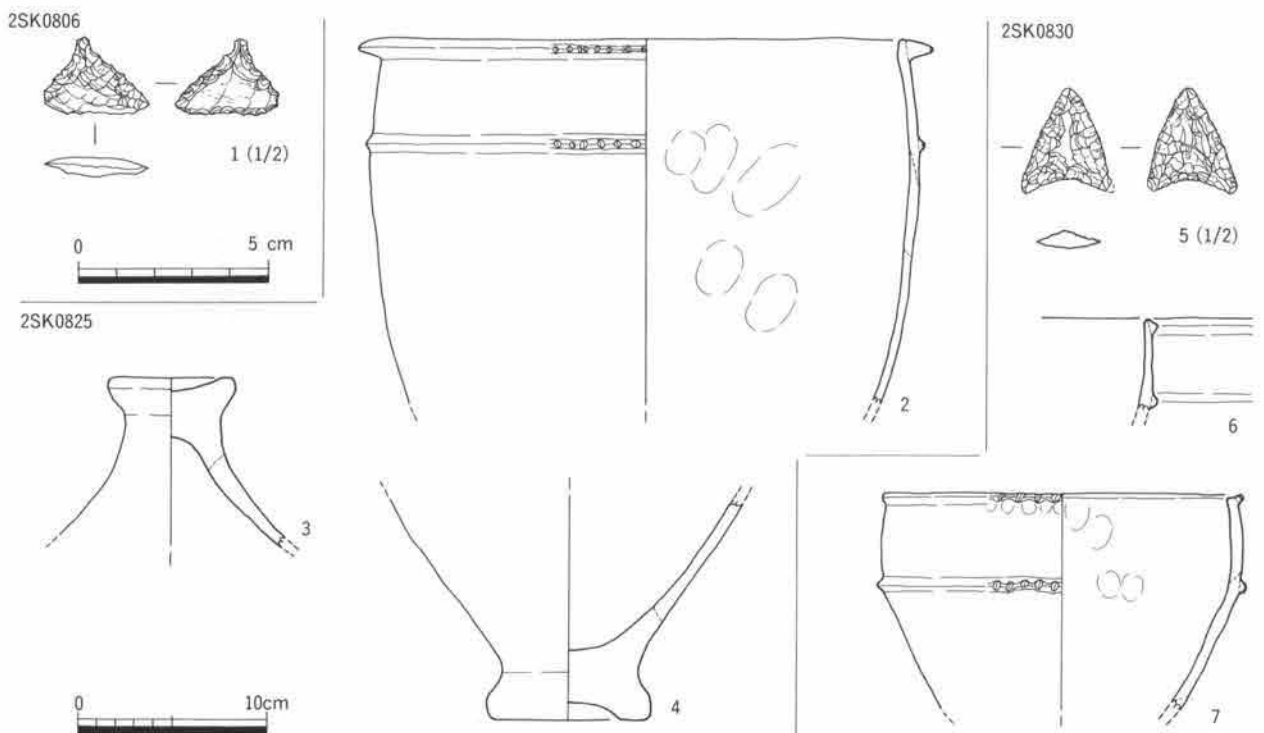
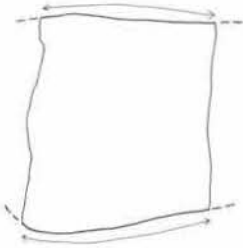
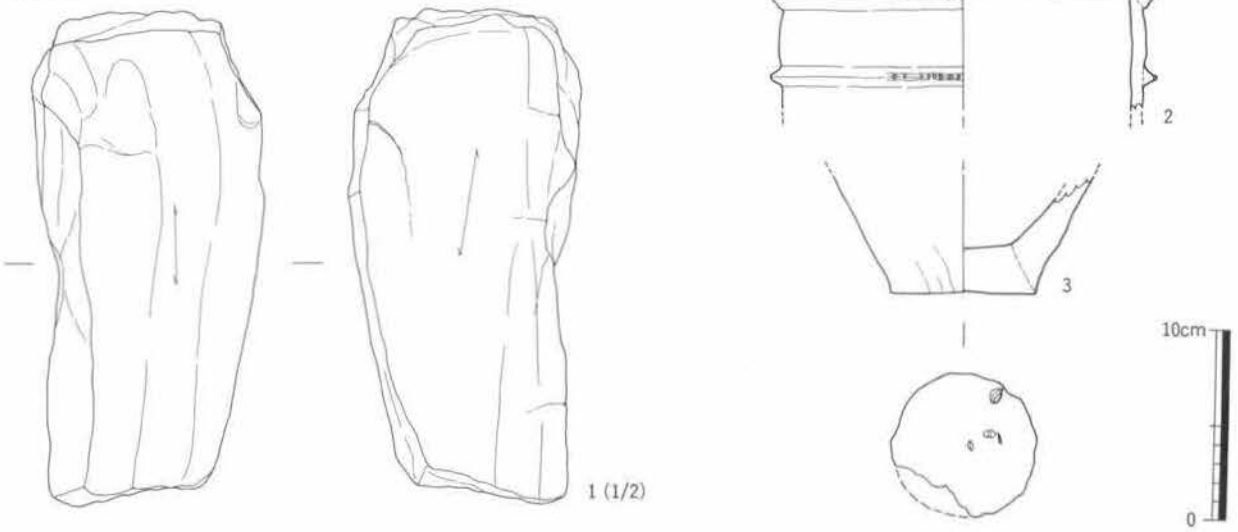


Fig.150 2SK0806・2SK0825・2SK0830出土遺物実測図 (1/2・1/4)

2SK0843



2SK0849

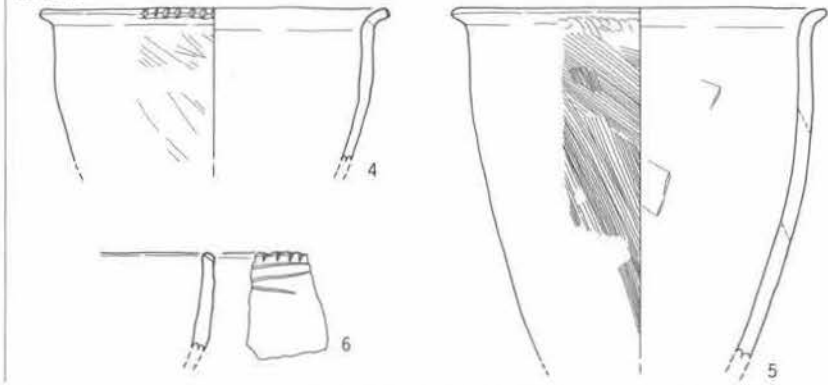


Fig.151 2SK0843・2SK0849出土遺物実測図(1/2・1/4)

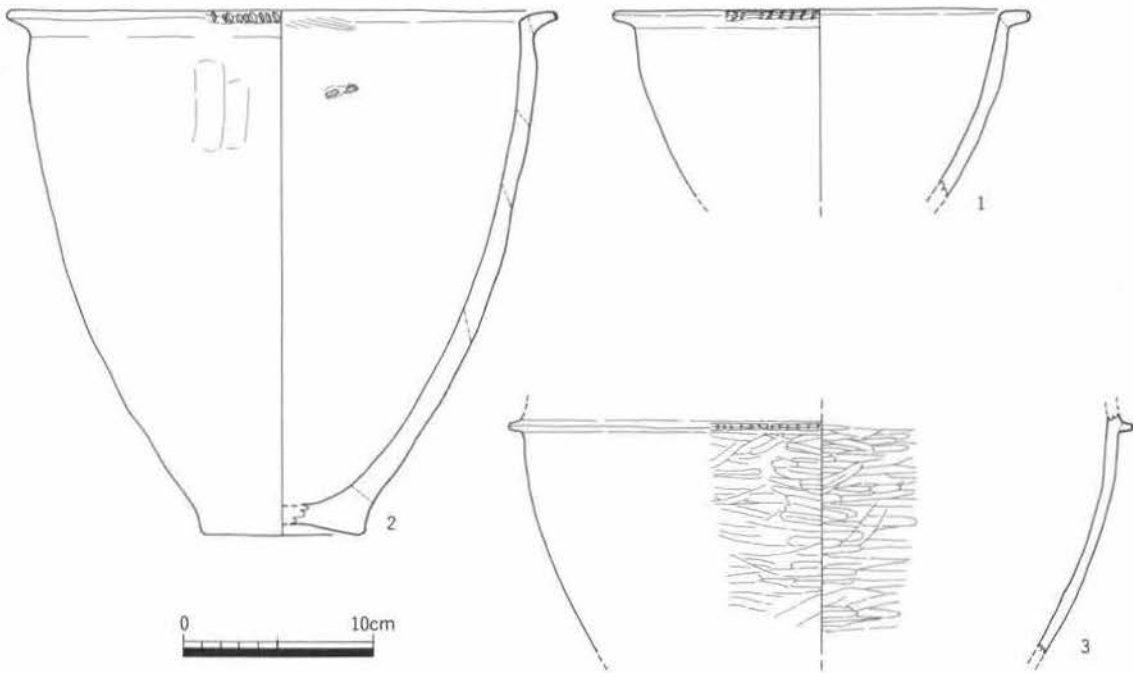


Fig.152 2SK0850出土遺物実測図①(1/4)

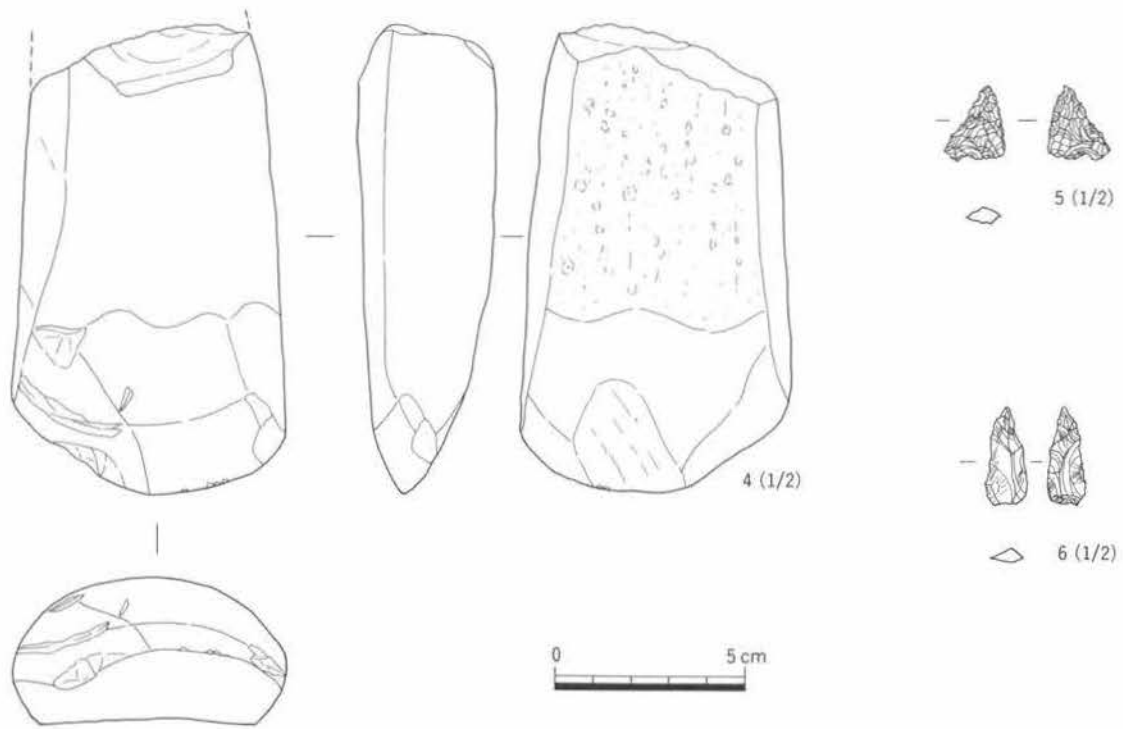


Fig.153 2SK0850出土遺物実測図② (1/2)

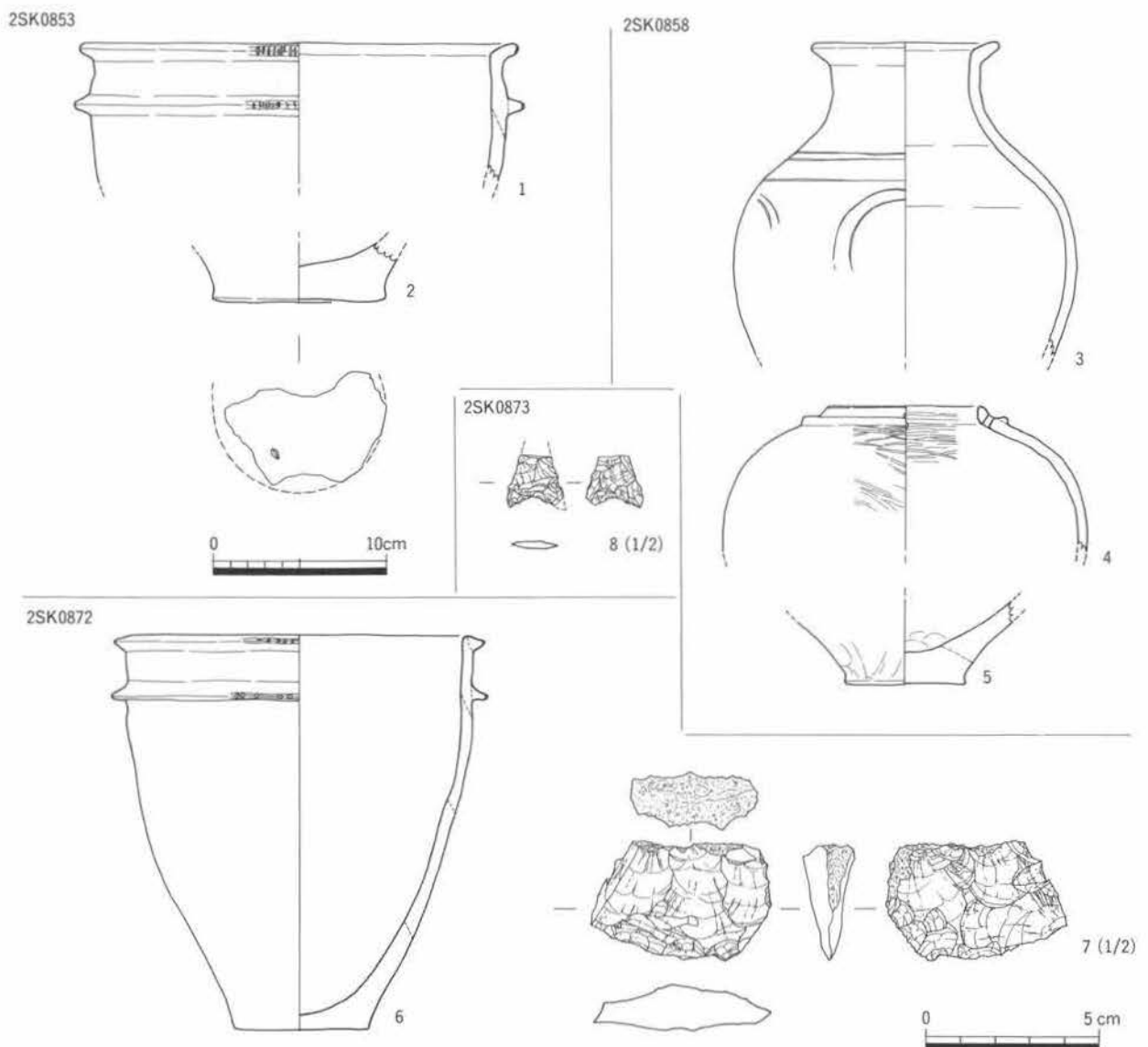


Fig.154 2SK0853・2SK0858・2SK0872・2SK0873出土遺物実測図 (1/4・1/2)

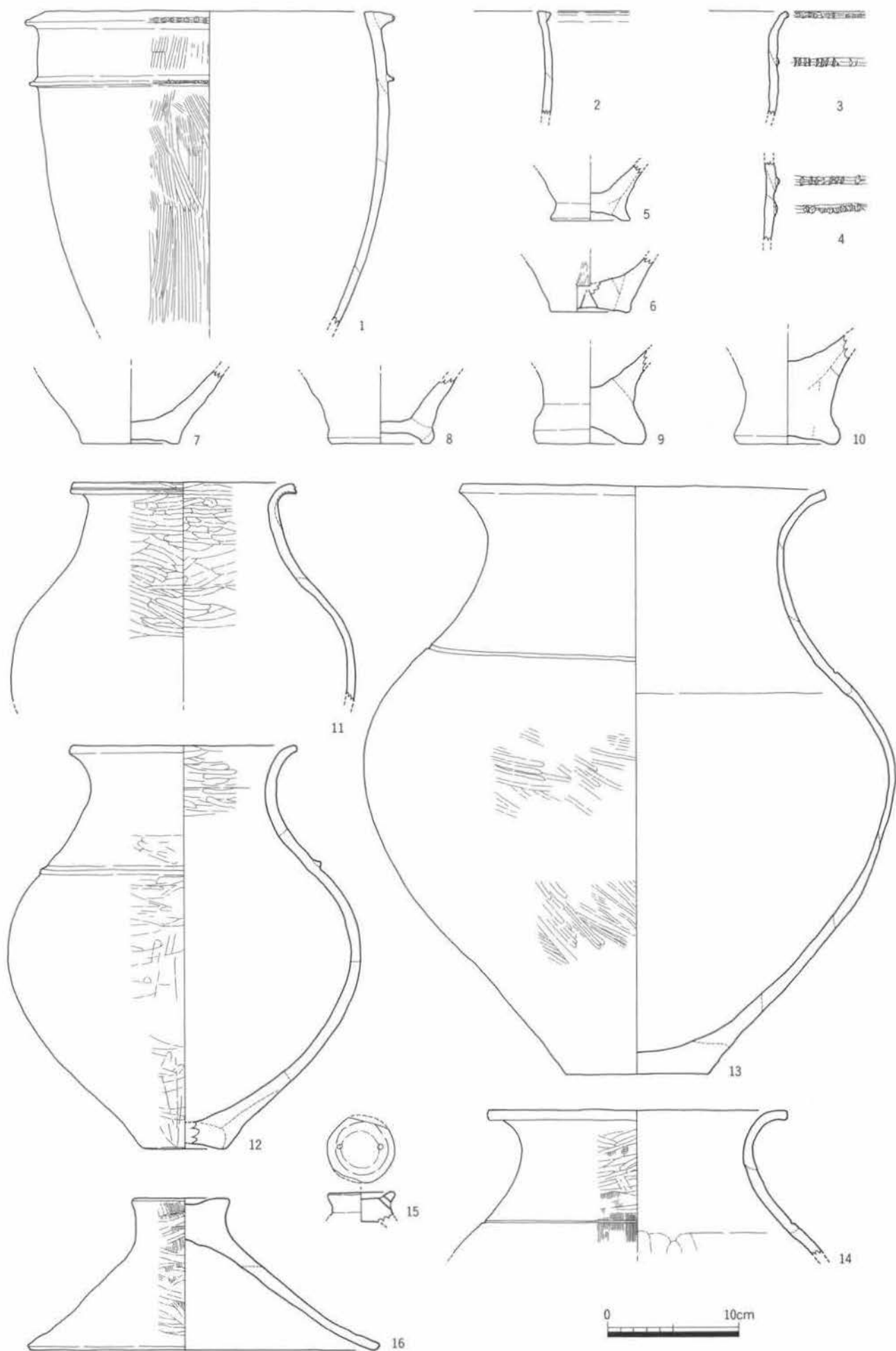


Fig.155 2SK0878出土遺物実測図① (1/4)

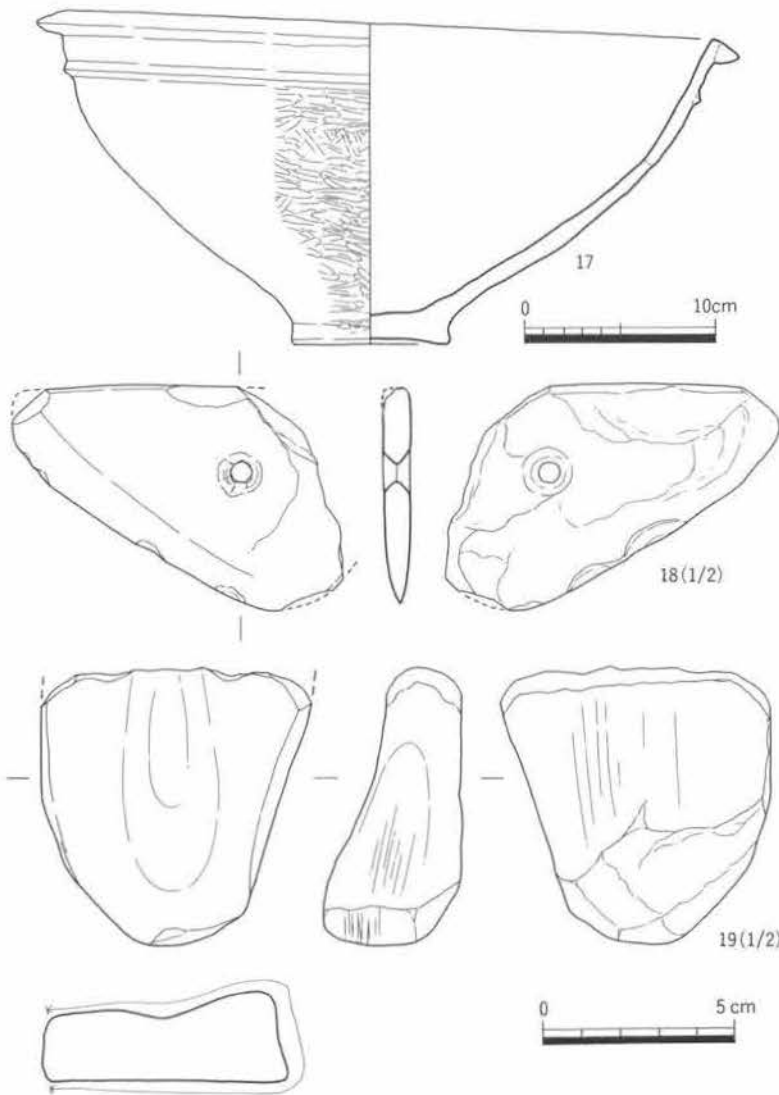


Fig.156 2SK0878出土遺物実測図② (1/4・1/2)

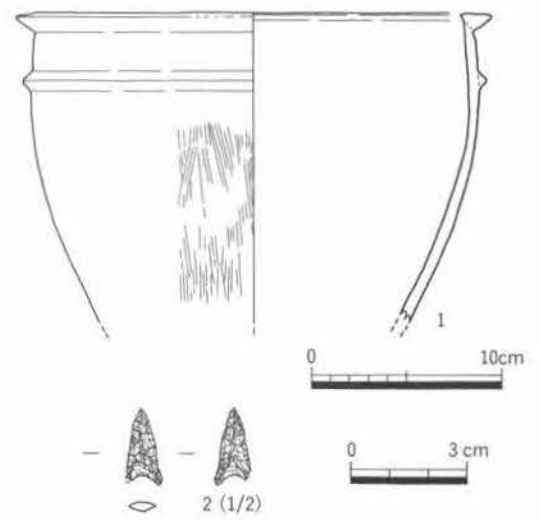


Fig.157 2SK0881  
出土遺物実測図 (1/2)

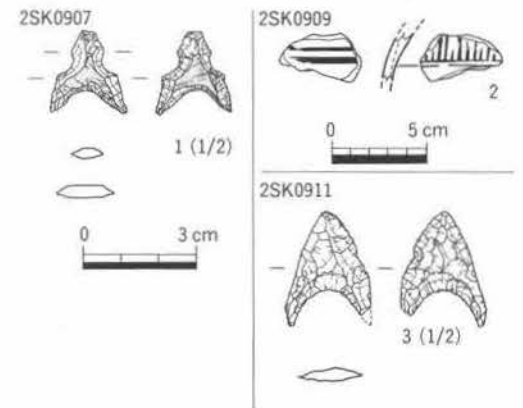


Fig.158 2SK0907・2SK0909・  
2SK0911出土遺物実測図 (1/4・1/2)

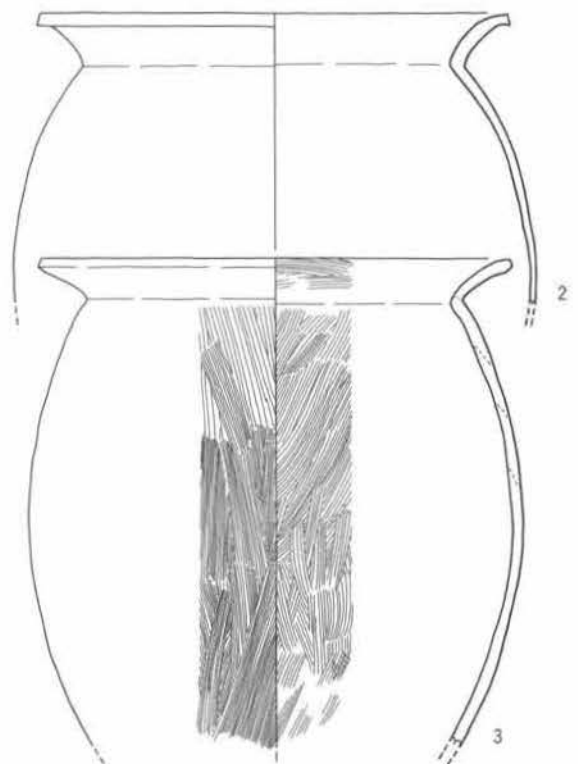
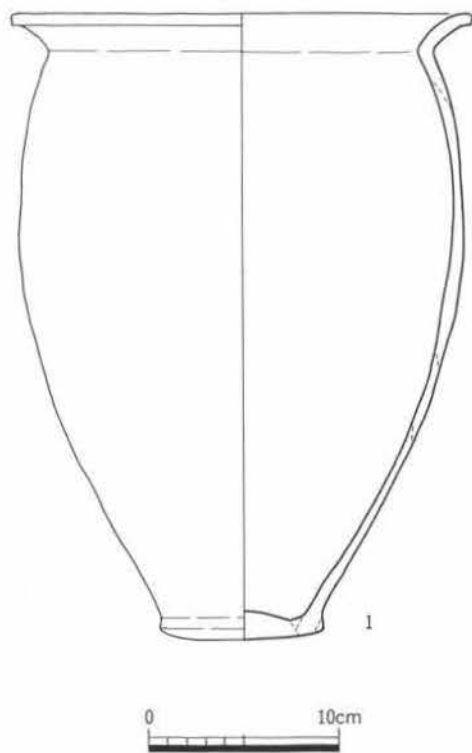


Fig.159 2SK0912出土遺物実測図① (1/4)

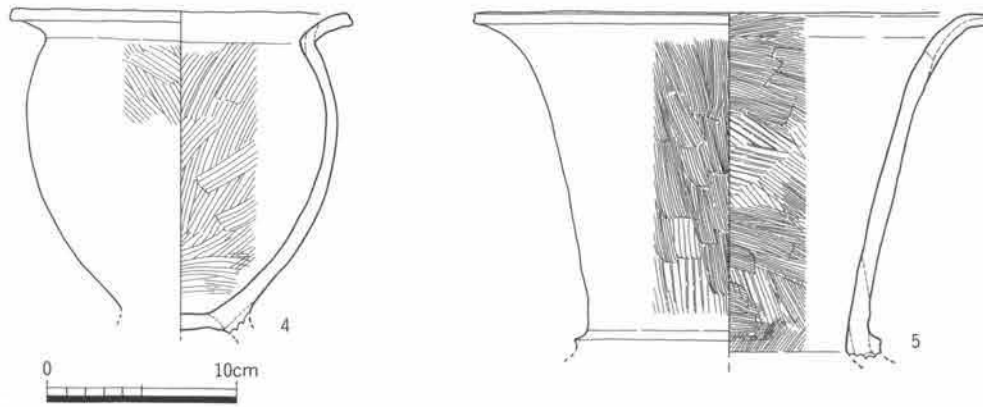


Fig.160 2SK0912出土遺物実測図② (1/4)

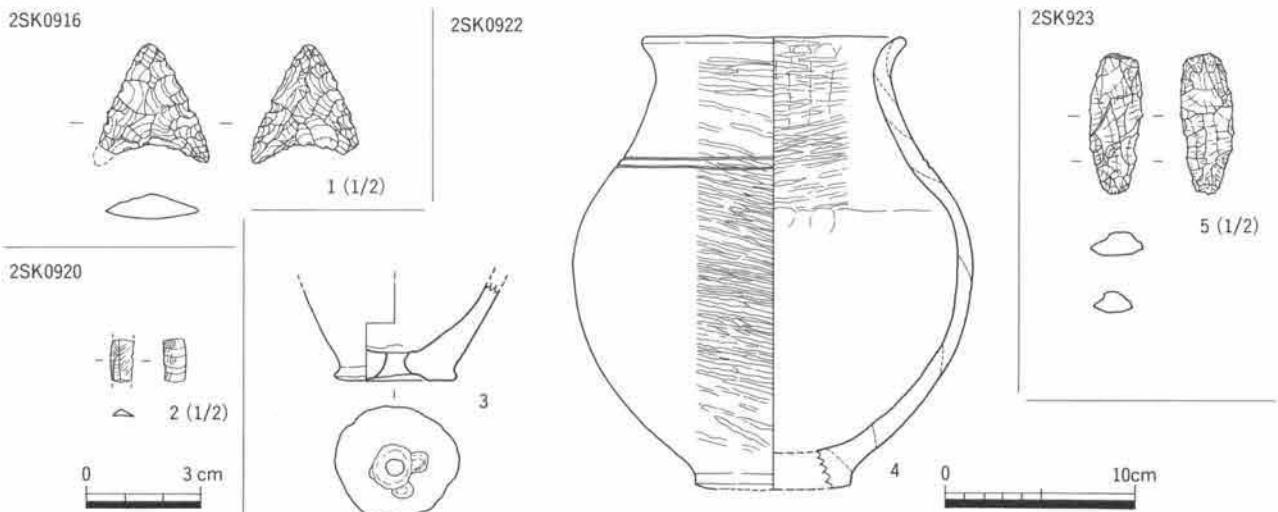


Fig.161 2SK0916・2SK0920・2SK0922・2SK0923出土遺物実測図 (1/2・1/4)

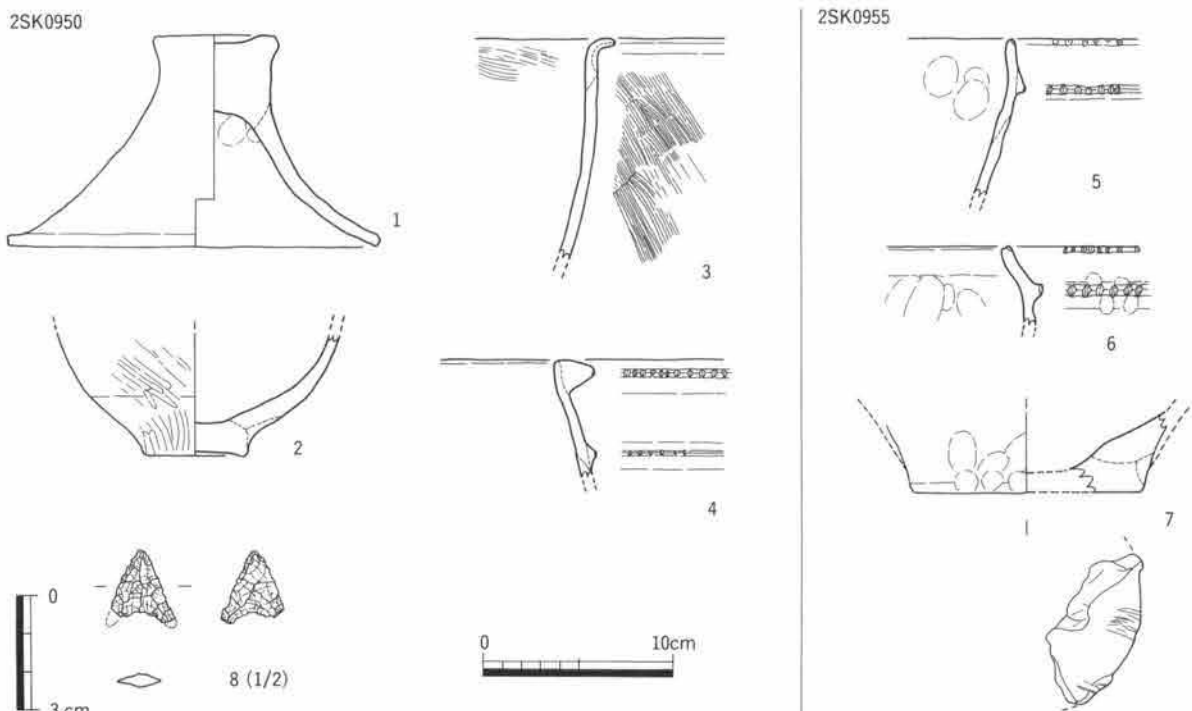


Fig.162 2SK0950・2SK0955出土遺物実測図 (1/4・1/2)

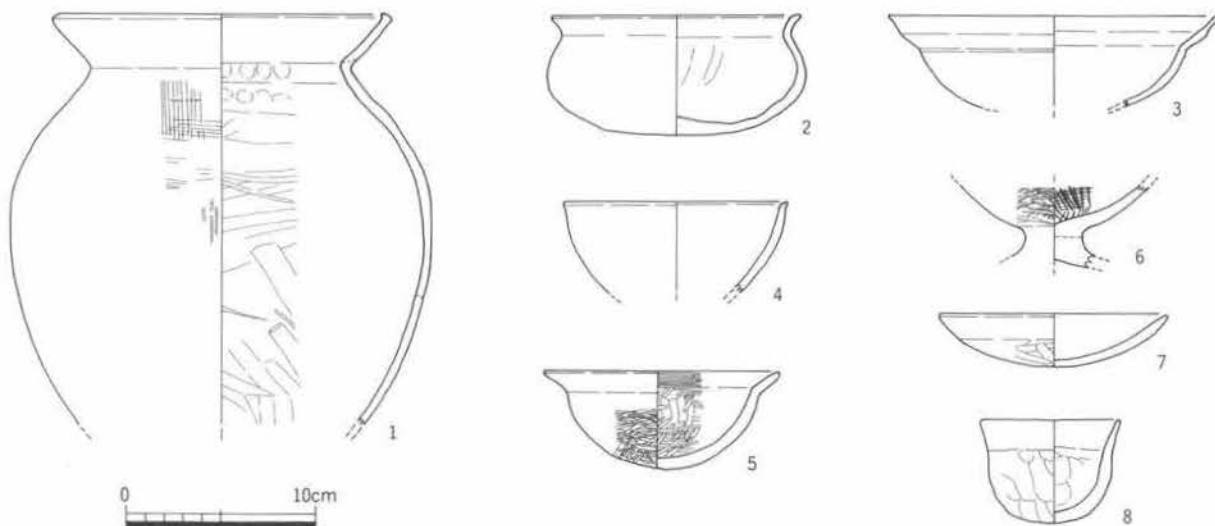


Fig.163 2SK0956出土遺物実測図 (1/4)

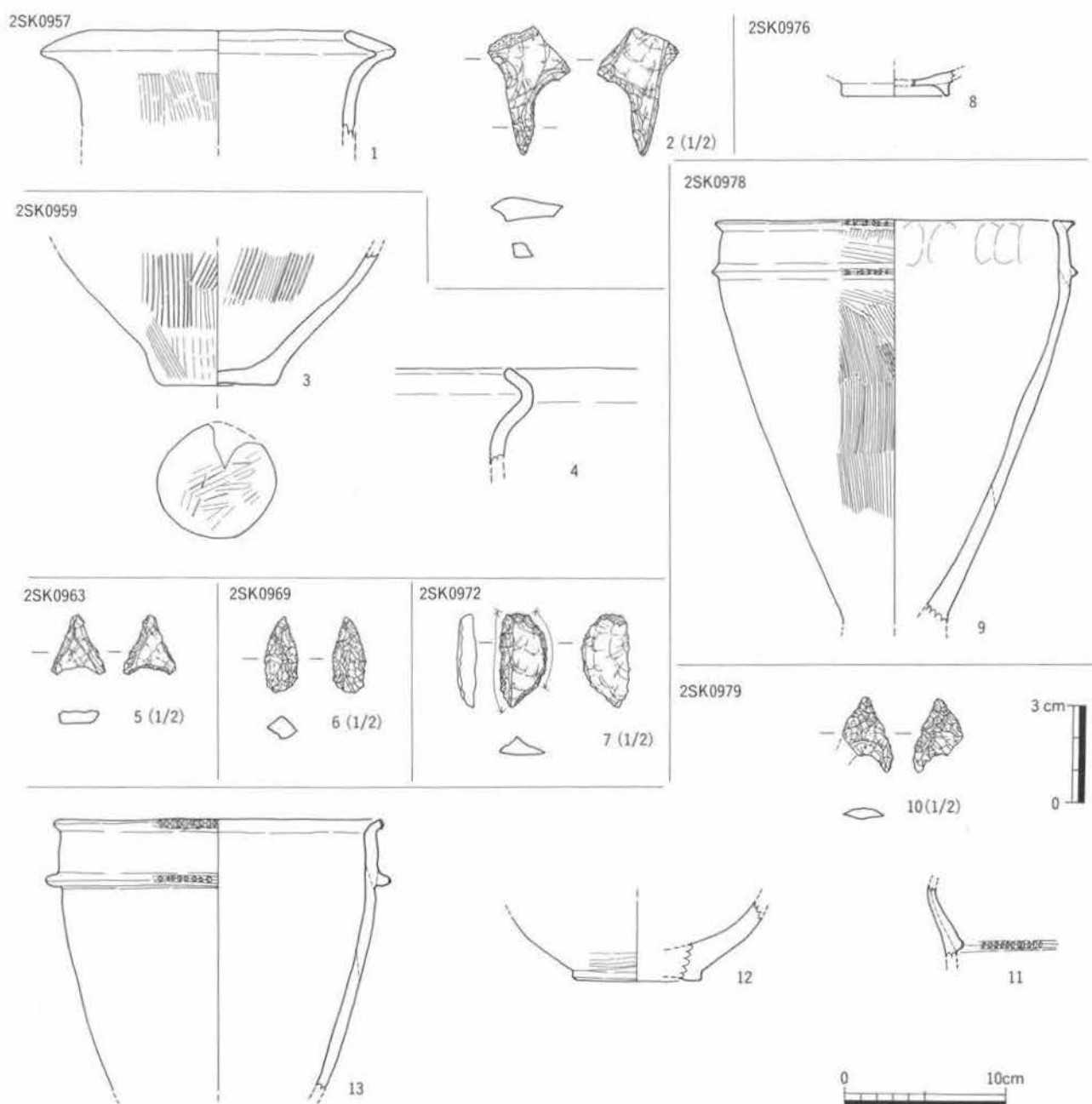


Fig.164 2SK0957・2SK0959・2SK0963・2SK0969・2SK0972  
 ・2SK0976・2SK0978・2SK0979出土遺物実測図 (1/4・1/2)



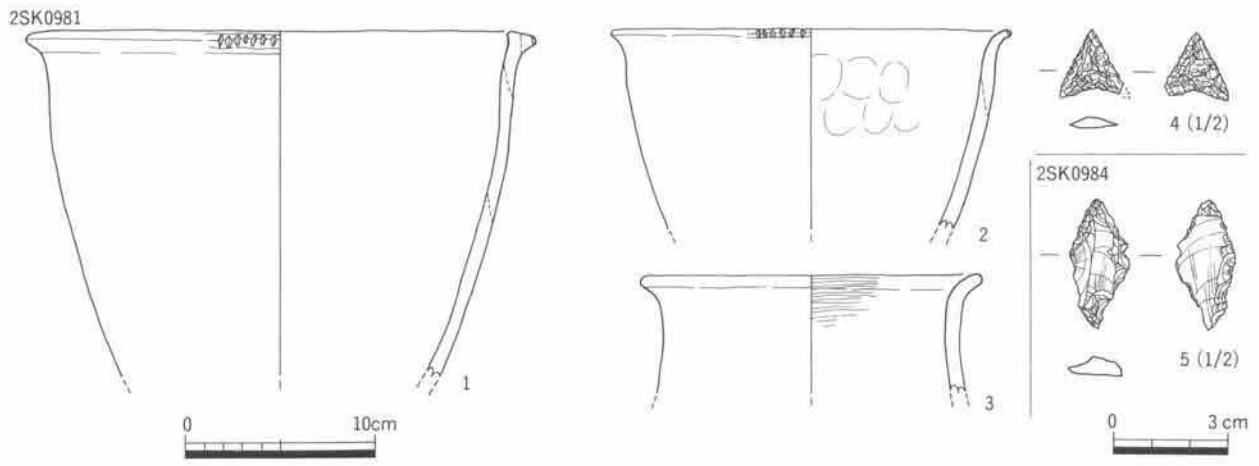


Fig.165 2SK0981・2SK0984出土遺物実測図 (1/4・1/2)

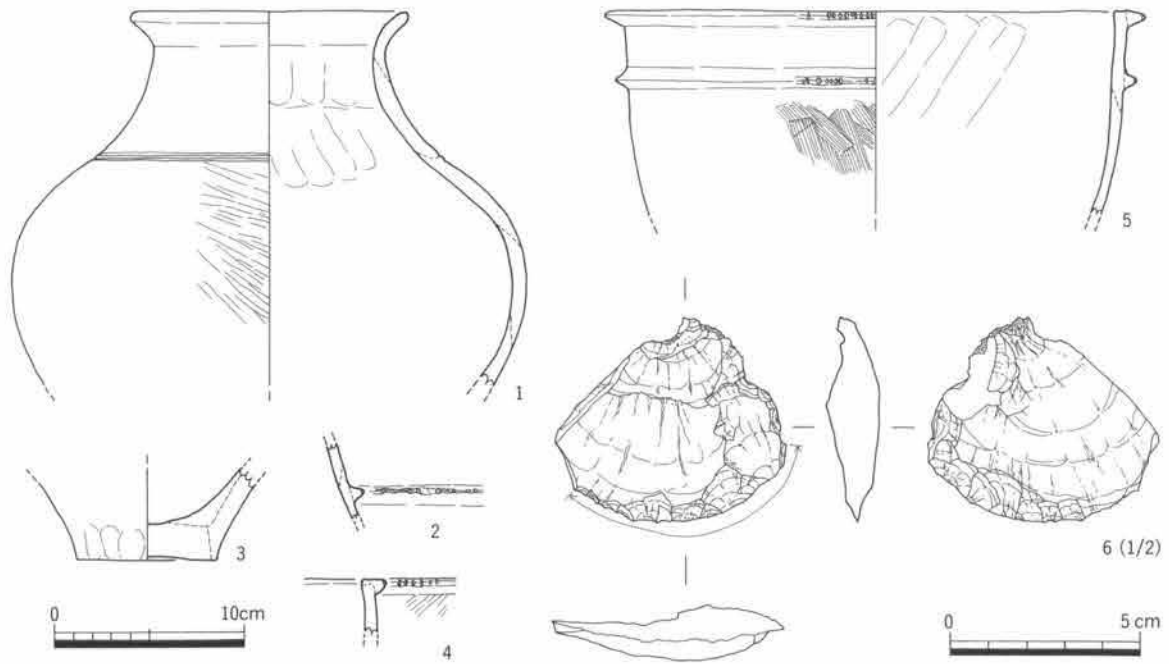


Fig.166 2SK0989出土遺物実測図 (1/4・1/2)

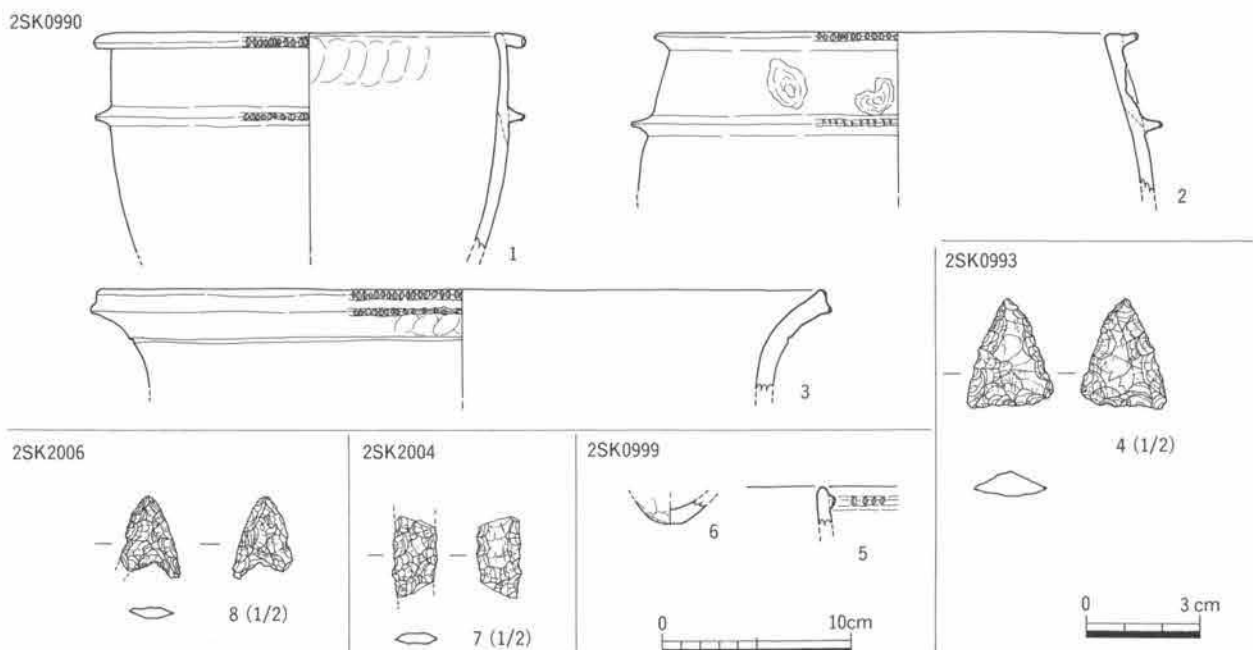


Fig.167 2SK0990・2SK0993・2SK0999・2SK2004・2SK2006出土遺物実測図 (1/4・1/2)

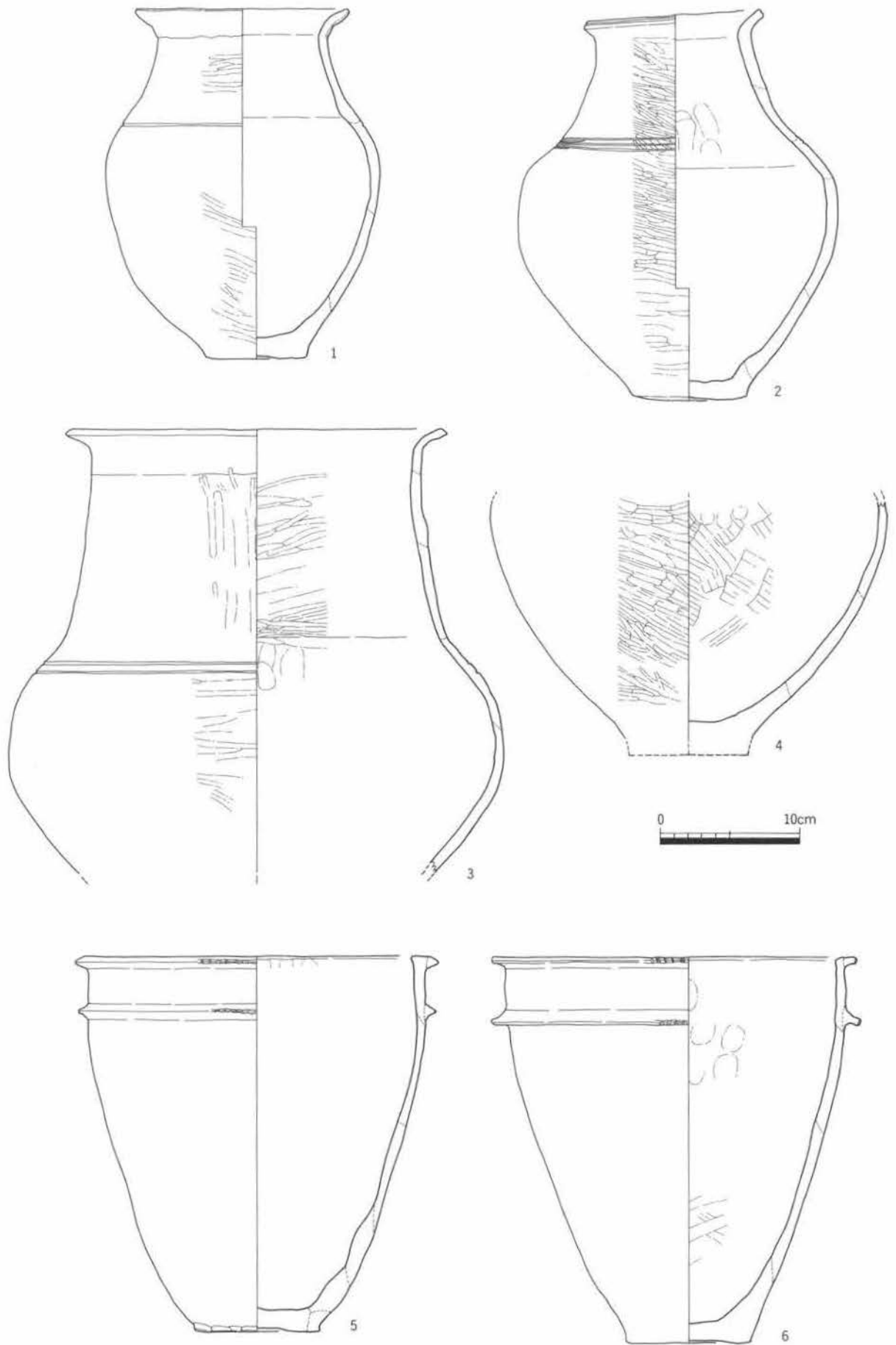


Fig.168 2SK2008出土遺物実測図① (1/4)

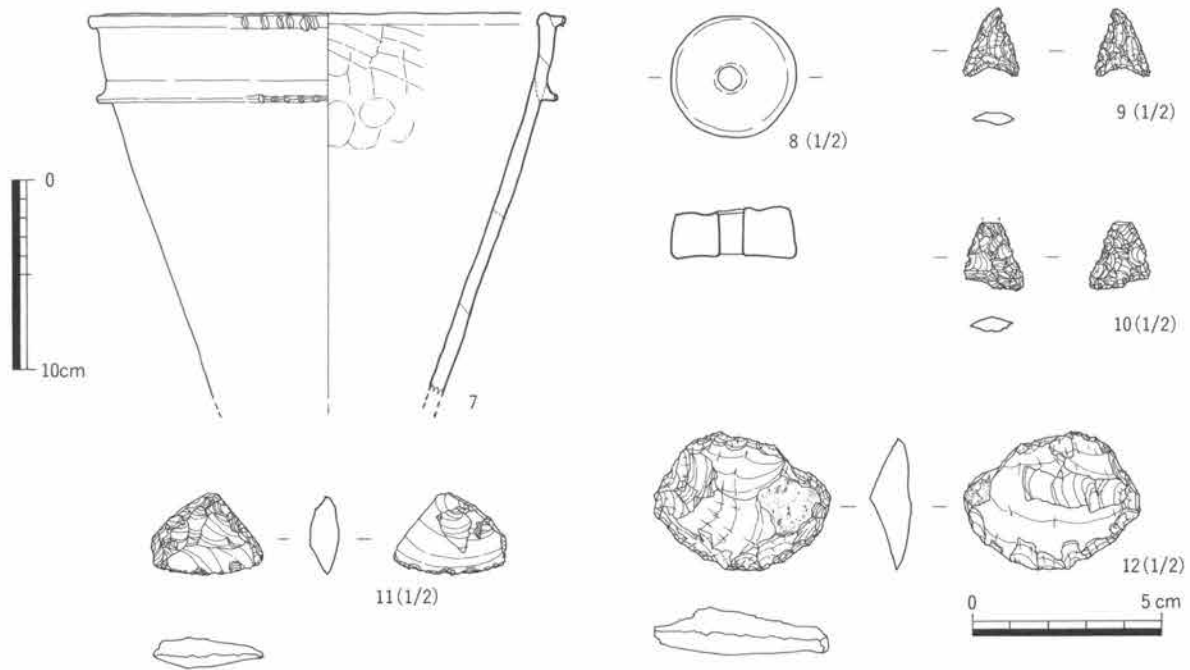


Fig.169 2SK2008出土遺物実測図② (1/4・1/2)

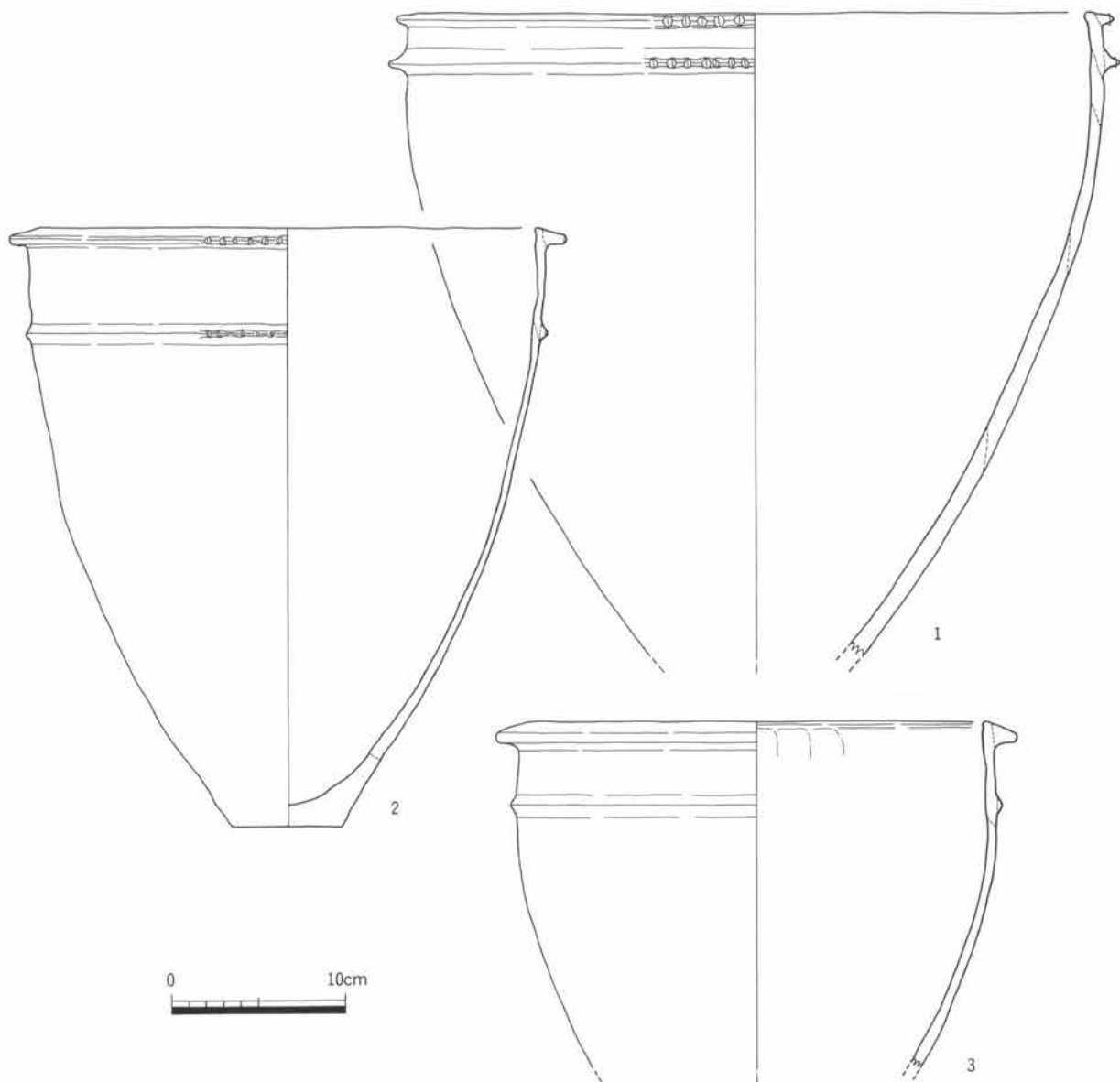


Fig.170 2SK2009出土遺物実測図① (1/4)

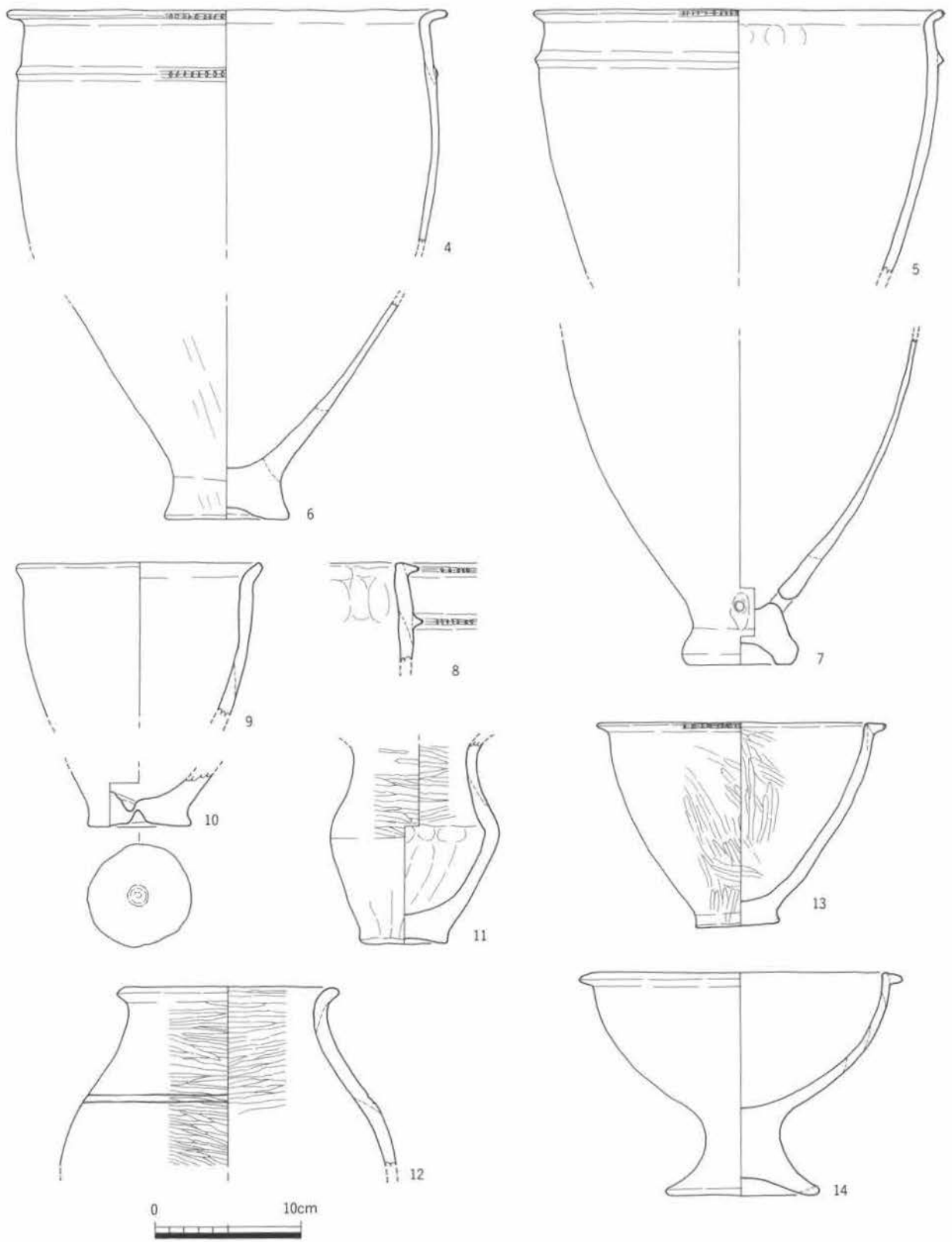


Fig.171 2SK2009出土遺物実測図② (1/4)



Fig.172 2SK2011出土遺物実測図 (1/2)

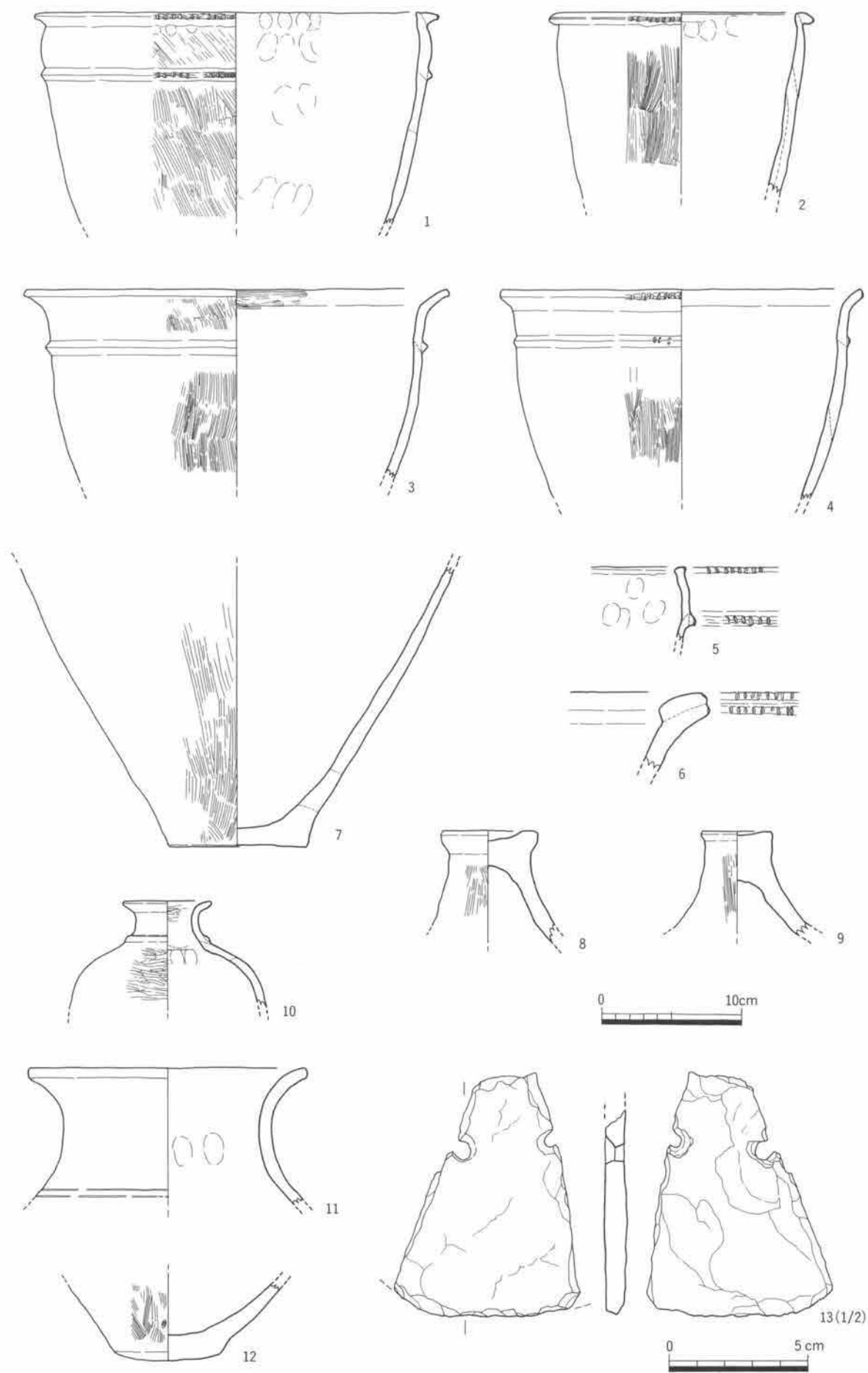


Fig.173 2SK2013出土遺物実測図① (1/4・1/2)

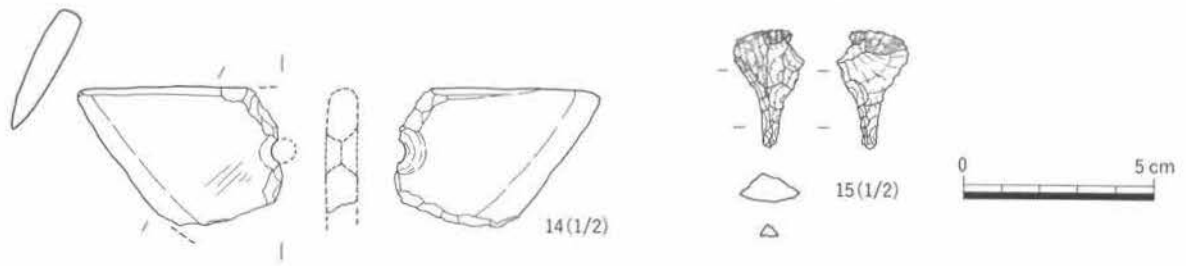


Fig.174 2SK2013出土遺物実測図② (1/2)



Fig.175 2SK2016出土遺物実測図 (1/4)

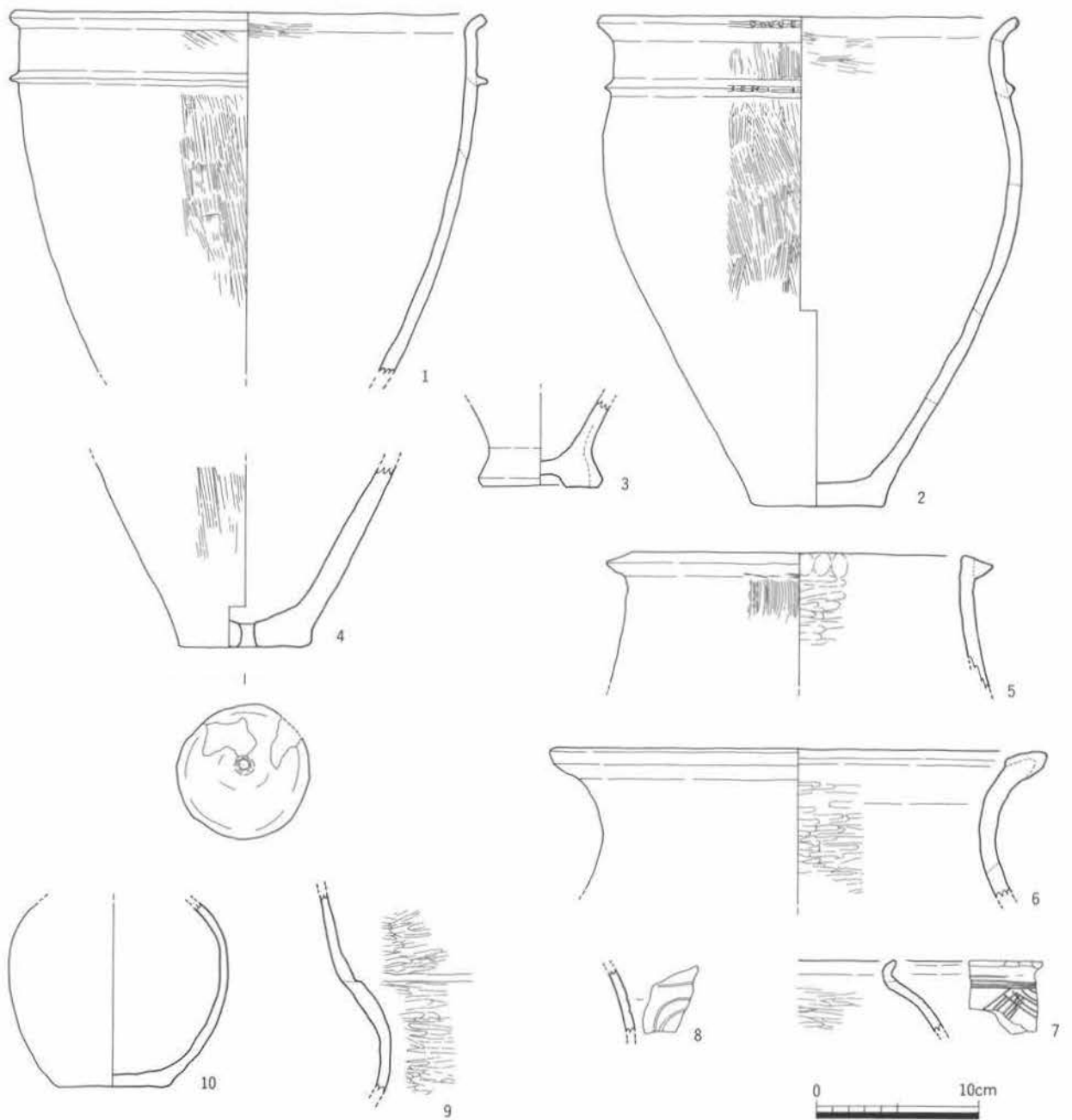


Fig.176 2SK2017出土遺物実測図 (1/4)

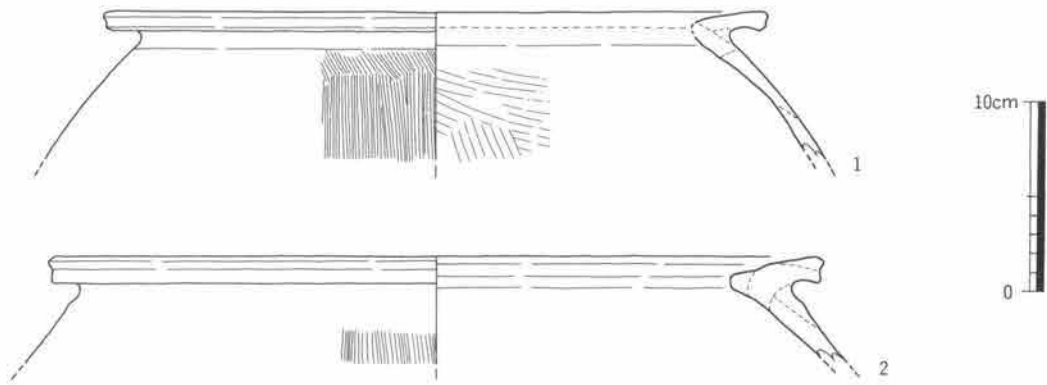


Fig.177 2SK2018出土遺物実測図 (1/4)

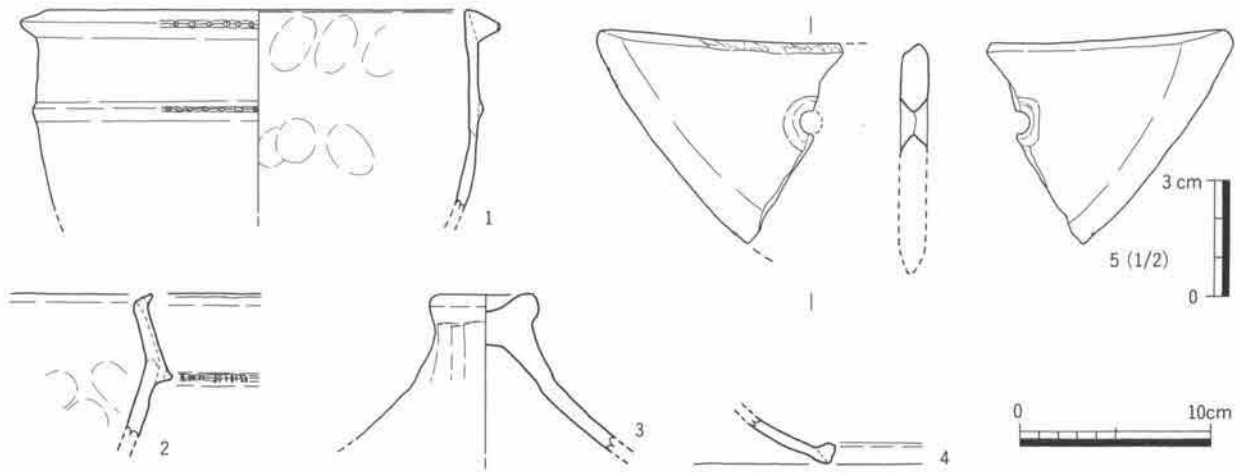


Fig.178 2SK2021出土遺物実測図 (1/4・1/2)

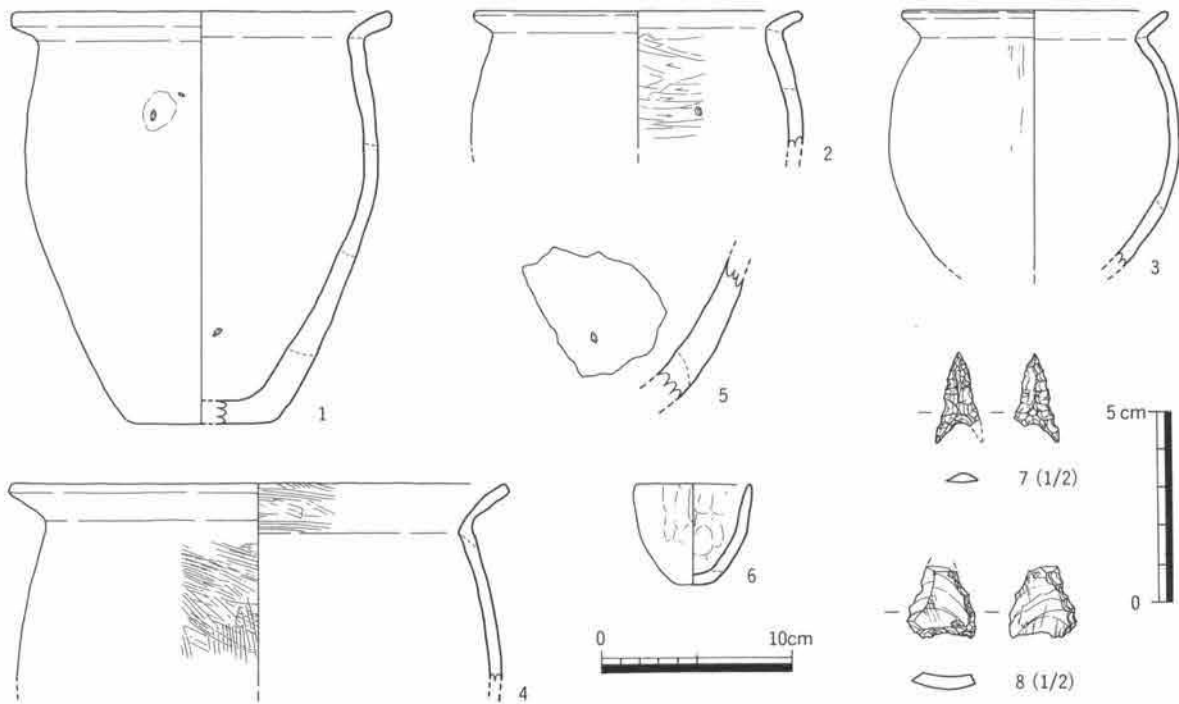


Fig.179 2SK2025出土遺物実測図 (1/4・1/2)

2SK0979出土遺物 (Fig.164・Pla.129・149)

11は甕である。胴部凸帯状の部分から上位に粘土を貼り足して肥厚させる段甕である。凸帯を省略した段の部分に直接刻目を施している。段甕の一般的な構造と全く同一である。口縁部は欠損しているものの外反する類型と思われ、瀬戸内地方にみられる段甕の器形に近い。

2SK0990出土遺物 (Fig.167・Pla.130)

2は甕である。口縁部と胴部に1条ずつ刻目凸帯を巡らせる。2条の凸帯の間に、未貫通の焼成後穿孔が見られる。穿孔は外面側から行われている。

2SK2009出土遺物 (Fig.170・171・Pla.130・131)

7は甕の下半部である。底部は厚いが底面は若干上げ底状となっている。底部近くの体部に1ヶ所の焼成後穿孔が認められる。

2SK2013出土遺物 (Fig.173・174・Pla.131・149)

5は凸帯文土器の甕である。口縁部には直接刻め目を施し、胴部には刻目凸帯を貼付けている。粘土の接合は外傾接合である。10は壺であるが、体部に比して細い頸部が特徴的である。頸部と胴部の接合部分に三角凸帯を1条貼付ける。外面は丁寧な磨きが施されている。弥生土器としたが、凸帯文土器とすべきかも知れない。12は壺の底部である。体部の最下位外面に刳圧痕が1ヶ所残る。

2SK2017出土遺物 (Fig.176・Pla.131・132)

10は壺の下半部である。丸い胴部と広い底面が特徴的である。

2SK2021出土遺物 (Fig.178・Pla.132・150)

2は凸帯文土器の甕である。口縁部と胴部にそれぞれ1条の貼付け凸帯を貼付ける。胴部凸帯から上位は粘土を貼り足して肥厚させており、段甕の範疇に入る。5は石包丁。石材は片岩で、刃部は両刃である。

2SK2025出土遺物 (Fig.179・Pla.132・150)

5は甕の体部である。内面に刳圧痕が1ヶ所認められる。

2SK2027出土遺物 (Fig.180・Pla.133)

5は甕の体部である。胴部凸帯から上位に粘土を貼り足して肥厚させている。段甕の範疇に入る。6は壺の底部である。外底面に刳圧痕が2ヶ所認められる。

2SK2045出土遺物 (Fig.184・Pla.133)

5は甕型土器に把手が付いたものであるが、森貞次郎氏が緩遠風双耳把手付銅鍍型深鉢と思われる。把手の一方は水平に擦り付け、他方は縦に擦り付ける。器面は丁寧にナデ調整を施している。

2SK2049出土遺物 (Fig.184・Pla.156)

7は磨製石剣である。丁寧な研磨が施されている。

2SK2056出土遺物 (Fig.185・Pla.134)

1は壺である。頸部と胴部の接合部外面に三角凸帯が貼付く。凸帯には2～3ヶ所刻目が施される。内面には接合時の段が僅かに名残りを留めている。

2SK2166出土遺物 (Fig.194)

2は甕棺である。口縁部の外面に粘土を貼り足して肥厚している。内面の口縁部直下に三角凸帯を貼付ける。胴部下位にも三角凸帯を1条貼付ける。器形は壺の面影を残し、古相を示す。

2SK2168出土遺物 (Fig.195・Pla.134・150)

3は小型の蓋である。壺蓋であろう。口縁部に2ヶ所の焼成前穿孔が認められる。

2SK2180出土遺物 (Fig.198・Pla.135)

3は甕の底部。底部近くの体部に2ヶ所の焼成後穿孔が見られるが、うち1ヶ所は未貫通である。また、底部には内外面から各1ヶ所で焼成後穿孔を試みるが、いずれも未貫通である。

2SK2193出土遺物 (Fig.199)

3は壺で、内面に刳圧痕が1ヶ所認められる。



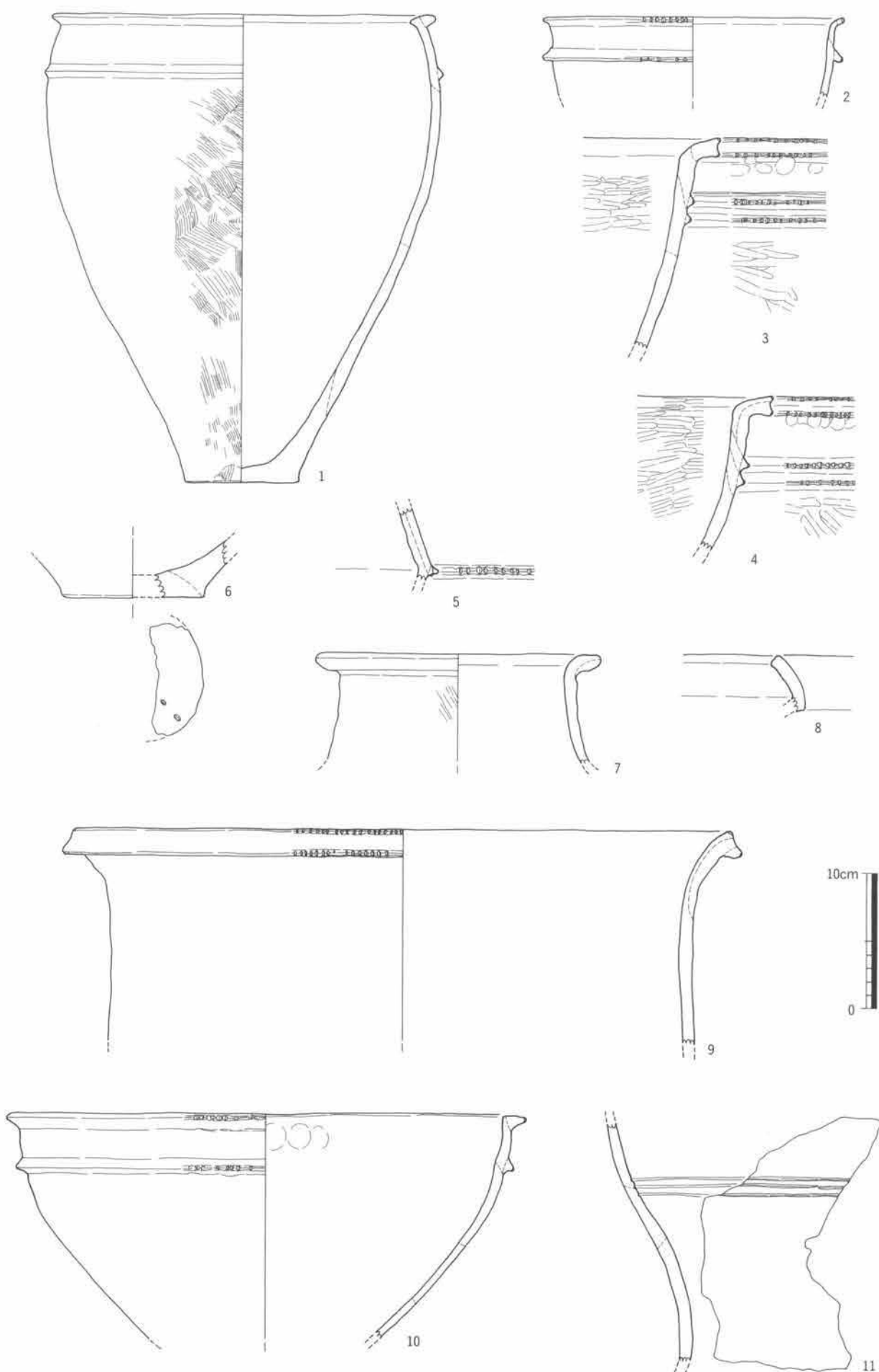


Fig.180 2SK2027出土遺物実測図 (1/4)

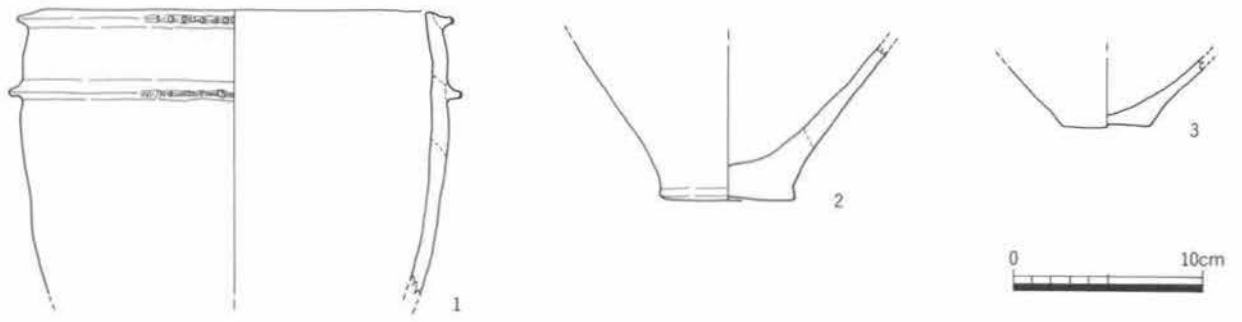


Fig.181 2SK2028出土遺物実測図 (1/4)

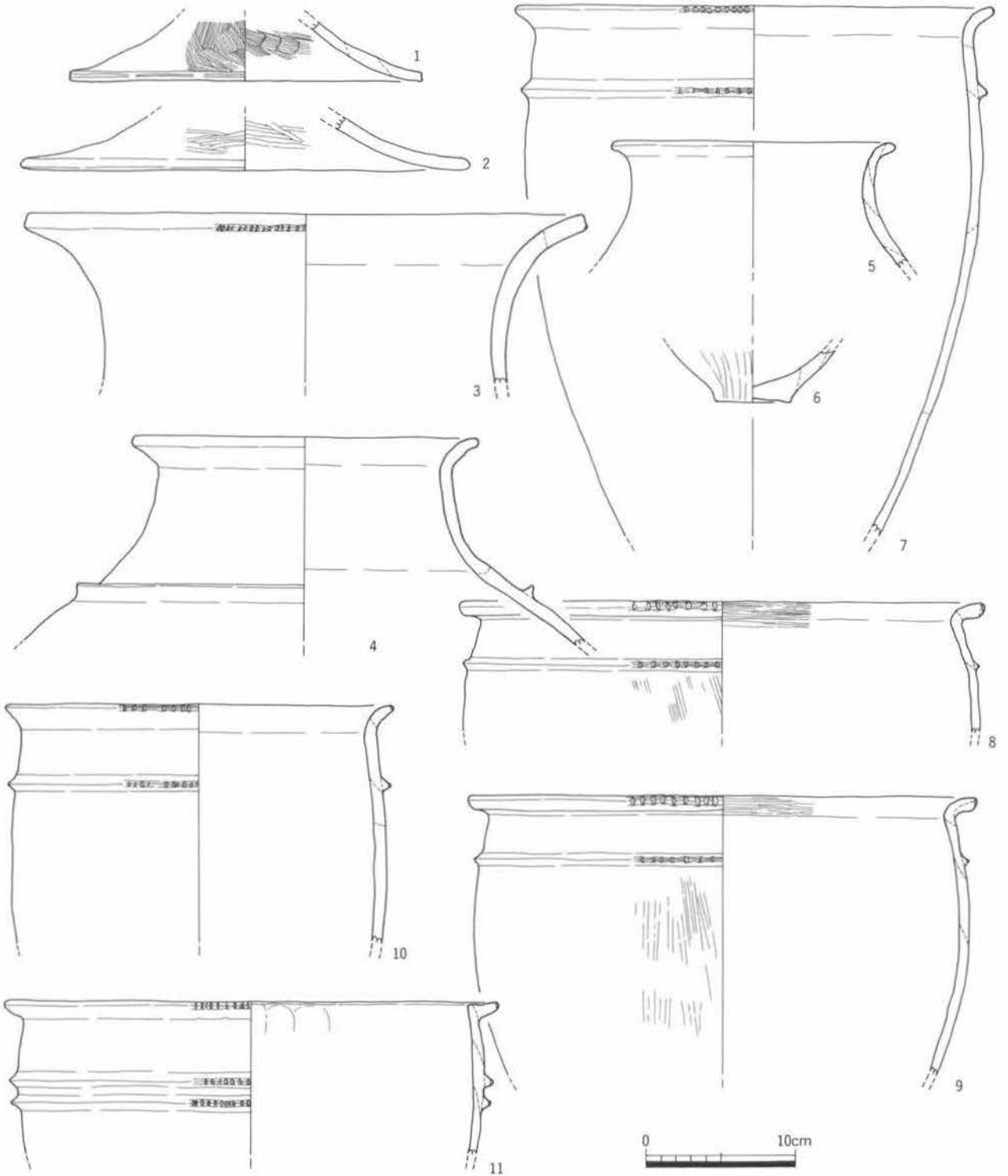


Fig.182 2SK2029出土遺物実測図① (1/4)



Fig.183 2SK2029出土遺物実測図② (1/6)

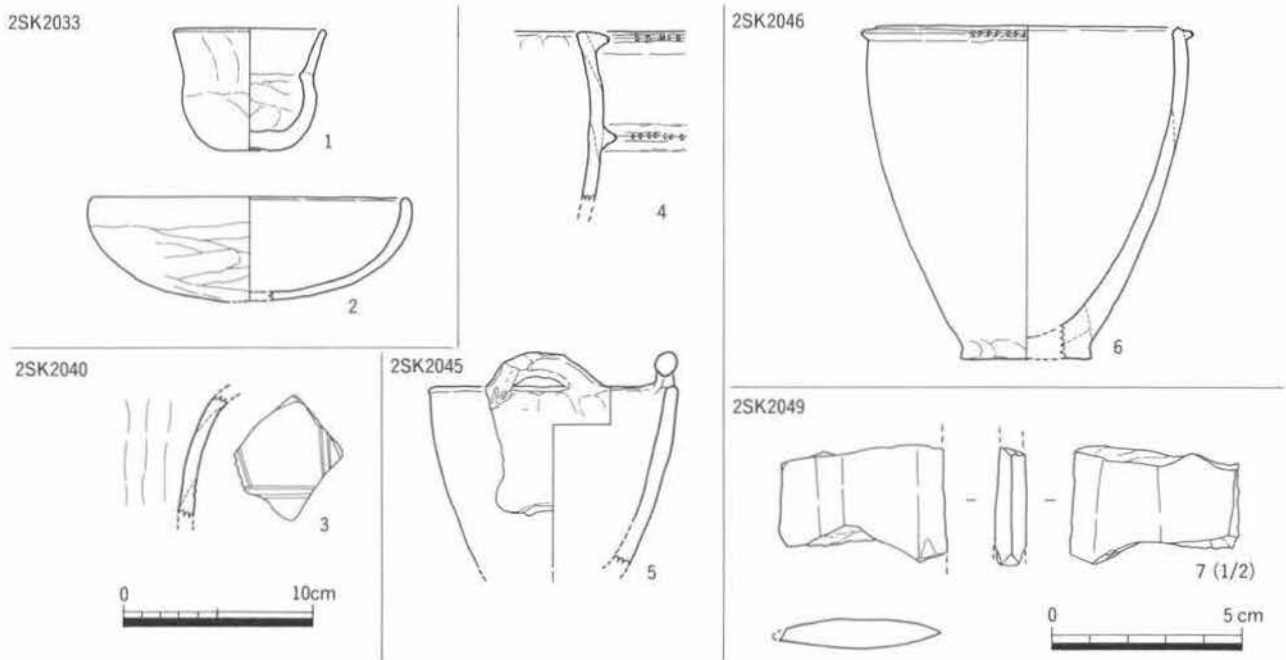


Fig.184 2SK2033・2SK2040・2SK2045・2SK2046・2SK2049出土遺物実測図 (1/4・1/2)

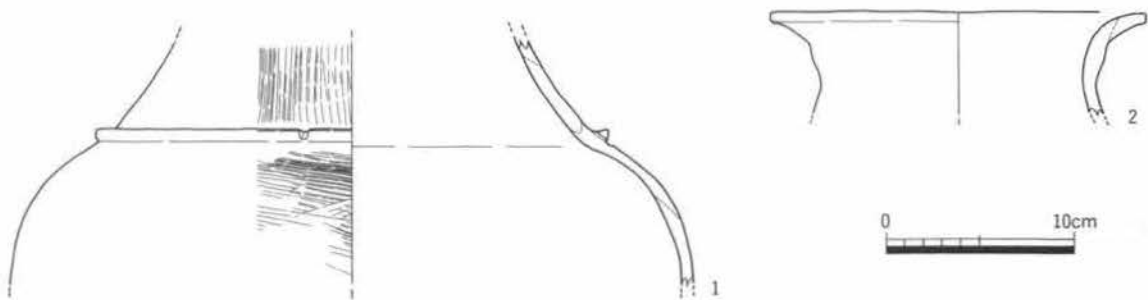


Fig.185 2SK2056出土遺物実測図① (1/4)

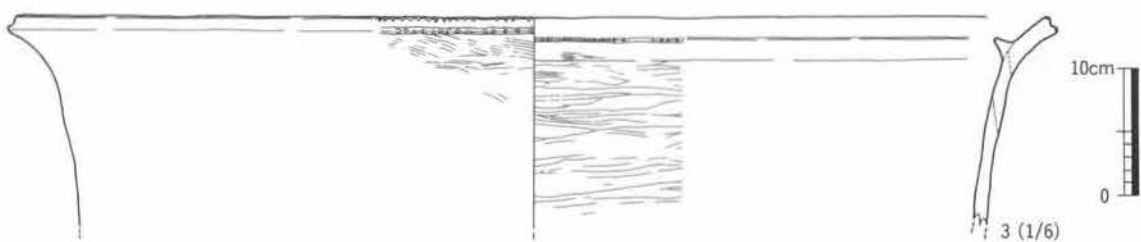


Fig.186 2SK2056出土遺物実測図② (1/6)

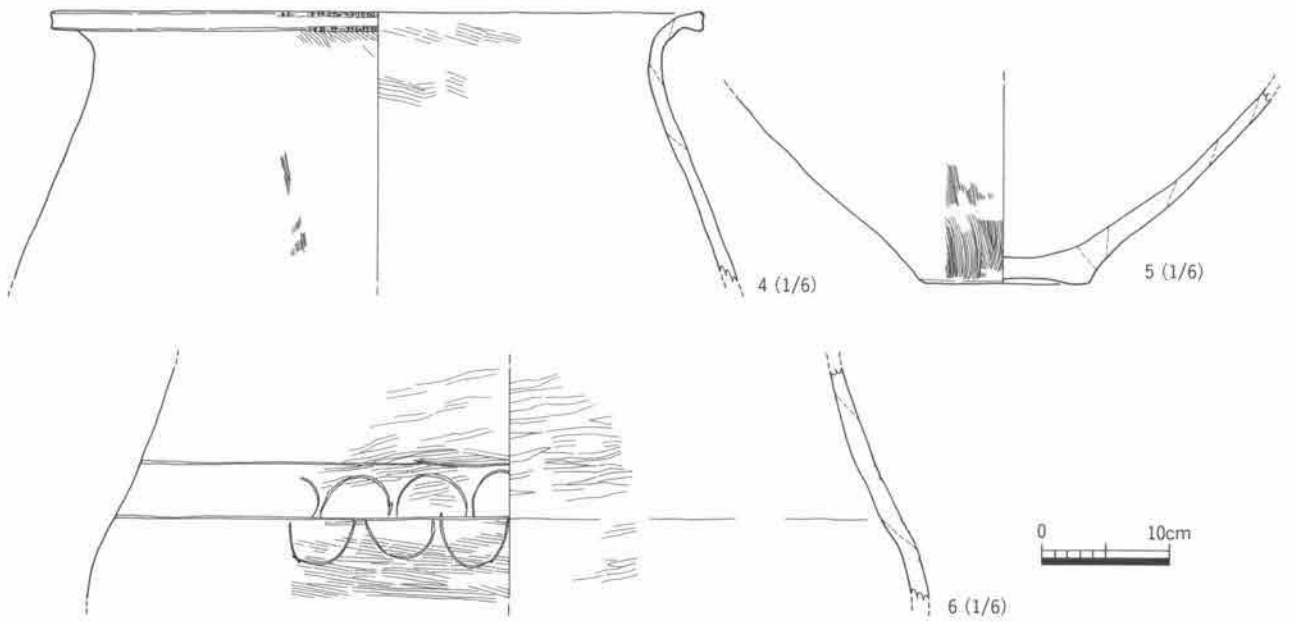


Fig.187 2SK2056出土遺物実測図③ (1/6)

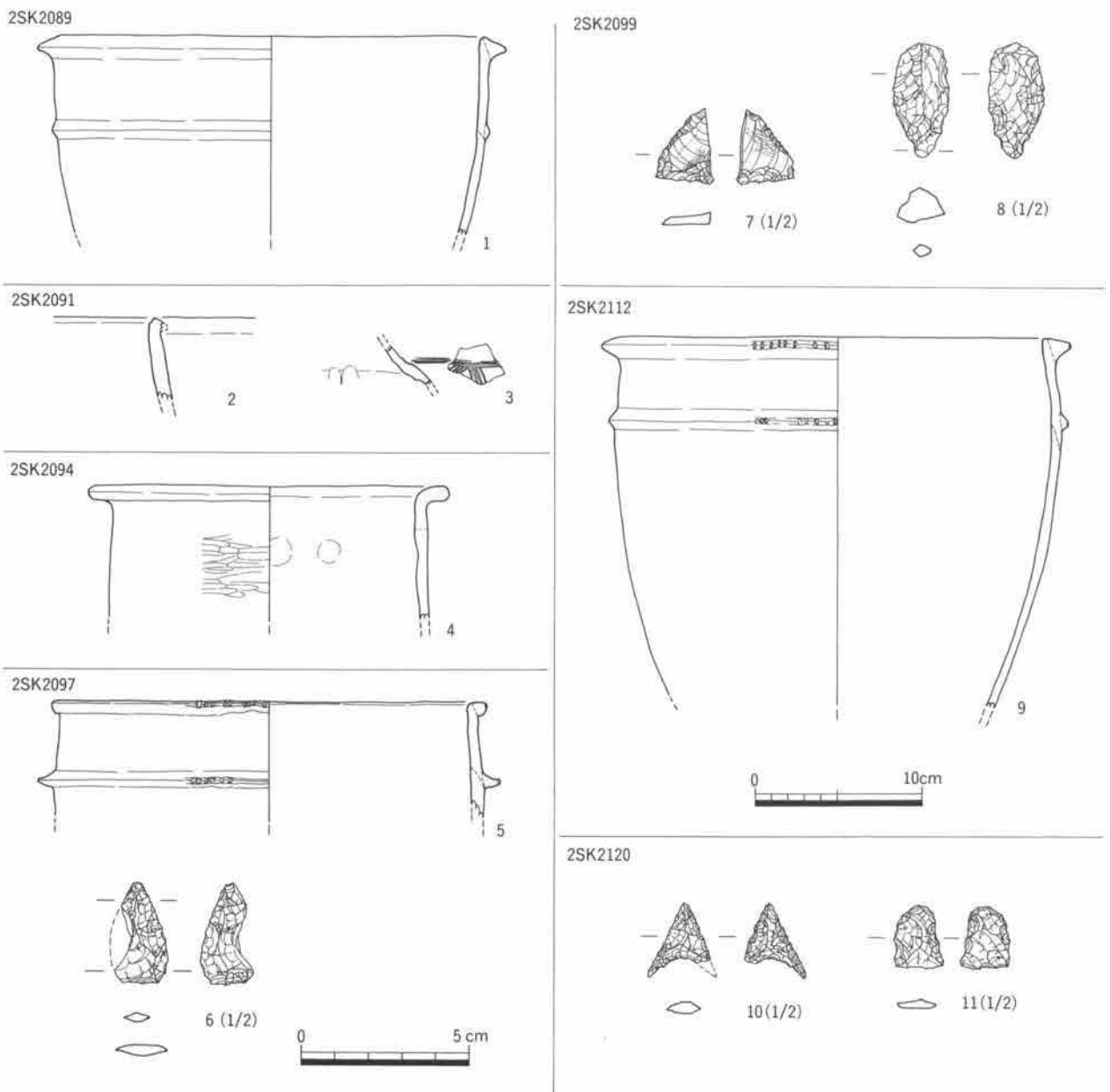
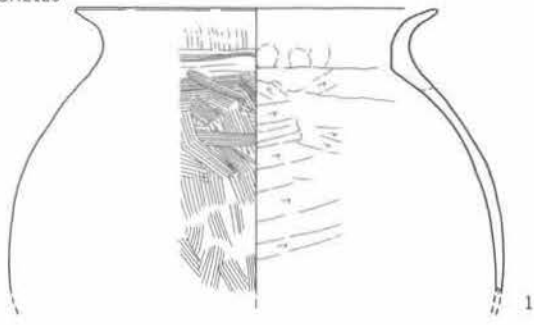


Fig.188 2SK2089・2SK2091・2SK2094・2SK2097・2SK2099  
 ・2SK2112・2SK2120出土遺物実測図 (1/4・1/2)

2SK2126



2SK2144

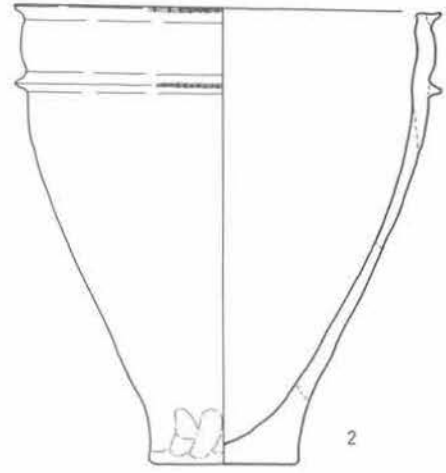


Fig.189 2SK2126・2SK2114出土遺物実測図 (1/4)

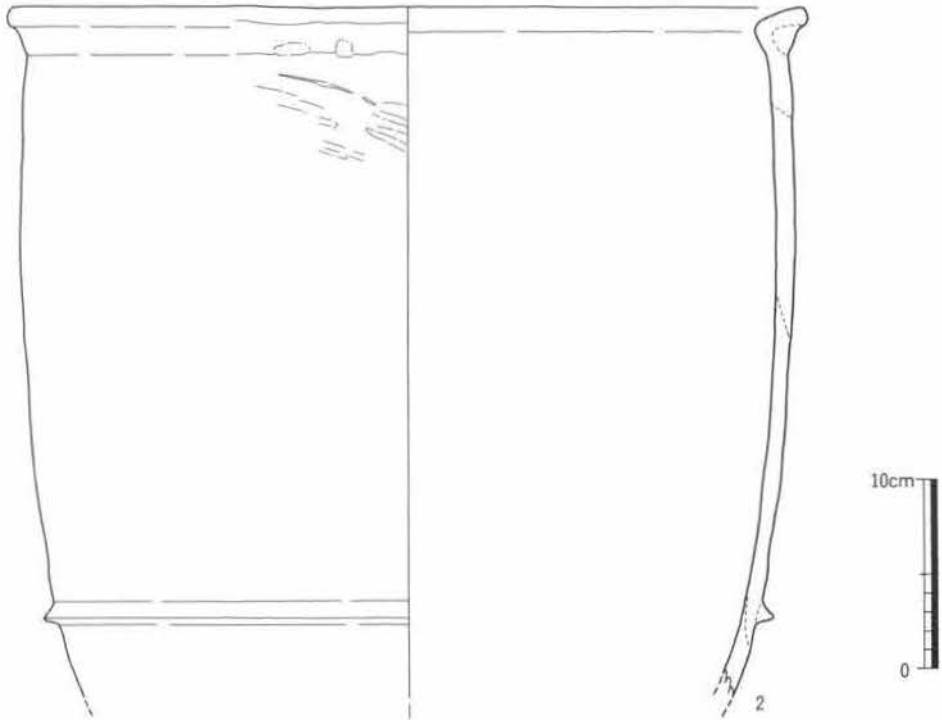
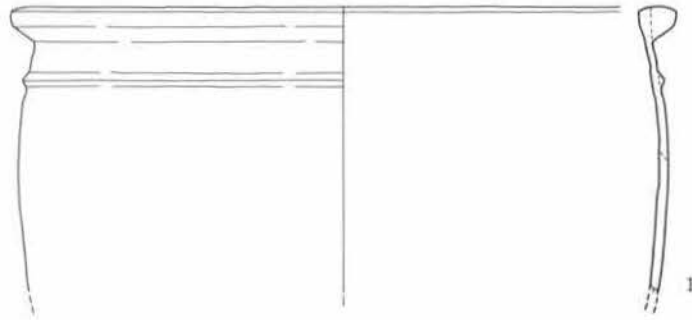
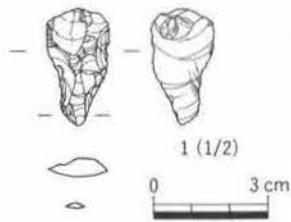


Fig.190 2SK2138出土遺物実測図 (1/4)

2SK2151



2SK2154

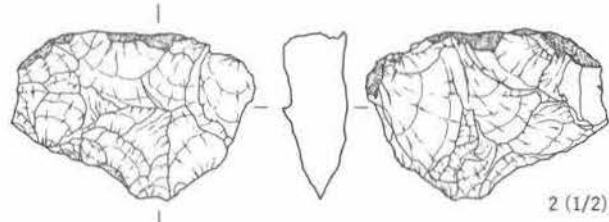


Fig.191 2SK2151・2154出土遺物実測図 (1/2)

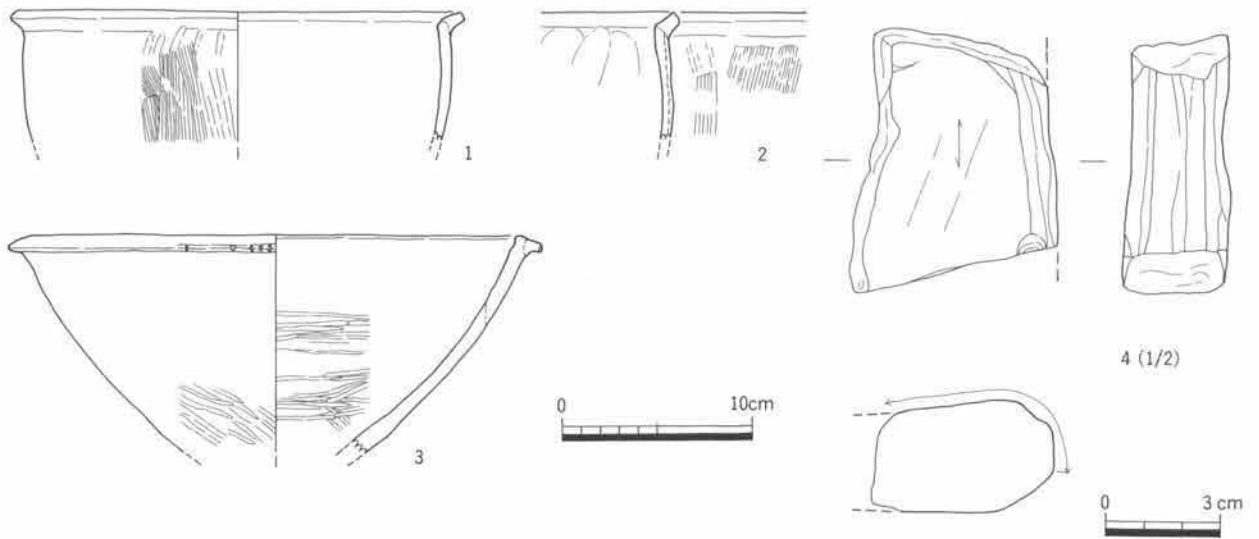


Fig.192 2SK2160出土遺物実測図 (1/4・1/2)

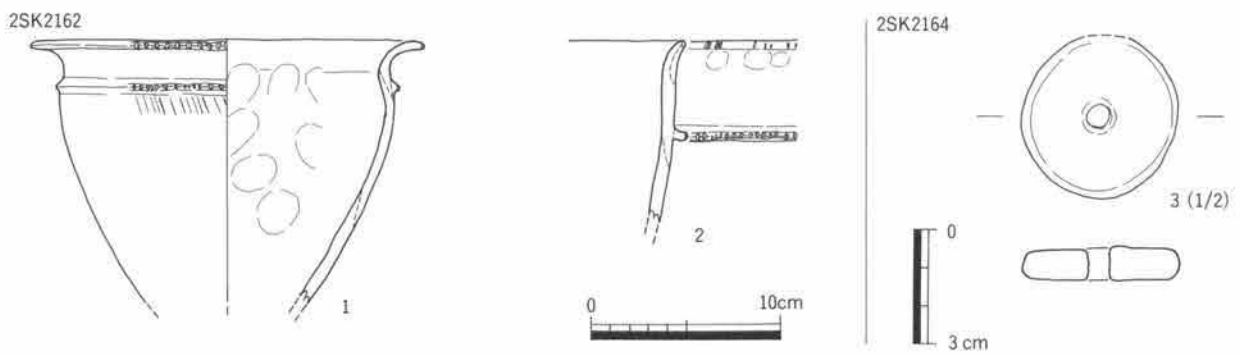


Fig.193 2SK2162・2SK2164出土遺物実測図 (1/4・1/2)

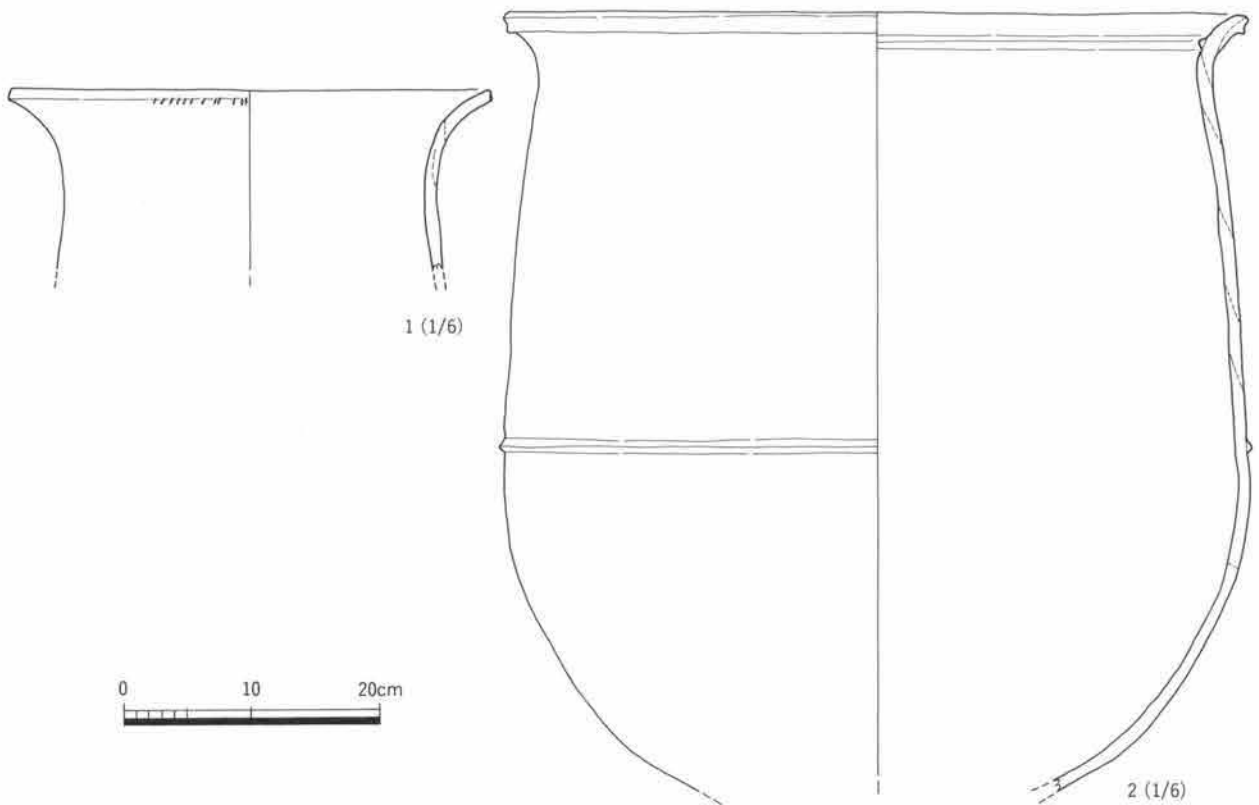
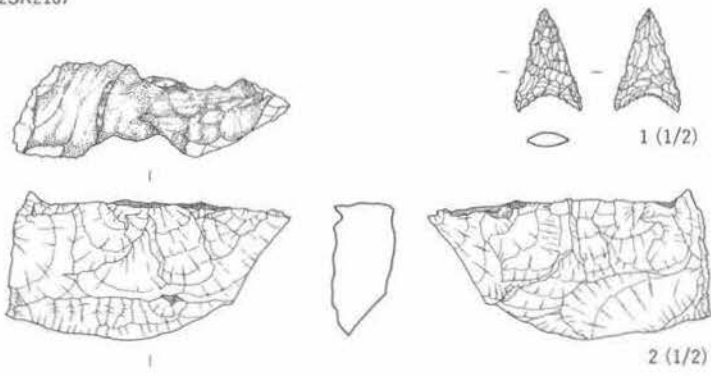


Fig.194 2SK2166出土遺物実測図 (1/6)

2SK2167



2SK2168

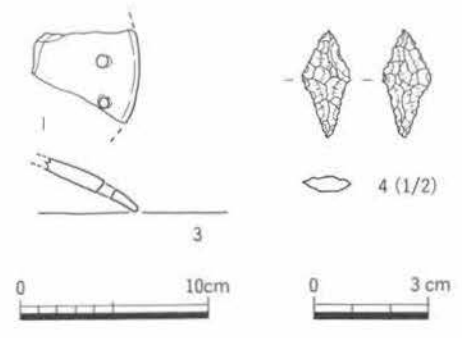


Fig.195 2SK2167・2SK2168出土遺物実測図 (1/4・1/2)

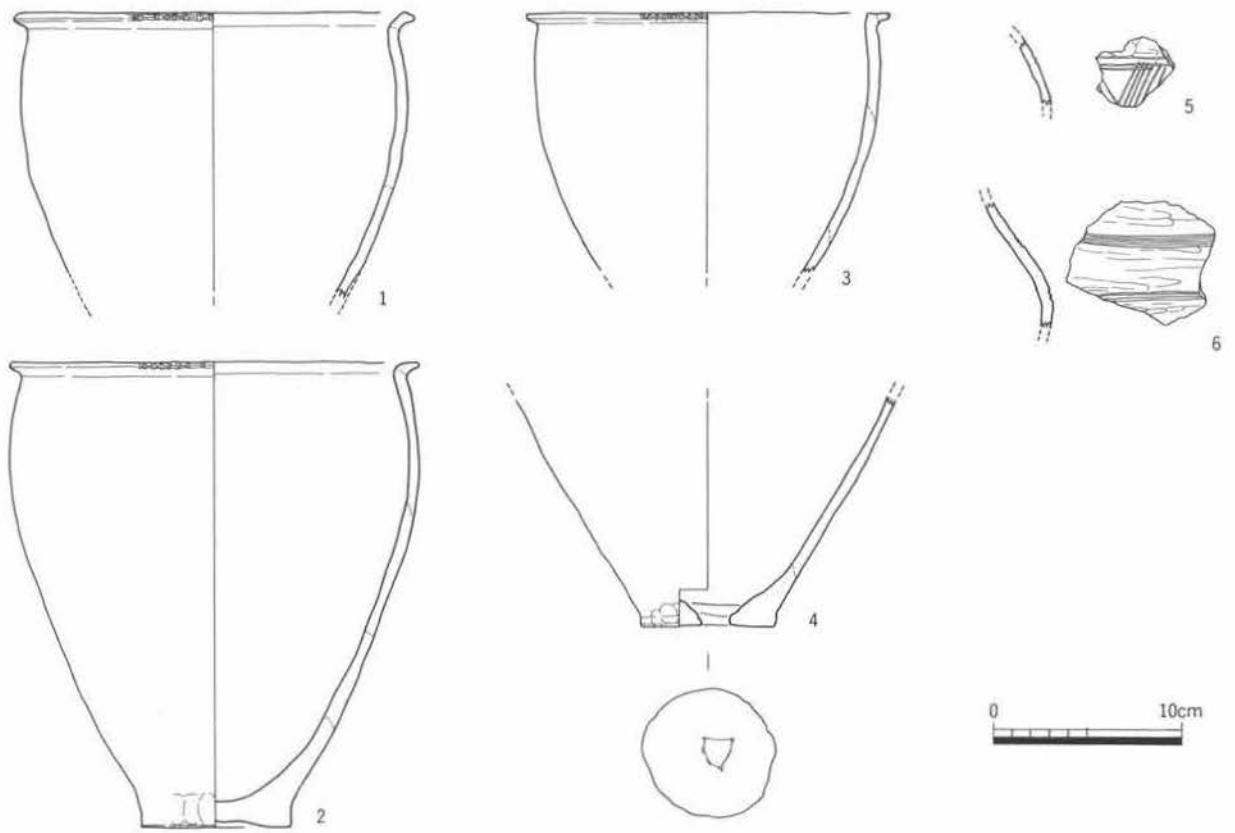
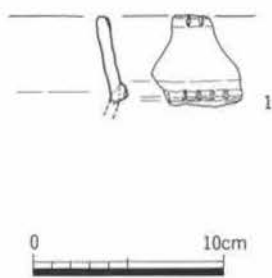


Fig.196 2SK2172出土遺物実測図 (1/4)

2SK2173



2SK2174

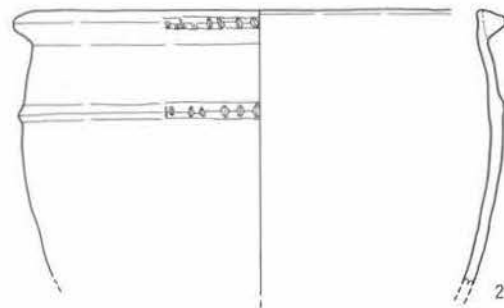


Fig.197 2SK2173・2SK2174出土遺物実測図 (1/4)

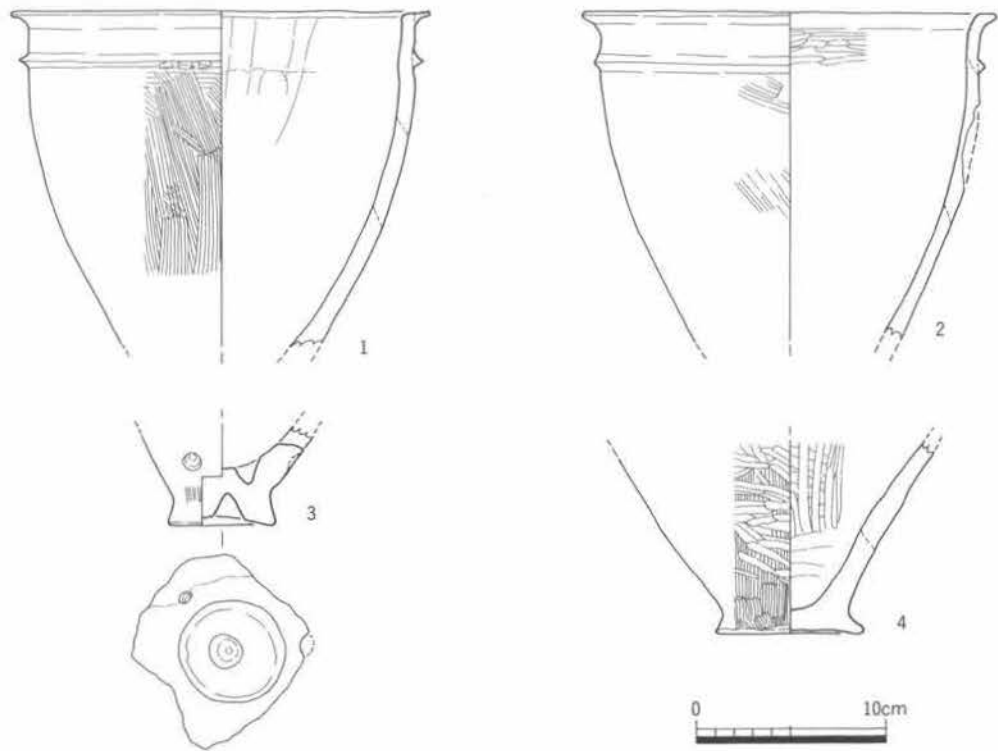


Fig.198 2SK2180出土遺物実測図 (1/4)

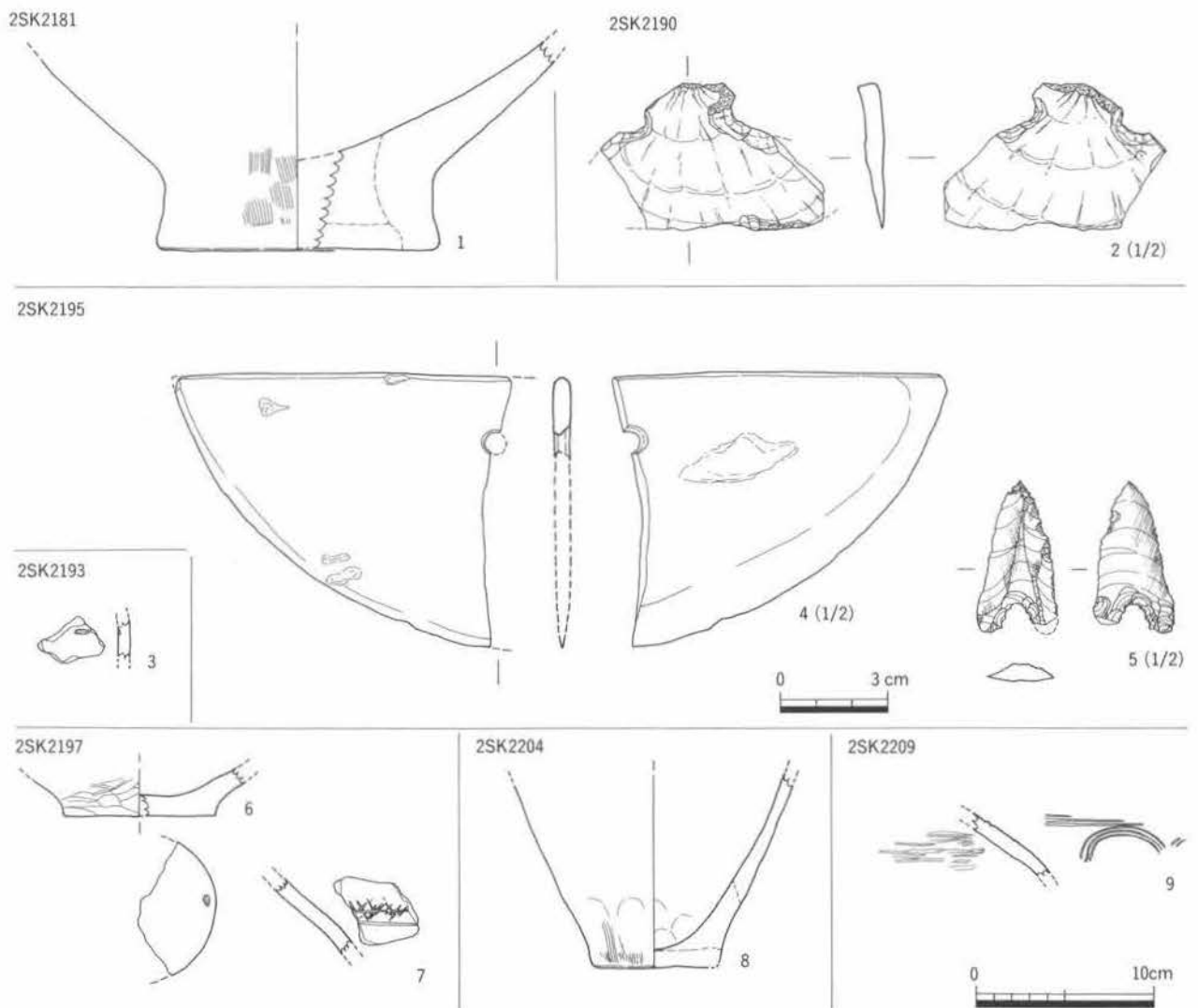


Fig.199 2SK2181・2SK2190・2SK2193・2SK2195・2SK2197  
 ・2SK2204・2SK2209出土遺物実測図 (1/4・1/2)



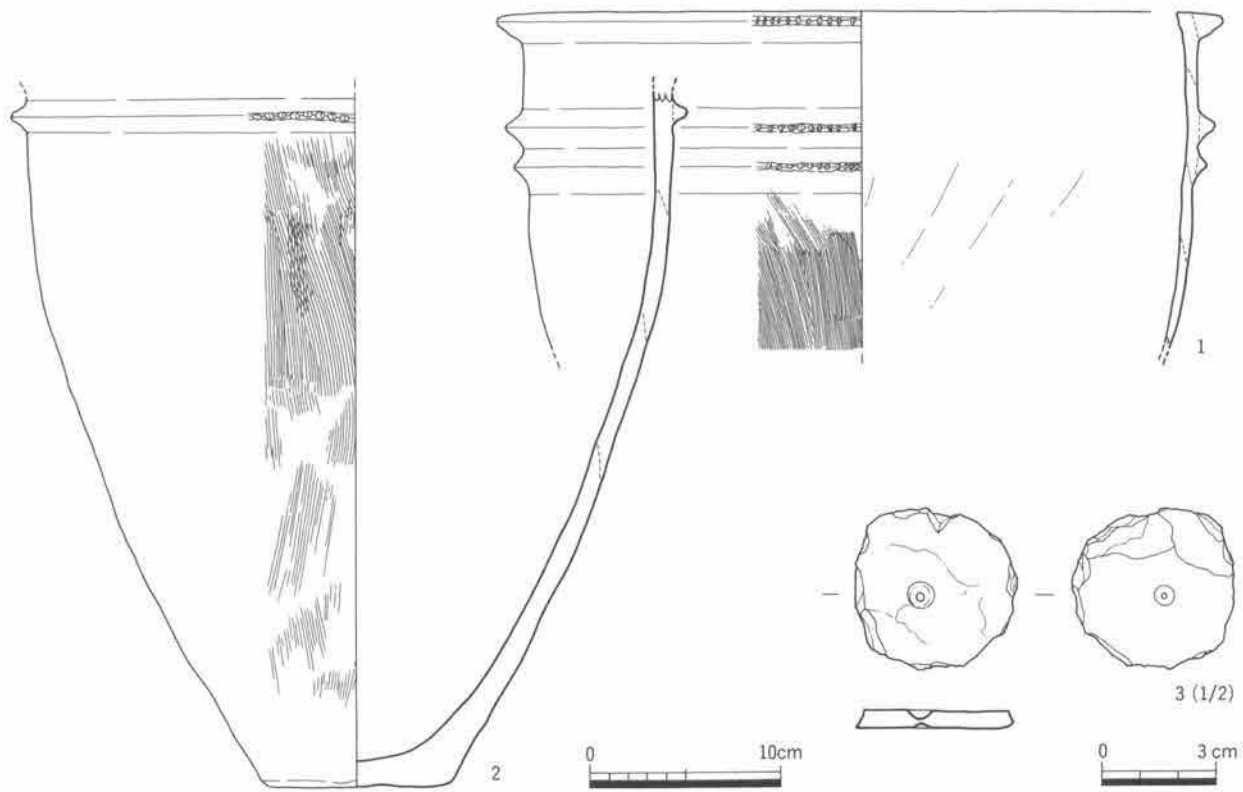


Fig.200 2SK2205出土遺物実測図 (1/4・1/2)

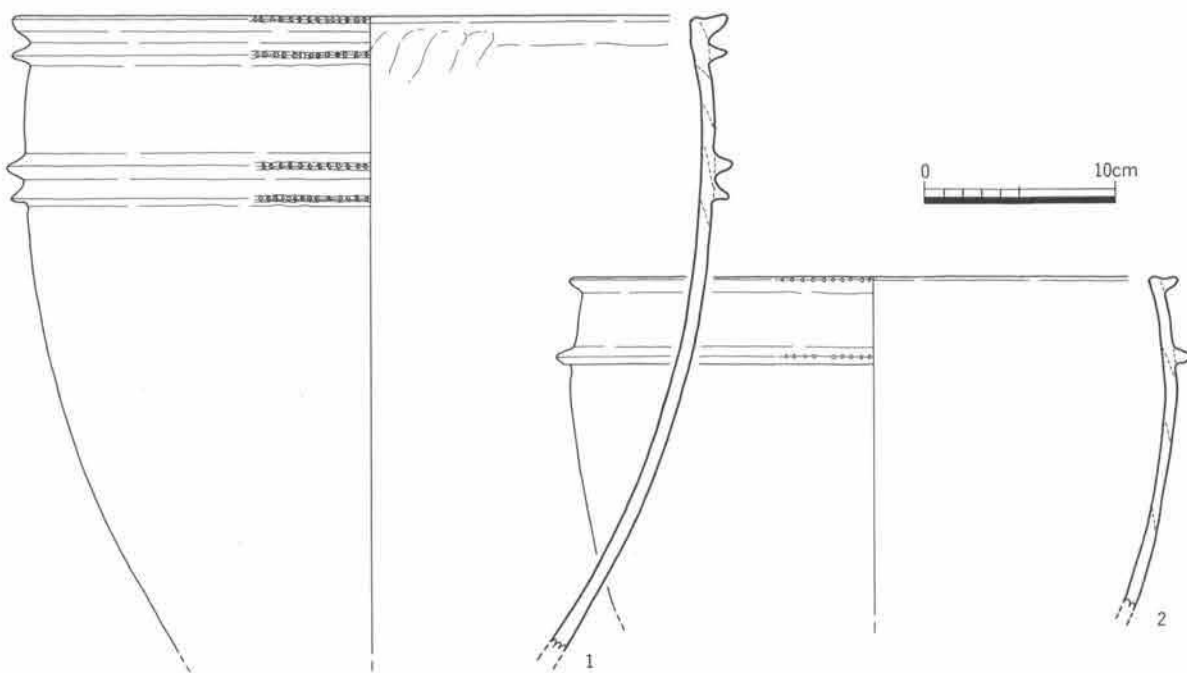


Fig.201 2SK2210出土遺物実測図 (1/4)

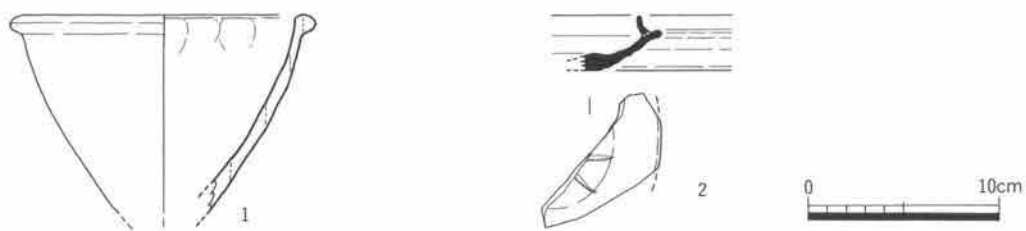
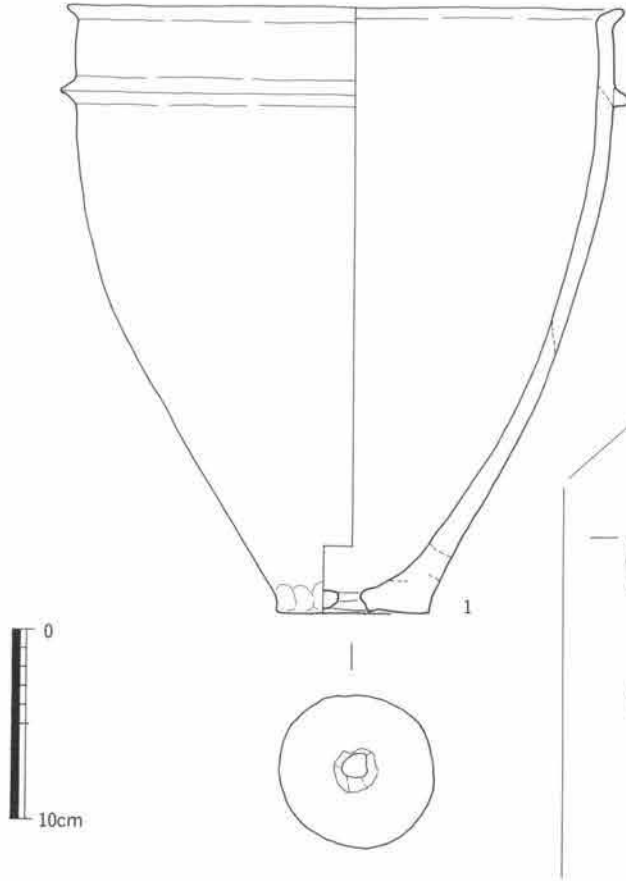


Fig.202 2SK2212出土遺物実測図 (1/4)

2SK2220



2SK2224



2SK2230

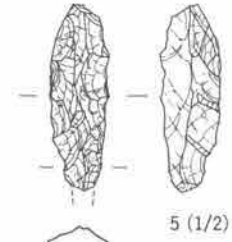
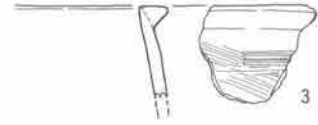


Fig.203 2SK2220・2SK2224・2SK2230出土遺物実測図 (1/4・1/2)

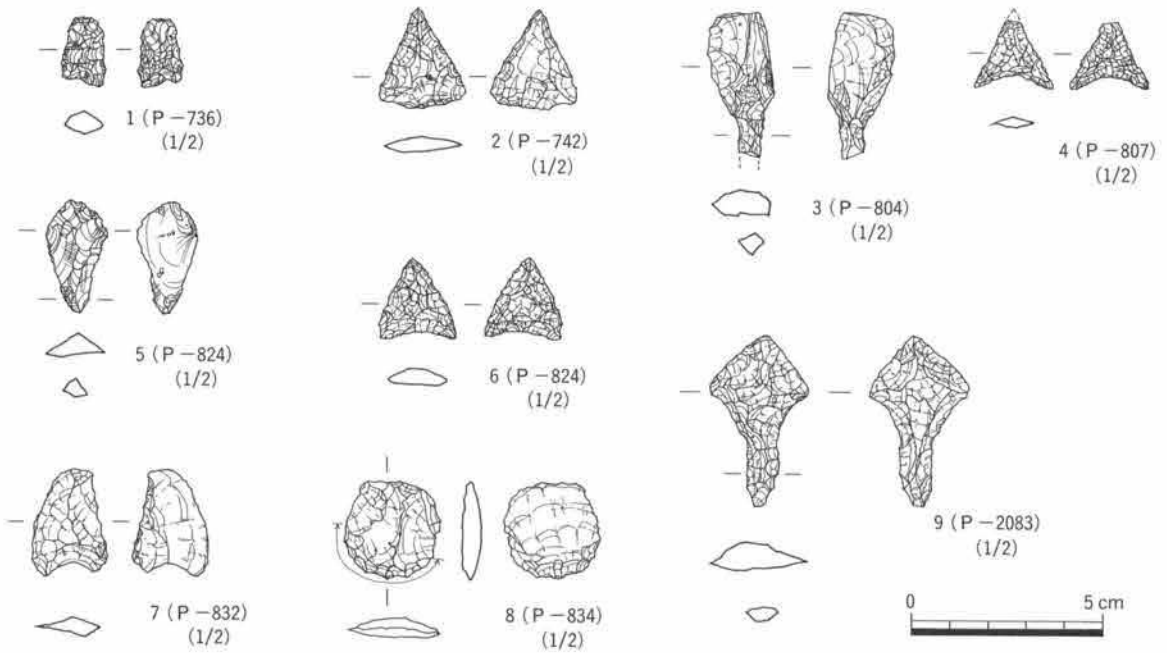


Fig.204 2SI2300出土遺物実測図 (1/2)

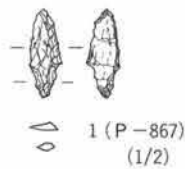
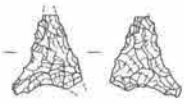
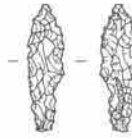


Fig.205 2SI2310出土遺物実測図 (1/2)

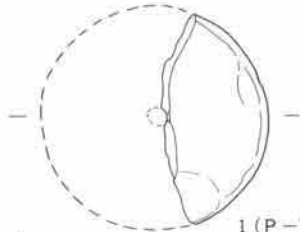
2SI2320



2 (P-719)  
(1/2)



3 (P-722)  
(1/2)



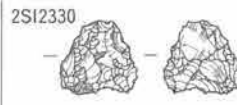
1 (P-709)  
(1/2)



5 (P-995)



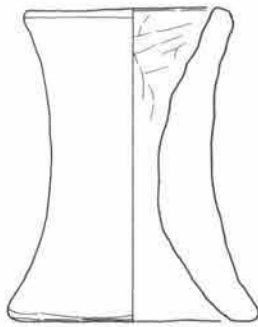
6 (P-995)  
(1/2)



2SI2330  
4 (P-870)  
(1/2)



Fig.206 2SI2320・2SK2330出土遺物実測図 (1/2・1/4)



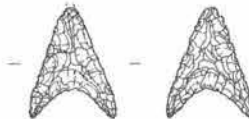
1



2 (1/2)



3 (1/2)



4 (1/2)



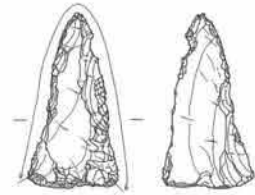
II層



5 (1/2)

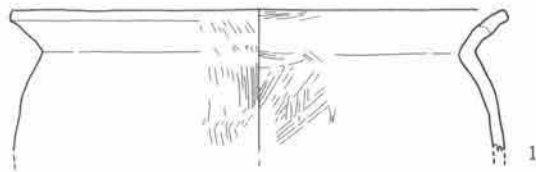


P-893

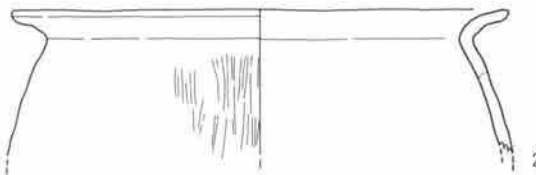


6 (1/2)

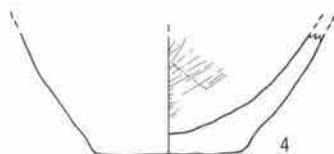
Fig.207 2SI0606出土遺物実測図 (1/4・1/2)



1



2



4



3



Fig.208 2SI0608出土遺物実測図① (1/2)

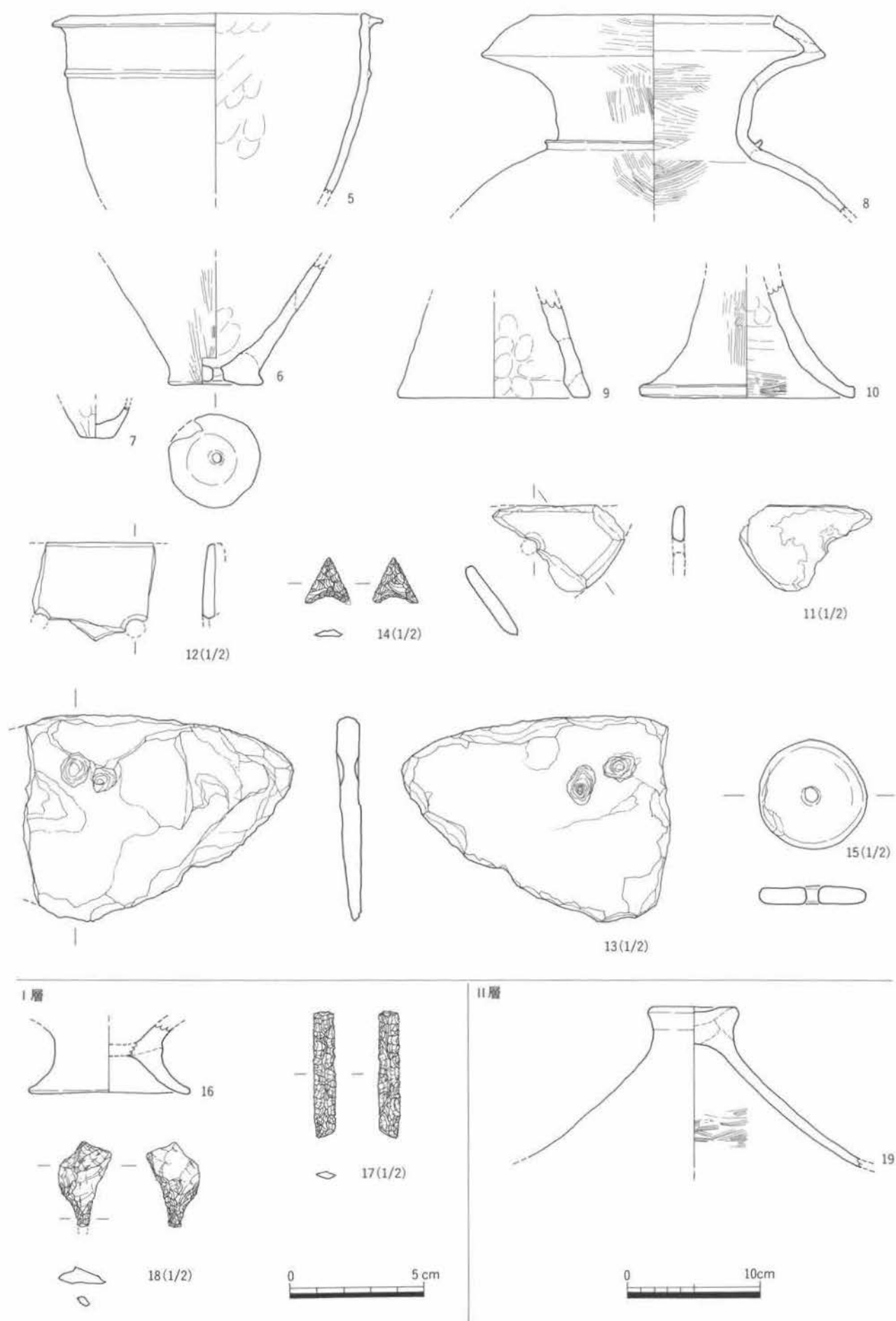


Fig.209 2SI0608出土遺物実測図② (1/4・1/2)

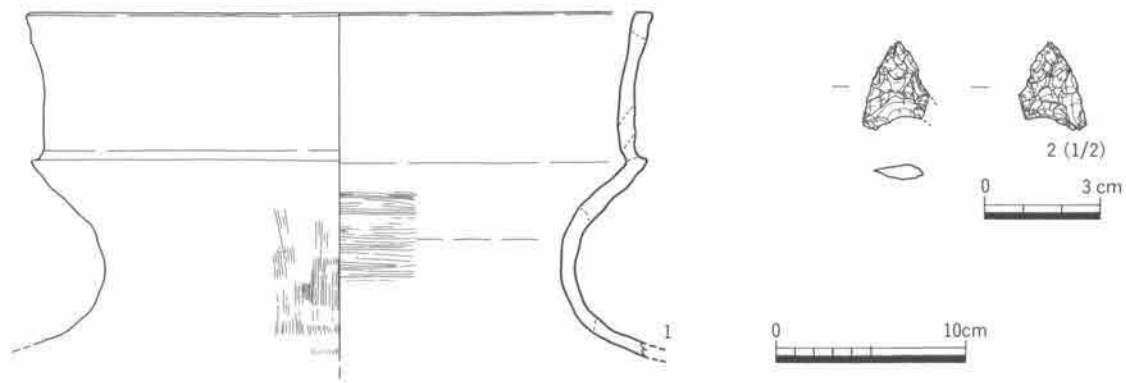


Fig.210 2SI0609出土遺物実測図 (1/4・1/2)

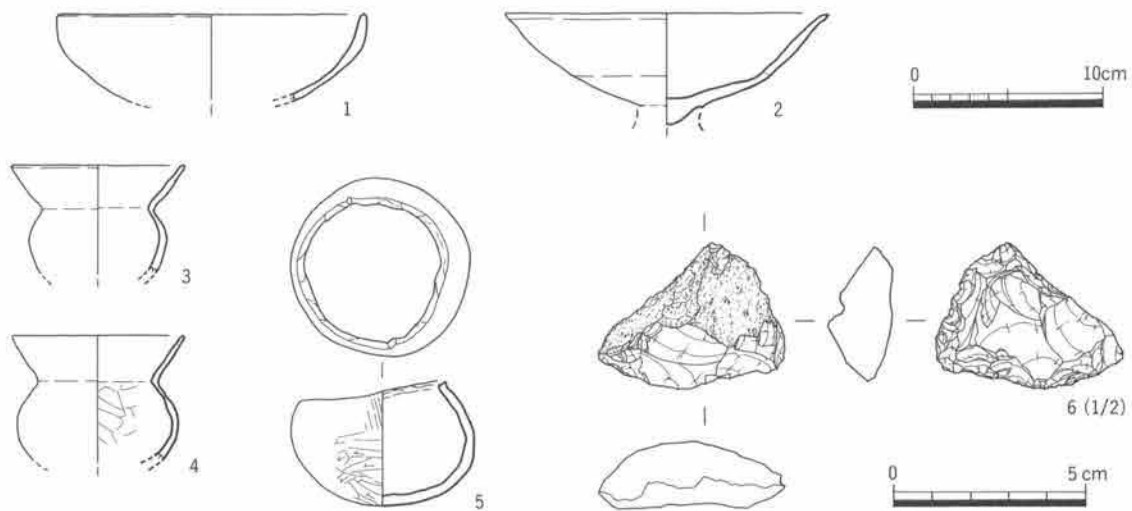


Fig.211 2SI0688出土遺物実測図 (1/4・1/2)



Fig.212 2SI0750出土遺物実測図 (1/4)

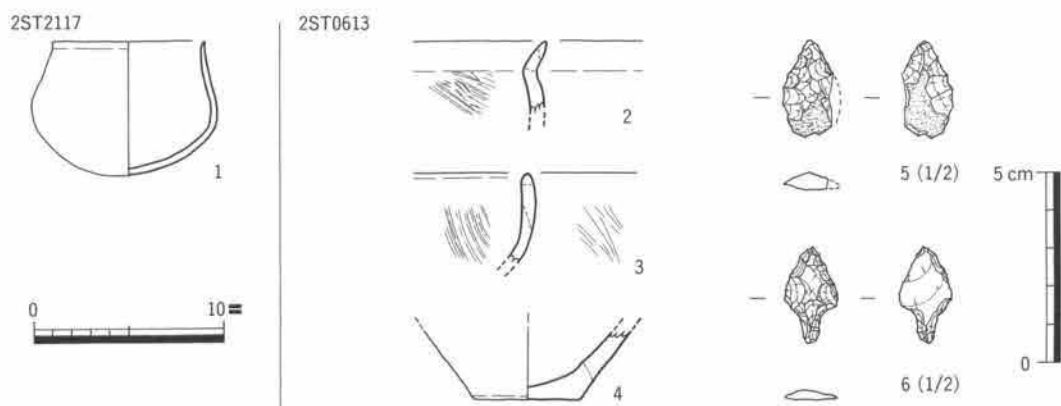


Fig.213 2ST2117・2ST0613出土遺物実測図 (1/4・1/2)

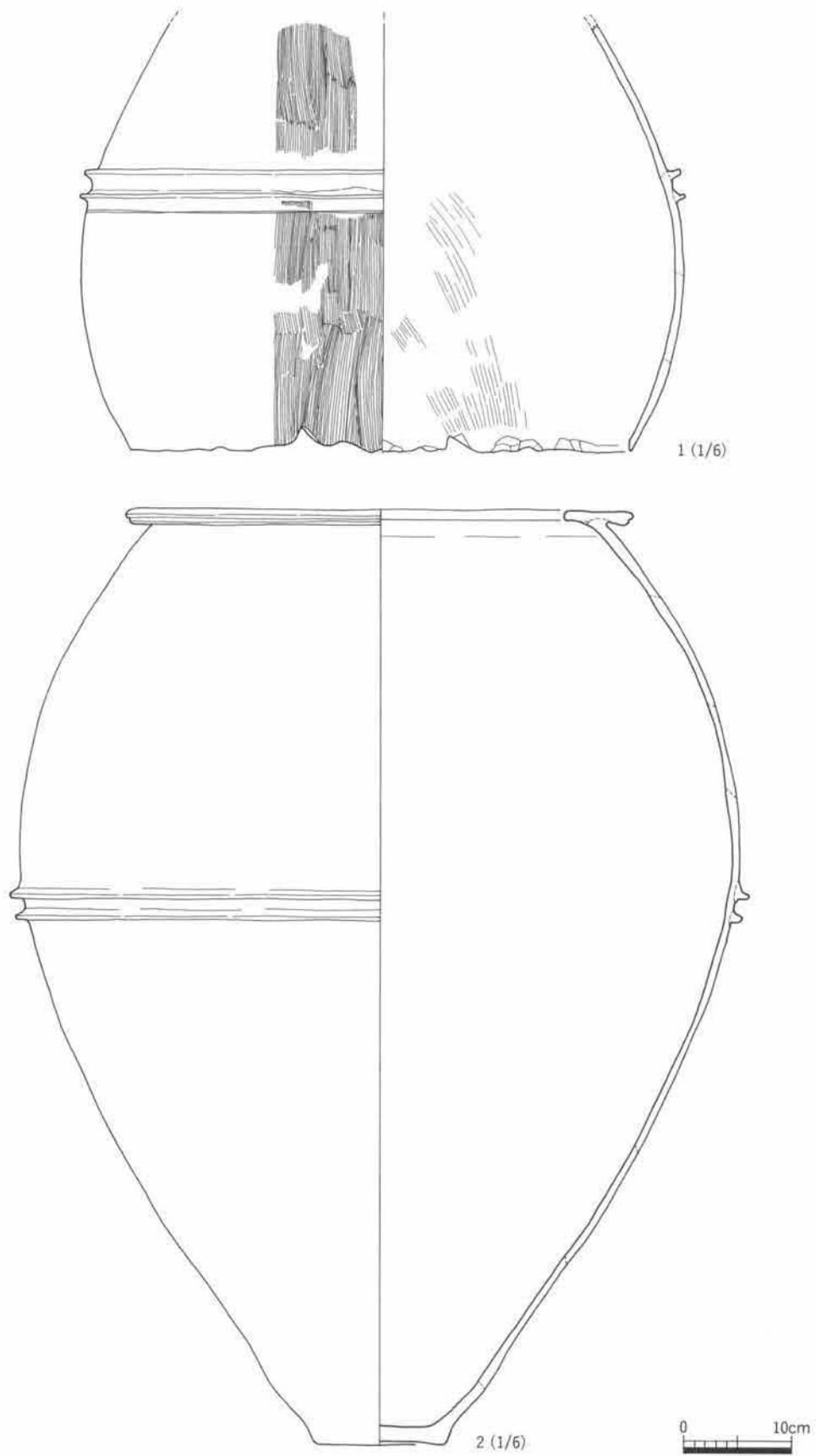


Fig.214 2ST0879出土遺物実測図① (1/6)

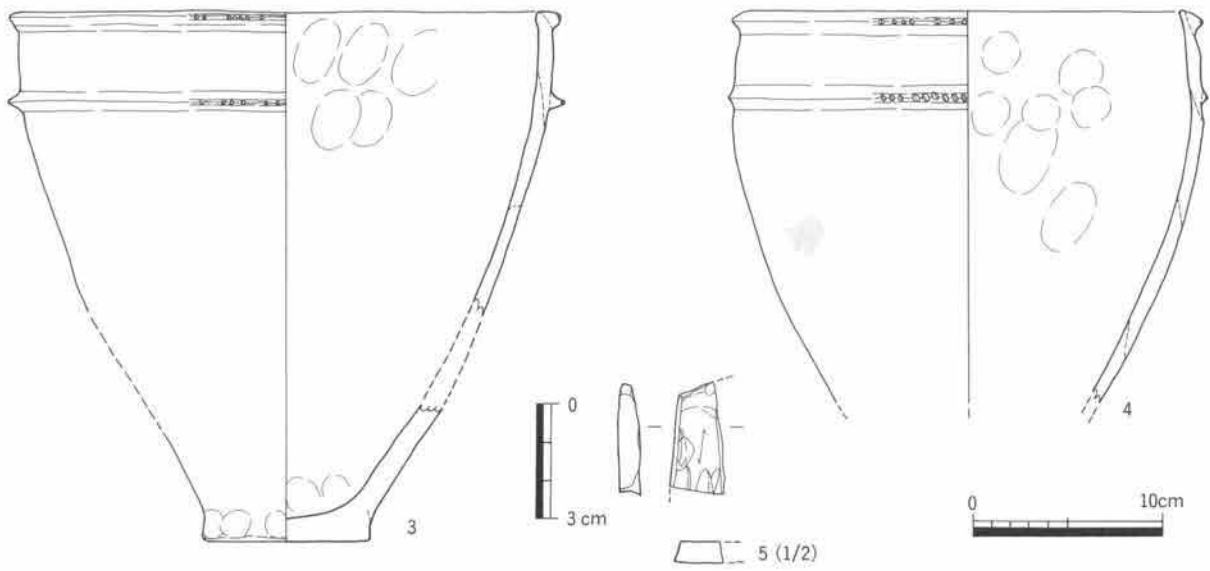


Fig.215 2ST0879出土遺物実測図② (1/4・1/2)

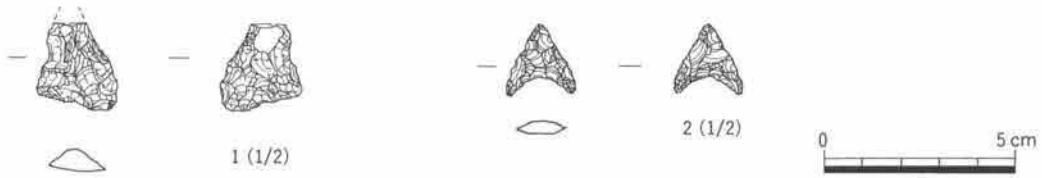


Fig.216 2ST0880出土遺物実測図① (1/2)



Fig.217 2ST2000出土遺物実測図 (1/6)

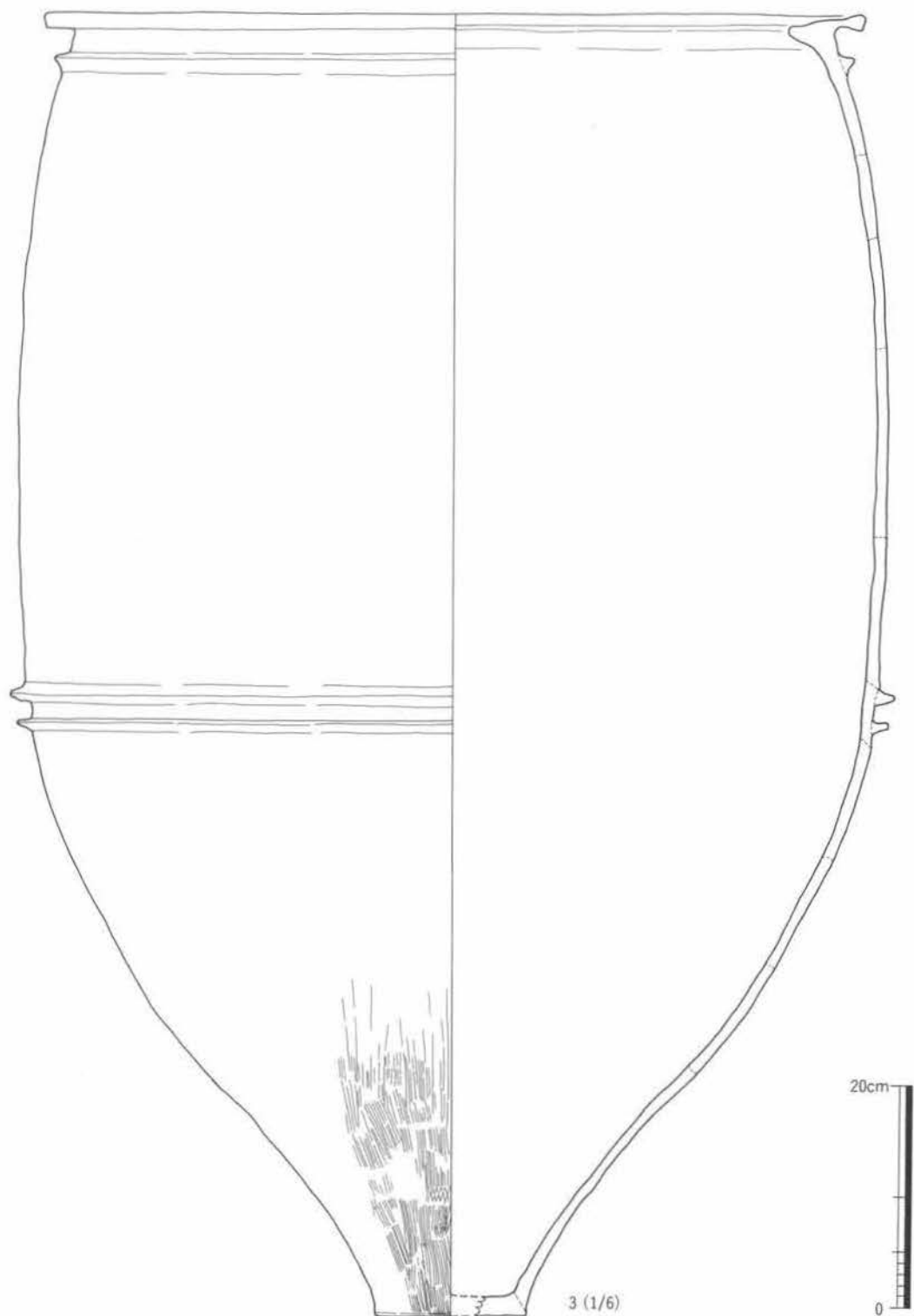


Fig.218 2ST0880出土遺物実測図② (1/6)



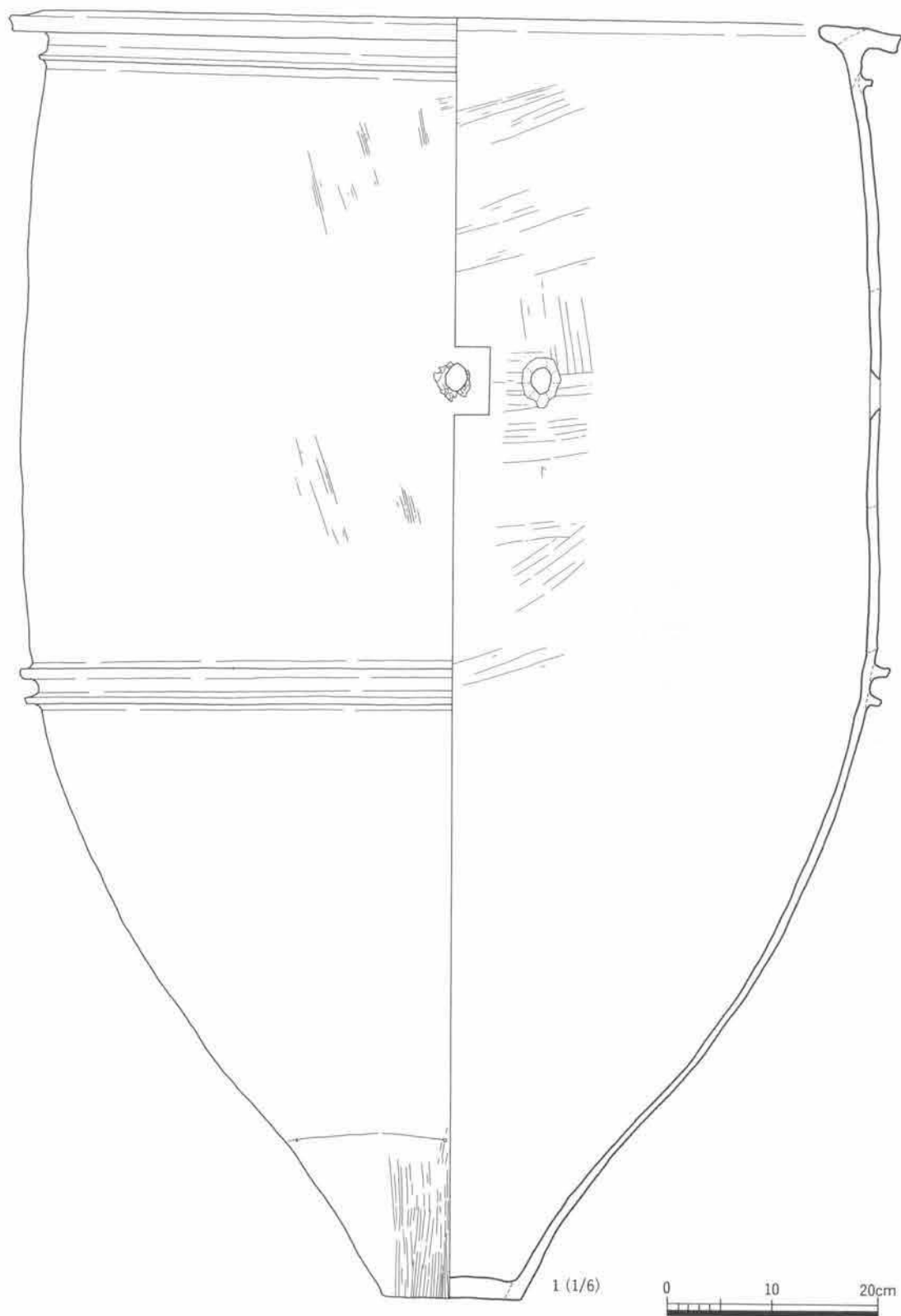


Fig.219 2ST2503出土遺物実測図① (1/6)

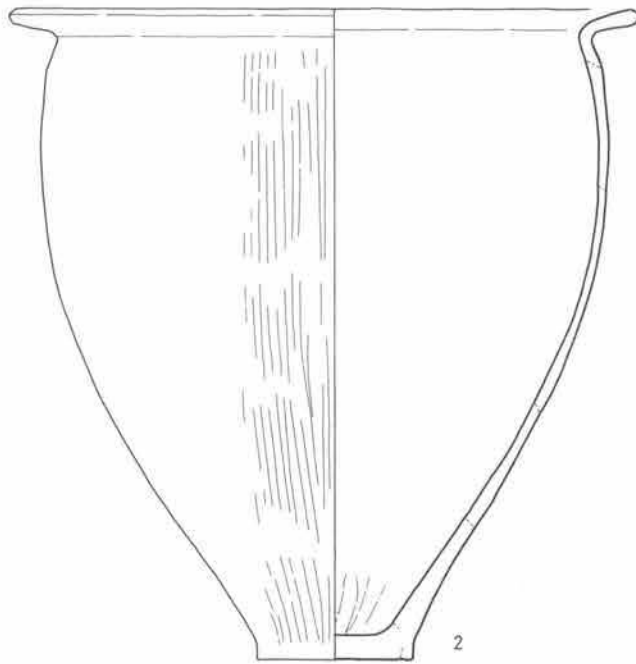


Fig.220 2ST2503出土遺物実測図② (1/4)

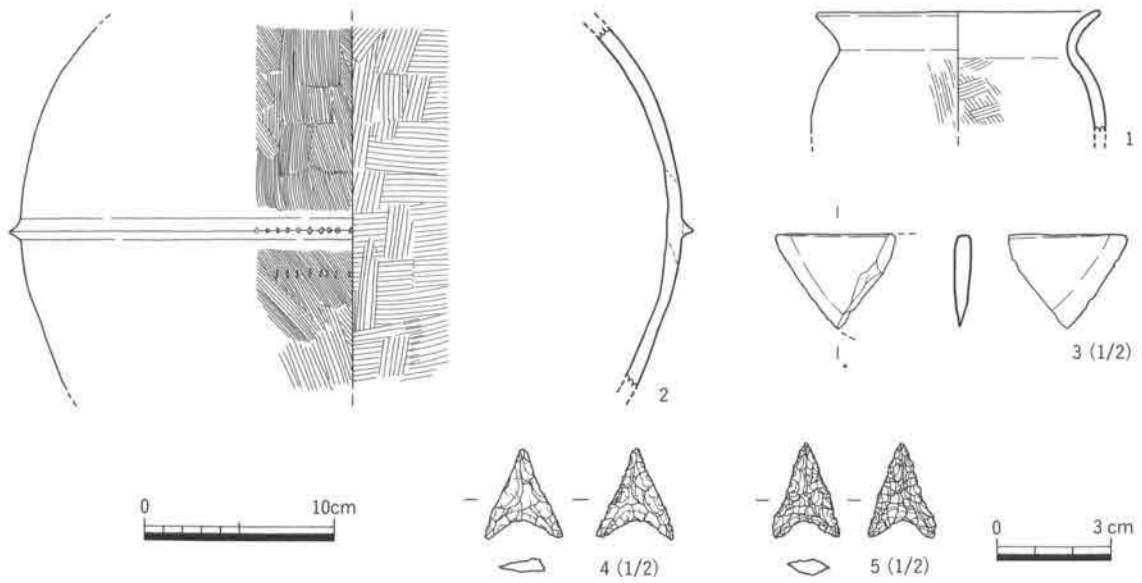


Fig.221 2SX0371出土遺物実測図 (1/4・1/2)

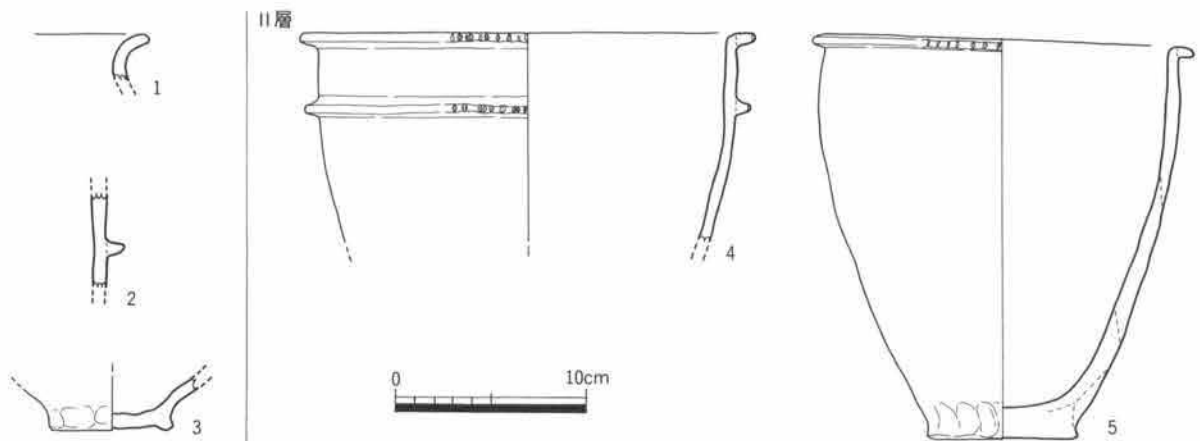


Fig.222 2SD0323出土遺物実測図 (1/4)

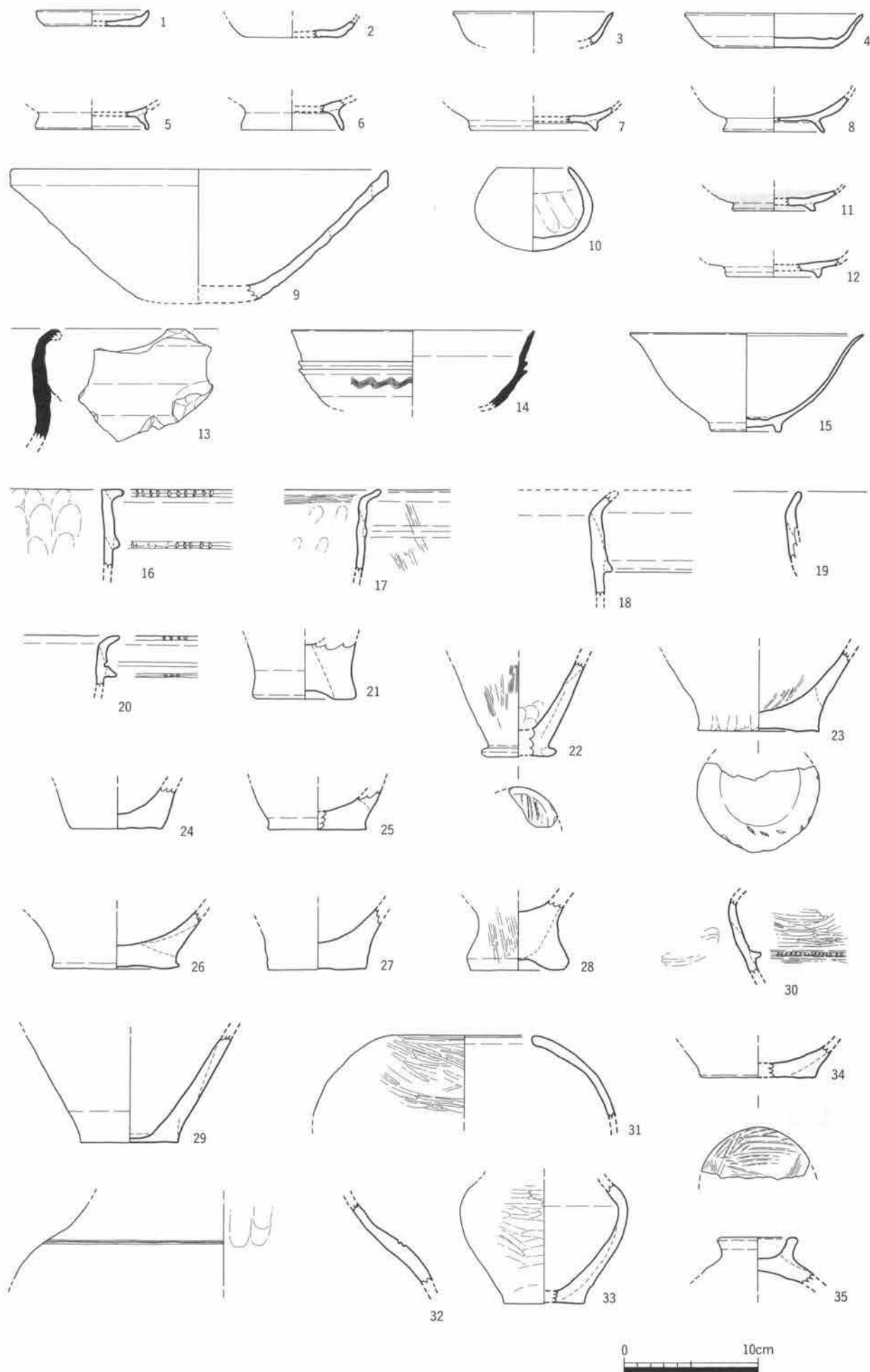


Fig.223 2SD0362出土遺物実測図① (1/4)

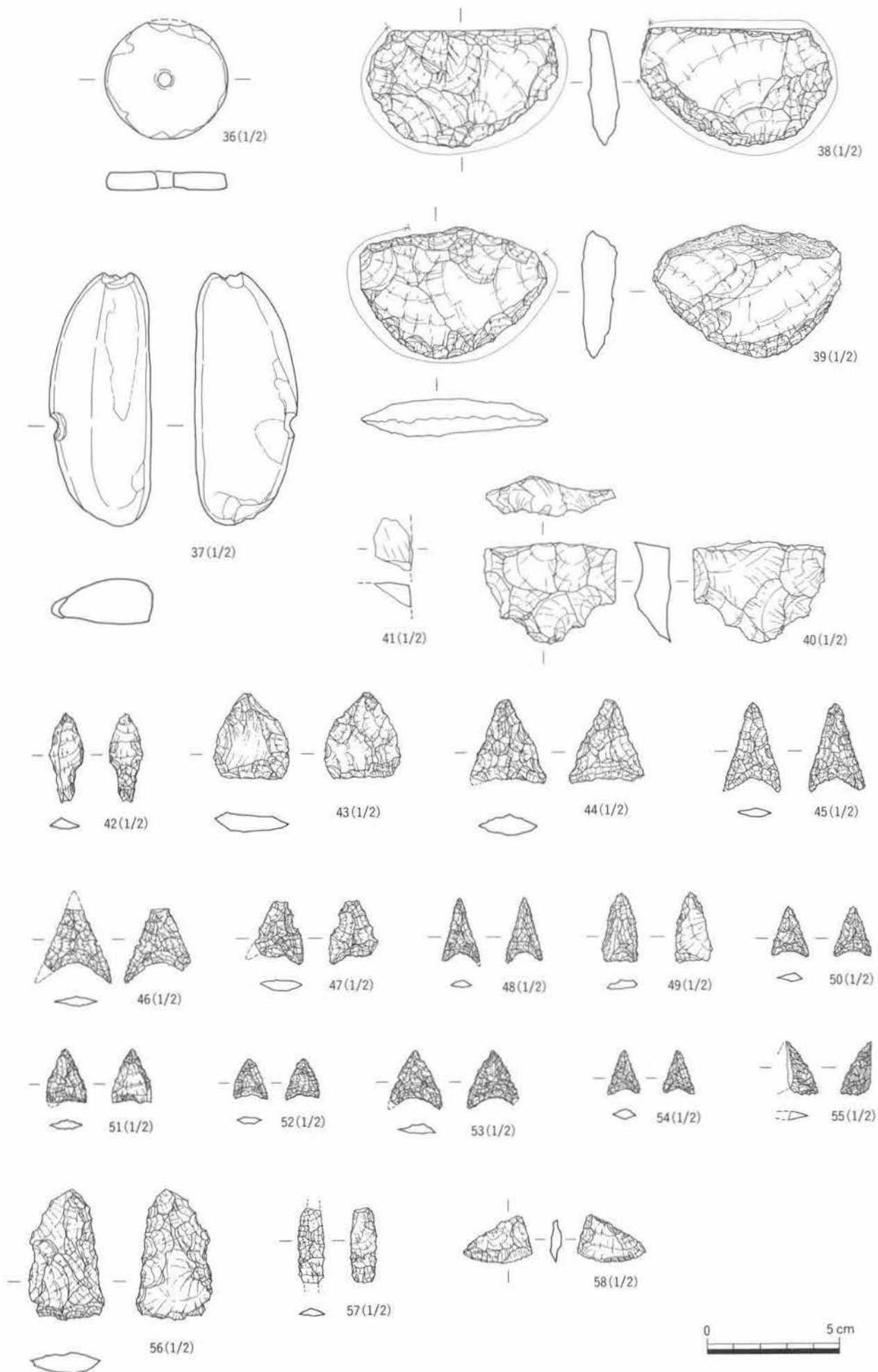


Fig.224 2SD0362出土遺物実測図② (1/2)

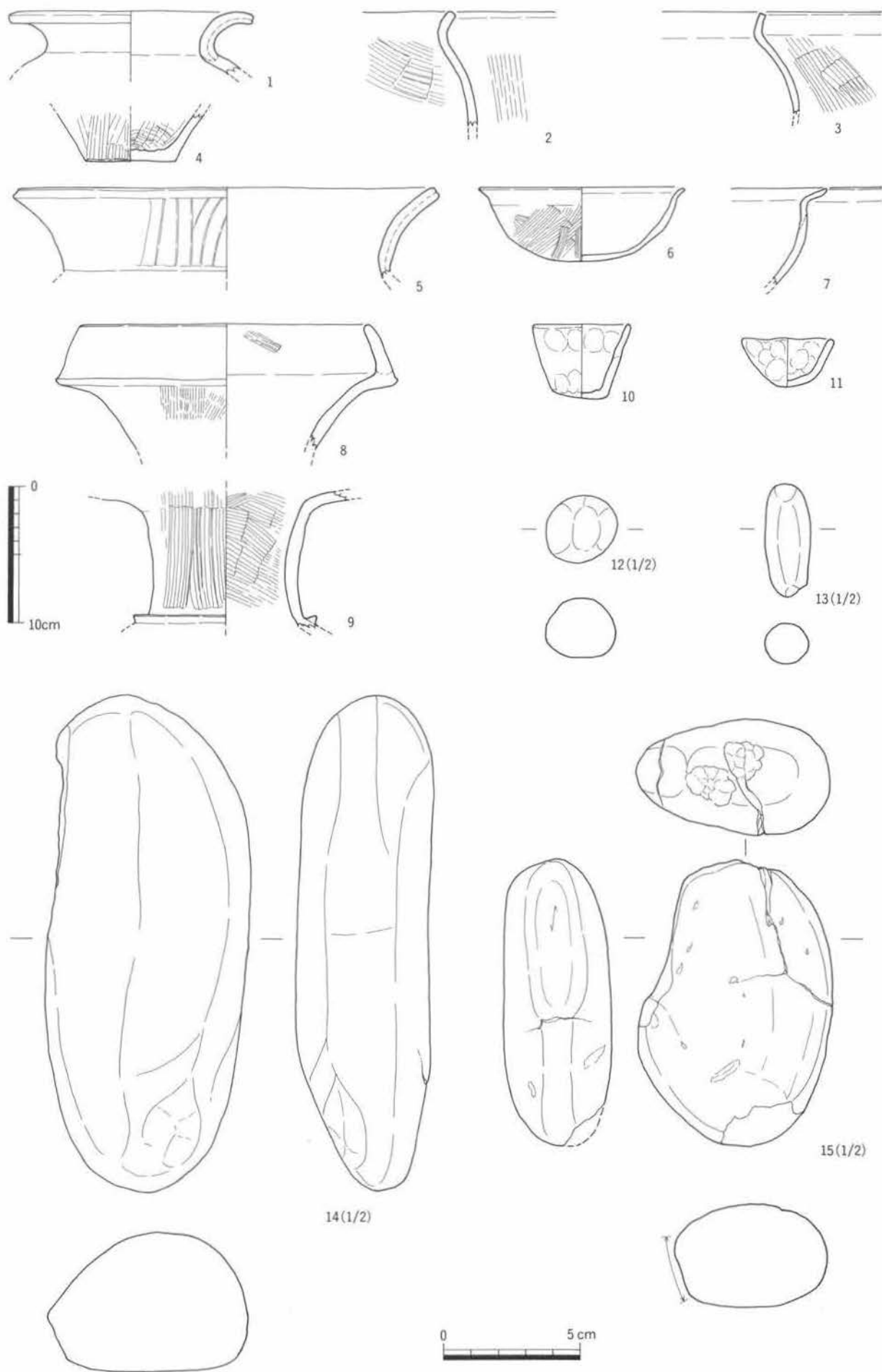


Fig.225 2SD0528出土遺物実測図① (1/4・1/2)

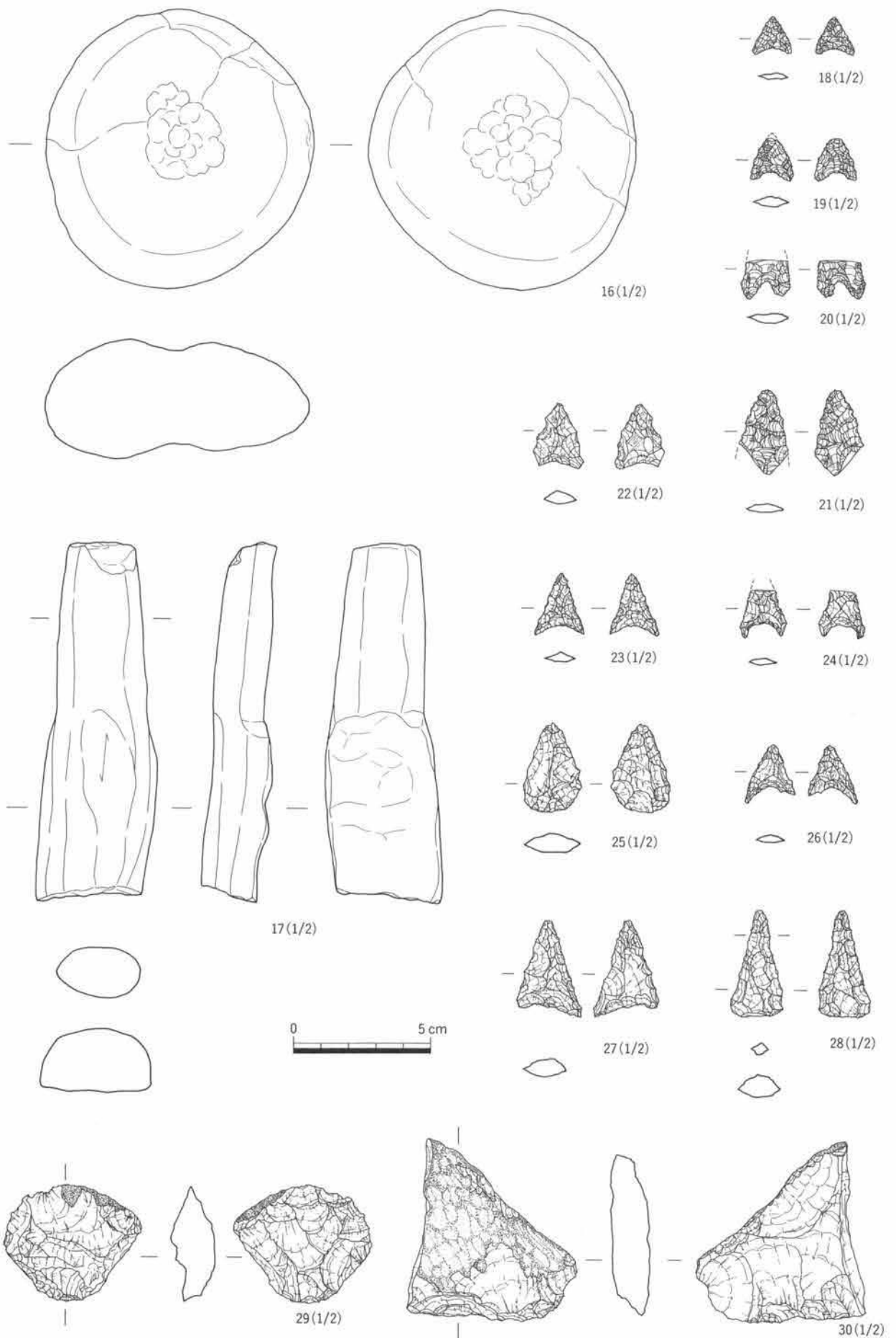


Fig.226 2SD0528出土遺物実測図② (1/2)

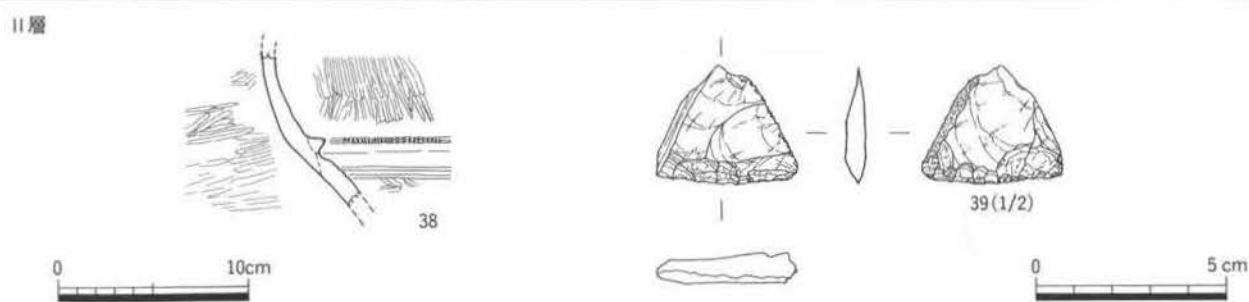
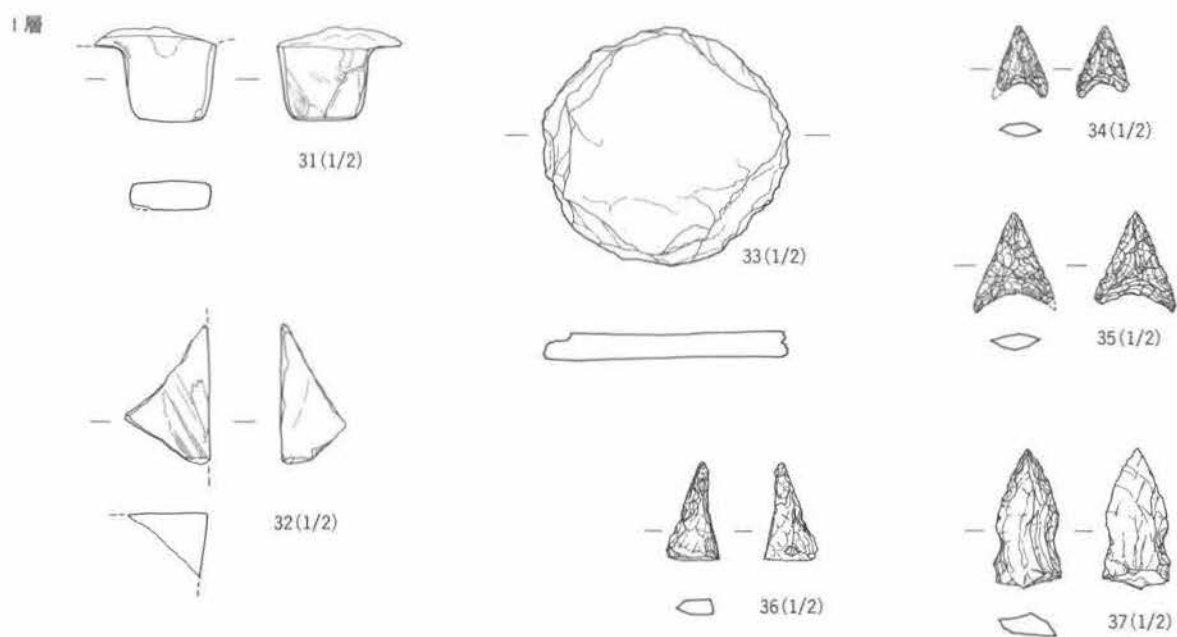


Fig.227 2SD0528出土遺物実測図③ (1/2・1/4)

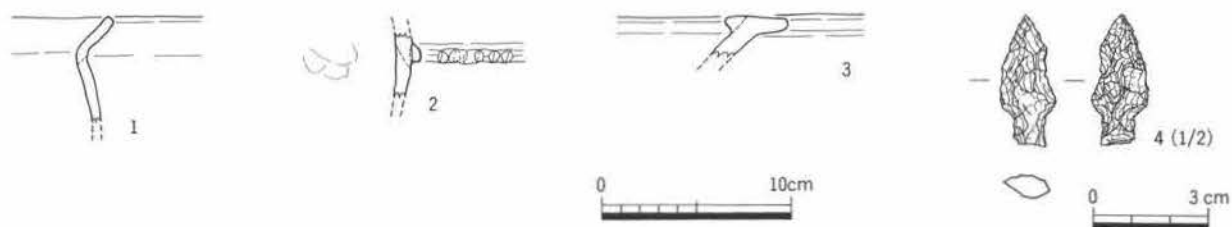


Fig.228 2SD0663出土遺物実測図 (1/4・1/2)

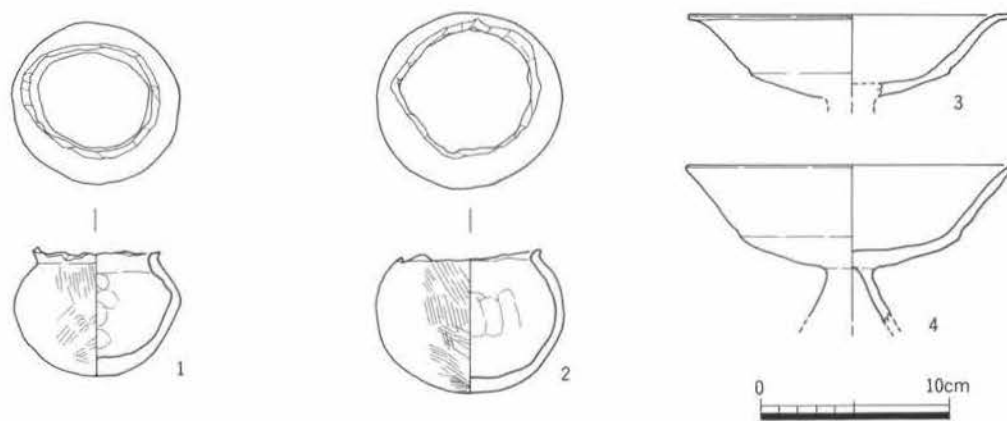


Fig.229 2SD0695出土遺物実測図 (1/4)

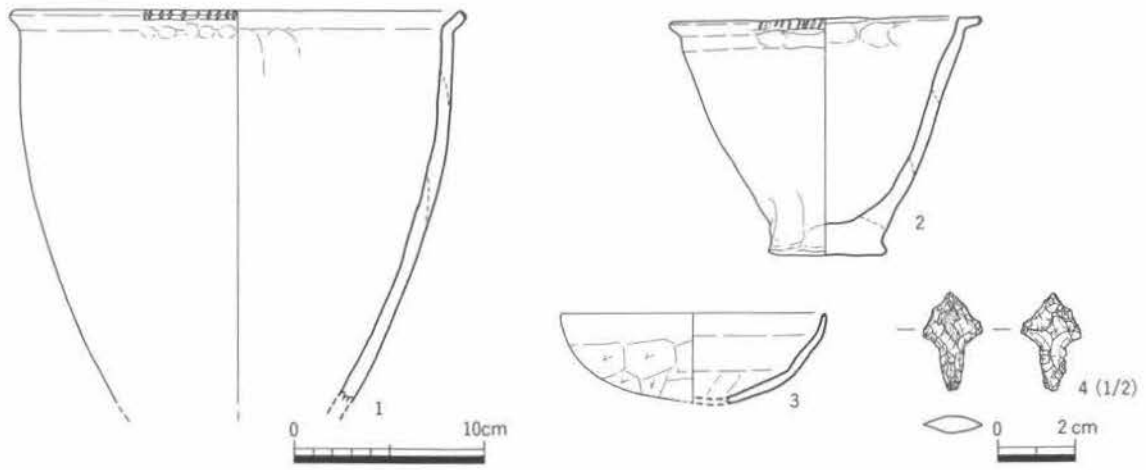


Fig.230 2SD0702出土遺物実測図 (1/4・1/2)

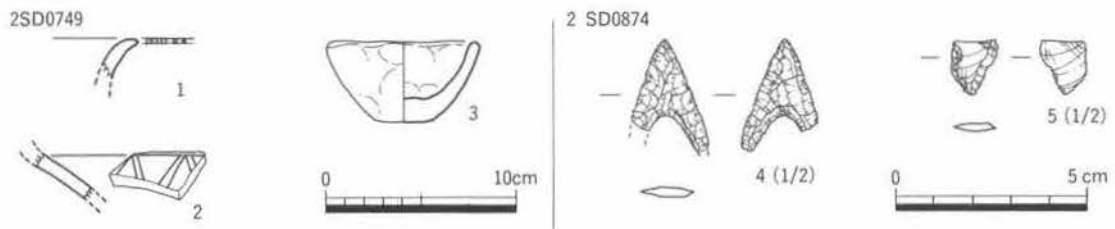


Fig.231 2SD0749・2SD0874出土遺物実測図 (1/4・1/2)



Fig.232 2SE0668出土遺物実測図 (1/4)

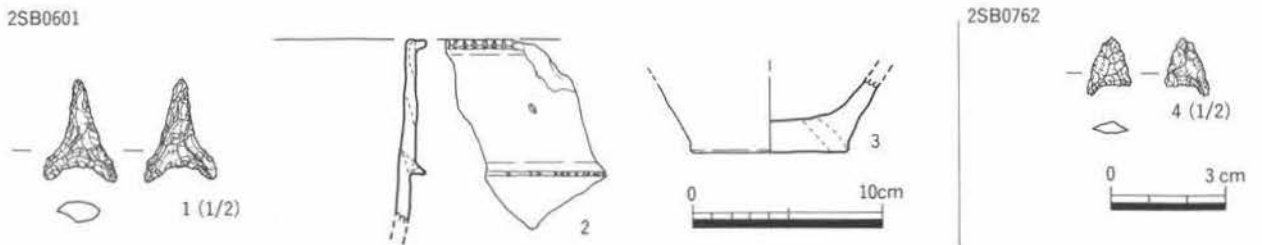


Fig.233 2SB0601・2SB0762出土遺物実測図 (1/2・1/4)

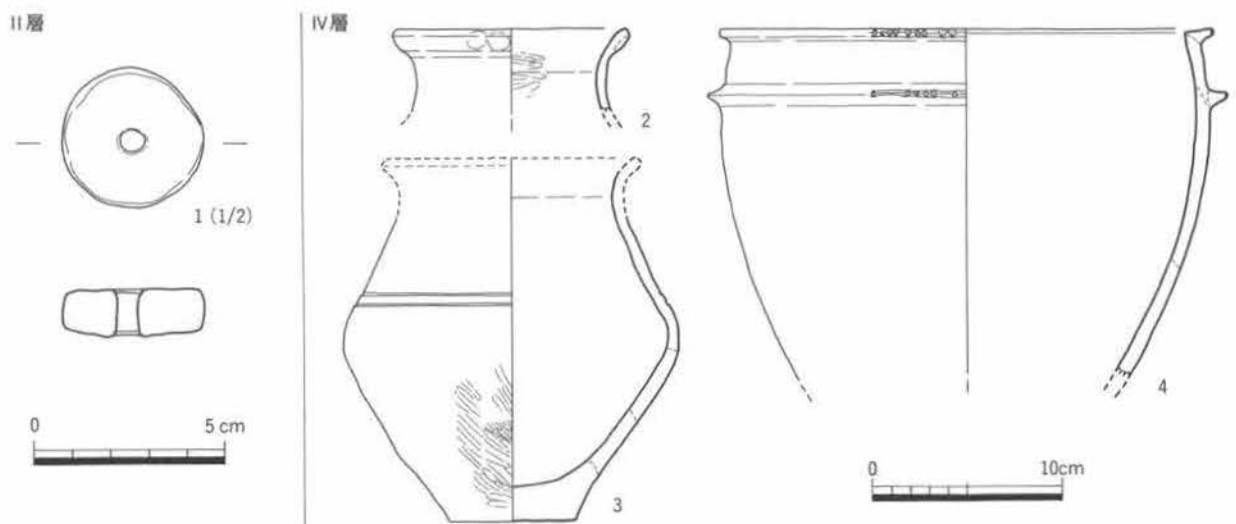


Fig.234 2SK0582出土遺物実測図 (1/2・1/4)



2SK2195出土遺物 (Fig.199・Pla.150)

4は石包丁で、石材は片岩である。大型の半円形のもので、刃部は明瞭な両刃偏刃である。

2SK2197出土遺物 (Fig.199・Pla.135)

6は壺底部である。外底面に初圧痕が1ヶ所認められ、芒かと思われる圧痕もみえる。

2SK2212出土遺物 (Fig.202・Pla.136)

2は須恵器の坏である。蓋の受けが付く類型で、外底面に篋記号がある。

2SI0608出土遺物 (Fig.208・209・Pla.136・137・151)

11は粘板岩製の石包丁である。やや端に偏った部分での観察であるが、刃部は比較的明瞭な両刃偏刃である。

2SI0688出土遺物 (Fig.211・Pla.137・151)

5は土師器の小型丸底壺である。体部は完存するが、口縁部はすべて打ち欠いている。

2ST0879出土遺物 (Fig.214・215・Pla.138・152)

1は上甕である。口縁部は下甕との口を合わせるためか、打かかっている。胴部のやや下位に2条の凸帯を貼付ける。2は下甕。口縁部は大きく窄まり鋏先状としている。上面は平坦である。KⅢa(註3)か。5は扁平片刃石斧である。石材は粘板岩である。

2ST2000出土遺物 (Fig.217・Pla.138)

1は甕棺である。丸みを帯びた器形が特徴の棺体で、胴部に凸帯を2条貼付ける。

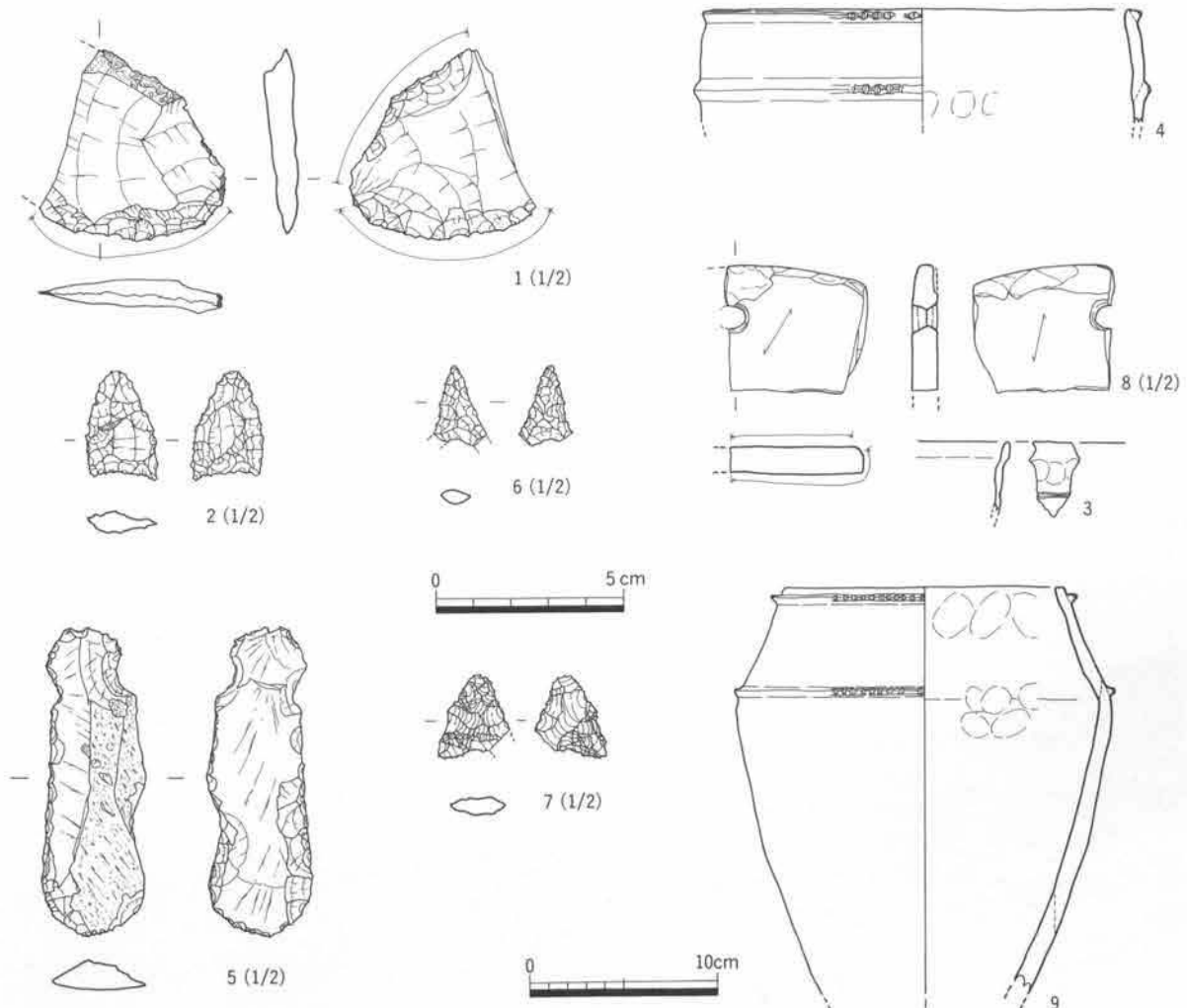


Fig.235 小穴・不明遺構出土遺物実測図 (1/2・1/4)

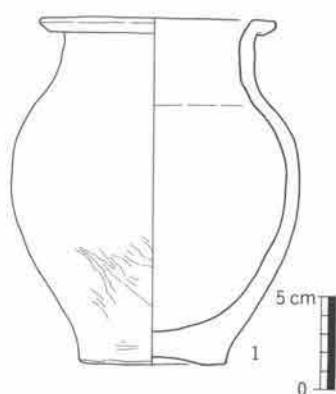


Fig.236 その他の  
出土遺物実測図 (1/4)

貼り足している。

2ST2503出土遺物 (Fig.219・220・Pla.138)

1は甕棺である。断面がT字形となる典型的な鋏先状口縁で、口縁部下に1条、胴部に2条の凸帯を貼付ける。体部のやや上位には1ヶ所穿孔が見られるが、内外両面から穿っているようである。底部に近い体部外面には沈線があるが、全周の1/6程の延長しかない。また、描画は自由略直線である。

2SX0371出土遺物 (Fig.221・Pla.152)

3は結晶片岩製の石包丁である。端部に近い部分での観察であるが、刃部は両刃偏刃である。

2SD0362出土遺物 (Fig.223・224・Pla.138・139・153・160)

13は須恵器の甕である。体部に把手の剥落した痕跡かと思われるものがある。22は甕の底部としたが、蓋かもしれない。底部の周囲に粘土を

2SD0528出土遺物 (Fig.225・226・227・Pla.139・154・156・159・160・161)

17は特殊な形状だが、砥石か。石材は砂岩である。31は磨製石剣の基部である。石材は粘板岩で、丁寧に研磨されている。

2SD0695出土遺物 (Fig.229・Pla.140)

1・2は土師器の小型丸底壺である。体部は完存するが、口縁部はすべて打ち欠かされている。

2SB0601出土遺物 (Fig.233・Pla.140・155)

2は甕である。口縁部と胴部に刻目凸帯を貼付ける。2条の凸帯の間の外面に初圧痕が1ヶ所残る。

2SP2219出土遺物 (Fig.235・Pla.155)

8は粘板岩製の石包丁である。破片を砥石に転用している。携帯用砥石として使用したものか。

2SP2220出土遺物 (Fig.235・Pla.140)

9は凸帯文土器の甕である。体部はやや丸みを帯びるが、粘土の接合は外傾接合である。

その他の出土遺物 (Fig.236・Pla.140)

1は完形の小型壺である。短く直立する頸部に水平まで屈曲させた小さな口縁がつく。器面はナデおよび磨きで丁寧に調整されている。

註1 久留米市教育委員会 富永直樹氏の御教示による。

註2 分類の出典は次のとおり。 森田勉・横田賢次郎「大宰府出土の輸入中国陶磁器について—形式分類と編年を中心として—」『九州歴史資料館研究論集4 1978』所収

註3 分類の出典は次のとおり。 橋口達也「甕棺の編年的研究」『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告—X X I— 福岡県教育委員会 1979』所収



降雪に見舞われた調査区

Fig.	No.	遺構	番号	層位	種類	部類	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	口縁部	内外面	底内面	底外面	色 調	胎土	含有粒子	施装	口縁部 形状	口縁部 凸部	胴部凸部	備 考	頁-No.
47	1	25X	0300		弥生	甕	38.0			口縁部 1/10	横ナゲ	横ナゲ	ナゲ		赤褐色	砂粒多量	黄	やや丸	凸帯幅付	1条 浅い刻目	2条 浅い刻目		1
47	2	25X	0300		弥生	甕				口縁部 横片	横ナゲ	横ナゲ	ナゲ		赤褐色	砂粒少	黄	凸帯幅付	1条 刻目有	1条 刻目有		2	
47	3	25X	0300		弥生	甕	8.0			底面のみ	刷毛	工具ナゲ	ナゲ	ナゲ	黄	砂粒 やや少		良				底面に刻目3箇所 Fig. 7. 3cm - Fig. 7. 3cm	3
47	4	25X	0300		弥生	甕	6.0			底面 1/4	不明	不明	不明	不明	赤褐色	砂粒多		不良					4
47	5	25X	0300		弥生	甕	9.5			底面 5/6	工具ナゲ	工具ナゲ	工具ナゲ	ナゲ	赤褐色	砂粒 やや少		良					5
47	6	25X	0300		弥生	甕	8.0			上縁 1/3	横ナゲ	工具ナゲ	ナゲ		赤褐色	砂粒多		良好	片反			底面に刻目1箇所	4
47	7	25X	0300	II	弥生	甕	22.0			口縁部 1/4	横ナゲ	ナゲ	ナゲ		赤褐色	泥 砂粒少		良好	凸帯幅付 幅部に面有	1条 刻目有	1条 刻目有		6
47	8	25X	0300	II	弥生	甕	24.0			口縁部 横片	横ナゲ	横ナゲ	ナゲ		赤褐色	泥 砂粒少		良好	やや丸れる凸 帯幅付	1条 刻目有	1条 刻目有		1
47	9	25X	0300	II	弥生	甕	7.0			底面のみ	刷毛	ナゲ	ナゲ	ナゲ	赤褐色	1mm大の 砂粒多		やや丸					5
47	10	25X	0300	II	弥生	甕	7.6			底面のみ	刷毛	工具ナゲ	工具ナゲ	ナゲ	赤褐色	砂粒少		良				外底面に片断あり	7
47	11	25X	0300	II	弥生	甕				底面 横片	刷毛	ナゲ			赤褐色	砂粒多		不良					6
47	12	25X	0300	II	弥生	甕				底面 横片	ナゲ	不明 ナゲ			赤褐色	2mm大の 砂粒多		不良				底面外側に刻目1条 幅部内側に刻目あり	4
47	13	25X	0300	II	弥生	甕				口縁部 横片	不明				赤褐色	砂粒少		不良	凸帯幅付 幅部に面有	1条 刻目有			3
47	15	25X	0300	III	弥生	甕				口縁部 横片	横ナゲ	横ナゲ	ナゲ		赤褐色	砂粒少		やや丸	凸帯幅付 幅部に面有	1条 刻目有	1条 刻目有		9
47	16	25X	0300	III	弥生	甕				口縁部 横片	横ナゲ				赤褐色	砂粒多		不良	幅部に面有				10
47	17	25X	0300	III	弥生	甕	17.0			口縁部 1/2	横ナゲ	刷毛 ナゲ	工具ナゲ		赤褐色	砂粒少		やや丸	幅部に面有				8
47	18	25X	0300	III	弥生	甕				上半部 1/3					赤褐色	砂粒少		良好				つまみ部無し 6cm	11
47	19	25X	0300	IV	弥生	甕				口縁部 横片	横ナゲ	刷毛 ナゲ			赤褐色	やや多		良	凸帯幅付 幅部に面有	1条 刻目有			12
47	20	25X	0300	IV	弥生	甕				口縁部 横片	横ナゲ	ナゲ			赤褐色	やや多		やや丸	凸帯幅付	1条 刻目有	1条 刻目有		13
47	21	25X	0300	IV	弥生	甕				口縁部 横片	横ナゲ				赤褐色	砂粒少		やや丸	知意形 幅部に面有				14
47	22	25X	0300	IV	弥生	高坏	20.0			坏部 1/10	横ナゲ	工具ナゲ	不明		赤褐色	砂粒多		やや丸	片反				15
48	1	25X	0301		弥生	甕				口縁部 横片	横ナゲ	エダ ナゲ			赤褐色	砂粒少		やや丸	凸帯幅付	1条 刻目有	1条 刻目有		1
48	2	25X	0301		弥生	甕				口縁部 横片	横ナゲ	横ナゲ	ナゲ		赤褐色	砂粒極少		やや丸	凸帯幅付 上面に面有	1条 刻目有			2
48	3	25X	0301		弥生	甕				つまみ部のみ	ナゲ	ナゲ	ナゲ		赤褐色	砂粒少		良				つまみ部無し 6cm	3
48	4	25X	0301		弥生	次期	8.0			受け面のみ	ナゲ	ナゲ	ナゲ		赤褐色	砂粒なし		やや丸					4
49	1	25X	0302		弥生	甕	26.0			口縁部 1/8	横ナゲ	刷毛 ナゲ			赤褐色	砂粒多		良	凸帯幅付 上面に面有	1条 刻目有	なし		10
49	2	25X	0302		弥生	甕	24.4			口縁部 1/4	横ナゲ	刷毛 ナゲ			赤褐色	砂粒多		良	凸帯幅付 幅部に面有	1条 刻目有	なし		9
49	3	25X	0302		弥生	甕	6.0			底面 1/3		刷毛 ナゲ		なで	赤褐色	砂粒多		良好					4
49	4	25X	0302		弥生	甕				口縁部 横片	横ナゲ	刷毛 ナゲ			赤褐色	砂粒多		良好	幅い凸帯幅付	1条 刻目有			5
49	5	25X	0302		弥生	甕	6.3			底面 1/2		ナゲ ナゲ	ナゲ ナゲ		赤褐色	砂粒少	赤褐色	良好					2
49	6	25X	0302		弥生	甕				つまみ部のみ		ナゲ ナゲ	ナゲ ナゲ	横ナゲ	赤褐色 内面・底面赤褐色 外面・底面赤褐色	砂粒多	赤褐色	良好					1
49	7	25X	0302		弥生	高坏				口縁部 横片	横ナゲ				赤褐色	砂粒多	赤褐色	良	幅部に面有				6
49	8	25X	0302		弥生	甕	19.2			口縁部 1/4	横ナゲ	磨き 磨き			赤褐色	微砂粒多	赤褐色	良好	幅部に面有			6-7と同一形状?	8
49	9	25X	0302		弥生	甕				肩面 1/6		刷毛 磨き	ナゲ 磨き		赤褐色	微砂粒多		良好				底面磨き付に似るものあり	7
49	10	25X	0302		弥生	甕	6.4			底面 1/2		ナゲ ナゲ	ナゲ 横ナゲ		赤褐色	砂粒多		良好					3
49	11	25X	0302	I	弥生	甕	8.0			口縁部 1/6	横ナゲ	横ナゲ	ナゲ		赤褐色	砂粒多		良	片反			底面に幅い	14
49	12	25X	0302	I	弥生	甕	7.4			底面 1/4		磨き ナゲ	ナゲ 工具ナゲ		赤褐色	微砂粒多	赤褐色	良好					11
49	13	25X	0302	I	弥生	甕	8.2			底面 1/2		ナゲ ナゲ	ナゲ 工具ナゲ		赤褐色	砂粒多	赤褐色	良好					12
49	14	25X	0302	I	弥生	甕	10.0			底面 1/6		刷毛 ナゲ	ナゲ 工具ナゲ	工具ナゲ	赤褐色	微砂粒多	赤褐色	良好					13
49	16	25X	0302	II	弥生	甕				口縁部 横片	横ナゲ	横ナゲ	ナゲ		赤褐色	微砂粒多	赤褐色	良	凸帯幅付 上面に面有	1条 刻目有			17
49	17	25X	0302	II	弥生	甕				口縁部 横片	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ		赤褐色	砂粒多		良好	片反 刻目あり				16
49	18	25X	0302	III	弥生	甕				口縁部 横片	横ナゲ		ナゲ		赤褐色	微砂粒多	赤褐色	良好	凸帯幅付	1条 刻目有			18
49	21	25X	0302	III	弥生	甕	16.0			口縁部 1/6	横ナゲ	刷毛 ナゲ			赤褐色	微砂粒多	赤褐色	良	凸帯幅付	1条 刻目有	1条 刻目有		21
49	22	25X	0302	IV	弥生	甕				口縁部 横片	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ		赤褐色	微砂粒多	赤褐色	良	凸帯幅付	1条 刻目有	1条 刻目有		22
49	23	25X	0302	V	弥生	甕				底面 1/4		不明 ナゲ	ナゲ 不明		赤褐色	砂粒多		良好					23
49	24	25X	0302	IV	弥生	甕				底面 1/4		磨き ナゲ	ナゲ ナゲ		赤褐色	微砂粒多	赤褐色	良好					24
50	1	25X	0303		弥生	甕				口縁部 横片	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ		赤褐色	微砂粒多	赤褐色	良好	扁平な凸帯幅付	1条 刻目有	1条 刻目有		2
50	2	25X	0303		弥生	甕				口縁部 横片	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ		赤褐色	微砂粒多	赤褐色	良好	凸帯幅付	1条 刻目有	1条 刻目有		1
50	3	25X	0303		弥生	甕				口縁部 1/8	横ナゲ	刷毛 ナゲ			赤褐色	砂粒多		良	三角凸帯幅付	1条 刻目有	なし		3
50	4	25X	0303	I	弥生	甕				胴部横片		不明 ナゲ			赤褐色	微砂粒多	赤褐色	良					4
50	5	25X	0303	II	弥生	甕				口縁部 横片	横ナゲ	横ナゲ	ナゲ		赤褐色	微砂粒多	赤褐色	良好	凸帯幅付	1条 刻目有	1条 刻目有		5
50	6	25X	0303	IV	弥生	甕				口縁部 横片	横ナゲ	横ナゲ	ナゲ		赤褐色	砂粒多		良	凸帯幅付	1条 刻目有			6
50	7	25X	0303	IV	弥生	甕				口縁部 横片	横ナゲ	ナゲ	ナゲ		赤褐色	微砂粒多	赤褐色	良好	垂れ下がる凸 帯幅付	1条 刻目有	1条 刻目有		7
50	8	25X	0303	IV	弥生	甕				底面 1/2		ナゲ ナゲ	ナゲ ナゲ		赤褐色	微砂粒多	赤褐色	良好					8
51	1	25X	0304		弥生	甕	11.0			底面 1/8		不明 ナゲ	ナゲ 不明		赤褐色	砂粒多		良好					3

Tab.5 出土土器一覽①

Fig.	No.	遺構	番号	層位	種類	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	保存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	含有粒子	焼成	口縁部 形状	口縁部 凸部	胴部凸部	備考	R-No.			
51	2	25X	0304		弥生	鉢	19.0			口縁部 1/8	横ナデ	磨き	磨き			灰褐色	微砂粒含	良好					4				
51	3	25X	0304		弥生	壺		8.0		底面 1/2		ナデ	ナデ	ナデ	不明	灰褐色	砂粒多	良好					2				
51	4	25X	0304		弥生	壺		7.0		底面 1/2		工具ナデ	ナデ	ナデ	工具ナデ	灰褐色	微砂粒含	良好					1				
51	5	25X	0304		弥生	壺				体部破片	横ナデ ナデ	ナデ				灰褐色	微砂粒含	良好					5				
51	6	25X	0306		弥生	壺				口縁部 破片	横ナデ	ナデ	ナデ			灰褐色	砂粒含	やや不良		凸部貼付 上部に面有			2				
51	7	25X	0306		弥生	壺				口縁部 破片	横ナデ		ナデ			灰褐色	砂粒少	やや不良		外反して 肥厚			3				
51	8	25X	0306		弥生	壺	22.4			口縁部 1/8	横ナデ	不明	ナデ			灰褐色					如蓋形 肩目有		1条 肩目有	1			
51	9	25X	0306		弥生	壺				底面 1/3		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	灰褐色	砂粒少	やや不良						6			
51	10	25X	0306		弥生	壺				底面 1/3		刷毛	不明	不明	工具ナデ	灰褐色	砂粒多	やや不良						5			
51	11	25X	0306		弥生	壺	19.0			口縁部 1/10	横ナデ	不明	ナデ			灰褐色	砂粒少	やや不良		外反縁部に 面有			4				
51	14	25X	0306	I	弥生	壺	22.0			口縁部 1/8	横ナデ	刷毛	ナデ			灰褐色	砂粒含	やや不良		外反して内面 に折返し			口縁部貼付部に面有	8			
51	15	25X	0306	I	弥生	壺	24.0			口縁部 1/8	横ナデ	刷毛	ナデ			灰褐色	砂粒少	やや不良		外反縁部に 面有			口縁部貼付部に面有	7			
51	16	25X	0306	I	弥生	壺	6.0			底面 のみ		刷毛	ナデ	ナデ	刮り	灰褐色	砂粒多	やや不良						底面に微砂粒に内面から 5mm前後	12		
51	17	25X	0306	I	弥生	壺	7.8			底面 1/6		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	灰褐色	砂粒含	やや不良							11		
51	18	25X	0306	I	弥生	壺				口縁部 破片	横ナデ	刷毛	不明			灰褐色	細砂粒含	やや不良		凸部貼付			1条 肩目有	9			
51	19	25X	0306	I	弥生	鉢				口縁部 破片	横ナデ	刷毛	ナデ			灰褐色	砂粒少	やや不良		外方へ 屈曲				10			
51	20	25X	0306	II	弥生	壺	11.0			口縁部 1/8	横ナデ					灰褐色	砂粒少	良好		外反				16			
51	21	25X	0306	II	弥生	壺				体部 破片		磨き	磨き			灰褐色	砂粒少	良好						縁部に付自凸部1条有	18		
51	22	25X	0306	II	弥生	壺				口縁部 破片	横ナデ	刷毛	ナデ			灰褐色	砂粒少	良好		縁部先状			1条 肩目有	1条 肩目有	13		
51	23	25X	0306	II	弥生	壺		7.8		下半部のみ		刷毛	工具ナデ	横ナデ	ナデ	灰褐色	砂粒少	やや不良							21		
51	24	25X	0306	II	弥生	壺		8.3		底面 のみ		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	灰褐色	砂粒多	やや不良							底面に微砂粒 (口径 約5×5mm)	19	
51	25	25X	0306	II	弥生	壺		5.8		底面 のみ		磨き	ナデ	ナデ	未調整	灰褐色	砂粒多	やや不良							底面に内面から(口縁部 約5mm前後)	20	
51	26	25X	0306	II	弥生	鉢				口縁部 破片	不明	不明	不明			灰褐色	細砂粒多	不良		外反					14		
51	27	25X	0306	II	弥生	鉢				口縁部 破片	横ナデ	不明	ナデ			灰褐色	細砂粒多	不良		直立						17	
51	28	25X	0306	II	弥生	鉢				口縁部 破片	横ナデ	不明	ナデ			灰褐色	砂粒少	やや不良		外反						15	
51	29	25X	0306	II	弥生	壺	13.0			口縁部 1/8	ナデ	工具ナデ	工具ナデ			灰褐色	砂粒多	良好		粘土貼付			1条 肩目有	縁部縁部先状	22		
51	30	25X	0306	III	弥生	壺		8.0		底面 のみ		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	灰褐色	砂粒多	やや不良							底面に上げ感状	23	
51	31	25X	0306	III	弥生	壺		12.0		底面 のみ		不明	工具ナデ	工具ナデ	ナデ	灰褐色	精良	良好								24	
52	1	25X	0307		弥生	壺	20.4			口縁部 1/4	横ナデ	ナデ	ナデ			灰褐色	砂粒 やや少	不良		三角凸部 貼付			1条 肩目有	1条 肩目有	1		
52	2	25X	0307		弥生	壺				口縁部 破片	横ナデ	刷毛	横ナデ			灰褐色	微 砂粒少	良好		凸部貼付 上部に面			1条 肩目有		4		
52	3	25X	0307		弥生	壺				口縁部 破片	横ナデ	横ナデ	ナデ			灰褐色	微砂粒少	ほぼ良好		三角凸部 貼付			1条 肩目有	1条 肩目有	2		
52	4	25X	0307		弥生	壺				口縁部 破片	横ナデ	横ナデ	ナデ			灰褐色	砂粒 やや少	良好		凸部貼付 上部に面			1条		5		
52	5	25X	0307		弥生	壺				口縁部 破片	横ナデ					灰褐色	砂粒少	良好		如蓋形 肩目有			1条 肩目有		3		
52	6	25X	0307		弥生	壺	6.0			底面 1/4		ナデ	不明	不明	不明	灰褐色	砂粒多	不良							10		
52	7	25X	0307		弥生	壺	8.6			底面 1/2		工具ナデ	ナデ	ナデ	工具ナデ	灰褐色	砂粒多	やや不良								9	
52	8	25X	0307		弥生	壺	7.0			底面 のみ		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	灰褐色	砂粒 やや少	やや不良								縁部?	7
52	9	25X	0307		弥生	壺				口縁部 破片	横ナデ					灰褐色	微 砂粒少	ほぼ良好		縁部に面有						8	
52	10	25X	0307		弥生	壺	10.8			底面 2/3		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	灰褐色	砂粒 やや少	良好								11	
52	17	25X	0307	I	弥生	壺				口縁部 破片	横ナデ	磨き	磨き			灰褐色	砂粒少	やや不良		凸部貼付 上部に面			1条			14	
52	18	25X	0307	I	弥生	大壺				口縁部 破片	横ナデ	横ナデ	横ナデ			灰褐色	砂粒 やや少	不良		外反し 縁部に面有			2条 肩目有	口縁部の上下部に肩目 状	13		
52	19	25X	0307	I	弥生	壺	7.0			底面 1/4		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	灰褐色	砂粒 やや少	やや不良								15	
52	21	25X	0307	II	弥生	壺				口縁部 破片	横ナデ	刷毛	横ナデ			灰褐色	砂粒 やや少	やや不良		凸部貼付			1条			17	
52	22	25X	0307	II	弥生	壺				口縁部 破片	横ナデ	横ナデ	ナデ			灰褐色	砂粒少	やや不良		凸部貼付			1条 肩目有			16	
52	23	25X	0307	II	弥生	壺	8.0			底面 1/3		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	灰褐色	細砂粒 やや多	やや不良								19	
52	24	25X	0307	II	弥生	壺	7.0			底面 のみ		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	灰褐色	砂粒 やや多	やや不良									18
52	25	25X	0307	II	弥生	壺	8.8			底面 のみ	横ナデ	ナデ	ナデ	不明		灰褐色	砂粒 やや多	やや不良									20
53	27	25X	0307	III	弥生	壺	24.0			上半 1/2	横ナデ	不明	工具ナデ			灰褐色	砂粒多	不良		外方へ 折り曲げ			1条 肩目有			21	
53	28	25X	0307	III	弥生	壺	6.4			底面 のみ		不明 ナデ	磨き?	磨き?	ナデ	灰褐色	砂粒 やや少	やや不良								底面に上げ感状	22
53	29	25X	0307	V	弥生	壺				口縁部 破片	横ナデ	刷毛	ナデ			灰褐色	微 砂粒少	良好		凸部貼付 上部に面			1条 肩目有	1条 肩目有		23	
53	30	25X	0307	V	弥生	壺				口縁部 破片	横ナデ	ナデ	ナデ			灰褐色	微 砂粒少	良好		凸部貼付			1条 肩目有	1条 肩目有		24	
53	31	25X	0307	V	弥生	壺				底面 2/3		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	灰褐色	砂粒 やや少	やや不良									25
53	32	25X	0307	VI	弥生	壺				底面 1/6		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	灰褐色	砂粒含	良好									27
53	33	25X	0307	VI	弥生	壺	28.4	8.8	1/2	工具ナデ	工具ナデ	工具ナデ	工具ナデ	工具ナデ	工具ナデ	灰褐色	砂粒含	良好		ゆるやかに ひらく						つまみ付(約5mm)	26
54	1	25X	0309		弥生	壺	23.0			口縁部 -体部	横ナデ	刷毛	ナデ			灰褐色	砂粒多	良好		凸部貼付			1条 肩目有	1条 肩目有		10	
54	2	25X	0309		弥生	壺	14.8			口縁部 1/2	横ナデ	横ナデ	横ナデ			灰褐色	砂粒含	良好		凸部貼付 上部に面			1条	1条		7	

Tab.6 出土土器一覧②

Fla.	No.	遺構	番号	層位	種別	図種	口徑 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色・調	胎土	含有粒子	焼成	口縁部形状	口縁部凸帯	胴部凸帯	備 考	R-No	
54	3	25K	0300		弥生	甕	20.0				口縁部 1/4	横ナズ	不明	ナズ		黄褐色	砂粒多		良	凸帯貼付	1条 肩目有	1条 肩目有		3	
54	4	25K	0309		弥生	甕					口縁部 細片	横ナズ	横ナズ	ナズ		黄褐色	砂粒多		良好	凸帯貼付 上部に帯	1条 肩目有	1条 肩目有		4	
54	5	25K	0309		弥生	甕	6.6				底面 1/2		不明	ナズ	ナズ	不明	黄褐色	砂粒多		良					2
54	6	25K	0309		弥生	甕	6.6				底面のみ	刷毛	ナズ	ナズ	ナズ	黄褐色	微砂粒多	黄砂、金銅屑	良						1
54	7	25K	0309		弥生	甕	7.4				底面のみ	刷毛	ナズ	ナズ	工具ナズ	黄褐色	砂粒多	黄砂	良好						6
54	8	25K	0309		弥生	甕					口縁部 1/6	横ナズ	横ナズ	ナズ		黄褐色	微砂粒多	金銅屑	良好	ゆるやかに ひらく					3
54	9	25K	0309		弥生	甕					体部 1/4		不明	不明		黄褐色	砂粒多		良好						9
54	10	25K	0309		弥生	甕	6.8				底面のみ	磨き	磨き	磨き	ナズ	黄褐色	砂粒多	金銅屑	良好						3
54	11	25K	0309	II	弥生	甕					口縁部 細片	横ナズ	横ナズ	横ナズ		黄褐色	微砂粒多		良好	凸帯貼付	1条 肩目有	2条 肩目有	横ナズは残らず	11	
54	12	25K	0309	II	弥生	甕					口縁部 細片	横ナズ	横ナズ	ナズ		黄褐色	やや粗 砂粒多	やや良	良好	粘土貼付	1条 肩目有	1条 肩目有	横帯縁面文土線?	12	
54	13	25K	0309	II	弥生	甕					口縁部 1/4	横ナズ	横ナズ	ナズ		黄褐色	やや粗 砂粒多		良	凸帯貼付	1条 肩目有	1条 肩目有		12	
54	14	25K	0309	III	弥生	甕		8.0			底面 1/4	工具ナズ	ナズ	磨き	横ナズ	黄褐色	砂粒多		良好						14
55	16	25K	0309	IV	弥生	甕	24.2				口縁部 1/2	横ナズ	ナズ	ナズ		外: 黄褐色 内: 黄褐色	粗砂粒多	金銅屑	良好	粘土貼付	1条 肩目有	1条 肩目有	横帯縁面文土線?	26	
55	17	25K	0309	IV	弥生	甕	18.2				口縁部 1/4	横ナズ	ナズ	ナズ		黄褐色	やや粗 砂粒多	やや良	良好	凸帯貼付	1条 肩目有	1条 肩目有	横帯縁面文土線?	28	
55	18	25K	0309	IV	弥生	甕	14.4				口縁部 1/4	横ナズ	横ナズ	横ナズ		黄褐色	微砂粒多	金銅屑	良好						20
55	19	25K	0309	V	弥生	甕					口縁部 細片	不明	不明	不明		黄褐色	やや粗 砂粒多		やや良	凸帯貼付	1条 肩目有				32
55	20	25K	0309	IV	弥生	甕	21.6				口縁部 1/4	横ナズ	横ナズ	ナズ		黄褐色	微砂粒多		良好	粘土貼付	1条 肩目有	1条 肩目有	横帯縁面文土線?	24	
55	21	25K	0309	IV	弥生	甕	26.4				口縁部 1/6	横ナズ	横ナズ	ナズ		外: 黄褐色 内: 赤褐色	微砂粒多		やや良	凸帯貼付	1条 肩目有	1条 肩目有		23	
55	22	25K	0309	IV	弥生	甕	26.0				口縁部 1/3	横ナズ	横ナズ	ナズ		黄褐色	やや粗 砂粒多	金銅屑	良	凸帯貼付	1条 肩目有	1条 肩目有		27	
55	23	25K	0309	IV	弥生	甕	30.0				口縁部 1/4	横ナズ	横ナズ	ナズ		黄褐色	微砂粒多	金銅屑	良好	凸帯貼付 上部に帯	1条 肩目有	1条 肩目有		28	
55	24	25K	0309	IV	弥生	甕	20.2				口縁部 1/4	横ナズ	横ナズ	ナズ		外: 黄褐色 内: 赤褐色	やや粗 砂粒多	やや良	大く外反 縁部に面有		1条 肩目有		口縁部の面にして肩 目を露す	22	
55	25	25K	0309	IV	弥生	甕					口縁部 細片	横ナズ	横ナズ	横ナズ		黄褐色	微砂粒多		良好	大く外反 縁部に面有		1条 肩目有	口縁部の上下側に肩 目を露す	19	
55	26	25K	0309	IV	弥生	甕					底面のみ	ナズ	ナズ	ナズ	ナズ	外: 黄褐色 内: 黄褐色	微砂粒多		良好	凸帯貼付	1条	1条		21	
55	27	25K	0309	IV	弥生	甕	7.6				底面のみ	工具ナズ	ナズ	ナズ	ナズ	黄褐色	やや粗 砂粒多		やや良						15
55	28	25K	0309	IV	弥生	甕					つまみ部 のみ	磨き	磨き	磨き	ナズ	黄褐色	精良		良好						17
55	29	25K	0309	IV	弥生	甕					上半部 のみ	刷毛	横ナズ	横ナズ	ナズ	黄褐色	砂粒多	金銅屑	良好						16
56	30	25K	0309	IV	弥生	甕					体部 細片	磨き	磨き			外: 黄褐色 内: 赤褐色	微砂粒多	金銅屑	良好						18
56	31	25K	0309	V	弥生	甕	26.0	6.6	29.8		口縁部 1/4	横ナズ	ナズ	ナズ	ナズ	横ナズ	黄褐色	やや粗 砂粒少		やや良	凸帯貼付 上部に面	1条 肩目有	1条 肩目有		30
56	32	25K	0309	IV	弥生	甕					口縁部 細片	横ナズ				黄褐色	やや粗 砂粒多	金銅屑	良好		凸帯貼付 上部に面	1条 肩目有			35
56	34	25K	0309	IV	弥生	甕					口縁部 細片	横ナズ	磨き	磨き		黄褐色	砂粒多		良好	縁部に面有					34
56	35	25K	0310		弥生	甕					口縁部 細片	不明	ナズ			黄褐色	砂粒 やや少		不良	ゆるく外反 縁部に面有		1条 肩目有			1
56	1	25K	0311		弥生	甕					口縁部 細片	横ナズ				黄褐色	砂粒少		良	外反					2
56	2	25K	0311		弥生	甕	36.0				上半1/3	不明	不明	不明		黄褐色	砂粒多		不良	凸帯貼付 上部に面	1条 肩目有	1条 肩目有		1	
56	3	25K	0311		弥生	甕					底面 1/4	ナズ	不明	不明	ナズ	黄褐色	砂粒 やや少		やや良						6
56	4	25K	0311		弥生	甕					底面 1/4	ナズ	不明	不明	ナズ	黄褐色	砂粒 やや少		やや良						5
56	8	25K	0311		弥生	甕					底面 1/2	ナズ	ナズ	ナズ	ナズ	黄褐色	砂粒多		不良						4
56	6	25K	0311		弥生	甕	14.0				口縁部 1/6	不明	不明	横ナズ		黄褐色	砂粒 やや多		不良	凸帯貼付	1条				3
56	7	25K	0311	II	弥生	甕	23.4				底面欠損	横ナズ	工具ナズ	工具ナズ		黄褐色	微砂粒少		やや良	凸帯貼付 上部に面	1条 肩目有	1条 肩目有		7	
56	8	25K	0311	II	弥生	甕					底面 1/4	工具ナズ	不明	不明	ナズ	黄褐色	微砂粒多		やや良						9
56	9	25K	0311	II	弥生	甕					底面 1/3	不明	不明	不明	不明	黄褐色	砂粒多		やや良						10
56	10	25K	0311	II	弥生	甕					口縁部 細片	横ナズ	不明	ナズ		黄褐色	微砂粒多	黄砂、金銅屑	やや良		凸帯貼付 上部に面	1条			9
56	11	25K	0311	III	弥生	甕		12.0			底面 1/2	ナズ	ナズ	不明	工具ナズ	黄褐色	砂粒多		やや良						11
57	1	25K	0312		弥生	甕					体部 細片	横ナズ	ナズ			外: 黄褐色 内: 黄褐色	砂粒少	黄砂、黄砂屑	良好					1条 肩目有	2
57	2	25K	0312		弥生	甕					口縁部 細片	横ナズ	ナズ	横ナズ		外: 黄褐色 内: 黄褐色	砂粒少	黄砂、黄砂屑	良好	凸帯貼付	1条 肩目有				3
57	3	25K	0314		弥生	甕					口縁部 細片	横ナズ	横ナズ	ナズ		黄褐色	微砂粒多	黄砂、黄砂屑、 砂子	良好	如蓋形				横帯の面に肩目と横ナズ	1
57	4	25K	0314		弥生	甕					口縁部 細片	横ナズ	刷毛	刷毛		外: 黄褐色 内: 黄褐色	微砂粒多	黄砂、黄砂屑、 砂子	やや良	如蓋形					2
57	5	25K	0314		弥生	甕					口縁部 細片	横ナズ	刷毛	ナズ		黄褐色	微砂粒多	黄砂、砂屑、 砂子	良好	如蓋形 縁部に面有		1条		横帯の面に横ナズと 横ナズ、横ナズ	3
57	6	25K	0314		弥生	甕	6.0				底面 1/6	磨き	ナズ	ナズ	ナズ	黄褐色	砂粒多	黄砂屑、黄砂、 黄砂屑	良好						11
57	7	25K	0314		弥生	甕	6.2				底面 1/4	不明	ナズ	ナズ	工具ナズ	外: 黄褐色 内: 黄褐色	砂粒少	黄砂屑、黄砂屑、 砂子	良好						15
57	8	25K	0314		弥生	甕	7.8				底面 1/3	ナズ	工具ナズ	工具ナズ	ナズ	黄褐色	砂粒少	黄砂屑、黄砂屑、 砂子	良好						8
57	9	25K	0314		弥生	甕					口縁部 細片	不明				黄褐色	砂粒多	金銅屑	やや良	外側に 肥厚				大外ナズ	7
57	10	25K	0314		弥生	甕	15.4				口縁部 1/8	横ナズ	横ナズ	不明		外: 黄褐色 内: 黄褐色	砂粒少	黄砂屑、黄砂屑、 砂子	やや良	外反					19
57	11	25K	0314		弥生	甕					体部 細片	不明	不明			黄褐色	砂粒多	金銅屑	やや良						6
57	12	25K	0314		弥生	甕					体部 細片	工具ナズ	ナズ			黄褐色	砂粒多	黄砂屑、黄砂屑、 砂子	良好						6
56	13	25K	0314		弥生	甕		4.2			底面 2/3	磨き	工具ナズ	工具ナズ	ナズ	外: 黄褐色 内: 黄褐色	砂粒少	黄砂屑、黄砂屑、 砂子	良好						17

Tab.7 出土土器一覧③



File No.	遺物番号	種類	部位	用途	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	粘土	含有粒子	地味	口縁部形状	口縁部凸部	胴部凸部	備考	尺・No.	
57	14	25X	0314	弥生 壺		4.9		底部 1/2		磨き	ナブ	ナブ	不明	灰黒褐色	鉄粒少量	赤褐色・黒褐色	良好					16	
57	15	25X	0314	弥生 壺		8.1		底面のみ		磨き	ナブ	ナブ	不明	灰黒褐色 内: 灰黒褐色	鉄粒少量	赤褐色・黒褐色	やや不良					18	
58	16	25X	0314	I 弥生 壺	30.9			口縁部 1/3	横ナブ	ナブ	ナブ			灰黒褐色 内: 灰黒褐色	鉄粒少量	赤褐色・黒褐色	やや不良	凸部貼付	1条 貼付有	1条 貼付有		1	
58	19	25X	0314	I 弥生 壺	42.9			口縁部 2/3	横ナブ	ナブ	ナブ			黒褐色	鉄粒少量	赤褐色・黒褐色	良好	外反し 縁部に面有			口縁部の上下部に器高を測す	2	
58	20	25X	0314	I 弥生 壺	15.8			口縁部 1/2	横ナブ	刷毛	横ナブ			黒褐色	鉄粒少量	赤褐色	やや不良	凸部貼付	1条 貼付有		25214 3-14-2の一種かと	3	
58	21	25X	0314	I 弥生 壺				口縁部 断片	横ナブ	不明	横ナブ			灰黒褐色	鉄粒少量	赤褐色	良好	外反			口縁部に断片有	6	
58	22	25X	0314	I 弥生 壺				口縁部 断片	横ナブ	横ナブ	横ナブ			灰黒褐色 内: 灰黒褐色	鉄粒少量	赤褐色・黒褐色	良好	縁く外反				5	
58	23	25X	0314	I 弥生 壺		7.0		底部 1/4		不明	ナブ?	ナブ?	工具ナブ	灰黒褐色 内: 灰黒褐色	鉄粒少量	赤褐色・黒褐色	良好					7	
58	24	25X	0314	I 弥生 壺		7.3		底部のみ		刷毛	ナブ	ナブ	工具ナブ	灰黒褐色	鉄粒少量	赤褐色・黒褐色	良好					20	
58	25	25X	0314	I 弥生 壺		9.9		底部 1/2		ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	灰黒褐色 内: 灰黒褐色	鉄粒少量	赤褐色・黒褐色	良好					8	
58	26	25X	0314	I 弥生 壺	10.8			口縁部 1/3	横ナブ	横ナブ	ナブ			灰黒褐色 内: 灰黒褐色	鉄粒少量	赤褐色・黒褐色	良好				小さく直立	4	
58	27	25X	0314	I 弥生 壺		7.6		底部 1/3		不明	不明	不明	ナブ	黒褐色	鉄粒少量	赤褐色・黒褐色	やや不良					9	
58	28	25X	0314	II 弥生 壺		10.0		底部 1/3		磨き	不明	不明	不明	灰黒褐色	鉄粒少量	赤褐色・黒褐色	やや不良					2	
58	29	25X	0314	II 弥生 壺				口縁部 断片	横ナブ	横ナブ	ナブ			灰黒褐色 内: 灰黒褐色	鉄粒少量	赤褐色・黒褐色	良好	凸部貼付	1条 貼付有	1条 貼付有		1	
59	1	25X	0315	土師 甗		9.0		底部 1/3	横ナブ	横ナブ	ナブ	糸切り		灰黒褐色	鉄粒少量		良好					8	
59	2	25X	0315	黒色片 甗		7.0		底部 1/3	横ナブ	不明	不明	不明	横ナブ	灰黒褐色	鉄粒少量		良好				裏面は貼付有	10	
59	3	25X	0315	土師 甗		6.6		底部 1/3				不明	横ナブ	口縁部	鉄粒少量		良好				裏面は貼付有	9	
59	4	25X	0315	黒色片 甗				底部 断片		正格子 叩き	同心円 叩き			灰黒褐色 内: 灰黒褐色	精良	含有粒子	良好						11
59	5	25X	0315	黒色片 甗				底部 断片		平行 叩き				灰・口縁部 内: 灰黒褐色	精良		良好						12
59	6	25X	0315	弥生 壺	21.0			口縁部 1/4	横ナブ	刷毛	横ナブ			灰黒褐色 内: 灰黒褐色	鉄粒少量	赤褐色	良	凸部貼付	1条	1条		1	
59	7	25X	0315	弥生 壺		8.0		底面のみ		ナブ	不明	不明	工具ナブ	灰黒褐色 内: 灰黒褐色	鉄粒少量	赤褐色・黒褐色	やや不良					2	
59	8	25X	0315	弥生 壺		5.0		底部 1/2		ナブ	不明	不明	不明	灰黒褐色	鉄粒少量	赤褐色	良好					5	
59	9	25X	0315	弥生 壺		6.7		底面のみ		刷毛	不明	不明	工具ナブ	灰黒褐色 内: 灰黒褐色	鉄粒少量	赤褐色・黒褐色	やや不良					3	
59	10	25X	0315	弥生 壺		6.3		底部 1/4		ナブ	不明	不明	工具ナブ	黒褐色	鉄粒少量	赤褐色	やや不良					4	
59	11	25X	0315	弥生 壺		7.4		底部 1/3		磨き	ナブ	ナブ	ナブ	灰黒褐色	鉄粒少量	赤褐色	良好					6	
59	12	25X	0315	弥生 壺		7.4		底部 1/3		刷毛	刷毛	ナブ	刷毛	灰黒褐色	磨 鉄粒少量		良好					7	
60	1	25X	0316	弥生 壺	24.4			底部 文様	横ナブ	ナブ	ナブ			黒褐色	鉄粒 やや少	やや不良	凸部貼付	1条 貼付有	1条 貼付有		1		
60	2	25X	0316	弥生 壺	24.0			口縁部 1/3	横ナブ	ナブ	工具ナブ			黒褐色	鉄粒 やや少	良	凸部貼付 上部に面有	1条 貼付有	1条 貼付有		6		
60	3	25X	0316	弥生 壺				口縁部 断片	横ナブ					灰黒褐色	鉄粒少量	やや不良	外反 縁部に面有					2	
60	4	25X	0316	弥生 壺		7.0		底部 1/3		工具ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	黒褐色	鉄粒 やや少	やや不良						4	
60	5	25X	0316	弥生 壺	41.0			口縁部 1/3	横ナブ	工具ナブ	ナブ			黒褐色	鉄粒 やや少	良	凸部貼付 上部に面有	1条 貼付有	1条 貼付有		7		
60	6	25X	0316	弥生 壺		7.2		底部 1/4		ナブ	不明	不明	ナブ	灰黒褐色	鉄粒少量	やや不良						5	
60	7	25X	0316	弥生 壺				口縁部 断片	不明					灰黒褐色	鉄粒少量	不良	外反					3	
60	8	25X	0316	弥生 壺		9.0		底部のみ		ナブ	不明	不明	ナブ	灰黒褐色	鉄粒多	不良						8	
61	1	25X	0317	弥生 壺	26.0			口縁部 1/10	横ナブ	横ナブ	ナブ			黒褐色	鉄粒 やや少	良好	凸部貼付 上部に面有	1条 貼付有	1条 貼付有		1		
61	2	25X	0317	弥生 壺		6.0		底部 1/3		刷毛	ナブ	ナブ	ナブ	灰黒褐色	鉄粒 やや少	良					横面は底縁から器高を測す	2	
61	3	25X	0317	II 弥生 壺		8.0		底部のみ		工具ナブ	不明	不明	ナブ	灰黒褐色	鉄粒 やや少	やや不良						4	
61	4	25X	0317	II 弥生 Y 鉢?				底部のみ			ナブ	ナブ		黒褐色	鉄粒多	良好					縁部に凸部を測すに貼付有	5	
61	5	25X	0317	弥生 壺		10.0		底部のみ		工具ナブ	工具ナブ	工具ナブ	ナブ	黒褐色	鉄粒少量	やや不良					底面に横線は器高から器高を測す	3	
62	1	25X	0319	弥生 壺		8.8		底面のみ		工具ナブ	不明	不明	工具ナブ	黒褐色	鉄粒少量	良						1	
62	2	25X	0320	弥生 壺				口縁部 断片	横ナブ					灰黒褐色	鉄粒少量	不良	外反し 縁部に面有					1	
62	3	25X	0320	弥生 壺				口縁部 断片	横ナブ					灰黒褐色	鉄粒少量	やや不良	外反					2	
62	4	25X	0330	弥生 壺	26.0	8.1	29.4	ほぼ完整	横ナブ	刷毛 工具ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	黒褐色	鉄粒少量	やや不良	凸部貼付	1条 貼付有	1条 貼付有		中央は器高を測す	1	
62	5	25X	0330	弥生 壺				口縁部 断片	横ナブ	不明	ナブ			灰黒褐色	鉄粒少量	不良	凸部貼付 上部に面有	1条 貼付有	1条 貼付有			2	
62	6	25X	0330	弥生 壺				底部 1/4		工具ナブ	不明	不明	ナブ	黒褐色	鉄粒少量	やや不良						4	
62	7	25X	0330	弥生 壺				底部 1/2		不明	不明	不明	ナブ	灰黒褐色	鉄粒多	不良					中央は器高を測す	3	
63	1	25X	0331	弥生 壺	26.0	6.0	27.8	ほぼ一面 文様	横ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	灰黒褐色	磨	赤褐色・黒褐色・ 黒褐色・赤褐色	良	凸部貼付	1条 貼付有	1条 貼付有		14	
63	2	25X	0331	弥生 壺				口縁部 断片	横ナブ	ナブ	ナブ			黒褐色	鉄粒多	やや不良	凸部貼付	1条 貼付有				4	
63	3	25X	0331	弥生 壺				口縁部 断片	横ナブ	ナブ	ナブ			灰黒褐色	鉄粒少量	やや不良	凸部貼付	1条 貼付有	1条 貼付有			5	
63	4	25X	0331	弥生 壺				口縁部 断片	横ナブ	横ナブ	ナブ			黒褐色	鉄粒少量	良好	凸部貼付	1条 貼付有	1条 貼付有			2	
63	5	25X	0331	弥生 壺				口縁部 断片	横ナブ	刷毛	ナブ			灰黒褐色	鉄粒少量	やや不良	外方に 折曲げ		1条 貼付有		口縁部に断片有	5	
63	6	25X	0331	弥生 壺				口縁部 断片	横ナブ	ナブ	ナブ			灰黒褐色	鉄粒少量	やや不良	外方に 折曲げ				口縁部に断片有	6	
63	7	25X	0331	弥生 壺		7.0		底部 1/4		不明	不明	不明	不明	黒褐色	鉄粒多	不良						8	
63	8	25X	0331	弥生 壺		7.9		底部 1/3		工具ナブ	ナブ?	ナブ?	工具ナブ	黒褐色	鉄粒少量	やや不良						9	
63	9	25X	0331	弥生 壺		7.6		底部 1/2		ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	灰黒褐色	やや不良							7	

Tab.8 出土土器一覽④

Fig.	No.	遺跡	番号	層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色 調	胎土	含有粒子	施装	口縁部形状	口縁部凸帯	胴部凸帯	備 考	R-No		
63	10	25K	0331		弥生	壺		7.8		底部のみ	不明	ナデ	ナデ	不明	不明	黄褐色	砂粒多		不良					11		
63	11	25K	0331		弥生	壺				口縁部細片	横ナデ	ナデ	ナデ			黄褐色	やや密		やや不良	外反				10		
63	12	25K	0331		弥生	壺	8.5		2.0	2/3	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	黄褐色	やや密		良	縁やかに外反			口縁部口縁部成形ナデ付帯	12		
64	1	25K	0332		弥生	壺		7.0		底部1/6	横ナデ				ナデ	黄褐色	砂粒多		やや不良					2		
64	2	25K	0332		弥生	壺		7.8		底部1/4	ナデ	不明	不明	ナデ	黄褐色	砂粒含			やや不良					3		
64	3	25K	0332		弥生	壺				口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ			黄褐色	砂粒やや少	角閃石	やや不良	凸帯貼付	1条	1条	1条	1条	1	
64	4	25K	0332		弥生	壺				口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ			黄褐色	砂粒少		良	内部先端部					4	
64	5	25K	0332	I	弥生	壺	21.0			口縁部1/8	横ナデ	横ナデ	不明			黄褐色	細砂粒やや多		不良	外反 胴部に面有	1条				5	
65	1	25K	0334		弥生	壺	26.5	7.5	30.8	ほぼ丸形	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	黄褐色	砂粒含		やや良	凸帯貼付	1条	1条	1条	1条	1	
65	2	25K	0334	I	弥生	壺				体部細片	工具ナデ	磨き				黄褐色	砂粒少		良						2	
65	3	25K	0334	II	弥生	壺				口縁部細片	横ナデ	横ナデ	ナデ			黄褐色	砂粒やや少		やや良	凸帯貼付	1条	1条	1条	1条	3	
65	4	25K	0334	II	弥生	壺				底部細片	ナデ				ナデ	黄褐色	砂粒やや少		やや良						4	
65	5	25K	0334	III	弥生	壺				口縁部細片	横ナデ	ナデ	ナデ			黄褐色	砂粒少	黄色粒子多	不良	粘土貼付	1条					5
65	6	25K	0334	III	弥生	壺		8.8		底部1/2	ナデ	ナデ	ナデ	不明		黄褐色	砂粒多		不良						6	
65	7	25K	0335		弥生	壺				口縁部細片	横ナデ	ナデ	ナデ			黄褐色	砂粒少		やや良	凸帯貼付	1条				1	
66	1	25K	0336	I	弥生	壺				口縁部細片	横ナデ	刷毛	横ナデ			黄褐色	砂粒少		やや良	外反 胴部に面有					1	
66	2	25K	0336	II	弥生	壺				口縁部細片	横ナデ	横ナデ	ナデ			黄褐色	砂粒少		不良	凸帯貼付	1条				2	
66	3	25K	0337		弥生	壺				口縁部細片	横ナデ	刷毛	横ナデ			黄褐色	密		良	外反					2	
66	4	25K	0337		弥生	壺	18.0			口縁部1/4	横ナデ	刷毛	ナデ			黄褐色	砂粒少		やや良	凸帯貼付	1条	1条	1条	1条	1	
66	5	25K	0337	I	弥生	壺				口縁部細片	横ナデ	横ナデ	横ナデ			黄褐色	砂粒少	黄色粒子多	不良	粘土貼付	1条					3
66	6	25K	0337	II	弥生	壺				上半部	横ナデ	不明	ナデ			黄褐色	砂粒少		不良	凸帯貼付	1条	1条	1条	1条	4	
67	1	25K	0341		弥生	壺		6.0		底部のみ	不明	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	黄褐色	砂粒多		やや良						2	
67	2	25K	0341		弥生	鉢	35.0			口縁部1/2	横ナデ	刷毛	刷毛			黄褐色	細砂粒含		ほぼ良	きつ外反					1	
67	3	25K	0341	V	弥生	壺	19.0			口縁部1/2	横ナデ	ナデ	ナデ			黄褐色	砂粒やや少		やや良	凸帯貼付	1条	1条	1条	1条	1	
67	4	25K	0341	VI	弥生	壺				口縁部細片	横ナデ	横ナデ	ナデ			黄褐色	砂粒少		良好	凸帯貼付	1条	1条	1条	1条	1	
68	1	25K	0342		弥生	壺	20.0			口縁部1/6	横ナデ	不明	不明			黄褐色	微砂粒含	金剛砂	良	凸帯貼付	1条				4	
68	2	25K	0342		弥生	壺	20.2			口縁部1/4	横ナデ	不明	不明			黄褐色	砂粒含		良好	如意形					5	
68	3	25K	0342		弥生	壺				口縁部細片	横ナデ	横ナデ	ナデ			外・埋藏褐色 内・黄褐色	微砂粒多	金剛砂多	良	凸帯貼付	1条	1条	1条	1条	3	
68	4	25K	0342		弥生	？				体部細片	不明	不明				黄褐色	やや密 砂粒少		やや不良						6	
68	5	25K	0342		弥生	壺		7.8		底部のみ	ナデ	ナデ	ナデ	横ナデ	横ナデ	黄褐色	砂粒多	金剛砂多	良好							2
68	6	25K	0342		弥生	壺		7.0		底部1/2	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	外・埋藏褐色 内・黄褐色	砂粒含	金剛砂・角閃石	良好							1
68	7	25K	0342	II	弥生	壺？ 鉢？	24.0			口縁部1/3	横ナデ	磨き	ナデ			黄褐色	密 細砂粒少	金剛砂・角閃石	やや良	凸帯貼付	1条					7
69	1	25K	0350		弥生	壺				上半部のみ	ナデ 工具ナデ	ナデ 工具ナデ	工具ナデ	ナデ	ナデ	黄褐色	砂粒 やや多									1
69	3	25K	0350	I	弥生	壺				体部細片	ナデ	ナデ				外・埋藏褐色 内・黄褐色	砂粒含	黄色粒子	やや良							1
69	4	25K	0350	III	弥生	壺				口縁部1/8	横ナデ	ナデ	ナデ			黄褐色	細砂粒少		良	凸帯貼付	1条	1条	1条	1条	1	
69	7	25K	0354		弥生	舞台				口縁部細片	刷毛	刷毛	刷毛			黄褐色	やや密		やや不良	胴部に面有					1	
70	1	25K	0355		弥生	壺				口縁部細片	ナデ	ナデ	ナデ			黄褐色	粗	角閃石	やや不良	磨練状	1条				1	
70	7	25K	0355	VI	弥生	壺				口縁部細片	横ナデ	横ナデ	ナデ			黄褐色	やや密		やや不良	凸帯貼付	1条	1条	1条	1条	1	
71	1	25K	0356	II	弥生	壺				口縁部細片	横ナデ	ナデ	ナデ			黄褐色	やや密		やや良	外反					1	
71	2	25K	0357	II	弥生	鉢	27.0			口縁部1/6	横ナデ	不明	磨き			黄褐色	密		やや不良	外反					2	
71	3	25K	0357	II	弥生	壺	21.0			口縁部1/5	横ナデ	ナデ	ナデ			外・埋藏褐色 内・黄褐色	やや密	金剛砂・角閃石	やや良	外反					1	
72	1	25K	0359	I	弥生	壺	25.0			口縁部1/8	横ナデ	ナデ	不明			外・埋藏褐色 内・黄褐色	やや密		やや良	如意形					1	
72	2	25K	0359	I	弥生	壺				体部細片	横ナデ	不明				外・埋藏褐色 内・黄白褐色	やや密		やや不良						2	
72	3	25K	0359	III	弥生	壺				体部細片	横ナデ	不明				黄褐色	粗	金剛砂多・角閃石 多黄色粒子多	不良						2	
72	4	25K	0359	III	弥生	壺				体部細片	横ナデ	不明				黄褐色	粗	黄色粒子・金剛砂多	不良						1	
73	1	25K	0360		弥生	壺				口縁部細片	横ナデ	横ナデ	横ナデ			外・埋藏褐色 内・黄褐色	粗	金剛砂・角閃石・ 白色粒子・黄色粒子	やや不良	凸帯貼付 上部に面	1条	1条	1条	1条	1	
73	3	25K	0361		弥生	壺				口縁部細片	横ナデ	横ナデ	横ナデ			外・埋藏褐色 内・黄白褐色	やや密	金剛砂・角閃石・ 白色粒子・黄色粒子	やや良	凸帯貼付 上部に面	1条	1条	1条	1条	1	
74	1	25K	0363		弥生	壺	22.8			底部欠損	横ナデ	ナデ	ナデ			黄褐色	やや密		ほぼ良	凸帯貼付	1条	1条	1条	1条	1	
74	2	25K	0363	II	弥生	壺	29.8			口縁部1/6	横ナデ	刷毛	ナデ			黄褐色	やや密	角閃石・金剛砂	やや良	凸帯貼付 胴部に面	1条	1条	1条	1条	1	
74	3	25K	0363	V	弥生	壺				口縁部細片	横ナデ	ナデ	ナデ			黄褐色	やや密	磨練	やや良	凸帯貼付	1条	1条	1条	1条	1	
76	3	25K	0369	VI	弥生	壺	14.0			底部1/3	不明	不明	不明			黄褐色	やや密		不良	外反					1	
76	6	25K	0374	I	弥生	壺				体部細片		磨き	不明			黄褐色	密		良						1	
76	7	25K	0374	IV	弥生	鉢				1/2	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	黄褐色	やや密		良	外方へ ひらく						2
76	8	25K	0374	IV	弥生	壺	26.0			口縁部1/4	横ナデ	ナデ	ナデ			黄褐色	やや密		やや不良	凸帯貼付 上部に面	1条	1条	1条	1条	1	

Tab.9 出土土器一覧⑤

File No.	遺跡番号	層位	種別	用途	口径 (cm)	底径 (cm)	延長 (cm)	残存	口縁部	体外部	体内部	内底面	外底面	色 澤	粘土	含有物	焼成	口縁部形状	口縁部凸部	取柄凸部	備 考	尺 寸	
76	9	25K	0374	V	弥生	底	13.5		口縁部 1/6	磨き	磨き	磨き		褐色	赤	伊予粘土	良好	大きく外反			1		
77	1	25K	0357		弥生				1/4	横ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	黒褐色	赤	白灰	良好	ほぼ直	凸部貼付		1条 1条	1	
78	1	25K	0439		弥生	32.1		上平部 1/3	横ナゲ	工具ナゲ	工具ナゲ			外 黒褐色 内 褐色	赤	白灰、金銅屑	良好	凸部貼付 上部に直			1条 1条	7	
79	1	25K	0391		弥生	35.2	7.2	24.0	底形	横ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	不明	赤	中々良	中々良	凸部貼付			1条	7	
79	2	25K	0391		弥生	26.0	7.6	28.8	ほぼ方形	横ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	赤	赤	白灰、金銅屑	良	凸部貼付 上部に直			1条	2	
79	3	25K	0391		弥生	30.0	8.0	31.0	口縁部 5/6欠損	横ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	赤	赤	白灰、金銅屑	中々良	凸部貼付 上部に直			1条	1	
79	4	25K	0391		弥生	25.0			口縁部 1/2	横ナゲ	ナゲ	ナゲ		褐色	赤	白灰	良好	横かに外反			1条	3	
79	5	25K	0391		弥生	17.0	6.4	18.5	口縁部 3/4欠損	横ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	褐色	赤	中々良	中々良	凸部貼付 上部に直			1条	8	
79	6	25K	0381		弥生	10.7	7.3	12.7	一部欠損	横ナゲ	磨き	ナゲ	ナゲ	褐色	赤	白灰、金銅屑	良	外反			1条	5	
79	7	25K	0391		弥生	16.8	6.4	17.8	ほぼ方形	横ナゲ	磨き	ナゲ	ナゲ	赤	赤	白灰、金銅屑	良	外反			1条	9	
79	8	25K	0391		弥生	19.0	8.6	28.5	方形	横ナゲ	磨き	磨き	不明	ナゲ	赤	赤	白灰、金銅屑	良	外反			1条	3
79	10	25K	0397		弥生	22.0			口縁部 1/2	横ナゲ	磨き	磨き	ナゲ	赤	赤	白灰、金銅屑	良	凸部貼付			1条	1	
80	1	25K	0396	V	弥生	18.0			口縁部 1/4	横ナゲ	横ナゲ	ナゲ		褐色	赤	中々良	良	凸部貼付			1条	5	
80	2	25K	0396	V	弥生	21.4			口縁部 1/2	横ナゲ	横ナゲ	ナゲ		赤	赤	白灰、金銅屑	良	凸部貼付			1条	1	
80	3	25K	0396	V	弥生	20.0			口縁部 1/4	横ナゲ	工具ナゲ	工具ナゲ		褐色	赤	白灰	良	取柄部			1条	3	
80	4	25K	0396	V	弥生	13.2			上平部 1/4	横ナゲ	不明	ナゲ		褐色	赤	中々良	中々良	外反			1条	2	
80	5	25K	0396	V	弥生	27.0			口縁部片 体欠損		磨き	不明		褐色	赤	良	良	外反して 外面肥厚			1条	4	
81	3	25K	0396	II	弥生	29.0			口縁部 1/4	横ナゲ	刷毛	ナゲ		褐色	赤	良好	きつく 外反		1条		1	1	
81	4	25K	0399		弥生		8.3		底部のみ		磨き	ナゲ	ナゲ	ナゲ	褐色	赤	ほぼ直				1条	1	
81	5	25K	0399	I	弥生				口縁部 刷毛	横ナゲ	磨き	工具ナゲ	磨き		赤	白灰	良好	凸部貼付			1条	1	
82	2	25K	0402	II	弥生	24.0			口縁部 1/6	横ナゲ	ナゲ	ナゲ		赤	赤	白灰	良	凸部貼付			1条	1	
82	3	25K	0402	III	弥生	16.9			上平部 1/2	横ナゲ	ナゲ	ナゲ		赤	赤	白灰	良好	凸部貼付			1条	1	
82	4	25K	0402	III	弥生	28.0			底面欠損	横ナゲ	不明	ナゲ		褐色	赤	中々良	中々良	凸部貼付			1条	1	
82	5	25K	0402	III	弥生	20.9			上平部 1/4	横ナゲ	ナゲ	ナゲ		赤	赤	白灰、金銅屑	中々良	凸部貼付			1条	1	
82	6	25K	0402	IV	弥生	20.0			上平部 1/3	横ナゲ	不明	ナゲ		赤	赤	白灰	不直	凸部貼付			1条	1	
82	7	25K	0402	V	弥生				口縁部 刷毛	横ナゲ	横ナゲ	ナゲ		褐色	赤	中々良	中々良	凸部貼付			1条	1	
83	1	25K	0405		弥生	24.4			口縁部 1/6	横ナゲ	磨き	磨き		赤	赤	白灰	良好	外反し 断面に直			1条	6	
83	2	25K	0405		弥生	26.2			口縁部 1/6	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ		赤	赤	白灰	中々良	外反し 断面に直			1条	8	
83	3	25K	0405		弥生	20.5			口縁部 1/4	横ナゲ	磨き	磨き		赤	赤	白灰	良好	外反し 断面に直			1条	5	
83	4	25K	0405		弥生	17.0			口縁部 1/4	横ナゲ	磨き	磨き		赤	赤	白灰	中々良	外反し 断面に直			1条	7	
83	5	25K	0405		弥生				体部 1/4		磨き	磨き		赤	赤	白灰	良好				1条	9	
83	6	25K	0405		弥生	28.0			上平部 1/3	横ナゲ	刷毛	ナゲ		赤	赤	白灰	中々良	凸部貼付			1条	3	
83	7	25K	0405		弥生	32.6			上平部 1/2	横ナゲ	刷毛	ナゲ		赤	赤	白灰	良好	凸部貼付			1条	10	
83	8	25K	0405		弥生	34.0			口縁部 1/8	横ナゲ	ナゲ	工具ナゲ		赤	赤	白灰、金銅屑	中々良	凸部貼付			1条	1	
83	9	25K	0405		弥生	34.0			口縁部 1/3	横ナゲ	刷毛	ナゲ		赤	赤	白灰	良好	凸部貼付			1条	2	
83	10	25K	0405		弥生		8.4		底部のみ		刷毛	ナゲ	ナゲ	ナゲ	褐色	赤	中々良	中々良				1条	4
83	11	25K	0405		弥生	30.0			口縁部 1/6	横ナゲ	工具ナゲ	刷毛		赤	赤	白灰、金銅屑	中々良	横切に直			1条	11	
84	1	25K	0414		弥生				体部 刷毛		不明	ナゲ		赤	赤	白灰	中々良				1条	1	
84	2	25K	0414		弥生		7.9		底部 1/2		ナゲ	横ナゲ	ナゲ	不明	褐色	赤	良	良好				1条	2
85	1	25K	0418		弥生	5.9	7.2		底面欠損	横ナゲ	横ナゲ	ナゲ	横ナゲ	赤褐色	良	良好	良好	打ち欠き				1条	1
85	3	25K	0418		弥生	18.0	6.6	6.4	口縁部 一部欠損	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ	ナゲ	ナゲ	赤褐色	良	良好	内側				1条	1
85	4	25K	0418	II	弥生	6.7	2.9	6.0	口縁部 欠損		ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	褐色	良	良好	打ち欠き				1条	1
85	5	25K	0418	III	弥生	5.8		6.0	口縁部 欠損		刷毛	ナゲ	ナゲ	ナゲ	赤褐色	赤	白灰、金銅屑	中々良	打ち欠き			1条	2
85	6	25K	0418	III	弥生	15.3			口縁部 1/4	横ナゲ	工具ナゲ	不明			赤褐色	赤	良好	良好	横かに内側			1条	3
86	1	25K	0420		弥生				上平部		磨き	磨き	横ナゲ	ナゲ	赤	赤	白灰	良好				1条	1
87	1	25K	0423		弥生	43.0			上平部 1/3	横ナゲ	磨き	不明			赤褐色	赤	良	良好	凸部貼付			1条	5
87	2	25K	0423		弥生	33.0	6.0	23.0	口縁部 1/3欠損	横ナゲ	刷毛	横ナゲ	ナゲ	ナゲ	赤	赤	白灰、金銅屑	良	凸部貼付			1条	1
88	12	25K	0423	II	弥生				体部 刷毛		磨き	ナゲ			赤褐色	赤	良	良好				1条	1
88	17	25K	0423	IV	弥生	17.0	5.0	16.0	1/2	横ナゲ	刷毛	横ナゲ	不明	不明	ナゲ	赤	赤	白灰	凸部貼付 上部に直			1条	1
89	18	25K	0423	V	弥生	28.0			口縁部 1/6	横ナゲ	不明	ナゲ			赤褐色	赤	良好	外反			1条	6	
89	19	25K	0423	V	弥生	16.8			口縁部 1/2	横ナゲ	刷毛	ナゲ			赤褐色	赤	良好	外反			1条	2	
89	20	25K	0423	V	弥生		7.4		底部のみ		不明	ナゲ	ナゲ	ナゲ	褐色	赤	中々良	中々良				1条	7
89	21	25K	0423	V	弥生		10.2		底部のみ		ナゲ		ナゲ	ナゲ	褐色	赤	中々良	中々良				1条	6
89	22	25K	0423	V	弥生	14.8			口縁部 1/4	不明	不明	不明			褐色	赤	中々良	外方に びらく				1条	3
89	23	25K	0423	V	弥生	17.0			口縁部 1/3	横ナゲ	磨き	刷毛	ナゲ		赤褐色	赤	良好	外反				1条	1

Tab.10 出土土器一覧⑥



Fla.	No.	遺構	番号	階位	種別	部種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	保存	口縁部	体外面	体内部	内底面	外底面	色 調	胎土	含有物	焼成	口縁部	口縁部	胴部凸帯	備 考	尺 寸	
89	26	25X	0423	V	弥生 壺	壺				残部破片	磨き	ナブ				黄褐色	中々硬	良好				底面に凸帯1条 胴部に凸帯1条	4		
89	26	25X	0423	VI	弥生 壺	壺	31.0			上半部	横ナブ	刷毛	ナブ			灰褐色 内:黄褐色	硬	灰褐色・黄褐色	良	凸帯貼付 上部に凸	1条	1条		6	
89	27	25X	0423	VI	弥生 壺	壺	27.2			底面欠損	横ナブ	刷毛	ナブ			灰褐色 内:黄褐色	硬	黄褐色・赤褐色 赤褐色	良	凸帯貼付	1条	1条	1条 1条	7	
89	28	25X	0423	VI	弥生 壺	壺	27.2			上半部	横ナブ	刷毛	ナブ			黄褐色	中々硬	中々不良	凸帯貼付	1条	1条	1条 1条	8		
89	29	25X	0423	VI	弥生 壺	壺				口縁部 破片	横ナブ	横ナブ	ナブ			灰褐色 内:黄褐色	中々硬	黄褐色・赤褐色 赤褐色	良	凸帯貼付 上部に凸	1条	1条		2	
89	30	25X	0423	VI	弥生 壺	壺	29.0			口縁部 1/3	横ナブ	刷毛	ナブ			灰褐色 内:黄褐色	中々硬	灰褐色・黄褐色 赤褐色	良	内反 縁部に凸				3	
89	31	25X	0423	VI	弥生 壺	壺		2.2		下半部 1/3		磨き	ナブ	ナブ	ナブ	灰褐色 内:黄褐色	硬	灰褐色・黄褐色	良					5	
89	32	25X	0423	VI	弥生 壺	壺	18.0			上半部 1/3	横ナブ	磨き	磨き			灰褐色 内:黄褐色	硬	黄褐色・赤褐色 赤褐色	良	縁部に外反 縁部に凸				4	
90	1	25X	0424		弥生 壺	壺				口縁部 破片	横ナブ	刷毛	ナブ			灰褐色 内:黄褐色	硬	黄褐色・赤褐色	良		2条	2条		2	
89	2	25X	0424		弥生 壺	壺		9.0		底面のみ	工具ナブ	工具ナブ	工具ナブ	ナブ	ナブ	灰褐色 内:黄褐色	硬	黄褐色・赤褐色 赤褐色	良					1	
91	6	25X	0426	III	弥生 壺	壺	11.4			口縁部 1/4	横ナブ	磨き	ナブ			黄褐色	硬	黄褐色・赤褐色	良	外反				1	
91	6	25X	0426	VI	弥生 壺	壺		9.6		下半部		不明	不明	不明	不明	灰褐色 内:黄褐色	中々硬	黄褐色	中々良					1	
91	7	25X	0426	VII	弥生 壺	壺				口縁部 破片	横ナブ	横ナブ	ナブ			黄褐色	硬	黄褐色・赤褐色	良	外反し 縁部に凸			口縁部内面に凸帯1条貼付	1	
92	1	25X	0428		弥生 鉢	鉢	10.0	4.0	3.7	ほぼ完整	横ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	灰褐色 内:黄褐色	硬	灰褐色・黄褐色	良	縁部に内反				1	
92	2	25X	0428	III	弥生 壺	壺				口縁部 破片	横ナブ	ナブ	ナブ			灰褐色 内:黄褐色	硬	黄褐色・赤褐色	良	外反			口縁部破片の下部に刻目あり	1	
92	4	25X	0429	II	弥生 壺	壺	26.0			口縁部 1/8	横ナブ	刷毛	工具ナブ			黄褐色	中々硬	黄褐色・黄褐色	良	外反			底面に凸帯1条貼付	1	
92	5	25X	0429	IV	弥生 壺	壺				口縁部 破片	横ナブ	工具ナブ	工具ナブ			黄褐色	硬	良	外反し 縁部に凸				口縁部破片の上部に刻目あり	4	
92	6	25X	0429	VI	弥生 壺	壺				口縁部 破片	横ナブ	ナブ	ナブ			黄褐色	中々硬	中々良	凸帯貼付	1条	1条	1条 1条	1		
92	7	25X	0429	VI	弥生 壺	壺				体部 破片	磨き	磨ナブ				黄褐色	中々硬	灰褐色	中々良				底面に凸帯1条貼付 1条	2	
93	2	25X	0431		凸帯文 壺	壺				体部 破片	ナブ	横ナブ				灰褐色 内:黄褐色	中々硬	黄褐色	中々良					1	
93	2	25X	0431		凸帯文 壺	壺				口縁部 破片	横ナブ	横ナブ	横ナブ	ナブ		黄褐色	中々硬	灰褐色	良好	内反			1条 1条	外縁部が	2
93	3	25X	0431	VI	弥生 壺	壺				口縁部 破片	横ナブ	刷毛	ナブ			灰褐色 内:黄褐色	中々硬	黄褐色・赤褐色	良好	凸帯貼付 上部に凸	1条	1条	1条 1条	1	
94	1	25X	0432	VI	弥生 壺	壺	26.0			口縁部 1/4	横ナブ	ナブ	ナブ			灰褐色 内:黄褐色	中々硬	黄褐色	良好	凸帯貼付	1条	1条	1条 1条	1	
94	3	25X	0433		弥生 壺	壺	20.6			口縁部 1/9	横ナブ	不明	不明			灰褐色 内:黄褐色	硬	黄褐色・赤褐色	良好	外反			1条 1条	口縁部下部に刻目を有す	1
94	4	25X	0433		弥生 壺	壺	8.5	5.0	9.3	上半部 1/3欠損	横ナブ	刷毛	工具ナブ	工具ナブ	ナブ	灰褐色 内:黄褐色	中々硬	灰褐色・黄褐色	良好	ほぼ直立					2
95	1	25X	0434		弥生 壺	壺	26.2	8.9	26.2	ほぼ完整	横ナブ	刷毛	ナブ	ナブ	不明	灰褐色 内:黄褐色	硬	灰褐色・黄褐色	良好	凸帯貼付	1条	1条	1条 1条	1	
95	2	25X	0434		土師 高杯	高杯	17.2			杯部 1/2	横ナブ	ナブ	ナブ			黄褐色	硬	良好	外反					2	
96	7	25X	0434	2	弥生 壺	壺				体部 破片	彩文	ナブ				灰褐色 内:黄褐色	硬	中々良					彩文土師 縁部に凸帯1条あり	1	
96	8	25X	0434	2	弥生 壺	壺	11.2			底面 1/4	横ナブ	ナブ	横ナブ	工具ナブ		黄褐色	硬	灰褐色・黄褐色	良好					外底面に凸帯 1条あり	1
96	9	25X	0434	8	弥生 壺	壺	10.0			底面のみ	刷毛	ナブ	ナブ	磨ナブ		黄褐色	硬	黄褐色・黄褐色	良好					外底面に凸帯 1条あり	1
96	11	25X	0434	10	弥生 壺	壺	5.8			下半部 1/2	横ナブ	工具ナブ	ナブ	不明		黄褐色	中々硬	黄褐色	中々良						1
96	12	25X	0434	11	弥生 壺	壺				口縁部 破片	横ナブ					黄褐色	硬	黄褐色	良好	外反					1
97	1	25X	0435		弥生 壺	壺				体部 破片	磨き	横ナブ				黄褐色	硬	灰褐色・黄褐色	良好					縁部に刻目1条あり	1
97	2	25X	0435		弥生 壺	壺	25.1			上半部	横ナブ	不明	ナブ			灰褐色 内:黄褐色	中々硬	黄褐色	良好	小さな凸帯貼付	1条	1条	1条 1条	2	
97	3	25X	0435	V	凸帯文 壺	壺				口縁部 破片	横ナブ					灰褐色 内:黄褐色	中々硬	黄褐色	良	内反し 凸帯貼付	1条	1条	1条 1条	刻目は中々大い	1
97	4	25X	0435	VII	弥生 壺	壺	28.8			底面欠損	横ナブ	ナブ	ナブ			灰褐色 内:黄褐色	中々硬	灰褐色・黄褐色	良好	凸帯貼付	1条	1条	1条 1条	6	
97	5	25X	0435	VIII	弥生 壺	壺	35.0			口縁部 1/4	横ナブ	不明	ナブ			黄褐色	硬	灰褐色・黄褐色	中々良	凸帯貼付	2条	2条	2条 2条	2	
97	6	25X	0435	IX	弥生 壺	壺	22.4	6.4	16.4	1/2	横ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	灰褐色 内:黄褐色	中々硬	良好	凸帯貼付	1条	1条	1条 1条	4		
97	7	25X	0435	VII	弥生 壺	壺	29.4			口縁部 1/4	横ナブ	不明	不明			灰褐色 内:黄褐色	中々硬	黄褐色・赤褐色	中々良	凸帯貼付	1条	1条	1条 1条	3	
97	8	25X	0435	VII	弥生 壺	壺	30.3			口縁部 1/4	横ナブ	ナブ	ナブ			灰褐色 内:黄褐色	硬	外反	良好	外反 刻目有			2条 2条	1	
98	9	25X	0435	VII	弥生 壺	壺	15.9			1/4	横ナブ	ナブ	ナブ			黄褐色	中々硬	灰褐色・黄褐色	良好	ほぼ直立				6	
98	12	25X	0435	VII	弥生 壺	壺	19.9			口縁部 1/2	横ナブ	不明	ナブ			灰褐色 内:黄褐色	硬	灰褐色・黄褐色 黄褐色	良好	外反			2条 2条	口縁部破片の下部に刻目あり	1
98	13	25X	0435	VIII	弥生 壺	壺	28.9	8.0	22.7	ほぼ完整	横ナブ	不明	不明	不明	ナブ	黄褐色	中々硬	灰褐色・黄褐色	良好	凸帯貼付	1条	1条	1条 1条	2	
98	14	25X	0435	VIII	弥生 壺	壺	31.2	7.7	30.4	1/2	横ナブ	不明	不明			黄褐色	中々硬	灰褐色・黄褐色 黄褐色	良好	外反 刻目有			2条 2条	3	
98	15	25X	0435	X	弥生 壺	壺	27.4			1/3	横ナブ	ナブ	ナブ			灰褐色 内:黄褐色	硬	灰褐色・黄褐色	良好	凸帯貼付	1条	1条	1条 1条	1	
98	16	25X	0435	X	弥生 壺	壺				口縁部 破片	横ナブ	不明	ナブ			灰褐色 内:黄褐色	中々硬	灰褐色・黄褐色	良好	凸帯貼付	1条	1条	1条 1条	2	
98	17	25X	0435	X	弥生 壺	壺	29.9			口縁部 1/3	横ナブ	工具ナブ	ナブ			灰褐色 内:黄褐色	中々硬	黄褐色・黄褐色 黄褐色	良好	凸帯貼付	1条	1条	1条 1条	3	
98	18	25X	0435	XI	弥生 壺	壺	24.4			上半部 1/2	横ナブ	不明	工具ナブ			灰褐色 内:黄褐色	硬	黄褐色・黄褐色 黄褐色	良好	凸帯貼付	1条	1条	1条 1条	1	
99	2	25X	0436		弥生 壺	壺	20.0			口縁部 のみ	不明	不明	不明			黄褐色	中々硬	黄褐色	中々不良	外反し 縁部に凸					1
99	3	25X	0436		弥生 壺	壺		8.0		下半部1/2	磨き	不明	不明	不明	ナブ	黄褐色	硬	不良						3	
99	4	25X	0436		弥生 壺	壺	21.4			口縁部 のみ	横ナブ	磨き	磨き			黄褐色	中々硬	良	外反					縁部に凸帯1条貼付	2
100	1	25X	0437		弥生 深鉢	深鉢	6.0			上半部 1/4	横ナブ	ナブ	ナブ			黄褐色	硬	赤褐色	良好	内反				底面に凸帯文	2
100	2	25X	0437		弥生 壺	壺				口縁部 破片	横ナブ	磨き	磨き			灰褐色 内:黄褐色	中々硬	良好	凸帯貼付	1条	1条			3	
100	3	25X	0437		弥生 壺	壺	20.3			上半部	横ナブ	ナブ	ナブ			黄褐色	硬	灰褐色	不良	凸帯貼付	1条	1条	1条 1条	4	

Tab.11 出土土器一覽①

Flg.	No.	遺構	番号	層位	種類	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色 調	胎土	含有粒子	組成	口縁部 形状	口縁部 凸部	側面凸部	備 考	尺 寸				
100	4	25K	0437		養生	壺	27.0			上半部 1/5	横ナブ	ナブ	ナブ			緑褐色	密	黒炭多	良	凸帯貼付	1条 刻目有	1条 刻目有		2				
100	5	25K	0437		養生	壺	14.0	6.0	12.0	ほぼ完形	横ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	緑褐色	やや密	黒炭多	やや良	外反				口縁部に刻目有 底面に底径(φ×3cm)	6			
100	6	25K	0437		養生	壺	12.2			口縁部 1/8	横ナブ	不明	ナブ			緑褐色	密	黒炭多	良	強く外反		1条			1			
100	7	25K	0437		養生	壺	20.0			胴部 1/4	横ナブ	磨き	磨き			緑褐色	やや密	黒炭多・黒砂多	良						7			
101	1	25K	0438		養生	壺				口縁部 細片	横ナブ	工具ナブ	工具ナブ			緑褐色	やや密	黒炭多	やや良	凸帯貼付	1条 刻目有				4			
101	2	25K	0438		養生	壺				口縁部 細片	横ナブ	ナブ	ナブ			緑褐色	密	黒炭多	良好	凸帯貼付	1条 刻目有	1条 刻目有	底径2.7		3			
101	3	25K	0438		養生	壺				1/3	横ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	不明	緑褐色	やや密	黒炭多	ほぼ良	加蓋形					口縁部に刻目有 底面に底径(φ×3cm)	6		
101	4	25K	0438		養生	壺	11.8			上半部 1/3	磨き	磨き	ナブ			黒褐色	密	黒炭多	良好	外反し 端部に面有						2		
101	5	25K	0438		養生	壺	20.8	8.0	27.0	下半部 2/3欠損	磨き	磨き	磨き 不明	不明	ナブ	緑褐色	やや密	黒炭多	やや良	強く外反 外面肥厚					底面に底径(φ×3cm)	1		
101	6	25K	0438		養生	壺				胴部 1/4	横ナブ	工具ナブ	工具ナブ			緑褐色	やや密	黒炭多	良	外反し 端部に面有						6		
101	9	25K	0438	II	養生	壺	24.0			口縁部 1/2	横ナブ	工具ナブ	ナブ			緑褐色	やや密	黒炭多	やや不良	外反し 端部に面有					口縁部の下に刻目有	1		
101	10	25K	0438	IV	養生	壺	26.0			口縁部 1/2	横ナブ	不明	不明			緑褐色	やや密	黒炭多	不良	凸帯貼付	1条 刻目有	1条			底径凸部の下に刻目有	1		
101	11	25K	0438	IV	養生	壺	17.6			上半部 3/4	横ナブ	ナブ	ナブ			緑褐色	やや密	黒炭多	やや良	外反し 端部に面有					口縁部に刻目有	3		
101	12	25K	0438	IV	養生	壺	21.0			上半部 1/3	横ナブ	ナブ	ナブ			緑褐色	やや密	黒炭多	やや不良	外反し 端部に面有					口縁部の下に刻目有	2		
102	2	25K	0439		養生	壺	27.0			口縁部 1/4	横ナブ	不明	ナブ			外・緑褐色 内・緑褐色	密	黒炭多・黒砂多	良好	凸帯貼付 上部に面	1条 刻目有	1条 刻目有			底外面に底径(φ×3cm)	5		
102	3	25K	0439		養生	壺	24.0			口縁部 1/4	横ナブ	不明	ナブ			外・緑褐色 内・緑褐色	密	黒炭多・黒砂多	良好	凸帯貼付	1条 刻目有					6		
102	4	25K	0439		養生	壺	26.6	6.8	31.2	完形	横ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	緑褐色	やや密	黒炭多・黒砂多	良好	凸帯貼付	1条 刻目有	1条 刻目有				3		
102	5	25K	0439		養生	壺	28.2	8.0	29.4	完形	横ナブ	不明	ナブ	ナブ	ナブ	外・緑褐色 内・緑褐色	やや密	黒炭多・黒砂多	良好	凸帯貼付	1条 刻目有	1条 刻目有				4		
102	6	25K	0439		養生	壺		7.9		底径のみ	工具ナブ	工具ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	外・緑褐色 内・緑褐色	やや密	黒炭多・黒砂多	良好							2		
102	7	25K	0439		養生	壺				体部 1/4	工具ナブ	工具ナブ				外・緑褐色 内・緑褐色	密	黒炭多・黒砂多	良好						底面に刻目凸部1条有	1		
103	1	25K	0440		養生	壺				口縁部 1/4	横ナブ	刷毛	ナブ			外・緑褐色 内・緑褐色	密	黒炭多	良好	凸帯貼付	形状不明	1条					1	
104	9	25K	0440	VI	養生	壺		7.6		底径のみ	刷毛	ナブ?	ナブ?	ナブ	ナブ	外・緑褐色 内・緑褐色	密	黒炭多・黒砂多	良							底面に外反から底径(φ×3cm)有	1	
104	10	25K	0440	VII	養生	壺				口縁部 細片	横ナブ	横ナブ	工具ナブ			外・緑褐色 内・緑褐色	やや密	黒炭多	良好	凸帯貼付	1条 刻目有	1条					1	
105	1	25K	0441		養生	壺	28.0	7.5	27.0	1/6	横ナブ	磨き	ナブ	ナブ	ナブ	外・緑褐色 内・緑褐色	密	黒炭多・黒砂多	良	凸帯貼付	1条 刻目有	1条 刻目有				1		
106	1	25K	0445		養生	壺	24.4			上半部 5/6	横ナブ	刷毛	ナブ			外・緑褐色 内・緑褐色	やや密	黒炭多・黒砂多	良	凸帯貼付	1条 刻目有	1条 刻目有				外・同一器種ナブ?	2	
106	2	25K	0445		養生	壺	34.0			上半部 1/3	横ナブ	不明	ナブ			外・緑褐色 内・緑褐色	やや密	黒炭多・黒砂多	やや良	凸帯貼付 上部に面	1条 刻目有	1条				1		
106	3	25K	0445		養生	壺	17.0			口縁部 1/4	横ナブ	刷毛	工具ナブ			外・緑褐色 内・緑褐色	やや密	黒炭多	やや良	凸帯貼付	1条 刻目有					5		
106	4	25K	0445		養生	壺		6.6		底径のみ	刷毛	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	外・緑褐色 内・緑褐色	密	黒炭多・黒砂多	良							外・同一器種ナブ?	3	
106	5	25K	0445		養生	壺		5.3		底径のみ		不明	不明	不明	不明	外・緑褐色 内・緑褐色	やや密	黒炭多	やや不良								4	
106	6	25K	0445		養生	壺				体部細片	不明	不明				緑褐色	密	黒炭多	やや良							底外面に刻目凸部1条有	6	
107	1	25K	0448		凸帯文	壺				体部細片	横ナブ	ナブ				緑褐色	やや密	黒炭多	やや不良							1条 刻目有	外縁部	2
107	2	25K	0448		養生	壺	29.0			上半部 1/2	横ナブ	ナブ	ナブ			外・緑褐色 内・緑褐色	密	黒炭多	良	凸帯貼付	1条 刻目有	1条 刻目有					7	
107	3	25K	0448		養生	壺		7.8		下半部	刷毛	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	緑褐色	やや密	黒炭多	良								外底面に底径(φ×3cm)有	3
107	4	25K	0448		凸帯文	壺	8.0			口縁部 1/4	横ナブ	ナブ	不明			緑褐色	密	黒炭多・黒砂多	良	外反							底径(φ×3cm)有	1
107	5	25K	0448		養生	壺				体部 1/4	磨き	磨き ナブ				外・緑褐色 内・緑褐色	良好	黒炭多	良								底面に凸帯1条貼付 (底径(φ×3cm)有)	4
107	6	25K	0448		養生	壺		7.0		底径のみ	磨き	工具ナブ	工具ナブ	工具ナブ	ナブ	緑褐色	良好	黒炭多	良									5
107	7	25K	0448		養生	壺	30.0	10.0	49.8	1/3	横ナブ	磨き	工具ナブ	ナブ	ナブ	緑褐色	やや不良	黒炭多	やや不良	外反し 端部に面有							底面に底径(φ×3cm)有	6
108	1	25K	0451		養生	高坏				体部 1/3	ナブ	ナブ				外・緑褐色 内・緑褐色	密	黒炭多・黒砂多	良								内縁部	4
108	2	25K	0451		養生	壺	8.0			口縁部 1/3	横ナブ	ナブ	ナブ			外・緑褐色 内・緑褐色	密	黒炭多・黒砂多	良	大きく 外反							2	
108	3	25K	0451		養生	壺	10.0			口縁部 1/6	横ナブ	磨き	横ナブ			外・緑褐色 内・緑褐色	密	黒炭多・黒砂多	良	内側							底径 内径(φ×3cm)	1
109	4	25K	0451		養生	壺	5.0			口縁部 1/3	横ナブ	ナブ	ナブ			外・緑褐色 内・緑褐色	密	黒炭多・黒砂多	良	二重口縁							3	
110	1	25K	0453		養生	把手				把手のみ	ナブ	ナブ				乳白色	密	黒炭多・黒砂多	良								1	
110	5	25K	0453	II	養生	壺	29.4			口縁部 1/4	横ナブ	ナブ	ナブ			外・緑褐色 内・緑褐色	密	黒炭多・黒砂多	良	内側						1条 刻目有	口縁部外縁部に刻目有	3
110	6	25K	0453	II	養生	壺	22.0			口縁部 1/6	横ナブ	横ナブ	ナブ			外・緑褐色 内・緑褐色	密	黒炭多・黒砂多	良	加蓋形							口縁部の下に刻目有	4
110	7	25K	0453	II	養生	鉢	7.5	4.4	3.5	1/2	横ナブ	横ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	外・緑褐色 内・緑褐色	密	黒炭多・黒砂多	良	外方に開く 端部に面							底径(φ×3cm)有	1
110	8	25K	0453	II	養生	鉢	4.8			底径のみ	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	外・緑褐色 内・緑褐色	密	黒炭多・黒砂多	良								2	
111	10	25K	0453	III	養生	壺	16.6			口縁部 1/3	横ナブ	ナブ	ナブ			外・緑褐色 内・緑褐色	密	黒炭多・黒砂多	良	凸帯貼付	1条 刻目有						2	
111	11	25K	0453	III	養生	壺	24.0			口縁部 1/3	横ナブ	ナブ	ナブ			外・緑褐色 内・緑褐色	密	黒炭多・黒砂多	良	外反 端部に面有							底径(φ×3cm)有	1
111	12	25K	0453	III	養生	壺		8.0		底径のみ	工具ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	外・緑褐色 内・緑褐色	やや密	黒炭多・黒砂多	良好								底径(φ×3cm)有	4
111	13	25K	0453	III	養生	壺	14.0			口縁部 1/4	横ナブ	磨き	磨き			外・緑褐色 内・緑褐色	密	黒炭多・黒砂多	良	外反 外面肥厚							底径(φ×3cm)有	3
111	14	25K	0453	IV	養生	壺	20.0	7.8	25.5	1/8	横ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	緑褐色	密	黒炭多・黒砂多	やや良	凸帯貼付	1条 刻目有	1条 刻目有					1	
111	15	25K	0453	IV	養生	壺	26.0			口縁部 1/4	横ナブ	磨き	磨き			外・緑褐色 内・緑褐色	密	黒炭多・黒砂多	良	外反 端部に面有							1条	2
111	16	25K	0453	IV	養生	壺		6.0		底径のみ	不明	不明	不明	不明	不明	外・緑褐色 内・緑褐色	粗	黒炭多	不良								底径(φ×3cm)有	4
111	17	25K	0453	IV	養生	壺	25.2			上半部 1/2	横ナブ	磨き	ナブ	ナブ	ナブ	外・緑褐色 内・緑褐色	やや密	黒炭多	良好	外反 外面肥厚					</			

Fig.	No.	遺構	番号	層位	種類	部類	口径 (cm)	口径 (cm)	高さ (cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	含有粒子	構成	口縁部形状	口縁部凸部	脚部凸部	備考	尺・No.	
111	19	25X	0455	IV	弥生	壺	18.0		10.9	5/8	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色・赤色胎土・赤色胎土	赤	縁部に面			口縁部は面	3	
112	1	25X	0457		弥生	壺	20.4	8.0	28.4	完形	横ナデ	工具ナデ	工具ナデ	工具ナデ	ナデ	赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色	良好	凸部貼付	1条 刻目有		口縁部は面 (17×26cm)	1	
112	2	25X	0457		弥生	壺				破損断片	不明	ナデ				赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色	良好				口縁部は面・破損断片	2	
112	8	25X	0460		弥生	壺				口縁部断片	横ナデ	横ナデ	横ナデ			赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色	良好	凸部貼付 縁部先状	1条 刻目有	1条 刻目有	口縁部は面	1	
113	1	25X	0465		弥生	壺	32.0			口縁部断片	横ナデ	横ナデ	横ナデ			赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色・赤色胎土・赤色胎土	良好	凸部貼付	1条 刻目有	2条 刻目有	口縁部は面・口縁部凸部あり	2	
113	2	25X	0465		弥生	壺				口縁部断片	横ナデ	横ナデ	横ナデ			赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色	良好	凸部貼付 縁部先状	1条 刻目有	1条 刻目有	口縁部は面	1	
114	1	25X	0495		弥生	壺	20.0			底面欠損	横ナデ	ナデ	ナデ			赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色・赤色胎土	良好	凸部貼付	1条 刻目有		口縁部は面	2	
114	2	25X	0495		弥生	壺	22.8			口縁部1/2	横ナデ	ナデ	ナデ			赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色・赤色胎土・赤色胎土	良好	凸部貼付	1条 刻目有		口縁部は面	1	
114	3	25X	0501		弥生	壺	23.9			口縁部1/4	横ナデ	ナデ	工具ナデ			赤黒色	赤	赤黒色	良好	凸部貼付	1条 刻目有	1条 刻目有	口縁部は面	1	
115	1	25X	0602		弥生	壺	28.0			上半部1/2	横ナデ	ナデ	工具ナデ			赤黒色	赤	赤黒色	良好	外反 縁部に面			口縁部は面	1	
115	2	25X	0602		弥生	壺		9.0		下半部のみ	不明	工具ナデ	刷毛	ナデ	赤黒色	赤	赤黒色	良好	外反				口縁部は面	2	
115	3	25X	0602		弥生	台付壺		11.0		胴部のみ			横ナデ	横ナデ	赤黒色	赤	赤黒色	良好					口縁部は面	3	
115	4	25X	0602		弥生	風杯		19.5		胴部のみ	横ナデ	刷毛	磨き			赤黒色	赤	赤黒色	良好				口縁部は面	8	
115	8	25X	0602		弥生	器台		7.8	12.0	10.8	一部欠損	ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	赤黒色	赤	赤黒色	良好	外反			口縁部は面	8
116	8	25X	0602		弥生	器台		14.8	14.7	18.0	横ナデ	刷毛	ナデ	不明	不明	赤黒色	赤	赤黒色	良好	外反 縁部に面			口縁部は面	4	
116	1	25X	0606		弥生	壺				胴部1/4	横ナデ	横ナデ				赤黒色	赤	赤黒色	良好				口縁部は面	5	
116	2	25X	0606		弥生	瓶	12.2	6.0	4.3	1/4	横ナデ	磨き	磨き	磨き	横ナデ	赤黒色	赤	赤黒色	良好	外反			口縁部は面	4	
116	3	25X	0606		弥生	土師	陶	13.6			口縁部1/5	横ナデ	横ナデ	横ナデ			赤黒色	赤	赤黒色	良好	外反			口縁部は面	2
116	4	25X	0606		弥生	土師	陶		8.8		底面1/2	不明	不明	不明	不明	赤黒色	赤	赤黒色	良好				口縁部は面	3	
116	5	25X	0606		弥生	土師	壺	10.0	7.0	1.2	1/4	横ナデ	横ナデ	横ナデ	ナデ	刷毛	赤黒色	赤	赤黒色	良好	外反			口縁部は面	1
117	1	25X	0607		弥生	壺	21.4			上半部1/4	横ナデ	ナデ	ナデ			赤黒色	赤	赤黒色	良好	凸部貼付	1条 刻目有		口縁部は面	2	
117	2	25X	0607		弥生	壺				口縁部断片	横ナデ	工具ナデ	ナデ			赤黒色	赤	赤黒色	良好	凸部貼付	1条 刻目有		口縁部は面	3	
117	3	25X	0607		弥生	壺	30.0			口縁部1/8	不明	不明	不明			赤黒色	赤	赤黒色	良好	外反 縁部に面		1条	口縁部は面	1	
119	1	25X	0624		弥生	壺				上半部のみ	工具ナデ	工具ナデ	工具ナデ	ナデ		赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色・赤色胎土	良好				口縁部は面	2	
119	2	25X	0624		弥生	壺				つまみ部のみ	工具ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色・赤色胎土	良好				口縁部は面	1	
119	3	25X	0624		弥生	壺	32.0			口縁部1/4	横ナデ	工具ナデ	ナデ			赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色・赤色胎土・赤色胎土	良好	凸部貼付	1条 刻目有		口縁部は面	4	
119	4	25X	0624		弥生	壺		8.0		底面のみ	工具ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色	良好				口縁部は面	3	
119	8	25X	0624	II-2	弥生	鉢				口縁部断片	横ナデ	刷毛	不明			赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色	良好	内反 縁部に面			口縁部は面	1	
120	11	25X	0624	IV-12	弥生	壺	31.9			口縁部1/4	横ナデ	ナデ	ナデ			赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色・赤色胎土・赤色胎土	良好	凸部貼付	1条 刻目有	1条 刻目有	口縁部は面	2	
120	12	25X	0624	IV-12	弥生	壺				口縁部断片	横ナデ	ナデ	ナデ			赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色	良好	凸部貼付	1条 刻目有		口縁部は面	3	
120	13	25X	0624	IV-9	弥生	壺		8.8		底面1/4	工具ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色・赤色胎土・赤色胎土	良好				口縁部は面 (17×26cm)	1	
120	14	25X	0624	IV-12	弥生	壺		8.0		底面のみ	工具ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色・赤色胎土・赤色胎土	良好				口縁部は面 (17×26cm)	1	
120	15	25X	0624	V-15	弥生	壺				口縁部断片	横ナデ	ナデ	ナデ			赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色	良好	凸部貼付	1条 刻目有		口縁部は面	1	
120	16	25X	0624	V-15	弥生	壺				口縁部1/7	横ナデ	刷毛	ナデ			赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色	良好	外反			口縁部は面	3	
120	17	25X	0624	V-15	弥生	壺				口縁部断片	横ナデ	磨き	磨き			赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色	良好	凸部貼付	1条 刻目有		口縁部は面	2	
121	4	25X	0625	I	弥生	鉢				口縁部断片	横ナデ	ナデ	ナデ			赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色	良好	凸部貼付	1条 刻目有		口縁部は面	1	
121	10	25X	0625	II	弥生	壺	14.7			上半部1/4	横ナデ	磨き	磨き			赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色	良好	外反 縁部に面			口縁部は面	1	
121	11	25X	0625	IV	弥生	壺				口縁部断片	横ナデ	横ナデ	ナデ			赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色・赤色胎土・赤色胎土	良好	凸部貼付 上部に面	1条 刻目有		口縁部は面	1	
122	1	25X	0626		弥生	壺				体面断片	平行切ぎ	平行切ぎ				赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色	良好				口縁部は面	2	
122	2	25X	0626		弥生	壺	20.7	8.1	25.8	ほぼ完形	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	赤黒色	赤	赤黒色	良好	口蓋部			口縁部は面	3	
122	3	25X	0626		弥生	壺				体面1/2	磨き	ナデ				赤黒色	赤	赤黒色	良好				口縁部は面	1	
122	4	25X	0629		弥生	壺	13.9			口縁部1/3	横ナデ	工具ナデ	工具ナデ			赤黒色	赤	赤黒色	良好	外反 縁部に面			口縁部は面	1	
123	1	25X	0640		弥生	壺	25.0			口縁部1/2	横ナデ	横ナデ	ナデ			赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色・赤色胎土・赤色胎土	良好	凸部貼付	1条 刻目有	1条 刻目有	口縁部は面	4	
123	2	25X	0640		弥生	壺	29.0			口縁部1/4	横ナデ	刷毛	ナデ			赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色・赤色胎土・赤色胎土	良好	凸部貼付	1条 刻目有	1条 刻目有	口縁部は面	6	
123	3	25X	0640		弥生	壺	9.0	4.5	8.0	ほぼ完形	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色・赤色胎土・赤色胎土	良好	外反			口縁部は面	5	
123	4	25X	0640		弥生	壺	29.0			口縁部1/8	横ナデ	工具ナデ	ナデ			赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色・赤色胎土・赤色胎土	良好	外反		1条 刻目有	口縁部は面	8	
123	5	25X	0640		弥生	壺	38.0			口縁部1/2	横ナデ	ナデ	ナデ			赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色・赤色胎土・赤色胎土	良好	外反		1条 刻目有	口縁部は面	7	
123	6	25X	0640		弥生	壺				つまみ部1/2	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色・赤色胎土・赤色胎土	良好				口縁部は面	10	
123	7	25X	0640		弥生	壺				上半部	工具ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色・赤色胎土・赤色胎土	良好				口縁部は面	9	
123	8	25X	0640		弥生	壺	18.0			口縁部1/4	横ナデ	刷毛	刷毛			赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色	良好	口蓋部			口縁部は面	1	
123	9	25X	0640		弥生	壺	15.0	4.0	26.5	ほぼ完形	不明	不明	不明	不明	ナデ	赤黒色	赤	赤黒色	良好	外反			口縁部は面	3	
123	10	25X	0640		弥生	壺				体面断片	ナデ	ナデ				赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色・赤色胎土	良好				口縁部は面	2	
124	1	25X	0641		弥生	壺	28.0	6.0	28.0	口縁部1/2欠損	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	赤・灰黒色 内・灰黒色	赤	赤黒色・赤色胎土・赤色胎土	良好	凸部貼付	1条 刻目有	1条 刻目有	口縁部は面	1	
124	2	25X	0641		弥生	壺	19.4			上半部1/2	横ナデ	不明	不明			赤黒色	赤	赤黒色	良好	凸部貼付 上部に面	1条 刻目有	1条 刻目有	口縁部は面	1	
124	3	25X	0641		弥生	壺	19.0			上半部1/4	横ナデ	刷毛	ナデ			赤黒色	赤	赤黒色	良好	凸部貼付 上部に面	1条		口縁部は面	2	

Tab.13 出土土器一覧⑨

Fla.	No.	遺構	番号	層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色 調	胎土	含有粒子	他部	口縁部形状	口縁部凸部	頸部凸部	備 考	頁 No.	
124	4	25K	0541		弥生	甕					口縁部 細片	横ナブ	横ナブ	ナブ		茶褐色	密		良	僅小凸外反			口縁部に割目有	5	
124	8	25K	0541		弥生	鉢?大甕?					口縁部 細片	横ナブ	磨き	磨き		茶褐色	やや密	角切石	良	きつ凸外反		2条 割目有	口縁部上下部に割目有	4	
124	6	25K	0541		弥生	甕	24.0				口縁部 1/4	横ナブ	工具ナブ	ナブ		茶褐色	密		不良	外反 外面肥厚			10		
124	7	25K	0541		弥生	甕	16.2	9.8	32.4	1/3	横ナブ	磨き	磨き 工具ナブ	工具ナブ	磨き	茶褐色	密		良好	外反 端部に面有			頸部に沈着	11	
124	8	25K	0541		弥生	甕	12.0				口縁部 1/6	磨き	磨き	磨き		外・茶褐色 内・茶褐色	密		良好	直立			頸部に凸部・漆布 口縁部下に泥有	9	
124	9	25K	0541		弥生	把手					把手のみ		ナブ	ナブ		茶褐色	密		ほぼ良				外側に割目有 径1.5cm	6	
125	1	25K	0552		弥生	大甕					口縁部 細片	横ナブ	ナブ	ナブ		緑白黄褐色	密	金雲母・角切石・ 赤色粘土・黒磁	やや良	外反 端部に面有		凸部に1条 割目有	口縁部の上下部に割目 有	15	
125	2	25K	0552		弥生	甕					口縁部 細片	横ナブ	横ナブ	ナブ		外・黄褐色 内・黄褐色	密	金雲母	良	直立		1条 割目有	口縁部外側に割目有	7	
125	3	25K	0552		弥生	甕	30.0				口縁部 1/3	横ナブ	横ナブ	ナブ		外・黄褐色 内・黄褐色	密	金雲母・角切石・ 赤色粘土	良	凸部貼付	2条	2条 割目有		16	
125	4	25K	0552		弥生	甕	33.4				口縁部 1/8	横ナブ	刷毛	ナブ		外・黄褐色 内・黄褐色	密	金雲母・角切石・ 黒磁	良	凸部貼付	1条	2条 割目有		13	
125	5	25K	0552		弥生	甕	16.0				上半部 1/4	横ナブ	刷毛	ナブ		外・黄褐色 内・黄褐色	密	金雲母・角切石・ 赤色粘土	良	外反 端部に面有				5	
125	6	25K	0552		弥生	甕		8.4			底部 のみ		ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	外・黄褐色 内・黄褐色	密	角切石・黒磁	良				外底面に割目 (7×6mm)	12
125	7	25K	0552		弥生	甕	10.0				上半部 1/3	横ナブ	工具ナブ	工具ナブ		外・黄褐色 内・黄褐色	密	黒磁・角切石 赤色粘土	良	外反			頸部に沈着	4	
125	8	25K	0552		弥生	甕	10.0				上半部 1/3	横ナブ	ナブ	ナブ		黄褐色	密	金雲母・赤色粘土	やや良	きつ凸 外反				2	
125	9	25K	0552		弥生	甕	13.0				口縁部 1/8	横ナブ	ナブ	ナブ		外・黄褐色 内・黄褐色	密	黒磁・金雲母	やや良	外反 端部に面有				6	
125	10	25K	0552		弥生	甕	18.0				上半部 1/4	横ナブ	ナブ	ナブ		黄褐色	密	金雲母	良	外反				3	
125	11	25K	0552		弥生	甕	15.2				上半部 1/4	横ナブ	ナブ	ナブ		黄褐色	密	赤色粘土	やや不良	外反		1条 割目有	頸部に沈着	1	
125	12	25K	0552		弥生	鉢?	14.0				口縁部 1/4	横ナブ	刷毛	ナブ		黄褐色	密	金雲母・角切石・ 黒磁・赤磁	良	内溝			割目か?	9	
125	13	25K	0552		弥生	鉢					口縁部 細片	横ナブ	ナブ	ナブ		外・黄褐色 内・黄褐色	密	黒磁・金雲母	良	外反		1条		8	
125	14	25K	0552		弥生	鉢	15.0	5.2	7.8		口縁部 1/2欠損	横ナブ	ナブ	工具ナブ	工具ナブ	ナブ	外・黄褐色 内・黄褐色	密	赤石・黒磁	やや良	縦溝先状				14
125	15	25K	0552		弥生	甕	6.4				1/2	横ナブ	ナブ	ナブ		外・黄褐色 内・黄褐色	密	金雲母	良	端部に面有				11	
125	16	25K	0552		弥生	甕					上半部		工具ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	外・黄褐色 内・黄褐色	密	金雲母・角切石・ 赤色粘土	良				上半部断面 1cm	10
125	18	25K	0552	I	弥生	甕	21.0				口縁部 1/3	横ナブ	刷毛	ナブ		外・黄褐色 内・黄褐色	密	黒磁・金雲母	やや不良	外反 端部に面有		1条		1	
125	19	25K	0552	I	弥生	甕		8.4			底部 1/4		ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	外・黄褐色 内・黄褐色	密	金雲母	良				外底面に割目 (7×6mm) 有	3
125	20	25K	0552	I	弥生	甕	16.4				口縁部 のみ	横ナブ	刷毛	ナブ		外・黄褐色 内・黄褐色	密	角切石・黒磁	良	外反				6	
125	21	25K	0552	I	弥生	甕		9.0			口縁部 1/4	横ナブ	刷毛	ナブ		黄褐色	密	金雲母・黒磁・角 切石	良	端部に面有				4	
125	22	25K	0552	I	弥生	甕	33.6				口縁部 1/8	横ナブ	刷毛	ナブ		外・黄褐色 内・黄褐色	密	金雲母・赤色粘土	良	端部に面有				2	
126	1	25K	0542		弥生	甕	28.0				上半部 1/4	横ナブ	刷毛	ナブ		黄褐色	やや密	黒磁	不良	凸部貼付		1条 割目有	2条 割目有		2
127	3	25K	0553		土師	坏?		8.0			底部 1/6			ナブ	横ナブ	外・黄褐色 内・黄褐色	精良	金雲母	良						2
127	4	25K	0553		土師	碗?		8.0			底部 1/4			ナブ	磨削り	外・黄褐色 内・黄褐色	密	金雲母	良						3
127	5	25K	0553		土師	鉢	18.4				口縁部 1/6	横ナブ	横ナブ	磨き		外・黄褐色 内・黄褐色	密	金雲母・赤色粘土	良	外反				1	
127	6	25K	0553		弥生	甕?					底部 細片	刷毛 ナブ	刷毛 ナブ	工具ナブ		外・黄褐色 内・黄褐色	密	金雲母・角切石・ 赤色粘土	良					1条 割目有	4
128	1	25K	0558		弥生	甕	29.6	7.6	34.3	2/3	横ナブ	刷毛	ナブ	ナブ	ナブ	茶褐色	やや密	角切石・黒磁	やや不良	凸部貼付 上部に面		1条 割目有	1条 割目有		7
128	2	25K	0558		弥生	甕	36.0	10.4	39.0	上半部 2/3欠損	横ナブ	刷毛	ナブ	ナブ	ナブ	茶褐色	密	角切石・黒磁	良	凸部貼付		1条 割目有	1条 割目有		5
129	3	25K	0558		弥生	甕	28.0				上半部 3/4	横ナブ	ナブ	ナブ		黄褐色	やや密	黒磁	不良	凸部貼付		1条 割目有	1条 割目有		6
129	4	25K	0558		弥生	甕	19.0	8.5	20.4	上半部 1/3欠損	不明	不明	ナブ	不明	ナブ	黄褐色	やや密	角切石	不良	加蓋形		1条 割目有		1条 割目有	3
129	5	25K	0558		弥生	甕	18.0				上半部 2/3	横ナブ	刷毛	刷毛 ナブ		黄褐色	密		良	縦凸外反 端部に面有				1条 割目有	4
129	6	25K	0558		弥生	甕	16.0				口縁部 1/6	横ナブ	刷毛	工具ナブ		黄褐色	やや密	角切石・黒磁	やや不良	外反					2
129	7	25K	0558		弥生	甕	3.6	2.2	4.0	一部 欠損	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	黄褐色	密		良	内溝					1
129	14	25K	0558	I	弥生	甕	27.0				上半部	横ナブ	刷毛	ナブ		外・黄褐色 内・黄褐色	密	赤色粘土・角切 石・赤色粘土・黒 磁	良	縦先状					2
129	15	25K	0558	I	弥生	甕	27.0	6.5	30.5	ほぼ定形	横ナブ	刷毛	ナブ	ナブ	ナブ	外・黄褐色 内・黄褐色	やや密	金雲母・赤色粘 土・赤色粘土・黒 磁	やや良	凸部貼付		1条 割目有	1条 割目有		6
129	16	25K	0558	I	弥生	甕					口縁部 細片	横ナブ	刷毛	ナブ		外・黄褐色 内・黄褐色	やや密	金雲母・赤色粘 土	良	凸部貼付		1条 割目有	1条 割目有		3
129	17	25K	0558	I	弥生	甕	16.0				口縁部 1/8	横ナブ	刷毛	ナブ		外・黄褐色 内・黄褐色	密	金雲母・角切石	良	外反 端部に面有					5
130	18	25K	0558	I	弥生	甕		9.0			底部 のみ	磨き 刷毛	ナブ	不明	ナブ	外・黄褐色 内・黄褐色	やや密	金雲母・黒磁・角 切石	良						1
130	19	25K	0558	I	弥生	甕		14.0			底部 のみ	刷毛	ナブ	ナブ	ナブ	外・黄褐色 内・黄褐色	密	黒磁・赤色粘土・ 赤色粘土	良						4
130	23	25K	0558	II	弥生	甕	24.6	7.6	30.8	ほぼ定形	横ナブ	刷毛	ナブ	ナブ	ナブ	茶褐色	やや密		やや不良	凸部貼付		1条 割目有	1条 割目有		8
130	24	25K	0558	II	弥生	甕	27.2				上半部	横ナブ	刷毛	ナブ		茶褐色	やや密		やや不良	凸部貼付 上部に面		1条 割目有	1条 割目有		9
130	25	25K	0558	II	弥生	甕	31.0				口縁部 1/4	横ナブ	刷毛	ナブ		外・黄褐色 内・黄褐色	密	金雲母・赤色粘 土	良	凸部貼付		1条 割目有	1条 割目有		4
130	26	25K	0558	II	弥生	甕	22.5				口縁部 1/2	横ナブ	刷毛	ナブ		黄褐色	密		良	外反					10
130	27	25K	0558	II	弥生	甕	36.0				口縁部 3/8	横ナブ	刷毛	ナブ		外・黄褐色 内・黄褐色	やや密	黒磁・金雲母・角 切石	良	外反					5
130	28	25K	0558	II	弥生	甕	28.0				上半部	横ナブ	刷毛	ナブ		茶褐色	密	黒磁・赤色粘土	ほぼ良	外反 端部に面有		1条 割目有			7
130	29	25K	0558	II	弥生	甕					口縁部 細片	横ナブ	刷毛	ナブ		外・黄褐色 内・黄褐色	やや密	金雲母・赤色粘 土	良	外反 端部に面有				1条 割目有	3
130	30	25K	0558	II	弥生	甕		6.4			底部 のみ		ナブ	ナブ	ナブ	外・黄褐色 内・黄褐色	密	角切石・黒磁	良						6
130	31	25K	0558	II	弥生	甕		7.6			底部 のみ	刷毛	ナブ	ナブ	ナブ	外・黄褐色 内・黄褐色	密	黒磁・金雲母・赤 色粘土	良						1
130	32	25K	0558	II	弥生	甕		8.0			底部 のみ	工具ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	外・黄褐色 内・黄褐色	密	黒磁・角切石・金 雲母	良						2

Tab.14 出土土器一覽⑩



File No.	遺物番号	遺物種別	用途	形状	口径 (cm)	底径 (cm)	胴高 (cm)	現存	口縁部	体外面	体内部	内底面	外底面	色調	胎土	含有物	施文	口縁部形状	口縁部凸部	胴部凸部	備考	R.No.						
131	1	25K	0582	養生	壺	22.0			口縁部 1/2	横ナデ	ナデ	ナデ		赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	埋土・赤黒土	良	丹反			口縁部の下に目玉を施す	1						
131	2	25K	0582	凸磨文	壺				口縁部 細片	横ナデ	ナデ	ナデ		赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	赤黒土・赤黒土	良	凸磨貼付	1条 刻目有				2					
131	3	25K	0582	養生	壺	11.0			口縁部 1/8	横ナデ	磨き	ナデ		赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	赤黒土・赤黒土	良	内底					3					
131	5	25K	0580	土師	壺	11.0	7.5		口縁部 1/2欠損	横ナデ	ナデ	ナデ		埋土褐色	赤	赤黒土	良	外方に開く					3					
131	6	25K	0580	養生	壺	23.0			上半部 1/4	横ナデ	磨き	磨き		赤・赤黒色 内: 赤黒色	中々良	埋土	良	丹反 胴部に面有					2					
131	7	25K	0580	養生	大壺				口縁部 細片	横ナデ	磨き	磨き	ナデ	赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	埋土・赤黒土	良	丹反 内底に面有			口縁部の下に目玉を施す	1						
131	9	25K	0580	養生	壺				口縁部 細片	横ナデ	刷毛	横ナデ		埋土褐色	赤	赤黒土・赤黒土	良	外方に開く					6					
131	9	25K	0580	土師	鉢				口縁部 細片	横ナデ	ナデ	ナデ		埋土褐色	赤	赤黒土・赤黒土	良	内底					4					
131	14	25K	0583	養生	壺	18.4			口縁部 1/4	横ナデ	工具ナデ	磨き		埋土褐色	赤	赤黒土	良	丹反 胴部に面有					1					
131	15	25K	0583	養生	壺	23.4			口縁部 1/2	横ナデ	刷毛	刷毛		赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	赤黒土・赤黒土	良	袋状口縁						2				
131	16	25K	0583	養生	壺	11.2	6.7	11.6	ほぼ定形	横ナデ	刷毛	刷毛	ナデ	刷毛	赤	赤黒土・赤黒土 内: 赤黒色	赤	丹反						6				
131	17	25K	0583	凸磨文	壺				口縁部 細片	横ナデ	ナデ	ナデ		赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	埋土	中々良	直立し 上部に面有			1条 刻目有		口縁部の下に目玉を施す	5				
131	18	25K	0583	養生	壺	27.3			口縁部 1/4	横ナデ	刷毛	ナデ		埋土褐色	赤	赤黒土	良	凸磨貼付 上部に面	1条 刻目有	1条 刻目有				4				
131	19	25K	0583	養生	大壺				口縁部 細片	横ナデ	横ナデ	横ナデ		赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	赤黒土・赤黒土	良	丹反 胴部に面有	内側に1条					2				
132	1	25K	0586	養生	壺	27.0			口縁部 1/8	横ナデ	横ナデ	ナデ		赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	赤黒土・赤黒土	良	凸磨貼付 上部に面	1条 刻目有	1条 刻目有				2				
132	2	25K	0586	養生	壺	26.0			口縁部 1/8	横ナデ	ナデ	ナデ		赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	赤黒土・赤黒土	良	凸磨貼付	1条 刻目有	1条 刻目有				1				
132	3	25K	0586	養生	壺		4.4		底面 3/4		ナデ	ナデ	ナデ	赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	埋土	良							3				
132	7	25K	0590	土師	甌	13.0			口縁部 1/3	横ナデ	刷毛	工具ナデ		埋土褐色	刷毛		良	丹反						2				
132	8	25K	0590	土師	壺	11.2			口縁部のみ	横ナデ	磨き	磨き		埋土褐色	赤	赤黒土	良好	丹反						1				
132	9	25K	0591	養生	壺	23.0	6.8	23.9	1/2	横ナデ	ナデ	ナデ	不明	ナデ	埋土褐色	中々良	赤黒土	中々良	凸磨貼付 上部に面	1条 刻目有	1条 刻目有				3			
132	10	25K	0591	養生	壺	16.0			口縁部 1/2	横ナデ	ナデ	ナデ		赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	埋土・赤黒土	中々良	凸磨貼付	3条 刻目有						1			
132	11	25K	0591	養生	壺	13.8	6.0	13.2	上半部 1/2欠損	横ナデ	ナデ	工具ナデ	ナデ	ナデ	埋土褐色	赤黒土・埋土	良	直立し 上部に面有							2			
132	14	25K	0591	養生	壺		11.0		下半部 1/4		磨き	ナデ	ナデ	工具ナデ	埋土褐色	赤黒土	良								4			
131	16	25K	0596	養生	壺	15.6	3.5	16.7	2/5	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	赤褐色	赤	赤黒土	中々良	丹反						1			
133	1	25K	0597	凸磨文	洗鉢	21.9	7.9	9.5	2/5	横ナデ	磨き	磨き	磨き	ナデ	褐色	赤	赤黒土・赤黒土 赤土	中々良	僅かに 内底						口縁部の上縁を施す	2		
133	2	25K	0597	凸磨文	洗鉢	20.6			口縁部 1/4	横ナデ	磨き	不明			埋土褐色	赤	赤黒土	中々良	僅かに 内底							3		
134	3	25K	0597	凸磨文	壺	25.0			口縁部 1/9	不明	不明	不明			埋土褐色	赤	中々良	内底 凸磨貼付	1条 刻目有	1条 刻目有					10			
134	4	25K	0597	凸磨文	壺				口縁部 細片	横ナデ	ナデ	ナデ		埋土褐色	赤	良好		内底し 上部に面							口縁部の下に目玉を施す	8		
134	5	25K	0597	凸磨文	壺				口縁部 細片	横ナデ	ナデ	ナデ		埋土褐色	赤	良好		凸磨貼付	1条 刻目有							9		
134	6	25K	0597	凸磨文	壺				口縁部 細片	横ナデ	横ナデ	ナデ		赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	赤黒土	良	内底し 上部に面							口縁部内底に目玉を施す	7		
134	7	25K	0597	凸磨文	壺	28.0	8.2	23.0	1/2	横ナデ	不明	赤黒	ナデ	ナデ	赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	赤黒土・赤黒土 赤土	中々良	内底 凸磨貼付	1条 刻目有	1条 刻目有					1		
134	8	25K	0597	凸磨文	壺				体部細片	洗刷 ナデ	ナデ			赤褐色	赤	良										11		
134	9	25K	0597	凸磨文	壺		8.4		底面 1/2		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	埋土	赤	赤黒土	中々良								6		
134	10	25K	0597	養生	壺	21.0			口縁部 1/3	横ナデ	ナデ	ナデ		赤褐色	赤	赤黒土	中々良	丹反								5		
134	11	25K	0597	養生	壺	14.7	7.5	24.2	ほぼ定形	横ナデ	磨き	磨き	磨き	ナデ	埋土褐色	赤	赤黒土	良	外反し 胴部に面有							口縁部に面有	12	
134	12	25K	0597	養生	壺				体部細片		磨き	ナデ		赤褐色	赤	中々良											口縁部に面有	4
136	1	25K	0610	養生	壺	22.0			上半部 1/8	横ナデ	磨き	不明		赤・赤黒色 内: 赤黒色	中々良	赤黒土・赤黒土 赤土	中々良	外反し 胴部に面有								口縁部に面有	1	
136	8	25K	0619	養生	壺	19.0			口縁部 1/2	横ナデ	横ナデ	ナデ		赤・赤黒色 内: 赤黒色	中々良	赤黒土・赤黒土 赤土	良	凸磨貼付 上部に面	1条 刻目有	1条 刻目有							1	
136	7	25K	0621	養生	鉢	10.3		3.9	ほぼ定形	横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	横ナデ	赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	赤黒土・赤黒土 赤土	良	外方に ひらく							口縁部外側に面有	1	
137	1	25K	0635	養生	壺				口縁部 細片	横ナデ	横ナデ	工具ナデ		赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	赤黒土	良	凸磨貼付	1条 刻目有								1	
137	2	25K	0636	養生	壺				口縁部 細片	横ナデ	横ナデ	ナデ		赤・赤黒色 内: 赤黒色	中々良	埋土・赤黒土	良	丹反								口縁部外側に面有	2	
137	3	25K	0635	養生	鉢	6.9	4.6	4.9	定形	手づくね	手づくね	手づくね	手づくね	手づくね	赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	埋土・赤黒土 赤土	良									内底に面有	3
138	1	25K	0675	土師	壺				2/3		刷毛	刷毛	刷毛	刷毛	赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	赤黒土・赤黒土 赤土	良										10
138	2	25K	0675	土師	壺	10.4		12.2	ほぼ定形	横ナデ	刷毛	刷毛	刷毛	刷毛	埋土褐色	赤	赤黒土	良	丹反								4	
138	3	25K	0675	土師	壺				ほぼ定形	手づくね	刷毛	刷毛	刷毛	刷毛	埋土褐色	赤	良	直立									2	
138	4	25K	0675	土師	壺	6.4		8.0	定形	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	赤黒土・赤黒土 赤土	良	僅かに丹反								3	
138	5	25K	0675	土師	壺				口縁部 1/2欠損	横ナデ	工具ナデ	工具ナデ	工具ナデ	工具ナデ	赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	赤黒土・赤黒土 赤土	良	丹反								1	
138	6	25K	0675	土師	高杯	16.0			脚下下部欠損	横ナデ	刷毛 ナデ	刷毛	刷毛	刷毛	赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	赤黒土・赤黒土 赤土	良	僅かに丹反								6	
138	7	25K	0675	土師	高杯	16.0	11.8	10.0	ほぼ定形	横ナデ	刷毛 ナデ	刷毛	刷毛	刷毛	赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	赤黒土・赤黒土 赤土	良	丹反								6	
138	8	25K	0675	土師	高杯		12.4		胴部 1/4		刷毛 横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	赤・赤黒色 内: 赤黒色	中々良	赤黒土・赤黒土 赤土	中々良									8	
138	9	25K	0675	土師	高杯		11.6		胴部 3/4		刷毛 ナデ	刷毛	横ナデ	横ナデ	赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	赤黒土・赤黒土 赤土	中々良									7	
138	10	25K	0675	土師	ミニ チュア	2.8	2.7	2.6	定形	手づくね	手づくね	手づくね	手づくね	手づくね	埋土褐色	赤	赤黒土・赤黒土 赤土	良	外方に ひらく								9	
139	1	25K	0676	養生	壺	32.2			上半部 3/8	横ナデ	ナデ	ナデ		赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	赤黒土・赤黒土 赤土	良	凸磨貼付	1条 刻目有	1条 刻目有							10	
139	2	25K	0676	養生	壺	29.0			口縁部 3/9	横ナデ	刷毛	ナデ		赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	赤黒土・赤黒土 赤土	中々良	凸磨貼付	1条 刻目有	1条 刻目有							9	
139	3	25K	0676	養生	壺	24.4			上半部 3/8	横ナデ	刷毛	刷毛	ナデ		赤・赤黒色 内: 赤黒色	赤	赤黒土・赤黒土 赤土	良	如意形								口縁部の下に目玉を施す	8

Tab.15 出土土器一覽①



File	No.	遺物	番号	層位	種別	部類	口径 (cm)	高さ (cm)	深さ (cm)	西存	口縁部	体形状	内径面	外径面	色澤	粘土	含有粒子	底底	口縁部 形状	口縁部 白粉	周部凸帯	備考	R. No.
181	6	23X	0849		赤生	環				口縁部 削片	ナブ	ナブ		赤褐色 内面赤褐色	赤	赤褐色 黒褐色・黒色	やや浅	直立し 薄部に直			口縁部の内側に黒目点 が		2
182	1	25X	0850		赤生	環	24.0			口縁部 1/3	ナブ	ナブ		赤褐色 赤褐色	赤心部	黒褐色・赤褐色 赤褐色	良	外反直			外反直 黒目点		1
182	2	23X	0850		赤生	環	20.0	27.6		1/2	環ナブ	工具ナブ	不明	不明	赤褐色	赤心部 赤褐色	良	凸帯状付	1条 黒目点			3	
182	3	25X	0850		赤生	軸ナブ				体部 1/9	環ナブ	環ナブ		赤褐色 赤褐色	赤心部	赤褐色・赤褐色 赤褐色	良					2	
184	1	23X	0851		赤生	環ナブ	25.2			口縁部 1/6	ナブ	ナブ		赤褐色 赤褐色	赤心部	赤褐色・赤褐色 赤褐色	やや不良	外反直			口縁部に黒目点 が		1
184	2	23X	0853		赤生	環ナブ		10.0		体部 1/2	不明	不明	不明	不明	赤褐色	赤心部	やや不良					2	
184	3	25X	0858		赤生	環ナブ	15.8			上半部	工具ナブ	工具ナブ		赤褐色	赤心部	赤褐色・赤褐色 赤褐色	良	外反直				3	
184	4	23X	0858		赤生	環ナブ	9.0			口縁部 3/9	環ナブ	環ナブ		赤褐色 赤褐色	赤心部	赤褐色・赤褐色 赤褐色	良	環状					1
184	5	23X	0859		赤生	環ナブ	7.0			底面 1/4	ナブ	ナブ		赤褐色 赤褐色	赤心部	赤褐色・赤褐色 赤褐色	やや不良					2	
184	6	23X	0872		赤生	環ナブ	21.2	22.1		1/2	環ナブ	不明	不明	不明	赤褐色 赤褐色	赤心部	やや不良					1	
185	1	23X	0878		赤生	環ナブ	26.0			下半部 次層	環ナブ	環ナブ	工具ナブ	ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	良	凸帯状付	1条 黒目点				15
185	2	23X	0878		赤生	環ナブ				口縁部 削片	環ナブ	ナブ		赤褐色 赤褐色	赤心部	赤褐色・赤褐色 赤褐色	良	凸帯状付				8	
185	3	23X	0878		赤生	環ナブ				口縁部 削片	環ナブ	不明	不明		赤褐色 赤褐色	赤心部	やや不良	環状外反し 底部に黒目 点				7	
185	4	23X	0878		赤生	環ナブ				体部 削片	環ナブ	不明			赤褐色 赤褐色	赤心部	良					10	
185	5	23X	0878		赤生	環ナブ	6.0			底面 1/2	ナブ	ナブ	ナブ	環ナブ ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	良					4	
185	6	23X	0878		赤生	環ナブ	6.0			底面 1/2	環ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	良					2	
186	7	25X	0878		赤生	環ナブ	7.2			底面 のみ	工具ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	良					13	
185	8	23X	0878		赤生	環ナブ	7.4			底面 1/2	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	良					3	
185	9	23X	0878		赤生	環ナブ	8.0			底面 1/2	ナブ	ナブ	ナブ	環ナブ ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	良					5	
185	10	23X	0878		赤生	環ナブ	7.4			底面 のみ	ナブ	ナブ	ナブ	環ナブ ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	良					6	
185	11	23X	0878	上層	赤生	環ナブ	17.2			口縁部 削片	環ナブ	環ナブ		赤褐色 赤褐色	赤心部	赤褐色・赤褐色 赤褐色	良	外反し 底部に黒目 点				14	
185	12	23X	0878		赤生	環ナブ	17.0	30.6		下半部 1/2次層	環ナブ	環ナブ	環ナブ	ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	良	外反し 底部に黒目 点				11	
185	13	23X	0878		赤生	環ナブ	27.4	10.8	40.0	2/3	不明	環ナブ	ナブ	ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	やや不良	外反し 底部に黒目 点				1	
185	14	23X	0878		赤生	環ナブ	22.8			上半部 1/2	環ナブ	環ナブ	ナブ	ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	良	外反し 底部に黒目 点				12	
185	15	23X	0878		赤生	環ナブ				つぼみ部 のみ	環ナブ	不明	不明	不明	赤褐色 赤褐色	赤心部	良					17	
185	16	23X	0878		赤生	環ナブ	26.8	11.6		ほぼ完全 部	環ナブ	環ナブ	ナブ	環ナブ ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	良	環状外反し 底部に黒目 点				10	
186	17	25X	0878		赤生	環ナブ	33.6	8.0	18.0	口縁部 1/3次層	環ナブ	環ナブ	ナブ	環ナブ ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	良	環状外反し 底部に黒目 点				12	
187	1	23X	0881		赤生	環ナブ	25.0			上半部 1/3	環ナブ	環ナブ	ナブ	環ナブ ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	やや不良	凸帯状付	1条 黒目点			1	
188	2	25X	0899		赤生	環ナブ				底面削片	赤文	赤文		赤褐色	赤心部	赤褐色 赤褐色	やや不良					1	
189	1	23X	0912		赤生	環ナブ	24.2	8.7	32.8	上半部 1/3次層	環ナブ	工具ナブ	ナブ	ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	やや不良	外反し 底部に黒目 点				5	
189	2	23X	0912		赤生	環ナブ	26.0			上半部 2/3	環ナブ	工具ナブ	工具ナブ	ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	やや不良	外反し 底部に黒目 点				4	
189	3	23X	0912		赤生	環ナブ	25.0			上半部 1/2	環ナブ	赤毛	赤毛	ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	良	外反し 底部に黒目 点				3	
189	4	23X	0912		赤生	台付環	18.0			口縁/底面 部次層	環ナブ	環ナブ	ナブ	ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	良	外反し 底部に黒目 点				2	
189	5	23X	0912		赤生	環ナブ	27.9			口縁部 のみ	環ナブ	赤毛	赤毛	ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	良	外反し 底部に黒目 点				1	
191	3	23X	0922		赤生	環ナブ	6.5			底面 のみ	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	良					1	
191	4	23X	0922		赤生	環ナブ	12.0	8.2	23.8	1/4	環ナブ	環ナブ	ナブ	ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	やや不良	外反				1	
192	1	23X	0960		赤生	環ナブ	18.6			口縁部 3/4次層	環ナブ	ナブ	ナブ	環ナブ ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	良	外反し 底部に黒目 点				3	
192	2	23X	0960		赤生	環ナブ	8.0			底面 のみ	環ナブ	不明	不明	不明	赤褐色 赤褐色	赤心部	やや不良					3	
192	3	23X	0960		赤生	環ナブ				口縁部 削片	環ナブ	環ナブ		赤褐色 赤褐色	赤心部	赤褐色 赤褐色	やや不良	外反し 底部に黒目 点				2	
192	4	23X	0960		赤生	環ナブ				口縁部 削片	環ナブ	環ナブ		赤褐色 赤褐色	赤心部	赤褐色 赤褐色	やや不良	外反				3	
192	5	23X	0965		凸帯文	環ナブ	11.8			口縁部 削片	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	良	凸帯状付	1条 黒目点			1	
192	6	23X	0965		凸帯文	環ナブ	11.8			口縁部 削片	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	良	凸帯状付	1条 黒目点			1	
192	7	23X	0965		赤生	環ナブ	12.0			底面 削片	環ナブ	不明	不明	不明	赤褐色 赤褐色	赤心部	やや不良	外反し内段部 備え上げ				3	
193	1	23X	0966		土曜	環ナブ	17.8			1/4	環ナブ	赤毛 工具ナブ	ナブ	ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	良	外反し 底部に黒目 点				2	
193	2	23X	0966		土曜	軸	13.2			1/2	環ナブ	赤毛 ナブ	ナブ	環ナブ ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	良	外反				3	
193	3	23X	0966		土曜	軸	17.4			1/4	環ナブ	不明	不明	不明	赤褐色 赤褐色	赤心部	良	外反				7	
193	4	23X	0966		土曜	軸	11.8			1/6	環ナブ	工具ナブ	不明	不明	赤褐色 赤褐色	赤心部	良	外反				5	
193	5	23X	0966		土曜	軸	12.5			ほぼ完全 部	環ナブ	環ナブ	環ナブ	環ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	良	外反				4	
193	6	23X	0966		土曜	軸付軸				1/3	環ナブ	赤毛 赤文	赤文	赤文	赤褐色 赤褐色	赤心部	良					5	
193	7	23X	0966		土曜	軸	12.0			1/3	環ナブ	赤毛 工具ナブ	工具ナブ	赤毛 環ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	良	外反し 凸帯				9	
193	8	23X	0966		土曜	軸	7.3			1/2	環ナブ	赤毛 赤文	赤文	赤毛 赤文	赤褐色 赤褐色	赤心部	良	外反し 凸帯				8	
194	1	23X	0967		赤生	環ナブ	22.0			口縁部 1/6	環ナブ	赤毛 不明	不明	不明	赤褐色 赤褐色	赤心部	やや不良	二重口縁				1	
194	3	23X	0969		赤生	環ナブ		7.0		底面 のみ	環ナブ	赤毛	赤毛	ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	やや不良	二重口縁				1	
194	4	23X	0969		赤生	環ナブ				口縁部 削片	環ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	赤褐色 赤褐色	赤心部	やや不良	環状外反し 底部に黒目 点				2	
194	8	23X	0976		土曜	環		6.3		底面 1/2	環ナブ	不明	不明	不明	赤褐色 赤褐色	赤心部	やや不良	環状外反し 底部に黒目 点				1	

Tab.17 出土土器一覽⑬

File No.	遺精番号	遺精番号	層位	類別	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色 調	胎土	含有粒子	施 成	口縁部 形状	口縁部 凸帯	胴部凸帯	備 考	R-№		
164	9	25K	0978	赤生	壺	22.2			上半部 1/5	横ナズ	刷毛	工具ナズ			外・黄白色 内・黄白色	泥	赤色砂子	ややく	凸帯貼付 上部に面	1条 胴目有	1条 胴目有	外底に灰層	1		
164	11	25K	0979	赤生	壺					体部 細片	横ナズ	ナズ			黄白色	泥	黒色・黄砂子	良				図録 録収不能に加工	2		
164	12	25K	0979	赤生	壺		8.0			底部 1/4	磨き	ナズ?	ナズ?	ナズ?	黄白色	泥	赤色砂子	ややく良				胎土中に灰層が埋まる	3		
164	13	25K	0979	赤生	壺	20.4			上半部 3/5	横ナズ	横ナズ 刷毛	工具ナズ			黄白色	泥	黄砂子・赤砂	良	外反		1条 胴目有	口縁部に灰層	1		
166	1	25K	0981	赤生	壺	26.8			口縁部 1/5	横ナズ	ナズ	ナズ			外・黄白色 内・黄白色	泥	赤色砂子	良	凸帯貼付	1条 胴目有		3			
165	2	25K	0981	赤生	壺	21.0			口縁部 1/5	横ナズ	ナズ	ナズ			黄白色	泥	ややく良	外反				口縁部に灰層	2		
166	3	25K	0981	赤生	壺	18.0			口縁部 1/4	磨き	磨き	磨き			黄白色	泥	赤色砂子	ややく不良	外反				1		
166	1	25K	0989	赤生	壺	14.6			上半部 1/4	横ナズ	磨き 工具ナズ	工具ナズ ナズ			黄白色	泥	良	外反				胴部に灰層2条	5		
166	2	25K	0989	赤生	壺					体部 細片	ナズ	ナズ			黄白色	泥	良					胴部に灰層(凸帯)条	2		
166	3	25K	0989	赤生	壺		7.3		底部 1/2		ナズ	ナズ	ナズ	ナズ	黄白色	泥	赤色砂子	良					1		
166	4	25K	0989	赤生	壺				口縁部 細片	横ナズ	刷毛	不明			黄白色	泥	ややく不良	凸帯貼付 上部に面	1条 胴目有				3		
166	5	25K	0989	赤生	壺	26.4			口縁部 1/6	横ナズ	刷毛	工具ナズ			外・黄白色 内・黄白色	泥	黄砂子	良	凸帯貼付	1条 胴目有	1条 胴目有		4		
167	1	25K	0990	赤生	壺	22.8			口縁部 1/2	横ナズ	横ナズ	ナズ			黄白色	泥	石灰多	良	凸帯貼付	1条 胴目有	1条 胴目有		3		
167	2	25K	0990	赤生	壺	25.2			口縁部 1/3	横ナズ	横ナズ	ナズ			外・黄白色 内・黄白色	泥	赤色・黄砂子	良	凸帯貼付	1条 胴目有	1条 胴目有	口縁部下に灰層(約1cm厚) (注) 2ヶ所	1		
167	3	25K	0990	赤生	大壺	39.0			口縁部 1/10	横ナズ	ナズ	工具ナズ			外・黄白色 内・黄白色	泥	赤色砂子	ややく不良	外反し 胴部に面	1条 胴目有	1条 胴目有	口縁部下に灰層(約1cm厚) (注) 2ヶ所	2		
167	5	25K	0990	凸帯文	壺				口縁部 細片	横ナズ	横ナズ	横ナズ			外・黄白色 内・黄白色	泥	ややく不良	凸帯貼付	1条 胴目有				1		
167	6	25K	0999	赤生	鉢		1.2		底部 のみ		手づくね	手づくね	手づくね	手づくね	黄白色	泥	赤色砂子	ややく不良					2		
168	1	25K	2008	赤生	壺	18.2	7.2	25.1	1/2	横ナズ	磨き	不明	不明	不明	外・黄白色 内・黄白色	泥	赤色砂子	良	外反 外面肥厚				胴部に灰層1条	2	
168	2	25K	2008	赤生	壺	12.7	8.3	21.7	ほぼ全面	横ナズ	磨き	ナズ	ナズ	ナズ	外・黄白色 内・黄白色	泥	黄砂子・黄砂子	良	外反し 胴部に面				胴部に灰層1条	1	
168	3	25K	2008	赤生	壺	27.4			1/3	横ナズ	工具ナズ 磨き	工具ナズ			黄白色	泥	良好	外反し 胴部に面					胴部に灰層2条	4	
168	4	25K	2008	赤生	壺				体部 1/2		工具ナズ	工具ナズ	ナズ	ナズ	外・黄白色 内・黄白色	泥	黄砂子	良好						3	
168	5	25K	2008	赤生	壺	25.8	8.8	26.9	1/2	横ナズ	不明	不明	不明	ナズ	外・黄白色 内・黄白色	ややく	ややく良	凸帯貼付	1条 胴目有	1条 胴目有		5			
168	6	25K	2008	赤生	壺	26.1	8.9	27.7	1/3	横ナズ	工具ナズ	ナズ	ナズ	不明	外・黄白色 内・黄白色	ややく	赤色砂子	良	凸帯貼付	1条 胴目有	1条 胴目有		6		
169	7	25K	2008	赤生	壺	25.1			上半部 1/2	横ナズ	不明	工具ナズ			外・黄白色 内・黄白色	泥	黄砂子	ややく良	凸帯貼付	1条 胴目有	1条 胴目有		7		
170	1	25K	2009	赤生	壺	41.4			上半部 1/2	横ナズ	工具ナズ	ナズ			外・黄白色 内・黄白色	ややく	赤色砂子	ややく良	凸帯貼付	1条 胴目有	1条 胴目有	胴部凸帯(約1cm厚)あり	10		
170	2	25K	2009	赤生	壺	32.0	6.4	34.9	上半部 2/3欠損	横ナズ	ナズ	ナズ	ナズ	ナズ	外・黄白色 内・黄白色	泥	黄砂子・赤色砂子	ややく良	凸帯貼付	1条 胴目有	1条 胴目有		4		
170	3	25K	2009	赤生	壺	30.0			上半部	横ナズ	ナズ	ナズ			黄白色	ややく	ややく良	凸帯貼付	1条	1条		13			
171	4	25K	2009	赤生	壺	30.0			上半部 1/2	横ナズ	不明	不明			黄白色	ややく	不良	赤づく 外反		1条 胴目有		口縁部凸帯に灰層あり	14		
171	5	25K	2009	赤生	壺	28.0			上半部	横ナズ	不明	ナズ			黄白色	ややく	不良	外反		1条 胴目有		口縁部凸帯に灰層あり	12		
171	6	25K	2009	赤生	壺		8.4		下半部	刷毛	不明	ナズ	ナズ	ナズ	外・黄白色 内・黄白色	ややく	黄砂子・黄砂子	ややく不良					2		
171	7	25K	2009	赤生	壺		7.0		下半部	ナズ	ナズ	ナズ	ナズ	ナズ	外・黄白色 内・黄白色	泥	黄砂子・黄砂子 黄砂子	良					底部に黄砂子(約1ヶ所)あり	3	
171	8	25K	2009	赤生	壺				口縁部 細片						黄白色	泥	良好	凸帯貼付	1条 胴目有	1条 胴目有		8			
171	9	25K	2009	赤生	壺		16.4		上半部	横ナズ	ナズ	ナズ			黄白色	泥	黄砂子	不良	外反				11		
171	10	25K	2009	赤生	壺		7.6		底部 のみ	ナズ	ナズ	ナズ	ナズ	ナズ	黄白色	泥	黄砂子	ややく良					底部に凸帯(約1cm厚)あり	9	
171	11	25K	2009	赤生	壺		6.0		口縁部 欠損	磨き ナズ	磨き ナズ	ナズ	ナズ	ナズ	黄白色	ややく	赤色砂子	ほぼ良						5	
171	12	25K	2009	赤生	壺	15.0			上半部 2/3	横ナズ	磨き	磨き			黄白色	ややく	ほぼ良		小さく 外反					8	
171	13	25K	2009	赤生	壺	19.6	6.0	14.0	口縁部 1/3欠損	横ナズ	磨き	磨き	ナズ	ナズ	外・黄白色 内・黄白色	泥	黄砂子・黄砂子 黄砂子	良	凸帯貼付 上部に面	1条 胴目有			1		
171	14	25K	2009	赤生	右付鉢	22.0	10.4	10.2	口縁部 1/2欠損	横ナズ	不明 工具ナズ	不明	ナズ	ナズ	黄白色	ややく	ややく不良	凸帯貼付	1条				胴部中央	7	
173	1	25K	2013	赤生	壺	29.9			上半部 1/2	横ナズ	刷毛	ナズ			外・黄白色 内・黄白色	泥	黄砂子・黄砂子	良	凸帯貼付	1条 胴目有	1条 胴目有		9		
173	2	25K	2013	赤生	壺	19.0			口縁部 1/5	横ナズ	刷毛	ナズ			外・黄白色 内・黄白色	ややく	黄砂子	良	凸帯貼付	1条 胴目有			胴部中央に土条あり	4	
173	3	25K	2013	赤生	壺	30.4			上半部 1/4	横ナズ	刷毛	ナズ			外・黄白色 内・黄白色	泥	黄砂子・黄砂子 黄砂子	良	外反し 胴部に面	1条			8		
173	4	25K	2013	赤生	壺	26.0			上半部 1/2	横ナズ	刷毛	ナズ			外・黄白色 内・黄白色	ややく	黄砂子・黄砂子 赤色砂子	ややく良	外反し 胴部に面	1条 胴目有			口縁部凸帯に灰層あり	10	
173	5	25K	2013	凸帯文	壺				口縁部 細片	横ナズ	横ナズ	横ナズ			外・黄白色 内・黄白色	ややく	黄砂子・赤色砂子	良	内反し 上部に面	1条 胴目有			口縁部凸帯に灰層あり	5	
173	6	25K	2013	赤生	大壺				口縁部 細片	横ナズ	横ナズ	ナズ			外・黄白色 内・黄白色	ややく	黄砂子	ややく良	内面肥厚 胴部に面					口縁部凸帯に灰層あり	6
173	7	25K	2013	赤生	壺		10.0		下半部	刷毛	ナズ	ナズ	ナズ	ナズ	外・黄白色 内・黄白色	泥	黄砂子・赤色砂子	良					3		
173	8	25K	2013	赤生	壺		つまみ部 のみ				刷毛	ナズ	ナズ	ナズ	外・黄白色 内・黄白色	ややく	黄砂子・黄砂子	良					つまみ部約4cm	11	
173	9	25K	2013	赤生	壺		つまみ部 のみ				工具ナズ 刷毛	ナズ	ナズ	ナズ	黄白色	ややく	黄砂子	良					つまみ部約4cm	12	
173	10	25K	2013	赤生	壺	6.2			上半部 1/2	横ナズ	磨き	工具ナズ			黄白色	泥	黄砂子	良	外反				胴部に凸帯1条	2	
173	11	25K	2013	赤生	壺	20.0			口縁部 1/4	横ナズ	ナズ	ナズ			外・黄白色 内・黄白色	ややく	黄砂子・赤色砂子	良	外反し 胴部に面				胴部に灰層2条	1	
173	12	25K	2013	赤生	壺		7.8		底部 のみ		刷毛	ナズ	ナズ	ナズ	外・黄白色 内・黄白色	ややく	黄砂子・赤色砂子	良					胎土中に灰層(約1cm厚)あり	1	
175	1	25K	2016	赤生	壺				上半部	ナズ	不明	不明	ナズ	ナズ	外・黄白色 内・黄白色	ややく	黄砂子	ややく良					つまみ部約4cm	1	
176	1	25K	2017	赤生	壺	29.2			上半部 1/2	横ナズ	刷毛	ナズ			黄白色	泥	黄砂子	良	凸帯貼付	1条	1条			9	
176	2	25K	2017	赤生	壺	25.5	8.0	30.0	上半部 1/2欠損	横ナズ	刷毛	ナズ	ナズ	不明	外・黄白色 内・黄白色	泥	黄砂子・赤色砂子	良	外反し 胴部に面	1条 胴目有				口縁部凸帯に灰層あり	10

Tab.18 出土土器一覽⑭





File No.	No.	建構番号	層位	種別	距離	口径 (cm)	高さ (cm)	深さ (cm)	保存	口縁部	外外面	内外面	内底面	外底面	色調	胎土	含有物	施成	口縁部形状	口縁部凸凹	胴部凸凹	備考	尺・量						
187	4	25K 2056		学生	大塚	82.0			口縁部 1/6	横ナゲ	刷毛 磨き	磨き			白色	磨	含有物なし	成形	内反し 隆部に面有			口縁部内面に刷毛目 あり	4						
187	5	25K 2056		学生	大塚?		13.3		底面のみ	刷毛	工具ナゲ				褐色	磨	含有物なし					ナブシ型一筋あり?	6						
187	6	25K 2056		学生	大塚?	91.0			口縁部 1/4	横ナゲ	刷毛	刷毛			白色	磨	含有物なし					深く外反し 隆部に面有	5						
188	1	25K 2089		学生	豊	38.0			口縁部 1/2	横ナゲ	ナゲ	ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし			凸形貼付	1条	1条		1					
188	2	25K 2091		学生	豊				口縁部 刷片	横ナゲ	横ナゲ	ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし			凸形貼付	1条			2					
188	3	25K 2091		学生	豊				体部 刷片	ナゲ	ナゲ				赤褐色	磨	含有物なし						胴部に目録と含有物 検出に調査文書	1					
188	4	25K 2094		学生	豊	21.6			口縁部 1/4	横ナゲ	磨き	ナゲ			褐色	磨	含有物なし						まっつく外反	1					
188	5	25K 2097		学生	豊	36.0			口縁部 1/8	横ナゲ	ナゲ	ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし			凸形貼付	1条	1条	隆部は刷毛目土質?	1					
188	9	25K 2112		学生	豊	26.0			上半部	横ナゲ	ナゲ	ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし			凸形貼付	1条	1条	口縁部の凹凸が認められ 口縁に不明	1					
189	1	25K 2126		土師	豊	18.2			上半部 1/2	横ナゲ	刷毛	磨り			赤褐色	磨	含有物なし							1					
189	2	25K 2144		学生	豊	22.5	7.8	24.2	底面	横ナゲ	刷毛?	ナゲ	不明	ナゲ	赤褐色	磨	含有物なし			凸形貼付	1条	1条	刷毛目有	1					
190	1	25K 2138		学生	豊	35.0			口縁部 1/4	不明	不明	不明			赤褐色	磨	含有物なし			凸形貼付	1条	1条		1					
190	2	25K 2138		学生	豊	42.0			上半部 1/4	横ナゲ	工具ナゲ	不明			赤褐色	磨	含有物なし					折曲げ	1条		口縁部の折れが原因と推定 土質調査	2			
192	1	25K 2160		学生	豊	24.0			口縁部 1/2	横ナゲ	刷毛	ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし			凸形貼付	1条			1					
192	2	25K 2160		学生	豊				口縁部 刷片	横ナゲ	刷毛	ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし							外反し 隆部に面有	1				
192	3	25K 2160		学生	豊	28.0			上半部 1/2	横ナゲ	不明	磨き			赤褐色	磨	含有物なし			凸形貼付	1条	1条	刷毛目有	2					
193	1	25K 2162		学生	豊	28.0			上半部 1/4	横ナゲ	不明	ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし						大きく外反	2条	口縁部面に割れを有す	2			
193	2	25K 2162		学生	豊				口縁部 刷片	横ナゲ	工具ナゲ	ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし								口縁部の下縁に刷毛目 あり	1			
194	1	25K 2166		学生	豊				口縁部 1/4	横ナゲ	刷毛	不明			赤褐色	磨	含有物なし								口縁部の下縁に刷毛目 あり	1			
194	2	25K 2166		学生	豊	58.0			上半部 1/2	横ナゲ	横ナゲ	不明			赤褐色	磨	含有物なし								口縁部の下縁に刷毛目 あり	2			
195	3	25K 2168		学生	豊				口縁部 刷片	ナゲ	ナゲ	ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし								口縁部広く凹部を有す	1			
196	1	25K 2172		学生	豊	21.0			上半部 1/2	横ナゲ	ナゲ	ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし								口縁部の下縁に刷毛目 あり	3			
196	2	25K 2172		学生	豊	21.4	2.8	24.6	上半部 3/4欠損	横ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	赤褐色	磨	含有物なし								口縁部の下縁に刷毛目 あり	4			
196	3	25K 2172		学生	豊	19.0			上半部 1/3	横ナゲ	ナゲ	ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし			凸形貼付	1条	1条	刷毛目有	6					
196	4	25K 2172		学生	豊		7.0		下半部		ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	赤褐色	磨	含有物なし								底面は刷毛目土質と推定し 内部から	5			
196	5	25K 2172		学生	豊				体部 刷片		磨き	磨き			赤褐色	磨	含有物なし								胴部に目録と含有物 検出に調査文書	2			
196	6	25K 2172		学生	豊				体部 刷片		磨き	不明			赤褐色	磨	含有物なし								胴部に目録と含有物 検出に調査文書	1			
197	1	25K 2173		凸形文	豊				口縁部 刷片	不明	不明	不明			赤褐色	磨	含有物なし								口縁部の下縁に刷毛目 あり	1			
197	2	25K 2174		学生	豊	26.0			上半部	横ナゲ	ナゲ	ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし									口縁部面に刷毛目 あり	1		
198	1	25K 2180		学生	豊	22.0			上半部	横ナゲ	刷毛	ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし									凸形貼付 上面に面	1条	1条	1
198	2	25K 2180		学生	豊	21.8			上半部	横ナゲ	磨き?	刷毛	工具ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし								外方へ 折曲げ?	1条		4
198	3	25K 2180		学生	豊		5.0		底面のみ		刷毛	ナゲ	ナゲ	ナゲ	赤褐色	磨	含有物なし									胴部内面に刷毛目あり (4箇所) 検出に調査文書 (1箇所 検出なし)	3		
198	4	25K 2180		学生	豊		7.8		底面のみ		刷毛 磨き	磨き	工具ナゲ	工具ナゲ	赤褐色	磨	含有物なし										ナブ?	1	
199	1	25K 2181		学生	豊	15.4			底面 1/3		刷毛	ナゲ	ナゲ	ナゲ	赤褐色	磨	含有物なし											1	
199	3	25K 2183		学生	豊				体部 刷片		不明	不明			赤褐色	磨	含有物なし										内面に有 (2x2cm) 有	1	
199	6	25K 2197		学生	豊		8.6		底面 1/2		工具ナゲ	不明	ナゲ	ナゲ	赤褐色	磨	含有物なし										外底面に有 (2x2cm) 有	1	
199	7	25K 2197		学生	豊				体部 刷片		ナゲ	ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし										底面に目録と含有物 検出に調査文書	2	
199	9	25K 2204		学生	豊		7.0		下半部		刷毛	ナゲ	ナゲ	ナゲ	赤褐色	磨	含有物なし										底面に目録と含有物 検出に調査文書	1	
199	9	25K 2209		学生	豊				体部 刷片		磨き	磨き			赤褐色	磨	含有物なし										胴部に目録と含有物 検出に調査文書	1	
200	1	25K 2205		学生	豊	19.0			口縁部 3/8	横ナゲ	刷毛	ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし			凸形貼付	1条	2条			底面に目録と含有物 検出に調査文書	1			
200	2	25K 2205		学生	豊		10.0		下半部		刷毛	工具ナゲ	工具ナゲ	ナゲ	赤褐色	磨	含有物なし										外底面に刷毛目あり、下底面に 埋草	2	
201	1	25K 2210		学生	豊	37.4			上半部 1/3	横ナゲ	ナゲ	ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし										外底面に目録と含有物 あり	2	
201	2	25K 2210		学生	豊	32.0			上半部 1/6	横ナゲ	ナゲ	ナゲ			褐色	磨	含有物なし											1	
202	1	25K 2212		学生	豊	16.0			口縁部 1/4	横ナゲ	ナゲ	ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし											2	
202	2	25K 2212		復原	可				口縁部 刷片	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ	回転削り	赤褐色	磨	含有物なし											外底面に目録あり	1
203	1	25K 2220		学生	豊	29.5	8.0	32.0	口縁部 1/4欠損	横ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	赤褐色	磨	含有物なし						1条			底面に凹みありと推定	1		
203	2	25K 2224		凸形文	豊				口縁部 刷片	横ナゲ	ナゲ	ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし										口縁部の下縁に刷毛目 あり	1	
203	3	25K 2230		学生	豊				口縁部 刷片	横ナゲ	刷毛	ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし							1条			凸形貼付 上面に面	1	
206	3	251 2320	P966	学生	豊				口縁部 刷片	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし						1条	1条		凸形貼付 上面に面	2		
207	1	251 0606		学生	豊	10.0	12.0	16.5	ほぼ完形	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	赤褐色	磨	含有物なし										底面に目録と含有物 あり	1	
208	1	251 0608		学生	豊	26.0			口縁部 1/8	横ナゲ	刷毛	ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし											外反し 隆部に面	4
208	2	251 0608		学生	豊	26.0			口縁部 1/6	横ナゲ	刷毛	ナゲ			赤褐色	磨	含有物なし											外反	3
208	3	251 0608		土師	豊	14.5		19.5	ほぼ完形	横ナゲ	刷毛	磨り	ナゲ	刷毛	赤褐色	磨	含有物なし											外反	2
208	4	251 0608		学生	豊		7.6		底面のみ		刷毛	刷毛	刷毛	ナゲ	赤褐色	磨	含有物なし												5

Tab.20 出土土器一覧⑩

File No.	遺物番号	遺物名	種別	状態	用途	口徑 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	口縁部	体外部	体内部	内底面	外底面	色調	胎土	含有粒子	施文	口縁部形状	口縁部凸部	胴部凸部	備考	頁No.		
209	5	251	0608	Ⅰ	弥生 壺	22.0			口縁部 7/8	横ナゲ	ナゲ	ナゲ		外・黄灰色内・黄白色	やや粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中	凸縁付	1条	1条		1		
209	6	251	0608	Ⅱ	弥生 壺	2.0			底面のみ	縦毛	ナゲ	ナゲ	ナゲ	外・黄砂質内・黄白色	やや粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中					2		
209	7	251	0608	Ⅲ	弥生 壺	2.5			底面のみ	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ	外・黄砂質内・黄白色	やや粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中					3		
209	8	251	0608	Ⅳ	弥生 壺	18.0			口縁部 1/4	横ナゲ	縦毛	縦毛		外・黄砂質内・黄白色	やや粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中	二重口縁				4		
209	9	251	0608	Ⅴ	弥生 壺	14.0			底面 1/2	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	外・黄砂質内・黄白色	やや粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中					5		
209	10	251	0608	Ⅵ	弥生 壺	16.0			底面 2/2	ナゲ	縦毛	縦毛	ナゲ	外・黄砂質内・黄白色	やや粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中					6		
209	16	251	0609	Ⅰ	弥生 白付壺	12.0			底面 1/4	不明横ナゲ	不明横ナゲ	ナゲ	不明	黄砂質褐色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中					7		
209	18	251	0608	Ⅱ	弥生 壺				上半部 3/4	横ナゲ	縦毛	ナゲ	ナゲ	外・黄砂質内・黄白色	やや粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中					8		
210	1	251	0609	Ⅰ	弥生 壺	22.2			口縁部 1/6	横ナゲ	縦毛	縦毛		黄白色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中	二重口縁				9		
211	1	251	0608	Ⅰ	土師 壺	16.0			口縁部 1/4	横ナゲ	ナゲ	ナゲ		外・黄砂質内・黄白色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中	直立				10		
211	2	251	0608	Ⅱ	土師 壺	17.0			底面のみ	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ	ナゲ	外・黄砂質内・黄白色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中	小さく凹反				11		
211	3	251	0608	Ⅲ	土師 壺	9.0			1/4	横ナゲ	ナゲ	工具ナゲ		外・黄砂質内・黄白色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中					12		
211	4	251	0608	Ⅳ	土師 壺	9.0			1/4	横ナゲ	ナゲ	工具ナゲ		外・黄砂質内・黄白色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中					13		
211	6	251	0608	Ⅴ	土師 壺			6.1	口縁部 打ち欠き	縦毛 横ナゲ	ナゲ	ナゲ	横ナゲ	外・黄砂質内・黄白色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中					14		
212	1	251	0750	Ⅰ	弥生 壺	14.8			下半部	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	黄白色	やや粗		中					15		
212	2	251	0750	Ⅱ	弥生 壺	5.4	4.0	4.0	光面	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ	黄白色	粗		中					16		
213	1	257	2117	Ⅰ	土師 壺	8.0		7.1	ほぼ光面	不明	不明	不明	不明	黄白色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中					17		
213	2	257	0613	Ⅱ	弥生 壺				口縁部 横片	横ナゲ	不明	縦毛		外・黄砂質内・黄白色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中					18		
213	3	257	0613	Ⅲ	弥生 壺				口縁部 横片	横ナゲ	縦毛	縦毛		黄白色	やや粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中					19		
213	4	257	0613	Ⅳ	弥生 壺			5.8	底面 1/2	縦毛	ナゲ	ナゲ	ナゲ	外・黄砂質内・黄白色	やや粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中					20		
214	1	257	0679	Ⅰ	弥生 壺	46.0			1/3	縦毛	縦毛			黄白色	粗		中	良好	打ち欠き	2条	土師	21		
214	2	257	0679	Ⅱ	弥生 壺	46.8	12.9	37.1	1/2	横ナゲ	不明	ナゲ	不明	黄砂質褐色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中			2条	口縁部には施文を伴った脚部直線	22		
216	3	257	0679	Ⅲ	弥生 壺	29.0	8.0	28.0	口縁1/2 底面立存	横ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	黄砂質褐色	やや粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中	良好	凸縁付	1条 刻目有	1条 刻目有	外底面に脚部直線	23	
217	4	257	0679	Ⅳ	弥生 壺	24.9			上半部 1/2 打ち欠	横ナゲ	不明	不明		外・黄砂質内・黄白色	やや粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中			1条 刻目有	1条 刻目有	内面に施文	24	
217	1	257	3000	Ⅰ	弥生 壺	12.4			口縁部 欠損	縦毛	ナゲ	ナゲ	ナゲ	黄砂質褐色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中				2条	外底面高さ 7.8cm	25	
218	3	257	0680	Ⅱ	弥生 壺	37.2	6.8	39.0	1/4	横ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	土師灰褐色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中			1条	2条	口縁部を境として土師土が混入	26	
219	1	257	3503	Ⅰ	弥生 壺	35.8	13.2	125.0	光面	横ナゲ	縦毛 ナゲ	工具ナゲ ナゲ	ナゲ	外・黄砂質内・黄白色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中	良好	縦線状	2条	外底面に施文	27		
220	2	257	2563	Ⅱ	弥生 壺	33.2	8.2	34.4	ほぼ光面	横ナゲ	縦毛	ナゲ	ナゲ	外・黄砂質内・黄白色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中			2条	外底面に施文	28		
221	2	258	0271	Ⅰ	弥生 壺				底面 1/6	不明	縦毛	縦毛		黄砂質褐色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中			1条 刻目有	凸部は口縁部直線と脚部直線の間にあり	29		
221	3	258	0271	Ⅱ	弥生 壺	15.0			口縁部 1/6	不明	縦毛	縦毛		黄砂質褐色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中					30		
222	1	250	0321	Ⅰ	弥生 壺				口縁部 横片	横ナゲ				黄白色	やや粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中	凹反				31		
222	2	250	0321	Ⅱ	弥生 壺				口縁部 横片	横ナゲ	横ナゲ	ナゲ		黄砂質褐色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中			1条			32	
222	3	250	0321	Ⅲ	弥生 壺	6.4			底面のみ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	黄砂質褐色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中						33	
222	4	250	0321	Ⅳ	弥生 壺	24.0			上半部 1/2	横ナゲ	ナゲ	ナゲ		黄砂質褐色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中			1条 刻目有	1条 刻目有		34	
222	5	250	0321	Ⅴ	弥生 壺	20.1	7.9	21.2	1/2	横ナゲ	工具ナゲ	ナゲ	ナゲ	黄砂質褐色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中			1条 刻目有	1条 刻目有		35	
223	1	250	0362	Ⅰ	土師 壺	8.4	7.2	1.2	1/4	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ	ナゲ	赤色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中					36		
223	2	250	0362	Ⅱ	土師 壺		7.4		底面 1/6	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ	赤色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中						37	
223	3	250	0362	Ⅲ	土師 壺	12.0			口縁部 横片	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ		黄白色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中						38	
223	4	250	0362	Ⅳ	土師 壺	13.2	9.0	2.8	3/4	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ	ナゲ	赤色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中						39	
223	5	250	0362	Ⅴ	土師 壺		8.4		底面 1/4	横ナゲ	不明	不明	横ナゲ	外・黄砂質内・黄白色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中						40	
223	6	250	0362	Ⅵ	土師 壺		7.8		底面 1/3	横ナゲ	不明	不明	横ナゲ	外・黄砂質内・黄白色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中						41	
223	7	250	0362	Ⅶ	土師 壺		9.4		底面 1/8	横ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	外・黄砂質内・黄白色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中						42	
223	8	250	0362	Ⅷ	土師 壺		7.4		底面 1/3	横ナゲ	横ナゲ	ナゲ	ナゲ	外・黄砂質内・黄白色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中						43	
223	9	250	0362	Ⅷ	土師 壺	28.0	10.0	9.4	上半部 1/6	横ナゲ	ナゲ	ナゲ		黄白色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中	凸縁付					44	
223	10	250	0362	Ⅷ	弥生 壺	6.8	—	5.5	1/3	ナゲ	不明	ナゲ	不明	不明	外・黄砂質内・黄白色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中					45	
223	11	250	0362	Ⅷ	黒色 壺	6.0			底面 1/8	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ	外・黄砂質内・黄白色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中						46	
223	12	250	0362	Ⅷ	黒色 壺	6.8			底面 1/8	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ	外・黄砂質内・黄白色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中						47	
223	13	250	0362	Ⅷ	黒色 壺				口縁部 横片	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ		外・黄砂質内・黄白色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中						48	
223	14	250	0362	Ⅷ	黒色 壺	18.0			口縁部 横片	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ		黄白色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中			2条		凸部には施文あり	49	
223	15	250	0362	Ⅷ	青銅 壺	17.4	6.2	7.4	1/6	口縁付	横片	横片	横片	横片	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中			1条 刻目有	1条 刻目有		50
223	16	250	0362	Ⅷ	弥生 壺				口縁部 横片	横ナゲ	ナゲ	ナゲ		外・黄砂質内・黄白色	やや粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中						51	
223	17	250	0362	Ⅷ	弥生 壺				口縁部 横片	横ナゲ	縦毛	ナゲ		外・黄砂質内・黄白色	粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中						52	
223	18	250	0362	Ⅷ	弥生 壺				口縁部 横片	横ナゲ	横ナゲ	横ナゲ		外・黄砂質内・黄白色	やや粗	黄砂・黄砂質・白砂質・赤色砂質	中						53	

Tab.21 出土土器一覧①⑦

Fig.	No.	遺物	番号	層位	種類	器種	口径(cm)	高さ(cm)	器高(cm)	残存	口縁部	底外面	底内面	内底面	外底面	色 澤	胎土	含有粒子	産地	口縁部形状	口縁部凸部	胴部凸部	備 考	R-No.			
221	19	25D	0362		養生	甕					口縁部細片	横ナフ				暗黒茶色	やや粗	金銅粉・赤色粒子	やや良	横ナフ外反			11				
223	20	25D	0362		養生	甕					口縁部細片	横ナフ	横ナフ	横ナフ		赤・黄褐色内・暗黒茶色	やや粗	赤銅粉・赤色粒子・赤色粘土	やや良	外反	1条 横目有	口縁部側に灰目土層が見られる	22				
223	21	25D	0362		養生	甕	7.0				底径1/2	ナフ		不明	ナゾウ	赤・黄褐色内・暗黒茶色	やや粗	金銅粉・厚銅・黒鉄粉	良				横目ナフ 1.5mm以上	25			
223	22	25D	0362		養生	甕?	5.6				底径1/4	網毛	横ナフ	工具ナフ		赤・黄褐色内・黄褐色	粗	白色粒子・赤色粘土	良					26			
223	23	25D	0362		養生	甕	9.0				底径2/3	ナフ	工具ナフ	工具ナフ	ナフ	赤・黄褐色内・黄褐色	粗	黒鉄粉	良				内底面にツマミ層	27			
223	24	25D	0362		養生	甕	6.8				底径1/2	ナフ	ナフ	ナフ	ナフ	赤・黄褐色内・暗黒茶色	やや粗	金銅粉・赤色粒子・赤鉄粉	やや良					28			
223	25	25D	0362		養生	甕	7.1				底径1/2	ナフ	不明	不明	工具ナフ	赤・黄褐色内・暗黒茶色	やや粗	金銅粉・赤色粒子・赤鉄粉	やや良					29			
223	26	25D	0362		養生	甕	9.1				底径1/2	工具ナフ	不明	不明	ナフ	赤・黄褐色内・暗黒茶色	やや粗	黒鉄粉	やや良					30			
223	27	25D	0362		養生	甕	7.2				底径のみ	横ナフ	ナフ	ナフ	ナフ	赤・黄褐色内・暗黒茶色	粗	赤鉄粉・赤色粒子・赤鉄粉	良					31			
222	28	25D	0362		養生	甕	7.0				底径1/2	網毛		ナフ	ナフ	赤・黄褐色内・暗黒茶色	やや粗	黒鉄粉・赤色粒子	良					横目ナフ 1.5mm以上	32		
223	29	25D	0362		養生	甕	7.2				底径1/2	ナフ	ナフ	ナフ	ナフ	赤・黄褐色内・黄褐色	やや粗	金銅粉・赤色粒子	やや良					内底面に赤銅土層	33		
223	30	25D	0362		養生	甕					体部細片	磨き	磨き			暗黒茶色	やや粗	赤鉄粉	やや良	外反?			横目に赤銅土層	34			
223	31	25D	0362		養生	細頸甕	10.0				口縁部1/4	横ナフ	磨き	横ナフ		赤・黄褐色内・暗黒茶色	粗	黒鉄粉・赤色粒子・赤色粘土	良	内腐				35			
223	32	25D	0362		養生	甕					体部	磨き	ナフ			赤・黄褐色内・暗黒茶色	粗	赤鉄粉・赤鉄粉	やや不良					横目に磨き層	36		
223	33	25D	0362		養生	甕	6.0				下平部1/3		工具ナフ	工具ナフ	ナフ	暗黒茶色	粗	金銅粉・赤鉄粉	良					37			
223	34	25D	0362		養生	甕	8.4				底径1/3	横ナフ	ナフ	ナフ	ナフ	赤・黄褐色内・黄褐色	やや粗	赤色粒子	良					38			
223	35	25D	0362		養生	甕					つまみ部1/2	横ナフ	ナフ	ナフ	ナフ	赤・黄褐色内・黄褐色	粗	赤色粘土	良					つまみ部幅1.5cm	39		
225	1	25B	0528		養生	甕?	18.0				口縁部3/4	横ナフ	横ナフ	横ナフ		黄褐色	粗	石炭・赤鉄粉	良好	大きく外反				口縁部には赤銅	40		
225	2	25D	0528		養生	甕					口縁部細片	横ナフ	網毛	網毛		黄褐色	やや粗	石炭	やや不良	外反				口縁部には赤銅	41		
225	3	25D	0528		養生	甕					口縁部細片	横ナフ	網毛	ナフ		黄褐色	粗	石炭・赤鉄粉	良好	外反					42		
226	4	25D	0528		養生	甕	6.7				底径1/2	網毛	網毛	網毛	ナフ	黄褐色	粗	石炭・赤鉄粉	良好						43		
225	5	25D	0528		養生	甕	31.0				口縁部1/8	横ナフ	網毛横ナフ	不明		赤・黄褐色内・黄褐色	粗	石炭・赤鉄粉	やや良	外反し・縦部に面有					44		
225	6	25B	0528		養生	井	15.0	3.4			口縁部1/4欠損	横ナフ	網毛	ナフ	ナフ	黄褐色	粗	石炭・赤鉄粉	良好	外反					45		
225	7	25D	0528		養生	鉢					口縁部細片	横ナフ	不明	不明		赤・黄褐色内・暗黒茶色	粗	石炭・赤鉄粉・赤鉄粉	やや不良	大きく外反					46		
225	8	25D	0528		養生	甕	25.0				口縁部1/4	横ナフ	網毛	網毛		黄褐色	やや粗	石炭・赤鉄粉	やや良	二重口縁					横目縁幅1.5cm	47	
225	9	25D	0528		養生	甕					底径3/4	網毛	網毛			赤・黄褐色内・黄褐色	やや粗	石炭・赤鉄粉	良好						横目に赤銅土層	48	
225	10	25D	0528		養生	甕	7.0	4.2	5.4		完形	手づくね	手づくね	手づくね	手づくね	手づくね	赤・黄褐色内・暗黒茶色	やや粗	石炭・赤鉄粉	やや良	外方へひろく					ココナツア	49
225	11	25D	0528		養生	甕	6.7	2.3	3.5		完形	手づくね	手づくね	手づくね	手づくね	手づくね	赤・黄褐色内・暗黒茶色	やや粗	石炭・赤鉄粉	やや不良	外方へひろく					ココナツア	50
227	38	25D	0528	II	養生	甕					体部細片	磨き	磨き			黄褐色	やや粗	石炭・赤鉄粉	やや良						横目に赤銅土層	51	
228	1	25D	0663		養生	甕					口縁部細片	横ナフ	横ナフ	不明		暗黒茶色	やや粗	黒鉄粉・赤鉄粉	やや良	外反し・縦部に面有						52	
228	2	25D	0663		凸帯文	甕					口縁部細片	横ナフ	横ナフ	ナフ		赤・黄褐色内・暗黒茶色	やや粗	黒鉄粉・赤色粘土	良						53		
228	3	25D	0663		養生	高坏					口縁部細片	横ナフ	横ナフ	横ナフ		赤・黄褐色内・暗黒茶色	やや粗	赤鉄粉・赤色粘土・赤鉄粉・赤色粘土	やや不良	縦反伏						54	
229	1	25D	0695		土師	甕		6.4			口縁部打ち欠き	網毛	工具ナフ	工具ナフ	網毛	赤・黄褐色内・黄褐色	粗	赤鉄粉	良	打ち欠き						55	
229	2	25D	0695		土師	甕		7.0			口縁部打ち欠き	網毛	ナフ	ナフ	網毛	赤・黄褐色内・暗黒茶色	粗	黒鉄粉・赤鉄粉	良	打ち欠き						56	
229	3	25D	0695		養生ナリ土師?	高坏	17.0				坪部1/4	横ナフ	横ナフ	横ナフ		赤・黄褐色内・暗黒茶色	粗	金銅粉・赤色粘土	良	外反						57	
229	5	25D	0695		土師	高坏	17.2				坪部1/4	横ナフ	横ナフ	不明		赤・黄褐色内・暗黒茶色	粗	赤色粘土	良	横部に外反						58	
230	1	25D	0702		養生	甕	24.1				高部欠損	横ナフ	工具ナフ	ナフ		黄褐色	やや粗	赤鉄粉	良好	外反し・縦部に面有						口縁部側の赤銅土層に灰目土層	59
230	2	25B	0702		養生	甕	15.5	6.2	12.6		ほぼ完形	横ナフ	ナフ	ナフ	ナフ	黄褐色	やや粗	赤色粘土	やや良	外反し・縦部に面有						口縁部側の赤銅土層に灰目土層	60
230	3	25D	0702		土師	井	14.0	4.9	3/4		横ナフ	手持ち蓋削り	横ナフ	ナフ	ナフ	黄褐色	粗		良	内腐						61	
231	1	25D	0749		養生	甕					口縁部細片	横ナフ				黄褐色	やや粗		やや良	外反						横目縁に「灰」目土層	62
231	2	25D	0749		養生	甕					体部細片	磨き	ナフ			黄褐色	粗		良							横目に赤銅土層? 横目に赤銅土層	63
231	3	25D	0749		養生	鉢	6.0	3.0	4.3		口縁部の3/4欠損	ナフ	ナフ	ナフ	ナフ	黄褐色	粗		良	横部に内腐							64
232	1	25E	0668		土師	甕					口縁部細片	横ナフ	横ナフ	横ナフ		黄褐色	粗	白色粒子・赤色粘土・赤色粘土	良	内腐						横目厚1.5mm	65
232	2	25E	0668		土師	甕					口縁部細片	横ナフ	ナフ	横ナフ		赤・黄褐色内・暗黒茶色	粗	白色粒子・赤色粘土	やや良	横部に内腐						66	
233	2	25B	0601		養生	甕					口縁部細片	横ナフ	横ナフ	ナフ		赤・黄褐色内・暗黒茶色	やや粗	白色粒子・赤色粘土・赤鉄粉・赤鉄粉	良	内腐 凸部貼付	1条 横目有	1条 横目有			横目縁に赤銅土層(1.5mm)層	67	
233	3	25B	0601		養生	甕	8.2				底径1/2	横ナフ	ナフ	ナフ	ナフ	赤・黄褐色内・黄褐色	やや粗	金銅粉・厚銅・黒鉄粉	やや良							68	
234	2	25K	0582	IV	養生	甕	6.4				1/2	磨き	磨き	ナフ	ナフ	赤・黄褐色内・暗黒茶色	やや粗	金銅粉・厚銅・赤鉄粉	良	外反						横目に磨き層	69
234	3	25K	0582	IV	養生	甕	12.0				口縁部1/4	横ナフ	不明	磨き		赤・黄褐色内・暗黒茶色	やや粗	金銅粉・厚銅・赤鉄粉	良	外反 外面肥厚						69	
234	4	25K	0582	IV	養生	甕	26.0				上平部7/8	横ナフ	不明	ナフ		黄褐色	粗	金銅粉・厚銅・赤鉄粉	やや良	凸部貼付 上面に面	1条 横目有	1条 横目有				70	
235	3	25P	0695		ココナツア	甕					口縁部細片	横ナフ	ナフ	ナフ		赤・黄褐色内・暗黒茶色	粗	金銅粉・赤鉄粉	良	内腐						横目に磨き層	71
235	4	25P	0695		凸帯文	甕	22.0				口縁部1/4	横ナフ	横ナフ	ナフ		赤・黄褐色内・暗黒茶色	粗	赤鉄粉	やや不良	凸部貼付	1条 横目有	1条 横目有				72	
235	9	25P	2020		凸帯文	甕	14.8				上平部1/4	横ナフ	工具ナフ	ナフ		赤・黄褐色内・暗黒茶色	粗	石炭・赤鉄粉	良好	内腐 凸部貼付	1条 横目有	1条 横目有				73	
236	1	ラベル	なし		養生	甕	12.4	7.6	16.2		ほぼ完形	横ナフ	工具ナフ	ナフ	ナフ	黄褐色	粗	赤色粘土	良好	外反						74	

Tab.22 出土土器一覧⑬

Fig.	No.	遺構番号	層位	素材	産地	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重量 (g)	残存	備考	R-No
47	14	2SK 0300	II	粘板岩		紡錘車	7.6		0.5	14.2	1/2	穿孔径0.5cm	16
48	5	2SK 0301		土製		紡錘車	6.0		1.2	11.3	1/4		5
49	15	2SK 0302	I	土製		投弾	4.7	2.5	2.5	20.9	ほぼ完形		15
49	19	2SK 0302	III	サヌカイト	多久	鏃	2.2	2.0	5.0	1.3	両脚欠損		19
49	20	2SK 0302	III	サヌカイト	多久	スクレイパー	5.0	2.3	1.1	9.9	完形	剥片の再加工	20
51	12	2SK 0306		サヌカイト	多久	スクレイパー	6.2	5.3	1.2	47.0	完形		26
51	13	2SK 0306		黒曜石	腰岳	鏃	2.7	1.7	0.9	3.2	完形		25
52	11	2SK 0307		土製		投弾		3.2		14.5	1/3	胎土は精良	12
52	12	2SK 0307		粘板岩		扁平片刃石斧	3.3	1.6	0.5	5.7	完形		30
52	13	2SK 0307		サヌカイト	多久	鏃	3.3	2.6	0.7	2.9	完形		28
52	14	2SK 0307		サヌカイト	多久	スクレイパー	3.7	2.1	1.0	8.3	完形		29
52	15	2SK 0307		サヌカイト	多久	スクレイパー	7.3	4.1	1.9	36.5	完形		31
52	16	2SK 0307		サヌカイト	多久	スクレイパー	9.3	5.4	2.0	77.7	完形		32
52	20	2SK 0307	I	黒曜石	腰岳	剥片鏃	1.7	1.2	0.3	0.5	先端欠損		33
52	26	2SK 0307	II	サヌカイト	多久	スクレイパー	6.0	4.1	1.4	26.4	完形		34
54	15	2SK 0309	III	サヌカイト	多久	スクレイパー	5.1	3.2	0.7	8.2	完形		36
55	32	2SK 0309	V	砂岩		砥石	4.7	4.1	2.5	54.1	完形?		33
57	16	2SK 0314				不明	6.3	6.8	2.4	120.8	?		20
57	17	2SK 0314		サヌカイト	多久	鏃	2.0	1.5	0.4	0.6	両脚欠損		21
59	13	2SK 0315		黒曜石	腰岳	鏃	1.8	1.3	0.3	0.6	両脚欠損		13
62	8	2SK 0330		サヌカイト	多久	尖頭器	2.4	1.4	0.5	17.0	?		5
63	13	2SK 0331		土製		紡錘車	4.0	4.0	1.1	6.9	1/3		13
63	14	2SK 0331		サヌカイト	多久	ドリル	4.0	2.2	0.8	3.9	先端欠損		16
63	15	2SK 0331		サヌカイト	多久	鏃	2.1	2.0	0.4	1.0	完形		15
67	5	2SK 0341	VII	サヌカイト	多久	鏃	2.3	1.7	0.4	12.0	先端欠損 両脚欠損		2
69	2	2SK 0350		土製		紡錘車	3.1	3.1	0.9	9.1	完形	孔径4mm	2
69	5	2SK 0350	III	黒曜石	腰岳	スクレイパー	1.3	1.5	0.4	0.9	大部分を欠損		2
69	6	2SK 0353	II	黒曜石	腰岳	鏃	1.9	1.6	0.3	0.5	ほぼ完形		1
70	2	2SK 0355		土製		紡錘車	4.8	4.8	1.6	49.0	完形	孔径6mm	2
70	3	2SK 0355		黒曜石	腰岳	不明	2.0	1.3	0.4	0.9	完形		3
70	4	2SK 0355	IV	サヌカイト	多久	鏃	3.3	1.6	0.6	2.6	完形		1
70	5	2SK 0355	IV	サヌカイト	多久	不明	2.6	2.6	0.9	5.6	完形?		2
70	6	2SK 0355	IV	サヌカイト	多久	有茎鏃	3.2	1.3	0.4	1.5	両端欠損		1
73	2	2SK 0360		サヌカイト	多久	縦型石匙	2.7	1.4	0.4	1.7	完形?		2
73	4	2SK 0361		サヌカイト	多久	鏃	2.3	1.5	0.4	0.9	両端欠損		2

Tab.23 出土遺物（土器以外）一覧①



Fig.	No.	遺構番号	層位	素材	産地	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重量 (g)	残存	備考	R-No.
75	1	2SK 0364		土製		投弾	4.6	2.5	2.4	19.6	完形		1
75	2	2SK 0368		サヌカイト	多久	尖頭器?	4.8	1.5	0.6	4.2	完形		1
75	3	2SK 0368		サヌカイト	多久	ドリル	2.3	0.9	0.4	1.1	完形		2
75	4	2SK 0368		結晶片岩		石包丁	4.2	2.6	0.4	7.8	1/4		3
75	5	2SK 0368	I	サヌカイト	多久	鎌	2.6	2.1	0.6	2.1	片脚欠損		1
75	6	2SK 0368	II	サヌカイト	多久	鎌	2.0	1.5	0.4	0.8	片脚欠損		1
76	1	2SK 0369		サヌカイト	多久	鎌	2.5	1.8	0.4	1.5	ほぼ完形		1
76	2	2SK 0369	II	泥岩		尖頭器?	3.0	1.3	0.6	2.9	基部欠損	鉄付着	1
76	4	2SK 0372		黒曜石	腰岳	鎌	1.4	1.2	0.3	0.3	片脚欠損		1
76	5	2SK 0374		泥岩		扁平磨製石斧	4.0	2.6	0.8	16.1	完形		1
76	10	2SK 0382	I	サヌカイト	多久	鎌	1.8	1.7	0.3	0.7	先端欠損		2
76	11	2SK 0382	I	サヌカイト	多久	鎌	2.0	1.7	0.3	0.7	両脚欠損		1
79	9	2SK 0391		土製		紡錘車	4.5	4.5	1.4	34.0	完形	孔径0.6cm	9
81	1	2SK 0398		黒曜石	腰岳	鎌	2.5	1.7	0.3	0.6	片脚欠損		1
81	2	2SK 0398		黒曜石	椎葉川	鎌	1.8	1.4	0.4	0.6	先端欠損 片脚欠損		2
82	1	2SK 0402		砂岩		砥石?	2.9	4.1	1.6	14.6	小片		1
83	12	2SK 0405		サヌカイト	多久	スクレイパー	3.7	3.3	1.8	30.1	完形?		13
83	13	2SK 0405		サヌカイト	多久	鎌	2.2	1.7	0.3	0.5	ほぼ完形		12
83	14	2SK 0405		サヌカイト	多久	鎌	1.5	1.9	0.5	1.3	完形		14
83	15	2SK 0404		サヌカイト	多久	鎌	2.1	1.9	0.4	1.0	先端欠損		1
84	3	2SK 0416		土製		紡錘車	4.7	4.7	1.0	22.1	完形	孔径0.6cm	1
85	2	2SK 0418	I	サヌカイト	多久	鎌	2.1	1.9	0.4	1.1	ほぼ完形		2
86	2	2SK 0420		サヌカイト	多久	鎌	1.8	2.2	0.3	1.1	完形		2
86	3	2SK 0420		黒曜石	腰岳	鎌	2.9	1.5	0.3	0.6	完形		3
86	4	2SK 0422		サヌカイト	多久	鎌	1.7	0.8	0.3	0.4	両脚欠損	未製品?	1
88	3	2SK 0423		土製		投弾	3.5	1.8	1.8	8.7	完形	胎土に白色粒子・黒色粒子・金雲母を含む	2
88	4	2SK 0423		土製		投弾	12.0	2.5		12.0	1/2	胎土に白色粒子・黒色粒子・金雲母を含む	3
88	5	2SK 0423		土製		粘土塊	2.4	2.6	1.6	8.2	完形	胎土に白色粒子・雲母を含む	4
88	6	2SK 0423		粘版岩	?	柱状片 刃石斧	3.2	1.8	2.0	14.8	小片	砥石に最利用	8
88	7	2SK 0423		サヌカイト	多久	スクレイパー	5.4	3.6	1.2	19.9	完形		6
88	8	2SK 0423		サヌカイト	多久	スクレイパー	6.8	4.7	1.3	42.9	完形		7
88	9	2SK 0423		サヌカイト	多久	スクレイパー	7.2	4.4	1.4	38.8	完形		10
88	10	2SK 0423		サヌカイト	多久	鎌	5.2	3.0	0.8	10.6	完形?		9
88	11	2SK 0423	I	土製		投弾	4.0	2.2		11.7	2/3	胎土に白色粒子・雲母を含む	1
88	13	2SK 0423	III	サヌカイト	多久	鎌	2.6	2.8	0.4	1.9	先端欠損 片脚欠損		1

Tab.24 出土遺物（土器以外）一覧②

Fig.	No.	遺構番号	層位	素材	産地	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重量 (g)	残存	備考	R-No
88	14	2SK 0423	III	サヌカイト	多久	縦型 石匙	4.3	1.7	0.6	4.0	完形?		2
88	15	2SK 0423	IV	サヌカイト	多久	ドリル	3.9	1.8	0.4	1.9	完形		3
88	16	2SK 0423	IV	サヌカイト	多久	スクレイパー	6.0	4.2	1.1	27.4	完形		2
89	25	2SK 0423	V	サヌカイト	多久	鎌	3.2	2.3	0.5	2.8	完形		8
90	3	2SK 0423		土製		投弾	4.7	2.5	2.5	22.1	完形	黒色粒子・金雲母を含む	3
90	4	2SK 0423		土製		投弾	3.6	2.0		11.8	一部欠損	黒色粒子・白色粒子・金雲母を含む	4
91	1	2SK 0426		サヌカイト	多久	鎌	2.8	2.2	0.7	3.6	完形		1
91	2	2SK 0426		サヌカイト	多久	鎌	2.2	1.3	0.4	0.8	完形		2
91	3	2SK 0426		サヌカイト	多久	有茎鎌	4.0	2.2	0.6	2.8	完形		3
91	4	2SK 0426	II	サヌカイト	多久	鎌	2.0	2.8	0.4	0.9	完形		1
92	2	2SK 0428	III	硅岩		不明	3.0	2.3	2.0	16.6	?		1
93	1	2SK 0431		片岩		磨製 石鏃	11.2	3.8	0.5	21.0	片脚欠損		3
94	2	2SK 0432	IV	土器片		面子	4.0	4.1	0.6	13.9	完形		2
95	3	2SK 0434		サヌカイト	多久	尖頭器 未製品	4.0	2.0	1.2	9.0	完形		3
96	4	2SK 0434		砂岩		磨製 石斧	7.0	4.8	3.4	184.4	基部のみ		5
96	5	2SK 0434		黒曜石	腰岳	鎌	1.7	1.5	0.4	0.5	完形		4
96	6	2SK 0434	I	黒曜石	腰岳	鎌	1.6	1.5	0.4	0.5	先端部のみ		1
96	10	2SK 0434	II	黒曜石	阿蘇?	鎌	2.8	2.2	0.7	2.2	完形		1
98	10	2SK 0435	VII	土製		紡錘車	4.4	4.4	1.5	29.5	完形	胎土に金雲母を含む	7
98	11	2SK 0435	VII	土製		紡錘車	2.6	2.6	0.6	7.0	完形	胎土に金雲母を含む	8
99	1	2SK 0436		玄武岩		磨製 石斧	7.2	7.7	3.1	26.5	刃部のみ		4
100	8	2SK 0439		土製		把手	4.3	2.6	1.3	11.7	把手のみ	胎土に角閃石を含む	10
100	9	2SK 0437		土製		紡錘車	3.9	3.9	1.1	32.3	完形		8
100	10	2SK 0437		土製		投弾	4.7	2.5		12.3	1/2		9
100	11	2SK 0437		黒曜石	腰岳	鎌	2.1	1.5	0.5	1.1	完形	再加工品か?	13
100	12	2SK 0437		黒曜石	腰岳	鎌	2.2	2.1	0.3	1.0	完形		12
100	13	2SK 0437		石英		コア	6.9	4.6	1.7	61.1	?		11
101	7	2SK 0438		サヌカイト	多久	スクレイパー	6.5	4.3	1.4	35.2	完形		8
101	8	2SK 0438		サヌカイト	多久	鎌	1.8	1.2	0.3	0.4	完形		7
102	8	2SK 0439		サヌカイト	多久	鎌	1.8	1.5	0.4	0.7	先端欠損		8
103	2	2SK 0440		サヌカイト	多久	鎌	2.6	1.1	0.4	1.1	完形		2
103	3	2SK 0440		サヌカイト	多久	鎌	1.2	1.3	0.4	1.3	基部欠損		3
103	4	2SK 0440		粘板岩		砥石	2.6	2.7	1.3	14.0	細片		4
103	5	2SK 0440	VII	玄武岩		磨製 石斧	11.1	7.0	4.2	658.0	刃部欠損		2
104	6	2SK 0440	I	サヌカイト	多久以外	鎌	2.0	1.6	0.3	0.7	片脚欠損		1

Tab.25 出土遺物（土器以外）一覧③

Fig.	No.	遺構番号	層位	素材	産地	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重量 (g)	残存	備考	R-No.
104	7	2SK 0440	III	サヌカ イト	多久	鎌?	2.7	1.5	0.8	3.0	?		1
104	8	2SK 0440	V	片岩		紡錘車 ?	5.0	4.4	0.4	10.6	1/2	切り込み(使用痕?) 1ヶ所有	1
105	2	2SK 0441		土製		紡錘車	5.2	5.2	1.0	34.7	完形	孔径0.5cm	2
107	8	2SK 0448		片岩		石包丁	7.1	5.3	0.4	15.9	1/2		12
107	9	2SK 0448		サヌカ イト	多久	ドリル	3.2	2.3	0.4	2.9	先端欠損		10
107	10	2SK 0448		サヌカ イト	多久	スクレ イバー	3.3	2.4	0.6	4.7	完形		8
107	11	2SK 0448		サヌカ イト	多久	鎌	2.0	1.9	0.5	1.2	片脚欠損		11
108	5	2SK 0451		サヌカ イト	多久 以外	ドリル	3.2	1.5	1.1	4.5	完形		9
108	6	2SK 0451		サヌカ イト	多久	ドリル	2.8	2.3	0.7	4.8	先端欠損		10
108	7	2SK 0451		サヌカ イト	多久	ドリル	4.1	1.3	0.8	2.8	完形		8
108	8	2SK 0451		サヌカ イト	多久	鎌	2.3	1.7	0.3	0.7	片脚欠損		7
108	9	2SK 0451		黒曜石	腰岳	鎌	2.2	1.9	0.4	1.1	片脚欠損		5
108	10	2SK 0451		サヌカ イト	多久	鎌	1.2	1.7	0.3	0.5	先端欠損		6
108	11	2SK 0451		サヌカ イト	多久	スクレ イバー	5.4	3.5	1.3	23.0	完形		11
108	12	2SK 0451		結晶 片岩		石包丁	6.0	4.9	0.7	37.3	1/2	未製品か?	13
108	13	2SK 0451		粘板岩		石包丁	9.3	4.1	0.8	42.0	完形	両刃 穀擦痕有	12
110	2	2SK 0453		土製		紡錘車	4.6	4.6	1.0	22.9	ほぼ完形	孔径0.4cm	2
110	3	2SK 0453		サヌカ イト	多久 以外	スクレ イバー	6.8	4.7	1.5	50.6	完形		3
110	4	2SK 0453		砂岩		砥石	6.0	6.5	2.4	112.7	?		4
110	9	2SK 0453	IV	粘板岩	?	柱状片 刃石斧	4.4	4.7	2.2	40.6	一部残存		7
112	3	2SK 0461		サヌカ イト	多久	釣針	4.3	1.1	0.3	2.3	?		1
112	4	2SK 0462		土製		投弾	5.2	2.6	2.6	20.6	完形		1
112	6	2SK 0470		サヌカ イト	多久	鎌	2.2	1.9	0.4	0.7	片脚欠損		1
113	3	2SK 0492		サヌカ イト	多久	鎌	1.6	1.5	0.2	0.5	完形		1
115	7	2SK 0502		サヌカ イト	多久	スクレ イバー	4.5	4.6	0.8	22.0	完形		8
115	8	2SK 0502		黒曜石	腰岳	細石刃	2.0	0.6	0.2	0.3	完形		7
116	6	2SK 0506		サヌカ イト	多久	鎌	1.9	1.9	0.3	1.0	完形		6
117	4	2SK 0507		粘板岩	?	柱状片 刃石斧	10.3	5.2	0.9	66.3	?		4
118	1	2SK 0510		玄武岩	今山	石鏝	3.6	3.2	0.6	7.2	完形	磨製石斧の再加工か?	1
118	2	2SK 0517		サヌカ イト	多久	鎌	3.8	2.3	0.7	4.8	完形		1
118	3	2SK 0519		サヌカ イト	多久	鎌	3.9	2.0	0.9	6.7	完形		2
118	4	2SK 0519		サヌカ イト	多久	スクレ イバー	4.2	4.1	0.8	20.9	完形?		1
119	5	2SK 0524		サヌカ イト	多久	スクレ イバー	7.3	6.1	2.3	92.1	完形		6
119	6	2SK 0524		サヌカ イト	多久	スクレ イバー	7.9	7.0	1.5	81.3	完形		5
119	7	2SK 0524		サヌカ イト	多久	鎌	1.9	1.6	0.2	0.5	先端欠損		7

Tab.26 出土遺物(土器以外)一覽④



Fig.	No.	遺構番号	層位	素材	産地	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重量 (g)	残存	備考	R-No.
119	8	2SK 0524		サヌカイト	多久	鏝	2.5	1.2	0.4	0.8	完形		8
119	10	2SK 0524	XI	土製		紡錘車	3.3	3.3	1.0	15.4	完形	孔径0.4cm	1
121	1	2SK 0525		サヌカイト	多久	スクレイパー	6.5	4.4	1.6	49.5	完形		1
121	2	2SK 0525		安山岩		叩き石	11.0	8.0	6.2	555.0	完形?		3
121	3	2SK 0525		砂岩		砥石	9.1	5.9	2.0	141.8	小片		2
121	5	2SK 0525	I	黒曜石	腰岳	鏝	1.7	1.9	0.3	0.9	先端欠損 両脚欠損		2
121	6	2SK 0525	I	サヌカイト	多久	鏝	2.3	2.0	0.6	1.9	両脚欠損		3
121	7	2SK 0525	II	サヌカイト	多久	鏝	1.8	1.4	0.3	0.6	片脚欠損		4
121	8	2SK 0525	II	サヌカイト	多久	鏝	2.0	1.7	0.7	1.2	完形		3
121	9	2SK 0525	II	土製		投弾	4.1	2.0	2.0	10.4	ほぼ完形	胎土は精良	2
122	5	2SK 0529		サヌカイト	多久	ドリル	3.7	1.3	0.4	1.3	完形		2
122	5	2SK 0535		サヌカイト	多久	スクレイパー	2.7	1.6	0.4	1.6	完形		1
123	11	2SK 0540		サヌカイト	多久	鏝	2.1	1.5	0.3	0.7	片脚欠損		13
123	12	2SK 0540		サヌカイト	多久	鏝	3.0	2.4	0.4	1.7	完形		12
123	13	2SK 0540		泥岩		石包丁	5.7	4.1	0.7	22.0	1/3	両刃偏刃 穀痕痕有	11
124	10	2SK 0451		土製		投弾	3.6	2.8	1.7	12.7	1/3		1
124	11	2SK 0451		土製		面子	3.5	2.9	0.6	6.7	完形?		2
124	12	2SK 0541		サヌカイト	多久以外	鏝	1.7	1.1	0.4	0.4	先端欠損 両脚欠損		17
124	13	2SK 0541		サヌカイト	多久	鏝	2.2	1.7	0.4	0.9	両脚欠損		18
124	14	2SK 0541		サヌカイト	多久	鏝	2.4	2.1	0.3	0.9	片脚欠損		13
124	15	2SK 0541		サヌカイト	多久	鏝	1.5	2.0	0.5	1.0	完形		19
124	16	2SK 0541		サヌカイト	多久	スクレイパー	6.9	4.6	0.6	19.2	完形		12
124	17	2SK 0541		泥岩		紡錘車	2.7	2.6	0.7	5.9	1/6		14
124	18	2SK 0541		片岩		石包丁	4.5	4.3	0.6	12.3	1/3	未製品	16
124	19	2SK 0541		黒曜石	腰岳	釣針	3.5	1.1	0.5	1.4	完形?		15
124	20	2SK 0541		安山岩		叩き石	8.1	8.1	3.9	360.0	完形		20
125	17	2SK 0552		サヌカイト	多久	スクレイパー	3.3	3.5	1.3	15.9	完形		17
125	23	2SK 0552		土製		投弾	5.6	2.6	2.6	31.6	完形		5
126	2	2SK 0542		粘板岩		石包丁	6.6	5.4	0.5	32.6	1/2	両刃	6
126	3	2SK 0542		サヌカイト	多久	鏝	3.2	2.4	0.4	1.6	片脚欠損		4
126	4	2SK 0542		サヌカイト	多久	ドリル	5.6	2.0	0.7	6.2	完形?		3
126	5	2SK 0542		片岩		不明	5.3	3.5	0.6	22.5	完形?		5
126	6	2SK 0542		土製		投弾	4.6	2.4	2.4	19.6	ほぼ完形	胎土に赤色粒子を含む	1
127	1	2SK 0543		サヌカイト	多久	鏝	2.6	2.0	0.6	2.3	片脚欠損		1
127	2	2SK 0543		サヌカイト	多久	ドリル	3.4	2.0	0.8	4.0	完形		2

Tab.27 出土遺物（土器以外）一覽⑤

Fig.	No.	遺構番号	層位	素材	産地	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重量 (g)	残存	備考	R-No.
129	8	2SK 0558		片岩		石包丁	4.3	1.8	0.4	2.7	刃部のみ	両刃偏刀	12
129	9	2SK 0558		粘板岩	?	柱状片 刃石斧	7.5	2.3	1.6	44.7	?		10
129	10	2SK 0558		サヌカ イト	多久	鐵	2.8	2.2	0.5	1.7	完形		13
129	11	2SK 0558		サヌカ イト	多久	鐵	2.8	1.9	0.3	1.2	片脚欠損		11
129	12	2SK 0558		サヌカ イト	多久	鐵	2.6	1.7	0.3	1.1	両脚欠損		8
129	13	2SK 0558		サヌカ イト	多久	鐵	2.0	1.6	0.3	0.9	片脚欠損		9
130	20	2SK 0558	I	片岩		石包丁	6.8	4.0	0.5	18.1	1/3	両刃偏刀	8
130	21	2SK 0558	I	片岩		紡錘車	5.3	2.4	0.3	7.7	1/2	復元直径5.2cm	9
130	22	2SK 0558	I	サヌカ イト	多久	鐵	2.7	2.0	0.5	1.7	完形		7
131	4	2SK 0577		玄武岩		磨製 石斧	14.6	7.1	3.3	550.0	基部と刃 部欠損		1
131	10	2SK 0580		土製		投弾	3.4	2.3	0.9	6.4	1/4		5
131	11	2SK 0580		サヌカ イト	多久	鐵	2.2	1.7	0.4	1.1	片脚欠損		7
131	12	2SK 0582	I	サヌカ イト	多久	鐵?	2.2	1.8	0.3	1.1	?	未製品?	2
131	13	2SK 0582	I	サヌカ イト	多久	鐵	2.5	1.7	0.4	1.1	片脚欠損		1
132	4	2SK 0586		サヌカ イト	多久	鐵	2.8	1.8	0.7	2.2	完形		4
132	5	2SK 0587		サヌカ イト	多久	鐵	2.5	1.9	0.6	2.8	片脚欠損		2
132	6	2SK 0587		粘板岩		扁平片 刃石斧	5.3	0.9	1.4	12.0	基部と刃 部欠損		1
132	13	2SK 0591		土製		投弾	3.6	1.8	1.8	8.9	完形		5
132	14	2SK 0591		黒曜石	腰岳	鐵	2.0	1.7	0.3	1.2	先端欠損		6
132	15	2SK 0596		サヌカ イト	多久	鐵	2.2	1.6	0.3	0.8	先端欠損 片脚欠損		2
132	17	2SK 0596		サヌカ イト	多久	鐵	1.6	1.4	0.4	0.9	完形		1
135	1	2SK 0598		玄武岩		石斧?	5.5	6.1	2.0	142.9	基部片		3
135	2	2SK 0598		片岩		石包丁	4.4	3.2	0.4	6.5	刃のみ		1
135	3	2SK 0598		黒曜石	腰岳	鐵	1.8	1.6	0.3	0.5	片脚欠損		2
135	4	2SK 0599		サヌカ イト	多久	刺片	7.6	3.0	1.3	23.8	完形		1
136	2	2SK 0610		サヌカ イト	多久	ドリル	3.6	1.1	0.6	2.2	完形		2
136	3	2SK 0610		サヌカ イト	多久	鐵	2.7	1.8	0.5	1.4	完形		3
136	4	2SK 0611		黒曜石	腰岳	釣針?	3.9	1.2	0.2	1.1	完形?		2
136	5	2SK 0611		黒曜石	腰岳	鐵	1.7	1.3	0.4	0.5	片脚欠損		1
136	8	2SK 0631		サヌカ イト	多久 以外	スクレ イパー	3.8	2.9	1.3	12.0	完形		1
138	11	2SK 0675		サヌカ イト	多久	鐵	3.7	1.8	0.3	2.0	完形		11
140	12	2SK 0676		珪岩		ドリル	6.5	5.7	2.2	65.4	完形		16
140	13	2SK 0676		安山岩		砥石	15.0	10.8	5.4	1033.0	?		15
140	14	2SK 0676		片岩		紡錘車	6.3	3.9	0.5	23.6	1/2	未製品	14
140	15	2SK 0676		サヌカ イト	多久	鐵	2.6	1.6	0.2	1.2	完形		13

Tab.28 出土遺物（土器以外）一覽⑥

Fig.	No.	遺構番号	層位	素材	産地	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重量 (g)	残存	備考	R-No
141	1	2SK 0677		サヌカイト	多久	スクレイパー	6.8	4.5	1.3	39.6	両端欠損		1
141	3	2SK 0680		サヌカイト	多久	スクレイパー	5.5	3.7	1.7	30.8	完形		3
141	4	2SK 0680		サヌカイト	多久	鏃	3.6	1.4	0.8	3.3	完形		4
141	5	2SK 0680		サヌカイト	多久	鏃	2.1	1.6	0.4	0.7	片脚欠損		5
141	5	2SK 0680		土製		投擲	3.9	2.2	1.5	11.7	1/2		2
142	5	2SK 0697		サヌカイト	多久	鏃	2.0	1.3	0.3	0.7	片脚欠損		3
142	6	2SK 0697		黒曜石	腰岳	鏃	2.3	1.5	0.4	1.0	完形		5
142	7	2SK 0697		サヌカイト	多久	鏃	2.0	1.6	0.4	1.1	完形		4
143	4	2SK 0743		土製		不明	6.4	6.2	3.2	151.2	?	焼成前穿孔有 権か?	2
144	4	2SK 0745		緑泥片岩	八女	石包丁	11.4	6.0	0.7	74.5	両端欠損	両刃偏習 穀糠底有	4
145	1	2SK 0746		サヌカイト	多久	鏃	3.1	1.1	0.4	1.5	完形		1
146	3	2SK 0765		サヌカイト	多久	尖頭器	2.8	1.4	0.5	2.4	完形		3
148	8	2SK 0800		黒曜石	腰岳	鏃	2.2	1.8	0.3	0.9	完形		11
150	1	2SK 0806		サヌカイト	多久	スクレイパー	2.3	2.0	0.5	1.8	完形		1
150	5	2SK 0830		サヌカイト	多久	鏃	2.8	2.4	0.5	2.1	片脚欠損		3
151	1	2SK 0843		砂岩		砥石	13.1	5.9	5.8	650.0	部分		3
153	4	2SK 0850		安山岩		磨製石斧	12.4	7.2	3.6	580.0	基部欠損		4
153	5	2SK 0850		黒曜石	腰岳	鏃	2.0	1.6	0.4	1.2	完形?		6
153	6	2SK 0850		黒曜石	腰岳	ナイフ	2.6	1.0	0.4	1.3	完形?		5
154	7	2SK 0872		サヌカイト	多久	スクレイパー	5.2	3.4	1.3	26.2	完形?		2
154	8	2SK 0873		サヌカイト	多久以外	鏃	1.3	1.6	0.2	0.4	先端欠損 片脚欠損		1
156	18	2SK 0878		片岩		石包丁	8.7	5.9	0.7	41.9	1/2		19
156	19	2SK 0878		砂岩		砥石	7.8	7.1	2.3	150.0	?		20
157	2	2SK 0881		サヌカイト	多久	鏃	2.0	0.9	0.3	0.4	片脚欠損		2
158	1	2SK 0907		サヌカイト	多久以外	鏃	2.1	2.0	0.3	0.9	先端欠損	アメリカ型石鏃	1
158	3	2SK 0911		サヌカイト	多久	鏃	3.0	2.2	0.3	1.7	片脚欠損		1
161	1	2SK 0916		サヌカイト	多久	鏃	3.3	3.0	0.6	3.3	片脚欠損		1
161	2	2SK 0920		黒曜石	腰岳	細石刀	1.1	0.6	0.2	0.1	両端欠損		1
161	5	2SK 0923		サヌカイト	多久	ドリル	3.6	1.3	0.7	3.6	完形?		1
162	8	2SK 0950		サヌカイト	多久以外	鏃	2.0	1.7	0.4	0.7	両脚欠損		5
164	2	2SK 0957		サヌカイト	多久	ドリル	3.9	2.6	0.7	4.3	完形?		2
164	5	2SK 0963		サヌカイト	多久	鏃	1.8	1.6	0.4	1.0	完形?		1
164	6	2SK 0969		サヌカイト	多久	尖頭器?	2.3	1.0	0.7	1.4	完形?		1
164	7	2SK 0972		サヌカイト	多久	スクレイパー	2.9	1.4	0.6	2.5	完形		1
164	10	2SK 0979		サヌカイト	多久以外	鏃	2.3	1.5	0.4	0.7	片脚欠損		4

Tab.29 出土遺物（土器以外）一覽①

Fig.	No.	遺構番号	層位	素材	産地	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重量 (g)	残存	備考	R-No.
165	4	2SK 0981		サスカ イト	多久	鏝	1.8	1.7	0.3	0.5	完形		4
165	5	2SK 0984		黒曜石	椎葉川	剥片鏝	3.4	1.6	0.6	3.5	完形?		1
166	6	2SK 0989		サスカ イト	多久	スクレ イバー	6.1	5.4	1.4	37.5	完形		6
167	4	2SK 0993		サスカ イト	多久	鏝	3.9	2.3	0.7	3.3	完形		1
167	7	2SK 2004		サスカ イト	多久	石刃	2.1	1.1	0.3	0.9	両端欠損		1
167	8	2SK 2006		サスカ イト	多久	鏝	2.2	1.6	0.3	0.9	片脚欠損		1
169	8	2SK 2008		土製		紡錘車	3.3	3.4	1.4	16.9	完形		8
169	9	2SK 2008		サスカ イト	多久 以外	鏝	1.8	1.4	0.3	0.6	完形		9
169	10	2SK 2008		黒曜石	腰岳	鏝	1.7	1.5	0.4	0.9	先端欠損		11
169	11	2SK 2008		黒曜石	腰岳	スクレ イバー	3.0	2.1	0.8	4.2	完形		12
169	12	2SK 2008		サスカ イト	多久	スクレ イバー	4.2	3.6	1.1	16.2	完形		10
172	1	2SK 2009		黒曜石	腰岳	ドリ ル?	2.0	1.1	0.3	1.0	完形?		1
172	2	2SK 2009		サスカ イト	多久	石刃	2.4	0.9	0.3	0.9	片側欠損		2
173	13	2SK 2013		粘板岩		石包丁	6.7	8.7	66.7	66.7	1/4		15
174	14	2SK 2013		片岩		石包丁	5.3	3.7	0.8	22.3	1/4	両刃	14
174	15	2SK 2013		サスカ イト	多久	ドリル	3.2	1.8	0.8	3.2	完形?		13
178	5	2SK 2021		片岩		石包丁	6.6	5.6	0.7	30.4	1/3	両刃備刃?	5
179	7	2SK 2025		サスカ イト	多久 以外	鏝	2.4	1.2	0.2	0.4	片脚欠損		7
179	8	2SK 2025		黒曜石	阿蘇?	鏝	1.9	1.8	0.4	1.5	先端欠損		8
184	7	2SK 2049		片岩		磨製 石剣	3.1	4.4	0.8	16.6	柄のみ		1
188	6	2SK 2097		サスカ イト	多久	鏝	3.0	1.5	0.3	1.5	3/5		2
188	7	2SK 2099		黒曜石	腰岳	スクレ イバー	2.3	1.7	0.2	1.3	?		2
188	8	2SK 2099		サスカ イト	多久	ドリル	3.4	1.7	1.1	5.4	完形	先端に使用痕有	1
188	10	2SK 2120		サスカ イト	多久	鏝	2.2	1.9	0.3	0.9	片脚欠損		2
188	11	2SK 2120		サスカ イト	多久	鏝	1.9	1.5	0.2	1.1	完形?		1
191	1	2SK 2151		黒曜石	腰岳	ドリ ル?	3.1	1.7	0.5	1.8	完形?		1
191	2	2SK 2154		サスカ イト	多久	スクレ イバー	6.4	4.5	1.6	48.2	完形		1
192	4	2SK 2160		砂岩		砥石	7.5	5.5	3.0	162.6	?		4
193	3	2SK 2164		土製		紡錘車	4.1	4.1	0.8	16.0	一部欠損		1
195	1	2SK 2167		サスカ イト	多久	鏝	2.7	1.7	0.4	1.1	完形		1
195	2	2SK 2167		サスカ イト	多久 以外	石核	7.3	3.2	1.6	62.4	完形?		2
195	4	2SK 2168		サスカ イト	多久	鏝	2.8	1.3	0.4	1.1	完形		2
199	2	2SK 2190		サスカ イト	多久	スクレ イバー	6.3	4.1	0.5	15.4	両端欠損		2
199	4	2SK 2195		片岩		石包丁	9.4	7.7	0.5	41.8	1/2弱	両刃備刃	2
199	5	2SK 2195		黒曜石	腰岳	鏝	4.3	2.3	0.5	3.4	片脚欠損		1

Tab.30 出土遺物（土器以外）一覧⑧

Fig.	No.	遺構番号	層位	素材	産地	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重量 (g)	残存	備考	R-No.
203	5	2SK 2205		粘板岩		紡錘車	4.3	4.3	0.5	15.4	完形	未製品 穿孔は未貫通 石材の中に石英の層がある	3
204	1	2SI 2300	P736	黒曜石	腰岳	鏃?	1.8	1.2	0.6	1.0	完形?		1
204	2	2SI 2300	P742	サヌカ イト	多久	鏃	2.7	2.3	0.3	1.7	完形		1
204	3	2SI 2300	P804	サヌカ イト	多久	ドリル	3.8	1.8	0.7	5.2	先端欠損		1
204	4	2SI 2300	P807	サヌカ イト	多久	鏃	1.8	2.0	0.3	0.6	先端欠損		1
204	5	2SI 2300	P824	黒曜石	腰岳	ドリル	3.0	1.6	0.6	2.0	完形		1
204	6	2SI 2300	P824	サヌカ イト	多久	鏃	2.1	2.0	0.4	1.4	完形		2
204	7	2SI 2300	P832	サヌカ イト	多久	スクレ イパー	2.9	2.0	0.4	2.2	完形		1
204	8	2SI 2300	P834	サヌカ イト	多久	スクレ イパー	2.5	2.5	0.5	4.2	完形		1
204	9	2SI 2300	P2083	サヌカ イト	多久	ドリ ル?	4.5	2.6	0.7	4.9	完形	尖頭器か?	1
205	1	2SI 2310	P867	サヌカ イト	多久	鏃	2.3	0.9	0.2	0.4	完形		1
206	1	2SI 2320	PT09	土製		有孔 円盤	5.5	2.8	1.1	14.1	1/3	復元径6.0cm 復元孔径0.5cm 胎土には雲母を含む	1
206	2	2SI 2320	P719	サヌカ イト	多久	鏃	2.2	1.9	0.4	1.2	先端欠損 両脚欠損		1
206	3	2SI 2320	P722	サヌカ イト	多久	石槍状 石器	3.3	1.0	0.4	1.3	完形?		1
206	4	2SI 2320	P870	黒曜石	阿蘇?	鏃?	1.9	2.0	0.6	2.8	?		1
207	2	2SI 0606		黒曜石	腰岳	剥片鏃	2.3	2.1	0.3	1.1	?		4
207	3	2SI 0606		サヌカ イト	多久	鏃	2.2	1.5	0.2	0.5	片脚欠損		2
207	4	2SI 0606		サヌカ イト	多久	鏃	2.9	2.3	0.3	1.2	先端欠損		3
207	5	2SI 0606	II	土製		投擲	2.9	2.0	2.2	10.8	2/3		1
207	6	2SI 0606	P893	サヌカ イト	多久	尖頭器?	4.6	2.4	0.3	3.4	完形		1
209	11	2SI 0608		粘板岩		石包丁	5.0	3.2	0.5	9.4	1/4	両刃偏刃	13
209	12	2SI 0608		粘板岩		石包丁	4.4	3.7	0.4	12.8	1/6		15
209	13	2SI 0608		片岩		石包丁	10.1	7.7	0.8	98.0	1/2	未製品	14
209	14	2SI 0608		黒曜石	腰岳	鏃	1.7	1.6	0.2	0.5	片脚欠損		12
209	15	2SI 0608		土製		紡錘車	4.0	4.0	0.6	16.5	一部欠損		11
209	17	2SI 0608	I	サヌカ イト	多久	石刃	4.3	0.8	0.2	1.4	完形?		3
209	18	2SI 0608	I	サヌカ イト	多久	ドリル	3.2	1.9	0.5	2.8	先端欠損		2
210	2	2SI 0609		サヌカ イト	多久 以外	鏃	2.4	1.2	0.4	1.2	片脚欠損		2
211	6	2SI 0688		サヌカ イト	多久	スクレ イパー	4.9	3.8	1.7	24.9	完形		6
213	5	2ST 0613	I	サヌカ イト	多久	鏃	2.5	1.4	0.5	1.6	一部欠損		2
213	6	2ST 0613	I	サヌカ イト	多久	鏃	2.5	1.4	0.3	0.9	完形		1
215	5	2ST 0879		粘板岩		偏平片 刃石斧	2.9	1.4	0.6	4.0	?		5
216	1	2ST 0880		サヌカ イト	多久 以外	鏃	2.3	2.1	0.6	2.2	先端欠損		3
216	2	2ST 0880		石英		鏃	1.9	1.8	0.3	0.7	完形		2
221	3	2SX 0371		結晶 片岩		石包丁	3.2	2.6	0.4	3.7	1/4	両刃偏刃	3

Tab.31 出土遺物（土器以外）一覧⑨

Fig.	No.	遺構番号	層位	素材	産地	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重量 (g)	残存	備考	R-No.
221	4	2SX 0371		サヌカ イト	多久	鏝	2.3	2.0	0.4	1.0	完形		4
221	5	2SX 0371		黒曜石	腰岳	鏝	2.5	1.8	0.4	1.2	完形		5
224	36	2SD 0362		結晶 片岩		紡錘車	4.6	4.6	0.7	23.8	一部欠損	孔径0.5cm	48
224	37	2SD 0362		片岩		石鏝?	9.6	3.9	1.8	94.6	ほぼ完形		49
224	38	2SD 0362		サヌカ イト	多久	スクレ イパー	7.3	4.4	1.2	43.8	完形		56
224	39	2SD 0362		サヌカ イト	多久	スクレ イパー	7.2	5.0	1.3	47.1	完形		57
224	40	2SD 0362		珪岩	?	コア	5.0	3.8	1.4	29.4	?		54
224	41	2SD 0362		粘板岩	?	柱状片 刃石斧	2.0	1.4	0.9	2.0	小片		53
224	42	2SD 0362		サヌカ イト	多久	有基鏝	3.4	1.3	0.4	1.5	完形		41
224	43	2SD 0362		サヌカ イト	多久	鏝	3.3	2.8	0.8	6.2	完形		55
224	44	2SD 0362		サヌカ イト	多久	鏝	3.2	2.9	0.9	5.4	片脚欠損		38
224	45	2SD 0362		サヌカ イト	多久	鏝	3.4	2.2	0.3	1.5	片脚欠損		37
224	46	2SD 0362		サヌカ イト	多久	鏝	2.8	2.5	0.4	1.7	先端欠損 片脚欠損		40
224	47	2SD 0362		サヌカ イト	多久	鏝	2.4	1.8	0.4	1.5	先端欠損 片脚欠損		50
224	48	2SD 0362		サヌカ イト	多久	鏝	2.5	1.4	0.3	0.6	片脚欠損		47
224	49	2SD 0362		サヌカ イト	多久	鏝	2.5	1.3	0.4	1.6	完形?	木製品	51
224	50	2SD 0362		サヌカ イト	多久	鏝	1.9	1.4	0.4	0.6	完形		46
224	51	2SD 0362		サヌカ イト	多久	鏝	2.0	1.5	0.3	0.9	片脚欠損		39
224	52	2SD 0362		サヌカ イト	多久	鏝	1.5	1.3	0.3	0.5	完形		35
224	53	2SD 0362		サヌカ イト	多久 以外	鏝	2.2	1.9	0.3	1.1	片脚欠損		45
224	54	2SD 0362		サヌカ イト	多久 以外	鏝	1.7	1.2	0.4	0.5	完形		43
224	55	2SD 0362		黒曜石	腰岳	鏝	2.0	1.1	0.3	0.5	1/2		42
224	56	2SD 0362		サヌカ イト	多久	鏝?	5.0	2.8	0.8	10.3	完形?		52
224	57	2SD 0362		サヌカ イト	多久	ドリル	2.8	1.0	0.3	1.1	両端欠損		36
224	58	2SD 0362		サヌカ イト	多久	スクレ イパー	2.6	1.8	0.4	1.7	完形		44
225	8	2SP 2219		粘板岩		石包丁	3.7	3.3	0.7	15.7	部分	砥石に転用	1
225	12	2SD 0528		土製		投弾	2.5	2.6	2.2	15.1	完形	胎土に金雲母・石英を含む	2
225	13	2SD 0528		土製		投弾	4.1	1.6	1.5	11.4	完形	胎土に金雲母・角閃石を含む	1
225	14	2SD 0528		安山岩		叩き石	18.2	7.3	5.1	1045.0	一部欠損		30
225	15	2SD 0528		安山岩		擦石? 石鏝?	10.5	4.0	3.8	415.0	一部欠損	叩き石?	29
226	16	2SD 0528		安山岩		凹み石	10.3	9.8	4.4	615.0	完形		28
226	17	2SD 0528		砂岩		砥石	13.3	4.2	2.3	173.8	両端欠損		27
226	18	2SD 0528		黒曜石	腰岳	鏝	1.4	1.5	0.2	0.3	完形		21
226	19	2SD 0528		黒曜石	腰岳	鏝	1.5	1.6	0.4	0.8	完形		23
226	20	2SD 0528		黒曜石	腰岳	鏝	1.4	1.8	0.3	0.9	先端欠損		22

Tab.32 出土遺物（土器以外）一覽⑩

Fig.	No.	遺構番号	層位	素材	産地	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重量 (g)	残存	備考	R-No.
226	21	2SD 0528		黒曜石	腰岳	鎌	3.2	1.8	0.4	1.7	先端のみ		24
226	22	2SD 0528		サヌカイト	多久	鎌	2.4	1.9	0.5	1.8	両脚欠損?		17
226	23	2SD 0528		サヌカイト	多久	鎌	2.3	1.8	0.4	0.7	完形		20
226	24	2SD 0528		サヌカイト	多久	鎌	1.7	1.7	0.3	0.7	先端欠損		26
226	25	2SD 0528		サヌカイト	多久	鎌	3.2	2.1	0.7	3.9	完形		18
226	26	2SD 0528		サヌカイト	多久	鎌	2.2	1.8	0.4	0.8	片脚欠損		25
226	27	2SD 0528		サヌカイト	多久	鎌	3.6	2.3	0.6	3.4	完形		16
226	28	2SD 0528		サヌカイト	多久	鎌	3.9	1.8	0.9	5.3	完形		19
226	29	2SD 0528		サヌカイト	多久	スクレイパー	5.1	4.2	1.6	30.9	完形		14
226	30	2SD 0528		サヌカイト	多久	スクレイパー	6.3	6.5	1.4	61.4	1/2?		15
227	31	2SD 0528	I	粘板岩		磨製石剣	2.5	3.3	0.8	7.9	柄部のみ		2
227	32	2SD 0528	I	粘板岩	?	柱状片刃石斧	3.7	2.2	1.7	6.6	?		7
227	33	2SD 0528	I	粘板岩?		紡錘車	6.3	6.4	0.6	47.6	完形?	未製品	1
227	34	2SD 0528	I	サヌカイト	多久	鎌	1.9	1.4	0.3	0.5	完形		3
227	35	2SD 0528	I	サヌカイト	多久	鎌	2.6	2.2	0.4	1.2	片脚欠損		4
227	36	2SD 0528	I	サヌカイト	多久	剥片石器?	2.6	1.4	0.4	1.5	完形?		6
227	37	2SD 0528	I	サヌカイト	多久	尖頭器	3.7	1.6	0.6	4.3	完形?		5
227	39	2SD 0528	II	サヌカイト	多久	スクレイパー	3.7	3.2	0.6	7.5	完形		2
228	4	2SD 0663		サヌカイト	多久以外	鎌	3.4	1.4	0.6	2.4	完形		1
230	4	2SD 0702		サヌカイト	多久	鎌	2.6	1.5	0.4	1.1	完形		4
231	4	2SD 0874		サヌカイト	多久	鎌	3.0	2.0	0.3	1.0	両脚欠損		1
231	5	2SD 0874		黒曜石	腰岳	剥片	1.4	1.2	0.2	0.4	完形?		2
233	1	2SB 0601		サヌカイト	多久	鎌	2.7	1.9	0.5	1.3	完形		1
233	4	2SP 0762		サヌカイト	多久	鎌	1.5	1.2	0.3	0.4	完形		1
234	1	2SK 0582	II	土製		紡錘車	3.8	3.8	1.3	23.1	完形	孔径0.6cm	1
235	1	2SP 0308		サヌカイト	多久	スクレイパー		5.0	0.9	18.2	1/2?		1
235	2	2SP 0373		サヌカイト	多久	鎌	2.8	1.8	0.6	2.9	完形		1
235	5	2SP 0705		サヌカイト	多久	鞍型石匙	8.2	2.6	0.7	21.6	完形		1
235	6	2SP 0708		サヌカイト	多久	鎌	2.1	1.4	0.3	0.9	両脚欠損		1
235	7	2SP 0846		黒曜石	腰岳	鎌	2.2	1.9	0.5	1.5	片脚欠損		1
X	1	2SK 0596		黒曜石	腰岳	原石				225.0	?		3

Tab.33 出土遺物（土器以外）一覧⑪

## 第Ⅳ章 考察

今回報告した遺構や遺物に対して若干の考察を加えてみたい。遺構と遺物それぞれでいくつかの項目を取り上げてみたい。

### 転用れた廃棄土坑と転用前の情報

今回の調査の中で数多くの廃棄土坑を確認したが、調査時の所見では大半が貯蔵穴からの転用であろうと捉えていた。このことは、整理作業から報告書の刊行作業を行っている今現在も変わり無い。確かに、調査時に廃棄土坑として検出した場合、土坑内の埋土も廃棄土坑に転用された後に、廃棄行為によって或いは廃棄行為と同時進行で堆積したものとなる。したがって、調査時に出土した遺物や検出した状況も廃棄土坑として利用した時の状況を示していることが多いと考えなければならない。その中で、今回の調査では、廃棄土坑への転用前の情報を包含していると考えられる遺構を2例検出した。1例は貯蔵穴の構造を知る情報を提供していると考えられるもので、もう1例は貯蔵穴利用時の祀りにかかわる情報を提供していると思われるものである。それぞれの事例について本文中の調査成果を再報したのちに、論考する。

### 床構造を持つ土坑

まず、1例目に2SK0363を再報する。調査区の中央附近にあり、2SK0800を切っている。長軸2.9m短軸1.8m深さ0.9mとやや大型で、主軸の方位はN-73°-Wである。この遺構は底面形状に特徴がある。東側・中央・西側の3つにわけて底面をさらに0.15mほど掘り下げている。それぞれの平面形状は崩れた方形または長方形で、東側0.8×0.8m、中央0.9×1.0m、西側0.5×1.0mを測る。それぞれの間と東端には掘りくぼめずに残した棚が認められる。これらを利用して木材等で床貼りをしていた可能性が高い。また、中央と西側の間には東西0.4m南北0.2m深さ0.2m程の小穴が認められる。

この底面の掘り込みであるが、周囲に若干の掘り残しともとれるような棚があり、その部分と凹みのない底面中央部の部分を利用して木製の床を設置した施設であると理解したい。中央部のみ掘り残し、

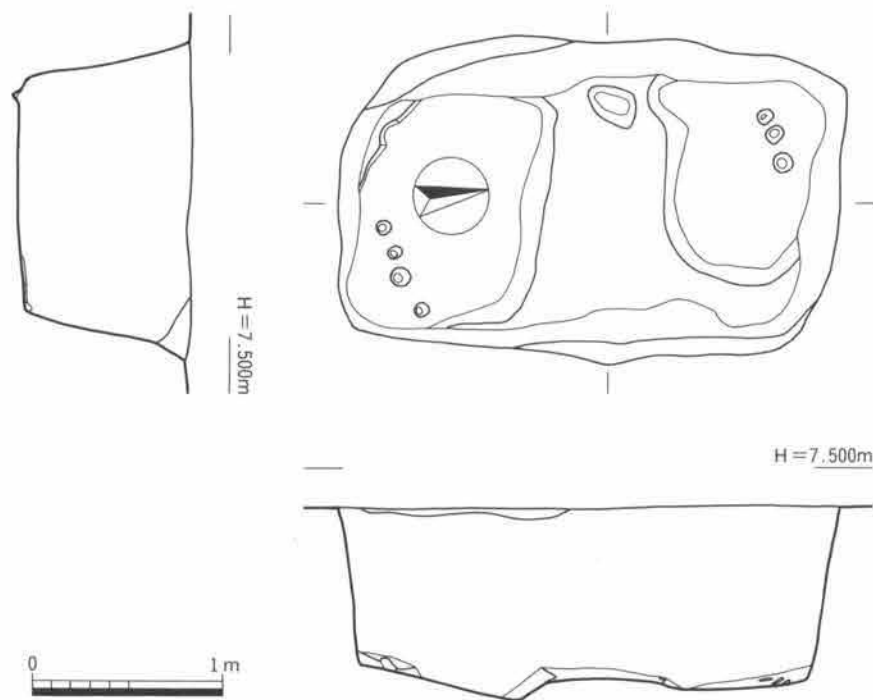


Fig.236 常用日田行遺跡第3次調査3SK10実測図 (1/40)



都合2ヶ所にわけて底面を掘り窪めているが、これには、そこに残された小穴の存在がその理由を示唆しているようである。これは、地下の貯蔵穴に出入りする際に使用した一本梯子を据えた痕跡であると考えて間違いなからう。この梯子を据える場所として、また貯蔵穴内に降りたときに作業する安定した足場として中央部分は掘り残したと思われる。そうしたことにより、床を地面から浮かせるための凹みは、2ヶ所に分かれて作られることとなり、今回の事例のようになったのである。更に、底面全体を地面から浮かせるためには、相当の強度をもった床の構造を必要とするが、2つに分割することによって構造を簡略化することも可能となった。経験に裏打ちされた必然性によって、この2分割の床貼り構造は生まれたと理解できよう。

ここで、周辺遺跡での類例を紹介して上記所見を検証する。常用日田行遺跡での事例であるが、周辺遺跡といってもすぐ北隣の微高地上に位置するので、大きくは同一の遺跡群に含まれると考えられる。常用日田行遺跡第3次調査の3SK10がそれである。(註1)長軸2.6m短軸1.7m深さ0.9mで、主軸の方位はN-08°-Eである。出土遺物には弥生土器がある。底面に2ヶ所の掘り込みが認められ、北側のものは南北0.8m東西1.1m深さ0.1mで、南側のものは南北1.0m東西1.2m深さ0.1mである。また、底面中央の西側には径0.2m深さ0.1mの小穴が認められる。

南側のものは、底面の幅いっぱい掘り込みを行い、南西隅を掘り残して小さな棚をつくり出し、南東隅には掘り込みの底面には杭の痕跡とみられる小穴が4個確認できる。北側のものは、土坑底部の東側を掘り残すように掘り込まれ、北東隅の底面には小穴が3個確認できる。ここでも、地山掘り残して造り出した棚と杭、さらに掘り残した底面で支えて木製の床を設けたのであろう。ここでも、掘り残した中央部に小穴があることが注意される。これも今回の報告例と同様に、一本梯子を据えた痕跡と考えるべきであろう。

今回は、筑後市外の事例は南筑後地域の範囲でしか類例調査を行っていない。しかし、当時の食料等を考えてみると、他にも事例はありそうである。それも、地下水位の比較的高い、有明海沿岸地域での分布は想像に難くない。食料等を比較的温度変化の少ない環境で保存する場合、地面から坑を穿って貯蔵穴とする方法は非常に効果の高い方法と言える。しかし、地下水位の高い地域で地下に貯蔵用の設備を設けた場合には、どうしても湿気の問題を避けて通れない。湿気に弱いものをいかに温度変化を抑えて貯蔵するかは、当時の人間にとって重要な問題であったことであろう。当時一般的であった、地下に貯蔵するという方法に加えて、地面からの湿気を抑えるために木床を貼った構造は、画期的なものであったに違いない。

ここで、もうひとつ問題が残る。同様の構造をもった土坑の割合が極めて低い点である。このことについて、今回の調査からは復元モデルの提示ができない。もちろん、米をはじめとする穀類の貯蔵には地下貯蔵穴は不向きであろう。堅果類や発酵食品が主体であったと思われる。その中で湿度が一定以下の保存状態を要求する食材が、収蔵品の候補に相応しかろう。そうしたものは、主たる食材ではなく、調味料や副菜・副食といった位置付けではなかったか。当該地での食文化の解明とも係わる問題であるので、ここで結論は導けない。

いずれにせよ、こうした貯蔵穴のありかたは、本遺跡の生活環境を復元する上で興味深い資料を提示していると思われる。私論を含め考察を試みたが、資料不足の感は否めない。

#### 底部打ち欠きの甕を棚に据える土坑

廃棄土坑の大半が貯蔵穴からの転用であろうことは遺構報告の文中でも述べたところであるが、その中に特異な事例があるので若干の考察を試み、本遺跡の中での位置付けを行ってみたい。

問題の土坑は2SK0363で、まず報告文を再掲する。主軸の方位はN-15°-Eである。長軸1.7m短軸1.1m深さ0.9mを測るが、南辺には幅0.3m奥行き0.2m底面からの高さ0.2mの棚を地山削りだしでつくる。棚の上面は南から東へ向かって傾斜しており、両端での比高差は0.1mである。この棚には弥生土器(亀ノ甲式)の甕を倒立させて据えている。

この倒立した土器は底面が欠損しているが、人為的に打ち欠かれたと理解している。その根拠は、完

存する甕を倒立した状態で据えていたのだとすれば、底部が欠損する機会は貯蔵穴として使用していた段階での事故、あるいは廃棄土坑へ転用後に廃棄物が接触しての欠損が想定できよう。そのいずれの場合にも、底部のみが綺麗に欠損することは奇跡に近い。したがって、人為的な打ち欠きであることは間違いない。さらに、打ち欠いてから据えたのか、据えてから打ち欠いたのかが問題であろう。当該遺構から底部の出土を見なかったことを考えれば、打ち欠いてから据えたと考えるのが妥当であると思われる。以上を整理すれば、2SK0363では地山を削り出して棚を造り、底にあらかじめ底部を打ち欠いた甕を倒立させて据えたという状況が復元できる。

この廃棄土坑が貯蔵穴からの転用であることは、文中で何度か触れてきたところである。では、どの段階で土器を据えたかと言う点について考えてみたい。土器が据えられている棚の部分を観察してみると、据えられた甕の口縁部径と棚の寸法がほぼ一致することに気がつく。しかも、棚の上面は土坑の内側に向かって傾斜しており、実用的に使用する棚としては少々使い勝手の悪い構造となっている。この2つの要素を総合すると、棚の成形は当初から甕を倒立させて据えることを目的としたことがわかる。しかも、棚が地山削り出しであることを考えれば、一連の作業は、土坑が当初の目的の為に設置される時点、換言すれば貯蔵穴として掘削された時点で行われたと解釈すべきであろう。

では、本遺跡の土坑の中で、類似する構造をもつ土坑はあるだろうか。少なくとも、今回報告する土坑の中には類事例は見当たらないようである。引き続き常用長田遺跡第1次調査・常用日田行遺跡の報告も予定されているので、注意してみたい。周辺地域の類例も、一定調査はしてみたが、管見の限りでは報告例がない。土坑の一般的なありようとは異なるようである。

土器の一部を打ち欠く行為については別に論じたことがあるが、土器の打ち欠きには一定の意味付けができる場合がある。もちろん、実用的な理由から打ち欠くこともあり、甕の底部を打ち欠く例としては煙突への転用などがある。しかし、古代まで時代が下る事例であるし、なにより、設置された環境が大きく異なるため今回は参考になり得ない。やはり、ここでも非実用的な理由の方が相応しかろう。

そうなると、何らかの祭祀行為を伴ったと考えるべきであるが、現時点でその祭祀の内容を復元することは困難である。しかし、類似する事例が極めて少ない点を勘案すれば、この土坑に特別な性格を与えることも、強ち無理があるとも思えない。集落内での、貯蔵の様式を複数設定するならば、その特殊な一例が今回のような事例に該当するのではなからうか。そこに貯蔵されるものは、例えば集団の維持について特別な存在であるもの等が想定されよう。このことは、縄文時代にも日本をはじめ北大平洋沿岸で象徴的収穫物を得るための活動が行われた(註2)ことを考えれば、弥生時代の前半期に在って然るべき生活様式であろう。それらを納める貯蔵穴は特別視され、何らかの祭祀行為が行われたであろう。

2SK0363での土器の倒立は、想像を逞しくするならば地鎮的な意味合いではなからうか。少なくとも、この土坑が他の土坑と差別化され、特別な位置付けであったと解釈したい。

## 竪穴式住居

今回の調査で確認した竪穴式住居のうち、平面形態が円形のものについて若干の考察を加えたい。本報告では5棟を円形の竪穴式住居として報告した。調査区の全体図を見ると、他にも可能性を捨てきれないものが他にも存在するが、ここでは報告した5棟について考えてみたい。

いずれも後世の削平によって竪穴の掘方を失っているが、もともと掘方が浅かった可能性も捨てきれない。弥生時代の集落(特に中期後半以降)では、現在の標高8乃至10m附近を境界にして、竪穴式住居を主体にする集落と、掘立柱建物を主体にする集落に分かれると指摘する意見がある。(註3)筆者もこの考えを指示するところであるが、この標高は一定の目安であって、河川や地下水位との比高差が本来的な指標となることを注意すべきである。(註4)

当遺跡は標高が8m弱の微高地に立地し、この意見に従えば住居の主体は掘立柱建物となるべきところである。こうした立地条件の中で竪穴を深く穿てば、湧水を誘発するまではいかずとも、相当の湿気が住居内にあがることとなり、健康上好ましくない環境を生み出すこととなる。従って住居の竪穴は、やや浅めに穿たれた可能性が高く、今回の調査で竪穴式住居の掘方が全く検出されなかったとしても矛

盾はないと思われる。

さて、続いて平面形態に目を転じてみたい。全ての円形住居は中央に崩れた楕円形の土坑が伴っている。その長軸に外接して柱穴と思しき小穴が認められる。この事象のみを取り上げればソングンニ（松菊里）型住居に近いが、全体的には中央土坑の平面形態や柱穴の規則性に疑問も多く、検討を要する。もちろん、朝鮮系無文土器が弥生土器に徐々に融合していくように、この時期の円形住居はソングンニ型住居を祖形としているのであるから、明確な分離が不可能なものも至極当然の帰結であろう。

また今回報告する竪穴式住居は、大型の2SI2300と、それ以外の中小型のものに分かれるが構造は極めて良く似ている。しかし、大型の住居は単に居住人数が多いといった性格のものではなく、集落の中で中心的な存在に当たると考えた方が良くもしい。

## 墓制の諸問題

今回の調査では、甕棺墓・木棺墓を確認した。いずれも弥生時代の所産と理解したいが、木棺墓は出土遺物が極めて少なく、時期の比定が極めて困難な状況である。ただし、弥生時代前半期の墓制が木棺墓から甕棺墓へと比重を移していく状況は良く知られているので、甕棺墓に先行して木棺墓を位置付けるのが妥当かも知れない。ただ、そう考えた場合には、これまで所在が不明であった筑後市域の弥生時代前期の墓域について一石を投じることとなるため、取り扱いには慎重にならざるを得ない。

### 1) 木棺墓

今回の調査では2基の木棺墓を確認した。いずれも底面の周囲四辺に細い溝を巡らせるもので、溝のありようは竪穴式住居に見られる壁小溝を彷彿させる。先に述べたように甕棺墓に先行するものとして理解した場合の問題点を、まずは取り上げてみたい。

近隣で弥生時代前期の木棺墓を調査した事例は、小郡市の北牟田遺跡・ハサコの宮遺跡のものがある。（註5）ここでの事例をしてみると、基本的には小口板の痕跡が明瞭に認められるものと、小口板の痕跡が明瞭でないものに分かれる。しかし、いずれの構造をとるにせよ、側板は圧痕を確認できる程度である。

それに比べて、本遺跡の事例は若干様相が異なっている。2基の木棺墓はいずれも小口板の明瞭な痕跡は見いだせないものの、小口板および側板の圧痕とするには明瞭な小溝が一周している。どちらかという、板材の圧痕というよりは板材を立てるための設備と見たほうが適切ではないかと思われる。しかも、先の北牟田遺跡やハサコの宮遺跡では、小口板が側板の内側に入るものが一般的であるのに対して、完全な箱形となる。底板の無い、組み合わせ式の木棺墓としては構造上無理があるようにも思われる。はたして、弥生時代の墓域であるかどうか判断に迷う所以である。

何よりも、当地域では弥生時代前半期の墓域の調査事例が少ないという事実は、如何ともしがたい。資料集積の後に、別に論考する機会を得たい。

### 2) 甕棺墓

甕棺墓は4基を確認したが、他に比較的器形の判明する資料に限っても、土坑から甕棺の棺体が出土したものが3遺構以上ある。主体となるのは口縁部が鋏先状となるもので須久式の範疇と理解してよい。特に2ST0880と2ST2503は器高が1mを超える、大型の甕棺専用品で秀逸である。2ST2503は水抜き用と思しき穿孔が認められる。

もうひとつ注目すべきは、2SK2116出土の194-2である。胴部の上半部に壺の面影を残している。橋口編年（註6）でのK I cにあたるかと考えている。さらに、橋口氏は南筑後地域の甕棺を検討した結果当地域にはK I 期の甕棺は存在しないとし、一段階ずつ形式をずらした形で「南筑後K I 式」から「南筑後K IV 式」を設定した。（註7）しかし近年の発掘調査では、山川町山ノ上遺跡で刻目凸帯文土器の棺体を使用した甕棺墓も発見され（註8）、当地域の甕棺墓の展開を再考すべき時期に差し掛かっているかも知れない。山ノ上遺跡の甕棺は凸帯文期の所産ではなく弥生時代のものが主体であると考えられるが（註9）、これらが日常容器からの転用か否かを含めての検討が必要であろう。

以上のような、筑後市および周辺地域での状況を鑑みると、194-2は無理にK II a とせずK I c に分

類しても問題はなさそうである。南筑後地域での編年を無理に当てはめるならば、「南筑後K0c」とでもすべきかも知れないが、南筑後という地域に限定せずにKIcとしてよかろう。仮にこの棺体をKIcに分類するとして話を進めるが、そうすると前期後半から前期末には当遺跡で甕棺墓が成立していることになる。もちろん、廃棄土坑の出土遺物をみれば凸帯文土器以降の土器が連続と出土しており、集落がその間存続しているわけであるから、集落周辺を含めて何処かに墓域の設定をみることは自然である。しかし、前述した木棺墓の存在と合わせて墓制の変遷を考えると、まだまだ不明な点が多い。集落間での時期のずれや集落内での重複期間もあろうが、墓制の変遷について復元モデルの提示が必要であろう。しかし現段階では資料不足の感が強く、ここまで述べてきた内容も、私論・試論の域を脱し得ていない。

### 3)石蓋状遺構

調査成果の項で墓に分類して報告した、石蓋状遺構について再論する。石蓋状遺構は、筑后市域で2例目の報告となる。1例目は蔵数森ノ木遺跡第2次調査の2ST03である。(註10)6枚の緑泥片岩で石蓋を構成するが、石蓋を除去するとすぐに暗茶色の地山があらわれて、下部施設は一切認められない。主事軸の方位はN-21°-Wで、他の石棺墓・土壙墓がN-20°-E前後であることと比較すると、帰属の異なるの集団と捉えられそうである。

今回報告した石蓋状遺構(2ST0613)の内容について再掲する。2ST0613は、調査区の北より中央附近にあり、2SD0663に切られている。掘方は長軸2.5m短軸1.2m深さ0.3mを測り、主軸の方位はN-44°-Eである。石蓋検出時には石蓋土壙墓ではないかと考え調査を進めたが、石蓋の下部には墓域と認め得るほどの施設は確認できなかった。わずかに幅0.3m長さ2.1m深さ0.1mの掘り込みを確認したのみである。その平面形状は、2つの土坑を溝で接続した如きであるが、両端の土坑様の部分でも深さは0.2mでしかない。

以上2つの調査成果を総合すると、検出時における状況は石蓋土壙墓のそれと全く同じであるが、石蓋の下部の構造は、墓域と認め得る施設は存在しない。ただし、両者の間には若干の相違が認められる。蔵数森ノ木遺跡第2次調査の事例では、石蓋状遺構の下はすぐに地山となり全く施設が無いのであるが、常用長田遺跡第2次調査の事例では、極めて小さく浅い土坑が認められる点である。しかしながら、常用長田遺跡の事例も、墓域として認知するには無理がある。したがって、実用的に機能する墓域を持たない点で、両者の間には共通性を認めることができよう。

さて、ここで問題となるのは石蓋状遺構が如何なる機能を付与された構造物であるかということになる。筆者は蔵数森ノ木遺跡第2次調査の報告の中で、埋葬対象が失われたため、上部構造の石蓋のみを設置した可能性を指摘したことがある。(註11) そういった意味において、今回報告する事例はさらに示唆的である。石蓋の下には、墓域を模したと思われる小さな掘り込みが認められる。先にも再掲したとおり、遺体を埋葬するには不向きなものである。直接埋葬を前提とするならば、規模の面だけから見ると若齢小児の埋葬は可能かと思われるが、2つの土坑を溝で接続したような形状では埋葬に不向きである。しかしながら、配石の下に細長い平面形状を呈する掘り込みを設置する行為は、墓域を想起させるものである。

ここでは、現実に遺体を埋葬しない墓が成立し得るかという問題について若干の私見を示し、考察を加えてみたい。まず、埋葬の形態について整理する。遺体を埋葬する方法には数種類が考えられるが、鳥葬・風葬・散骨葬などは埋葬の痕跡を考古学的に検証できないため、ここでは除外する。そうすると、土葬・火葬・選骨葬(土葬骨を火葬するものも含む)が考証の対象となる。土葬と火葬は1次埋葬(直接埋葬)が基本であり、選骨葬は2次埋葬(再葬)となる。埋葬の基本形態が1次埋葬であることは疑いようのないところであるが、縄文時代晩期には選骨葬(つまり2次埋葬)を認めることができる。縄文晩期における埋葬方法は、火葬であった可能性が高いという意見もある。(註12)これは、埋葬が単純に遺体を処理する目的のみならず、そこに葬送儀礼を加えることで集団を維持するという目的が付加されたと理解するのが妥当であろう。これにより、埋葬行為は生活様式の一要素として位置付けが明確になり、集団や地域単位において葬送儀礼の形式化が進行するものと思われる。

こうした生活様式(=文化)が定着した段階で、墓の施設にも変化が現れることは想像に難くない。



遺体処理の必要性よりも葬送の行為の必要性が優位に立つならば、遺体の存在・不在にかかわらず墓という施設が必要となる。そうした墓の中で、地上に標識を伴う類型のものは地下の構造が実用に供されない施設と位置付けられる。実用性に乏しい部分から省略され、生産過程が簡略化される現象は、土器の器形変化などに普遍的に見られる現象であるから、墓にも同様の傾向が認められることは自然なことであろう。

今回報告する石蓋状遺構を、上記のような視点で再検証してみよう。その下部構造は、1次埋葬を行うには小さすぎる。2次埋葬を視野に入れると、墓として機能していた可能性も否定できないものがある。時期的に先行する長崎県原山支石墓群等、周辺地域の事例に選骨葬を示唆するものがある。ただし、原山支石墓での事例を見ると、選骨葬で埋葬される場合には火葬骨を石棺や甕棺に納めており、その墓群には土壙墓や石蓋土壙墓は混在しないのが通例である。酸性土壌では土器棺や石棺以外では人骨が遺存しにくく、選骨葬が行われたかどうかの検証が困難であることは十分に配慮しなければならないが、選骨葬を行っている墓群では土壙墓等が混在しにくいということも重要である。2ST0613の下部設備は両端が深くなっており、主たる埋葬位置を考える上で混乱を生じてしまう。もちろん、2人分の骨を選骨して両端の土壙状の部分に埋葬したと考えることもできよう。しかし、上部標識を伴う1つの墓に複数の遺体をおさめる形態は、古墳時代の遺構に見られるものである。ここでは、被葬者は遺体の一部でも埋葬されることはなかったと理解している。

これらのことから導かれる石蓋状遺構の機能モデルであるが、先に述べた埋葬行為の形式化を注意したい。この場合、被葬者の死に際して葬送儀礼を行うのであるが、そこでは遺体処理といった本来の意味以上に、送る側（死者が生前所属した集団）のために葬送儀礼が行われるようになる。現代仏教の法事が、被葬者の死後、徐々に祭礼の間隔が長くなる点などは非常に象徴的である。そこでは遺体の有無により、儀礼を省略することは忌み嫌われる傾向にある。何故ならば、葬送の儀礼は死者を送る儀礼である以上に、集団を維持するための祭礼行為としての性格が強まるからである。

ここでは、遺体がない状態で葬送儀礼を行ったと解釈したい。特に蔵数森ノ木遺跡第2次調査の例が典型的であるが、今回報告する事例も同様の解釈を与えたい。石蓋の下に僅かに掘り込みをしたことは、形式化はしたものの墓壙の存在に対して注意する感覚が残っていたことの現れとみることができる。そうした意味で、今回の報告例は蔵数森ノ木第2次調査の事例より、古い形態であると言える。（註13）しかしながら、今回の調査でも石蓋状遺構の時期を特定するに到らなかった。資料の蓄積の後に、再検討する必要がある。

### 弥生時代前期の土器

今回の調査の中で数多くの弥生土器が出土したが、中でも弥生時代前期から中期初頭のもものが大半を占める。この時期、筑後地方には玄界灘沿岸地域に分布する板付式土器とは異なる土器が存在していることは、つとに知られている。この土器には「亀ノ甲タイプ」或は「亀ノ甲式土器」という呼称が用いられているが、現在まで明確な様式が設定できていないための混乱があるといつてよい。

今回の出土遺物では、この「亀ノ甲タイプ」或は「亀ノ甲式土器」と呼ばれる土器が大半を占める。なお、出土資料の増加に伴って近い将来様式として認知できると考えているので、本書では「亀ノ甲式土器」の呼称を用いている。この亀ノ甲式土器は、縄文土器から発展した刻目凸帯文土器直系の弥生土器と考えられていて、筆者もこの部分は異論のないところである。また、凸帯文期以来の稲作先進地である玄界灘沿岸地域との関係では、当地は文化の2次伝播の地といった説明をなされることが多い。しかしながら、後述する稲の品種の問題も絡めて亀ノ甲式土器の評価を再検討する必要がある。今回は調査報告であるので編年案の提示などは行わないが、当遺跡から出土した土器の内容について概観したい。

まず、もっとも古い土器の一群の一つとして2SK0597の出土遺物をあげることができる。134-110・134-11・134-12の3点を除いて凸帯文土器で占められる。134-11も凸帯文土器の壺器形の面影を残し、胴部最大径も胴の中位にある。ただ、134-12は体部外面に沈線にて重弧文を施文し、弥生時代の所産であることが確実である。

次の段階のものとして、2SK0309の一群や2SK0438の一群をあげたい。ここでは、如意系あるいは「く」の字形に外反する口縁部をもつ甕が比較的まとまって出土した。この器形をもつものは口縁端部の面全体に対して刻目を施しており、玄界灘沿岸地方の板付Ⅰ式土器と同様の技法である。また、55-30は弥生土器の壺としたが、器形的には凸帯文土器の面影を強く残しており、古相であるⅠ従来板付。式土器は筑後地方には分布せず、当地方にみられる同様の器形の土器は一段階下の板付Ⅱa式平行とすべきとの意見が根強いが、再度検証すべきかも知れない。壺は体部に鋸歯文を施すものが混在していて、口縁部は明確に外面肥厚を行うものが多い。壺の頸部と胴部の接合箇所は粘土接合に由来する段が、比較的明瞭に残る。このことは亀ノ甲式土器の発生時期との関連もあり、研究の進展が待たれる。また、供伴する亀ノ甲式土器の甕は、口縁部に小さな凸帯を貼付けて刻目を施すもので、同様式中で最古相となるか。ここで段甕が出土している点も注目される。

次の段階が、亀ノ甲式土器の出土量が最も多い。更に細分する必要があるかも知れないが、報告書文中であるので、論考は別項に譲る。甕口縁部の凸帯は断面が三角形のものが多くなり、胴部凸帯は胴部最大径の部位よりもやや上位にあることが多い。壺は口縁部外面を肥厚させており肩部の段も残るが、やや不明瞭になる。2SK0391・2SK04042・SK0676・2SK0878等の出土土器がこの範疇であろう。

その後、最終的には遠賀川以西地域の城ノ越式土器へ融合していく過程を辿るが、その過程で胴部の凸帯が胴部の最大径がある部位に貼り付くことが多くなり、刻目が省略されることが徐々に多くなる。この段階のものは、2SK2089出土の甕などがこれに当たる。口縁部の刻目が省略されることもあり、最終的に胴部凸帯は沈線に置き換えられていくようである。この段階には、当遺跡では出土量が急激に減少する傾向にある。

以上、出土した土器の傾向から、その変遷を概観したが、分類編年作業は別稿に譲りたい。

### 多条凸帯甕

今回、この一群の土器を概観するしたときに興味深い事例に気がついた。このタイプの土器は口縁部と胴部に刻目凸帯を貼付けるのを通例とするが、各々1条ずつというのが一般的な在り方であるのは周知の事実である。当然、多条凸帯のものは目を引くことになるが、多条凸帯を持つ甕の出土について興味深い傾向が看取される。このことについて、今回の報告の中から取り上げてみたい。今回の報告で、多条凸帯は17の遺構から出土している。そのうち5遺構からは複数個体の出土をみている。遺構総数のうち、多条凸帯甕の出土した遺構の割合は極めて低いにもかかわらず、出土した遺構の1/4近くから複数個体の出土をみていることは注目すべきであろう。また、供伴遺物にも特徴がある。約1/3で小壺の供伴が認められ、約3/4で壺の供伴が認められることがわかる。もちろん、壺は甕と並んで当該期の主要な器種であるから特異な状況とは言い難いかも知れないが、2SK0800では彩文土器と黒色磨研土器を伴っている点も見逃せない。

多条凸帯は、甕棺への転用が推定される大甕にもみられるが、その関係についても注意すべきであろう。甕棺に小壺が埋納されることは良く知られている。したがって、小壺の持つ性格については、どうしても実用性よりも祭祀的な側面が強調されるようである。事実、実用に供するには容量が小さすぎるきらいがあるし、複数個がまとまって出土する事例からも祭祀的な目的で製作された可能性は高いと言わざるを得ない。

多条凸帯甕も、甕棺や甕棺への転用が想定される大甕にも見られることから、祭祀的な効果を狙っての装飾とみることができそうである。小壺との組み合わせは特に象徴的なものではなからうか。現段階では何を目的とした祭祀を念頭に置いたのかの復元モデルの提示はできない。

### 変容壺

140-9は実測図を見ると随分と甕に近い印象を受けるが、写真を見たり原物を観察すると壺としての印象が強い。口縁部は小さく外反するものの胴部には壺のように沈線が施されたりして、云うなれば甕と壺の中間形態とでもいうべき器形である。(註14) 地域的には遠く離れているが、伊勢湾地方

に弥生前期に成立する変容壺と同様のものか。もちろん、当該地方から情報等が伝達されたというよりは自然発生的に生まれた器形と見なすべきである。この器形の遺物についての類例調査は全く行っておらず、精査すれば、同様の器形は一定数見いだせる可能性が高い。弥生土器の導入時における器種組成のありかたを考える上で興味深い。

### 段甕

これまで調査報告の中では図示されたりしながらも、九州島内では一つの類型として論じられることは見られなかった。今回出土した土器の中では、67-4・81-5・101-2・149-10・164-11・178-2・180-5が段甕である。いずれも胴部の刻目或は凸帯から上位の外側面に粘土を貼り足して肥厚させ、胴部下位との間に段を形成している。段甕は東部瀬戸内地方等に広く分布するようであるが、当地域のものは若干様相が異なり、段の部分にも凸帯を貼付けることが一般的である。亀ノ甲式土器の全ての時期に伴うものかどうかは不明であるが、城ノ越式土器の段階では見かけないようである。周辺では八女市の一竿遺跡で出土していたが、実測図では粘土接合が段甕の構造とは異なっていた。担当者の御高配により実見および実測する機会を得た (Fig.237) が、筆者が観察した限り段甕と見て間違いなさそうである。また、大川市の下林西田遺跡でも出土事例が認められる。(註15) ただ、これまでは単に器壁が厚い土器の破片として取り扱われている例も多いと思われ、今後注意すべきであろう。

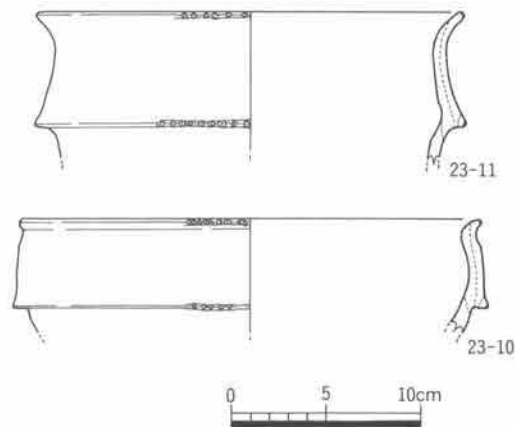


Fig.237 八女市一竿遺跡出土段甕

### 綏遠風双耳把手付銅鍍型深鉢

2SK2045からの出土品のうち、特に目を引くのが184-5の把手の付いた甕様の土器である。森貞次郎氏が「綏遠風双耳把手付銅鍍形深鉢」と命名した土器にあたる。(註16) 新宮町の三代貝塚からの出土品に対して命名されたものである。また、西田大輔氏は夜臼・三代地区遺跡群の報告書の中で集成を行っている。(註17) 近隣では小郡市の北松尾口遺跡が知られているが、近年、八女市の立野大坪遺跡でも出土している。(註18) 当地域では、これに当遺跡が加わった訳であるが、出土例が少なく論考を加える時期に達していない。ただ今回報告の中で把手として報告した遺物も、綏遠風双耳把手付銅鍍形深鉢の把手となる可能性もある。外面側に刻目を施す例などは弥生土器の影響をも視野に入れる必要があり、時期の比定に一定の情報を提示することになるかもしれない。

### 初圧痕

今回の土器群には外底面を中心に、稲と思しき初圧痕を41個確認した。初圧痕の縦横比を計測した結果がTab.34である。この結果をみると、和佐野喜久男氏が分類した中国華南地方の初圧痕の数値に近いものがある。(註19) この数値は、八女市吉田出土の古代米の傾向とも一致しており、朝鮮半島や玄界灘沿岸の米の数値とは異なっている点に興味深い。ただ、土器に残された初圧痕からの計測であるため、焼成による変形の影響は避けられない。しかしながら、弥生時代において当地方で栽培されていた稲の品種を考えることは、当地方の弥生文化の特色を解明することにも寄与するものであると考えられる。筑後市域においても、古島榎崎遺跡で多量の炭化米(弥生時代後半期か?)が出土しており、資料の蓄積によって興味深い結果が得られることであろう。このことは当地域の弥生時代の幕開けと、弥生文化の主要要素の伝播経路に対して重要な意味を持っている。最終的には、当地域の初期弥生文化(或は弥生文明というべきか)の再評価に繋がることを期待している。

単位：mm

擬朝鮮系無文土器

今回の調査の中で、擬朝鮮系無文土器ではないかと考えられる土器が出土している。51-29・54-12・55-16・55-17・55-20・66-4・66-5・117-1・173-2・176-10・188-5がそれである。いずれも、典型的な朝鮮系無文土器・擬朝鮮系無文土器といえるものではない。朝鮮系無文土器・擬朝鮮系無文土器は、通常ひとつの遺跡あるいは周辺を含めた遺跡群で、当該地域に導入されて以降、在地の弥生土器に徐々に同化してゆく過程が観察される。代表的な実例としては佐賀県の土生遺跡や宇土市内の遺跡群が、よく知られている。出土した土器が朝鮮系無文土器あるいは擬朝鮮系無文土器かどうかを判断するにあたっては、その属性の中で朝鮮系無文土器・擬朝鮮系無文土器の範疇に入るかどうかの判断を行うべきであり、遺物単体での判断はできない（註20）が、今回の調査の成果の中では、変化の過程と属性にまで論及することができない。

筑後市域での朝鮮系無文土器・擬朝鮮系無文土器の出土は今回報告の事例が初めてであるが、周辺地域ではいくつかの事例が知られている。大川市の下林西田遺跡や大牟田市の田隈柿添遺跡などであるが、その中では下林西田遺跡の出土例は比較的数量的にまとまっていて牛角状突起など8点が報告されていて、さらに2点以上について朝鮮系無文土器ではないかと可能性が指摘されている。

さて、今回出土した擬朝鮮系無文土器ではないかと考えられる土器（以下、単に「擬朝鮮系無文土器」と表記する）は、弥生土器との区別が非常に難しいものも含まれているが、比較的典型的なものとして55-20がある。この資料は周辺の出土例には類例を見出し得ないが、宮崎県の持田中尾遺跡出土土器（註21）に近似例が認められる。九州西部での出土例よりも、東九州での出土例に近似性が認められるのが興味深い。

先述した55-20（2SK0309Ⅳ層）は、最初に擬朝鮮系無文土器ではないかと注目した土器で、小型の甕である。口縁部に粘土紐を貼り付けて凸帯としているが、粘土紐の形状をよくとどめている。胴部も丸みを帯びており、宮崎県持田遺跡出土資料に印象が似る。なぜ、有明海沿岸ではなく、東九州の資料に似ているのかは全く不明である。

他の資料については、弥生土器との折衷様式とも理解すべき形状のものが多数含まれている。土生遺跡等での事例のように朝鮮系無文土器が擬朝鮮系無文土器に変化し、弥生土器に融合する過程を辿ることが一般的であるが、当遺跡では、朝鮮系無文土器は確認できない。擬朝鮮系無文土器がもたらされてから、弥生土器に融合する過程が追えるのみである。この土器については、筆者の力量不足のため論ずる環境にない。資料を提示して学界諸氏の叱責を乞いたい。

出土遺構	土器番号	長さ	幅	備考
2SK0300	47-2	5	3	
2SK0300	47-2	4	3	
2SK0306	51-24	5	3	
2SK0306	51-24	6	4	
2SK0337	66-6	3	2	
2SK0350	69-3	5	4	
2SK0391	79-6	6	3	
2SK0399	81-4	7	3	
2SK0399	81-4	6	3	
2SK0423	89-20	6	3	
2SK0423	89-21	5	4	
2SK0423	89-21	5	3	
2SK0434	96-8	6	3	
2SK0434	96-9	6	4	
2SK0437	100-5	6	3	
2SK0448	107-3	4	3	
2SK0453	111-12	6	4	
2SK0453	111-16	5	3	
2SK0457	112-1	7	4	
2SK0524	102-13	5	2	
2SK0524	120-14	7	3	
2SK0552	125-6	7	4	
2SK0552	125-19	7	4	
2SK0586	132-3	7	2	
2SK0586	132-3	5	2	
2SK0676	139-5	4	2	
2SK0843	151-3	8	6	
2SK0843	151-3	6	3	
2SK0850	152-2	6	3	
2SK0850	152-2	7	3	
2SK0853	154-2	7	4	芒の痕跡あり
2SK2013	173-12	6	3	
2SK2025	179-1	6	3	
2SK2025	179-1	6	2	
2SK2025	179-5	6	3	
2SK2027	180-6	6	3	
2SK2027	180-6	5	3	
2SK2193	199-3	9	3	
2SK2197	199-6	6	3	芒の痕跡あり
平均値		5.9	3.2	縦横比平均値1.862

Tab.34 舂圧痕計測表



なお、擬朝鮮系無文土器の項を書くにあたっては、片岡宏二氏（小郡市教育委員会）の論考や、御教示を参照させていただいた部分が多い。しかしながら、担当者が独自に判断や論考を加えた部分もあり、氏の業績を十分にふまえることができなかった。この点については、本報告が氏の業績を阻害しないことを切に希望するものである。

- 註1 筑後市教育委員会 ちくご遺跡だよりVol.11「常用地区の遺跡群」1999
- 註2 渡辺仁 「縄文式階層化社会」六一書房 2000
- 註3 佐々木隆彦 「おわりに」大川市文化財調査報告書代2集『酒見貝塚』大川市教育委員会 1994 所収
- 註4 永見秀徳 「弥生時代前期土器出土の意義」筑後市文化財調査報告書第42集『津島九反坪遺跡』筑後市教育委員会 2002 所収
- 註5 福岡県教育委員会 「九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告-XXXI-中巻」1979
- 註6 橋口達也 「甕棺の編年の研究」『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告-XXXI-中巻』福岡県教育委員会 1979 所収
- 註7 橋口達也 「南筑後における甕棺の編年」 瀬高町文化財調査報告書第3集『権現塚北遺跡』瀬高町教育委員会 1985 所収
- 註8 山川町教育委員会の東竜雄氏の御高配により整理作業中に資料を実現する機会を得たが、甕棺の副葬小壺に板付式の特徴を有するものが含まれていた。
- 註9 「蔵敷森ノ木遺跡第2次調査の成果」筑後市文化財調査報告書第20集『筑後市内遺跡群』筑後市教育委員会 1999 所収
- 註10 永見秀徳 「考察」筑後市文化財調査報告書第20集『筑後市内遺跡群』筑後市教育委員会 1999 所収
- 註11 橋口達也 「甕棺墓の成立」『季刊考古学第67号』1999 所収
- 註12 後の時代まで古相のものが残ることは通例であって、このことをもって、遺構の新旧が決定しないのは当然である。こと、祭祀や葬送儀礼についてはその傾向が顕著であるので、注意が必要であろう。
- 註13 形式論から言えば、整備された形式から形態化するという変化の過程を辿ることが通例であり、儀礼においてはその傾向がより顕著である。
- 註14 佐藤由紀夫『縄文弥生移行期の土器と石器』雄山閣1999
- 註15 福岡県教育委員会『福岡県文化財調査報告書代132集 下林西田遺跡』1998
- 註16 森貞次郎 『東アジアの考古世界・九州』森貞次郎先生著書刊行会 1999
- 註17 西田大輔 「考察」新宮町文化財調査報告書第10集『夜白・三代地区遺跡群第5分冊』新宮町教育委員会 1995 所収
- 註18 立野大坪遺跡現地説明会で展示された。八女市教育委員会の大塚恵治氏の御教示による。
- 註19 和佐野喜久生 「東アジアの古代稲と稲作起源」和佐野喜久生編『東アジアの稲作起源と古代稲作文化』1995 所収
- 註20 小郡市教育委員会 片岡宏二氏の御教示による。
- 註21 小郡市教育委員会 片岡宏二氏の御教示による。

常用長田遺跡第2次調査

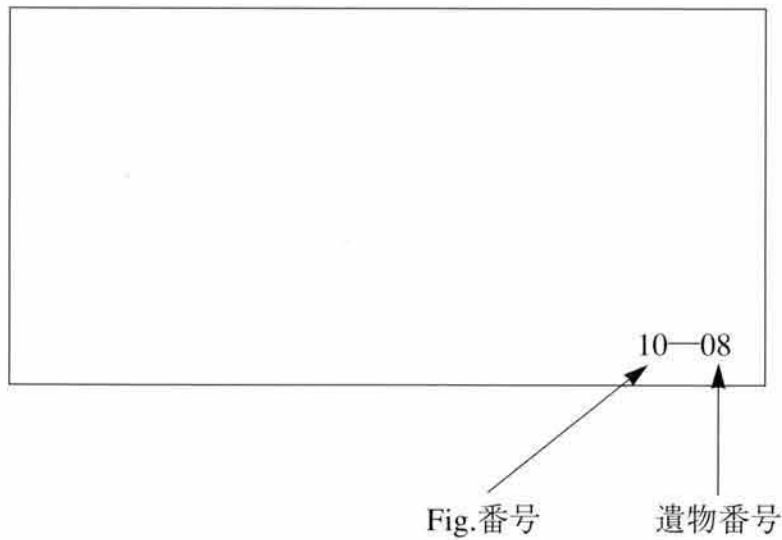


Fig.238 遺構全体配置図(1/500)

# PLATE

## 凡 例

遺物の写真右下の番号は、以下のとおりである。





調査区全景  
(上が北)  
空中写真



調査区北東部  
(上が北)  
空中写真





調査区北西部  
(上が北)  
空中写真



調査区南半部  
(上が北)  
空中写真



2SK0300完掘状況（東から）



2SK0300完掘状況（南から）



2SK0301土層断面（東から）

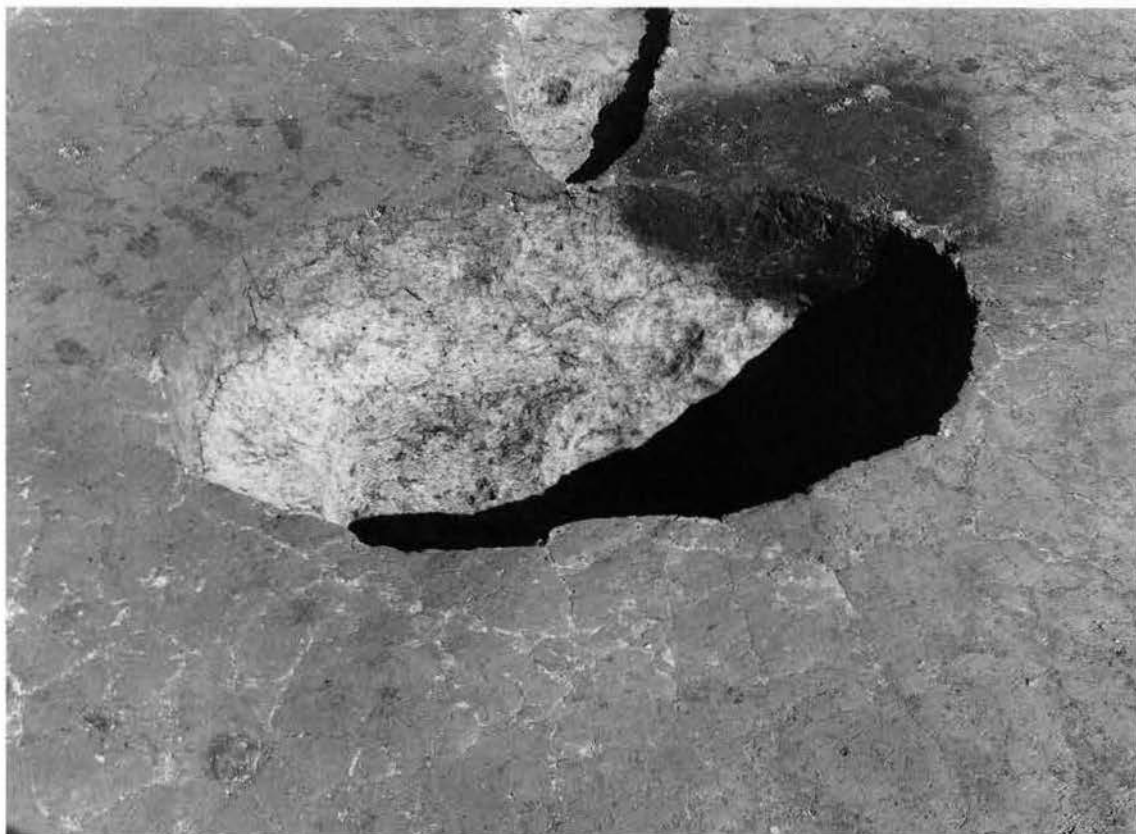


2SK0302土層断面（南から）





2SK0302完掘状況（東から）



2SK0302完掘状況（南から）

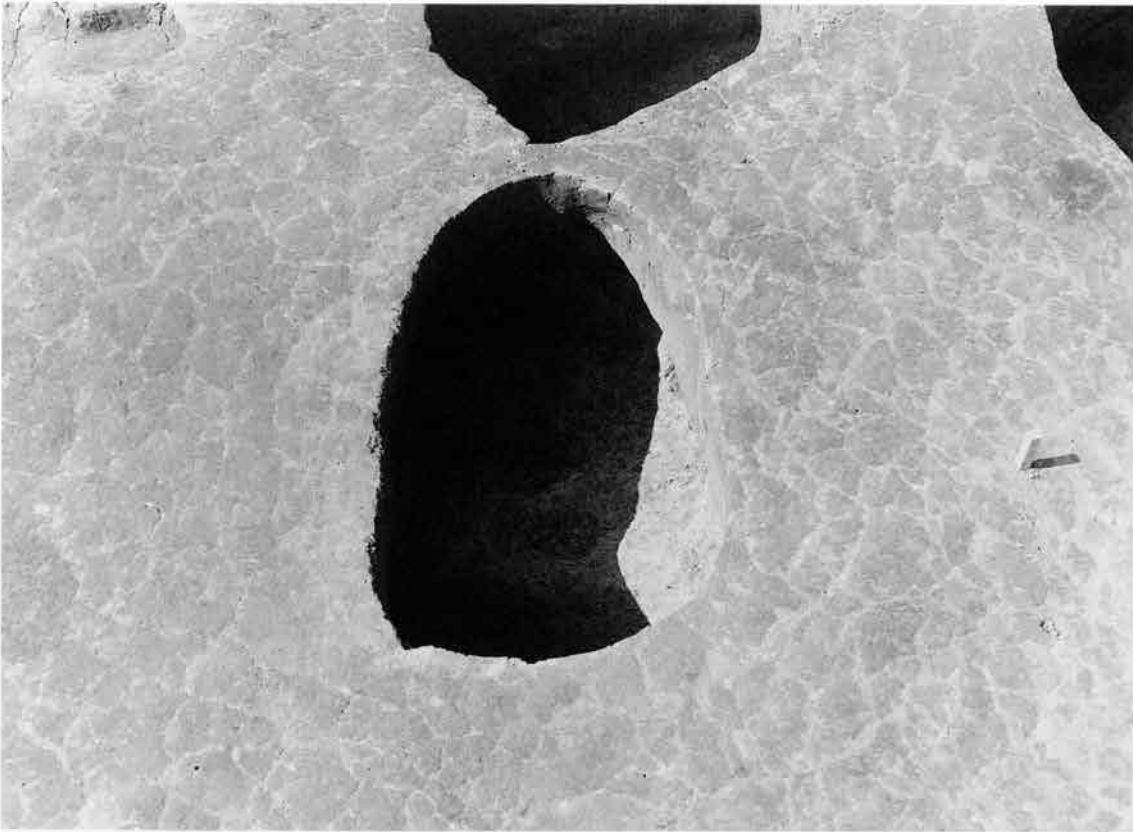




2SK0305土層断面（南東から）



2SK0306完掘状況（南から）



2SK0306完掘状況（東から）



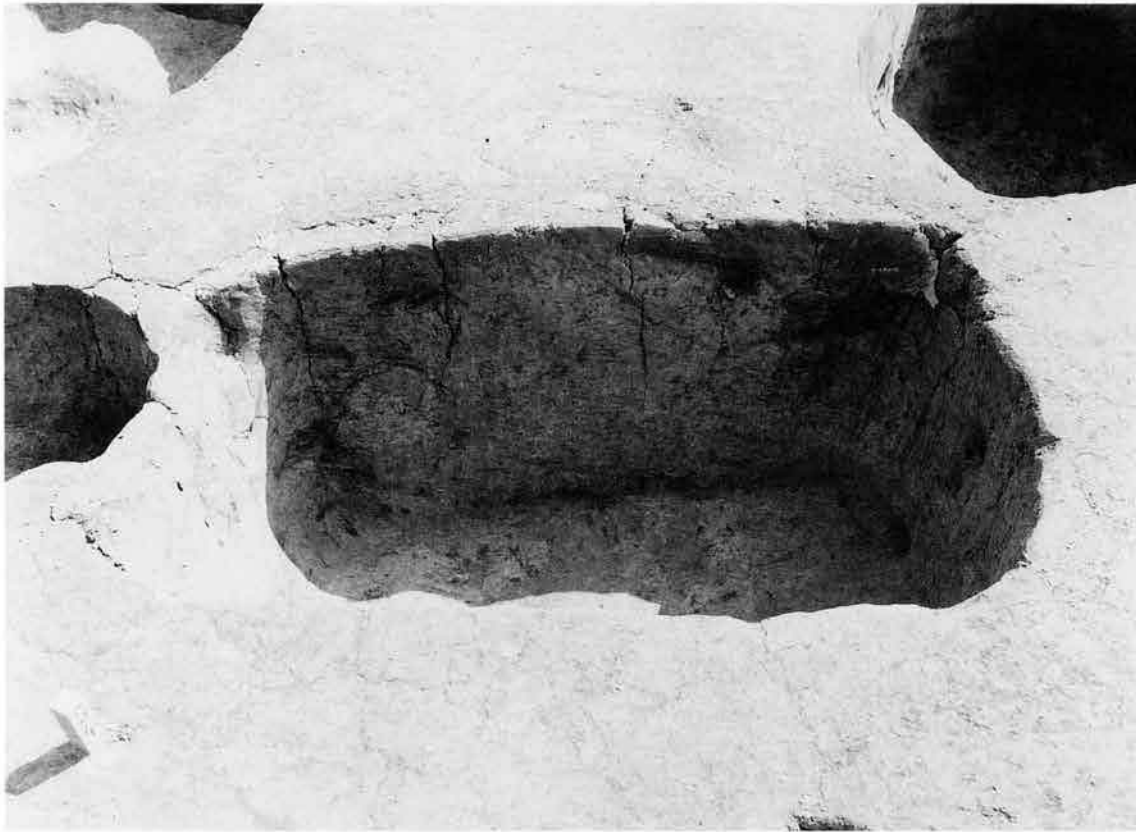
2SK0306完掘状況（南から）



2SK0307土層断面（東から）



2SK0309完掘状況（南から）

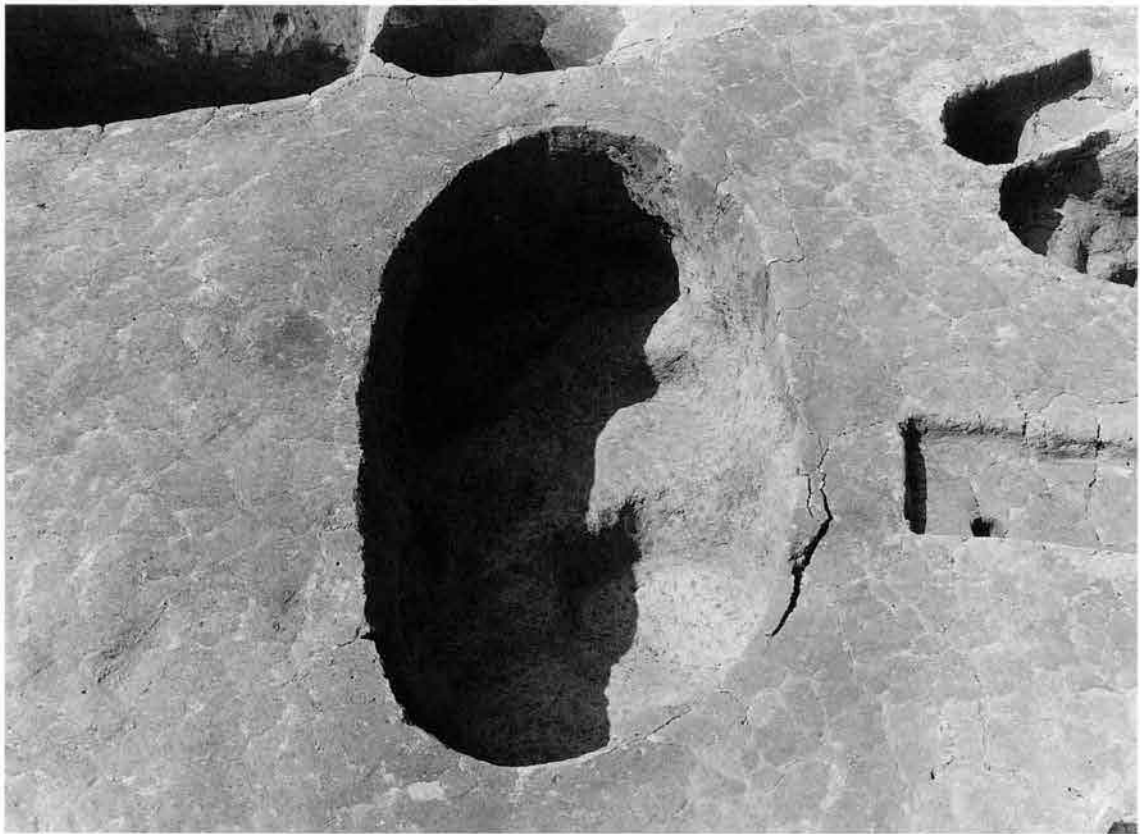


2SK0307完掘状況（西から）



2SK0307完掘状況（北から）

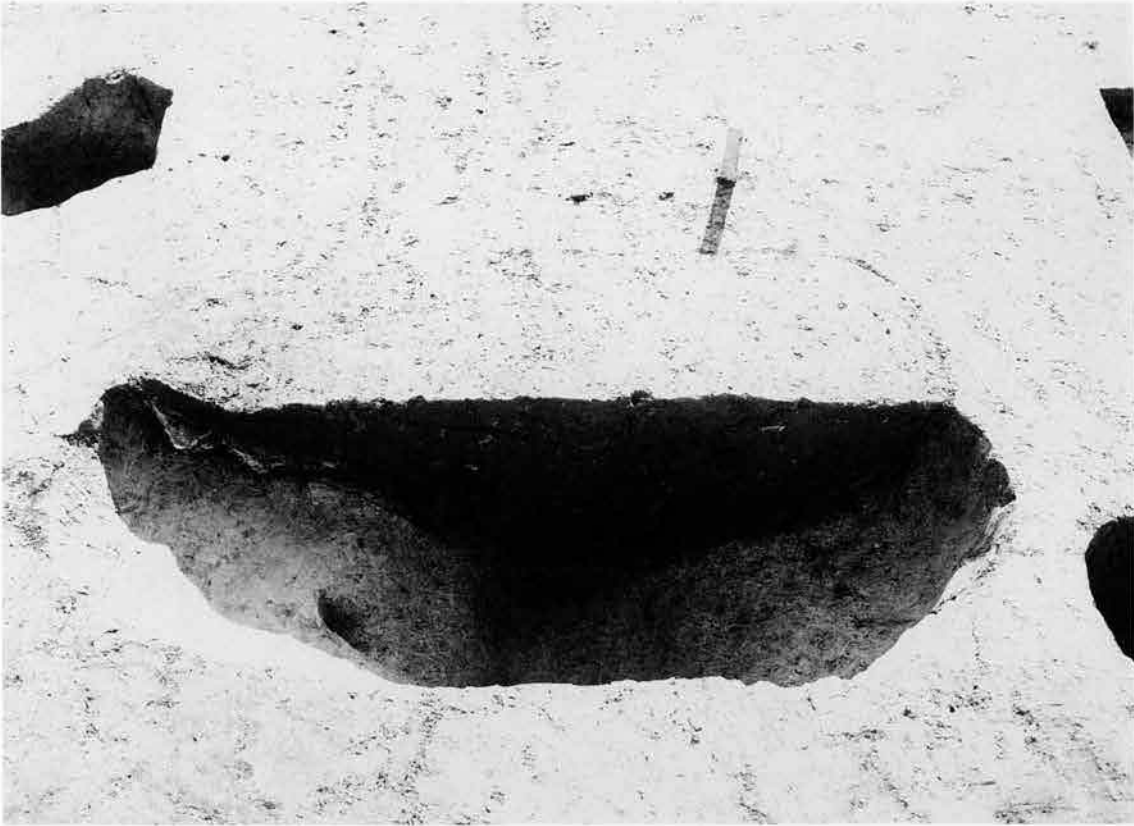




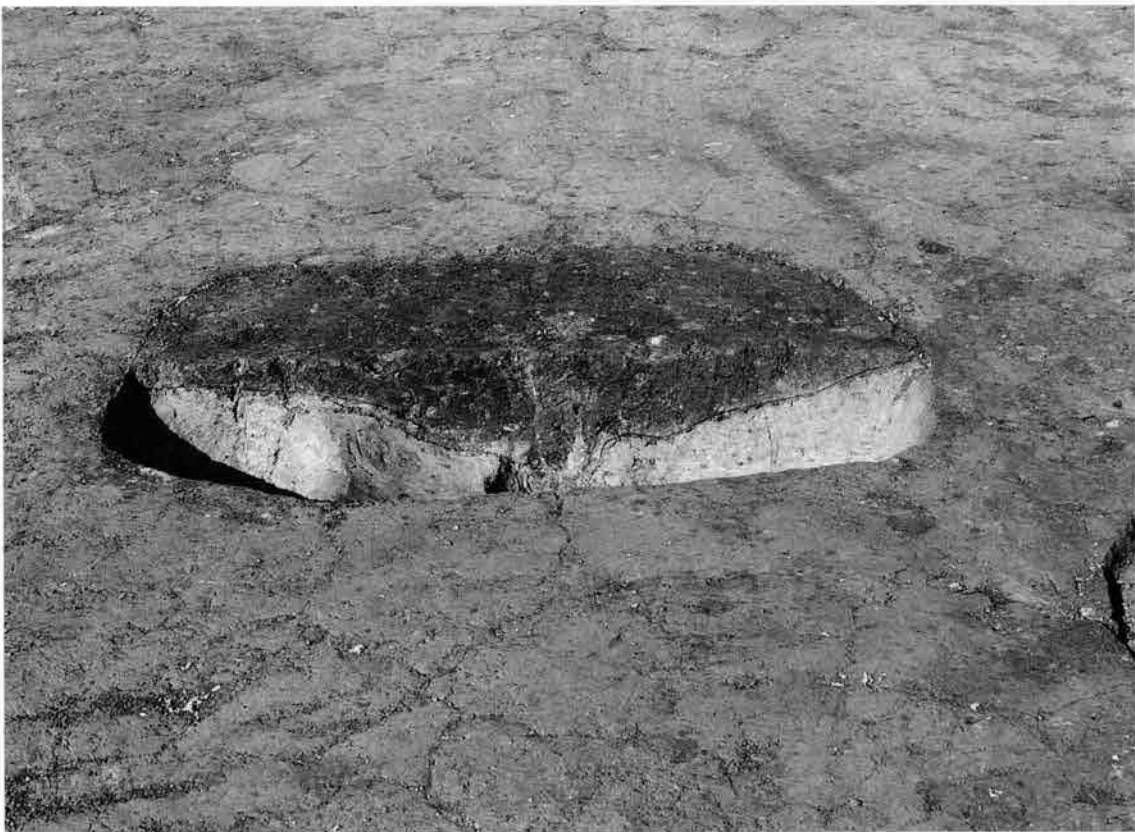
2SK0309完掘状況（東から）



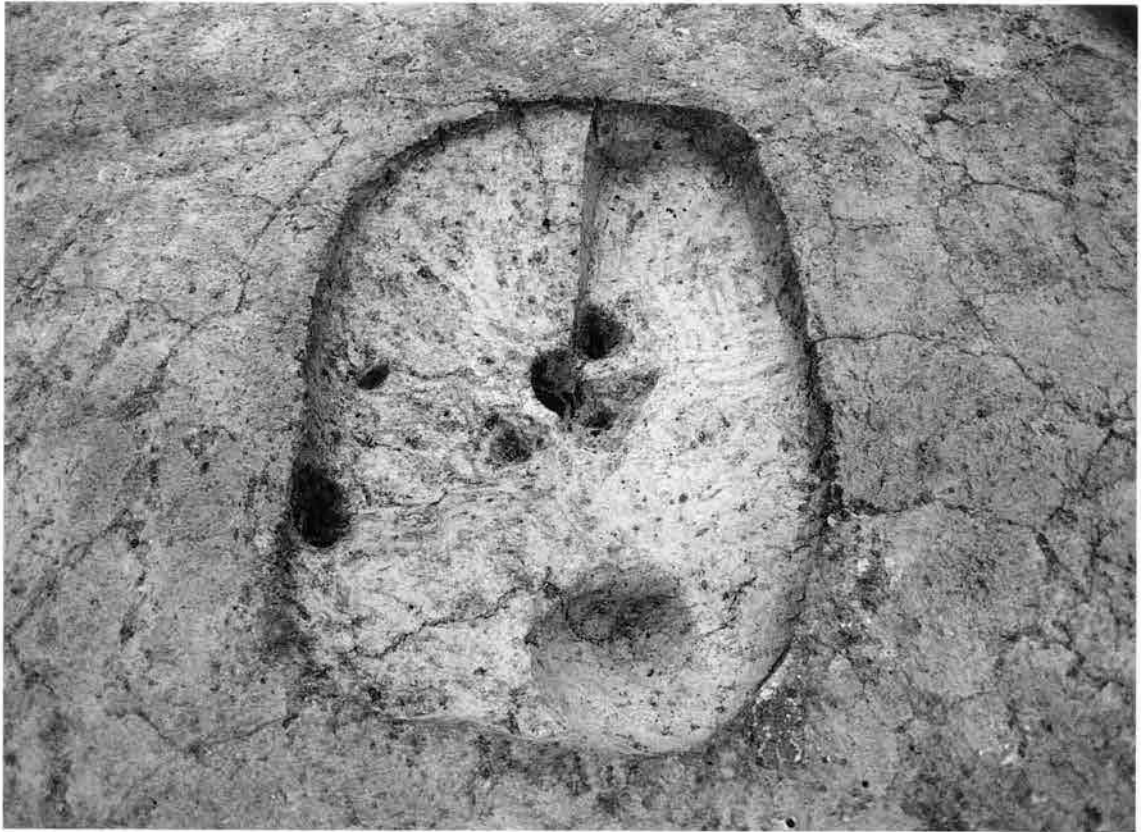
2SK0309完掘状況（北から）



2SK0311土層断面（北から）



2SK0313完掘状況（東から）

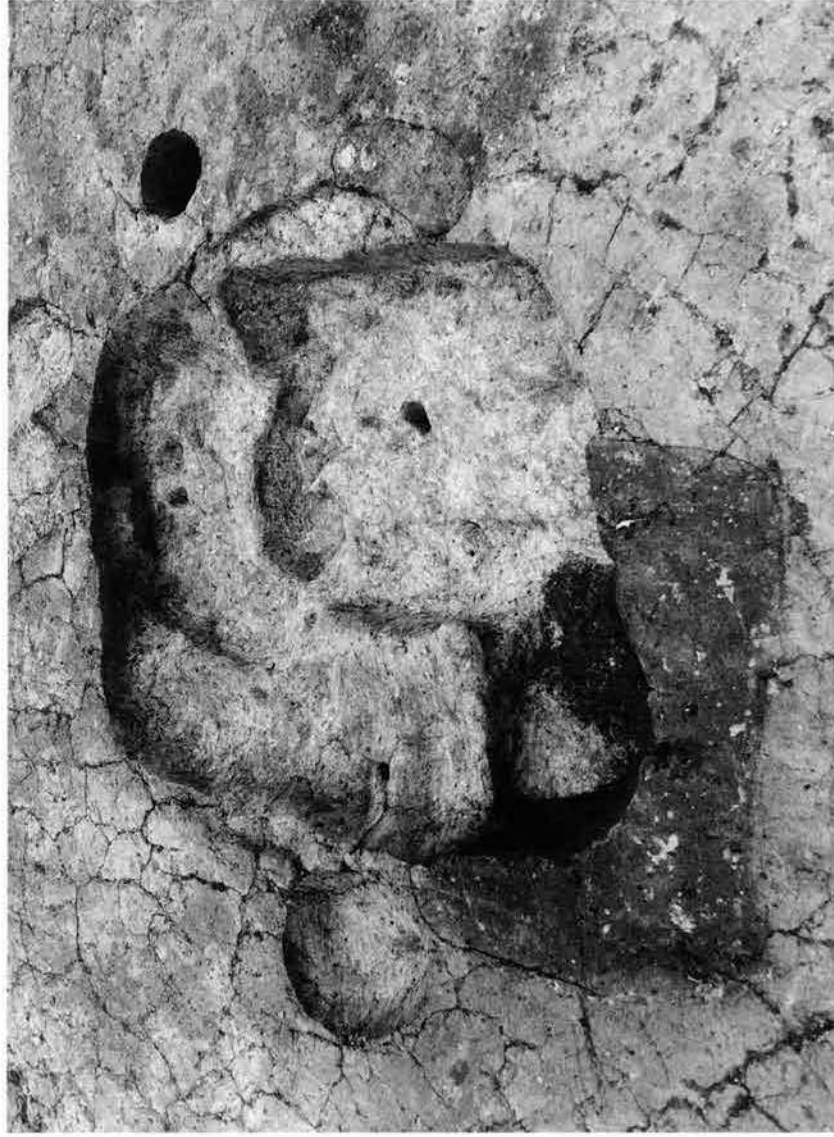


2SK0313完掘状況（南から）



2SK0313完掘状況（東から）



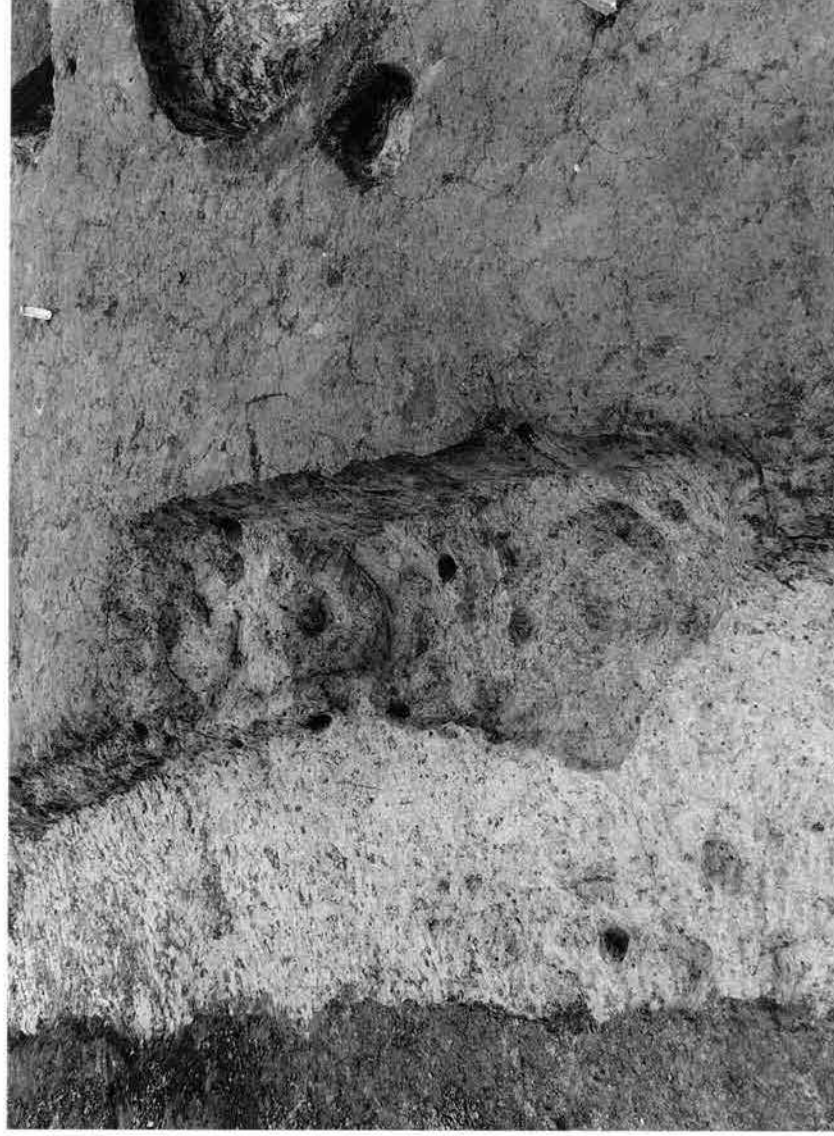


2SK0314完掘状況（北から）



2SK0314完掘状況（西から）

Pla.14



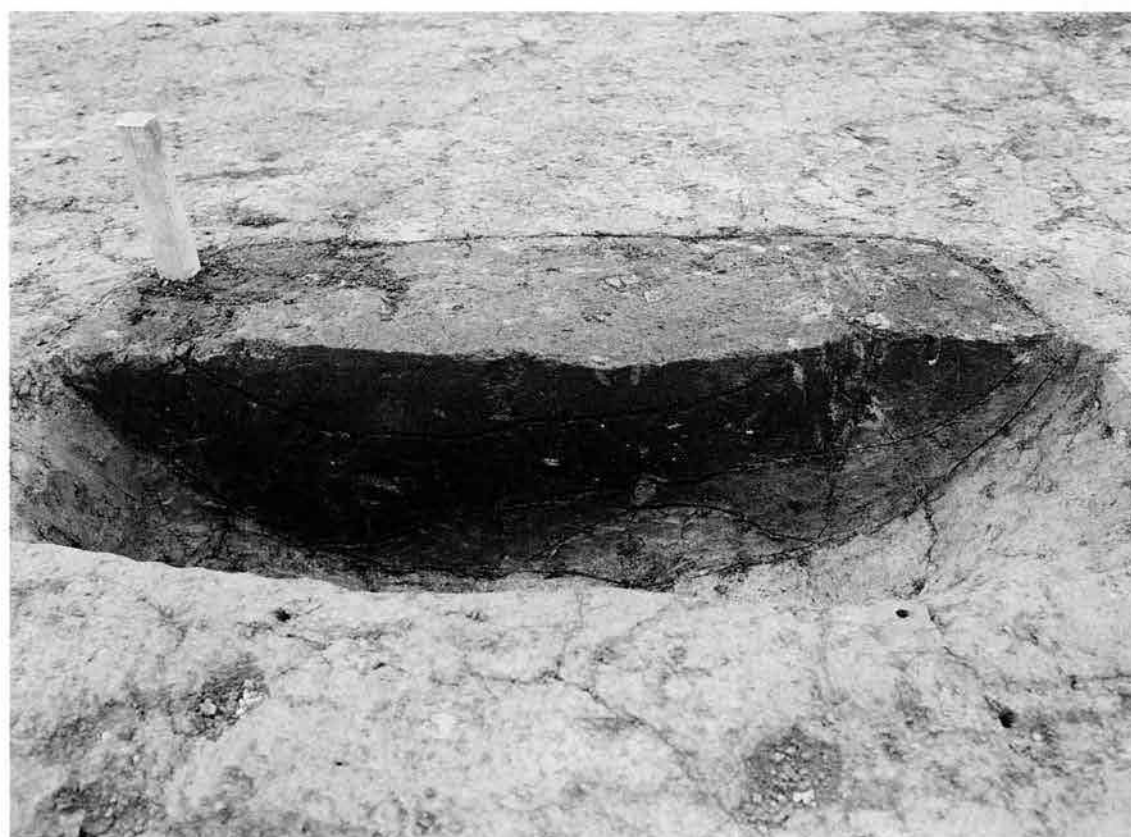
2SK0316完掘状況（北から）



2SK0316完掘状況（東から）

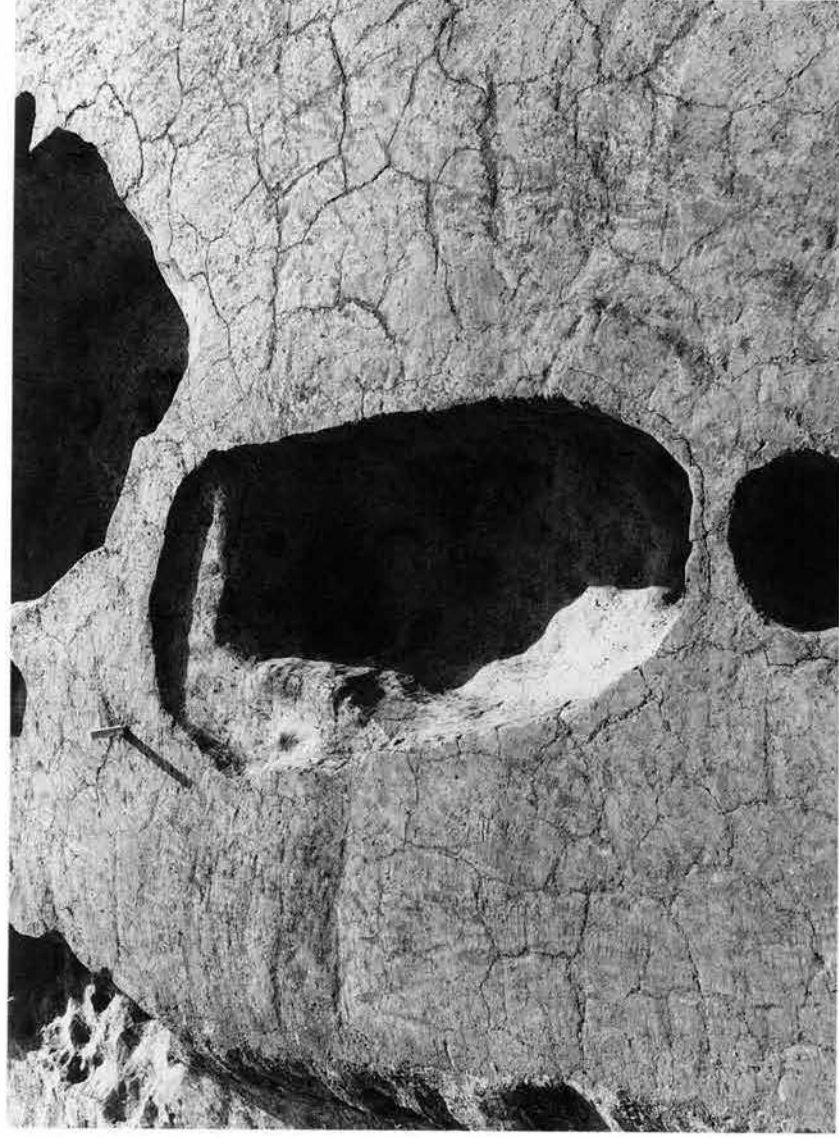


2SK0317土層断面（東から）



2SK0335土層断面（東から）

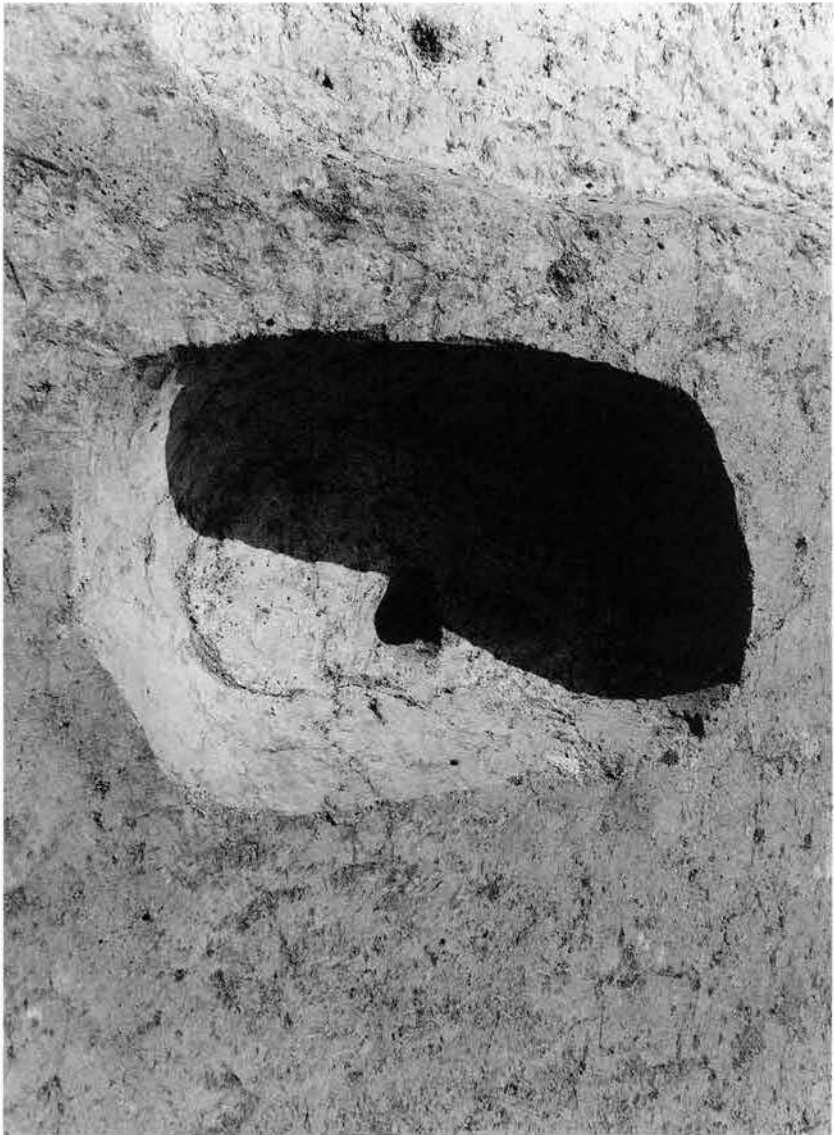




2SK0317完掘状況（北から）



2SK0317完掘状況（東から）



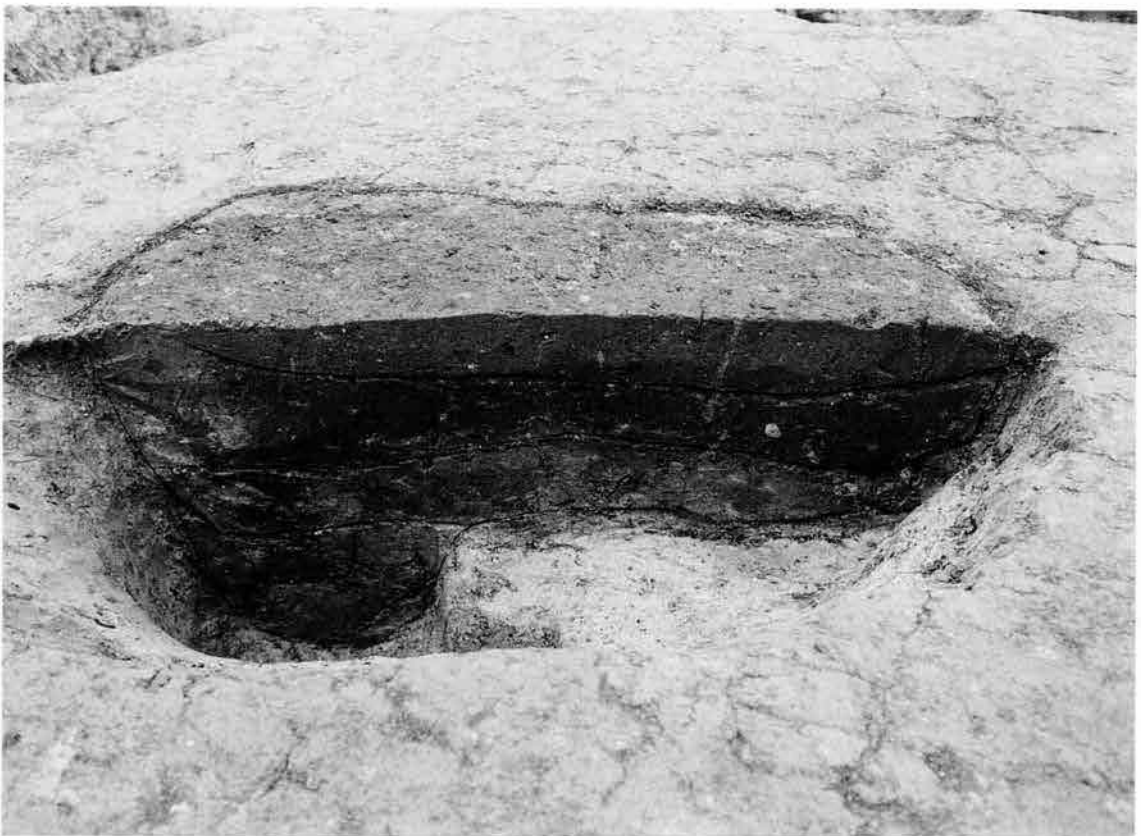
2SK03335完掘状況 (北から)



2SK03335完掘状況 (西から)

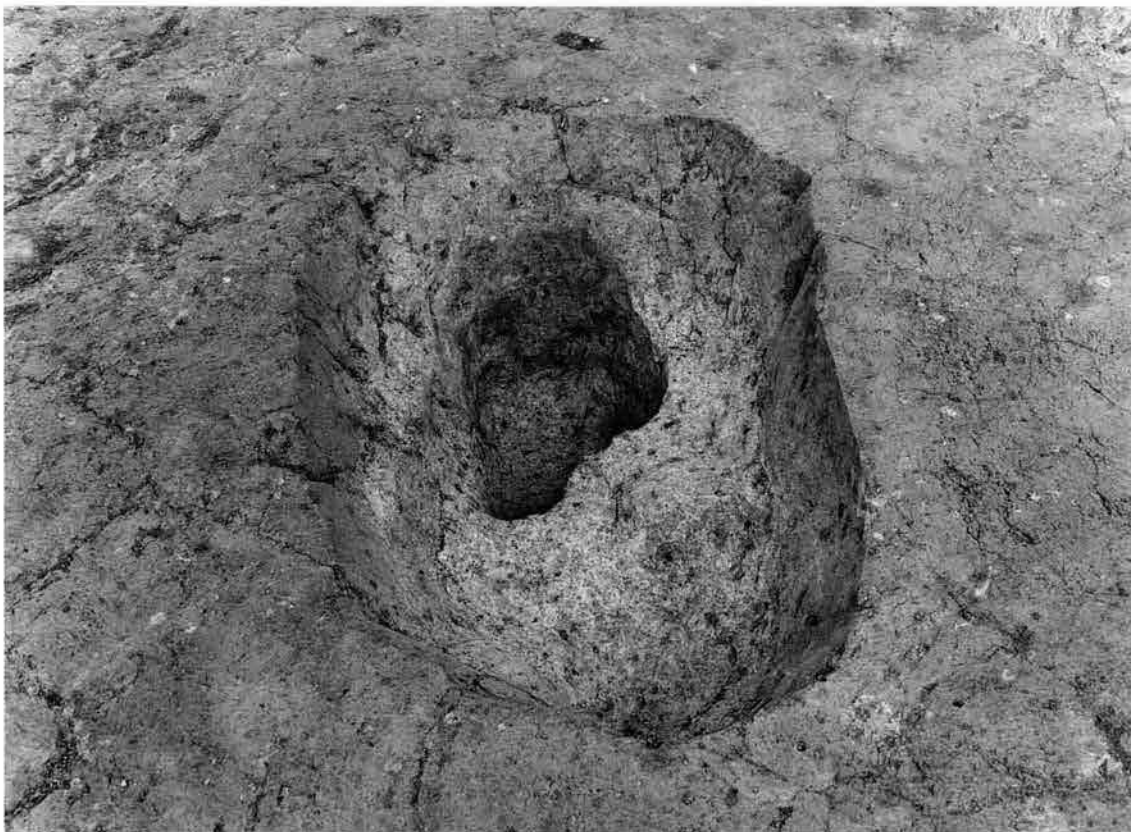


2SK0334土層断面（東から）



2SK0336土層断面（南から）





2SK0336完掘状況（南東から）



2SK0336完掘状況（南西から）





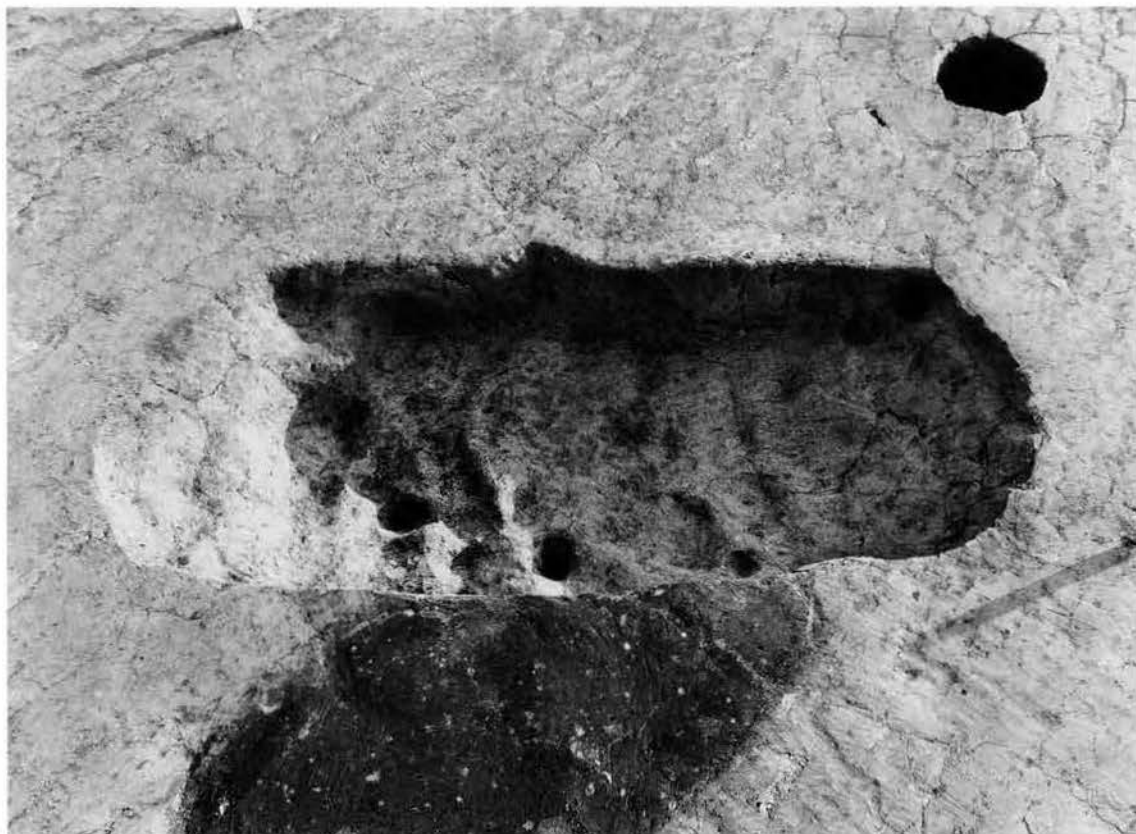
2SK0337土層断面（北から）



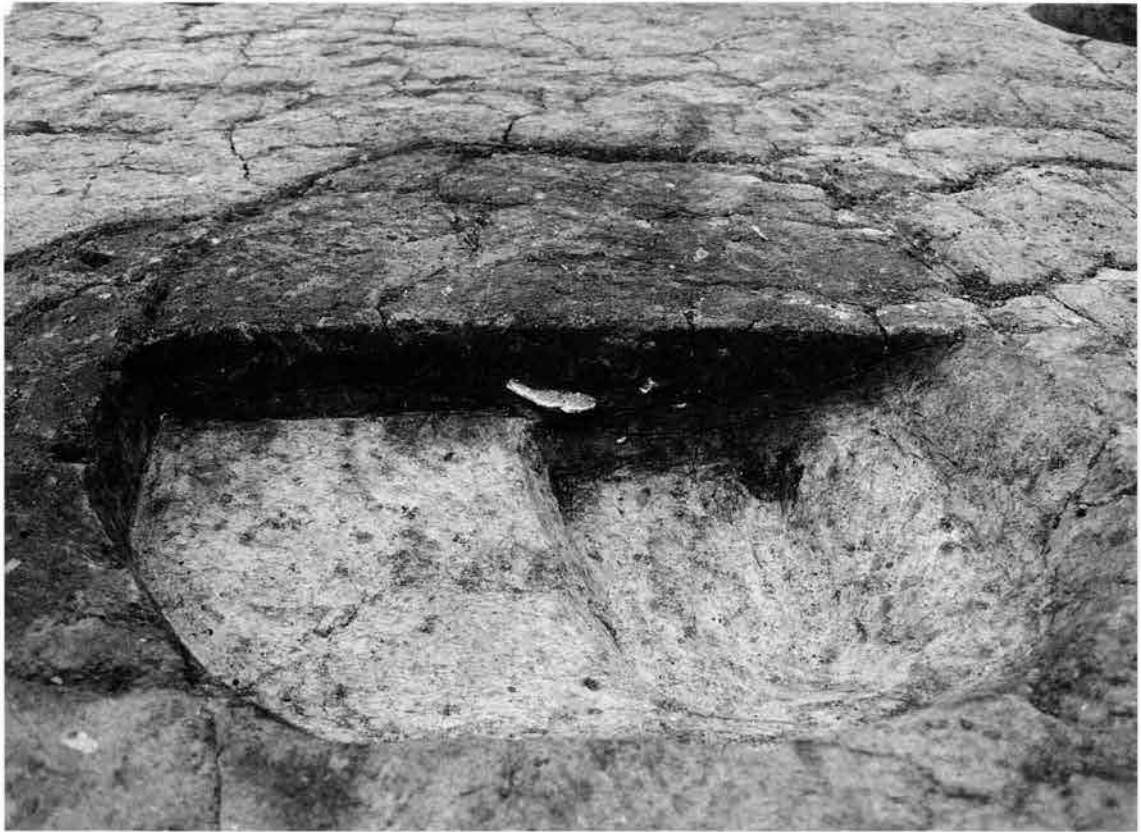
2SK0341土層断面（北から）



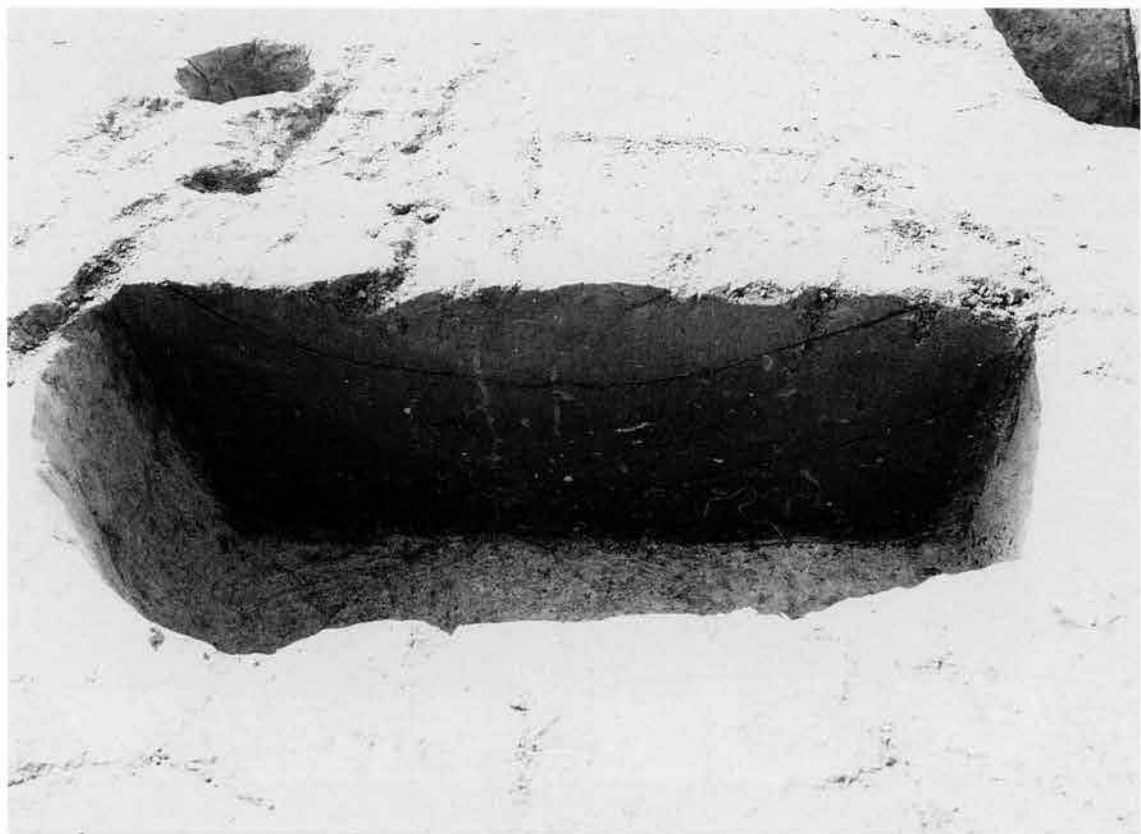
2SK0351完掘状況（東から）



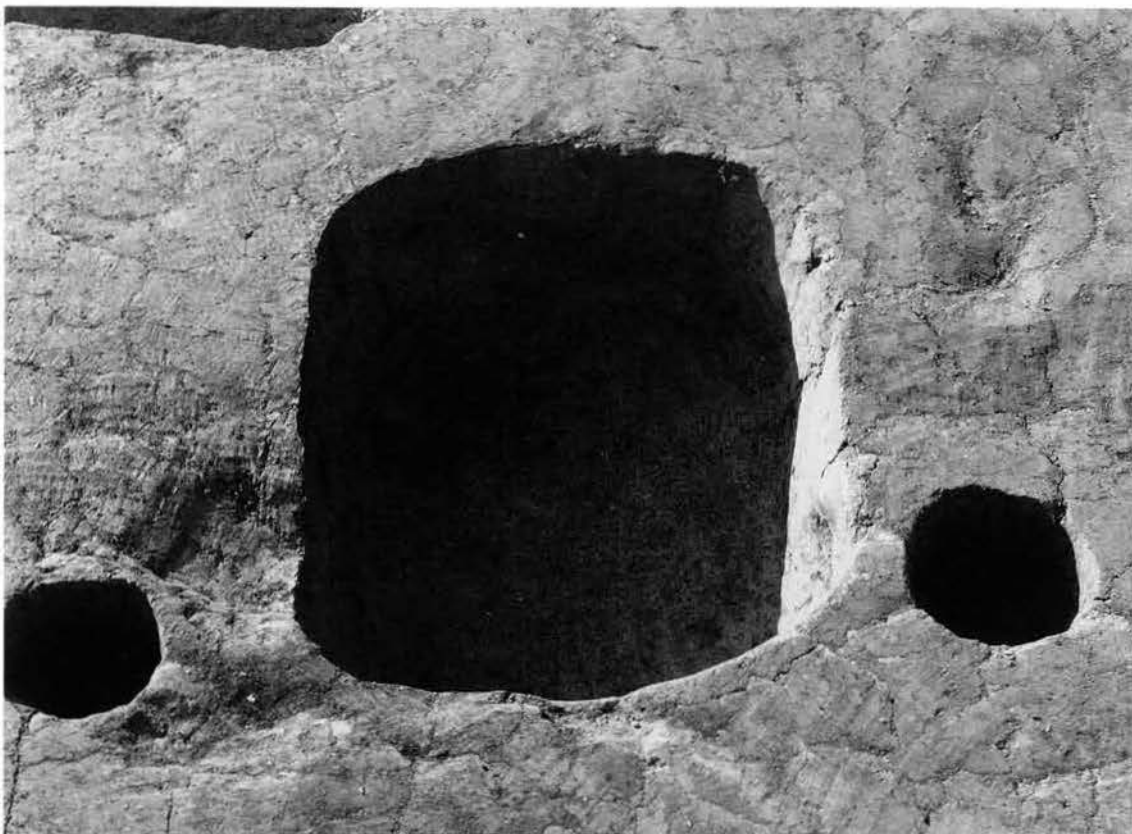
2SK0352完掘状況（北から）



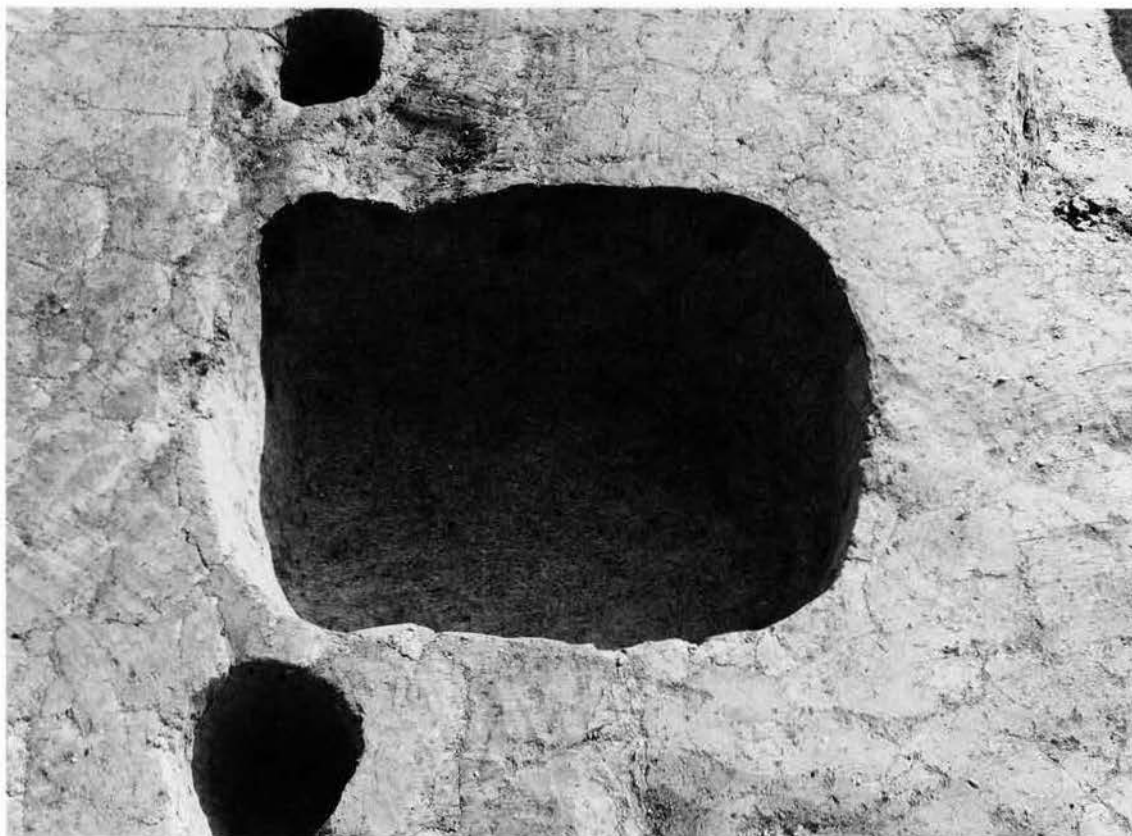
2SK0352土層断面（東から）



2SK0353土層断面（北から）



2SK0353完掘状況（東から）



2SK0353完掘状況（北から）

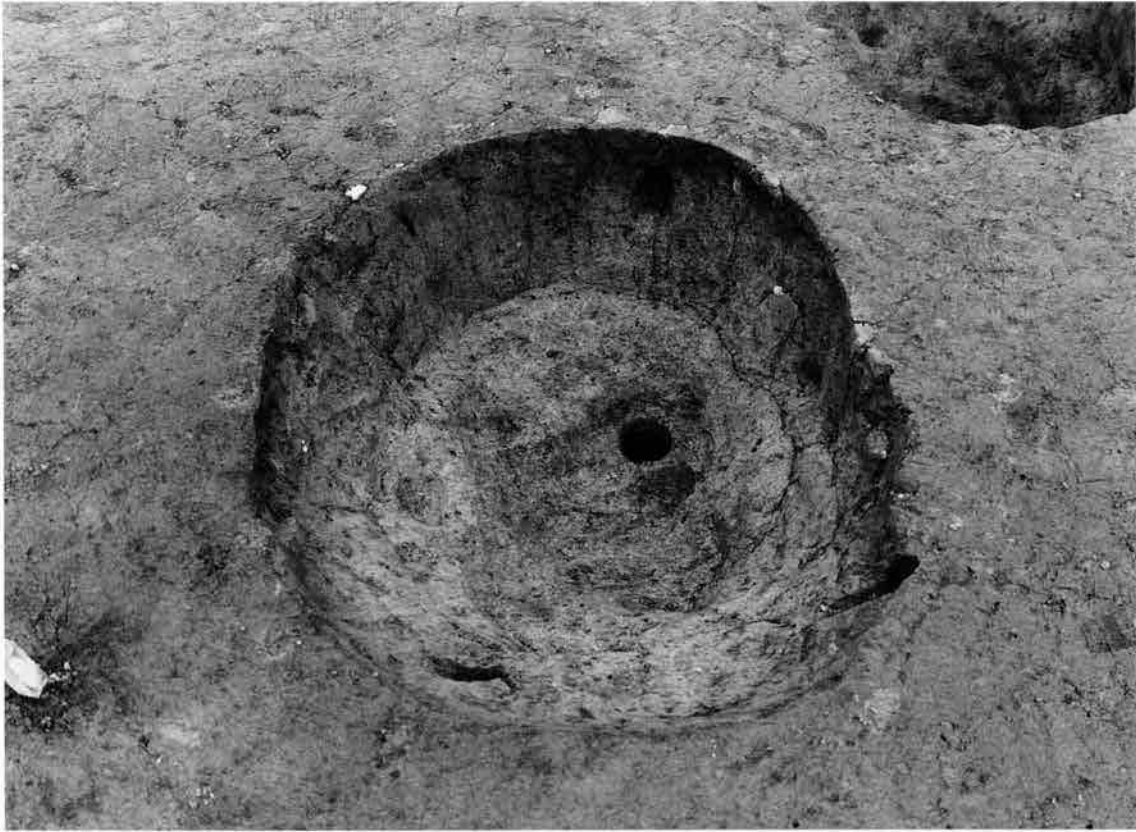




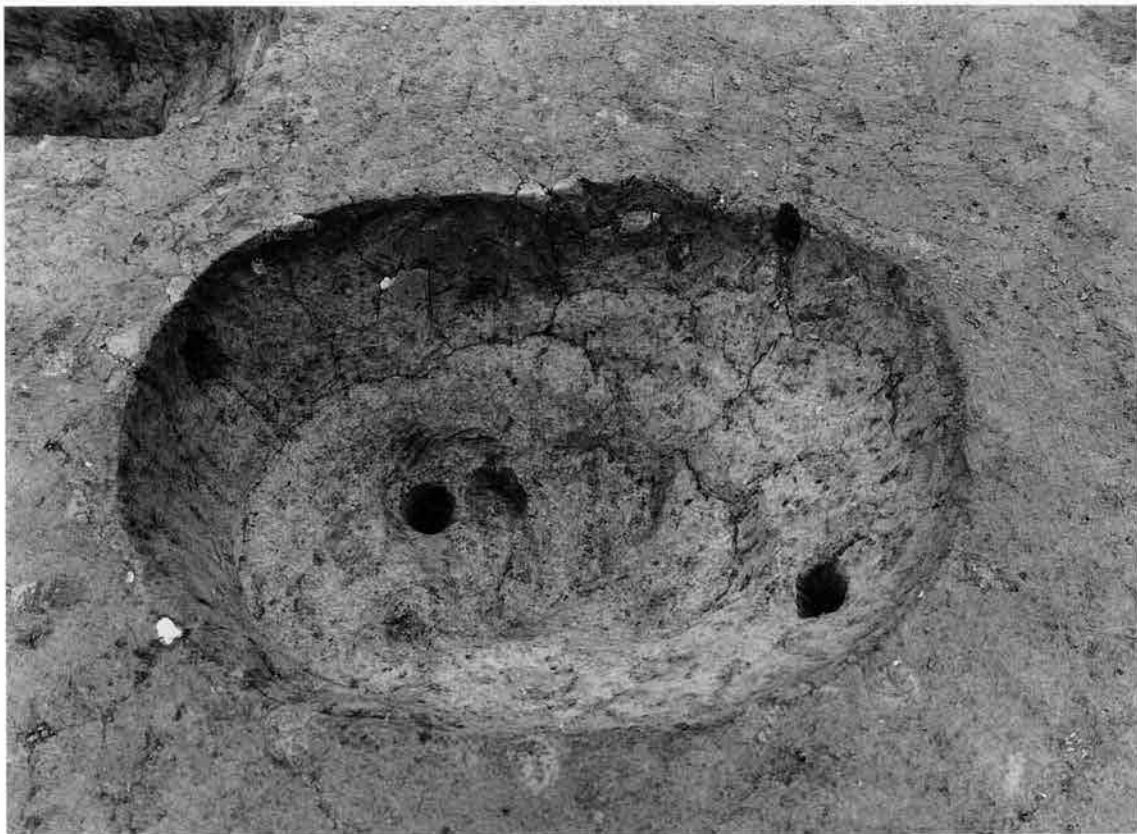
2SK0355完掘状況（北から）



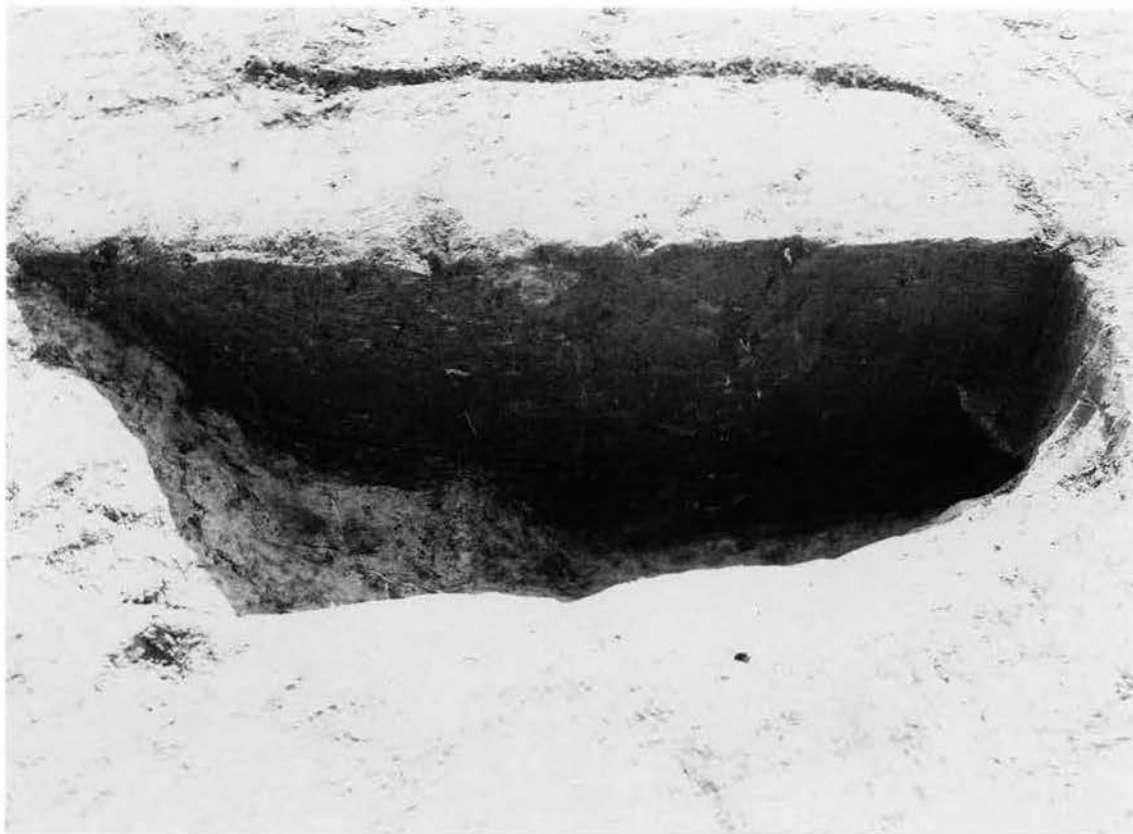
2SK0355完掘状況（東から）



2SK0356完掘状況（東から）



2SK0356完掘状況（南から）

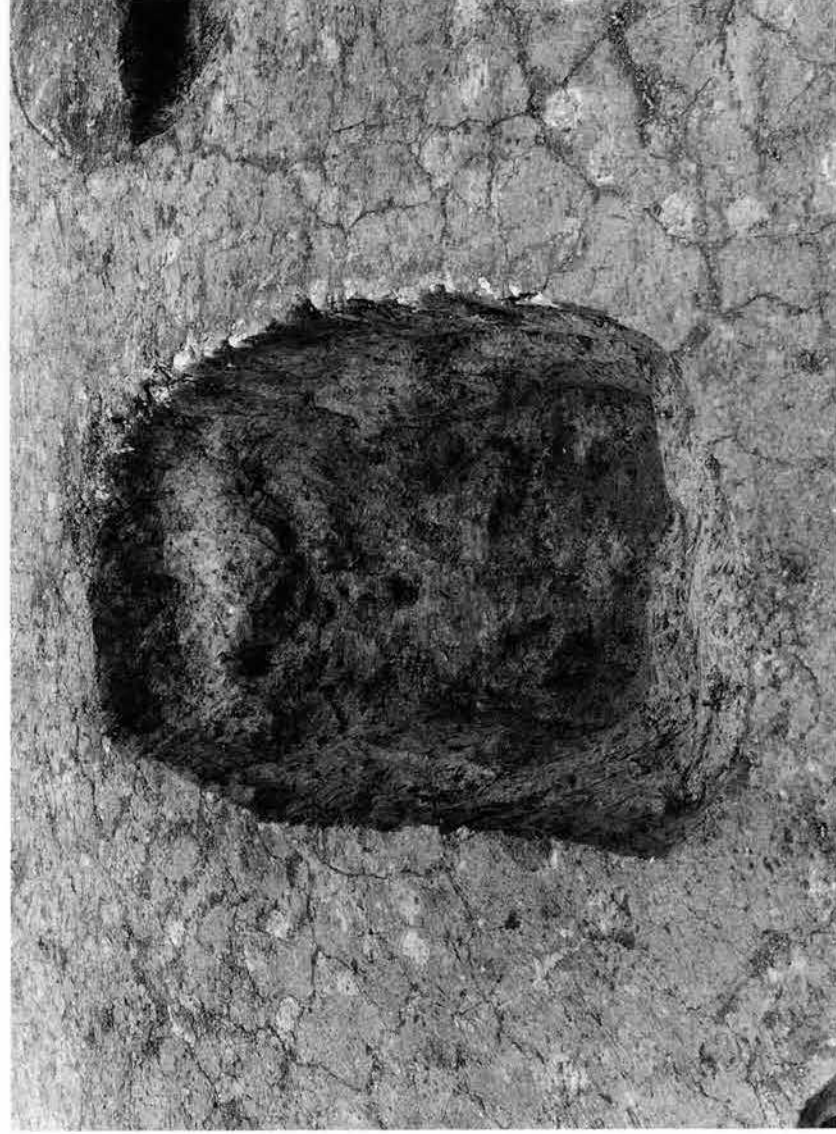


2SK0354土層断面（北西から）



2SK0357土層断面（北から）





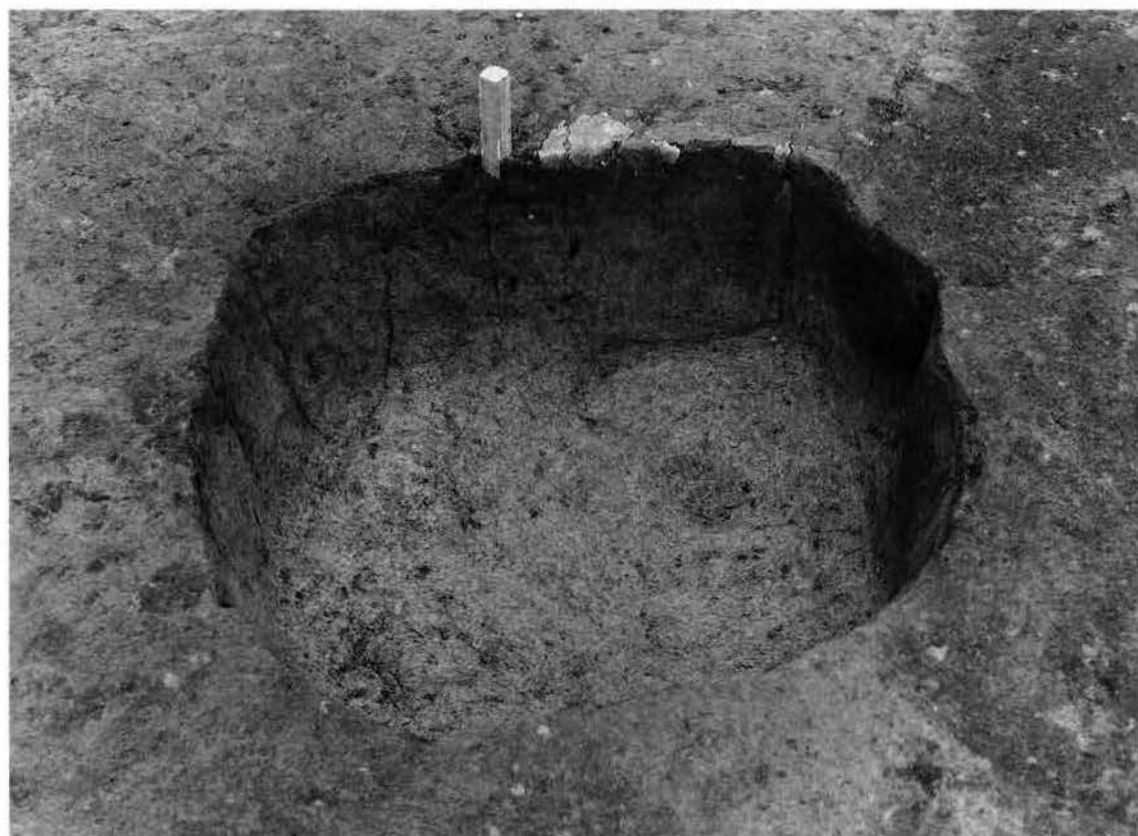
2SK0357完掘状況（東から）



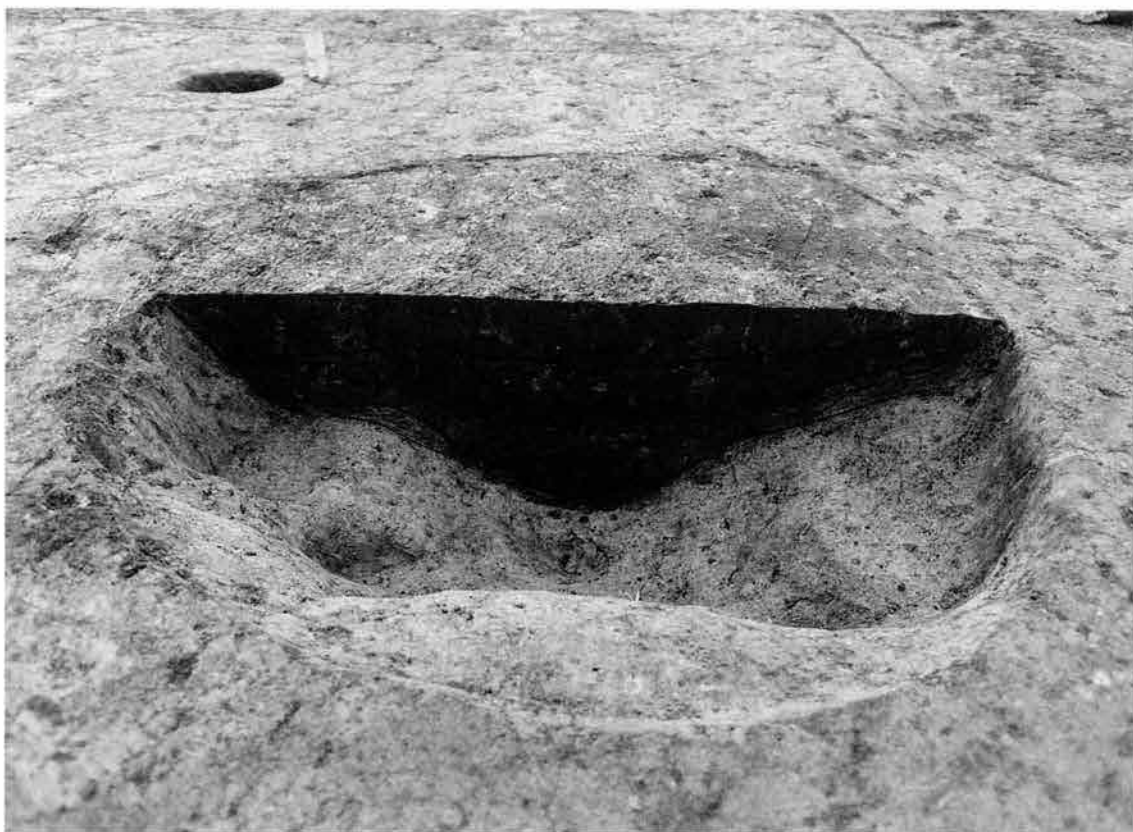
2SK0357完掘状況（南から）



2SK0358完掘状況（西から）



2SK0358完掘状況（南から）



2SK0359土層断面（東から）



2SK0360土層断面（東から）





2SK0359完掘状況（東から）



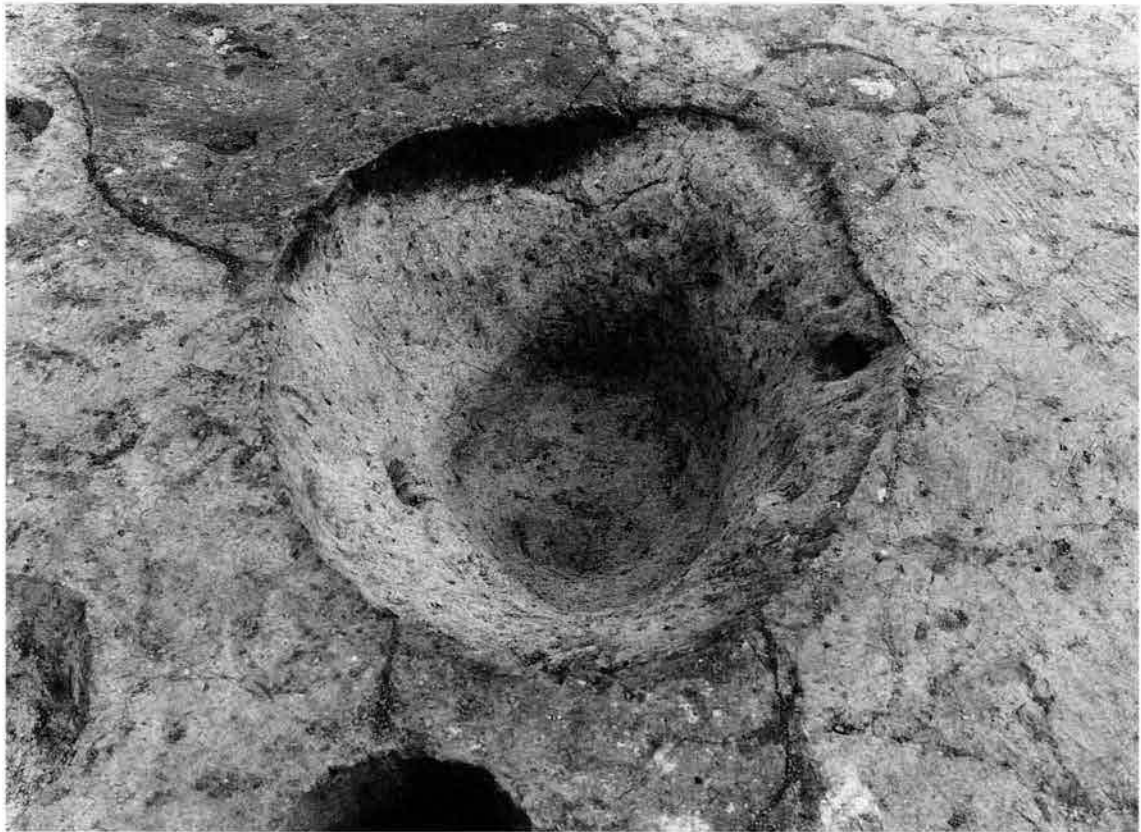
2SK0359完掘状況（南から）



2SK0361土層断面（東から）



2SK0363土層断面（西から）



2SK0361完掘状況（南から）



2SK0361完掘状況（東から）





2SK0363土器出土状況（北西から）



2SK0363土器出土状況（北東から）





2SK0367土層断面（北西から）



2SK0368土層断面（北西から）



2SK0369土層断面（北東から）



2SK0370土層断面（東から）

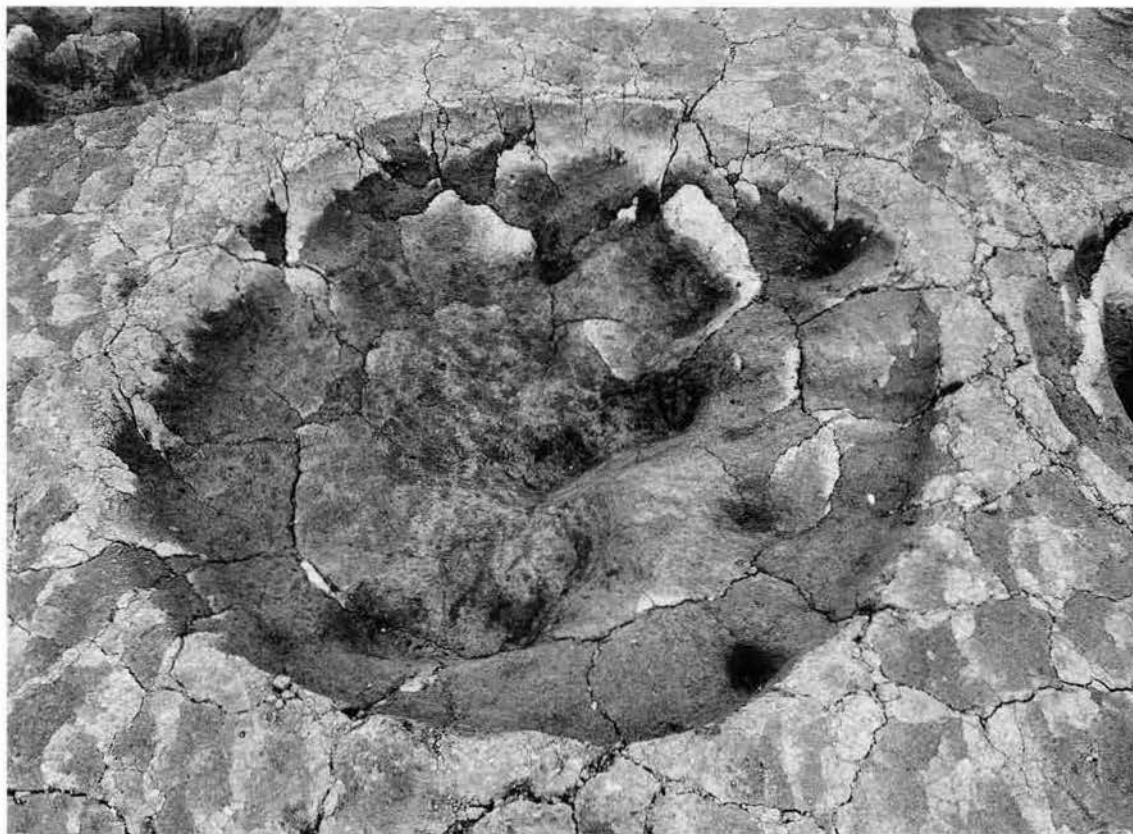


2SK0382土層断面(南から)



2SK0383土層断面(東から)





2SK0382完掘状況（南から）



2SK0382完掘状況（東から）



2SK0383完掘状況（北から）



2SK0383完掘状況（東から）

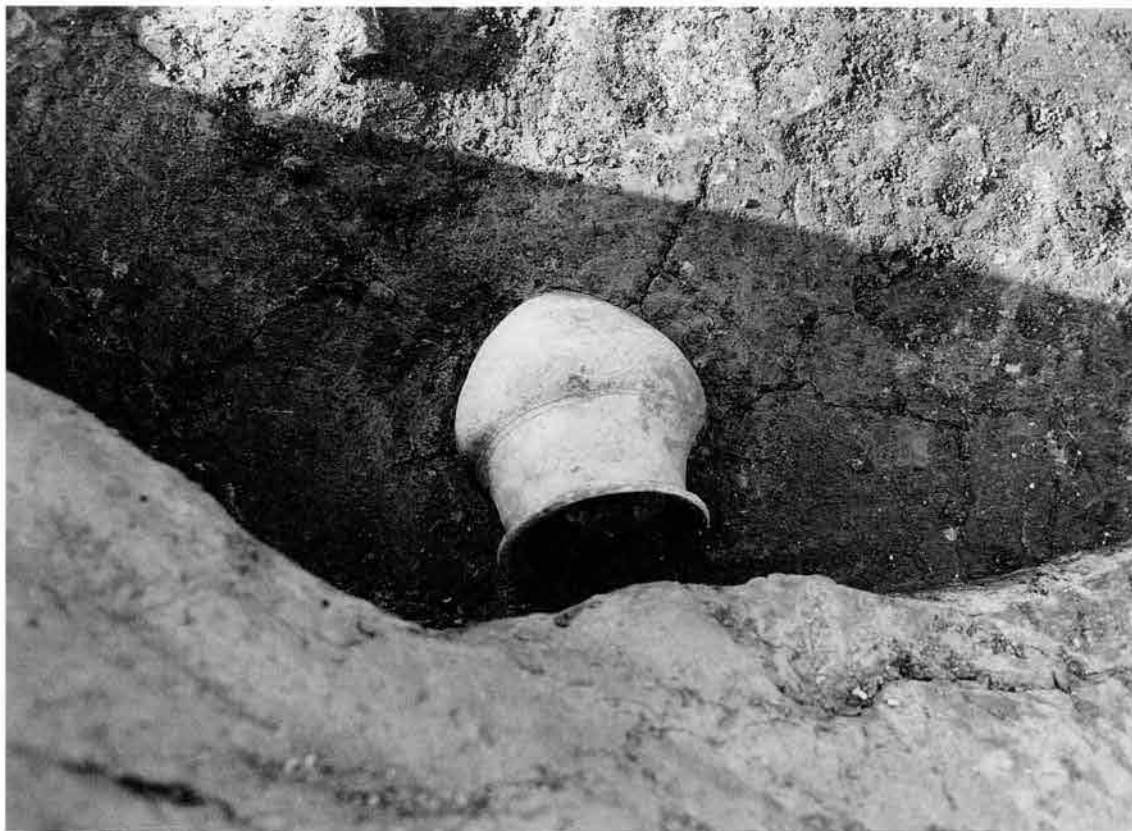


2SK0391土器出土状況（西から）①



2SK0391土器出土状況（西から）②





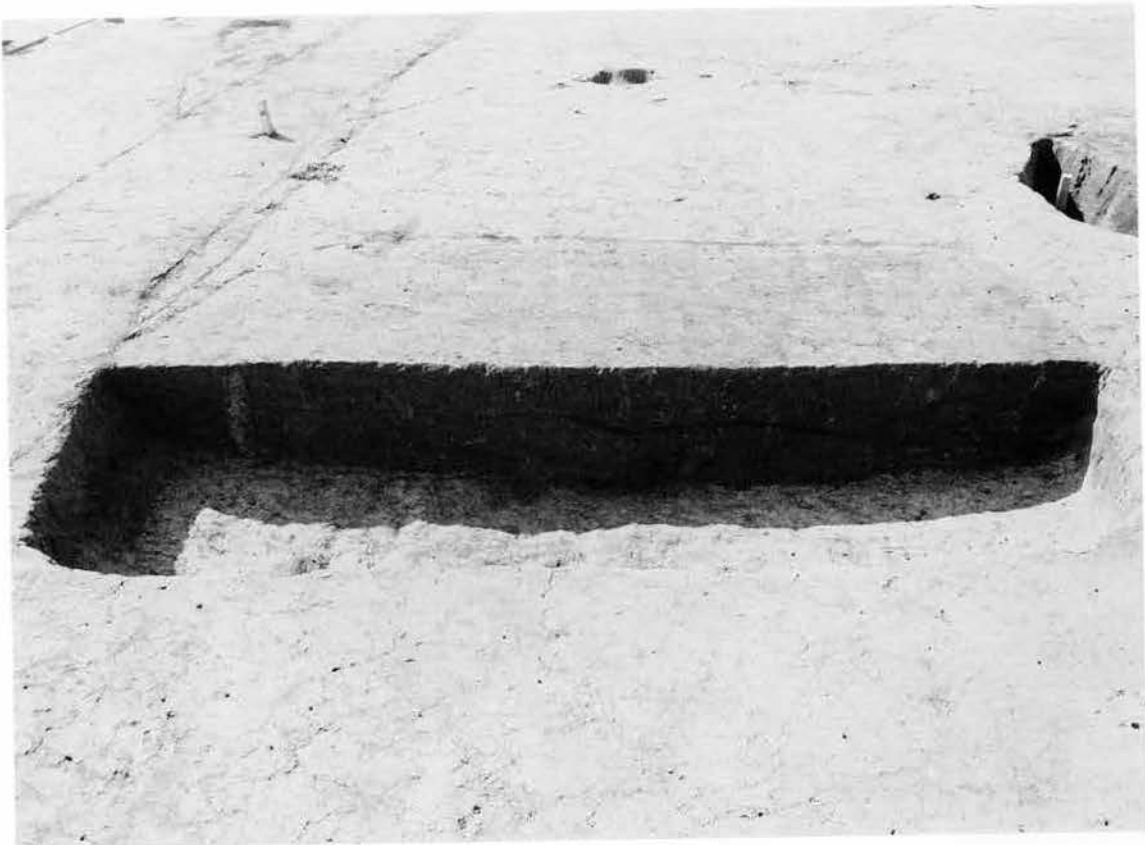
2SK0391土器出土状況（東から）



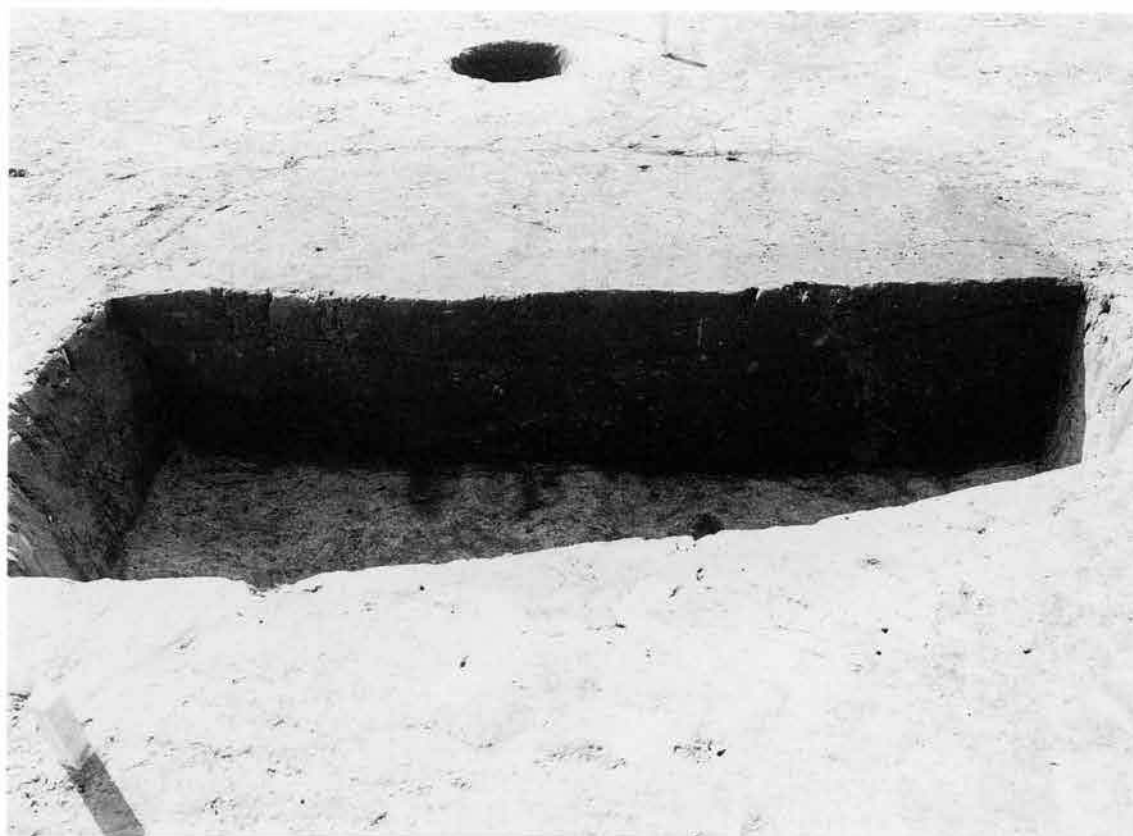
2SK0391土層断面（西から）



2SK0392土層断面（東から）



2SK0393土層断面（北から）



2SK0394土層断面（北から）



2SK0396土層断面（北東から）



2SK0394完掘状況（東から）



2SK0394完掘状況（北から）





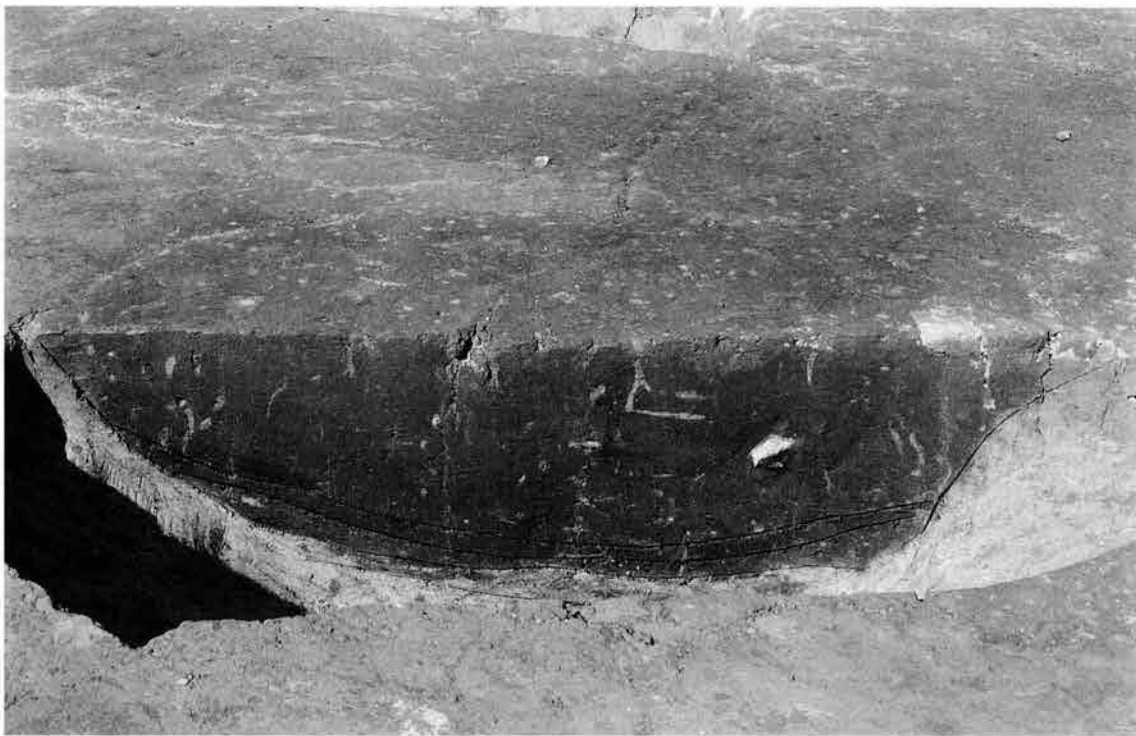
2SK03996完掘状況（北から）



2SK03996完掘状況（東から）



2SK0398土層断面（北から）



2SK0399土層断面（東から）





2SK03998完掘状況（西から）



2SK03998完掘状況（北から）



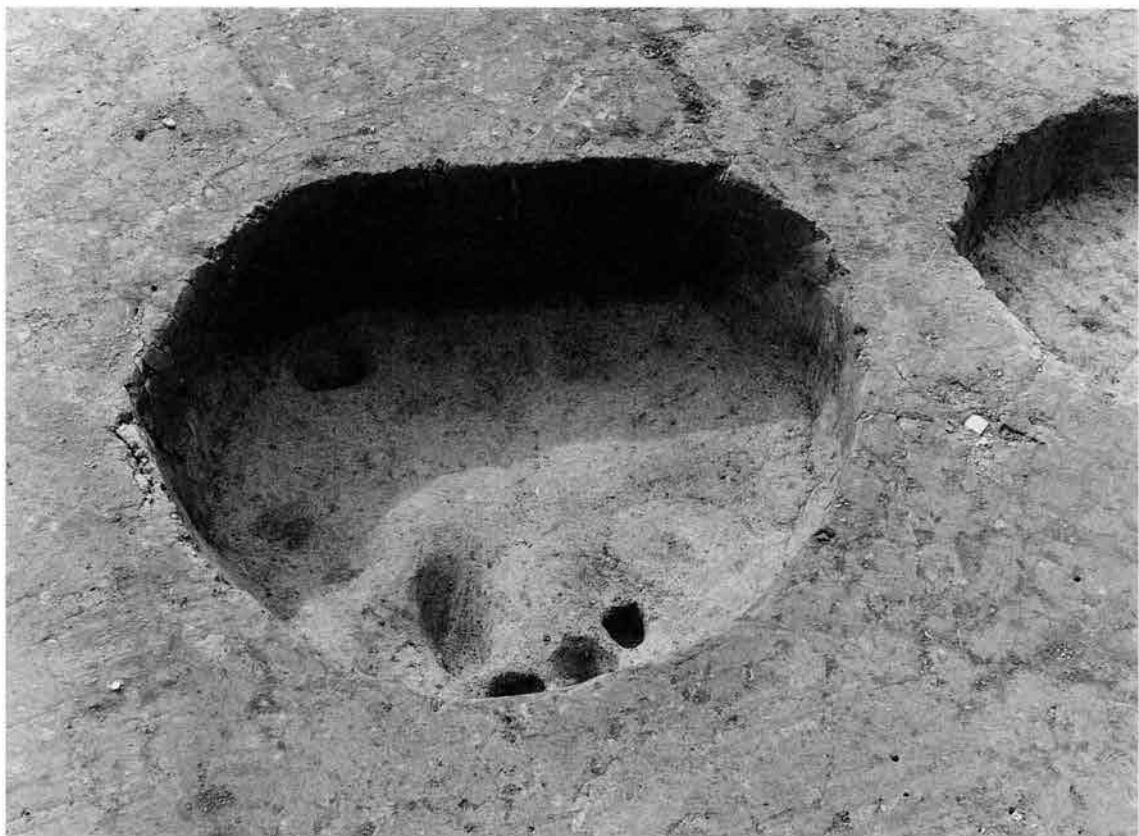
2SK0399完掘状況（北から）



2SK0399完掘状況（東から）



2SK0400完掘状況（北東から）



2SK0400完掘状況（北西から）

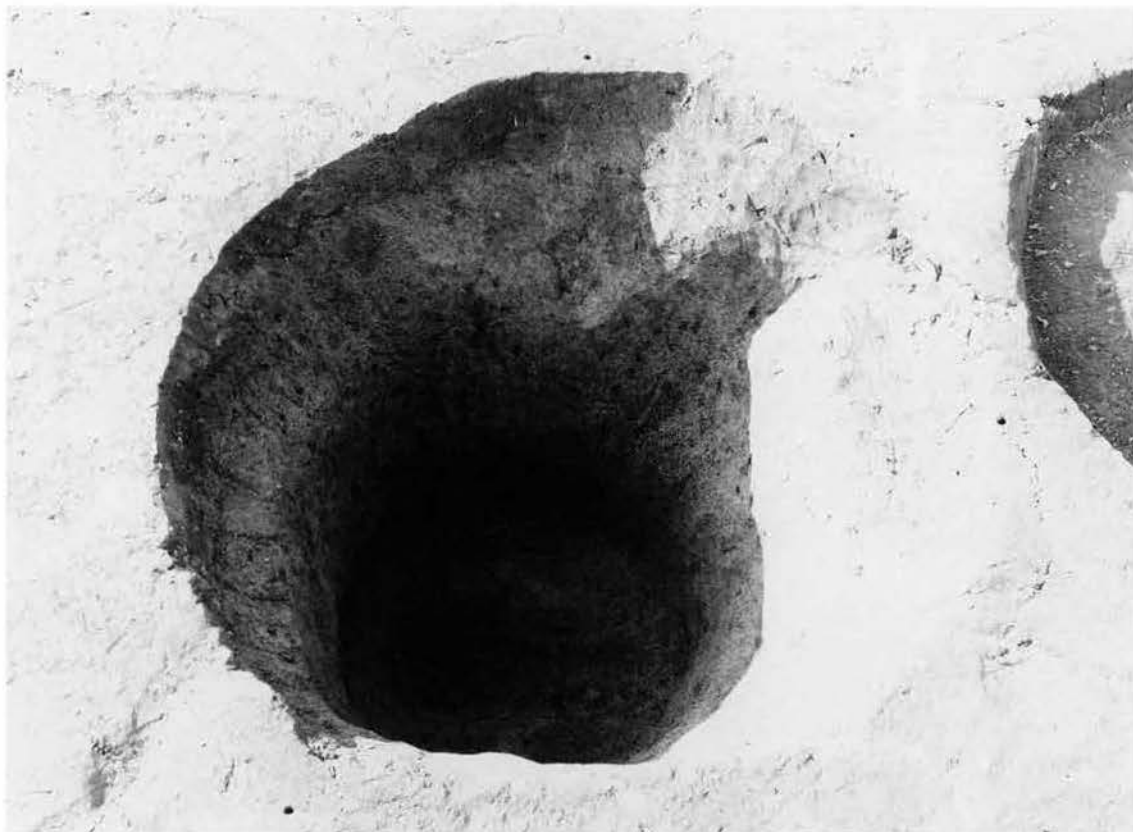




2SK0400土層断面（東から）



2SK0402完掘状況（東から）



2SK0401完掘状況（東から）



2SK0401完掘状況（北から）

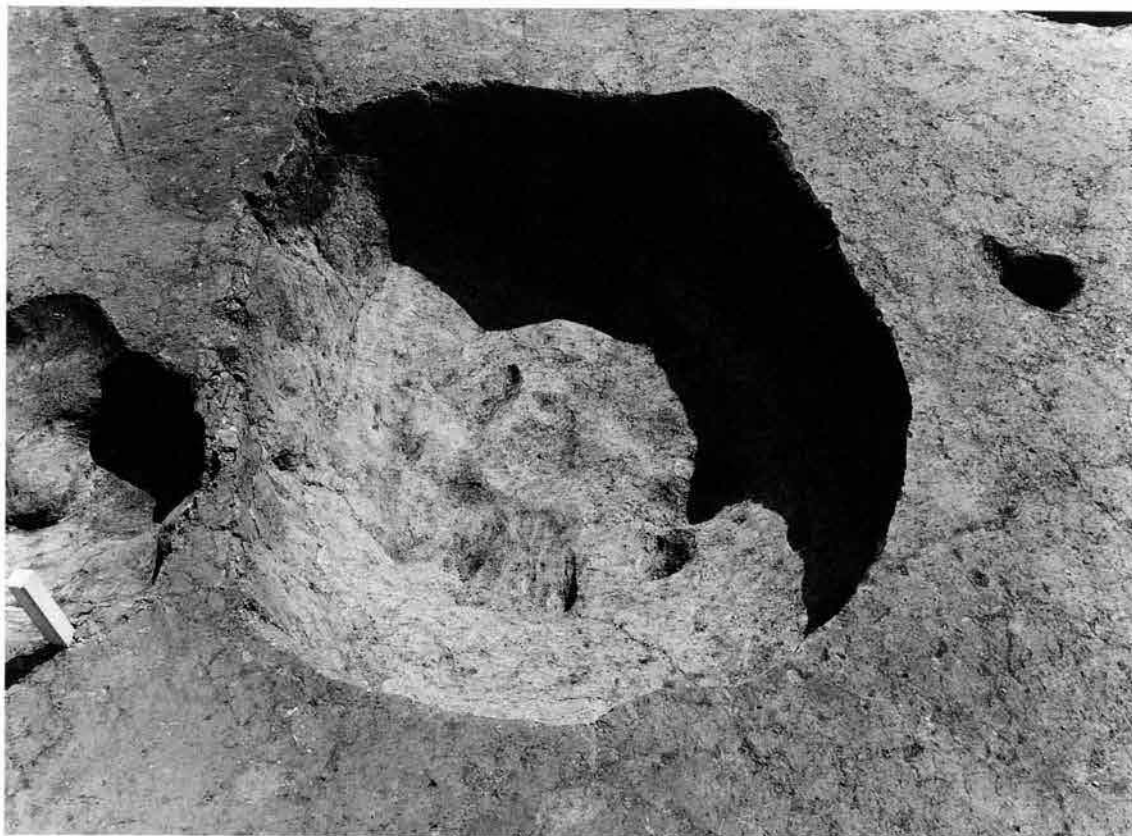


2SK0416土層断面 (北から)



2SK0417土層断面 (東から)





2SK0416完掘状況（西から）



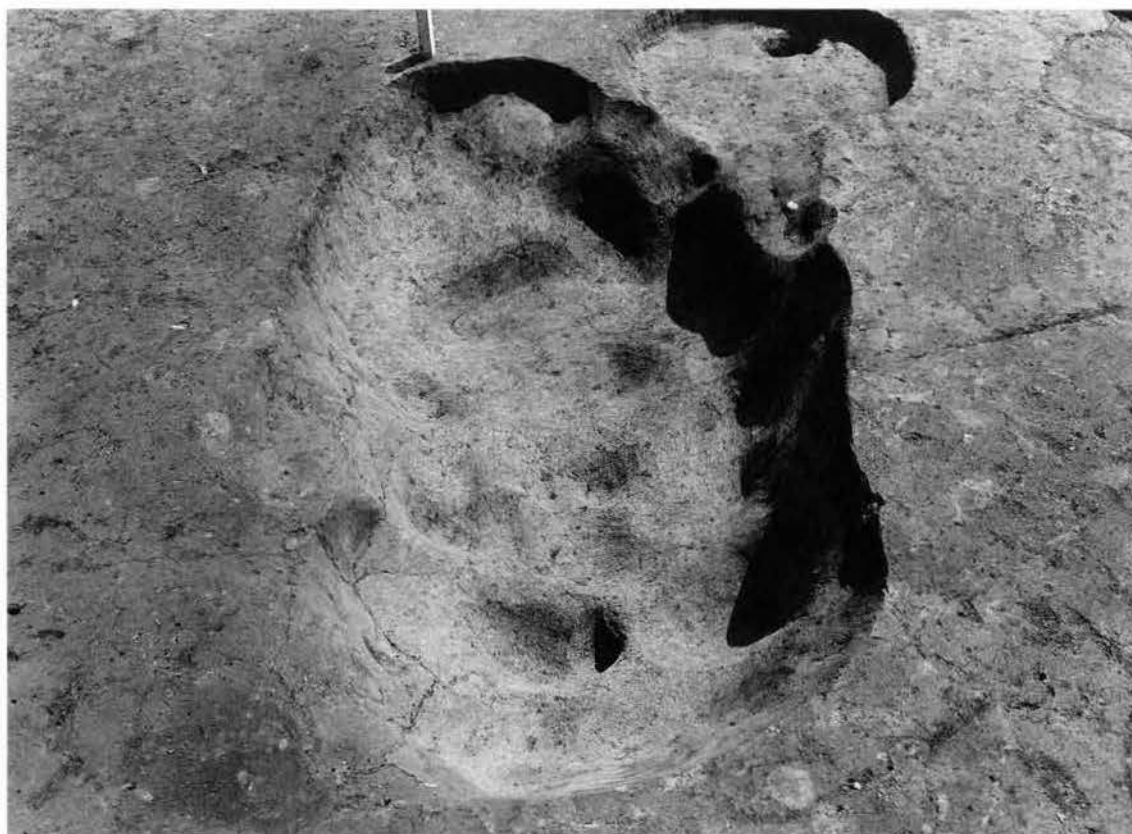
2SK0416完掘状況（北から）



2SK0418土層断面（北から）



2SK0420土層断面（西から）



2SK0419完掘状況（西から）



2SK0419完掘状況（南から）

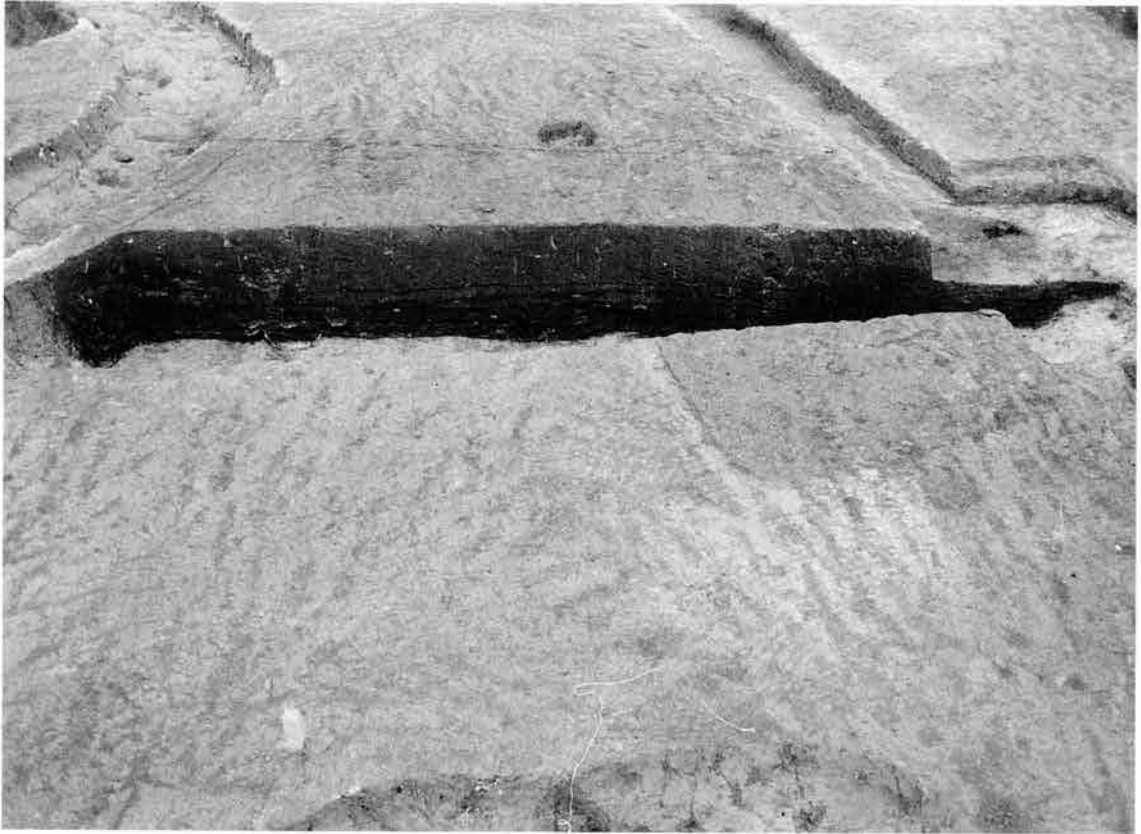




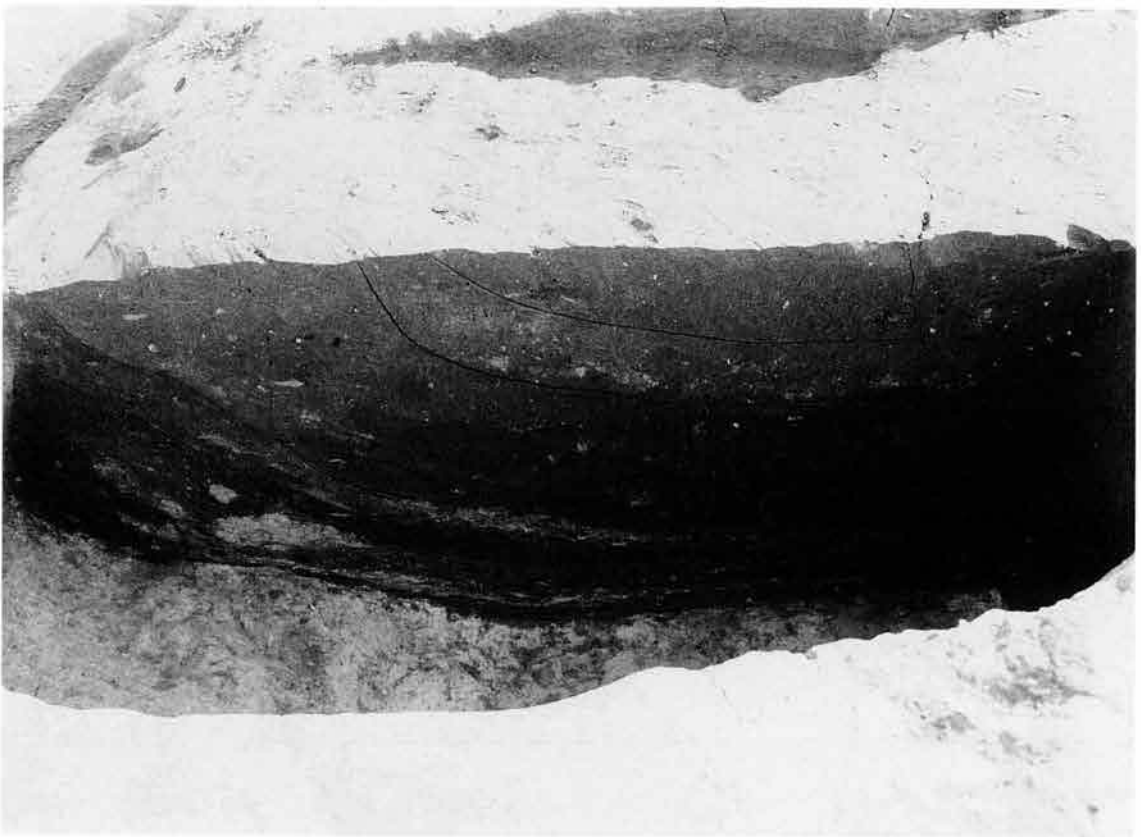
2SK0424・2SK0425完掘状況（北から）



2SK0424・2SK0425完掘状況（西から）



2SK0423土層断面（北から）



2SK0426土層断面（北から）



2SK0423完掘状況（東から）



2SK0423完掘状況（南から）





2SK0426Ⅲ層土器出土状況（東から）



2SK0426Ⅲ層土器出土状況（北から）



2SK0428土層断面（南西から）



2SK0429土層断面（東から）



2SK0428完掘状況 (北西から)



2SK0428完掘状況 (南西から)



2SK0429完掘状況（北から）



2SK0429完掘状況（東から）





2SK0431土層断面（西から）



2SK0432土層断面（北から）



2SK0431完掘状況(北から)



2SK0431完掘状況(西から)





2SK0432完掘状況（東から）



2SK0432完掘状況（北から）



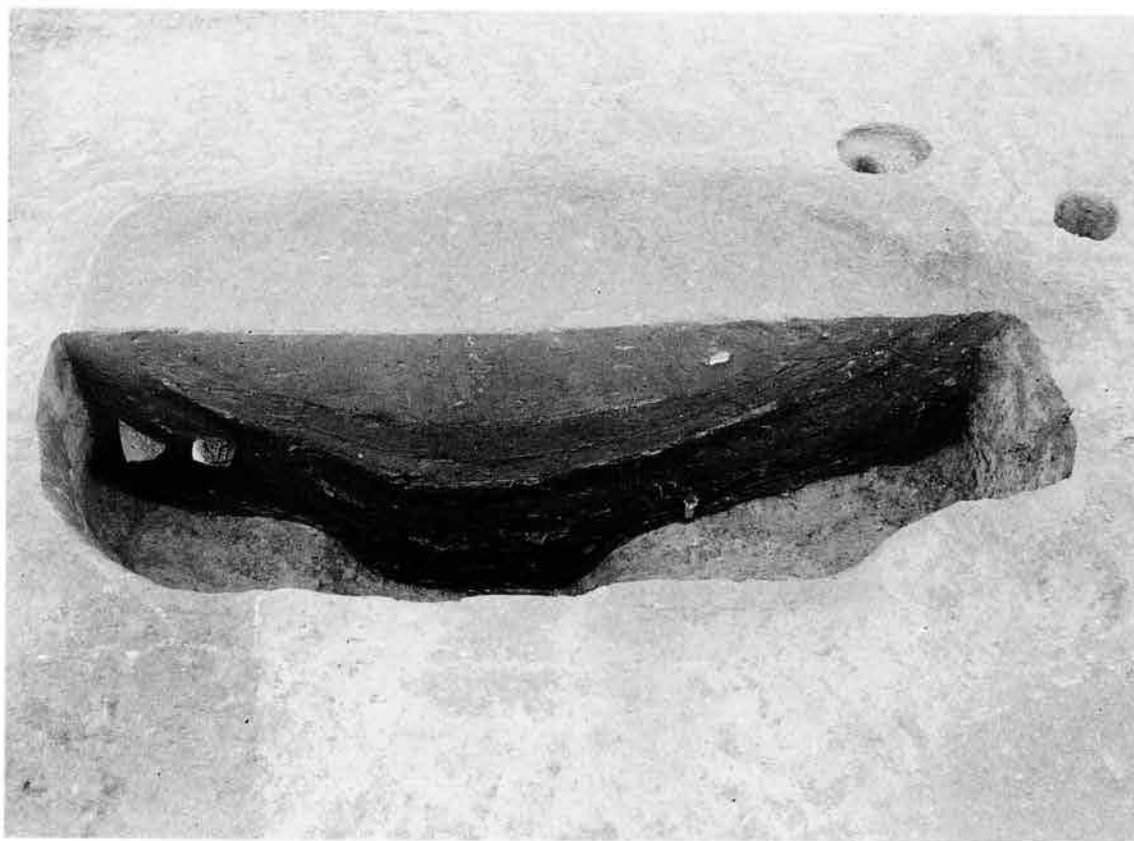
2SK0434土層断面（北から）



2SK0434完掘状況（東から）



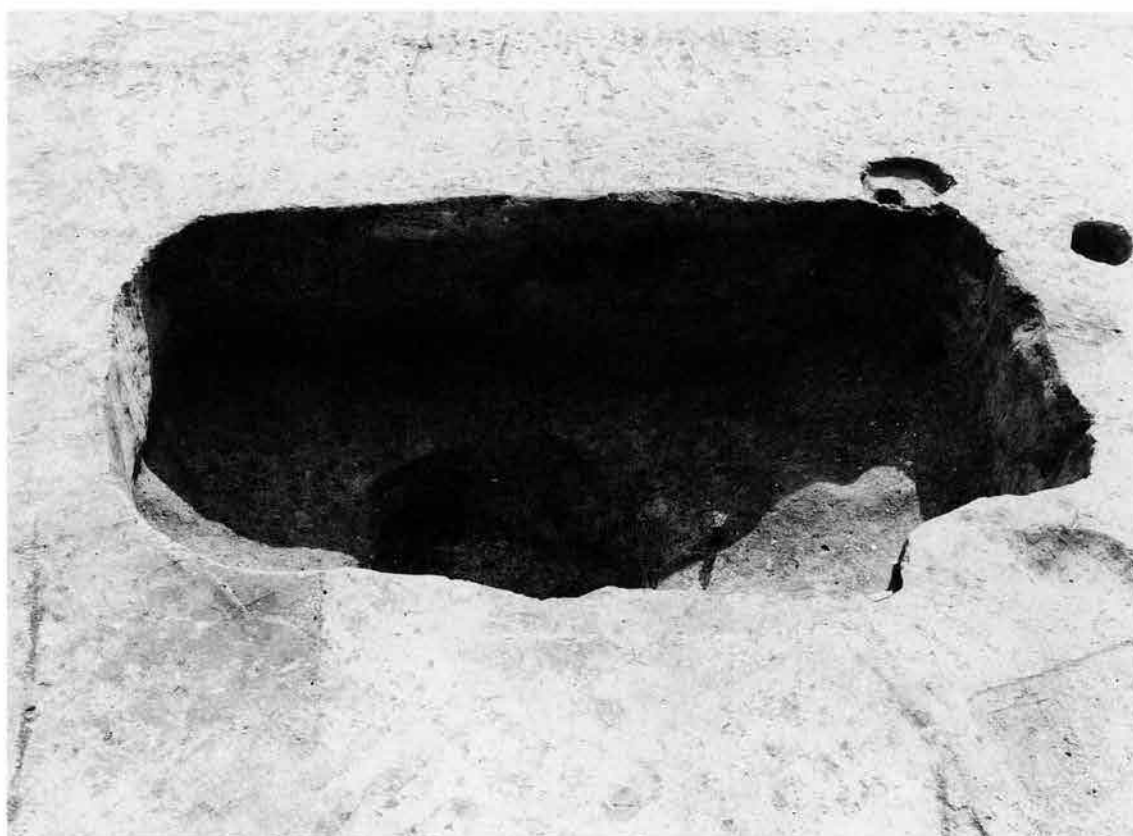
2SK0433完掘状況（東から）



2SK0435土層断面（北から）



2SK0435完掘状況（西から）



2SK0435完掘状況（北から）





2SK0436完掘状況（北東から）



2SK0436完掘状況（南東から）



2SK0436土器出土状況（南から）



2SK0436土器出土状況（東から）





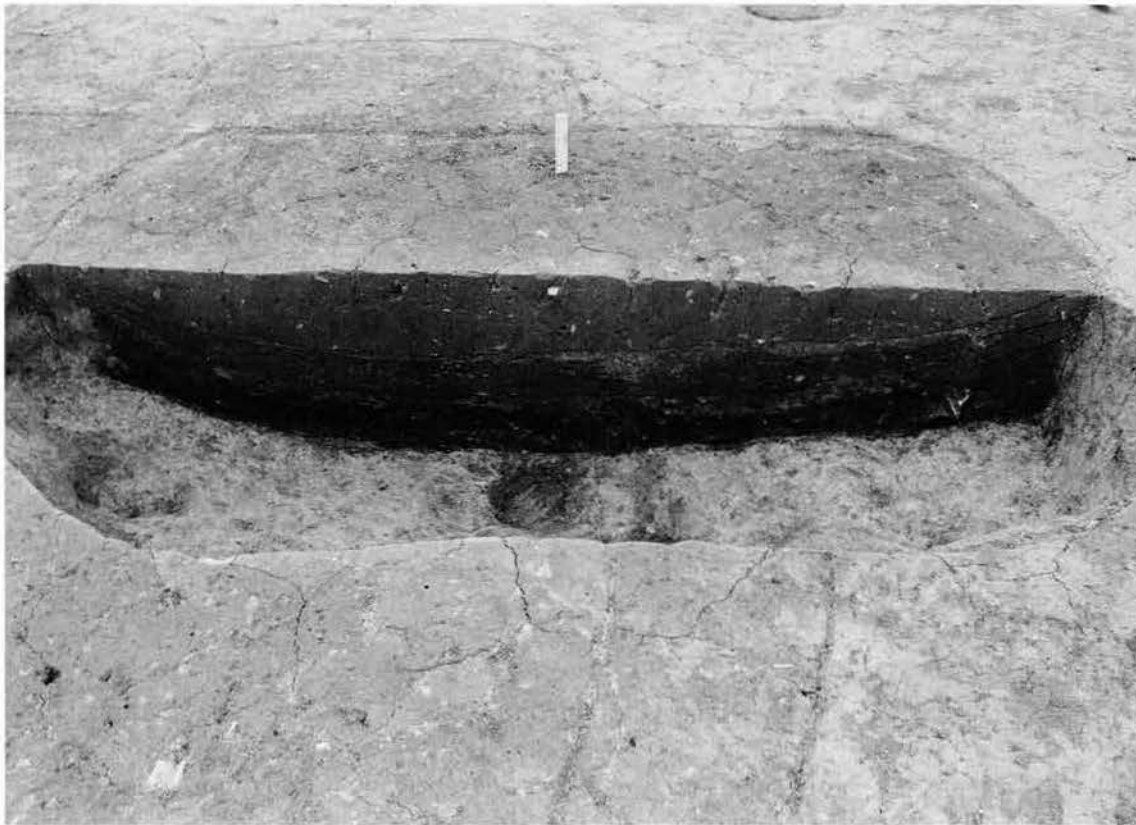
2SK0437完掘状況（東から）



2SK0437完掘状況（南から）



2SK0438土層断面（西から）



2SK0439土層断面（北から）

Pla.72

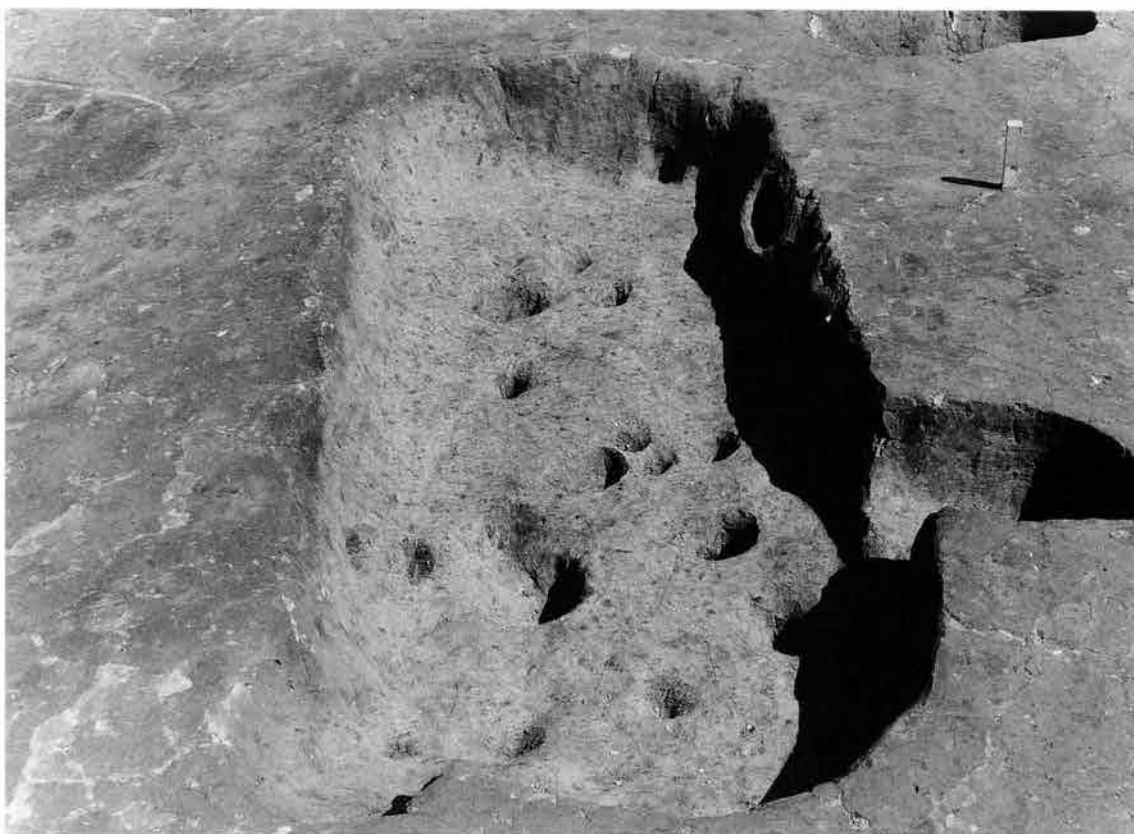


2SK0440土層断面（西から）



2SK0445完掘状況（南から）





2SK0446完掘状況（南から）



2SK0446完掘状況（西から）



2SK0449・2SK0450完掘状況（西から）



2SK0449・2SK0450完掘状況（南から）



2SK0451完掘状況 (北から)



2SK0451完掘状況 (西から)

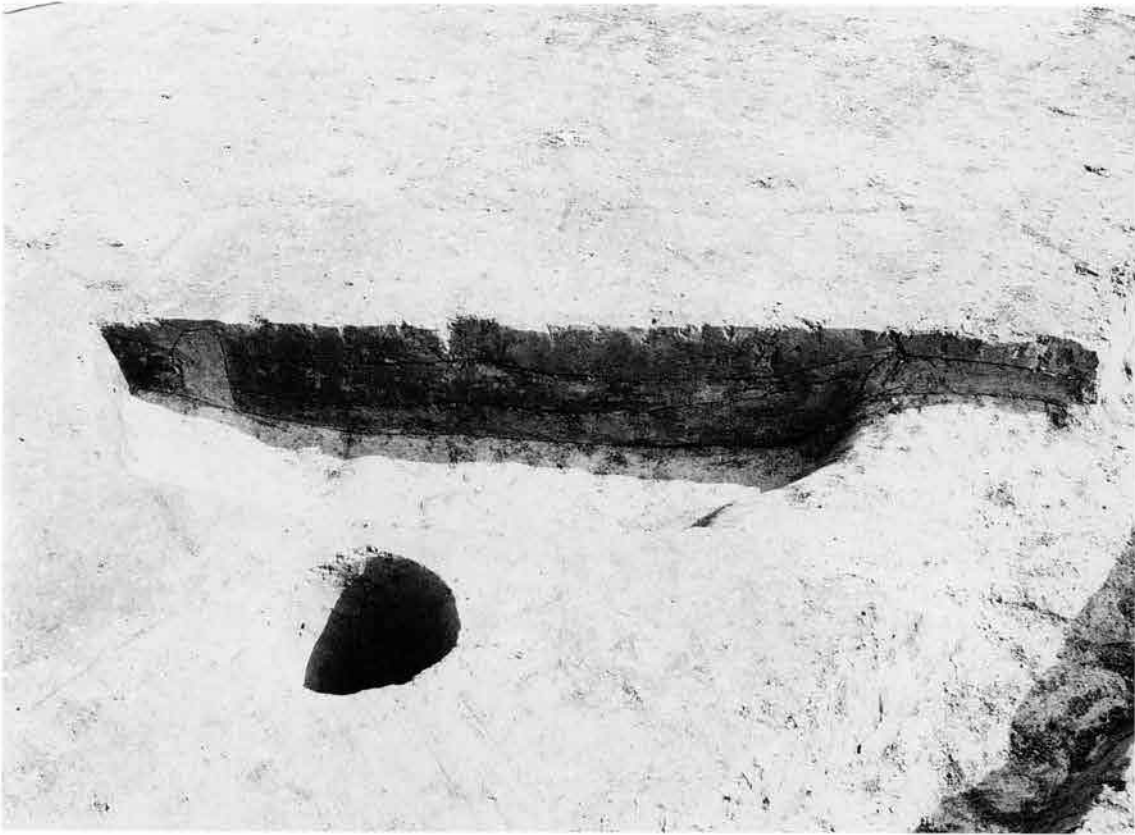




2SK0501完掘状況（北から）



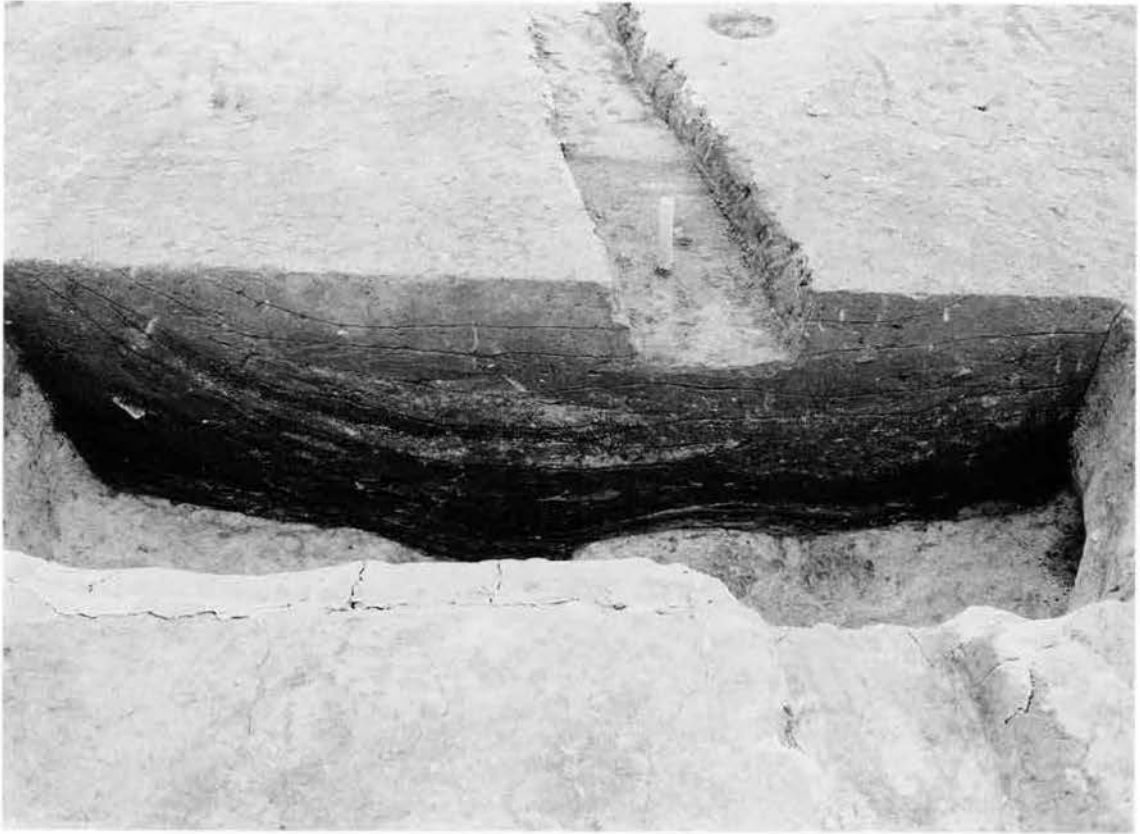
2SK0501完掘状況（西から）



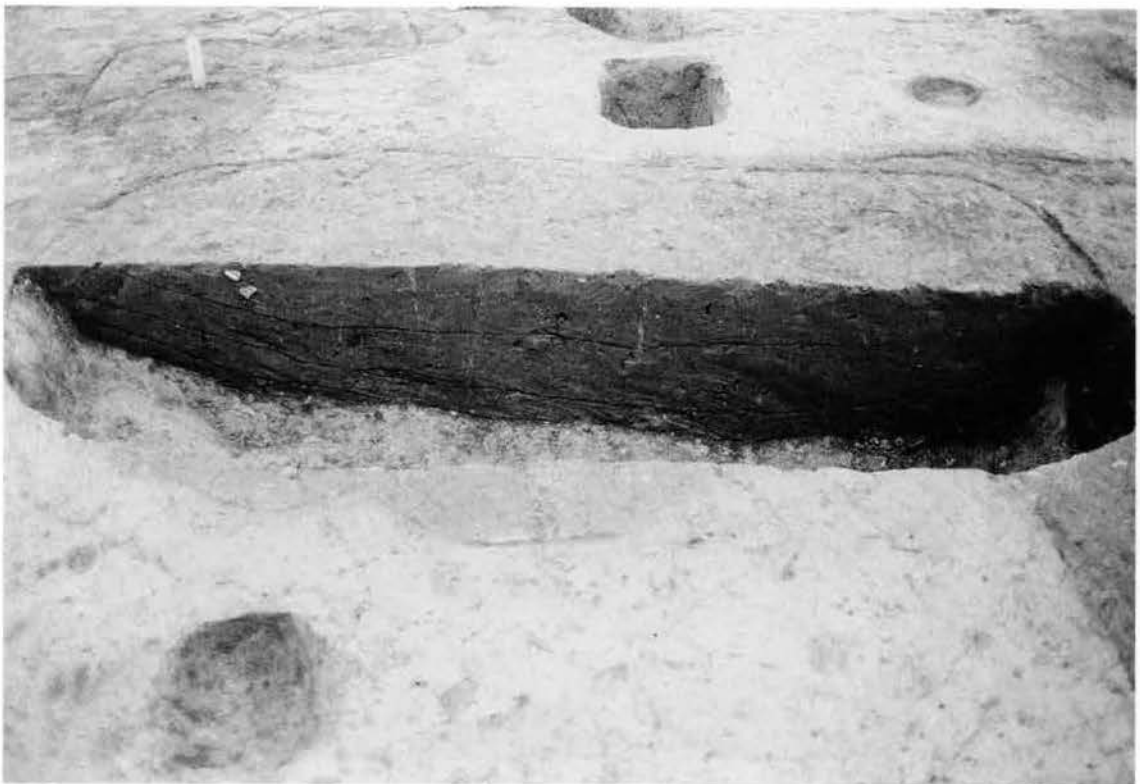
2SK0452土層断面（北西から）



2SK00502完掘状況（東から）



2SK0524土層断面（北から）



2SK0525土層断面（西から）

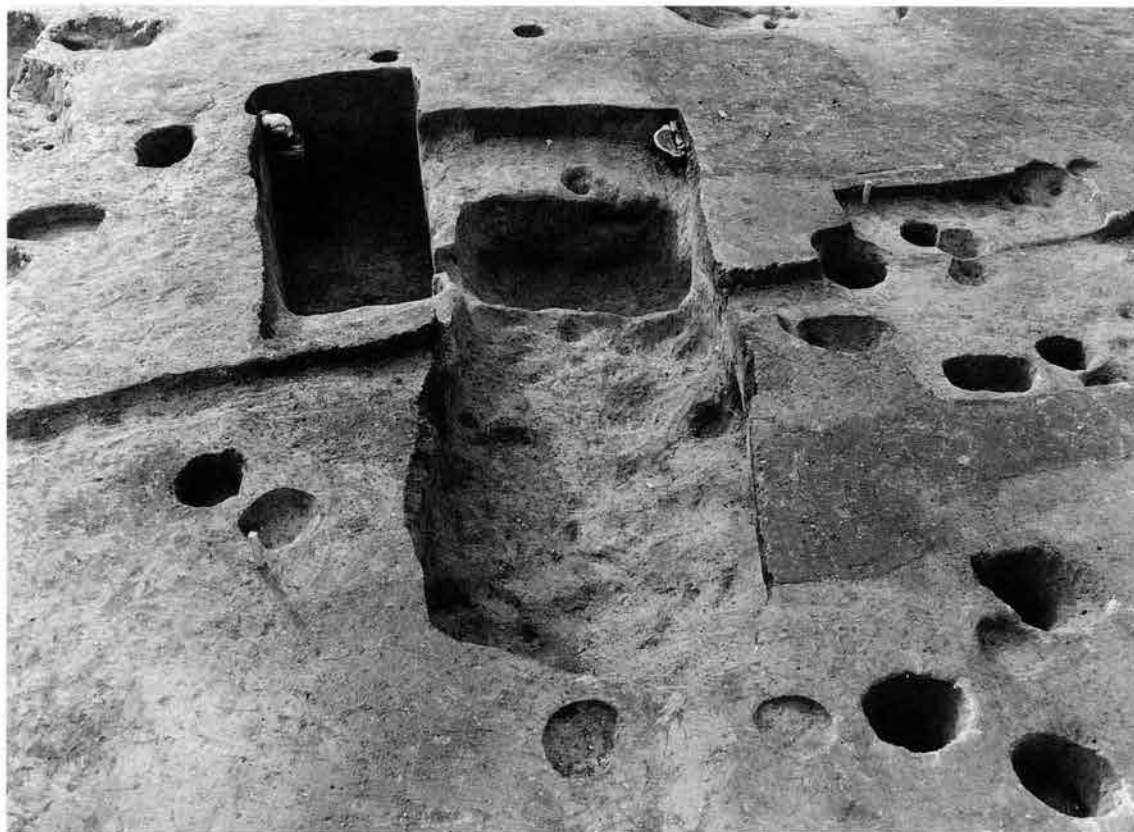


2SK0524完掘状況（西から）



2SK0524完掘状況（北から）





2SK0541完掘状況（東から）



2SK0541完掘状況（南から）

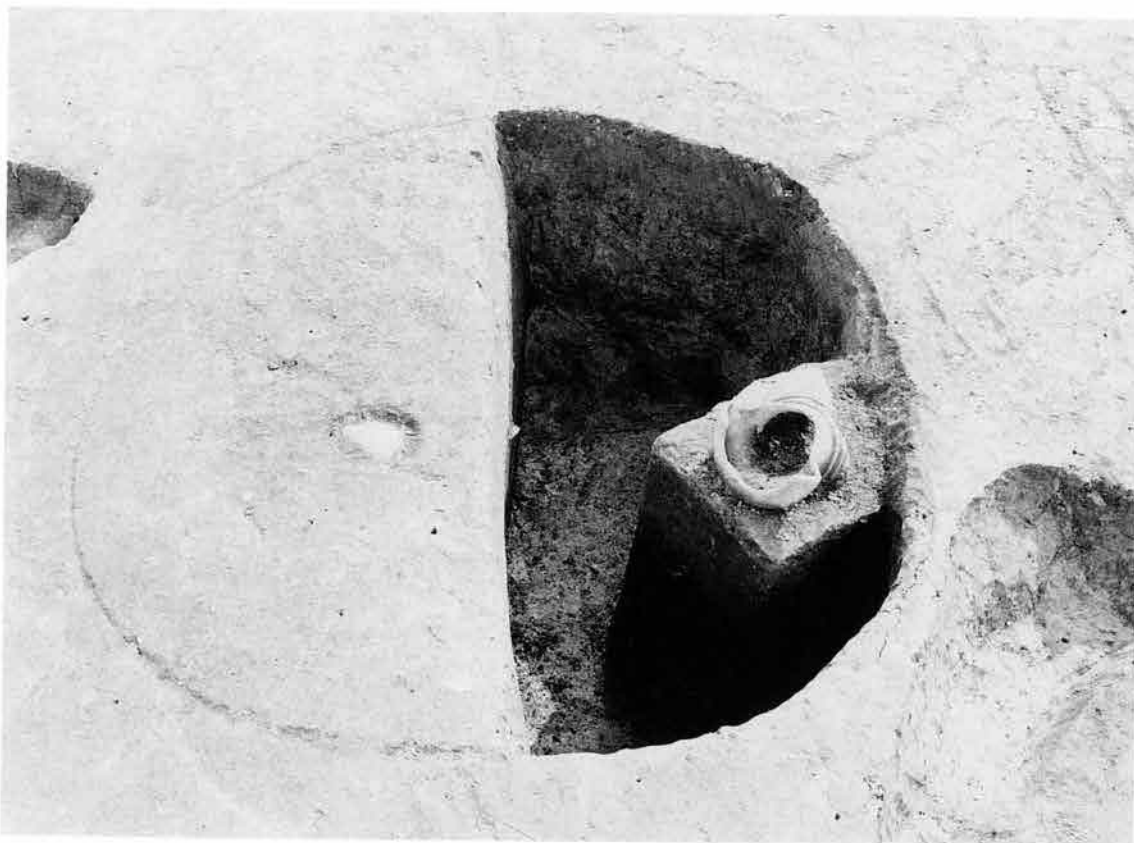


2SK0558土層断面（東から）



2SK0583土層断面（西から）





2SK0583土器出土状況（北から）



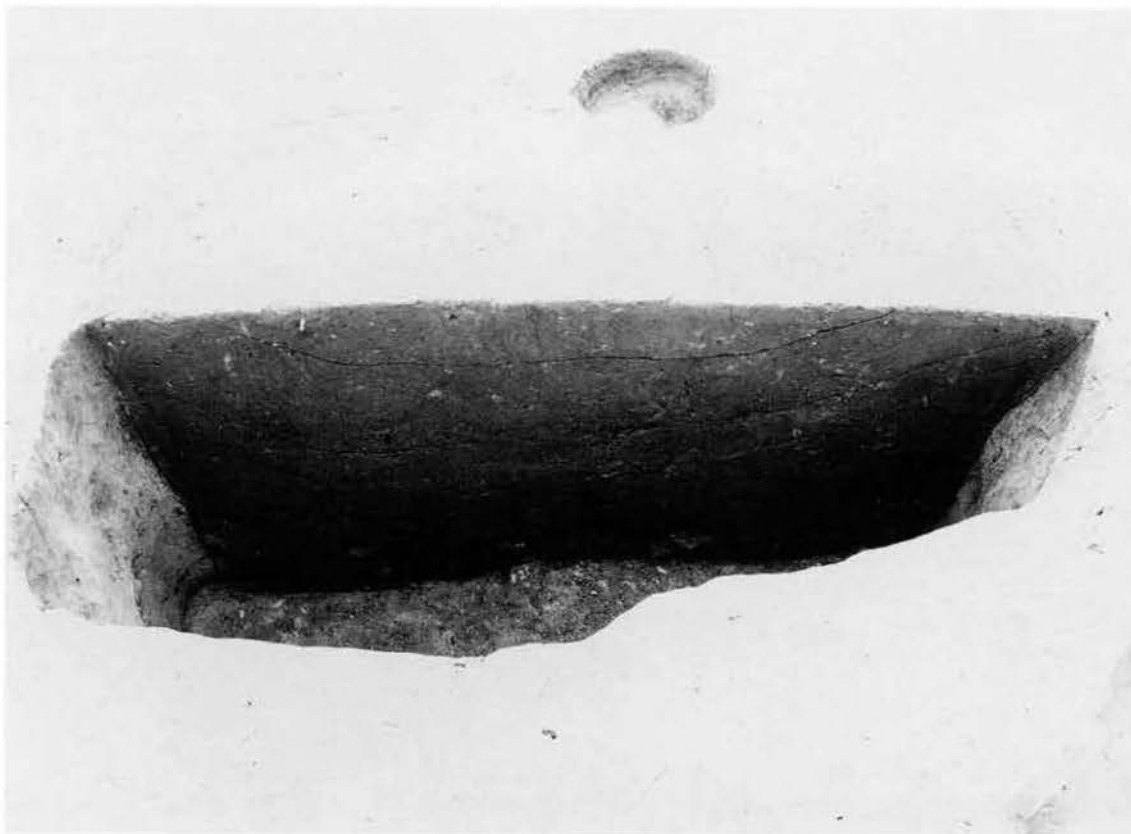
2SK0583土器出土状況（東から）



2SK0583土器出土状況（拡大・東から）



2SK0583土器出土状況（拡大・西から）



2SK0584土層断面（東から）



2SK0597土層断面（東から）

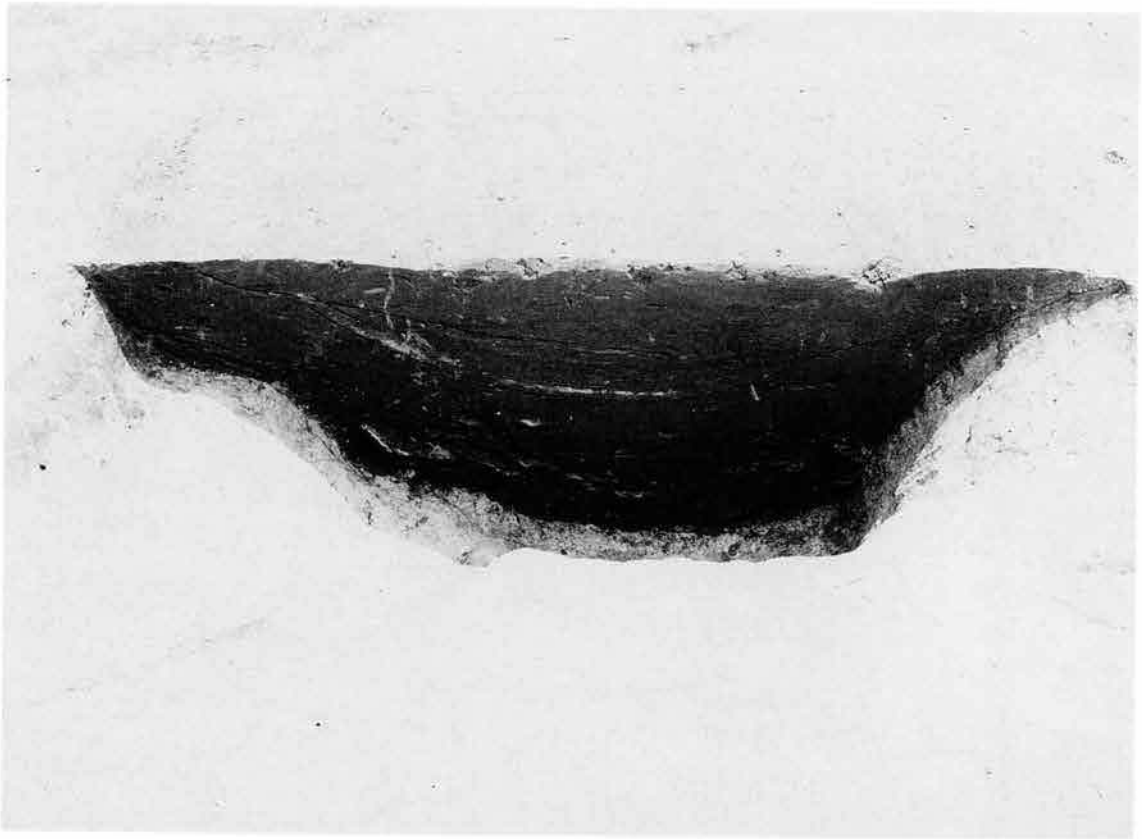


2SK0596完掘状況（東から）

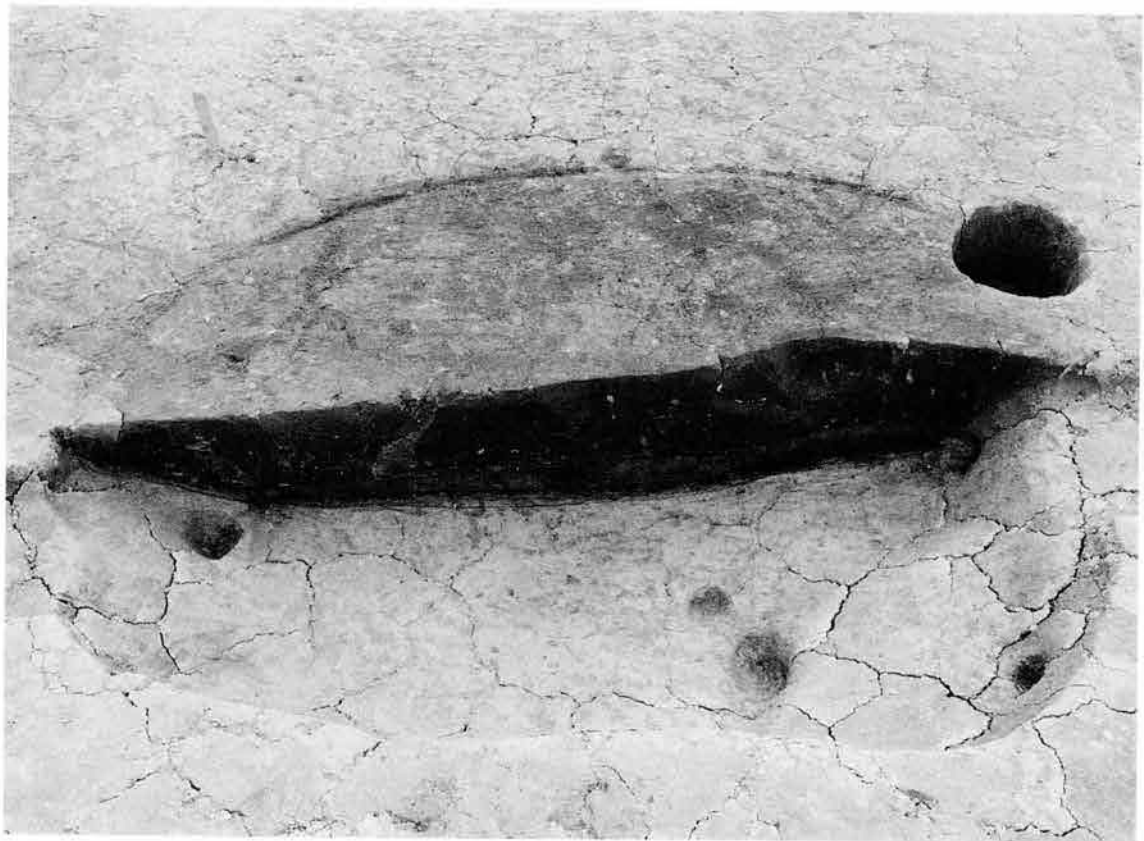


2SK0596完掘状況（北から）





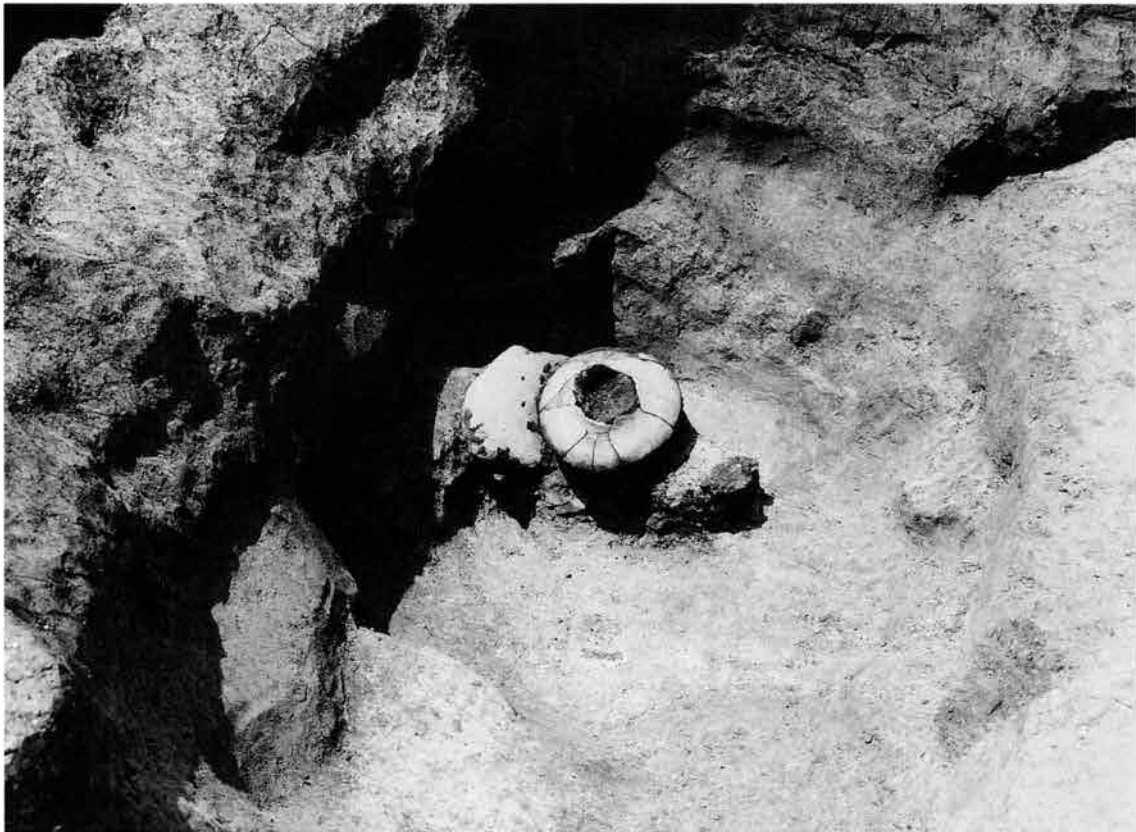
2SK0598土層断面（西から）



2SK2172完掘状況（北から）



2SK0878土器出土状況（東から）

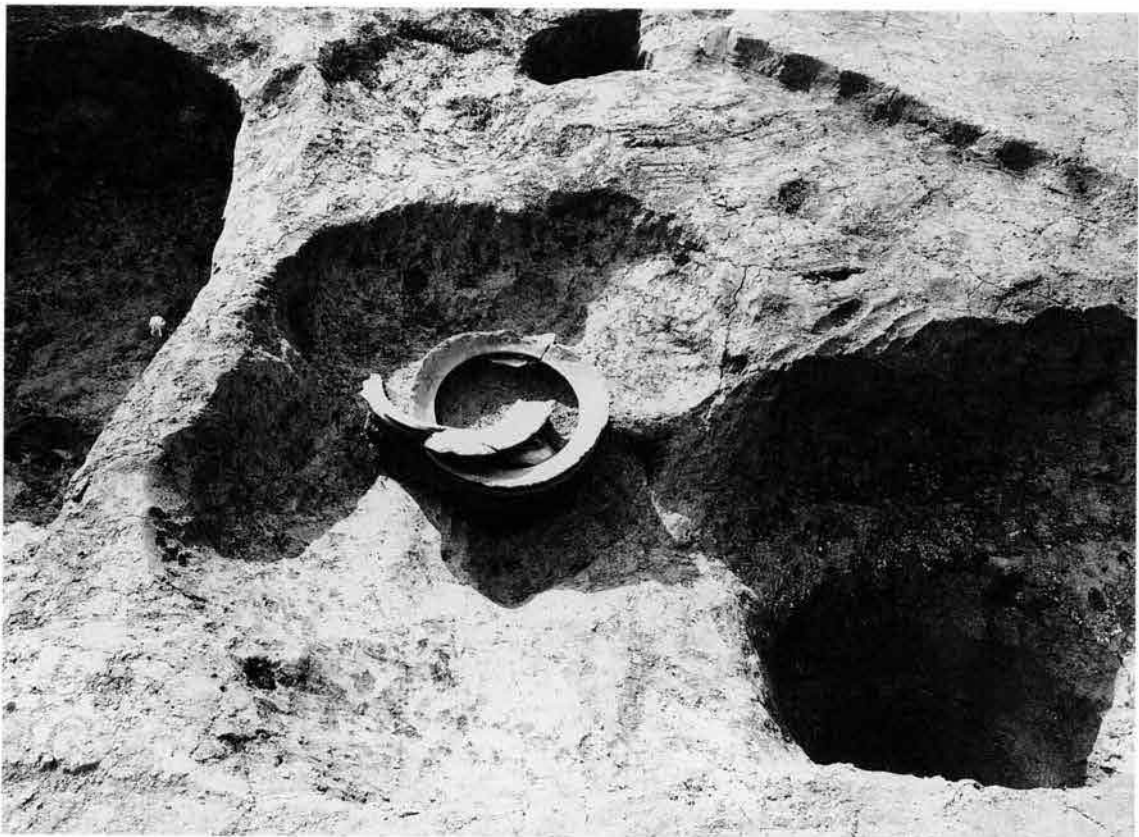


2SK0878遺物出土状況（拡大・東から）





2SK2018土器出土状況（北から）



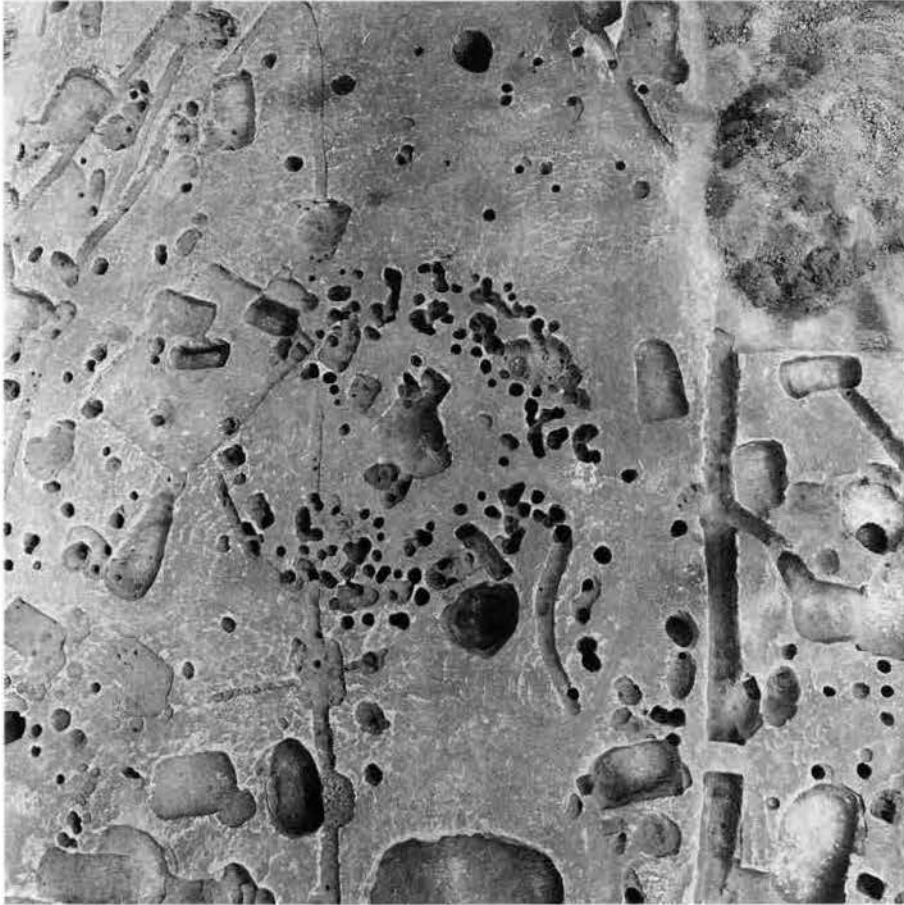
2SK2018土器出土状況（拡大・東から）



2SI0606土層断面（南から）



2SI0608土層断面（南から）

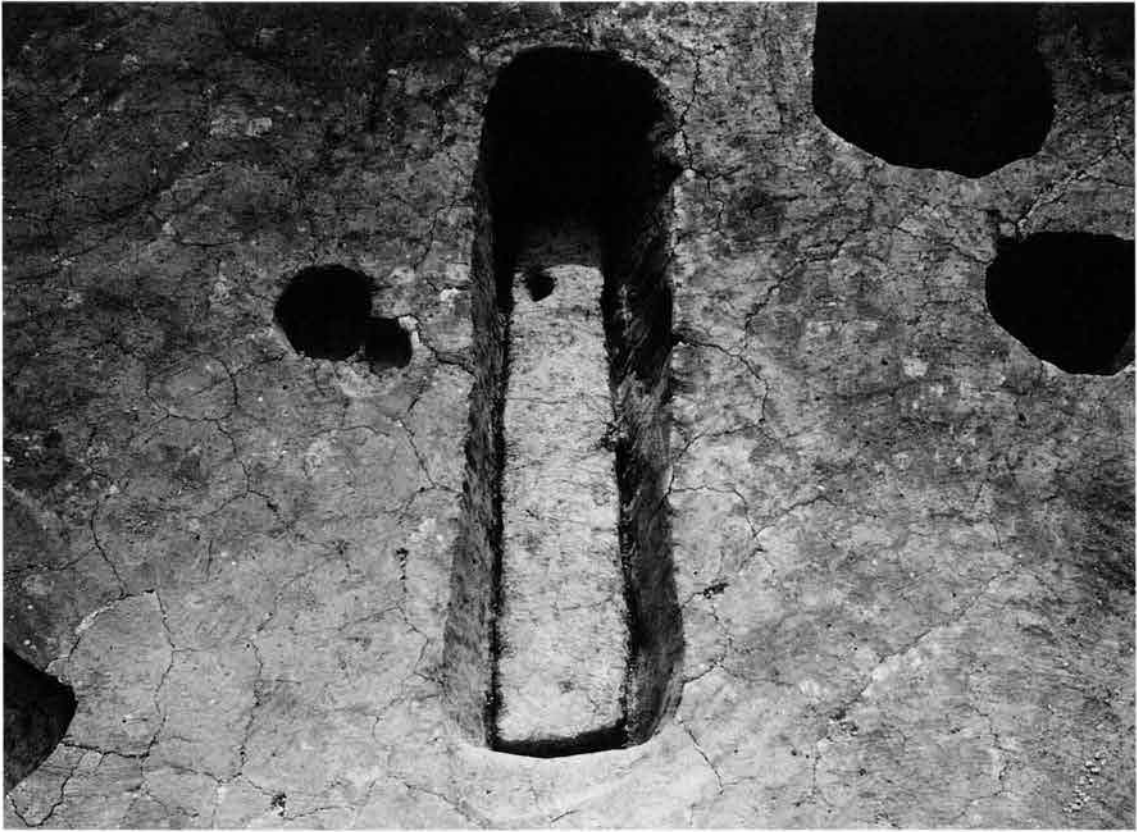


2SI2300・2SI2310  
・2SI0750  
(空中写真・上が北)



2SI0606・2SI0608  
・2SI0609・2SI0688  
(空中写真・上が北)





2ST0612完掘状況（東から）



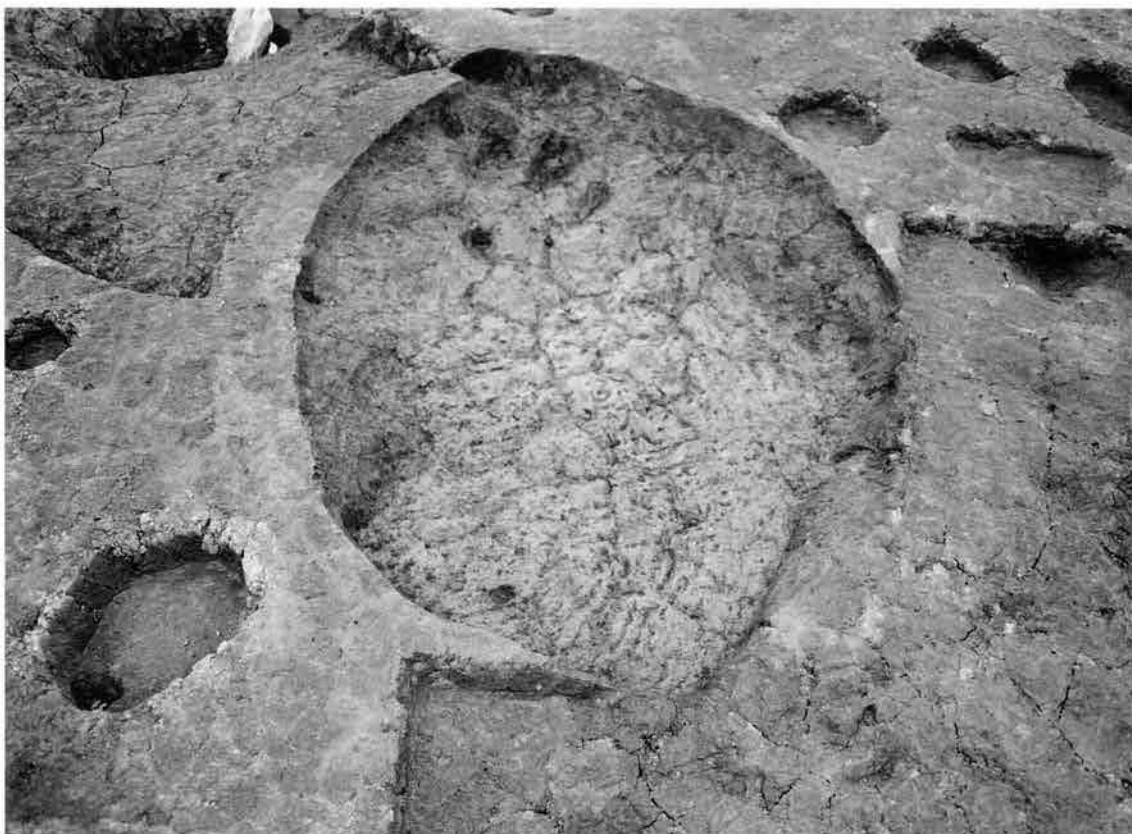
2ST0612完掘状況（北から）



2ST0879甕棺出土状況（東から）



2ST0879甕棺出土状況（北から）



2ST0879掘方完掘状況（西から）



2ST2503甕棺出土状況（西から）





2ST0613土層断面（西から）



2ST0613石蓋出土状況（東から）



2SX0371北ベルト土層断面（東から）



2SX0371東ベルト土層断面（南から）

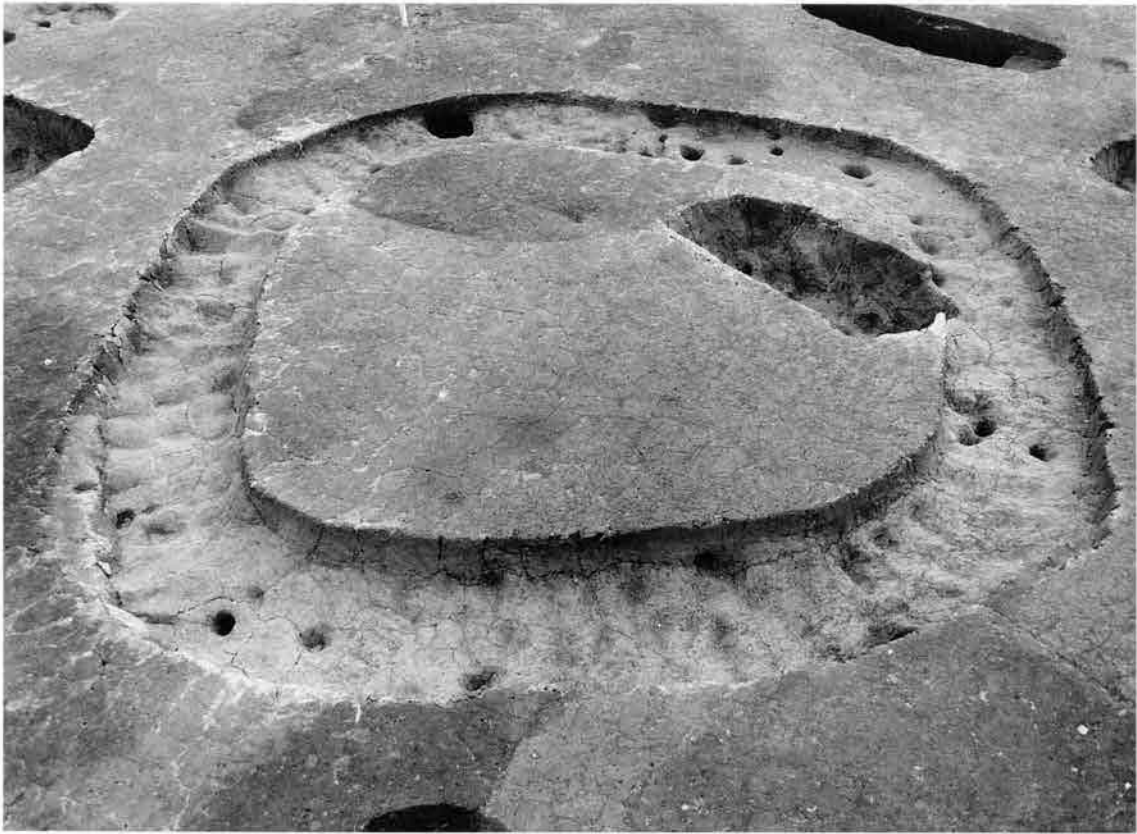


2SX0371南ベルト土層断面（東から）

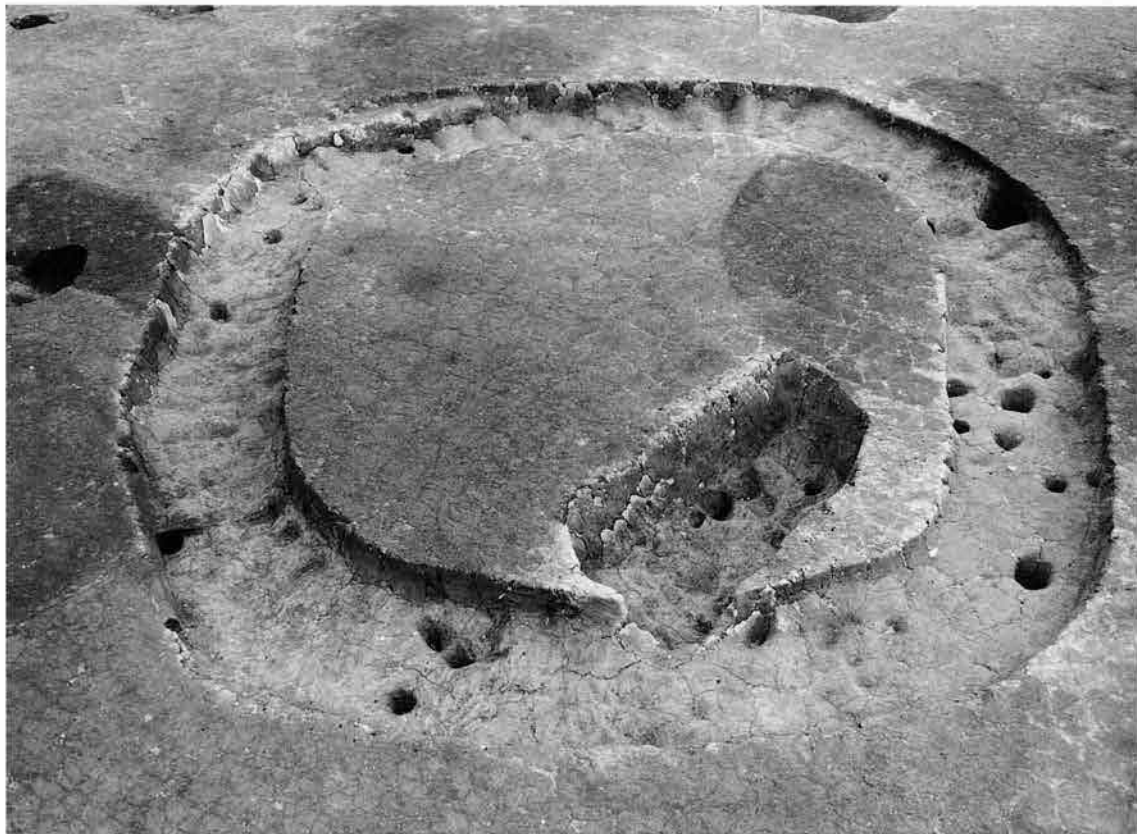


2SX0371西ベルト土層断面（南から）

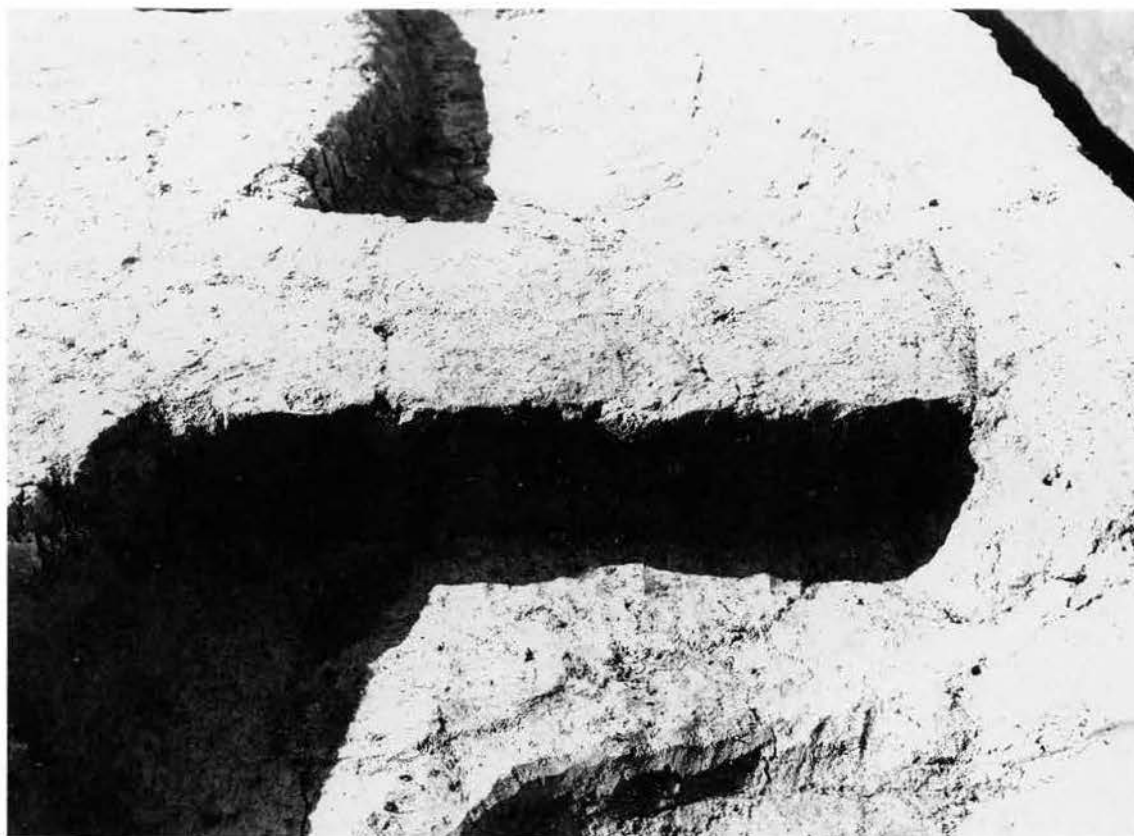




2SX0371完掘状況（北西から）



2SX0371完掘状況（南西から）



2SX0389東ベルト土層断面（北から）



2SX0389西ベルト土層断面（北から）

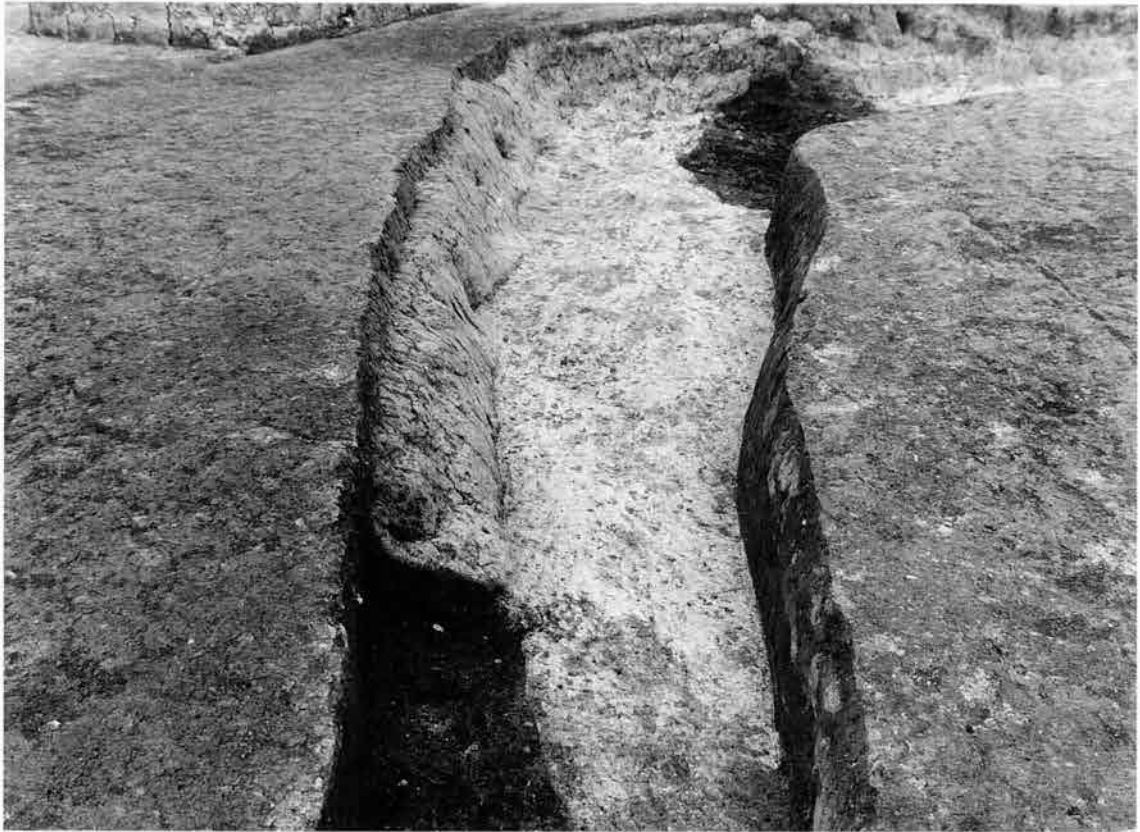




2SD0362完掘状況（西から）



2SD0362完掘状況（東から）



2SD0362屈曲部完掘状況（南から）



2SX2500石組炉出土状況（東から）



47-3



47-17



50-7



47-3



47-18



51-2



47-10



49-8



51-8



47-10



49-21



51-24



47-15



49-24



51-24



51-29



54-1



55-25



54-2



55-29



51-11



54-8



55-31



52-18



55-18



53-27



55-20



55-35



53-33



55-24



56-2





56-7



59-5



61-1



57-2



59-6



61-4



58-18



60-1



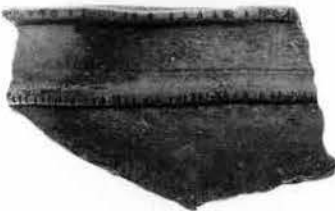
62-1



58-19



58-20



60-2



59-4



60-5



62-4





63-1



63-12



65-4



66-4



63-4



65-1



66-5



63-13



65-2



66-6



64-5



65-3



67-1



67-2



69-1



70-2



67-3



69-2



72-1



67-4



69-3



72-2



68-3



69-4



68-4



70-1



72-3



76-7



79-2



74-1



77-1



79-3



74-2



78-1



79-4



75-1



79-1



79-5



81-4

79-8



82-3



79-6



79-9



82-4



79-7



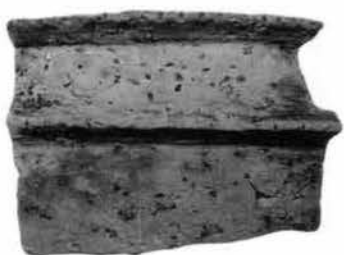
79-10



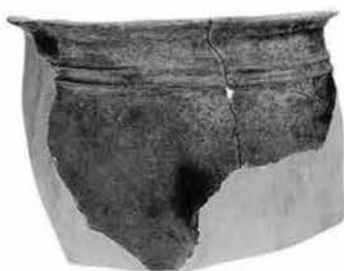
80-2



82-5



82-7



83-7



83-3



83-8 (表)



83-10



83-4



83-8 (裏)



83-11



83-5

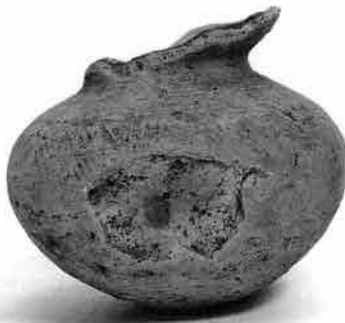


83-6



84-3





88-11



88-3



85-1



85-5



88-4



88-5



85-3



86-1



88-12



87-1



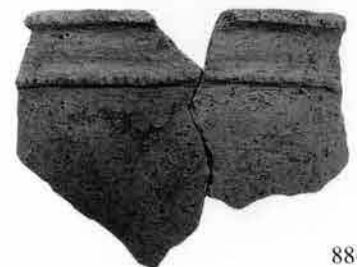
88-17



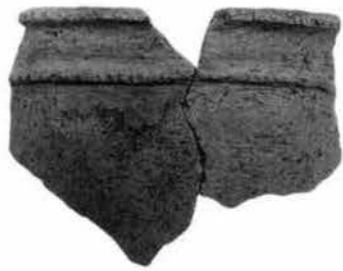
854



87-2



88-20



89-18



89-22



89-28



89-19



89-23



89-31



89-20



89-24



89-32



89-21



89-26



90-2



89-27



90-3



90-4



91-6



94-1



96-7



94-2



96-8



92-4



94-4



93-2



96-9



92-3



95-2



96-11



97-11



98-9



98-5



97-2



98-10



98-11



98-17



97-3



98-12



97-4



98-13



98-18



97-6



98-14



99-2



99-3



99-4



100-5



101-4



100-1



100-7



101-5



100-2



100-8



100-9



101-5



100-3



101-2



101-6



100-4



101-3



101-11





101-12



102-7



106-3



102-2



105-1



106-6



102-4



105-2



107-1



102-5



106-1



106-2



107-3



107-4



110-1



107-5



110-2



111-12



107-7



110-7



111-13



107-7



110-8



111-15



108-2



111-11



111-16



111-17



112-6



115-1



111-18



113-1



115-4



111-19



114-1



115-5



112-1



114-2



115-6



112-2



114-3



116-1



116-2



120-11



121-9



116-3



117-3



121-10



119-1



120-13



122-2



119-3



119-10



120-14



122-3



122-4



123-7



124-1



123-1



123-8



124-2



123-3



123-9



124-6



123-4



124-7



123-5



123-10



124-7





124-8



125-14



125-6



124-9



125-15



125-7



125-15



124-11



124-10



125-8



125-16



125-1



125-11



125-3



125-18

Pla.120



125-20



128-2



129-7



125-23



128-2



129-14



129-3



126-1



129-4



129-15



128-1



129-5



129-16



130-23



131-1



131-9



131-2



130-24



131-5



131-10



131-15



130-26



131-6



131-16



130-28



131-8



132-1



132-3



132-14



134-5



132-8



134-6



132-9



132-16



134-7



132-10



133-1



133-2



134-11



132-11



134-4



134-12



136-1



136-6



136-7



137-1



137-2



137-3



138-1



138-2



138-3



138-4



138-5



138-6



138-7



138-8



138-9





138-10



139-6



141-2



139-1



139-7



141-6



139-2



142-2



139-3



140-9



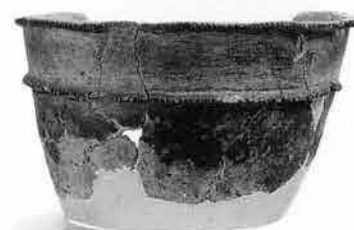
142-3



139-5



140-10



142-4



143-1



145-5



143-4



144-3



145-6



146-1



144-3ポジモデリング



146-2



144-1



145-3



147-3



144-2



145-4



147-4



147-8



148-4



149-11



148-2



148-5



150-2



148-2



148-6



150-7



149-9



148-3



149-10



151-3



151-4



154-2



155-1



151-5



154-3



155-11



151-6



154-4



155-13



152-2



154-6



155-14



155-15



159-1



161-4



155-16



159-3



162-1



156-17



162-2



157-1



160-4



162-5



157-2表



160-5



157-2裏



162-6





162-7



164-3



165-1



165-2



163-1



164-9



166-1



163-5



163-8



164-13



166-5



167-1



167-2



167-5



168-1



168-3



168-5



168-6



169-7



169-8



170-1



170-2



170-3



170-5



171-7



171-14



173-10



171-9



173-1



173-11



171-11



173-3



175-1



171-12



173-4



176-1



171-13



173-5



176-2



176-6



178-2



179-2



167-7



178-3



179-3



176-8



179-1



179-5



176-10



178-1



179-2



179-6



180-1



180-10



182-7



180-1



181-1



182-9



181-3



181-3



183-12



180-6



182-1



182-3



184-1



180-7



182-4



184-2





192-3

188-9



193-1

189-1



185-2



189-2



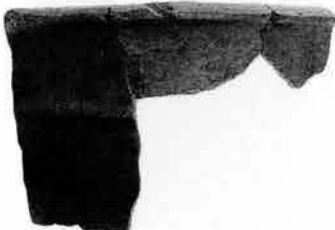
193-3



187-6



195-3



188-1



190-1



188-3



192-1



196-1



196-2



197-2



196-3



198-1



198-3



198-2



196-5



197-1



199-6



199-7



199-9



202-1



207-1



200-2



203-1



207-5



201-1



201-2



203-4



208-1



202-1



206-1



208-3



209-5



210-1



212-2



209-7



211-2



209-10



213-1



209-15



211-5



213-2



209-19



212-1



213-3



215-3



219-1



223-1



223-4



215-3



220-2



223-10



215-4



222-4



223-13



217-1



222-5



223-14



223-15





223-22



223-33



225-10



223-34



225-11



225-1



225-13



225-12



223-23



223-31



225-5



227-38



223-32



225-6



225-8



228-1



228-2



230-1



234-3



230-2



234-4



229-1



230-3



235-9



231-2



229-2



233-2



236-1



51-12



51-13



52-12



52-13



52-14



52-15



52-16



52-20



52-26



54-15



57-17



59-13



62-8



63-14



63-15



51-12



51-13



52-12



52-13



52-14



52-15



52-16



52-20



52-26



54-15



57-17



59-13



62-8



63-14



63-15



67-5



69-6



69-5



70-3



70-4



70-5



70-6



73-2



73-4



75-2



75-3



75-4



75-5



75-6



76-1



76-2



76-4



76-10



76-11



81-1



81-2



82-1



83-15



83-12



83-13



83-14



67-5



69-6



69-5



70-3



70-4



70-5



70-6



73-2



73-4



75-2



75-3



75-4



75-5



75-6



76-1



76-2



76-4



76-10



76-11



81-1



81-2



82-1



83-15



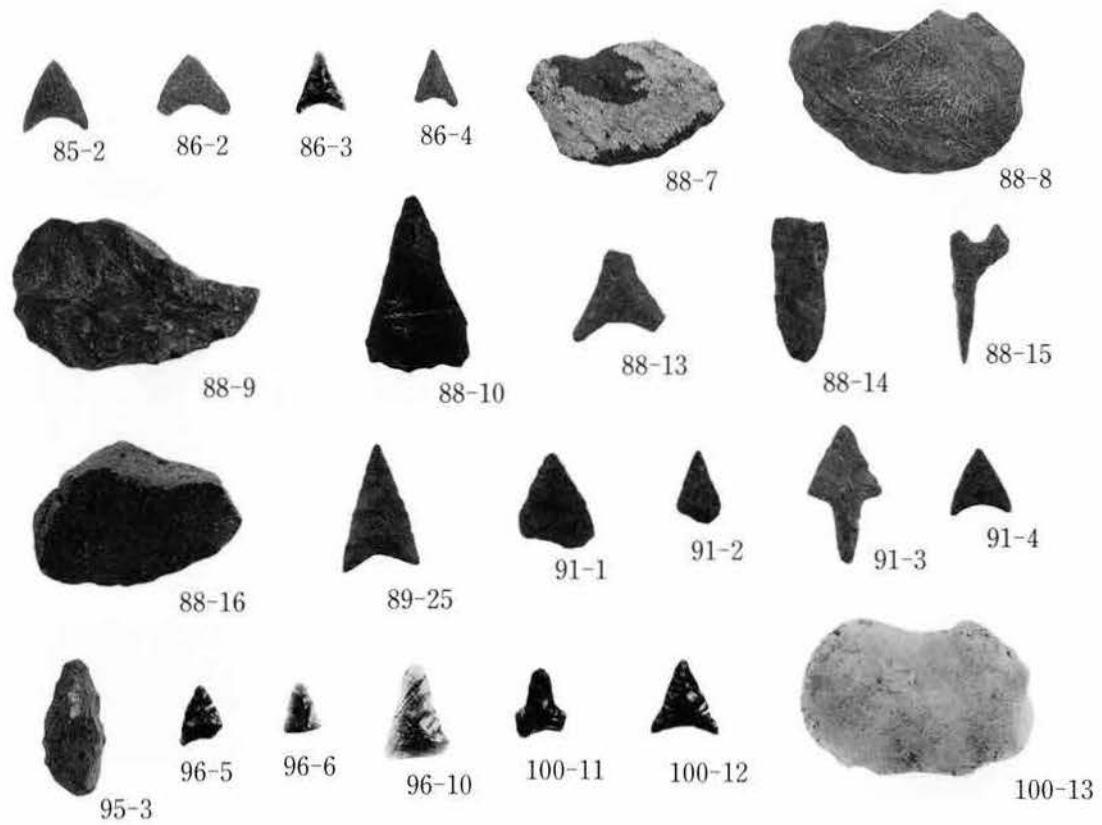
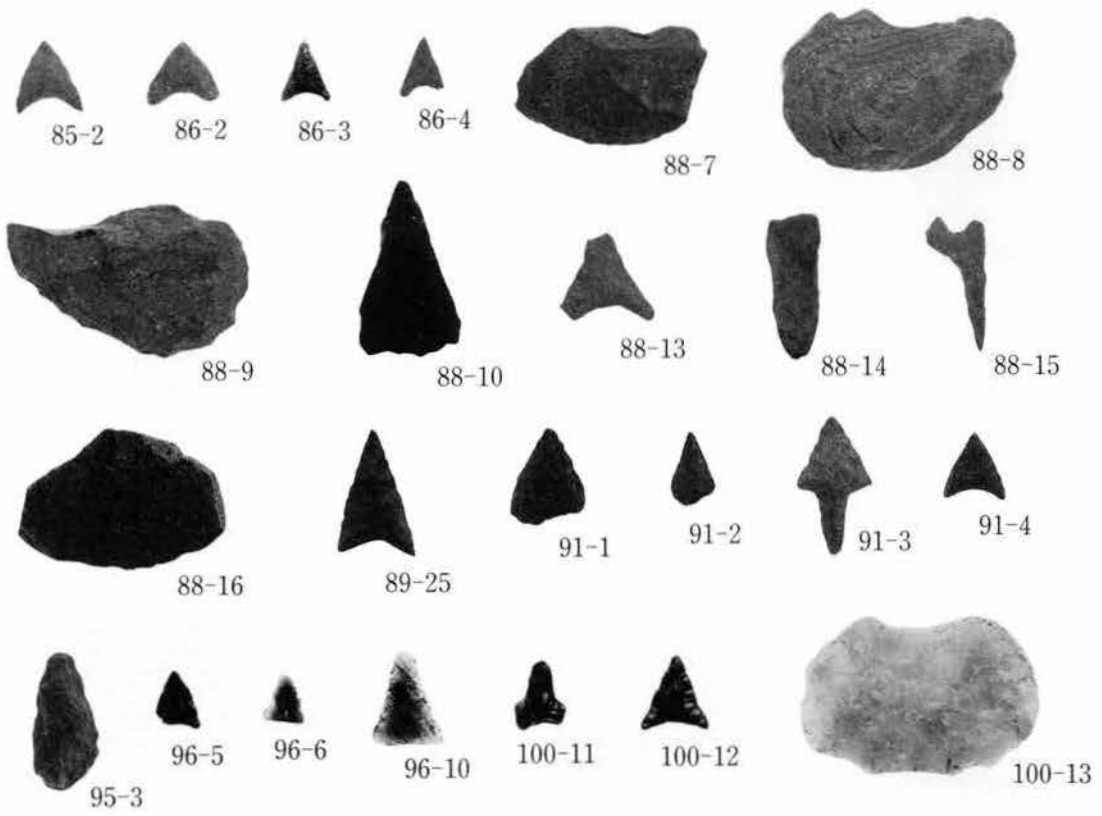
83-12



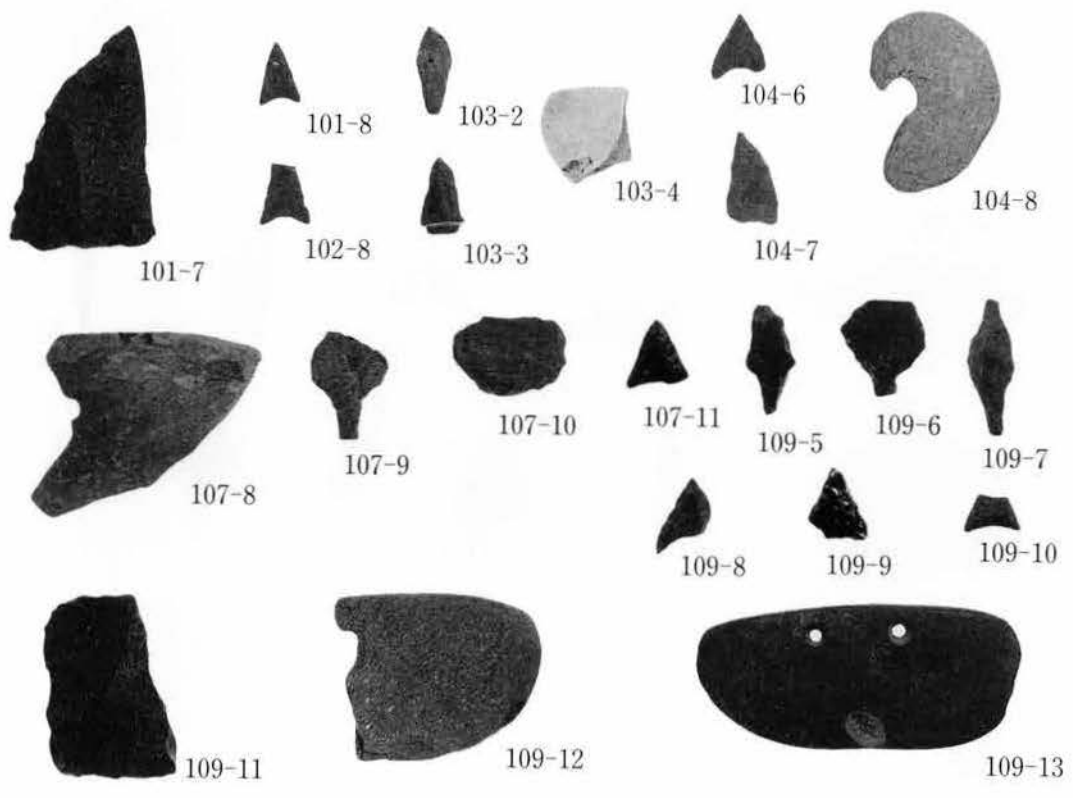
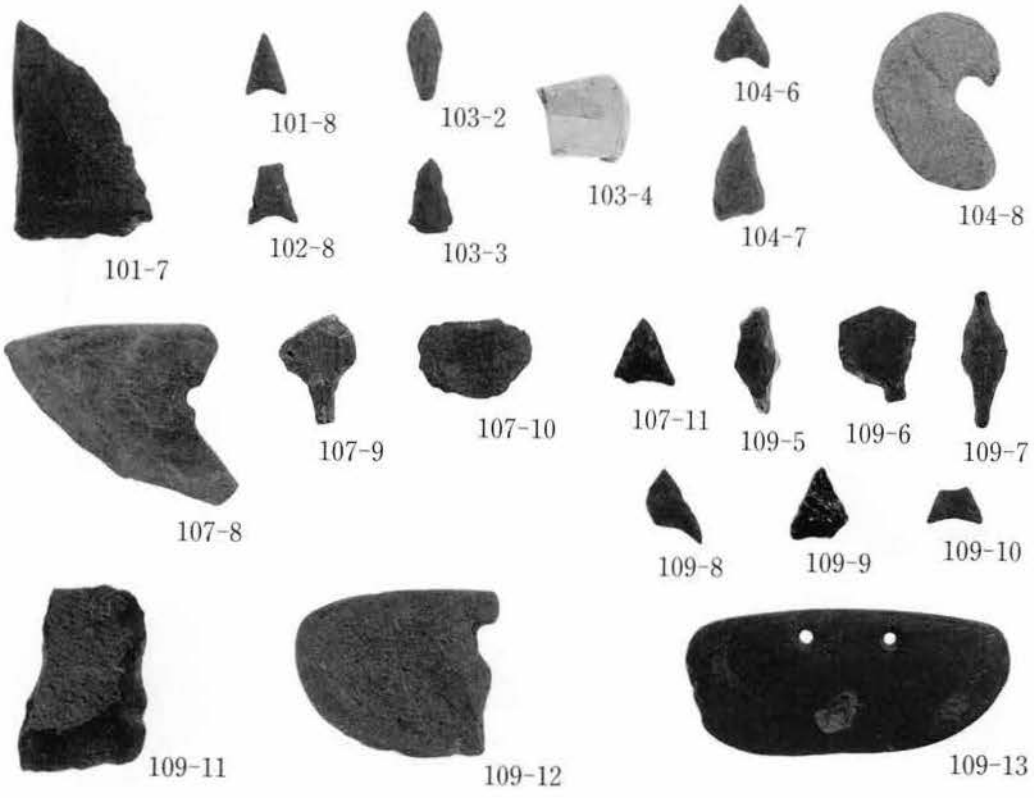
83-13

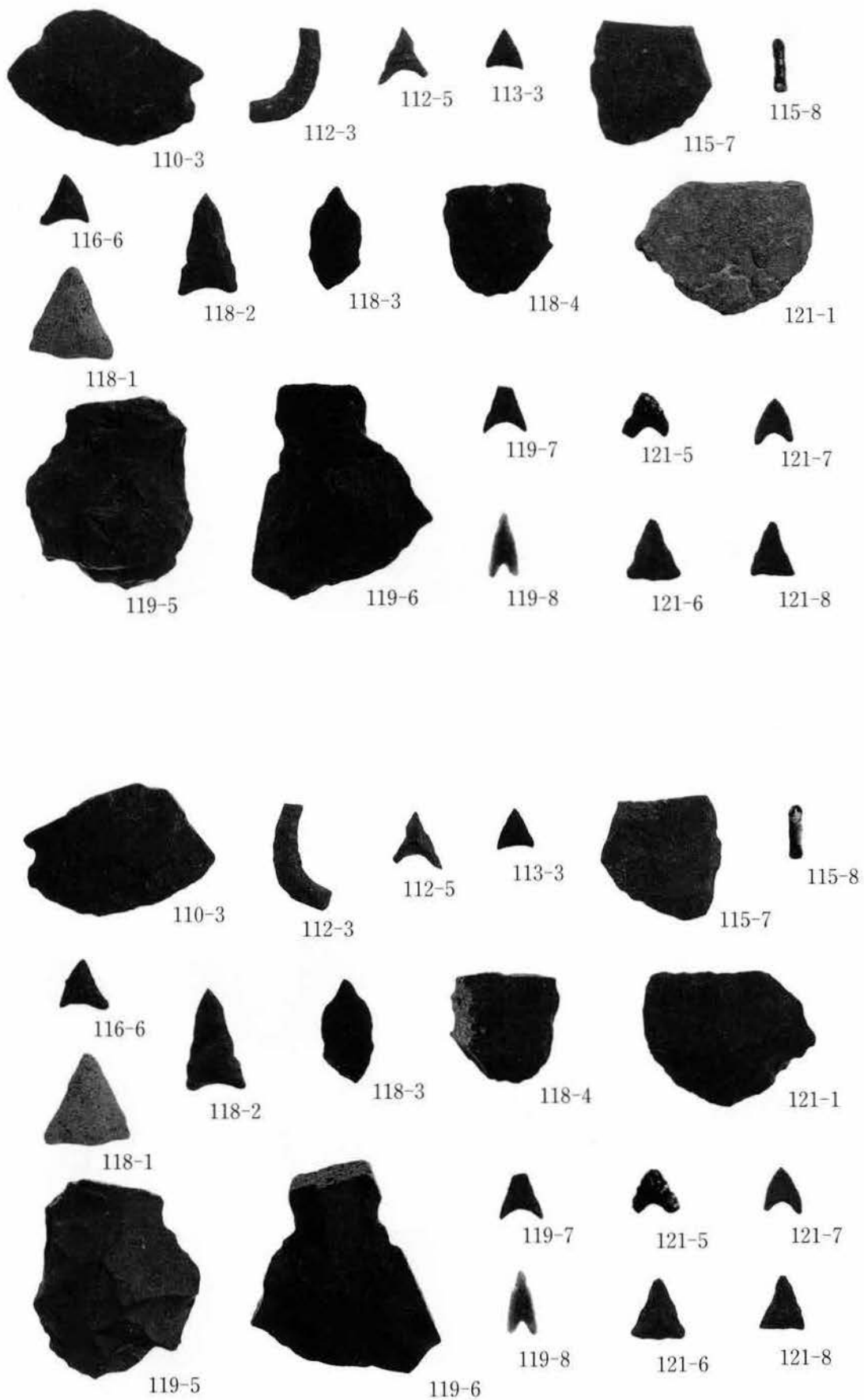


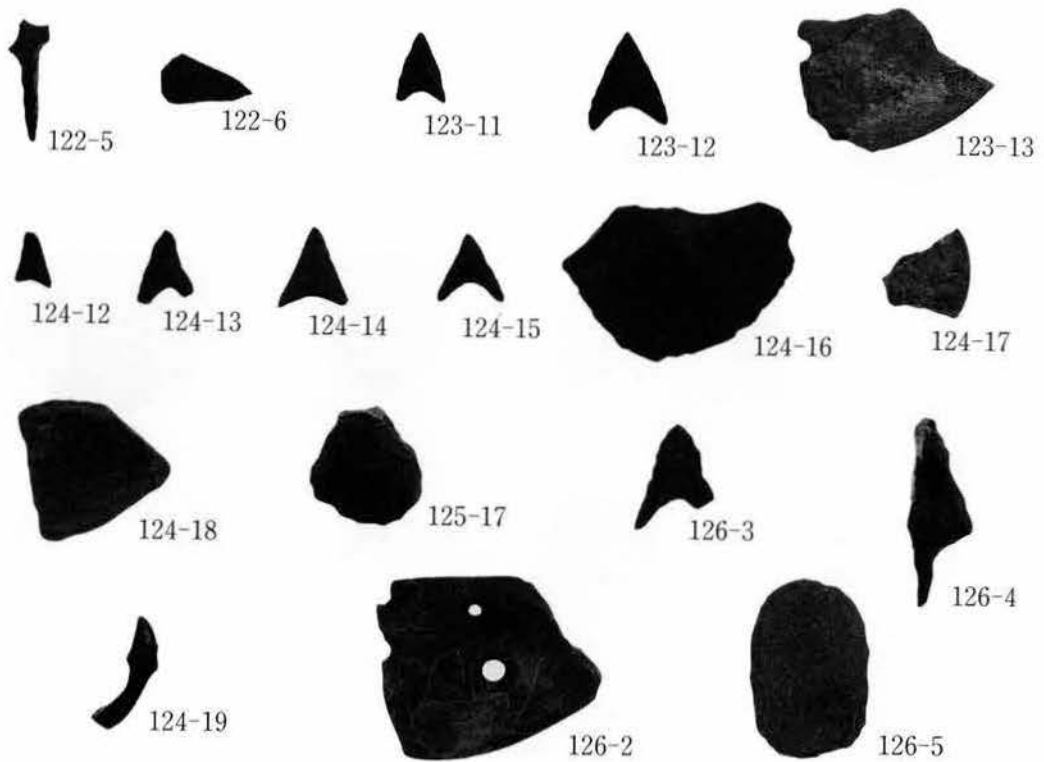
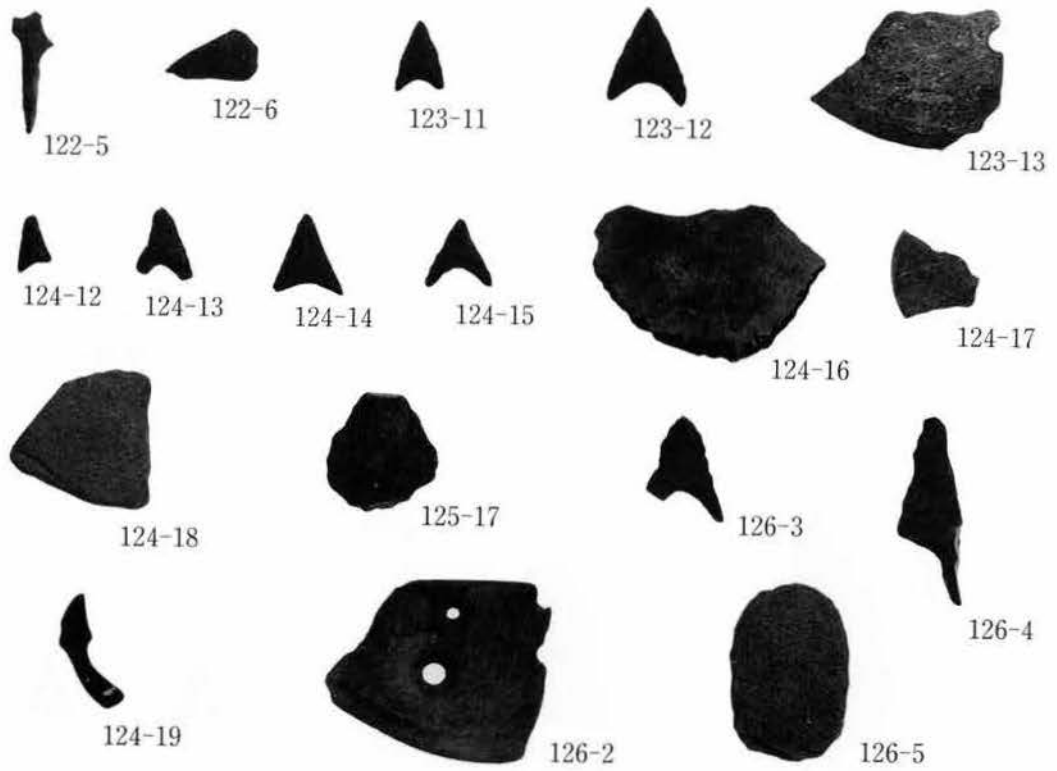
83-14

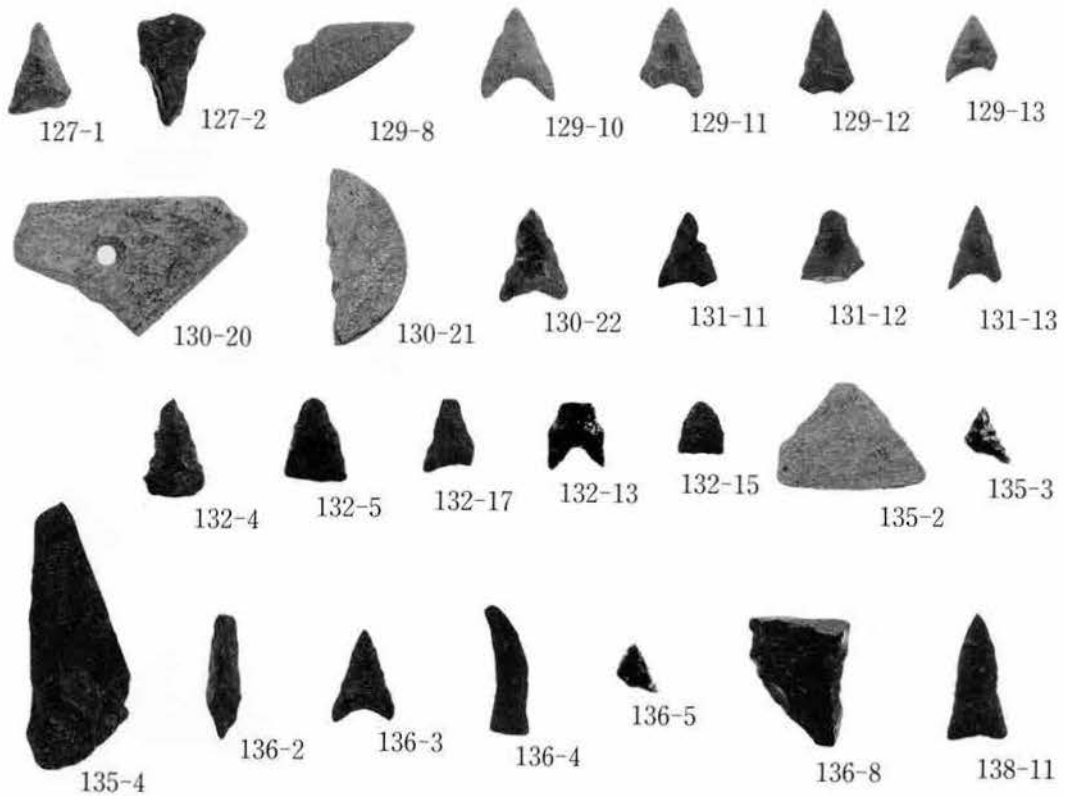
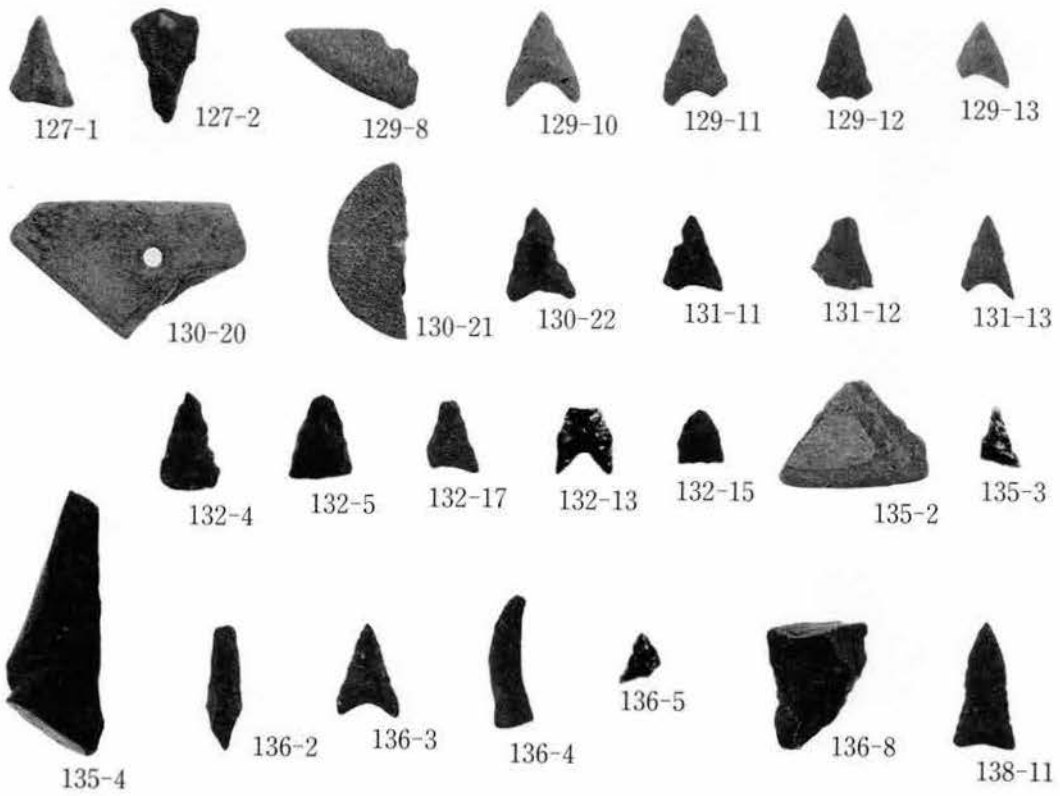


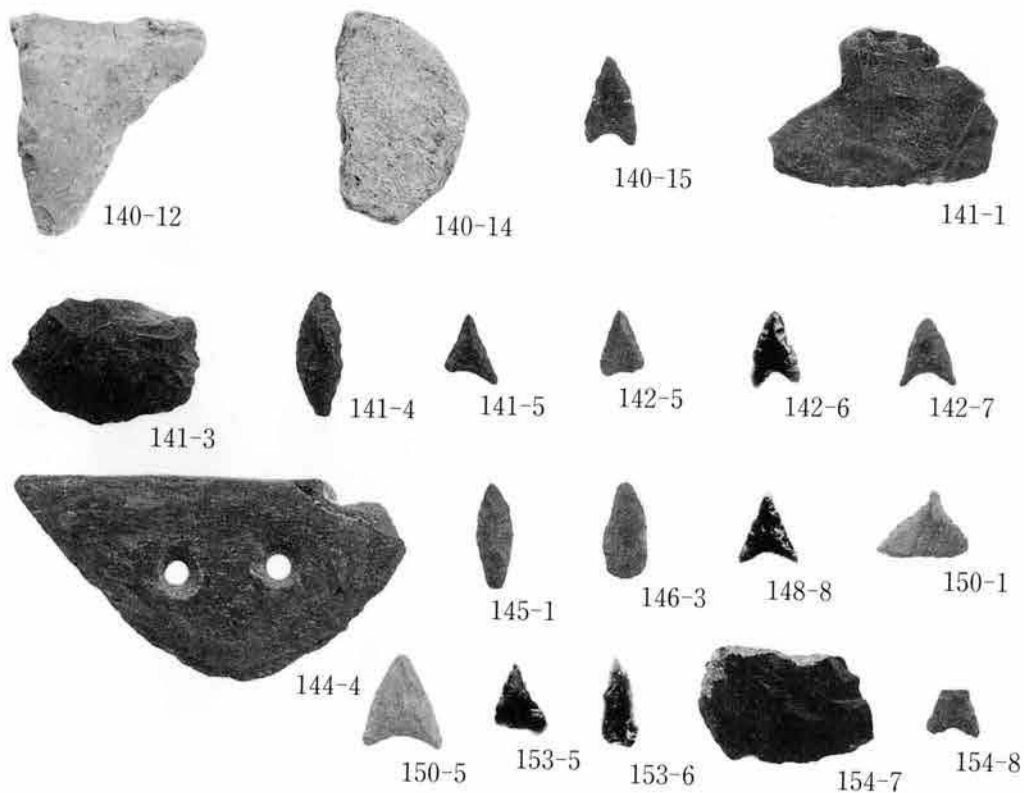
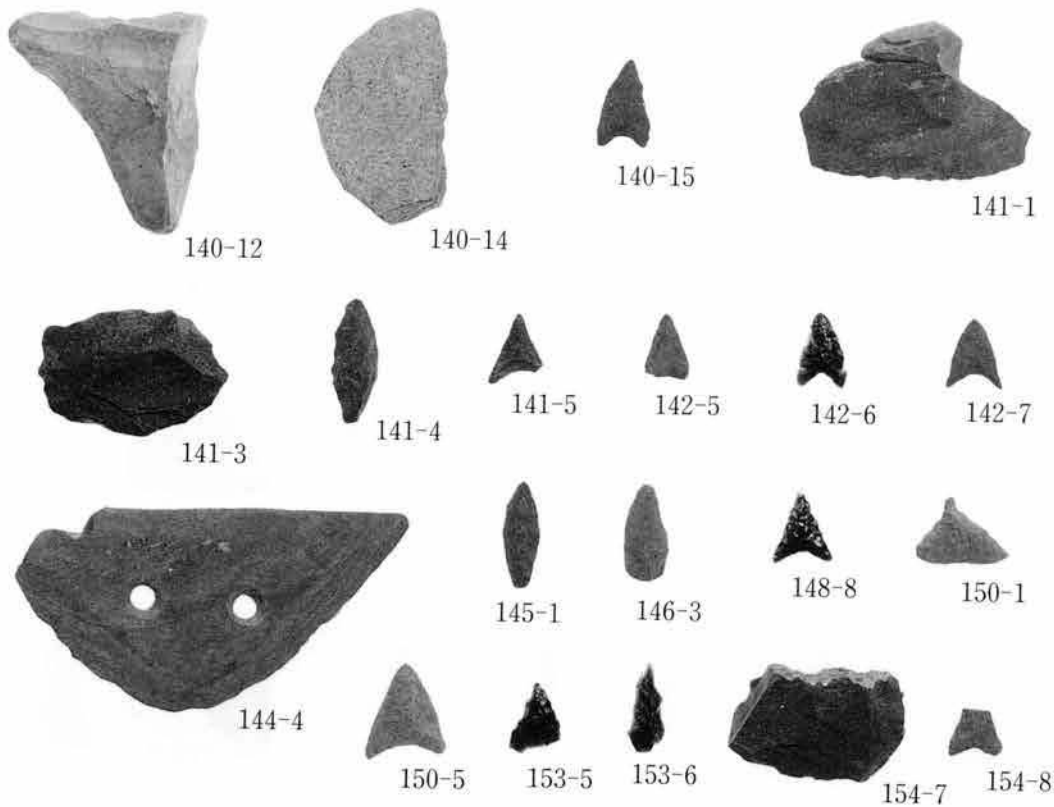




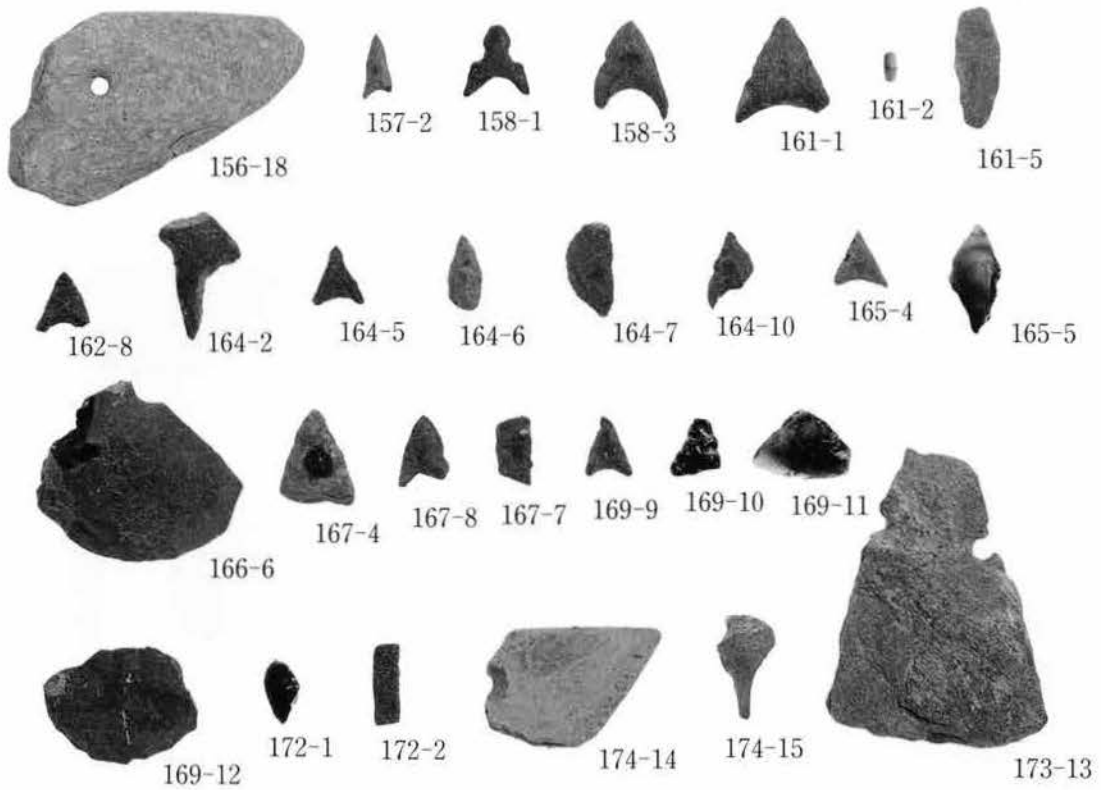
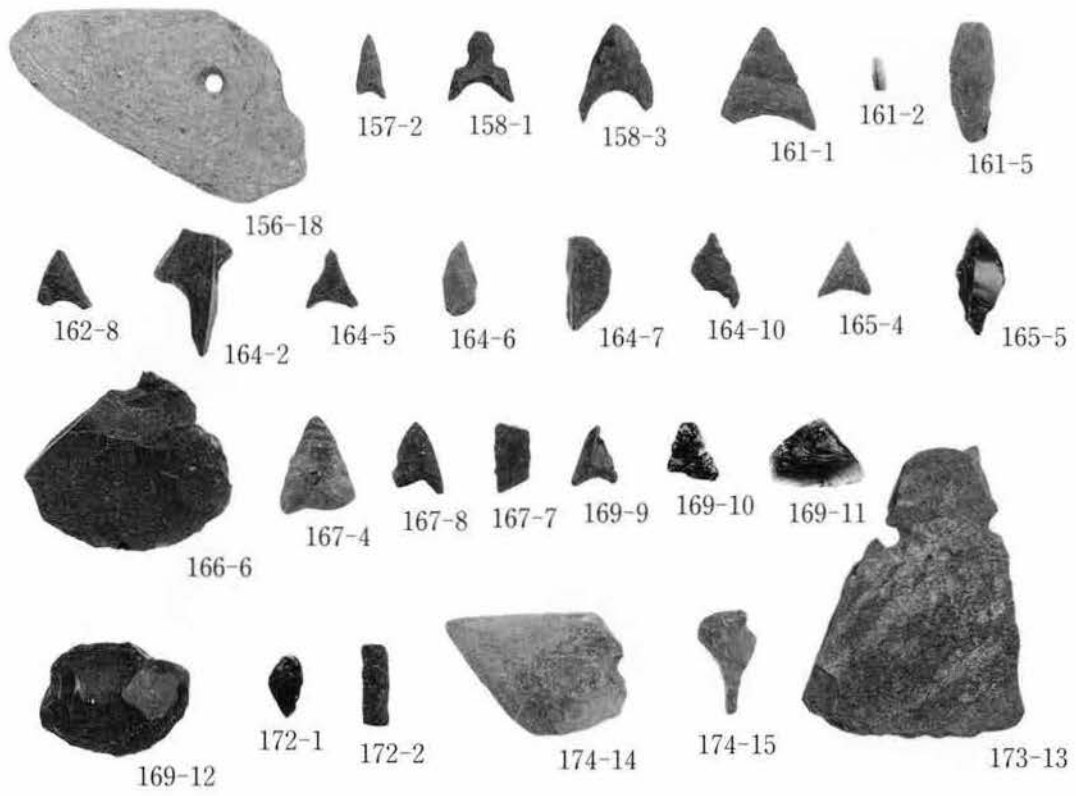


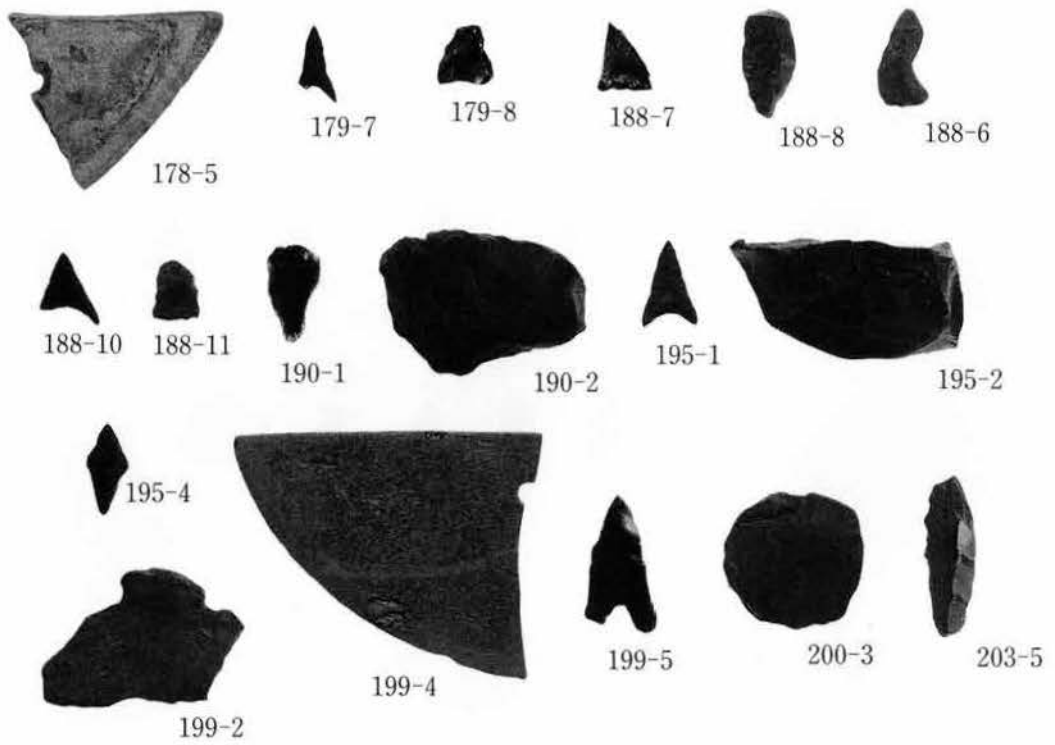
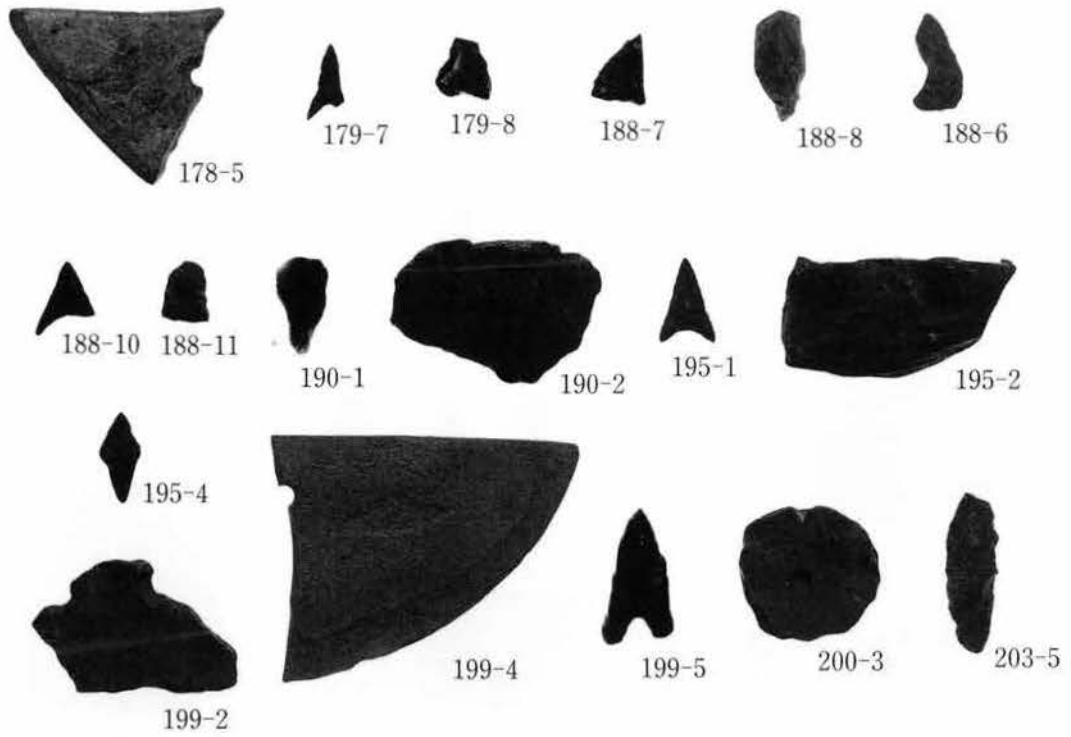


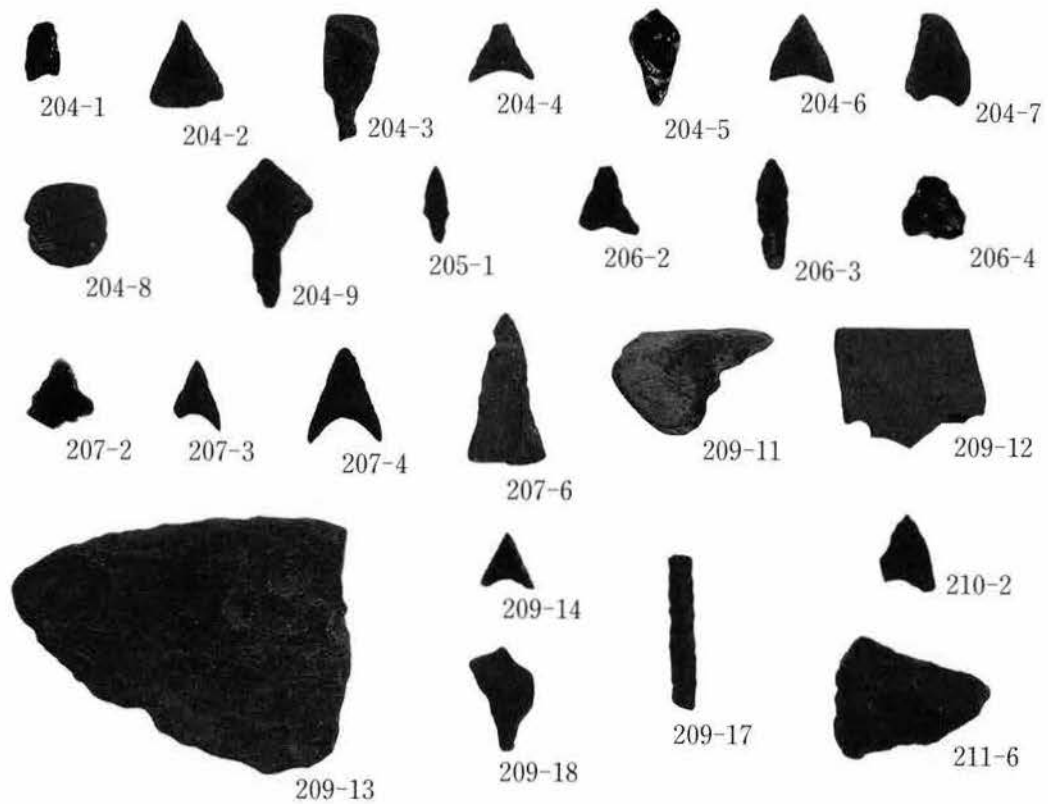
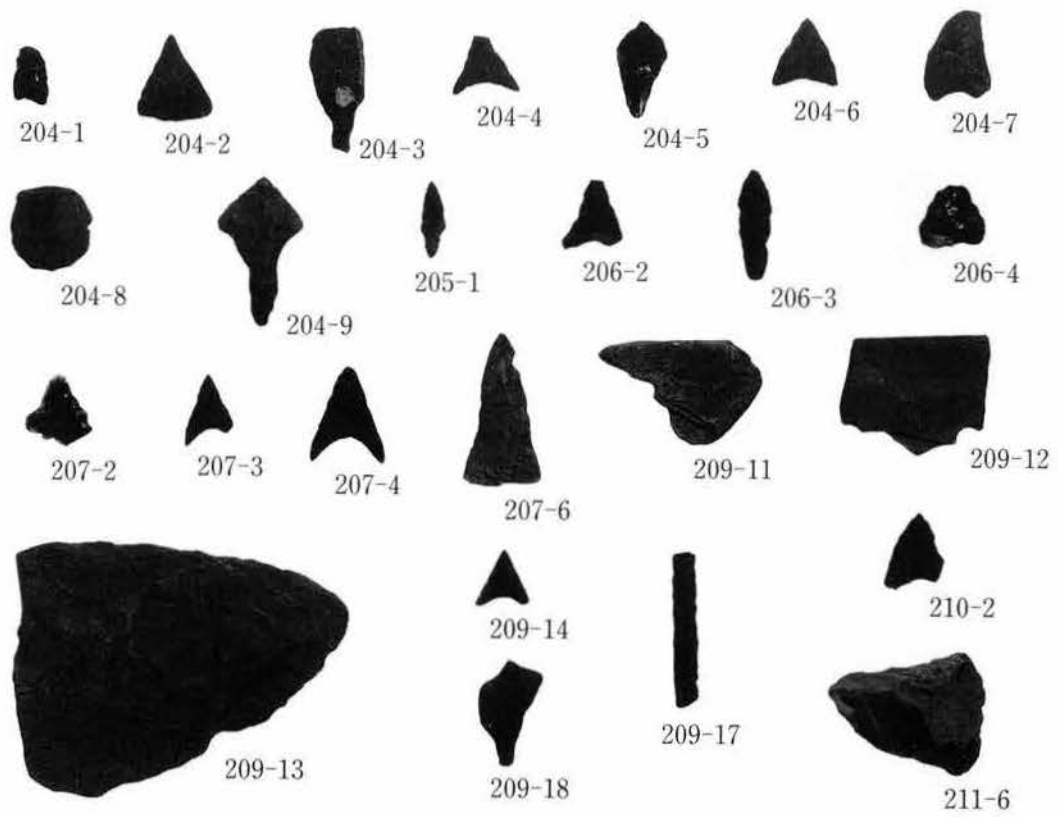














213-5



213-6



215-5



216-1



216-2



221-3



221-4



221-5



213-5



213-6



215-5



216-1



216-2



221-3



221-4



221-5



224-36



224-38



224-42



224-43



224-44



224-45



224-37



224-39



224-46



224-47



224-48



224-49



224-40



224-50



224-51



224-52



224-53



224-56



224-54



224-55



224-57



224-58



224-36



224-38



224-42



224-43



224-44



224-45



224-37



224-39



224-46



224-47



224-48



224-49



224-40



224-50



224-51



224-52



224-53



224-56



224-54



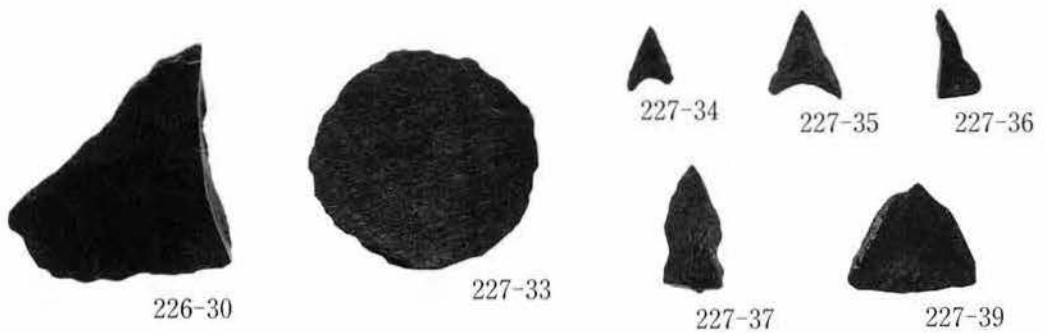
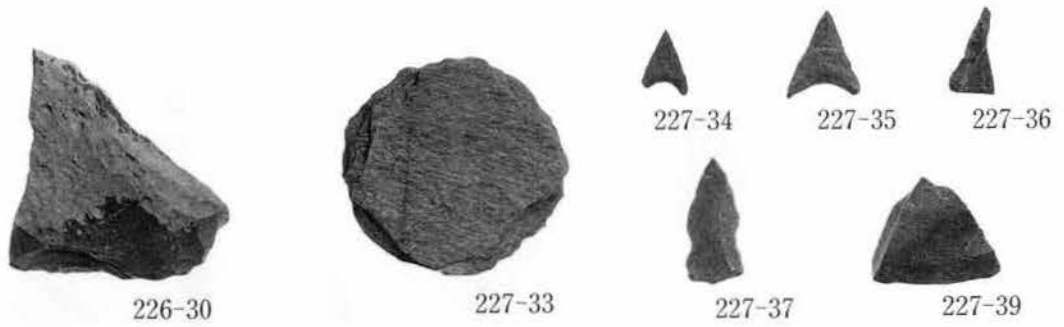
224-55



224-57



224-58







228-4



230-4



231-4



231-5



233-1



233-4



235-1



235-5



235-6



235-8



235-2



235-7



228-4



230-4



231-4



231-5



233-1



233-4



235-1



235-5



235-6



235-8



235-2



235-7



93-1



184-7



227-31



93-1



184-7



227-31



96-4



103-5



99-1



135-1



96-4



103-5



99-1



135-1



131-4



153-4



131-4



153-4



110-4



151-1



192-4



121-3



156-19



226-17



110-4



151-1



192-4



121-3



156-19



226-17



88-6



117-4



129-9



110-9



132-6



224-41



227-32



88-6



117-4



129-9



110-9



132-6



224-41



227-32





121-2



225-14



225-15



121-2



225-14



225-15



92-2



ナシ



ナシ



ナシ



ナシ



99-1



153-4

筑後西部第2地区遺跡群(VI)

筑後市文化財調査報告書

第50集

平成15年3月

発行 筑後市大字山ノ井898

筑後市教育委員会

印刷 大同印刷株式会社

佐賀市天神一丁目1番32号